

全学共通科目:教養科目

| 科目 | 担当教員 |
|-----------------|-------|
| <UGO101>総合講座【発】 | 佃 昌道 |
| <UGH001>人生と哲学 | 土屋 盛茂 |
| <UGS002>日本国憲法 | 山口 明子 |
| <UGS003>心理学 | 徳岡 大 |
| <UGI001>人権教育 | 金子 匡良 |
| <UGO301>総合科目 | 佃 昌道 |
| <UGO001>うどん学 | 佃 昌道 |
| <UGO102>香川学【発】 | 藤井 雄三 |
| <UGO002>香川学演習 | 藤井 雄三 |
| <UGH003>歴史 | 溝渕 利博 |
| <UGH004>地理 | 溝渕 利博 |
| <UGS004>くらしと経済 | 正岡 利朗 |
| <UGN001>人間と環境 | 水口 裕之 |
| <UGS001>ボランティア | 蓮井 孝夫 |

科目名： <UG0101> 総合講座【発】

担当教員： 佃 昌道(TSUKUDA Masamichi), 糸目 真也(ITOME Shinya)

【授業の紹介】

本学には4つの柱の「建学の精神」があります。「対話にみちみちたゆたかな人間教育」「自分で考え自分で行なえる人間づくり」「個性をのびしルールが守れる人間づくり」「理論と実践との接点の開拓」の4つです。教師と学生との語り合いの中からこそ、4つの柱は成長するものです。本講義では、「建学の精神」を中心に幅広い教養に裏付けられた知識や能力を身に付け、Society 5.0を実現する社会で活躍できるようにSTEAM教育を取入れ、学習管理システム(LMS)などを活用して授業を行います。加えて、地域社会の理解を深めるためフィールドワークを行います。

【到達目標】

高松大学の教育理念を理解し、大学での学びの目的を明確にすることができる。
学生諸君の大学生活や人生において多様な考え方ができる。
フィールドワークやSTEAM教育を通じて、Society 5.0を実現する社会を理解することができる。
Society 5.0社会においても豊かな人間性をはっきできる。
地域の特徴や地域活動の大切さを理解できる。

【授業計画】

- 第1回 本学の建学の精神と学生に望むもの
 - 第2回 本学のことについて知る
 - 第3回 対話について考えてみる
 - 第4回 社会に対する役割について考える
 - 第5回 倫理感を持った人とは
 - 第6回 Society 5.0を実現する社会とは
 - 第7回 科学的アプローチからSociety 5.0を実現する社会を考える
 - 第8回 技術的アプローチからSociety 5.0を実現する社会を考える
 - 第9回 工学的アプローチからSociety 5.0を実現する社会を考える
 - 第10回 数学的アプローチからSociety 5.0を実現する社会を考える
 - 第11回 芸術的アプローチからSociety 5.0を実現する社会を考える
 - 第12回 地域社会を探る(調べる)
 - 第13回 地域社会を探る(グループで活動する)
 - 第14回 地域社会を探る(報告会を行う)
 - 第15回 地域で暮らす楽しみ
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業時間以外の学習は毎回4時間以上とし、授業の終りに、課題を出しますので、次回授業に必ず提出してください。

【成績の評価】

提出物50%、小テスト50%により評価を行う。
提出物は、評価して返却する。小テストは、模範解答を小テストの次の授業で解説する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

学生便覧、図書一般
世界を変えるSTEAM人材 シリコンバレー「デザイン思考」の核心 (朝日新書)ヤング吉原麻里子著朝日新聞出版 2019など

科目名： < UGH001 > 人生と哲学

担当教員： 土屋 盛茂(TSUCHIYA Morishige)

【授業の紹介】

まず「哲学とは何か」という問題をとりあげるが、そのことを説明するのは意外と難しい。そのためには、いずれかの哲学者たちをとりあげ、その議論を見ていくのが一番よいと思う。そこで今年度は、古代ギリシャの哲学黎明期の、タレスからプラトンに至る哲学者の世界、存在、認識に関する思索と議論の跡をたどってみることにする。最初にギリシャの神話に見られる世界観を紹介し、それとタレスたちの世界の見方がどう違うかを見てみよう。それから哲学者たちの議論をできるだけ丁寧に見ていくことにする。それは同時に、先行する主張を継承しつつも批判し、新たな考えを打ち出していく過程を見ることになるであろう。それを20世紀の哲学者、カール・ポパーの知識発展の論理（弁証法）に照らしてみ、いかに見事に議論が発展し深まっていったかを見ていきたい。

このことによって、それぞれの学部の学位取得に必要な知識や態度などの基礎の一端を修得させることを目指す。

【到達目標】

この授業で得られる知識は、すぐさま実生活で活用できる類のものではないが、昔の哲学者とともにいるような問題を考えることによって、学生は、次のようなことができるようになる。

1. 今自分たちが依拠している世界観、人間観、そして科学がいかに長い伝統の上に築かれたかということの一端を知り、知的な営みがいかなるものであるかの一端をすることができる。
2. そのことによって、現在の問題を自ら考えることができる。

【授業計画】

- 第1回 授業導入（「哲学とは何か」などの問いを含む）
 - 第2回 カール・ポパーの知識発展の論理
 - 第3回 古代ギリシャの歴史と神話
 - 第4回 ミレトスの自然哲学者 タレスとアナクシマンドロス
 - 第5回 ミレトスの自然哲学者 アナクシマンドロスとアナクシメネス
 - 第6回 クセノパネス
 - 第7回 ヘラクレイトス
 - 第8回 ピュタゴラス派 その歴史と魂説
 - 第9回 ピュタゴラス派 数論的存在論と宇宙論
 - 第10回 パルメニデス
 - 第11回 エンペドクレスとアナクサゴラス
 - 第12回 原子論者（レウキッポスとデモクリトス）
 - 第13回 プラトン
 - 第14回 プラトンとアリストテレス
 - 第15回 総括 古代ギリシャ哲学の発展の構図
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業の進展とともに下記の参考文献をひもといてもらうのが理想であるが、毎回の授業においては、少なくとも講義概要に目を通して前回の講義の復習と次回の講義の予習をしてもらいたい。そのため、毎回の授業の終わりにその授業内容についての設問を示し、次回の授業時に回答を提出するよう求める。なお、そのとき、次回の授業の予習として、学生が興味をもつ項目をも追記してもらおう。（併せて4時間）参考文献については、授業進展に伴い適宜指示する。

【成績の評価】

平素の授業態度を観察した小テストをし(20%)、期末の試験の結果(80%)と合わせて成績評価をする。

また、小テストについては次の時間の冒頭に簡単に説明する。

【使用テキスト】

市販の教科書は用いず、講師が作成した「講義概要」を配布し、それを教科書とする。

【参考文献】

- バーネット著（西川亨訳）『初期ギリシア哲学』（以文社）
- 山本光雄編『初期ギリシア哲学者断片集』（岩波書店）
- 『世界の名著 プラトン 1』『同 2』などのプラトンの著作
- 『アリストテレス全集』（岩波書店）などのアリストテレスの著作

科目名： <UGS002> 日本国憲法
担当教員： 山口 明子(YAMAGUCHI Akiko)

【授業の紹介】

日本国憲法の最大の目的である個人の尊厳や人権について理解を深め、憲法を頂点とする法体系が、私たちの日常生活にどの様に関連しているのかを解説する。さらに、受講生自身が自身やグループワークを通して憲法問題を考えることで、憲法の意義や重要性を考え明確にしていく。また、上記のような講義内容を理解することで、豊かな人間性を培い幅広い教養を養うという学位授与の方針に関する知識、技法を修得する。

【到達目標】

- ・グローバル化する国際社会の中で、大切なキーワードとなっている人権について理解を深め、正しい知識を習得する。
- ・憲法を学ぶことで、受講生自身が市民社会の一員であることを自覚し、より良い自己や社会の実現につなげていくための知恵や力を身に着けることができる。

【授業計画】

- 第1回 人権を考えるための基礎知識
 - 第2回 人権享有主体
 - 第3回 幸福追求権
 - 第4回 法の下での平等
 - 第5回 思想・良心の自由
 - 第6回 信教の自由・政教分離
 - 第7回 表現の自由
 - 第8回 職業の自由
 - 第9回 学問の自由・大学の自治
 - 第10回 生存権
 - 第11回 教育を受ける権利
 - 第12回 労働権
 - 第13回 財産権
 - 第14回 移動の自由・奴隷的拘束からの自由・法定手続の保障・裁判を受ける権利
 - 第15回 選挙権
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

授業の予習・復習(2時間/週)。社会問題や身近な社会事象について、積極的に関心を持ち、新聞やニュースから情報を取り入れる(2時間/週)。 これらを憲法的・人権的観点から分析する訓練をする。

【成績の評価】

レポート・コメント票40%、小テスト40%、授業態度20%で総合的に評価する。レポート・小テスト等については、その都度、結果を講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

必要な資料は適宜配布する。

【参考文献】

宍戸 常寿(著, 編集) 『18歳から考える人権』法律文化社(2015)等

科目名： <UGS003>心理学

担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

私たちは自分の心の働きについて、ある程度までは自分で知ることができます。このような経験に基づいた心理学的知識を「素朴心理学」の知識といいます。問題なのは、この「素朴心理学」の知識と「学問としての心理学」の知識にしばしば大きな隔たりがあることです。本講義では、「学問としての心理学」の全般的な内容について講義を行います。学生の皆様からも日常生活で体験する「心についての素朴な疑問」を受け付けます。それら疑問は「学問としての心理学」ではどのように考えられているかを講義内容に沿って紹介します。物事の捉え方には多様な立場がありますが、その中でも「学問としての心理学」の立場に関心を持ち、その立場から教育や社会における課題に気づいて課題を解決する力や教育や社会に貢献できる力の基礎の育成をめざします。

【到達目標】

学生が、心理学に対してこれまで抱いていた誤解を解き、学問としての心理学を教育、社会、および生活の中で役に立つような知識として身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 心理学とは
 - 第2回 心理学の歴史
 - 第3回 知覚 外界を認識する心の仕組み
 - 第4回 記憶 覚えることと忘れることの仕組み
 - 第5回 思考 考えることの仕組み
 - 第6回 言語 言語に関わる心理学
 - 第7回 社会的認知 他者を知ることの仕組み
 - 第8回 感情・動機づけ 喜怒哀楽と意欲に関する心の仕組み
 - 第9回 パーソナリティ 性格の違いと環境への適応
 - 第10回 発達 心の働きの成長と変化
 - 第11回 教育 心理学による教育方法の充実
 - 第12回 臨床 健康な心と異常な心
 - 第13回 心理学における測定の問題
 - 第14回 いろいろな心理尺度
 - 第15回 まとめ 心理学的な疑問を考える
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習として、テキストの範囲を指示しますので、そのページを必ず読んで理解すること、およびICTを活用した予習課題を課します（2時間）。復習として、授業内容とテキストの確認をし、ICTを活用した復習課題を課します。また、課題で間違った内容について再度確認を求めます。（2時間）

【成績の評価】

予習復習課題（30%）、心理学実験・調査への参加（10%）、および、期末テスト（60%）の総合判断により行います。期末テストの結果については、全体的な回答傾向や解説を授業担当教員の研究室前に掲示してフィードバックを行います。

【使用テキスト】

北尾倫彦・中島実・井上毅・石王敦子 共著（1997）「グラフィック心理学」（サイエンス社）

【参考文献】

- 中島義明 他編（2006）「マルチラテラル心理学 CD-ROM版」（有斐閣）
- ベンジャミン Jr, L.T. 著（2010）「心理学教育のための傑作工夫集」（北大路書房）
- 中島義明 他編（2005）「新・心理学の基礎知識」（有斐閣）
- ノーレン・ホークセマ, S. 他（2012）「ヒルガードの心理学（第15版）」（金剛出版）
- 海保博之 他（1995）「クイズと体験でわかる心理学」（福村出版）
- 今田 寛著（2015）「ことわざと心理学 人の行動と心を科学する」（有斐閣）

科目名： <UGI001> 人権教育

担当教員： 金子 匡良(KANEKO Masayoshi)

【授業の紹介】

私たちは「人権」という言葉をよく耳にしますが、では「人権」とはいったい何なのかと問われると、うまく説明できない人が多いのではないのでしょうか。そこでこの授業では、まず人権とは何かについて説明していきます。次に、日常生活の中で起こりやすい差別問題を取りあげ、なぜ差別が起こるのか、差別をなくすために何が必要なのかを考えていきます。日程の後半では、女性の人権や障害者の人権といった具体的なテーマを取り上げ、日本や世界にどのような人権問題があるのか考えます。また、日本に古くから存在する部落差別（同和問題）についても取り上げます。

高松大学経営学部の「学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）では、「現代社会の様々な問題に関心を持ち、多様な立場の人々との確にコミュニケーションを図る」ことが謳われ、また発達科学部のディプロマ・ポリシーでは、「教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心」の養成を掲げられています。この授業は、こうした能力の向上を目指します。

【到達目標】

人権の意味や役割を理解し、他人の権利や人格を尊重することができる。
様々な人権問題の内容や沿革を正しく理解し、自分なりの言葉で説明することができる。
現代社会を人権という観点から分析し、問題点を発見し、自分でその解決策を考案することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（授業の進め方と授業内容の俯瞰）
 - 第2回 人権の意味と内容
 - 第3回 人権の目的と機能
 - 第4回 人権の歴史
 - 第5回 人権の類型
 - 第6回 平等とは何か
 - 第7回 差別とは何か
 - 第8回 人権を守る仕組み
 - 第9回 差別が生まれる原因
 - 第10回 差別を解消するための方法
 - 第11回 女性の人権
 - 第12回 障害者の人権
 - 第13回 ハンセン病元患者とその家族の人権
 - 第14回 部落差別（同和問題）
 - 第15回 人権をめぐる今後の課題
- 定期試験

【授業時間外の学習】

事前にテキストを読んで予習をするとともに、授業後にテキストを再読し、また授業中に配布したプリント等をよく読み直して復習をしてください。復習に際しては、その日の授業の要点を整理し、かつ、疑問点や問題点を明らかにしてください。さらに、日常的に新聞やニュースなどを通じて人権に関わる現実の社会問題について積極的に情報を収集し、その問題の原因や解決策を自分なりに考えるようにして下さい。（4時間）

【成績の評価】

授業中に行う小テスト（3回・30%）、および定期試験（70%）の点数を合計して、成績評価を行います。小テスト等については、その都度、結果を講評し、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

アジア・太平洋人権情報センター（編）『人権ってなんだろう？』（解放出版社・2018年）

【参考文献】

科目名： <UG0301> 総合科目

担当教員： 佃 昌道(TSUKUDA Masamichi), 平畑 博人(HIRAHATA Hiroto), 糸目 真也(ITOME Shinya)

【授業の紹介】

現代の企業経営を、地域、産業、社会の立場で、深くかつ広い視野から探求するため、学外の権威ある指導者から企業経営観、企業文化論あるいは専門分野の先端情報等のテーマを中心に講義を願い、近代経営のあり方を考えます。講師陣の豊富な人生経験に触れることにより幅広い教養に裏付けられた知識や能力を身に付け、地域社会の中での自身の役割や係わりについて学習し、豊かな人間性や主体的に生きる力を培います。

本講義は、経営・情報・会計などの知識を、組織においてどの様に活用しているか、グローバル社会においても自らの力を地域社会に役立てようとする志を持ち、ビジネスや起業などの活動を通して貢献しているかなどを、講師陣の体験談を交え聴講することが出来ます。授業の運営上学習管理システム(LMS)を利用した連絡やレポート収集を行ないます。

特にこの授業は実社会でも、また講演会でもなかなかお目にかかれない、各界トップの講師陣が直接皆さんに語りかける講座で、本学特有のスペシャルメニューです。

【到達目標】

講師陣のお話しを聞き、社会人としての豊かな人間性を高めることができる。
講師陣の経営観や人生観などを吸収し、多様な考え方を自身の取入れることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 市場における競争と公正取引委員会
内閣府公正取引委員会四国支所長 田邊 陽一 氏
- 第3回 向こう100年を見据えて
高松丸亀町商店街振興組合理事長 古川 康造 氏
- 第4回 地域活性化の政策と実践
公益財団法人香川産業支援財団理事長 大津 佳裕 氏
- 第5回 企業が求める情報モラル
一般財団法人日本経営士会四国支部香川県会長
株式会社ビットコミュニケーションズ 川西 健雄 氏
- 第6回 「香川県の文化芸術振興が目指すもの」
香川県立ミュージアム館長 窪 保彦 氏
- 第7回 チャレンジする心 いすみ鉄道への挑戦
いすみ鉄道株式会社取締役社長 古竹 孝一 氏
- 第8回 金融の基礎知識と地方銀行の役割
株式会社百十四銀行取締役専務執行役員 香川 亮平 氏
- 第9回 創業の大切さと公庫の役割
日本政策金融公庫国民生活事業四国地区統轄 斉藤 真人 氏
日本政策金融公庫国民生活事業四国創業支援センター 佐藤 公昭 氏
- 第10回 地域経済の発展と金融機関の役割
高松信用金庫理事長 蓮井 昭博 氏
- 第11回 四国新幹線の実現に向けて～新・新幹線構想～
四国旅客鉄道株式会社取締役会長 泉 雅文 氏
- 第12回 チャンスを掴む
東海工業株式会社代表取締役社長 塚本 忠夫氏
- 第13回 出会い・夢・挑戦
公益財団法人高松観光コンベンション・ビューロ 理事長 佐野 正 氏
- 第14回 ネット・ゲーム依存対策について
香川県教育委員会教育長 工代 祐司 氏
- 第15回 絵本作家・飛鳥童さんと私
香川県知事公室地域振興 参与 竹内 守善 氏

以上は、昨年度実施のもので、本年度も同様に予定していますが、都合により、講師およびテーマに変更がある場合があります。定期試験は実施しません。

【授業時間外の学習】

新聞等を読み、国内経済・世界経済の動向について関心をもち、各回4時間以上の学習を行ってください。

【成績の評価】

随時課するレポートにより100%評価します。提出物は、評価して返却します。

【使用テキスト】

ありません。

【参考文献】

必要の都度、指示します。
第3期高松市中心市街地活性化基本計画
第6次高松総合計画など

科目名： <UG0001> うどん学

担当教員： 佃 昌道(TSUKUDA Masamichi)

【授業の紹介】

香川県では、半夏の日にうどんを食べる習慣があるそうです。お祝にもうどんはつきものです。サラリーマンは昼食の多くをうどん屋で食べ、一人あたりのうどんの消費量も日本一です。近年香川県をうどん県と名うち全国に情報発信するようになり、香川県におけるうどんの認知度は益々上がる一方です。うどん県ならではの授業として、うどん学を開講し、うどんの歴史、製法、材料、販売など様々な角度からうどんを学習していきます。そして、うどんを通して、学位授与の方針に全学共通科目の要素として示している、課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力を学び、生涯にわたって学習活動を続け、たくましく生きる力を培います。学習管理システム(LSM)を利用した授業を行なう場合があります。また、調理実習時では、白衣またはエプロン・三角巾の着用が必要です。また、材料費を徴収します。なお、材料費は受講している全員から徴収します。

【到達目標】

うどんの文化、地理、歴史、経営商学に至る様々な角度からうどんについて考えるみることができる。
うどんの特徴が説明でき、うどん打ちをすることができる。
うどんを統計的に分析することにより、うどんを定量的に見ることができるようになる。この様な経験を基に、地域の課題に気づいて解決することができる。

【授業計画】

- 第1回 うどんとは
 - 第2回 うどんの歴史
 - 第3回 うどんを広めた人々
 - 第4回 全国のうどん地図
 - 第5回 うどん店を調査する
 - 第6回 うどんと祭事、行事
 - 第7回 さぬきにうどん屋が多いわけ
 - 第8回 小麦とうどん
 - 第9回 うどんとだし、薬味
 - 第10回 うどんの消費と動向
 - 第11回 うどんを打つ
 - 第12回 うどんを食べる
 - 第13回 うどんと文学、うどんと経済学
 - 第14回 うどんと音楽、映画
 - 第15回 うどんと香川
- 定期試験

【授業時間外の学習】

レポートの提出がある。レポート提出に備えて、各回4時間以上の復習を行うこと。

【成績の評価】

授業内レポート(20%)、課題レポート(50%)、試験(30%)の評価を行う。
授業内レポート、課題レポート等は添削して返却します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

必要に応じて、その都度指定する。
たとえば、うどん統計データであれば、香川県のホームページを参照するなど

科目名： <UG0102> 香川学【発】

担当教員： 藤井 雄三(FUJII Yuzo), 林 守孝(HAYASHI Moritaka)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業です。公的な機関において、文化財行政などを担当した経験を生かし、具体的な事例などを示しながら授業を進めます。

これからの教育に携わる者にとって、自己の立ち位置を知り、意識にしておくことは、極めて重要です。今、住んでいるまた、これから住む可能性が高い香川県や高松市は私達にとって、そこがどのような場所であるのかを知ることは、避けて通ることができません。本授業では香川・高松の特色のある行事、地形、文化、歴史等を学ぶことで、教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解する能力を養います。

本授業では、1回の現地見学を予定しており、現地の息吹をじかに触れてください。その他は、基本的には講義形式です。

なお、現地学習等に要する経費は、各自の負担となります。

【到達目標】

1. 香川県という地域を学び、地域に生きる意味を考えることができる
2. 香川県という地域を愛することができる
3. 香川県という地域を、発達段階に応じて子ども達に伝えることができる
4. 多様化した社会において生き抜く自己のバックボーンとすることができる

【授業計画】

- 第1回 香川いろいろ
- 第2回 香川の地形
- 第3回 日本人はどこからきた
- 第4回 香川と水・干ばつとため池
- 第5回 讃岐（香川）の歩み
- 第6回 香川県の歩み
- 第7回 香川と環境（香川県の現代的課題）
- 第8回 香川と温暖化（香川県の現代的課題）
- 第9回 香川の見所（栗林公園・瀬戸内海）
- 第10回 香川の偉人・小西和 瀬戸海国立公園
- 第11回 香川の偉人・菊池寛 芥川・直木賞など
- 第12回 香川の偉人・保井コノ 女性初の理学博士
- 第13回 香川の偉人・壺井栄 二十四の瞳
- 第14回 現地見学（現地の状況確認）
- 第15回 現地見学（現地での調査活動）

定期試験

【授業時間外の学習】

どのような事でもいいですから、日頃から自分の住んでいる地域のことから、場所だけではなく、そこに住んでいる人々等も含めて、普段から複眼的な視野で学び、そして香川を見てください。

次回の授業に使用する資料を配布しますので、授業までに予習を行っておいてください。

また、授業終了時に授業のまとめとして、必要に応じて小テストを実施します。現地見学ではレポートの提出を求めます。

なお、予習、復習ともに約2時間行ってください。

【成績の評価】

1. 授業態度・小テスト・レポート 40%
2. 試験 60%

レポート、試験の結果はオフィスアワーの際に説明することでフィードバックします。

【使用テキスト】

毎回、配布するプリントもしくは資料を用います。

【参考文献】

特別なものはありませんが、必要な場合は講義中に随時紹介します。

科目名： <UG0002> 香川学演習

担当教員： 藤井 雄三(FUJII Yuzo), 林 守孝(HAYASHI Moritaka)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業です。公的な機関において、文化財行政および生涯学習などに関する業務の一端を担ってきた経験を生かし、具体的な事例などを示しながら活動を指導します。

故郷香川の自然や文物、創成の取り組みへの理解を深め、実習を通して、参画の態度を育てることを目的とします。教職をめざす学生は教材開発の視点、経営を学ぶ学生は地域活性化の視点を重視します。

日常的な活動としては、高松市創造都市推進局や地域コミュニティー等、近隣の自治体やその関係機関が行う行事・活動に参加し、多様な立場の人々との確にコミュニケーションを図れるようにするとともに、その意義などを実際に学び、豊かな人間性や主体的に生きる力や、課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力を実地で養います。

さらに、休日等を利用して学内外の行事にボランティアとして運営補助等の立場でも参加し、香川の明日を創る、特色ある取り組みについて、学びます。

受講者は、参加したい活動や行事を選択し、各自で授業計画を作成します。参加する活動の受け入れ先と交渉を行い、日時の決定も自ら行います。

学外で実施される主な行事と活動(例)

博物館・美術館等の行う事業への参画、見学

子どもに関係する団体が行う事業への参画、見学

スポーツ関係団体が行う事業への参画、見学

地域の関係団体等が行う事業への参画、見学

地方公共団体、それに準じる団体等が行う事業への参画、見学

なお、活動に要する経費は自己負担となります。

【到達目標】

1. 香川県および高松市等の自身が生活している各地域を実地で知ることができる。
2. 行事に協働して活動することにより、自身が地域社会に参画したという実績づくりができる。
3. 地域社会の一員であることを認識することができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション 受講生各自の授業計画の作成

第2回 受講生各自の授業計画の作成

第3回 受講生各自の授業計画の作成

第4回～第11回 受講生各自の計画実施

第12回 中ほどにおける実施の確認

第13回～第19回 受講生各自の計画実施

第20回 中ほどにおける実施の確認

第21回～第27回 受講生各自の計画実施

第28回 報告書作成・確認

第29回 報告書作成・確認

第30回 報告書作成・確認

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

学校外での活動が多くなります。周囲の関係者とコミュニケーションを十分取れるような環境を、自分自身でつくることによって、実習がスムーズにいきます。そのためには、書籍、マスメディアなどを通じて、テーマに関係した基礎知識を貪欲に吸収してください。

活動を行った日には、活動の場所・内容などを事前に予習し、終了後はその結果をまとめてください。(1時間)

【成績の評価】

1. 実習、受講態度と意欲、姿勢 50%

2. 報告書・レポート等の内容 50%

報告書等については、授業時に教員と協議し、必要な指導をします。

【使用テキスト】

実習先においては配布される資料等を参考にしてください。

【参考文献】

特別なものはありませんが、実習先の要請等、必要に応じてサポートします。

科目名： < UGH003 > 歴史

担当教員： 溝渕 利博(MIZOBUCHI Toshihiro)

【授業の紹介】

グローバル化が進展する中、今、「日本とは何か」が問われている。日本人一人ひとりへの問いかけである。「過去を知らなければ、未来を語ることはできない」とよく言われる。未来は、過去を振り返ることによってのみ明らかになってくる。日本には先人が生み育ててきた長い文化の歴史があり、本授業では、文化史の視点に立って改めて日本の歴史を振り返り、日本文化の特質とその歴史的な性格について学び理解するとともに、相互に意見を出し合うグループワークやアクティブラーニング等で自他の尊厳を重んじる豊かな人間性を培い、幅広い教養を養うという学位授与の方針(ディプロマポリシー)に沿った知識、技法、態度を修得する。

【到達目標】

1. 日本の身近な文化財や伝統文化を通して、それらが生まれてきた風土や歴史的な背景を理解できる。
2. 日本や日本文化に対する関心を高め、歴史的なものの見方や考え方を習得できる。
3. 新たな時代に相応しい日本文化を創造していく力を身に付けることができる。
4. 日本の文化の成り立ちや特色について関心を高めるとともに、自らの郷土や国の歴史・文化及び先人の努力等に対する理解を深めることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・文化史とは何か
- 第2回 日本文化の源流 (P.1~P.14)
- 第3回 古代国家の形成と日本神話 (P.15~P.39)
- 第4回 仏教の受容とその発展 (P.41~P.54)
- 第5回 漢風文化から国風文化へ (P.55~P.72)
- 第6回 平安時代の仏教文化 (P.73~P.83)
- 第7回 鎌倉仏教文化の成立 (P.85~P.110)
- 第8回 内乱期の文化 (P.111~P.124)
- 第9回 国民的宗教の成立 (P.125~P.136)
- 第10回 近世国家の成立と歴史思想 (P.137~P.156)
- 第11回 元禄文化 (P.157~P.173)
- 第12回 儒学の日本的展開 (P.175~P.185)
- 第13回 国学と洋学・明治維新における公論尊重の理念 (P.187~P.212)
- 第14回 近代日本における西洋化と伝統文化 (P.213~P.229)
- 第15回 これまでの授業のまとめと質疑応答～日本文化史から日本文化論へ～
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

毎時間中に質問をするので、テキスト『日本文化の歴史』の該当ページを予習し、必要に応じて専門用語の意味等を調べるとともに、自分なりの意見や疑問点をまとめておくこと。ユニットの区切り(原則として5回終了後)ごとに確認小テストを行うので、ノートを取り授業の復習も怠らないようにし、これらをまとめた学修ノートを提出すること。準備学修(予習・復習等)は合計60時間以上行うこと。本学図書館には日本文化史関係の参考図書が数多く所蔵されているので、積極的に利用すること。また、オフィスアワーを設定しているので、利用すること。

【成績の評価】

授業への参加意欲や受講態度を重視するとともに、質問事項への応答内容・主体的な学習状況の度合い等(10%)に加え、毎授業後に提出のリフレクションペーパー(10%)、ユニットごとの小テスト(20%)及び学修ノート(20%)・レポート(40%)の成績を総合して評価する。小テストについては、その都度、模範解答を示して講評し、授業時に返却してフィードバックする。遅刻2回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

尾藤正英著『日本文化の歴史』(岩波新書、2000年)

【参考文献】

家永三郎『日本文化史(第二版)』(岩波新書、1982年)佐々木高明著『日本文化の多重構造』(小学館、1997年)阿部猛・西垣晴次編『日本文化史ハンドブック』(東京堂出版、2002年)村井康彦著『日本の文化』(岩波ジュニア新書、2002年)大久保喬樹著『日本文化論の系譜』(中央新書、2003年)遠山淳他編『日本文化論キーワード』(有斐閣、2009年)ほか、必要に応じて授業の中で適宜紹介する。

科目名： < UGH004 > 地理

担当教員： 溝渕 利博(MIZOBUCHI Toshihiro)

【授業の紹介】

地理学 (geography) は空間的な視点から地表上の諸事象についてその実態や要因を研究する学問で、geo (土地) を graphia (記述する) という語源に発している。世界遺産は地球の生成や人類の歴史によって生み出された貴重な財産で、地理学の絶好な教科書でもある。現在では地球環境保護への関心が高まり、自然や景観の価値が見直されている。本授業では、人類共通の至宝である世界遺産 (World Heritage) 等の学習を通して、世界の自然や民族・文化等の多様性について学ぶとともに、相互に意見を出し合うグループワークやアクティブラーニング等で世界平和や地球環境保護に関する認識を深め、自他の尊厳を重んじる豊かな人間を培い、幅広い教養を養うという学位授与の方針 (ディプロマポリシー) に沿った知識、技法、態度を修得する。

【到達目標】

1. 世界遺産等の学習を通して、世界の自然や民族・文化等の多様性を理解できる。
2. 世界の国や地域に関する知識を広めるとともに、地理学的空間認識能力を高めることができる。
3. 世界平和や持続可能な地球環境保護に関する意識を高め、地理学に関する幅広い知見を身に付けることができる。
4. 地理学を中心に地質学、生態学、文化人類学、環境学、国際関係学等を総合的学際的に学ぶことができ、広い視野と幅広い知識を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、はじめに、地理学と世界遺産 (P.1~P.9)
- 第2回 ユネスコとは (P.11~P.21)
- 第3回 世界遺産とは、世界遺産条約、世界遺産委員会 (P.23~P.35)
- 第4回 世界遺産の種類、登録要件、登録基準、登録手順、世界遺産暫定リスト、危機遺産、世界遺産基金 (P.36~P.44)
- 第5回 日本の世界遺産、世界遺産の今後の課題、世界遺産条約の将来 (P.44~P.58)
- 第6回 世界遺産登録フローチャート、危機遺産 (P.59~P.67)
- 第7回 世界遺産 (文化遺産・自然遺産・複合遺産) の例 (P.68~P.75)
- 第8回 無形文化遺産とは、無形文化遺産保護条約、無形文化遺産委員会 (P.77~P.89)
- 第9回 補助機関と諮問機関、緊急保護リスト、代表リスト、国際援助 (P.90~P.98)
- 第10回 日本の無形文化遺産、無形文化遺産の今後の課題、無形文化遺産分布図 (P.99~P.109)
- 第11回 無形文化遺産保護条約と登録のフローチャート、無形文化遺産の例 (P.110~P.123)
- 第12回 世界の記憶の種類、選定基準、国際諮問委員会、世界の記憶基金 (P.125~P.134)
- 第13回 日本の世界の記憶、世界の記憶の今後の課題、世界の記憶の例 (P.134~P.149)
- 第14回 世界遺産・無形文化遺産・世界の記憶の比較 (P.151~P.157)
- 第15回 これまでの授業のまとめと質疑応答~世界遺産を通して世界の自然や文化の多様性を学ぶことの意義について~
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

毎回授業中に質問をするので、テキスト『世界遺産ガイドーユネスコ遺産の基礎知識ー』の該当ページを予習し、必要に応じて専門用語の意味等を調べるとともに、自分なりの意見や疑問点をまとめておくこと。ユニットの区切り (原則として5回終了後) ごとに確認小テストを行うので、ノートを取り授業の復習も怠らないようにし、これらをまとめた学修ノートを提出すること。準備学修 (予習・復習等) は合計60時間以上行うこと。本学図書館には地理学・世界遺産学関係の参考図書が数多く所蔵されているので、積極的に利用すること。また、オフィスアワーを設定しているため、利用すること。

【成績の評価】

授業への参加意欲や受講態度を重視するとともに、質問事項への応答内容・主体的な学習状況の度合い等 (10%) に加え、毎授業後に提出のリフレクションペーパー (10%)、ユニットごとの小テスト (20%) 及び学修ノート (20%) ・レポート (40%) の成績を総合して評価する。小テストについては、その都度、模範解答を示して講評し、授業時に返却してフィードバックする。遅刻2回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

古田陽久・古田真美著『世界遺産ガイドーユネスコ遺産の基礎知識ー』 (シンクタンクせとうち総合研究機構、2014年)。世界の気候や風土を確認するため、手持ちの地図帳を持参すること。

【参考文献】

奈良大学文学部世界遺産を考える会編『世界遺産学を学ぶ人のために』 (世界思想社、2000年) 愛川フォーラム紀子監修・古田陽久・古田真美著『世界遺産入門ーユネスコから世界を学ぶー』 (シンクタンクせとうち総合研究機構、2007年) 松浦晃一郎著『世界遺産：ユネスコ事務局長は訴える』 (講談社、2008年) 安江則子編『世界遺産学への招待』 (法律文化社、2011年) ほか、必要に応じて授業の中で適宜紹介する。

科目名： <UGS004> 暮らしと経済

担当教員： 正岡 利朗(MASAOKA Toshirou)

【授業の紹介】

日常営まれているさまざまな経済行為につき、受講生自らが調べたことについて、教員が解説を行うかたちで、講義を進めます。経済知識は難しく、とっつきにくいものと思います。ですが、このような知識は、みなさんが社会生活を送るに当たり、身につけておいて決して損はしないものです。少し我慢していると、身の回りのいろいろな出来事の持つ意味がだんだんわかってきますので、興味のある方はこの機会にぜひ受講してみてください。これにより、学位授与の方針のうち、発達科学部学生については、「教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる」能力の修得を、経営学部学生については、「経営・情報・会計などに関する基礎的知識から専門的知識まで体系的に修得し、組織においてその知識を適切に活用することができる」能力の修得をめざします。

なお、本授業は、グループワークで情報収集・ディスカッションを行うアクティブ・ラーニング形式を採用しています。また、上級情報処理士、上級ビジネス実務士取得のための選択科目に該当します。

【到達目標】

1. わたしたちが生活をうまく送っていくのに必要な経済知識を、具体的事例に則して身につけて、将来実際にそのような場面に直面した際に、的確な判断を下すことができるようになることをめざす。
2. 上記の経済知識や授業中に得た情報処理能力を統合的に活用して、ソサエティ5.0に寄与する各技能や考え方を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション（検索の仕方、文書の作成）
 - 第2回 「どこに住むか」（情報の収集、整理）
 - 第3回 同 上（収集、整理した情報に基づくレポートの作成）
 - 第4回 「どのくらい貯蓄できるか」（情報の収集、整理）
 - 第5回 同 上（収集、整理した情報に基づくレポートの作成）
 - 第6回 「保険に入るべきか」（情報の収集、整理）
 - 第7回 同 上（収集、整理した情報に基づくレポートの作成）
 - 第8回 「クルマを持ったら」（情報の収集、整理）
 - 第9回 同 上（収集、整理した情報に基づくレポートの作成）
 - 第10回 「旅行に行きたい」（情報の収集、整理）
 - 第11回 同 上（収集、整理した情報に基づくレポートの作成）
 - 第12回 「投資をしてみたい」（情報の収集、整理）
 - 第13回 同 上（収集、整理した情報に基づくレポートの作成）
 - 第14回 「イエを持ちたい」（情報の収集、整理）
 - 第15回 同 上（収集、整理した情報に基づくレポートの作成）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

よいレポート内容をまとめるには、相当な時間外の学習が必須となります。さまざまな意見を総合して、自分の意見をまとめるための参考にするという態度を、時間をかけてぜひ身につけてください。毎回の授業開始前には、プリント等を復習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（2時間）。また、毎回の授業毎にA4・1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（2時間）。オフィスアワーを設定しているので、掲示等で日時を確認の上、質問に来てください。

【成績の評価】

レポート提出（50%）、定期試験（50%）の結果により総合的に判断します。ただし、授業態度が不適切な場合はそれに応じた減点をしますので留意してください。なお、各受講生（グループ）のレポートの結果については講評し、フィードバックを行います。定期試験の結果は研究室のドアに掲示します。

【使用テキスト】

とくにありません（インターネットを使用する場合もある）。

【参考文献】

横山光昭 『年収200万円からの貯金生活宣言 正しいお金の使い方編』 ディスカヴァー・トゥエンティワン、2010年。（¥1,404）

科目名： < UGN001 > 人間と環境

担当教員： 水口 裕之(MIZUGUCHI Hiroyuki)

【授業の紹介】

この授業は、自然と人間との関わり合いを理解し、地球環境問題を考え、地球環境を考慮した生活を実践できる力を身に付けるためのものです。

地球上における人類を含めた生物の生存・活動の場としての環境の重要性は、広く認められています。現在の地球環境問題は、多くの要因が複雑に絡みあっています。そのような中、『人類生存の存続を可能とする持続可能な社会の構築』が必要なことが世界の共通認識となっています。このため、最新の環境問題に関する基礎知識は、現代人の教養として必須になっています。

この授業では、高松大学「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」の経営学部での「現代社会の様々な問題に関心を持ち、多様な立場の人々との確かなコミュニケーションを図るとともに、リーダーシップを発揮することで問題解決に取り組めること」、また、子ども発達学部での「教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観や豊かな心を持っていること」の養成を目指し、地球環境問題の現状とその発生要因やメカニズムを理解し、今後の各個人の生活の在り方を考え、実践できる力を養成するものです。

このため、第7回から第15回の授業においては、グループで担当テーマについて調査・考察し、それをまとめてパワーポイント等を用いたプレゼンテーションをしてもらい、それを基に全員でディスカッションを行います。

また、質問等を随時受け付け授業中に回答します。

【到達目標】

- (1) 人間と環境との関わり合いについて理解し、それを他の人に説明できる。
- (2) 持続可能な社会を実現するために、今、私たちが考えなければならないこと、しなければならないことについて、自分なりの見解を持ち、それを他の人に説明することができるとともに実践できる素養を身に付ける。
- (3) 授業は正しい解が教えられるものではなく、考える習慣や感性を身につけるものであることを理解し、実践する。

【授業計画】

第1回 授業のガイダンス(授業の目的・内容・進め方)、人間と環境との関わり

第2回 自然からの恩恵、公害から地球環境問題へ、持続可能な社会とは、グループでのプレゼンテーションの進め方の説明

第3回 大気の大気構造と循環、水循環と海洋大循環、エネルギー消費量と利用可能量、グループの構成員・プレゼンテーションテーマの希望調査

第4回 化学物質の循環と汚染、グループの構成員・プレゼンテーション担当テーマの調整

第5回 バーチャルウォーター、マテリアルフローと循環資源、グループの構成員・プレゼンテーション担当テーマの決定

第6回 持続可能な社会と循環型社会、LCA

第7回 SDGs・フェアトレード・エシカル消費と私達の生活との関わり(グループプレゼンテーションとディスカッション)

第8回 地球温暖化のメカニズム、その影響、対応策・適応策(グループプレゼンテーションとディスカッション)

第9回 CCS(Carbon dioxide Capture and Storage)、再生可能エネルギー、脱炭素社会の姿(グループプレゼンテーションとディスカッション)

第10回 オゾンホール・大気汚染(微小粒子状物質を含む)の現状と対策(グループプレゼンテーションとディスカッション)

第11回 水質汚濁・海洋汚染・土壌汚染の現状と対策(グループプレゼンテーションとディスカッション)

第12回 森林の減少と砂漠化の影響とそれへの対策、生物多様性の必要性と保全策(プレゼンテーションとディスカッション)

第13回 廃棄物の現状とその増大に対する減量化対策、海洋プラスチックごみ問題(プレゼンテーションとディスカッション)

第14回 都市での身近な環境問題、家庭ごみの処理の現状(プレゼンテーションとディスカッション)

第15回 環境保全を考慮した社会経済システム、環境倫理・環境教育の必要性(プレゼンテーションとディスカッション)

【授業時間外の学習】

第7回目から第15回目の授業においては、グループで担当テーマについて調査・考察したことをプレゼンテーションしてもらいます。そのための調査・検討・考察、プレゼンテーションの準備、プレゼンテーションが必要です。ならびに、これに対する各人の担当内容、テーマ発表で気がついたこと、学んだことなどに関する個人別のレポートの作成・提出が必要です。

授業時間外の学習時間は、毎授業ごとに予習0.5時間、復習1.5時間、プレゼンテーションの準備に計28時間、プレゼンテーションに関するレポート作成に計2時間が必要です。

【成績の評価】

成績の評価は、プレゼンテーション(レポートを含む)40%、授業への参加状況(出席ではなくディスカッションへの参加状況、意見発表、質問など)20%、試験40%で行います。また、レポート・試験答案等は、希望する者に、返却します。

【使用テキスト】

・西岡秀三・宮崎忠國・村岡健太郎著『改訂新版 地球環境がわかる』(技術評論社, 2015年), その他必要に応じて資料を配付することがあります。

【参考文献】

- ・田中修三・西浦定継著『基礎から学べる環境学』(共立出版, 2013年)
- ・山崎友紀著『地球環境学入門 第2版』(講談社, 2014年)
- ・京都大学で環境学を考える研究者たち編『環境学 21世紀の教養』(朝倉書店, 2014年)
- ・鈴木孝弘著『新しい環境科学 改訂2版』(駿河台出版社, 2014年)
- ・京都大学地球環境学堂編『地球環境学 複眼的な見方と対応力を学ぶ』(丸善出版, 2014年)
- ・太田和子・臼井宗一・山中冬彦著『イラスト私たちと環境』(東京教学社, 2015年), その他

科目名： <UGS001> ボランティア
担当教員： 蓮井 孝夫(HASUI Takao)

【授業の紹介】

この授業では、まずボランティア活動実施に当たり、活動の意義や社会的な役割などの基礎的知識を「ワークショップ」などのアクティブラーニングを通じ、また対話的・主体的な深い学びをします。活動実施の準備として、教室では、様々な活動への情報提供を各種団体から受けます。あわせて各種団体から活動スキルを学びます（悩み相談方法、折り紙、手遊び、読み聞かせ、幼児との交流、こども園訪問など）。また学外ボランティア活動を自主的に体験（必須）することによって、多くの異世代（子どもから高齢者）の人たちと出会うことが、心豊かな社会人となるための目標とし、積極的な活動参加を期待しています。

上記の述べた講義内容を体験・理解することで、豊かな人間性や地域の課題に気づいて、課題解決する力や社会に貢献できる力を培い、幅広い教養を養うという学位授与の方針に関する知識、技法を修得します。また予測困難な時代にあって、主体的に考える力・感じ取る力・表現する力・行動する力を持つためにボランティア活動の体験は大いに意義あることです。

【到達目標】

ボランティアについて概要を理解できる。
ボランティア活動を通じて、視野を広げることができる。
様々な立場の人と接することで、コミュニケーション能力を向上させることができる。
ボランティア活動の実体験から、自らの新しい価値観が生み出され、身につけることができる。
社会性をもったボランティア活動は、社会の構成員としての自覚を認識させてくれ、社会的課題解決に取り組めることができる。
「自ら学び、自ら考え、自ら気づき、自ら表現し、自ら行動し、課題解決する資質や能力」を身につけることができる。

【授業計画】

| | | |
|------|----------------------|--------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション&ボランティア活動基礎 | (NPO活動情報・高松市民活動センター) |
| 第2回 | ボランティア活動基礎 | (NPO活動情報・セカンドハンド) |
| 第3回 | ボランティア活動基礎 | (NPO活動情報・高松ボランティア協会) |
| 第4回 | ボランティア活動基礎 | (講義&ワーク・折り紙) |
| 第5回 | ボランティア活動基礎 | (講義&ワーク・紙芝居絵本) |
| 第6回 | ボランティア活動基礎 | (講義&ワーク・幼児の遊び) |
| 第7回 | ボランティア活動現場 | (施設訪問&ワーク・春日こども園・時間外幼児との交流) |
| 第8回 | ボランティア活動現場 | (施設訪問&ワーク・春日こども園・時間外幼児との交流) |
| 第9回 | ボランティア活動基礎 | (講義&ワーク・手話) |
| 第10回 | ボランティア活動基礎 | (講義&ワーク・高松空襲紙芝居制作体験談) |
| 第11回 | ボランティア活動基礎 | (講義&ワーク・自殺予防相談事例研修) |
| 第12回 | ボランティア活動基礎 | (講義&ワーク・四国ESD活動支援センター～SDGsへの課題と取り組み) |
| 第13回 | ボランティア活動講義 | (講義&ワーク・活動理論まとめ) |
| 第14回 | ボランティア活動講義 | (講義&ワーク・活動理論まとめ) |
| 第15回 | ボランティア活動基礎・講義・現場まとめ | (ワールドカフェ) |

定期試験 授業の内容から特に重要と思われる内容について出題します。

【授業時間外の学習】

授業の形式は「2E」ですが、週1コマの講義と、それ以外に4月から8月下旬までに、自らボランティア活動先を探し（教師からも情報提供あり）、学外活動を30時間程度実施する必要があり、地域での活動に積極的に参加しよう。そして多くの人々とつながっていきましょう。
授業は毎回レジュメ配布し、最後に「授業ふりかえりレポート」を復習（2時間以上）として課し、自宅等でレジュメを再読し、自分の変化や成長・感想・意見を記述して次回の授業の冒頭に提出のこと。また毎回の授業の最後に次週のテーマについて調べる課題（予習1時間以上）を出します。事前にキーワードで検索したり、図書館で関連する本を読んだりして予習すること。事前に知っておくことによって授業での課題のディスカッションが活発にできるようになります。質問等については、「授業ふりかえりレポート」に記述すること。もしくはオフィスアワーを設定していますので日時を確認の上、質問・相談に来ること。

【成績の評価】

学外ボランティア活動・受講態度（約30%）、授業ふりかえり・レポート（約30%）、テスト（約40%）などで総合的に評価（添削し返却又は口頭によるフィードバックを行います）。

【使用テキスト】

使用テキストなし、随時授業資料を配付（保存のこと・資料持ち込みテスト）

【参考文献】

なし

全学共通科目:基礎科目

| 科目 | 担当教員 |
|--------------------|-------|
| <UBL001>日本語表現法Ⅰ【発】 | 澤田 文男 |
| <UBL002>日本語表現法Ⅱ【発】 | 澤田 文男 |
| <UBM001>数学基礎 | 深石 博夫 |
| <UBS002>アンケート調査法 | 正岡 利朗 |

科目名： <UBL001> 日本語表現法 【発】

担当教員： 澤田 文男(SAWADA Fumio)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。

1. 学生が日本語の言語的特質や性格について、理解を深め、社会生活の各種の場や文書作成の際に必要な日

本語による実用的表現能力を身につけることをねらいとした授業です。そのため、予習課題として短文を作

成したり、毎授業時に教育関連の語句や漢字のトレーニングを実施します。

2. また、学生が子どもの教育にかかる諸問題を自ら発見し、自ら解決する力、さらには社会に貢献できる力を身に付けるため、様々な教材を觀賞したり、主体的な読解を發表したりします。

【到達目標】

1. 学生が主体的に取り組むことにより、日本語の言語学的特質について理解を深め、実用的表現能力を身に

付けることができます。

2. 学生が、様々な演習を通じ、文章や情報を正確に読み解き、対話する力や科学的に思考・吟味する力、豊

かな人間性や主体的に生きる力を身に付けることができます。

3. 学生が今後の様々な社会生活の場で課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力を身に付けることが

できます。

【授業計画】

第1回 日本語について

第2回 日本語の文字と表記

第3回 仮名及び仮名遣い

第4回 現代仮名遣い

第5回 現代仮名遣いトレーニング

第6回 日本語の音韻

第7回 日本語の種類

第8回 日本語の文法

第9回 日本語の文法トレーニング

第10回 敬語表現：尊敬語

第11回 敬語表現：尊敬語トレーニング

第12回 敬語表現：謙譲語

第13回 敬語表現：謙譲語トレーニング

第14回 敬語表現：丁寧語

第15回 敬語表現：丁寧語トレーニング

定期試験を実施します。

【授業時間外の学習】

○予習として、事前に配布した資料を辞書や図書館の資料で調べ、内容を確認しておくこと。(2時間)

○予習資料確認小テストを実施します。

○復習として、毎回の授業で学修した資料を完成させ、指定期日までに提出すること。(2時間)

【成績の評価】

1. 予習課題の提出状況の評価します。

2. 授業に対する取り組み姿勢の評価します。

3. 1 + 2 (30%)と期末試験の結果(70%)を合わせて総合的に評価します。

フィードバック

予習課題は授業冒頭に確認し、コメントします。

期末試験の結果については、試験終了後、正答例を研究室前に掲示します。

【使用テキスト】

○教材として、資料プリントを準備し、予習ができるよう、事前に配布します。

なお、毎時、国語辞書を持参すること。

【参考文献】

○保育所保育指針(平成29年3月厚生労働省告示)

○幼稚園教育要領(平成29年3月文部科学省告示)

○小学校学習指導要領(平成29年3月文部科学省告示)

○関連する参考図書については、授業の中で適宜紹介します。

科目名： <UBL002> 日本語表現法 【発】

担当教員： 澤田 文男(SAWADA Fumio)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。

1. 学生が日本語の言語的特質や性格について、理解を深め、社会生活の各種の場や文書作成の際に必要な日

本語による実用的表現能力を身につけることをねらいとした授業です。そのため、予習課題として短文を作

成したり、毎授業時に教育関連の語句や漢字のトレーニングを実施します。

2. また、学生が子どもの教育にかかる諸問題を自ら発見し、自ら解決する力、さらには社会に貢献できる力を身に付けるため、様々な教材を觀賞したり、主体的な読解を發表したりします。

【到達目標】

1. 学生が主体的に取り組み、日本語の言語学的特質について理解を深め、実用的表現能力を身に付けることができます。

2. 学生が、様々な演習を通じ、文章や情報を正確に読み解き、対話する力や科学的に思考・吟味する力、豊かな人間性や主体的に生きる力を身に付けることができます。

3. 学生が、今後の様々な社会生活の場で課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力を身に付けることができます。

【授業計画】

第1回 漢字の特殊な読み・熟字訓・当て字

第2回 漢字の特殊な読み・文脈による読み

第3回 間違いやすい語句

第4回 間違いやすい重言

第5回 間違いやすい慣用句

第6回 間違いやすい類似語

第7回 間違いやすい外来語

第8回 アカデミックワード

第9回 アカデミックワードトレーニング

第10回 諺の世界

第11回 助数詞の使い方

第12回 簡潔な表現

第13回 故事成語の世界

第14回 形容詞の多義性

第15回 文章表現トレーニング

定期試験を実施します。

【授業時間外の学習】

○予習として、事前に配布した資料を辞書や図書館の資料で調べ、内容を確認しておくこと。(2時間)

○予習資料確認小テストを実施します。

○復習として、毎回の授業で学修した資料を完成させ、指定期日までに提出すること。(2時間)

○学生は後期授業の始まるまでに図書館の主催する書評コンクール応募作品を提出しなければなりません。

【成績の評価】

1. 予習課題の提出状況を評価します。

2. 授業に対する取り組み姿勢を評価します。

3. 1 + 2 (30%) と期末試験の結果 (70%) を合わせて総合的に評価します。

フィードバック

予習課題は授業冒頭に確認し、コメントします。

期末試験の結果については、試験終了後、正答例を研究室前に掲示します。

【使用テキスト】

○教材として資料プリントを準備し、予習ができるよう事前に配布します。

なお、毎時、国語辞書を持参すること。

【参考文献】

- 保育所保育指針（平成29年3月厚生労働省告示）
- 幼稚園教育要領（平成29年3月文部科学省告示）
- 小学校学習指導要領（平成29年3月文部科学省告示）
- 関連する参考図書については、授業の中で適宜紹介します。

科目名： <UBM001> 数学基礎
担当教員： 深石 博夫(FUKAISHI Hiroo)

【授業の紹介】

全学共通科目の一つとして数学の普遍的な知識と文化を学ぶために、あなたが考え、あなたが解決する時間です。古くから、数と式と図形は数学の主役です。問題を解決していく中で、古典的課題から現代数学までのさまざまな発想や方法を学びます。じっくりと考えることのおもしろさを、みなさんとともに体験しましょう。とくに、図形と数に関連するとき、興味深い豊かな数理の世界が広がります。毎回三角定規とコンパスを持参するとよい。

この授業に積極的に参加することにより、豊かな人間性を培い、幅広い教養を養うとともに基礎学力を強化するという学位授与の方針にふさわしい知識や技能を修得します。

【到達目標】

基本的な問題を解決することによって、考える過程の楽しさと理由がわかったときの爽快な充実感を味わいたい。

この授業では、次のことがらができるようになることをめざします。

- 与えられた課題を理解し、解決の方法を探る。
- 各自の考えた解決策を相互に検討し、解答を導く。
- 自分のアイデアや解答をみんなにわかるように説明（証明）する。

急がず、休まず、あきらめず。

【授業計画】

- 第1回 はじめの問題
 - 第2回 小数と分数
 - 第3回 文字式
 - 第4回 自然数の話題
 - 第5回 実数の話題
 - 第6回 複素数の話題
 - 第7回 無限に加えていくと
 - 第8回 面積で考える無限の和
 - 第9回 最短経路
 - 第10回 最大最小の問題
 - 第11回 立体図形
 - 第12回 曲面
 - 第13回 幾何と論理
 - 第14回 直線とは
 - 第15回 無限の大きさ
- 定期試験

【授業時間外の学習】

積み重ねのために復習が重要です。次の点に留意しましょう。

- ・主題は何か。
- ・解決の決め手は何か。基本的一般的な方法か、あるいは特殊な技法か。
- ・記述や表現に注意すべきことがあるか。

毎回の演習と解答・解説を復習して、分かったことと分からないところを識別する（2時間）。

さらに、

質問事項

類題や発展問題、独自に作成した問題と解答

参考書などから学んだこと

を用紙にまとめて（2時間）、次の授業の際に報告して下さい。

【成績の評価】

授業中の活動（10%）、演習（10%）、レポート（10%）、定期試験（70%）により評価します。演習等は授業で解説し、期末試験は教務課窓口で解答例を閲覧できるようにします。

【使用テキスト】

必要に応じて資料を配付します。

【参考文献】

- C. B. ボイヤー（加賀美鉄雄，浦野由有・訳）『数学の歴史』（新装版）朝倉書店，2008
吉田洋一，赤 攝也『数学序説』ちくま学芸文庫，筑摩書房，2013
瀬山士郎『数学記号を読む辞典』技術評論社，2013
石谷 茂『数学ひとり旅』現代数学社，1998
吉田洋一『零の発見』岩波新書（赤版），岩波書店，1939，1979 改版
小川洋子『博士の愛した方程式』新潮文庫，新潮社，2005

科目名： <UBS002> アンケート調査法
担当教員： 正岡 利朗(MASAOKA Toshirou)

【授業の紹介】

企業及び公共組織等が商品の販売やサービスなどを促進させるために行うアンケート調査につき、教員が解説を行うかたちで、講義を進めます。アンケート調査は回答したことがあっても、自ら作る側に回った方は少ないと思われます。ですが、このような知識は、みなさんがさまざまな組織で仕事をするに当たり、身につけておいて決して損はしないものです。慣れてくると、考え方が整理され、アンケート調査の重要性、有用性がだんだんわかってきますので、興味のある方はこの機会にぜひ受講してみてください。これにより、学位授与の方針のうち、発達科学部学生については、「教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる」能力の修得を、経営学部学生については、「経営・情報・会計などに関する基礎的知識から専門的知識まで体系的に修得し、組織においてその知識を適切に活用することができる」能力の修得をめざします。

なお、本授業は、グループワークで情報収集・ディスカッションを行うアクティブ・ラーニング形式を採用しています。また、高等学校教諭一種免許状（情報・商業）取得のための選択科目に該当します。

【到達目標】

1. 企業及び公共組織等が商品の販売やサービスなどを促進させるために行うアンケート調査について、理解を深めることができる。
2. リサーチの技法を確実に身につける。
3. 上記の各知識や授業中に得た情報処理能力を統合的に活用して、ソサエティー5.0に寄与する各技能や考え方を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 アンケート調査とは
- 第3回 企画・設計の手順（調査課題の設定）
- 第4回 企画・設計の手順（調査方法の選定）
- 第5回 企画・設計の手順（調査期間等の見通し）
- 第6回 アンケート票の作成（言葉遣いについて）
- 第7回 アンケート票の作成（調査ボリューム）
- 第8回 アンケート票の作成（レイアウトの検討）
- 第9回 集計・分析の手順（集計の手順）
- 第10回 集計・分析の手順（集計方法）
- 第11回 集計・分析の手順（集計上の留意点）
- 第12回 報告書の作成（文章、分析内容の検討）
- 第13回 報告書の作成（レイアウトの検討）
- 第14回 とくにweb調査について
- 第15回 これまでの授業のまとめ（学習した重点項目の確認）と質疑応答
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

よいレポート内容をまとめるには、相当な時間外の学習が必須となります。さまざまな意見を総合して、自分の意見をまとめるための参考にするという態度を、時間をかけてぜひ身につけてください。毎回の授業開始前には、プリント等を復習し、疑問点、気づいたことをメモ等にまとめておいてください（2時間）。また、毎回の授業毎にA4・1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（2時間）。オフィスアワーを設定しているので、掲示等で日時を確認の上、質問に来てください。

【成績の評価】

レポート提出（100％）の結果により判断します。ただし、授業態度が不適切な場合はそれに応じた減点をしますので留意してください。なお、各受講生（グループ）のレポートの結果については講評し、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

とくにありません（インターネットを使用する場合もある）。

【参考文献】

酒井隆『アンケート調査の進め方<第2版>』日本経済新聞出版社、2012年。（¥860）

全学共通科目:コミュニケーション科目

| 科目 | 担当教員 |
|--------------------------|-----------------|
| <UCL001>コミュニケーション表現 | 蓮井 孝夫 |
| <UCL002>コミュニケーション演習Ⅰ【発】 | 蓮井 孝夫 |
| <UCL003>コミュニケーション演習Ⅱ【発】 | 蓮井 孝夫 |
| <UCI101>情報基礎 | 神部 順子 |
| <UCI102>情報基礎演習【発A】 | 林 敏浩 |
| <UCI102>情報基礎演習【発B】 | 林 敏浩 |
| <UCI103>情報応用演習【発A】 | 林 敏浩 |
| <UCI103>情報応用演習【発B】 | 林 敏浩 |
| <UCE101>英語Ⅰ【発あ】 | 藤井 昭洋 |
| <UCE101>英語Ⅰ【発い】 | 竹田 忠弘 |
| <UCE101>英語Ⅰ【発う】 | 井上 浩巳 |
| <UCE102>英語Ⅱ【発あ】 | 藤井 昭洋 |
| <UCE102>英語Ⅱ【発い】 | 竹田 忠弘 |
| <UCE102>英語Ⅱ【発う】 | 井上 浩巳 |
| <UCE201>英語Ⅲ【発あ】 | 竹田 忠弘 |
| <UCE201>英語Ⅲ【発い】 | 井上 浩巳 |
| <UCE201>英語Ⅲ【発う】 | パーキンス ガレス エドワード |
| <UCE202>英語Ⅳ【発あ】 | 竹田 忠弘 |
| <UCE202>英語Ⅳ【発い】 | 井上 浩巳 |
| <UCE202>英語Ⅳ【発う】 | パーキンス ガレス エドワード |
| <UCP101>プラクティカル・イングリッシュⅠ | パーキンス ガレス エドワード |
| <UCP102>プラクティカル・イングリッシュⅡ | パーキンス ガレス エドワード |
| <UCP201>プラクティカル・イングリッシュⅢ | ウィリアムズ R.T. |
| <UCP202>プラクティカル・イングリッシュⅣ | ウィリアムズ R.T. |
| <UCF101>フランス語Ⅰ | エラリー ジャンクリストフ |
| <UCF102>フランス語Ⅱ | エラリー ジャンクリストフ |
| <UCF201>フランス語Ⅲ | エラリー ジャンクリストフ |
| <UCF202>フランス語Ⅳ | エラリー ジャンクリストフ |
| <UCC101>中国語Ⅰ | 李 佳坤 |
| <UCC102>中国語Ⅱ | 李 佳坤 |
| <UCC201>中国語Ⅲ | 李 佳坤 |
| <UCC202>中国語Ⅳ | 李 佳坤 |
| <UCJ101>日本語Ⅰ | 稲井 富赴代 |
| <UCJ102>日本語Ⅱ | 稲井 富赴代 |
| <UCJ201>日本語Ⅲ | 稲井 富赴代 |
| <UCJ202>日本語Ⅳ | 稲井 富赴代 |
| <UCS001>マスメディアと社会 | 山下 淳二 |

科目名： <UCL001> コミュニケーション表現

担当教員： 蓮井 孝夫(HASUI Takao)

【授業の紹介】

この授業では、理論的学習を中心に、さまざまな対人コミュニケーションの体験を通じて「カウンセリング的コミュニケーション理論・実践（傾聴・受容・共感）」「対人コミュニケーション理論・実践」などを身につけ、その結果、学位授与の方針に関する「自ら考え、自ら判断し、自ら行動できる社会人」になるためのスキルを身につけていくよう授業構成しています。

特に「ペアワーク」「ワークショップ」「ワールド・カフェ」「カウンセリング」など様々なアクティブラーニングによる課題発見・課題解決を通じて、将来、組織において社会性を持った活動・行動に「コミュニケーション能力」が生かせるよう配慮しています。また社会問題解決のための課題発見し、仲間と共に考え、プレゼンテーションできるよう構成しています。さらに様々な対人関係の問題解決のための「的確なコミュニケーション能力」のアップや「多様な専門性を持つ人材と協力・協働」できるように授業構成しています。

関連科目の「コミュニケーション演習」もあわせて受講することを希望します。

【到達目標】

理論学習を中心に演習等を通じて、「自己理解」「他者理解」「自己決定」ができる。

「話す力」「聴く力」「書く力」「読みとる力」「話し合う力」ができる。

「考える力」「感じる力」「表現する力」「行動する力」ができる。

悩める人に「カウンセリング的コミュニケーション」ができる。

幼児・高齢者など異世代の人と「的確なコミュニケーション（実践と理論）」を図ることができる。

悩み多き人とのコミュニケーションを図ることができる。

グループワーク等を通じプレゼンテーション力を身につけることができる。

【授業計画】

（授業の進捗状況によって変更することがあります。）

第1回 「オリエンテーション・相互インタビュー」（ペアワーク）

第2回 「大学でのコミュニケーションの学び」（グループワーク）

第3回 「ことばの3つの役割・ルビンの杯・物語づくり」（ペアワーク）

第4回 「できたことノート」づくり（認知行動療法）」（ペアワーク）

第5回 「アンガーマネジメント」（ペアワーク）

第6回 「アサーション・トレーニング」（プレゼンテーション）

第7回 「自己肯定感・自分をほめる」（ペアワーク）

第8回 「カウンセリング的コミュニケーション」（ロールプレイ）

第9回 「アドラーの勇気づけ&自己カウンセリング（手紙法）」（ロールプレイ）

第10回 「自分と他者との価値観の違い」（グループワーク）

第11回 「新聞の読みかた・スマホ調べ」（ペアワーク）

第12回 「ワールド・カフェ」（グループワーク）

第13回 「グループワーク（賛成・反対・中立）」（グループワーク&プレゼンテーション）

第14回 「課題別（国際・貧困・ボランティア）ワーク」（グループワーク）

第15回 「就職・面接でのコミュニケーション」（ペアワーク）

定期試験 授業の内容から特に重要と思われる内容について出題します。

【授業時間外の学習】

授業は毎回レジュメ配布し、最後に「授業ふりかえりレポート」を復習（2時間以上）として課します。自宅などでレジュメを再読し、自分の変化や成長・感想・意見を記述して次回の授業の冒頭に提出のこと。また毎回の授業の最後に次週のテーマについて調べる課題（予習1時間以上）を出します。事前にキーワードで検索したり、図書館で関連する本を読んだりして予習すること。事前に知っておくことにより授業での課題のディスカッションが活発にできるようになります。

質問等については、「授業ふりかえりレポート」に記述すること。もしくはオフィスアワーを設定していますので日時を確認の上、質問・相談に来ること。

「自分を確立し、自立・共生」できる人間として成長するには、メンターや多くの友人・知人をつくることです。また様々な「社会的スキル」も身につけることです。アルバイト、映画鑑賞、音楽鑑賞などだけでなく、毎日のテレビニュースを視聴、新聞・本を読みましょう。また休暇を利用して県外、海外旅行も楽しんで下さい。新しい「価値観・視点」が発見できるでしょう。

【成績の評価】

受講態度（約30%）、授業ふりかえり・レポート（約30%）、テスト（約40%）などで総合的に評価（添削し返却又は口頭によるフィードバックを行う）。

【使用テキスト】

使用テキストなし、随時授業資料を配付（保存のこと・資料持ち込みテスト）

【参考文献】

なし

科目名： <UCL002> コミュニケーション演習 【発】

担当教員： 蓮井 孝夫(HASUI Takao)

【授業の紹介】

「コミュニケーション」が苦手な人たちが増えています。この授業では、学位授与の方針に関する、幼児などの異世代とのコミュニケーションの理論と演習（実践力）を大切にし、演習では「絵本の読み聞かせ方」「ことばの発音・発声・滑舌の仕方」なども取りいれています。演習の中で「自己のみつめ直し」「自己表現」などを通じて、まず自分自身を深く知り、自らの価値観をしっかりと持てるようにしています。その結果、社会問題にも関心を深く持ち、「的確なコミュニケーション」が図れるよう授業構成しています。毎回の「ペアワーク」「グループワーク」「ワールド・カフェ」「プレゼンテーション」などのアクティブラーニングによる子どもの教育・保育のかかる課題の発見・解決を通じて、将来、地域や組織での多様な人材と協力・協働を通じて、豊かな「コミュニケーション能力」が生かせるよう授業を進めていきます。また「自ら考え・判断し・行動できる」人間として成長出来るよう授業構成しています。積極的な授業参加を期待します。さらに学位授与の方針との結び付きとして、「現代社会の様々な問題に関心をもち、多様な立場の人々と的確にコミュニケーションを図るとともに、リーダーシップを発揮することで問題解決に取り組める」能力の育成にかかわっていると考えています。関連科目の「コミュニケーション演習」、「コミュニケーション表現」もあわせて履修を希望します。

【到達目標】

自己理解を深めたり・広めたりすることができる。
幼児や児童に絵本の読み聞かせができる（言葉の表現の豊かさを実感できる）。
標準語の発音・アクセントが正確にできる。
ことばを通じて対人関係を深めたり・広めたりすることができる。
幼児・児童の話す言葉の向こうにある「心の言葉」への理解（実践と理論）を深めることができる。
グループワーク等を通じプレゼンテーション力を身につけることができる。
コミュニケーション全般についての基礎的概念の理解を深めることができる。

【授業計画】

（授業の進捗状況によって変更することがあります。）

| | |
|------|---------------------------------------|
| 第1回 | ことば表現演習：「オリエンテーション」 |
| 第2回 | ことば表現演習：「アイスブレイクで仲間づくり」（ペアワーク） |
| 第3回 | ことば表現演習：「挨拶ことばはコミュニケーションのはじめ」（ペアワーク） |
| 第4回 | ことば表現演習：「入学1ヶ月何が変わった」（プレゼンテーション） |
| 第5回 | ことば表現演習：「大学時代にしたいこと10」（ペアワーク） |
| 第6回 | ことば表現演習：「3つのききかた（聞く・聴く・訊く）の違い」（ペアワーク） |
| 第7回 | ことば表現演習：「日本語の発声・発音・滑舌・アクセント」 |
| 第8回 | ことば表現演習：「絵本の読み聞かせかた」（表現体験） |
| 第9回 | ことば表現演習：「人間関係不安解消法」（プレゼンテーション） |
| 第10回 | ことば表現演習：「自己を深く見つめる内観法」（ペアワーク） |
| 第11回 | ことば表現演習：「私のセールスポイント」（スピーチ） |
| 第12回 | ことば表現演習：「価値観とは」（ワークショップ） |
| 第13回 | ことば表現演習：「社会人基礎力とは」（ペアワーク） |
| 第14回 | ことば表現演習：「自己概念とは」（ペアワーク） |
| 第15回 | ことば表現演習：「自他の価値観の相違を考える」（ワークショップ） |

定期試験 授業の内容から特に重要と思われる内容について出題します。

【授業時間外の学習】

授業は毎回レジュメ配布し、最後に「授業ふりかえりレポート」を復習（2時間以上）として課します。自宅等でレジュメを再読し、自分の変化や成長・感想・意見を記述して次回の授業の冒頭に提出のこと。また毎回の授業の最後に次週のテーマについて調べる課題（予習1時間以上）を出します。事前にキーワードで検索したり、図書館で関連する本を読んだりして予習すること。事前に知っておくことによって授業での課題のディスカッションが活発にできるようになります。質問等については、「授業ふりかえりレポート」に記述すること。もしくはオフィスアワーを設定していますので日時を確認の上、質問・相談に来ること。

【成績の評価】

受講態度（約30%）、授業ふりかえり・レポート（約30%）、テスト（約40%）などで総合的に評価（添削し返却又は口頭によるフィードバックを行う）。

【使用テキスト】

使用テキストなし、随時授業資料を配付（保存のこと・資料持ち込みテスト）

【参考文献】

なし

科目名： <UCL003> コミュニケーション演習 【発】

担当教員： 蓮井 孝夫(HASUI Takao)

【授業の紹介】

「あなたの気持ちは、何%くらい相手に伝わっていますか」などの問いに、多くの学生は「コミュニケーション能力」を身につけたいと答えています。この授業では、幼児などの異世代とのコミュニケーションの理論と演習（実践力）をも大切に、演習では「紙芝居の演じ方」なども取りいれています。演習では「心理学的コミュニケーションの仕方」「自己表現」「文章理解力」「ペアワーク」「グループワーク」「プレゼンテーション」などのアクティブラーニングによる課題発見・解決を通じて、多様な視点から自分自身を知り、自分の価値観をしっかりと持地、豊かな人間性や主体的に生きる力を持てるようにしています。その結果、学位授与の方針に関する、社会問題にも幅広く関心を持ち、「的確なコミュニケーション」が図れるよう授業構成しています。さらに学位授与の方針との結び付きとして、「現代社会の様々な問題に関心を持ち、多様な立場の人々と的確にコミュニケーションを図るとともに、リーダーシップを発揮することで問題解決に取り組める」能力の育成にかかわっていると考えています。関連科目の「コミュニケーション演習Ⅰ」、「コミュニケーション表現」もあわせて履修を希望します。

【到達目標】

自己理解を深めたり・広めたりすることができる。
幼児や児童に絵本の読み聞かせができる（言葉の表現の豊かさを実感できる）。
標準語の発音・アクセントが正確にできる。
ことばを通じて対人関係を深めたり・広めたりすることができる。
幼児・児童の話す言葉の向こうにある「心の言葉」への理解（実践と理論）を深めることができる。
グループワーク等を通じプレゼンテーション力を身につけることができる。
コミュニケーション全般についての基礎的概念の理解を深めることができる。

【授業計画】

（授業の進捗状況によって変更することがあります。）

第1回 ことば表現演習：「オリエンテーション」
第2回 ことば表現演習：「パブリック・スピーチ」
第3回 ことば表現演習：「20代にしておきたい17のテーマ」（ペアワーク）
第4回 ことば表現演習：「心のリフレーミング」（ペアワーク）
第5回 ことば表現演習：「意見を述べる」（ペアワーク）
第6回 ことば表現演習：「引きこもり青年を考える」（ペアワーク）
第7回 ことば表現演習：「トラブル・葛藤のつきあい方」（グループワーク）
第8回 ことば表現演習：「書くコミュニケーション」（ペアワーク）
第9回 ことば表現演習：「7つの習慣」（ペアワーク）
第10回 ことば表現演習：「ほめ言葉のシャワー」（ペアワーク）
第11回 ことば表現演習：「50の質問会話・訊く」（ペアワーク）
第12回 ことば表現演習：「価値観の違いでのコミュニケーション」（ペアワーク）
第13回 ことば表現演習：「紙芝居の演じ方」
第14回 ことば表現演習：「プレゼンテーションとは」（グループワーク）
第15回 ことば表現演習：「クルーザー物語」（グループワーク）
定期試験 授業の内容から特に重要と思われる内容について出題します。

【授業時間外の学習】

授業は毎回レジュメ配布し、最後に「授業ふりかえりレポート」を復習（2時間以上）として課します。自宅等でレジュメを再読し、自分の変化や成長・感想・意見を記述して次回の授業の冒頭に提出のこと。また毎回の授業の最後に次週のテーマについて調べる課題（予習1時間以上）を出します。事前にキーワードで検索したり、図書館で関連する本を読んだりして予習すること。事前に知っておくことによって授業での課題のディスカッションが活発にできるようになります。質問等については、「授業ふりかえりレポート」に記述すること。もしくはオフィスアワーを設定していますので日時を確認の上、質問・相談に来ること。

【成績の評価】

受講態度（約30%）、授業ふりかえり・レポート（約30%）、テスト（約40%）などで総合的に評価（添削し返却又は口頭によるフィードバックを行う）。

【使用テキスト】

使用テキストなし、随時授業資料を配付（保存のこと・資料持ち込みテスト）

【参考文献】

なし

科目名： <UC1101> 情報基礎

担当教員： 神部 順子(KANBE Junko)

【授業の紹介】

「AI」、「ビッグデータ」、「IoT」といったデータ活用に関連する新技術の進展がこれからの社会に大きな変革をもたらしている。これらの新技術によって創出された新たな製品やサービス等を効果的に活用するために、また、社会人になる基礎力として、ITリテラシーに関する知識を身に付けることが必要となっている。この授業はITの基本的な知識と習得し、現代社会におけるITへの認識を深めるよう展開していく。この知識や理解を深めるための実習課題を通し、情報技術活用によるメリットやデメリット、情報化社会に参画する態度についても考えることとする。

なお、この授業は国家試験である「ITパスポート試験」の入門としても役立つように配慮していく。また、高等学校教諭一種免許状（情報）の取得のための必修科目である。

【到達目標】

1. パソコンなど情報機器を活用するために最低限必要な、情報機器（ハードウェア）およびソフトウェアの仕組み、情報処理の基礎概念を説明できる。
2. 情報化社会に参画するための知識を習得する。
3. ITパスポート試験の概要を把握する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび基礎知識の確認
 - 第2回 ハードウェア（CPU、主記憶装置）
 - 第3回 ハードウェア（補助記憶装置、入出力装置、入出力インターフェース）
 - 第4回 ソフトウェア（OS、ファイルの管理）
 - 第5回 ソフトウェア（表計算ソフト、関数）
 - 第6回 コンピュータで扱うデータ（2進数）
 - 第7回 コンピュータで扱うデータ（マルチメディア）
 - 第8回 データベース
 - 第9回 ここまでの要点整理と中間試験
 - 第10回 ネットワーク
 - 第11回 セキュリティ
 - 第12回 システムの導入
 - 第13回 システム開発とプロジェクトマネジメント
 - 第14回 企業活動とITの活用
 - 第15回 ITパスポート試験に向けて
- 定期試験

【授業時間外の学習】

準備学習として、テキストの該当する項目部分を読み、授業に出席すること（90分程度）。事後学習として、授業で学んだことをノート等に整理し、授業内で配布されたプリント（主にITパスポートの過去問）を次回までに解いてくる（90分程度）。レポートおよび中間試験後、不足している知識を整理し、自らの取り組みにおいて補充する。オフィスアワーを設定しているので、研究室に質問に来れば対応する。

【成績の評価】

授業内レポート（20%）、中間試験（30%）、期末試験（50%）の総合評価で行なう。リアクションペーパーに対するコメントや質問に対するフィードバックは次回授業にて行う。レポートおよび、中間試験結果については次の授業以降に返却・解説する。フィードバックとして期末試験の返却を希望する場合は、研究室まで取りに来ること。

【使用テキスト】

「かんたん合格 ITパスポート教科書 令和2年度」 坂下夕里&ラーニング編集部 株式会社インプレス 980円+税

【参考文献】

適宜、指示する。

科目名： <UCI102> 情報基礎演習【発A】

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための「理論」と「実践力」を兼ね備え、・・・」の「実践力」を構成する重要な要素である情報リテラシーを学習するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、文書作成のためのワープロ（Microsoft Word 2016）の機能について学習し、さらにその間に「情報と社会」というテーマを挿入する形で、情報化社会で適切に行動するために必要な知識について学習します。また、毎回、学習した内容をワープロを用いてレポート（課題）作成しながら、ワープロに関するスキルアップを図ります。また、数理・データサイエンスの基礎知識についても併せて学習します。

【到達目標】

1. パソコンの代表的な基本ソフトであるWindowsの基本操作ができる。
2. Microsoft Word 2016を対象としてワープロの主要な機能が使える。
3. ワープロを用いて指定された形式で文書が作成・編集できる。
4. 個人情報保護、情報倫理・情報モラル、知的財産権、ネット犯罪について説明できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【授業計画】

- | | |
|------|--------------------------------|
| 第1回 | 受講ガイダンス、Windowsの基本操作と日本語入力 |
| 第2回 | 文書作成（1）基本操作と印刷 |
| 第3回 | 文書作成（2）表の作成 |
| 第4回 | 文書作成（3）書式の設定 |
| 第5回 | 情報と社会（1）電子メールによるコミュニケーション |
| 第6回 | 情報と社会（2）個人情報保護 |
| 第7回 | 文書作成（4）図・画像などの挿入 |
| 第8回 | 文書作成（5）Webブラウザとの連携 |
| 第9回 | 数理・データサイエンス（1）数理・データサイエンスとは何か？ |
| 第10回 | 情報と社会（3）情報倫理・情報モラル |
| 第11回 | 情報と社会（4）知的財産権 |
| 第12回 | 文書作成（6）図の作成と編集 |
| 第13回 | 文書作成（7）縦書き、PDF変換 |
| 第14回 | 情報と社会（5）ネット犯罪 |
| 第15回 | 数理・データサイエンス（2）身の周りの数理・データサイエンス |

定期試験は実施しない

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。また、予習として次の時間の教科書の範囲を読み、疑問点や気付いた点をノートにまとめておいてください。予習・復習などの準備学修に必要な時間数は2時間とします。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終回の課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016』（実教出版，2016年）ISBN:9784407340235

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

なし

科目名： <UC1102> 情報基礎演習【発B】

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための「理論」と「実践力」を兼ね備え、・・・」の「実践力」を構成する重要な要素である情報リテラシーを学習するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、文書作成のためのワープロ（Microsoft Word 2016）の機能について学習し、さらにその間に「情報と社会」というテーマを挿入する形で、情報化社会で適切に行動するために必要な知識について学習します。また、毎回、学習した内容をワープロを用いてレポート（課題）作成しながら、ワープロに関するスキルアップを図ります。また、数理・データサイエンスの基礎知識についても併せて学習します。

【到達目標】

1. パソコンの代表的な基本ソフトであるWindowsの基本操作ができる。
2. Microsoft Word 2016を対象としてワープロの主要な機能が使える。
3. ワープロを用いて指定された形式で文書が作成・編集できる。
4. 個人情報保護、情報倫理・情報モラル、知的財産権、ネット犯罪について説明できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【授業計画】

- | | |
|------|--------------------------------|
| 第1回 | 受講ガイダンス、Windowsの基本操作と日本語入力 |
| 第2回 | 文書作成（1）基本操作と印刷 |
| 第3回 | 文書作成（2）表の作成 |
| 第4回 | 文書作成（3）書式の設定 |
| 第5回 | 情報と社会（1）電子メールによるコミュニケーション |
| 第6回 | 情報と社会（2）個人情報保護 |
| 第7回 | 文書作成（4）図・画像などの挿入 |
| 第8回 | 文書作成（5）Webブラウザとの連携 |
| 第9回 | 数理・データサイエンス（1）数理・データサイエンスとは何か？ |
| 第10回 | 情報と社会（3）情報倫理・情報モラル |
| 第11回 | 情報と社会（4）知的財産権 |
| 第12回 | 文書作成（6）図の作成と編集 |
| 第13回 | 文書作成（7）縦書き、PDF変換 |
| 第14回 | 情報と社会（5）ネット犯罪 |
| 第15回 | 数理・データサイエンス（2）身の周りの数理・データサイエンス |

定期試験は実施しない

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。また、予習として次の時間の教科書の範囲を読み、疑問点や気付いた点をノートにまとめておいてください。予習・復習などの準備学修に必要な時間数は2時間とします。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終回の課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016』（実教出版，2016年）ISBN:9784407340235

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

なし

科目名： <UCI103> 情報応用演習【発A】

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための「理論」と「実践力」を兼ね備え、・・・」の「実践力」を構成する重要な要素である情報リテラシーを学習するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、表計算のためのソフトウェア（Microsoft Excel 2016）の機能について学習し、さらに後半で、プレゼンテーションのためのソフトウェア（Microsoft PowerPoint 2016）の機能について学習します。また、数理・データサイエンスの基礎知識についても併せて学習します。

【到達目標】

1. Microsoft Excel 2016を対象として表計算ソフトの主要な機能が使える。
2. 表計算ソフトを用いて指定された形式でデータを加工できる。
3. Microsoft PowerPoint 2016を対象としてプレゼンテーションソフトの主要な機能が使える。
4. プレゼンテーションソフトを用いて種々のプレゼンテーション資料を作成できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【授業計画】

- | | | |
|------|----------------|------------------------|
| 第1回 | 受講ガイダンス、表計算（1） | 基本操作と印刷 |
| 第2回 | 表計算（2） | 表の作成と基本編集 |
| 第3回 | 表計算（3） | 表の書式設定と印刷（詳細） |
| 第4回 | 表計算（4） | 数式（1） 絶対参照と相対参照、基本関数 |
| 第5回 | 表計算（5） | 数式（2） 順位取得、条件判断 |
| 第6回 | 表計算（6） | 数式（3） 表参照によるデータ取得、端数処理 |
| 第7回 | 表計算（7） | 数式（4） エラー回避、文字列操作 |
| 第8回 | 表計算（8） | グラフと図形 |
| 第9回 | 数理・データサイエンス（1） | Excelを使ったデータ処理の基礎 |
| 第10回 | プレゼンテーション（1） | 基本操作と印刷 |
| 第11回 | プレゼンテーション（2） | 図やオブジェクトの挿入 |
| 第12回 | プレゼンテーション（3） | SmartArt、グラフ、表の挿入 |
| 第13回 | プレゼンテーション（4） | 特殊効果と自動実行 |
| 第14回 | プレゼンテーション（5） | 他のソフトウェアとのデータ関係 |
| 第15回 | 数理・データサイエンス（2） | データは人を騙す |

定期試験は実施しない

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。また、予習として次の時間の教科書の範囲を読み、疑問点や気付いた点をノートにまとめておいてください。予習・復習などの準備学修に必要な時間数は2時間とします。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終回の課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016』（実教出版，2016年）ISBN:9784407340235

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

なし

科目名： <UCI103> 情報応用演習【発B】

担当教員： 林 敏浩(HAYASHI Toshihiro)

【授業の紹介】

この授業は、ディプロマポリシーにある「小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための「理論」と「実践力」を兼ね備え、・・・」の「実践力」を構成する重要な要素である情報リテラシーを学習するために、開講される授業科目で、座学・演習を組み合わせた授業形式になっています。情報リテラシーとは、単にコンピュータや特定のソフトウェアが使えるというだけではなく、その技術を利用して、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って活用する能力のことです。特に、この授業の前半で、表計算のためのソフトウェア（Microsoft Excel 2016）の機能について学習し、さらに後半で、プレゼンテーションのためのソフトウェア（Microsoft PowerPoint 2016）の機能について学習します。また、数理・データサイエンスの基礎知識についても併せて学習します。

【到達目標】

1. Microsoft Excel 2016を対象として表計算ソフトの主要な機能が使える。
2. 表計算ソフトを用いて指定された形式でデータを加工できる。
3. Microsoft PowerPoint 2016を対象としてプレゼンテーションソフトの主要な機能が使える。
4. プレゼンテーションソフトを用いて種々のプレゼンテーション資料を作成できる。
5. 数理・データサイエンスの基礎知識について説明できる。

【授業計画】

- | | | |
|------|----------------|------------------------|
| 第1回 | 受講ガイダンス、表計算（1） | 基本操作と印刷 |
| 第2回 | 表計算（2） | 表の作成と基本編集 |
| 第3回 | 表計算（3） | 表の書式設定と印刷（詳細） |
| 第4回 | 表計算（4） | 数式（1） 絶対参照と相対参照、基本関数 |
| 第5回 | 表計算（5） | 数式（2） 順位取得、条件判断 |
| 第6回 | 表計算（6） | 数式（3） 表参照によるデータ取得、端数処理 |
| 第7回 | 表計算（7） | 数式（4） エラー回避、文字列操作 |
| 第8回 | 表計算（8） | グラフと図形 |
| 第9回 | 数理・データサイエンス（1） | Excelを使ったデータ処理の基礎 |
| 第10回 | プレゼンテーション（1） | 基本操作と印刷 |
| 第11回 | プレゼンテーション（2） | 図やオブジェクトの挿入 |
| 第12回 | プレゼンテーション（3） | SmartArt、グラフ、表の挿入 |
| 第13回 | プレゼンテーション（4） | 特殊効果と自動実行 |
| 第14回 | プレゼンテーション（5） | 他のソフトウェアとのデータ連係 |
| 第15回 | 数理・データサイエンス（2） | データは人を騙す |

定期試験は実施しない

授業の進捗状況により各回の授業内容を調整する場合があります。

【授業時間外の学習】

毎回、提出課題がありますので、授業時間内に提出できなかった学生は、次の授業までに課題を作成・提出することとします。また、予習として次の時間の教科書の範囲を読み、疑問点や気付いた点をノートにまとめておいてください。予習・復習などの準備学修に必要な時間数は2時間とします。

【成績の評価】

成績は必須課題（75%）と追加課題（25%）により評価します。また、優良な授業態度（演習時の他の学生サポートなど）に対しては加点する場合があります。毎回の課題については受理時に個々に一次講評し、さらに次の授業時間で総評することによりフィードバックを行います。最終回の課題は一次講評に加え、希望者には電子メールで詳細な講評をして、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

杉本くみ子，大澤栄子著『30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016』（実教出版，2016年）ISBN:9784407340235

テキストに沿って説明したり、テキスト内の実習問題を課題とする場合がありますので必ず授業に持参ください。

【参考文献】

なし

科目名： <UCE101> 英語 【発あ】
担当教員： 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

【授業の紹介】

本授業では、中・高校で習った基礎的な文法力の定着を図るとともに、大学1年で目指した、卒業後の社会において求められる英語でのコミュニケーション力の強化のために必要となる聴解力と読解力の強化に努めます。家庭では予習と復習が求められ、その確認のため毎回授業のはじめに小テストを行います。

【到達目標】

バランスの取れた英語力の習得のためには、当然のことながら文法・語法の理解は不可欠です。この授業で目指すものは、以下の三つです。

基礎的な文法を確実に理解できるようになる。

まとまった長さの英文を読み、理解することができる。

実用英語検定試験準2級程度の英文を聞き、理解することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・英語の品詞について
 - 第2回 be動詞・現在・過去
 - 第3回 一般動詞・現在
 - 第4回 一般動詞・過去
 - 第5回 多様な疑問文
 - 第6回 未来形
 - 第7回 進行形
 - 第8回 助動詞 (can, may, must)
 - 第9回 助動詞 (それらの特殊用法)
 - 第10回 接続詞
 - 第11回 受動態 (基本的なもの)
 - 第12回 受動態 (熟語となっているもの)
 - 第13回 特殊な文
 - 第14回 比較 (原級比較と比較級)
 - 第15回 比較 (最上級と特殊のもの)
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業時間外の学習として、次のことに注意して下さい。

1. 毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。
2. 宿題として課された提出物の準備をすること。
3. 次回の授業の予習をすること。

【成績の評価】

小テスト(20%)、宿題(30%)および定期試験(50%)の結果を総合的に判断して行ないます。小テストは直後に解答を解説し、また提出物は評価したものを次の授業時に返却し、解説します。

【使用テキスト】

佐藤哲三他「基礎からの英語入門」(南雲堂)

【参考文献】

オリエンテーションの時、指示します。

科目名： <UCE101> 英語 【発い】
担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

短い英文を読んで、文中の単語や熟語の確認と暗記、内容の正誤問題、応答問題及び要約文により本文の内容を理解するとともに、語の整序問題、会話文、語彙力補強問題、文法事項など、英語の4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく配したテキストを用いて、英文を聴いたり読んだりして内容を理解し、自分の意見や感想を英語で発表したり書いたりする演習も併せて行います。教育を含めて様々な社会問題を扱った英文の内容に合わせて、子どもの教育・保育に係る諸問題を提起し、問題解決を図ろうとする姿勢を養います。

受講生は、授業中の言語活動に積極的に参加するために、ワークシートの予習・復習を欠かさず、継続的に学ぶ姿勢が求められます。

毎時間、英和辞典（電子辞書も可）を使用しますので、必ず持参してください。

【到達目標】

- ・まとまった短い英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、概要を伝えることができる。
- ・自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。
- ・重要表現を暗記することで英語に慣れ、覚えた表現を用いてコミュニケーション活動を行うことができる。
- ・英文法を復習し、英語学習の基礎を身に付けることができる。

【授業計画】

| | |
|------|-------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | Unit 1 The Royal Family |
| 第3回 | Unit 1 The Royal Family |
| 第4回 | Unit 2 The Beatles |
| 第5回 | Unit 2 The Beatles |
| 第6回 | Unit 3 Very Cold! |
| 第7回 | Unit 3 Very Cold! |
| 第8回 | Unit 4 Euro Money |
| 第9回 | Unit 4 Euro Money |
| 第10回 | Unit 5 To Your Health |
| 第11回 | Unit 5 To Your Health |
| 第12回 | Unit 6 Recycling |
| 第13回 | Unit 6 Recycling |
| 第14回 | Unit 7 The UK |
| 第15回 | Unit 7 The UK |
| | 定期試験 |

【授業時間外の学習】

毎時間、次の課題を課します。
テキストの予習（1時間）
習った内容の復習（30分）

【成績の評価】

「授業への関心・意欲・態度」10%、「授業時間外に課す課題」10%、「小テスト」20%、「定期試験」60%の4項目を総合的に評価します。小テスト、授業時間外に課す課題及び定期試験については、その都度評価及びフィードバックを行います。

なお、30分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

English Indicator 1 <Essential>
(テリー・オブライエン、三原 京、前田康二、木村博是、南雲堂、2018)

【参考文献】

なし

科目名： <UCE101> 英語 【発う】
担当教員： 井上 浩巳(INOUE Hiromi)

【授業の紹介】

本講義では、英文法を一から丁寧に学び直すことで英語への苦手意識を克服し、自らさらに学びたいという意欲を育めるように授業を進めていきます。一つひとつの英文法を基礎から学習し、それらが実際のコミュニケーションでどのように使われるのか、会話例や例文を用いて実践練習にも取り組みます。

最終目標として「英語・」を通して、英文法の基礎の定着、語彙力・リスニング力強化を図り、実用英語技能検定3級の合格を目指します。授業後半には、実際の問題形式に慣れることができるよう、過去問題にも数多く取り組みます。

様々な課題が課されますので、受講生は家庭での予習・復習を中心として、継続的な学習が必要とされます。

【到達目標】

1. 英語への苦手意識を克服することができる。
2. 英文法の基礎を理解し、正しく運用することができる。
3. 英文を聞きその内容を理解するとともに、基本的な英作文ができる。
4. 英語・ を通して、実用英語技能検定3級に合格することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 Unit 1 be動詞（現在形）
 - 第3回 Unit 2 一般動詞（現在形）
 - 第4回 Unit 3 be動詞（過去形）
 - 第5回 Unit 4 一般動詞（過去形、規則変化）
 - 第6回 Unit 5 一般動詞（過去形、不規則変化）
 - 第7回 Unit 6 進行形
 - 第8回 Unit 7 未来形
 - 第9回 Unit 1-7の復習問題とその解説
 - 第10回 Unit 8 助動詞（1）
 - 第11回 Unit 9 助動詞（2）
 - 第12回 Unit 10 名詞・冠詞
 - 第13回 Unit 11 代名詞
 - 第14回 Unit 12 前置詞
 - 第15回 Unit 13 形容詞
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業時間外の学習として、毎週次の3つの課題に取り組んでください。

1. テキストの指定範囲の語句調べ（意味・発音）（30分）
2. 語彙ならびに例文のスピーキングテストのための口頭練習（30分）
3. 文法確認テストのための復習（30分）

【成績の評価】

授業時間外の学習10%、授業への取り組み（小テストを含む）30%、定期試験60%の3項目を総合して評価します。小テストはその都度評価し、解説等のフィードバックを行います。

なお、30分以上の遅刻は欠席として扱い、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

水島孝司、Roger Pattimore 『Everyday English Grammar』（南雲堂、2007年）

【参考文献】

英和辞典を必ず持参してください（電子辞書可）。

科目名： <UCE102> 英語 【発あ】
担当教員： 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

【授業の紹介】

英語 に引き続き、この授業では文法力のさらなる定着を図るとともに、身近な話題を扱いながら、英語の4技能の運用能力を高め、将来社会人として最低限必要な英語力の涵養に努めます。また、実用英語技能検定試験やTOEICの問題にあたりながら、英語による問題解決力の向上をもめざします。

【到達目標】

1. 基本的な英文法を理解し、使うことができる。
2. 平易な英文の読解ができる。
3. 日常的な英文を聞いて、概要をつかむことができる。
4. 英検準2級問題の8割は解くことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・前期の復習
 - 第2回 文型(第1、第2、第3文型)
 - 第3回 文型(第4、第5文型)
 - 第4回 節
 - 第5回 代名詞
 - 第6回 動名詞
 - 第7回 分詞
 - 第8回 時制
 - 第9回 関係代名詞(基本)
 - 第10回 関係代名詞(発展)
 - 第11回 完了形(結果、継続)
 - 第12回 完了形(経験)
 - 第13回 仮定法過去
 - 第14回 仮定法過去完了
 - 第15回 英語の重要構文と熟語
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- 授業時間外の学習として、次のことに注意して下さい。
1. 毎時間初めに行なう小テストのために前回の授業内容を復習すること。
 2. 提出物の準備をすること。
 3. 次回の授業の予習をすること。

【成績の評価】

小テスト(20%)、宿題(30%)および定期試験(50%)の結果を総合的に判断して行ないます。小テストは直後に解答を解説し、また提出物は評価したものを次の授業時に返却し、解説します。

【使用テキスト】

前期の進度により、後期に使用するテキストは、前期の最後に指示します。

【参考文献】

オリエンテーションの時、指示します。

科目名： <UCE102> 英語 【発い】
担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

英語に引き続き、短い英文を読んで、文中の単語や熟語の確認と暗記、内容の正誤問題、応答問題及び要約文により本文の内容を理解するとともに、語の整序問題、会話文、語彙力補強問題、文法事項など、英語の4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく配したテキストを用いて、英文を聴いたり読んだりして内容を理解し、自分の意見や感想を英語で発表したり書いたりする演習も併せて行います。教育を含めて様々な社会問題を扱った英文の内容に合わせて、子どもの教育・保育に係る諸問題を提起し、問題解決を図ろうとする姿勢を養います。

受講生は、授業中の言語活動に積極的に参加するために、ワークシートの予習・復習を欠かさず、継続的に学ぶ姿勢が求められます。

毎時間、英和辞典（電子辞書も可）を使用しますので、必ず持参してください。

【到達目標】

- ・まとまった短い英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、概要を伝えることができる。
- ・自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。
- ・重要表現を暗記することで英語に慣れ、覚えた表現を用いてコミュニケーション活動を行うことができる。
- ・英文法を復習し、英語学習の基礎を身に付けることができる。

【授業計画】

| | | |
|------|-----------|---------------------|
| 第1回 | オリエンテーション | Unit 8 A Quiet Life |
| 第2回 | Unit 8 | A Quiet Life |
| 第3回 | Unit 9 | My Company |
| 第4回 | Unit 9 | My Company |
| 第5回 | Unit 10 | Advertising |
| 第6回 | Unit 10 | Advertising |
| 第7回 | Unit 11 | Business Trips |
| 第8回 | Unit 11 | Business Trips |
| 第9回 | Unit 12 | Get It Cleaned |
| 第10回 | Unit 12 | Get It Cleaned |
| 第11回 | Unit 13 | A Storm |
| 第12回 | Unit 13 | A Storm |
| 第13回 | Unit 14 | The Media |
| 第14回 | Unit 15 | The Media |
| 第15回 | Unit 15 | Sightseeing |

定期試験

【授業時間外の学習】

毎時間、次の課題を課します。
テキストの予習（1時間）
習った内容の復習（30分）

【成績の評価】

「授業への関心・意欲・態度」10%、「授業時間外に課す課題」10%、「小テスト」20%、「定期試験」60%の4項目を総合的に評価します。小テスト、授業時間外に課す課題及び定期試験については、その都度評価及びフィードバックを行います。

なお、30分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

English Indicator 1 <Essential>
(テリー・オブライエン、三原 京、前田康二、木村博是、南雲堂、2018)

【参考文献】

なし

科目名： <UCE102> 英語 【発う】
担当教員： 井上 浩巳(INOUE Hiromi)

【授業の紹介】

「英語」に引き続き、本講義では、英文法を一から丁寧に学び直すことで英語への苦手意識を克服し、自らさらに学びたいという意欲を育めるように授業を進めていきます。一つひとつの英文法を基礎から学習し、それらが実際のコミュニケーションでどのように使われるのか、会話例や例文を用いて実践練習にも取り組みます。

最終目標として「英語」を通して、英文法の基礎の定着、語彙力・リスニング力強化を図り、実用英語技能検定3級の合格を目指します。授業後半には、実際の問題形式に慣れることができるよう、過去問題にも数多く取り組みます。

様々な課題が課されますので、受講生は家庭での予習・復習を中心として、継続的な学習が必要とされます。

【到達目標】

1. 英語への苦手意識を克服することができる。
2. 英文法の基礎を理解し、正しく運用することができる。
3. 英文を聞きその内容を理解するとともに、基本的な英作文ができる。
4. 英語を通して、実用英語技能検定3級に合格することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・前期「英語」の振り返り
 - 第2回 Unit 14 副詞
 - 第3回 Unit 15 比較(1)
 - 第4回 Unit 16 比較(2)
 - 第5回 Unit 17 接続詞
 - 第6回 Unit 18 受け身(受動態)
 - 第7回 Unit 19 不定詞
 - 第8回 Unit 20 動名詞
 - 第9回 Unit 21 分詞
 - 第10回 Unit 22 現在完了
 - 第11回 実用英語技能検定模擬試験とその解説(1)
 - 第12回 実用英語技能検定模擬試験とその解説(2)
 - 第13回 実用英語技能検定模擬試験とその解説(3)
 - 第14回 実用英語技能検定面接試験練習(1)
 - 第15回 実用英語技能検定面接試験練習(2)
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業時間外の学習として、毎週次の3つの課題に取り組んでください。

1. テキストの指定範囲の語句調べ(意味・発音)(30分)
2. 語彙ならびに例文のスピーキングテストのための口頭練習(30分)
3. 文法確認テストのための復習(30分)

【成績の評価】

授業時間外の学習10%、授業への取り組み(小テストを含む)30%、定期試験60%の3項目を総合して評価します。小テストはその都度評価し、解説等のフィードバックを行います。
なお、30分以上の遅刻は欠席として扱い、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

水島孝司、Roger Pattimore 『Everyday English Grammar』(南雲堂、2007年)

【参考文献】

英和辞典を必ず持参してください(電子辞書可)。

科目名： <UCE201> 英語 【発あ】
担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

英文速読の方法の一つとして、英文を構造でとらえ、その論理的展開をつかむという練習を行うことを第一の目的とします。全体の構造を意識しながら英文を読む技術を身に付けるために、英語の4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」のバランスを意識しながら、テキストに載っているまとまった内容の英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、自分の意見や感想を英語で発表したり書いたりします。教育を含めて様々な社会問題を扱った英文の内容に合わせて、子どもの教育・保育に係る諸問題を提起し、問題解決を図ろうとする姿勢を養います。

受講生は、授業中の言語活動に積極的に参加するために、テキストの予習・復習を欠かさず、継続的に学ぶ姿勢が求められます。

毎時間、英和辞典（電子辞書も可）を使用しますので、必ず持参してください。

【到達目標】

- ・まとまったかなり長い英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、概要を伝えることができる。
- ・自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。

【授業計画】

| | |
|------|--|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 1 America should be the first country to sign the Kyoto Protocol |
| 第3回 | 1 Would summer time suit Japan? |
| 第4回 | 2 Why is the one hundred yen shop so successful? |
| 第5回 | 2 Internet boom in the devastated city of Kabul |
| 第6回 | 3 Increasing Obesity in Mexico |
| 第7回 | 3 Increasing Anti-Semitism in France |
| 第8回 | 4 Language switching is not good for children |
| 第9回 | 4 Brain scans show racial bias |
| 第10回 | 5 Can a fetus be the victim of a crime? |
| 第11回 | 5 Turkey's Membership in the EU |
| 第12回 | 6 The Medical Divide |
| 第13回 | 6 Work Sharing and Job Sharing |
| 第14回 | 7 Political Systems |
| 第15回 | 7 The inner conflict of 'bushi' (warrior) society |
| 定期試験 | |

【授業時間外の学習】

毎時間、次の課題を課します。
テキストの予習（1時間）
習った内容の復習（30分）

【成績の評価】

「授業への関心・意欲・態度」10%、「授業時間外に課す課題」10%、「小テスト」20%、「定期試験」60%の4項目を総合的に評価します。小テスト、授業時間外に課す課題及び定期試験については、その都度評価及びフィードバックを行います。

なお、30分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

Outlook on Society Skills for Better Reading
（石谷由美子、エマ・アンドルーズ著、南雲堂、2019）

【参考文献】

なし

科目名： <UCE201> 英語 【発い】
担当教員： 井上 浩巳(INOUE Hiromi)

【授業の紹介】

本講義は、レストランやホテル、コンビニでの接客から街角での道案内に至るまで、日常生活で外国人と接する状況を想定し、様々な場面で必要とされる表現を習得し、スムーズにコミュニケーションをはかれるようになることを目標とした授業です。特に、リスニング力とスピーキング力の向上に焦点をあて、数多くのペアワークやグループワークを行うため、自ら積極的に活動に取り組むよう心がけてください。また、あいさつや指示、質問などは英語で行い、受講生もできる限り英語で受け答えすることで、簡単な指示を理解したり、自分の考えを表現したりできることを目標とします。

さらに、授業の後半には実用英語技能検定の過去問題にも取り組み、準2級から3級の合格を目指します。

【到達目標】

1. 英語を用いて積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢を身に付けることができる。
2. 日常生活で必要とされる実用性の高い英語表現を習得し、実際に活用することができる。
3. 外国に興味を持ち、異文化への理解を深めることができる。
4. 英語を通して実用英語技能検定準2級から3級に合格することができる。

【授業計画】

| | |
|------|-----------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | Unit 1 ファーストフード店での注文対応(1) |
| 第3回 | Unit 1 ファーストフード店での注文対応(2) |
| 第4回 | Unit 2 レストランでの来客対応(1) |
| 第5回 | Unit 2 レストランでの来客対応(2) |
| 第6回 | Unit 3 レストランでの接客サービス(1) |
| 第7回 | Unit 3 レストランでの接客サービス(2) |
| 第8回 | Unit 4 コンビニやスーパーでの接客サービス(1) |
| 第9回 | Unit 4 コンビニやスーパーでの接客サービス(2) |
| 第10回 | Unit 5 買い物や飲食の会計(1) |
| 第11回 | Unit 5 買い物や飲食の会計(2) |
| 第12回 | Unit 6 商品やサービスへの苦情対応(1) |
| 第13回 | Unit 6 商品やサービスへの苦情対応(2) |
| 第14回 | 実用英語技能検定模擬試験とその解説(1) |
| 第15回 | 実用英語技能検定模擬試験とその解説(2) |

定期試験

【授業時間外の学習】

授業時間外の学習として、毎週次の3つの課題に取り組んでください。

1. Warm-upとDialogueのスピーキング練習(30分)
2. テキストの重要表現の書き取り(30分)
3. 次回の小テストに向けた指定する範囲の語句や文法項目の復習(1時間)

【成績の評価】

授業時間外の課題10%、授業への取り組み(小テストを含む)30%、定期試験60%の3項目を総合して評価します。小テストはその都度評価し、解説等のフィードバックを行います。
なお、30分以上の遅刻は欠席として扱い、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

工藤多恵 『You're Welcome!』(センゲージラーニング、2016年)
プリントを随時配布しますので、ファイルに綴じて下さい。

【参考文献】

英和辞典か英英辞典を持参してください(電子辞書可)。

科目名： <UCE201> 英語 【発う】

担当教員： パーキンス ガレス エドワード(Perkins Gareth Edwads)

【授業の紹介】

This is a course based around developing your English speaking, writing and reading skills. The course will involve a lot of group work, class discussions and projects.

【到達目標】

The goal of this course is to build confidence in the students to use English in a variety of situations.

The course will involve writing, speaking and a great deal of group work.

By the end of the course, the students should not feel worried or scared about using English.

【授業計画】

15 x 90 minutes classes.

Week 1: introduction to course and textbook.

Week 2: self introductions

week 3: hobbies and interests

week 4: prepositions of place

Week 5: explaining a simple task

week 6: adjectives in simple sentences

week 7: mid term exam

week 8: Simple past tense

week 9: Past perfect tense

Week 10: mixed tenses to explain recent experiences

week 11: giving recommendations

week 12: writing a simple review

week 13: writing a simple travel guide

week 14: conversation strategies

week 15 open and closed questions

week 16: final exam

【授業時間外の学習】

Weekly homework: 30 - 60 minutes. Occasional reports and projects.

【成績の評価】

Homework will be checked weekly, and Students will receive feedback on their progress during classes.

In Class Effort (taking notes, participating in class activities and showing a positive attitude

towards lessons): 30%

Midterm test: 20%

Homework: 20%

Final test: 30%

【使用テキスト】

Smart Choice, Third Edition by Ken Wilson

Published by Oxford University Press

(3,708 yen)

ISBN:978-0194602648

【参考文献】

A good self-study site: <https://breakingnewsenglish.com/>

科目名： <UCE202> 英語 【発あ】
担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro)

【授業の紹介】

英語に引き続き、英文速読の方法の一つとして、英文を構造でとらえ、その論理的展開をつかむという練習を行うことを第一の目的とします。全体の構造を意識しながら英文を読む技術を身に付けるために、英語の4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」のバランスを意識しながら、テキストに載っているまとまった内容の英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、自分の意見や感想を英語で発表したり書いたりします。教育を含めて様々な社会問題を扱った英文の内容に合わせて、子どもの教育・保育に係る諸問題を提起し、問題解決を図ろうとする姿勢を養います。

受講生は、授業中の言語活動に積極的に参加するために、テキストの予習・復習を欠かさず、継続的に学ぶ姿勢が求められます。

毎時間、英和辞典（電子辞書も可）を使用しますので、必ず持参してください。

【到達目標】

- ・まとまったかなり長い英文を聴いたり読んだりして内容を理解するとともに、概要を伝えることができる。
- ・自分の意見や感想を英語で発表したり、書いたりすることができる。

【授業計画】

| | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 8 History of the Calendar |
| 第3回 | 8 Chocolate War |
| 第4回 | 9 Why Finland leads the IT race |
| 第5回 | 9 Einstein and the Atomic Bomb |
| 第6回 | 10 Critical Reading |
| 第7回 | 10 The Bubble Economy |
| 第8回 | 11 Von Wieser's Law |
| 第9回 | 11 The Prisoner's Dilemma |
| 第10回 | 12 Outsourcing |
| 第11回 | 12 Pay-off |
| 第12回 | 13 Unhappy without war? |
| 第13回 | 13 Food imports make Japan dependent on other countries |
| 第14回 | Speech by Steve Jobs 1 |
| 第15回 | Speech by Steve Jobs 2 |
| 定期試験 | |

【授業時間外の学習】

毎時間、次の課題を課します。
テキストの予習（1時間）
習った内容の復習（30分）

【成績の評価】

「授業への関心・意欲・態度」10%、「授業時間外に課す課題」10%、「小テスト」20%、「定期試験」60%の4項目を総合的に評価します。小テスト、授業時間外に課す課題及び定期試験については、その都度評価及びフィードバックを行います。

なお、30分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

Outlook on Society Skills for Better Reading
（石谷由美子、エマ・アンドルーズ著、南雲堂、2019）

【参考文献】

なし

科目名： <UCE202> 英語 【発い】
担当教員： 井上 浩巳(INOUE Hiromi)

【授業の紹介】

本講義は、前期「英語」に引き続き、レストランやホテル、コンビニでの接客から街角での道案内に至るまで、日常生活で外国人と接する状況を想定し、様々な場面で必要とされる表現を習得し、スムーズにコミュニケーションをはかれるようになることを目標としています。特に、リスニング力とスピーキング力の向上に焦点をあて、数多くのペアワークやグループワークを行うため、自ら積極的に活動に取り組むよう心がけてください。

また、あいさつや指示、質問などは英語で行い、受講生もできる限り英語で受け答えすることで、簡単な指示を理解したり、自分の考えを表現したりできることを目標とします。

さらに、授業の後半には実用英語技能検定の過去問題にも取り組み、準2級から3級の合格を目指します。

【到達目標】

1. 英語を用いて積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢を身に付けることができる。
2. 日常生活で必要とされる実用性の高い英語表現を習得し、実際に活用することができる。
3. 外国に興味を持ち、異文化への理解を深めることができる。
4. 英語を通して実用英語技能検定準2級から3級に合格することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・前期の振り返り
 - 第2回 Unit 7 ホテルや旅館での宿泊客受付(1)
 - 第3回 Unit 7 ホテルや旅館での宿泊客受付(2)
 - 第4回 Unit 8 商業施設でのサービス提供や近隣情報の案内(1)
 - 第5回 Unit 8 商業施設でのサービス提供や近隣情報の案内(2)
 - 第6回 Unit 9 旅行者への観光案内(1)
 - 第7回 Unit 9 旅行者への観光案内(2)
 - 第8回 Unit 10 道案内(1)
 - 第9回 Unit 10 道案内(2)
 - 第10回 Unit 11 交通機関の利用案内や観光施設の情報提供(1)
 - 第11回 Unit 11 交通機関の利用案内や観光施設の情報提供(2)
 - 第12回 実用英語技能検定模擬試験とその解説(1)
 - 第13回 実用英語技能検定模擬試験とその解説(2)
 - 第14回 Unit 12 券売機や電化製品の使用方法の説明(1)
 - 第15回 Unit 12 券売機や電化製品の使用方法の説明(2)
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業時間外の学習として、毎週次の3つの課題に取り組んでください。

1. Warm-upとDialogueのスピーキング練習(30分)
2. テキストの重要表現の書き取り(30分)
3. 次回の小テストに向けた指定する範囲の語句や文法項目の復習(1時間)

【成績の評価】

授業時間外の課題10%、授業への取り組み(小テストを含む)30%、定期試験60%の3項目を総合して評価します。小テストはその都度評価し、解説等のフィードバックを行います。

なお、30分以上の遅刻は欠席として扱い、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

工藤多恵 『You're Welcome!』(センゲージラーニング、2016年)
プリントを随時配布しますので、ファイルに綴じてください。

【参考文献】

英和辞典か英英辞典を持参してください(電子辞書可)。

科目名： <UCE202> 英語 【発う】

担当教員： パーキンス ガレス エドワード(Perkins Gareth Edwads)

【授業の紹介】

Students will continue to build their English speaking, reading and writing skills through workshops, group discussions, projects and reports.

【到達目標】

Students should be confident enough to give a short speech in English, as well as participate in simple conversations on subjects that interest them. They should feel very comfortable travelling abroad in English speaking countries.

【授業計画】

15 x 90 minutes classes.

Week 1: Catching up and discussing recent activities

week 2: Shopping English

week 3: restaurant English

week 4: discussing another person.

week 5: expressing surprise and using follow-up questions

week 6: describing traditions

week 7: midterm exam

week 8: recipes and instructions

week 9: the environment

week 10: movie reviews

week 11: basic narrative writing skills

week 12: introduction to past continuous

week 13: past continuous practice to describe recent interests

week 14: phone English (casual and formal)

week 15: semester review

week 16: final exam

【授業時間外の学習】

Between 30 - 60 minutes of homework per-week, as well as occasional reports and projects.

【成績の評価】

Homework and notes will be checked on a weekly basis in class.

In Class Effort (taking notes, participating in class and having a positive attitude towards studying): 30%

Midterm test: 20%

Homework: 20%

Final test: 30%

【使用テキスト】

Smart Choice, Third Edition by Ken Wilson

publisher: Oxford University Press

Price: 3708 Yen

ISBN: 978-0194602648

【参考文献】

a good self study site: <https://breakingnewsenglish.com/>

科目名： <UCP101> プラクティカル・イングリッシュ

担当教員： パーキンス ガレス エドワード(Perkins Gareth Edwads)

【授業の紹介】

This is a basic introduction to conversational and travel English. The aim of the course is to build confidence in the students to use English. The course will involve writing, speaking and a great deal of group work.

【到達目標】

Students will have a much stronger understanding of grammar and a larger English vocabulary. They will feel confident when doing a number of things abroad, such as checking into hotels, eating at restaurants and communicating with English speakers in general.

【授業計画】

15 x 90 min classes.

Week 1: introduction to course and textbook.

Week 2: introducing yourself and another person

week 3: hobbies and interests

Week 4: simple comparatives

Week 5: starting and ending conversations.

week 6: checking meaning and confirming plans

week 7: midterm exam

week 8: instructing someone one how to complete a simple task

week 9: giving directions

week 10: visiting a doctor and describing symptoms

week 11: adjectives for taste, smell and texture

week 12: basic conjunction practice (and, so, but -etc)

week 13: invitations

week 14: excuses and apologies

week 15: semester review

week 16: final exam

【授業時間外の学習】

students will do weekly homework between 30 mins - 60 mins. Sometimes students will have to complete reports.

【成績の評価】

Homework will be checked weekly, and students will receive feedback on their progress during classes.

In Class Effort (taking notes, participating in class activities and showing a positive attitude

towards lessons): 30%

Midterm test: 20%

Homework: 20%

Final test: 30%

【使用テキスト】

English Firsthand: Access
publisher: Pearson

ISBN: 978-9813130203

(Price: 2926 Yen)

【参考文献】

News articles at different levels, in English for self study. <https://breakingnewsenglish.com/>

科目名： <UCP102> プラクティカル・イングリッシュ

担当教員： パーキンス ガレス エドワード(Perkins Gareth Edwads)

【授業の紹介】

Continuing from Practical English 1, students will develop their speaking and writing skills. We will begin using more complex grammar and introducing a lot more vocabulary. Students will practice in a variety of situations, such as group work, presentations and report writing.

【到達目標】

The goal of this course is to make the students confident English speakers. They should feel comfortable traveling, giving short speeches and having simple conversations in English.

【授業計画】

15 x 90 minutes classes.

Week 1: past simple tense to describe recent activities

week 2: introduction to present continuous tense

week 4: introduction to present perfect continuous tense

week 5: Using continuous tense to describe recent national/global events

Week 6: review of recent grammar and exam preparation

week 7: midterm test

week 9: clothes shopping, sizes and styles

week 10: ordering from a menu for yourself and another person; asking about food

week 11: giving directions to a place

week 12: writing a complaint about poor service or a broken item

week 13: giving suggestions and discussing strategies

week 14: discussing and comparing the cultures of other countries

week 15: semester review

week 16 final test

【授業時間外の学習】

Weekly homework and reports. between 30 - 60 minutes of homework per week.

【成績の評価】

Homework, midterm tests and notes will be discussed during class hours with individual students.

in class effort (taking notes in class, participating in lessons and displaying a positive attitude towards study): 30%

midterm test: 20%

Homework: 20%

Final test: 30%

【使用テキスト】

English Firsthand: access

Publisher: Pearson

Price: 2,926 Yen

ISBN: 978-9813130203

【参考文献】

a good self study site: <https://breakingnewsenglish.com/>

科目名： <UCP201> プラクティカル・イングリッシュ
担当教員： ウィリアムズ R.T.(WILLIAMS R.T.)

【授業の紹介】

This class will be a basic conversation class in English. It will closely follow the syllabus of the book, and will use an active learning model that will engage students in communication in each and every class. Students will be expected to use basic English and communicate with each other and the instructor. Classes will begin with a review of the previous week's activities and then move on to new material. According to the diploma policy of Takamatsu University, students will be able to develop a keen understanding of the global society and will be able to commit themselves to become contributing members of the local community.

【到達目標】

1. Students will learn how to use English in daily situations.
2. Students will be able to increase their competence in daily conversational English
3. Students will learn about the differences in English used in different English-speaking countries.
4. Students will learn about the connection between English and culture

【授業計画】

第1回Orientation
第2回Introductions
第3回Unit 9 Getting help with minor medical problems
第4回Unit 9 Going to a pharmacy
第5回quiz Followed by introduction of next phase
第6回Unit 10 Asking about where people are from
第7回Unit 10 Talking about your own hometown
第8回Writing Day. Students will choose from various topics to write about
第9回Unit 11 Going to an information center
第10回Unit 11 Asking how to get somewhere
第11回Quiz Followed by introduction of next phase
第12回Unit 12 Talking about the places you visited
第13回Unit 12 Planning to visit new places
第14回 Talking about your plans for the vacation
第15回Review of the course for the final quiz
Final exam

【授業時間外の学習】

Students will be given short topics to prepare for the next week, based on the study material for that week. This will be used in the review of the previous weeks materials at the beginning of the next class. Students will spend at least 15 hours outside of class studying over the course of the term

【成績の評価】

25% of the students' grades will be based on participation and homework from the previous week. The other 75% of the course will be based on the first two quizzes 25% each and the final quiz 50%. Students will be evaluated when they finish their exam, and they will be given the opportunity to discuss the evaluation of their work after the test as needed, with the instructor.

【使用テキスト】

Passport 1 Second Edition
by Angela Buckingham, Lewis Lansford
9780194718165 (10-digit ISBN: 0194718166)
Oxford University Press

【参考文献】

Not applicable

科目名： <UCP202> プラクティカル・イングリッシュ
担当教員： ウィリアムズ R.T.(WILLIAMS R.T.)

【授業の紹介】

This class will be a basic conversation class in English. It will closely follow the syllabus of the book, and will use an active learning model that will engage students in communication in each and every class. Students will be expected to use basic English and communicate with each other and the instructor. Classes will begin with a review of the previous week's activities and then move on to new material. According to the diploma policy of Takamatsu University, students will be able to develop a keen understanding of the global society and will be able to commit themselves to become contributing members of the local community.

【到達目標】

1. Students will learn how to use English in daily situations.
2. Students will be able to increase their competence in daily conversational English
3. Students will learn about the differences in English used in different English-speaking countries.
4. Students will learn about the connection between English and culture

【授業計画】

第1回Orientation
第2回Unit 13 Talking about interests
第3回Unit 13 Discussing sports, music and food
第4回Quiz Followed by introduction of next phase
第5回Unit 14 Making arrangements to meet someone
第6回Unit 14 Places and times to meet
第7回Writing Day
第8回Unit 15 Buying souvenirs from a street market
第9回Unit 15 Shopping in a store
第10回Quiz Followed by introduction of next phase
第11回Unit 16 Introduction to the post office
第12回Unit 16 Sending letters and packages
第13回Making conversations. Speaking quiz
第14回 Talking about your plans for the future
第15回Review of the course for the final quiz
Final exam

【授業時間外の学習】

Students will be given short topics to prepare for the next week, based on the study material for that week. This will be used in the review of the previous weeks materials at the beginning of the next class. Students will spend at least 15 hours outside of class studying over the course of the term

【成績の評価】

25% of the students' grades will be based on participation and homework from the previous week. The other 75% of the course will be based on the first two quizzes 25% each and the final quiz 50%. Students will be evaluated when they finish their exam, and they will be given the opportunity to discuss the evaluation of their work after the test as needed, with the instructor.

【使用テキスト】

Passport 1 Second Edition
by Angela Buckingham, Lewis Lansford
9780194718165 (10-digit ISBN: 0194718166)
Oxford University Press

【参考文献】

Not applicable

科目名： <UCF101> フランス語

担当教員： エラリー ジャンクリストフ(Jean-Christophe Helary)

【授業の紹介】

「フランス語が難しければ、フランス人でも話せません！」という出発点から始まります。赤ちゃんは周りの音から少しずつ意味が取れるようになり、自分から表現できるようになります。このフランス語に参加される皆さんは赤ちゃんではありませんが、同じやり方で少しずつフランス語を自分のものにしていきます。ポイントは実際に話される内容を生かせることです。つまり、テキストの登場人物がやっていることを学んでいくのではなく、自分について、自分がやっていることについて、自分がやりたいことについて、そしてそれぞれについて仲間に尋ねる、という覚え方です。

15回の授業を2つのプロジェクトに分けます。それをさらに3つのテーマに分けて、各テーマに対して2つの授業をします。1つ目の授業は先生の話しているモデルに従った簡単な会話を中心に（話す力）、そして、その会話について簡単な文書を読みます（読む力）。2つ目の授業は身についた内容について簡単な作文をし（書く力）、それを発表して、会話に戻します（一つの「聞く、話す、読む、書く」循環が完成できました）。テーマを通じて、語彙や使える表現が少しずつ増やしていきます。プロジェクトごとにまとめ（復習）の授業があります。最後の授業は次のステップにつなげる内容を導入します。

高松大学経営学部の「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）では、「多様な立場の人々との的確なコミュニケーションを図る」ための能力の養成を掲げ、また発達科学部のディプロマ・ポリシーでは、「子育て支援社会を支える豊かな心と創造力」の育成を掲げています。この授業では、こうした能力の向上をめざします。

【到達目標】

実際にコミュニケーションを図れるよう、「聞く、話す、読む、書く」の循環を展開して総合的なフランス語能力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 (初級) 自分について、話す(読む)
 - 第2回 (初級) 自分について、書く(発表)
 - 第3回 (初級) 家族、親戚について、話す(読む)
 - 第4回 (初級) 家族、親戚について、書く(発表)
 - 第5回 (初級) 友達、先生、バイト先の仲間について、話す(読む)
 - 第6回 (初級) 友達、先生、バイト先の仲間について、書く(発表)
 - 第7回 (初級) テーマの復習
 - 第8回 (中級) 自分について、話す(読む)
 - 第9回 (中級) 自分について、書く(発表)
 - 第10回 (中級) 家族、親戚について、話す(読む)
 - 第11回 (中級) 家族、親戚について、書く(発表)
 - 第12回 (中級) 友達、先生、バイト先の仲間について、話す(読む)
 - 第13回 (中級) 友達、先生、バイト先の仲間について、書く(発表)
 - 第14回 (中級) テーマの復習
 - 第15回 (初級) 日常生活について、話す(読む)
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通して、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。（必要な時間は1日15分程度）

【成績の評価】

| | | |
|---------------|-----|----------------|
| 授業中の積極的な参加の評価 | 80% | 総合合格点は60点以上です。 |
| テーマの復習 | 20% | |

【使用テキスト】

必要な場合はプリント

【参考文献】

<https://ja.wikipedia.org/wiki/神経言語学的アプローチ>

科目名： <UCF102> フランス語

担当教員： エラリー ジャンクリストフ(Jean-Christophe Helary)

【授業の紹介】

フランス語 を参照。

フランス語 は、同じ方法で、別のプロジェクトを通じてフランス語能力を高めていきます。フランス語検定5級を受けたい生徒に対して独学で受けられるようにヒントを提示します。

高松大学経営学部の「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」では、「多様な立場の人々との確かなコミュニケーションを図る」ための能力の養成を掲げ、また発達科学部のディプロマ・ポリシーでは、「子育て支援社会を支える豊かな心と創造力」の育成を掲げています。この授業では、こうした能力の向上をめざします。

【到達目標】

実際にコミュニケーションを図れるよう、「聞く、話す、読む、書く」の循環を展開して総合的なフランス語能力を身につける。独学でフランス語検定5級を受けられる力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 (初級) 日常生活について、話す(読む)
 - 第2回 (初級) 日常生活について、書く(発表)
 - 第3回 (中級1) 日常生活について、話す(読む)
 - 第4回 (中級1) 日常生活について、書く(発表)
 - 第5回 (中級2) 日常生活について、話す(読む)
 - 第6回 (中級2) 日常生活について、書く(発表)
 - 第7回 テーマの復習
 - 第8回 (初級) 最近あったことについて、話す(読む)
 - 第9回 (初級) 最近あったことについて、書く(発表)
 - 第10回 (初級) これからあることについて、話す(読む)
 - 第11回 (初級) これからあることについて、書く(発表)
 - 第12回 (中級) 最近あったこと、これからあることについて、話す(読む)
 - 第13回 (中級) 最近あったこと、これからあることについて、書く(発表)
 - 第14回 テーマの復習
 - 第15回 (初級) 自分の好みとその理由について、話す(読む)
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。(必要な時間は1日15分程度)

【成績の評価】

| | | |
|---------------|-----|----------------|
| 授業中の積極的な参加の評価 | 80% | 総合合格点は60点以上です。 |
| テーマの復習 | 20% | |

【使用テキスト】

必要な場合はプリント

【参考文献】

<https://ja.wikipedia.org/wiki/神経言語学的アプローチ>

科目名： <UCF201> フランス語

担当教員： エラリー ジャンクリストフ(Jean-Christophe Helary)

【授業の紹介】

フランス語 を参照。

フランス語 は、同じ方法で、別のプロジェクトを通じてフランス語能力を高めていきます。フランス語検定4級を受けたい生徒に対して独学で受けられるようにヒントを提示します。

高松大学経営学部の「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」では、「多様な立場の人々との的確なコミュニケーションを図る」ための能力の養成を掲げ、また発達科学部のディプロマ・ポリシーでは、「子育て支援社会を支える豊かな心と創造力」の育成を掲げています。この授業では、こうした能力の向上をめざします。

【到達目標】

実際にコミュニケーションを図れるよう、「聞く、話す、読む、書く」の循環を展開して総合的なフランス語能力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 (初級) 自分の好みとその理由について、話す(読む)
 - 第2回 (初級) 自分の好みとその理由について、書く(発表)
 - 第3回 (中級1) 自分の好みとその理由について、話す(読む)
 - 第4回 (中級1) 自分の好みとその理由について、書く(発表)
 - 第5回 (中級2) 自分の好みとその理由について、話す(読む)
 - 第6回 (中級2) 自分の好みとその理由について、書く(発表)
 - 第7回 テーマの復習
 - 第8回 (初級) 自分の小さい頃について、話す(読む)
 - 第9回 (初級) 自分の小さい頃について、書く(発表)
 - 第10回 (中級1) 自分の小さい頃について、話す(読む)
 - 第11回 (中級1) 自分の小さい頃について、書く(発表)
 - 第12回 (中級2) 自分の小さい頃について、話す(読む)
 - 第13回 (中級2) 自分の小さい頃について、書く(発表)
 - 第14回 テーマの復習
 - 第15回 (初級) 人や場所の描写、話す(読む)
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。(必要な時間は1日15分程度)

【成績の評価】

| | | |
|---------------|-----|----------------|
| 授業中の積極的な参加の評価 | 80% | 総合合格点は60点以上です。 |
| テーマの復習 | 20% | |

【使用テキスト】

必要な場合はプリント

【参考文献】

<https://ja.wikipedia.org/wiki/神経言語学的アプローチ>

科目名： <UCF202> フランス語

担当教員： エラリー ジャンクリストフ(Jean-Christophe Helary)

【授業の紹介】

フランス語 を参照。

フランス語 は、同じ方法で、別のプロジェクトを通じてフランス語能力を高めていきます。フランス語検定4級を受けたい生徒に対して独学で受けられるようにヒントを提示します。

高松大学経営学部の「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」では、「多様な立場の人々との確かなコミュニケーションを図る」ための能力の養成を掲げ、また発達科学部のディプロマ・ポリシーでは、「子育て支援社会を支える豊かな心と創造力」の育成を掲げています。この授業では、こうした能力の向上をめざします。

【到達目標】

実際にコミュニケーションを図れるよう、「聞く、話す、読む、書く」の循環を展開して総合的なフランス語能力を身につける。独学でフランス語検定4級を受けられる力を身につける。

【授業計画】

第1回 (初級) 人や場所の描写、話す(読む)

第2回 (初級) 人や場所の描写、書く(発表)

第3回 (中級1) 人や場所の描写、話す(読む)

第4回 (中級1) 人や場所の描写、書く(発表)

第5回 (中級2) 人や場所の描写、話す(読む)

第6回 (中級2) 人や場所の描写、書く(発表)

第7回 テーマの復習

第8回 (初級) 自分のしたいこと、夢、計画について、話す(読む)

第9回 (初級) 自分のしたいこと、夢、計画について、書く(発表)

第10回 (中級1) 自分のしたいこと、夢、計画について、話す(読む)

第11回 (中級1) 自分のしたいこと、夢、計画について、書く(発表)

第12回 (中級2) 自分のしたいこと、夢、計画について、話す(読む)

第13回 (中級2) 自分のしたいこと、夢、計画について、書く(発表)

第14回 テーマの復習

第15回 (初級) 自信のあること、不難なことについて、話す(読む)

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

授業中の録音は可能なので、それを使って、音を忘れないように聞くことができます。スマホを使ってフランス語関連のサイトやアプリ、自動翻訳などを通じて、話したい内容や、フランスやフランス語について調べたり、それについて先生にメールで尋ねれば必ず返事がきます。(必要な時間は1日15分程度)

【成績の評価】

授業中の積極的な参加の評価

80%

テーマの復習

20%

総合合格点は60点以上です。

【使用テキスト】

必要な場合はプリント

【参考文献】

<https://ja.wikipedia.org/wiki/神経言語学的アプローチ>

科目名： <UCC101> 中国語

担当教員： 李 佳坤(Li JiaKun)

【授業の紹介】

この授業では、中国語を話し読むための発音記号（ピンイン）や中国語の基本文型を学習し、そのうえ、漢字を読み、単語を覚え、簡単な会話や挨拶を練習していきます。発音の練習は通信媒体の機能を利用して楽しく学習していきます。また、中国社会や中国文化についても紹介し、グローバルな思考を養います。

また、上記で述べた講義内容を理解することで、豊かな人間性を培い幅広い教養を養います。

【到達目標】

1. 中国語の発音記号（ピンイン）を学習することによって中国語の漢字をすべて読むことができる。
2. 中国語での挨拶や簡単な会話ができるようになる。
3. 中国語基本文型の構造が理解できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションと単母音
 - 第2回 子音 b p m f、d t n l と複合母音
 - 第3回 子音 g k h、j q x と複合母音
 - 第4回 子音、鼻音
 - 第5回 ピンインの小テスト
 - 第6回 名前の言い方
 - 第7回 簡単な挨拶
 - 第8回 「是」の使い方
 - 第9回 形容詞述語文
 - 第10回 中間テスト（ピンイン・自己紹介・形容詞述語の習得程度を考査する）
 - 第11回 「的」の使い方・指示代名詞
 - 第12回 動詞述語
 - 第13回 疑問文のタイプ
 - 第14回 数字の言い方
 - 第15回 お金の言い方
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習：次回の授業内容の新しい単語等を辞書やインターネットで調べ、ノートにまとめること。（2時間）
復習：毎回の授業内容をノートに書かせたり、文型に従って作文をさせたり、配ったワークシートを完成させたりして復習し、指定時間にチェックすること。（2時間）

【成績の評価】

会話文作成（25%）、小テスト（25%）、期末テスト（50%）
会話文作成や小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

塚本慶一監修 劉穎著 新版「1年生のコミュニケーション中国語」（白水社）

【参考文献】

『中日・日中辞典』
自編教材『ピンイン書き込み練習帳』

科目名： <UCC102> 中国語
担当教員： 李 佳坤(Li JiaKun)

【授業の紹介】

この授業では、中国語 を学習した学生を対象にさらに語彙を増やし、基本文型を学習し、それを使って会話をしたり、中国語の文章を読んだり、書いたりします。
また、上記で述べた講義内容を理解することで、豊かな人間性を培い幅広い教養を養います。

【到達目標】

1. 簡単な会話ができる。
2. 簡単な中国語を読んだり、書くことができる。

【授業計画】

- 第1回 前置詞「在」
 - 第2回 存在する動詞「有」
 - 第3回 時間の学習
 - 第4回 時間量を表す語
 - 第5回 過去形表現
 - 第6回 選択疑問文
 - 第7回 現在進行形
 - 第8回 中間テスト（第1回から第7回までの内容）
 - 第9回 「会」、「能」の使い方
 - 第10回 助動詞「可以」
 - 第11回 動詞の重ね型
 - 第12回 「是...的」の使い方
 - 第13回 過去の経験を表す表現
 - 第14回 連動型
 - 第15回 復習（単語と文型を応用して作文する）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習：次回の授業内容の新しい単語等を辞書やインターネットで調べ、ノートにまとめること。（2時間）
復習：毎回の授業内容をノートに書かせたり、文型に従って作文をさせたり、配ったワークシートを完成させたりして復習し、指定時間にチェックすること。（2時間）

【成績の評価】

作文（25%）、小テスト（25%）、期末テスト（50%）
作文や小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

塚本慶一監修 劉穎著 新版「1年生のコミュニケーション中国語」（白水社）

【参考文献】

『中日・日中辞典』
李佳坤自作初級練習教材

科目名： <UCC201> 中国語
担当教員： 李 佳坤(Li JiaKun)

【授業の紹介】

この授業は、中国語を学習した学生を対象に、さらに語彙や文型を学習し、1つの場面を決め、それにめぐる内容で話す・書く練習をします。

また、上記の述べた講義内容を理解することで、豊かな人間性を培い幅広い教養を養うという学位授与の方針に関する知識、技法を修得する。

【到達目標】

1. いくつかの日常生活場面の会話ができる。
2. 生活場面の会話内容を中国語で書くことができる。

【授業計画】

| | | |
|------|------------------------|----------------|
| 第1回 | 北京に到着する会話 | (本文と連動文) |
| 第2回 | 北京に到着する会話 | (因果関係複文と動詞句主語) |
| 第3回 | 道を尋ねる会話 | (本文と「動詞+了+動詞」) |
| 第4回 | 道を尋ねる会話 | (「就+了」と反復疑問文) |
| 第5回 | 買い物する会話 | (本文と「一点」) |
| 第6回 | 買い物する会話 | (比較の表現) |
| 第7回 | バスに乗る会話 | (本文と名詞修飾語) |
| 第8回 | バスに乗る会話 | (副詞「別」と結果補語) |
| 第9回 | 中間テスト(買物すると乗り物に乗る際の会話) | |
| 第10回 | 新しい友達と知り合う表現 | (本文と様態補語) |
| 第11回 | 新しい友達と知り合う表現 | (二つの「了」) |
| 第12回 | レストランでの表現 | (本文と主述述語) |
| 第13回 | レストランでの表現 | (「多」「請」の使い方) |
| 第14回 | 約束する会話 | (本文と伝聞の表現) |
| 第15回 | 約束する会話 | (助動詞「打算」) |

定期試験

【授業時間外の学習】

次回の授業内容の新しい単語等を辞書やインターネットで調べ、ノートにまとめること(2時間)。また、3回(計15時間)の中文の読解と作文に向けて準備することと、3回(計15時間)の中国文化に関するレポートを提出すること。

【成績の評価】

中文の読解と作文(25%)、小テスト(25%)、期末テスト(50%)
中文の読解と作文、小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

塚本慶一監修 劉穎著「2年生のコミュニケーション中国語」(白水社)

【参考文献】

『中日・日中辞典』
自編初級練習教材

科目名： <UCC202> 中国語
担当教員： 李 佳坤(Li JiaKun)

【授業の紹介】

この授業は、中国語を習得した学生を対象にします。中国へ一人旅するときに遭遇する場面を想定し、その会話の練習をします。また、その会話を文章にする練習もします。さらに、中国文化や最近の出来事などをも紹介する。

上記の述べた講義内容を理解することで、豊かな人間性を培い幅広い教養を養うという学位授与の方針に関する知識、技法を修得する。紹介します。

【到達目標】

1. 簡単な中国語の文章を読解できる。
2. 中国へ一人旅できる程度の会話ができる。

【授業計画】

- | | | |
|------|--------------------|-----------------|
| 第1回 | 友達に電話を掛ける練習 | (本文と方向補語) |
| 第2回 | 友達に電話を掛ける練習 | (使役文と兼語) |
| 第3回 | 郵便局での会話 | (本文と「把」構文) |
| 第4回 | 郵便局での会話 | (仮定複文と方向補語) |
| 第5回 | 病院での会話 | (本文と「一...就...」) |
| 第6回 | 病院での会話 | (助動詞「要」) |
| 第7回 | 家庭訪問の会話 | (本文と助動詞「用」) |
| 第8回 | 家庭訪問の会話 | (進行形) |
| 第9回 | 復習(4課の単語や文型を復習する) | |
| 第10回 | お礼を言う時の会話 | (本文と近未来表現) |
| 第11回 | お礼を言う時の会話 | (変化を表す「了」) |
| 第12回 | パーティーを開く | (本文と可能補語) |
| 第13回 | パーティーを開く | (有的...有的...) |
| 第14回 | 小テスト | (近未来と可能補語を中心に) |
| 第15回 | 復習(もう一回各課の練習問題をする) | |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

次回の授業内容の新しい単語等を辞書やインターネットで調べ、ノートにまとめること(2時間)。また、3回(計15時間)の中文の読解と作文に向けて準備することと、3回(計15時間)の中国文化に関するレポートを提出すること。

【成績の評価】

中文の読解と作文・レポート(25%)、小テスト(25%)、期末テスト(50%)
中文の読解と作文・レポートや小テストについては、その都度、結果を授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

塚本慶一監修 劉穎著「2年生のコミュニケーション中国語」(白水社)

【参考文献】

『中日・日中辞典』
自編教材『中国語会話 初級から中級へ』

科目名： <UCJ101> 日本語

担当教員： 稲井 富赴代(INAI Tokiyo)

【授業の紹介】

本講義は、外国人留学生在が大学で学ぶために必要な日本語能力を、中級レベルから上級レベルに引き上げることを目的としています。日本人学生は受講することができません。誰もが知っているグローバル企業の新商品の開発、世界市場でのビジネス戦略、企業活動を支える理念などの事例（ケース）を、日本語で読み、考え、話し合うことで、経営学を専攻する留學生に必要なビジネス用語、経済用語を学習しながら、日本語能力を伸ばしていきます。さらに、コミュニケーション能力では、テーマに沿ったディスカッションやビジネスの課題（どんな新商品を発売するか、売り上げをさらに上げるにはどうすればいいか、など）をグループで話し合うグループワークを通して、コミュニケーション能力を高めます。これにより、学位授与の方針のうち、「豊かな人間性や主体的に生きる力」「課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」の修得をめざします。

【到達目標】

ビジネス分野の文章を理解できる。
上級レベルの文法や語彙・漢字が使える。
ビジネス用語、経済用語が使える。
課題に沿ってプレゼンテーションやグループディスカッションができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

第2回～第6回 第1課「日本コカ・コーラ」
ステージ1：会話・資料の読み取り・速読
ステージ2：本文：「コカ・コーラの日本でのローカライゼーション」
文法：Aと同時にB / ～に応じて / ～において / ～とともに / ～おそれがある知っておくべきビジネス用語、内容確認
ステージ3：語彙練習・文法練習・表現練習
ステージ4：ジグソータスク、ディスカッション、意思決定タスク

第7回～第11回

第2課「任天堂」
ステージ1：会話・資料の読み取り・速読
ステージ2：本文：「任天堂のゲーム産業への挑戦」
文法：言うまでもない / ～ことにより / ～に基づいて / ～一方（で）知っておくべきビジネス用語、内容確認
ステージ3：語彙練習・文法練習・表現練習
ステージ4：ジグソータスク、ディスカッション、意思決定タスク

第12回～第15回

第3課「コーチ」
ステージ1：会話・資料の読み取り・速読
ステージ2：本文：「コーチのアクセシブル・ラグジュアリー・ブランドとしての成功と日本進出」
文法：～にほかならない / ～に対して / ～つつ / ～ことになる / ～をはじめ知っておくべきビジネス用語、内容確認
ステージ3：語彙練習・文法練習・表現練習
ステージ4：ジグソータスク、ディスカッション、問題解決タスク

定期試験

【授業時間外の学習】

次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってもらうこと。（1時間）また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（計15時間）
オフィスアワーを設定しているので、掲示板等で日時を確認のうえ、質問にすること。

【成績の評価】

レポート・授業中の発表（25%）、小テスト（25%）、定期試験（50%）
レポート・小テストについては、添削・採点して次回の授業時に返却する。授業中の発表については、授業時に講評しフィードバックを行う。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。
遅刻3回で欠席1回とみなす。

【使用テキスト】

『中級から伸ばす ビジネスケースで学ぶ日本語』高見智子著・筒井通雄監修、The Japan Times、2014年、2,400円+税

【参考文献】

『改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型500』友松悦子・宮本淳・和栗雅子著、アルク、2,500円+税

科目名： <UCJ102> 日本語

担当教員： 稲井 富赴代(INAI Tokiyo)

【授業の紹介】

本講義は、「日本語」に引き続き、外国人留学生が大学で学ぶために必要な日本語能力を、中級レベルから上級レベルに引き上げることを目的としています。日本人学生は受講することができません。誰もが知っているグローバル企業の新商品の開発、世界市場でのビジネス戦略、企業活動を支える理念などの事例(ケース)を、日本語で読み、考え、話し合うことで、経営学を専攻する留学生に必要なビジネス用語、経済用語を学習しながら、日本語能力を伸ばしていきます。さらに、コミュニケーションでは、テーマに沿ったディスカッションやビジネスの課題(どんな新商品を発売するか、売り上げをさらに上げるにはどうすればいいか、など)をグループで話し合うグループワークを通して、コミュニケーション能力を高めます。これにより、学位授与の方針のうち、「豊かな人間性や主体的に生きる力」「課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」の修得をめざします。

【到達目標】

ビジネス分野の文章を理解できる。
上級レベルの文法や語彙・漢字が使える。
ビジネス用語、経済用語が使える。
課題に沿ってプレゼンテーションやグループディスカッションができる。

【授業計画】

第1回～第3回 第3課「コーチ」
ステージ1：会話・資料の読み取り・速読
ステージ2：本文：「コーチのアクセシブル・ラグジュアリー・ブランドとしての成功と日本進出」
文法：～にほかならない／～に対して／～つつ／～ことになる／～をはじめ知っておくべきビジネス用語、内容確認
ステージ3：語彙練習・文法練習・表現練習
ステージ4：ジグソータスク、ディスカッション、問題解決タスク
第4回～第9回 第4課「ウォルマート」
ステージ1：会話・資料の読み取り・速読
ステージ2：本文：「ウォルマートの基本戦略と日本進出」
文法：～なくしては／～ことで／～ばこそ／ものの／必ずしも～ない知っておくべきビジネス用語、内容確認
ステージ3：語彙練習・文法練習・表現練習
ステージ4：ジグソータスク、ディスカッション、意思決定タスク
第10回～第15回 第5課「トヨタ」
ステージ1：会話・資料の読み取り・速読
ステージ2：本文：「トヨタのモノづくりと人づくり その理念とグローバル展開」
文法：単に／～そのもの／～際／～にとどまらず／ならびに知っておくべきビジネス用語、内容確認
ステージ3：語彙練習・文法練習・表現練習
ステージ4：ジグソータスク、ディスカッション、意思決定タスク

定期試験

【授業時間外の学習】

次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってくること。(1時間)また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。

(計15時間)

オフィスアワーを設定しているので、掲示板等で日時を確認のうえ、質問にくること。

【成績の評価】

レポート・授業中の発表(25%)、小テスト(25%)、定期試験(50%)
レポート・小テストについては、添削・採点して次回の授業時に返却する。授業中の発表については、授業時に講評しフィードバックを行う。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。
遅刻3回で欠席1回とみなす。

【使用テキスト】

『中級から伸ばす ビジネスケースで学ぶ日本語』高見智子著・筒井通雄監修、The Japan Times、2014年、2,400円+税

【参考文献】

『改訂版 どんなときどう使う 日本語表現文型500』友松悦子・宮本淳・和栗雅子著、アルク、2,500円+税

科目名： <UCJ201> 日本語

担当教員： 稲井 富赴代(INAI Tokiyo)

【授業の紹介】

本講義は、外国人留学生在が大学で学ぶために必要な日本語能力を、中級レベルから上級レベルに引き上げることが目的としています。日本人学生は受講することができません。社会科学系の学問領域で最近取り上げられている話題をテーマとした読み物を使って、留学生在が専門科目を学習するうえで必要とされる、長文を通読できる読解能力、レポート作成能力を伸ばしていきます。さらに、日本社会の現状を反映したテーマについて、プレゼンテーションやディスカッション練習を行うことで、コミュニケーション能力を高めます。これにより、学位授与の方針のうち、「豊かな人間性や主体的に生きる力」「課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」の修得をめざします。

【到達目標】

専門書の読解能力が身につく。
レポート作成能力が身につく。
上級レベルの語彙・文法が使える。
社会科学分野に関するプレゼンテーションやディスカッションができる。

【授業計画】

| | |
|------|------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 第3章「航空業界の苦戦」 |
| 第3回 | 文法：～（た）あげく／～に基づいて／～ものと思われる／～に沿って |
| 第4回 | 第6章「中国『一人っ子政策』の廃止へ 経済政策に向けて」 |
| 第5回 | 文法：～にわたって／～ということだ／～かねない／～に相違ない |
| 第6回 | 第7章「グローバル人材の育成」 |
| 第7回 | 文法：～ことにほかならない／～ながらに（して）／～得る／～やら～やら |
| 第8回 | 第8章「進化する家電業界の今」 |
| 第9回 | 文法：～次第／～しかない／～わけだ／～をめぐって |
| 第10回 | 第9章「地方創生をかけたビジネス」 |
| 第11回 | レポート：地方創生ビジネス 「いんどり」の事例 |
| 第12回 | 文法：～を余儀なくされる／～かたわら／～とは／～はともかく（として） |
| 第13回 | 第10章「コンビニの社会インフラ化」 |
| 第14回 | レポート：震災を契機に変わるコンビニの役割 |
| 第15回 | 文法：～のみならず／～にとって／～として／～にこたえて |
| 定期試験 | |

【授業時間外の学習】

次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってもらうこと。（1時間）また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。（計15時間）

オフィスアワーを設定しているので、掲示板等で日時を確認のうえ、質問にすること。

【成績の評価】

レポート・授業中の発表（25%）、小テスト（25%）、定期試験（50%）
レポート・小テストについては、添削・採点して次回の授業時に返却する。授業中の発表については、授業時に講評しフィードバックを行う。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。
遅刻3回で欠席1回とみなす。

【使用テキスト】

『社会学を学ぶ留學生のための日本語』山口隆正・立川和美・秋山智美著、創成社、2017年、2,300円＋税

【参考文献】

『改訂版 どうなときどう使う 日本語表現文型500』友松悦子・宮本淳・和栗雅子著、アルク、2,500円＋税

科目名： <UCJ202> 日本語

担当教員： 稲井 富赴代(INAI Tokiyo)

【授業の紹介】

本講義は、「日本語」に引き続き、外国人留学生が大学で学ぶために必要な日本語能力を、中級レベルから上級レベルに引き上げることを目的としています。日本人学生は受講することができません。社会科学系の学問領域で最近取り上げられている話題をテーマとした読み物を使って、留学生が専門科目を学習するうえで必要とされる、長文を通読できる読解能力、レポート作成能力を伸ばしていきます。さらに、日本社会の現状を反映したテーマについて、プレゼンテーションやディスカッション練習を行うことで、コミュニケーション能力を高めます。これにより、学位授与の方針のうち、「豊かな人間性や主体的に生きる力」「課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力」の修得をめざします。

【到達目標】

専門書の読解能力が身につく。
レポート作成能力が身につく。
上級レベルの語彙・文法が使える。
社会科学分野に関するプレゼンテーションやディスカッションができる。

【授業計画】

| | |
|------|---|
| 第1回 | 第14章「百貨店における商品展開の傾向 デパ地下の人気」 |
| 第2回 | レポート：百貨店における男性化粧品の展開 |
| 第3回 | 文法：～つれ(て) / ～がてら / ～そばから / ～といえども / ～一方だ |
| 第4回 | 第15章「これから官民がおこなう情報弱者への対応」 |
| 第5回 | レポート：防災情報と外国人 |
| 第6回 | 文法：～といえば / ～ばこそ / ～からといって / ～べきだ |
| 第7回 | 第16章「子育て支援システム構築 待機児童の問題に取り組む」 |
| 第8回 | レポート：待機児童増加の問題に対する現状 |
| 第9回 | 文法：～といっても / ～きらいがある / ～だけに / ～あつての / ～てやまない |
| 第10回 | 第17章「都心のホテル事情 相次ぐ外資系ホテルの開業」 |
| 第11回 | レポート：近年の東京のホテル事情について |
| 第12回 | 文法：～にあつて / ～ものがある / ～にもまして / ～ならでは / ～(な) ことに |
| 第13回 | 第18章「観光客を呼ぶ『ゆるキャラ』の力」 |
| 第14回 | レポート：地域活性化とゆるキャラの活躍 |
| 第15回 | 文法：～にかたくない / ～にとどまらず / ～ことから / ～ないまでも / ～いかんだ |

定期試験

【授業時間外の学習】

次回授業の範囲を提示するので、予習として、テキストの本文の音読、わからない言葉の下調べと練習問題をやってもらうこと。(1時間)また、プレゼンテーションやグループワークのための準備をすること。(計15時間)
オフィスアワーを設定しているので、掲示板等で日時を確認のうえ、質問にすること。

【成績の評価】

レポート・授業中の発表(25%)、小テスト(25%)、定期試験(50%)
レポート・小テストについては、添削・採点して次回の授業時に返却する。授業中の発表については、授業時に講評しフィードバックを行う。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。
遅刻3回で欠席1回とみなす。

【使用テキスト】

『社会学を学ぶ留学生のための日本語』山口隆正・立川和美・秋山智美著、創成社、2017年、2,300円+税

【参考文献】

『改訂版 どんときどう使う 日本語表現文型500』友松悦子・宮本淳・和栗雅子著、アルク、2,500円+税

科目名： <UCS001> マスメディアと社会
担当教員： 山下 淳二(YAMASHITA Junji)

【授業の紹介】

ネット社会の進展につれ変貌するマスコミュニケーションの実相を新聞を中心としたオールドメディアの側から明らかにし、現代社会において望ましいマスメディアの在り方、市民との関係について学ぶ。情報はどのようにとらえられ、加工され、送られるのか。40年を超える新聞づくりの経験を生かしながら、送り手側の問題点、受け手側の課題を探る。その中で得られるメディア・リテラシーは、自ら考え、判断し、行動する力の基礎となるだろう。言葉を換えれば、「情報化社会を知的に生きる基礎」と言え、豊かな人間性を培い、幅広い教養を養うという学位授与方針に沿う授業であることは論をまたない。

【到達目標】

情報を読むことは単に字面を追うことではない。

1. 毎回の授業の冒頭は、最新のニュースを題材に、読み方を議論しながら情報を鵜呑みにしない視点を磨くことができる。
2. 情報を主体的に読み解く力、メディア・リテラシーの獲得をめざす。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 マスメディアの興亡（歴史）
 - 第3回 ネット社会のマスメディア（現状）
 - 第4回 ニュースとは何か
 - 第5回 ニュースの価値判断
 - 第6回 報道と人権（概論）
 - 第7回 報道と人権（えん罪の構造）
 - 第8回 知る権利と報道の自由
 - 第9回 取材源の秘匿と報道倫理
 - 第10回 マスメディアの構造的問題（記者クラブ）
 - 第11回 マスメディアの構造的問題（新聞の宅配制度と特殊指定）
 - 第12回 マスメディアの構造的問題（クライアントとの距離感）
 - 第13回 マスメディアの構造的問題（クロス・オーナー・シップ）
 - 第14回 メディア・リテラシー
 - 第15回 これまでの講義のまとめ及び質疑応答
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

1週間のうち1本でいい。気になる出来事、興味ある報道を取り上げ、「今週のマイニュース」として、感じたこと、読み取ったことをレポートする（3時間）。授業への疑問、提案もまとめておく（1時間）。メディア・リテラシーの実践である。

【成績の評価】

この1週間の出来事の中から、テーマを選び毎週提出するミニ・レポートは、独自の視点を養い、情報の偏りの有無などを発見する作業。

毎授業の初めに、前週のレポートの主な評価をコメント付きで発表し、全員で考える材料とする。

（50%）

最後に、統一のテーマを設定して締めくくりのレポート提出を求める。（50%）

【使用テキスト】

使用なし

【参考文献】

日々の新聞、雑誌など

全学共通科目：健康とスポーツ科目

| 科目 | 担当教員 |
|------------------------|-------|
| <UHH001> 健康とスポーツ | 宮本 賢作 |
| <UHH002> 健康とスポーツ実習【発A】 | 宇野 博武 |
| <UHH002> 健康とスポーツ実習【発B】 | 宇野 博武 |

科目名： <UHH001> 健康とスポーツ
担当教員： 宮本 賢作(MIYAMOTO Kensaku)

【授業の紹介】

成長期から成人期に移行するこの時期に、正しいヘルスリテラシーを身につけることにより、豊かな人間性を培い、幅広い教養を養うとともに、今後起こりうる健康問題について理解することで、その予防としての運動、食事、休養の重要性と、それをサポートする社会的なシステムについて理解する。またこれらを主体的かつ科学的に捉え、行動変容を意識した実践力と、その基盤となるエビデンスに基づいた健康づくりについて考察する。

【到達目標】

健康な生活を営む上で必要な基礎知識を理解することができる。
ヒトの生涯のさまざまな場面で生じる疾病の予防および健康の維持と生体機能の関係について理解することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・健康（及び疾病）の概念とヘルスプロモーション
 - 第2回 健康を取り巻く環境についての理解
 - 第3回 健康情報とヘルスリテラシー
 - 第4回 幼少期～成長期の健康問題
 - 第5回 成人期～高齢期の健康問題
 - 第6回 死生観と生命倫理
 - 第7回 健康と運動・労働
 - 第8回 健康と食事・栄養
 - 第9回 健康と休養・睡眠
 - 第10回 喫煙，飲酒，薬物乱用，メディアリテラシーと健康
 - 第11回 運動の科学と健康
 - 第12回 体力の評価と分析
 - 第13回 エビデンスに基づいた医療と健康づくり
 - 第14回 持続可能な健康づくり
 - 第15回 まとめ（生涯にわたる健康増進とスポーツライフの継続を目指して）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回、授業の概要を紹介したレジюмеを配付します。また授業で学習した知識を活用し健康や運動に関するレポート作成や筆記試験を行います。授業で学んだ知識や技能が定着するよう復習を十分行って下さい。（計60時間）

【成績の評価】

成績の評価は学期末試験（60%）、レポート・出席確認のためのミニテスト（30%）、学習態度（10%）によって行い、総計60%以上を合格とします。なお、レポートについては講評や添削を行い返却（フィードバック）します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

適宜資料を配付する。

科目名： <UHH002> 健康とスポーツ実習【発A】

担当教員： 宇野 博武(UNO Hironu)

【授業の紹介】

この実習の目的は、生涯にわたってスポーツを楽しむ知識・態度・技能を養うことです。そのため、実習のはじめには、スポーツの歴史から近代スポーツの性格や文化性を学びます。その後、既存のスポーツに取り組み、スポーツの何が楽しい／楽しくないのか、その楽しさ／楽しくなさは何によって生じるのか、という点を改めて考えていきます。同時に、このスポーツ活動を通して、他者と協力しながらスポーツを楽しむ態度を身につけます。さらに、自分たちが楽しいと思える新たなスポーツを、グループで協力して開発する活動に取り組みます。なお、天候によって実施種目を変更することがあります。また、この実習では、学籍番号順に前期と後期の履修者を決定することとします。この実習の目的は、発達科学部ディプロマポリシー「子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できること」、「子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができること」に対応しています。

【到達目標】

1. スポーツの文化性を理解できる
2. 協調的なスポーツ活動に参加できる
3. スポーツを創造できる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 スポーツの歴史とスポーツ文化
- 第3回 アルティメット：基本技能
- 第4回 アルティメット：ゲーム実践
- 第5回 バドミントン：基本技能とゲーム（シングルス）
- 第6回 バドミントン：ゲーム（ダブルス）
- 第7回 新ルールの考案
- 第8回 新スポーツの改善と提案
- 第9回 新スポーツの実践と反省
- 第10回 バレーボール：基本技能とゲーム（ソフトバレー）
- 第11回 バレーボール：通常ルールでのゲーム実践
- 第12回 新ルールの考案
- 第13回 新スポーツの改善と提案
- 第14回 新スポーツの実践と反省
- 第15回 重点的な学習内容の振り返り

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

時間外学習課題については、既存スポーツのルール・技術の調べ学習、新スポーツの考案・準備作業を予習課題（30分）として、実習日誌（提出物）に実習の振り返りをしてもらうことを復習課題（30分）として指示します。

【成績の評価】

- ・提出物（実習日誌）80%
- ・小レポート 20%

《フィードバックの方法》

提出物については、講評を実習時間中に実施することでフィードバックをおこなう。小レポートについては、第15回修了後、オフィスアワーを活用してフィードバックを実施する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

中村敏雄著『スポーツとは何か』（ポプラ・ブックス，1982年） 図書館に配架

科目名： <UHH002>健康とスポーツ実習【発B】

担当教員： 宇野 博武(UNO Hironu)

【授業の紹介】

この実習の目的は、生涯にわたってスポーツを楽しむ知識・態度・技能を養うことです。そのため、実習のはじめには、スポーツの歴史から近代スポーツの性格や文化性を学びます。その後、既存のスポーツに取り組み、スポーツの何が楽しい／楽しくないのか、その楽しさ／楽しくなさは何によって生じるのか、という点を改めて考えていきます。同時に、このスポーツ活動を通して、他者と協力しながらスポーツを楽しむ態度を身につけます。さらに、自分たちが楽しいと思える新たなスポーツを、グループで協力して開発する活動に取り組みます。なお、天候によって実施種目を変更することがあります。また、この実習では、学籍番号順に前期と後期の履修者を決定することとします。この実習の目的は、発達科学部ディプロマポリシー「子どもとはもちろんのこと、保護者や子育てに関わる人々と十分なコミュニケーションをとることができ、また、多様な専門性を持つ人材と協力・協働できること」、「子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができること」に対応しています。

【到達目標】

1. スポーツの文化性を理解できる
2. 協調的なスポーツ活動に参加できる
3. スポーツを創造できる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 スポーツの歴史とスポーツ文化
- 第3回 アルティメット：基本技能
- 第4回 アルティメット：ゲーム実践
- 第5回 バドミントン：基本技能とゲーム（シングルス）
- 第6回 バドミントン：ゲーム（ダブルス）
- 第7回 新ルールの考案
- 第8回 新スポーツの改善と提案
- 第9回 新スポーツの実践と反省
- 第10回 バレーボール：基本技能とゲーム（ソフトバレー）
- 第11回 バレーボール：通常ルールでのゲーム実践
- 第12回 新ルールの考案
- 第13回 新スポーツの改善と提案
- 第14回 新スポーツの実践と反省
- 第15回 重点的な学習内容の振り返り

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

時間外学習課題については、既存スポーツのルール・技術の調べ学習、新スポーツの考案・準備作業を予習課題（30分）として、実習日誌（提出物）に実習の振り返りをしてもらうことを復習課題（30分）として指示します。

【成績の評価】

- ・提出物（実習日誌）80%
- ・小レポート 20%

《フィードバックの方法》

提出物については、講評を実習時間中に実施することでフィードバックをおこなう。小レポートについては、第15回修了後、オフィスアワーを活用してフィードバックを実施する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

中村敏雄著『スポーツとは何か』（ポプラ・ブックス，1982年） 図書館に配架

専門科目：子育て支援に関する基礎科目

| 科目 | 担当教員 |
|------------------|-------|
| <KISO1> 児童学研究法 | 松原 勝敏 |
| <KISO2> 教育学原論 | 松原 勝敏 |
| <KISO3> 教育制度論 | 松原 勝敏 |
| <KISO4> 教師論 | 佐竹 勝利 |
| <KISO5> 保育課程総論 | 山田 純子 |
| <KISO6> 教育課程論 | 山岸 知幸 |
| <KISO7> 保育原理 I | 相馬 宗胤 |
| <KISO8> 家庭支援論 | 田中 弓子 |
| <KISO5> カリキュラム論 | 山田 純子 |
| <KISO8> 子ども家庭支援論 | 田中 弓子 |

科目名： <KIS01> 児童学研究法

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi), 藤本 駿(FUJIMOTO Syun)

【授業の紹介】

教育者・保育者になること。それは、あなた方にとって目標かもしれませんがゴールではありません。現場に出れば、日々子どもたちとのふれあいの中で様々な発見をするとともに、つまずき、思い悩むことの連続でしょう。そして、それら乗り越えながら、教育者・保育者は子どもとともに成長するのです。教育者・保育者になった後の研究態度は、その意味で重要です。

この授業では、皆さんの学ぶ力を育てたいと考えています。そして、学修を通じて、学部のポリシーに掲げる「教育・保育に関する研究の能力を涵養」「子どもの成長・発達を究明」する力を養います。

【到達目標】

- ・自主的な学習態度を形成し、問題発見能力を開発するとともに問題をとらえる視点の多様性を理解することができる。
- ・実際に教育・保育に関する各種のレポートを作成したり、調査研究の演習・発表・討議を通じて、文献資料の収集方法（図書館の利用方法を含む）の習得、読解力と文章構成力を高め、保育者にとって必要な発表や討論の方法を習得することができる。
- ・演習を通して、学生と教員、あるいは学生同士の自由な語り合いの下地を作り、本学の特色であるゼミ活動における教育研究をより一層効果的に実現することができる。
- ・将来、教育者・保育者に求められる自己研修能力の基盤を形成することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 レポートの作成(1)
 - 第3回 レポートの作成(2)
 - 第4回 研究進め方
 - 第5回 マスコミ情報の批判的検討
 - 第6回 研究の方向性の決定
 - 第7回 研究の方向性の確定
 - 第8回 研究の進展(1)
 - 第9回 中間発表レジュメの検討
 - 第10回 中間発表レジュメの完成
 - 第11回 研究中間発表
 - 第12回 発表レジュメの再検討(1)
 - 第13回 研究成果発表会レジュメの完成
 - 第14回 研究成果発表会
 - 第15回 研究の振り返りと全体のまとめ
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ゼミ毎に、授業時に必要な資料の準備、また、授業後における学習内容の振り返り・整理が必要となります。また、研究成果発表会に向けての準備など、授業時間外での学習を指導します。学習には、15時間以上が必要となるでしょう。

【成績の評価】

毎回の授業時におけるミニレポートへのコメント(約30%)、レポート及び研究室単位の研究結果(約50%)、発表及び質疑での答弁等(約20%)を総合的に評価し、単位を認定します。

毎回の授業時に、各学生の学習成果を点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。また、最終的な学習の成果については、最後の授業時に以後の学びへの継続についてフィードバックします。

【使用テキスト】

基礎演習で使用する発達科学部オリジナルテキスト「しるべ」を使用します。

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KIS02> 教育学原論

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育学原論では、教育課程編成・実施の方針に基づき、教育に関係する領域を広範囲に、かつ、多角的に追求することをおして、この領域の基礎的な知識を獲得するための科目として位置づけられる。

今日、人々の教育に関する意見や要望、そして批判には、いろんな立場から多様な意見が噴出して、答えを出すのが非常に難しい状況にある。教育学原論では、教育という社会事象を専門的な立場から理解するために必要な基礎的な知識を獲得する。そして、自らの教育観の基礎を作り、教育に関する事柄について、専門的・客観的な立場から、自分なりの意見表明ができる力を形成する。

なお、「教育」と言うと幼児の段階からの教育を意識するかもしれないが、保育においては養護と教育を一体的に実現するところに特色がある。そこで、0歳児からの教育の可能性や目的および目標についても検討する。

【到達目標】

1. 教育という社会事象を専門的な立場から理解するために必要な基礎的な知識の獲得することができる。
2. 教育の基本的概念や教育の理念の基礎を理解することができる。
3. 教育の歴史や思想の学習をおして、今日の教育の基本理念の形成過程を理解することができる。
4. 自らの教育観の基礎を作り、教育に関する事柄について、専門的・客観的な立場から、自分なりの意見表明ができる力の獲得することができる。
5. 上の4つの到達目標を達成することで、卒業認定・学位授与の方針に示す、教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション・教育の意味と本質
 - 第2回：教育の目的と目標
 - 第3回：人間社会における教育の役割
 - 第4回：家族や社会における教育の思想と教育の役割
 - 第5回：主要な教育思想
 - 第6回：近代学校制度の成立と展開
 - 第7回：日本の学校教育の歴史
 - 第8回：義務教育の概要
 - 第9回：今日の我が国における学校制度と主要国の学校制度
 - 第10回：教育課程の基礎
 - 第11回：学習指導の基礎
 - 第12回：家庭教育
 - 第13回：生涯学習
 - 第14回：教員養成
 - 第15回：今日の教育課題
- 定期試験

【授業時間外の学習】

教育学原論では、授業時間外の学習として合計60時間に相当する学習を求める。その1つとして、授業終了時に、当該授業において授業後に復習すべきことを指示する。また、次回の授業に関する予習事項を指示する。

【成績の評価】

毎回の授業終了時に課するミニレポート（約30%）、レポート（約20%）、定期試験（約50%）の3つを以て、総合的に評価する。

- ・ミニレポートについては、次の授業の冒頭の部分で内容についてコメントする。
- ・主たるレポート課題については、15回目の授業でフィードバックする。
- ・定期試験の内容については、学内ネットを通じてフィードバックする。

【使用テキスト】

新初等教育原理（平成26年 佐々木正治編著、福村出版）

【参考文献】

授業時に、適宜、紹介する。

科目名： <KIS03> 教育制度論

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

「教育制度」という言葉は、やや「お堅い」言葉に聞こえるかもしれませんが、また、制度や法規に関連することは難しいのでできれば避けて通りたい…と思う人も少なくないと思います。

しかし、学校は、今日、私たちの暮らしを支える制度の1つとして機能しています。それ故に、学校には、その目的や制度のあり方、保育内容について様々な規定が設けられるとともに、多くの税金やその他の財貨が投入され、そこに教員をはじめとたくさんの人々が関わって、子どもたちの生活を支えているのです。それゆえに、教員に対する社会的使命や期待には大きなものがあると同時に厳しいものがあります。

本講義は、そのような点を考慮して、責任を果たせる教員としての意識づくりを図りたいと思います。また、採用試験も考慮して、法制面からのアプローチによって教育制度の理解を目指します。できるだけ、丁寧にわかりやすく講義することに努めますので、肩肘張らず受講して下さい。

この科目は、学部のポリシーに掲げる、小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育にあたるための理論として位置づけられます。

【到達目標】

・教育現場での1つ1つの行為が、社会的な制度の枠の中で運営されていることを理解し、自らの教育実践に取り組む姿勢を形成することができる。

・この授業では、教育制度の基本的な枠組みを理解すると共に、制度構築の理念を理解して、教育制度に関する問題に自分なりの意見表明ができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション&教育制度を学ぶことの意味

第2回 教育法規の理論と体系

第3回 我が国の教育行政制度

第4回 我が国の教育行政の組織と機能

第5回 学校教育の法制

第6回 学校の制度と経営

第7回 教育課程の制度

第8回 教育の権利と義務

第9回 教職員の権利と義務

第10回 教職員の身分保障法制と研修

第11回 教育財政の法制

第12回 児童・生徒の管理

第13回 特別支援教育

第14回 教育改革の動向(1)

第15回 教育改革の動向(2)及びまとめ

定期試験

【授業時間外の学習】

教育制度論では、授業時間外の学習として合計60時間に相当する学習を求めます。その1つとして、各授業の最後に復習と次回の予習のポイントを指示しますので、自己学習時に確認をしておいて下さい。また、自己学習の成果をレポートとして提出することを求めます。

【成績の評価】

毎回の授業時におけるミニレポートへのコメント(約30%)、レポート(約20%)及び試験(約50%)の合計点によって成績を評価し、単位を認定します。

毎回の授業時に、各学生の学びを点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。また、最終的な学習の成果については、私の学内HPを通じて学生に以後の学びへの示唆をフィードバックします。

【使用テキスト】

河野和清編著『現代教育の制度と行政 改訂版』福村出版 2017

【参考文献】

文部科学省「幼稚園教育要領」2017

文部科学省「小学校学習指導要領」2017

その他、授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KIS04> 教師論

担当教員： 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi), 藤本 駿(FUJIMOTO Syun)

【授業の紹介】

教育は教師次第と言われます。それほど教師の役割が重要であることを示しています。他方で、誰でも親になれるとか、学生がアルバイトで家庭教師や塾の講師をすればいいというように、教えるのは誰にでもできるように思われています。そうでしょうか。そうではありませんね。

教師・保育者には、まず人間性（例えば豊かな心、コミュニケーション力、責任感など）が重要です。その上に専門性（例えば教育・保育の体系的知識や理論、教育や保育の実践力など）が特に求められます。さらに職業人としての教職・保育職の仕組み（職務、研修、サービス、チーム学校など）を理解していなければなりません。本授業ではそれらをわかりやすく、かつ体系的に学びます。それらは本学部のカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーにも含まれています。

受講に当たって、自分自身が幼稚園・保育所・小学校時代の先生のこと、あるいは現在の様々な教育・保育問題、を思い起こしながら受講するといいでしょう。また、講義形式を主としますが、グループ・ワーク（ディスカッション、まとめ、発表など）や小課題も取り入れますので、積極的受講を期待します。なお、ここで「教師」「先生」「教職」とは、幼稚園、小学校の教員と保育士の両方を含めています。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下のことができるようになることです。

1. 受講生が教師・保育者、教職・保育職を具体的に理解し、それぞれの教師・保育者像を明確にでき、教職・保育職に対する情熱や使命感・倫理観を高める。
2. 具体的には、教師・保育者の人間性、専門性、職業人としての教師・保育者について理解でき、具体例をあげて、考えることや説明ができる。
3. そして教師・保育者をめぐる諸問題について疑問を持ち、教職・保育職についての知識や理解を深めることができ、自分の適性や意欲を確かめることができる。

【授業計画】

| | | |
|------|---|--------------------|
| 第1回 | オリエンテーション | |
| 第2回 | (1) 教師・保育者の人間性 | 1) 歴史の中の教師・保育者 |
| 第3回 | 教師・保育者の人間性 | 2) 現代の教師・保育者像 |
| 第4回 | 教師・保育者の人間性 | 3) 人間として成長する教師・保育者 |
| 第5回 | 教師・保育者の人間性についてのグループ・ワーク | |
| 第6回 | (2) 教師・保育者の専門性 | 1) 求められる専門性の変遷 |
| 第7回 | 教師・保育者の専門性 | 2) 現代に求められる専門性 |
| 第8回 | 教師・保育者の専門性 | 3) 校風の違いによる専門性 |
| 第9回 | 教師・保育者の専門性についてのグループ・ワーク | |
| 第10回 | (3) 職業人としての教師・保育者 | 1) 職務、身分 |
| 第11回 | 職業人としての教師・保育者 | 2) サービス規律 |
| 第12回 | 職業人としての教師・保育者 | 3) 勤務条件 |
| 第13回 | 職業人としての教師・保育者 | 4) 研修 |
| 第14回 | 職業人としての教師・保育者についてのグループ・ワーク | |
| 第15回 | (4) 教師・保育者の仕事 - 学習・あそびの指導、生活の指導、学級（保育室）経営、学校（園）経営、チーム学校への対応など - | |

定期試験を実施する。

【授業時間外の学習】

授業日あるいは週末にノートや資料を復習し、疑問点や気付いた点などを赤で記入しておくこと（毎回1時間）。人間性、専門性、職業人に関してグループワークを合計3回行うので、それに備えて各自で振り返りを行う（毎授業後1時間）とともに、グループによるディスカッション、調査、まとめ、発表などの準備を、時間外に行う必要がある（合計約30時間）。

【成績の評価】

ディスカッション、調査、発表など授業内外での活動状況と試験を総合して評価します。比率は前者を20%、後者を80%と一応しておきますが、出来具合を見て調整することがあります。試験についてのフィードバックは、試験終了後に解答例を配付します。

【使用テキスト】

なし。適宜資料を配付します。

【参考文献】

- ・壺井 栄著 『二十四の瞳』（新潮文庫、昭和32年、角川文庫、昭和36年など）
 - ・佐竹勝利他編 『新世紀の教職論』（コレール社、2006年）
 - ・秋山弥監修 『新版 教師の仕事とは何か』（北大路書房、2009年）
 - ・佐々木司・三山緑編著 『これからの学校教育と教師 - 「失敗」から学ぶ教師論入門 - 』（ミネルヴァ書房、2014年）
 - ・榎沢良彦他編 『保育者論』（保育・教育ネオシリーズ9）（同文書院、2015年）
 - ・古橋和夫編著 『新訂 教職入門』（萌文書林、2018年）
- その他

科目名： <KIS05> 保育課程総論
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

保育者は日々子どもと遊びを共にしながら、子どもが幼稚園や保育所、認定こども園に入園（所）してから修了するまでの生活の全貌を見通した保育の計画を立て実践しています。本授業では、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき各園で編成・作成される教育課程・全体的な計画の意義や方法を学び、保育の計画、実践、評価、改善の過程についての全体構造を理解していきます。そして、他教科の学びと関連付けて理解し、保育の実践力を構築していく力が身に付くことをめざします。また、保育の基本的理念を理解することを通して、保育者としての使命感、倫理観を育てていくこととなります。

【到達目標】

1. 教育課程・全体的な計画が有する役割・機能・意義を理解し論理的に思考・創造することができる。
 - （1）幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格及び位置付け並びに編成・作成の目的が理解できる。
 - （2）幼稚園教育要領、保育所保育指針の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景が理解できる。
 - （3）教育課程・全体的な計画が社会において果たしている役割や機能を理解し、使命感をもつことができる。
 - （4）教育課程の基礎理論の習得により保育の旨みの本質を探究しようとする態度を育むことができる。
2. 教育課程・全体的な計画の基本原則及び教育実践に即した編成・作成の方法を理解し、実践力の向上に努めることができる。
 - （1）教育課程編成、全体的な計画作成の基本原則が理解できる。
 - （2）幼児教育の特質と幼児期に育みたい資質・能力を例示し、多面的に課題に取り組むことができる。
 - （3）長期的な視野からまた、乳幼児や園、地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性が理解できる。
3. 園全体のカリキュラムを把握し、教育課程、全体の計画をマネジメントすることの意義を理解することができる。
 - （1）カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解し、柔軟な思考力を用いて課題に取り組むことができる。
 - （2）カリキュラム評価の基礎的な考え方が理解できる。

【授業計画】

- | | |
|------|--|
| 第1回 | カリキュラムについて |
| 第2回 | 保育の基本と計画 |
| 第3回 | 幼稚園における教育課程の役割 |
| 第4回 | 保育所における全体的な計画 |
| 第5回 | 幼保連携型認定こども園における教育及び保育並びに子育て支援等における全体的な計画 |
| 第6回 | 幼児教育の特質と幼児期に育みたい資質・能力 |
| 第7回 | 長期の指導計画と短期の指導計画の実際 |
| 第8回 | 保育の評価 |
| 第9回 | カリキュラム・マネジメントの意義と実際 |
| 第10回 | 小学校へつなぐ保育と計画 |
| 第11回 | 幼稚園教育要領、保育所保育指針の改訂の変遷とその背景 |
| 第12回 | 指導計画の実際（1）指導計画の作成方法 |
| 第13回 | 指導計画の実際（2）部分指導案の作成 |
| 第14回 | 指導計画の実際（3）全日指導案の作成 |
| 第15回 | 指導計画立案の発表と評価 |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- 予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておきます。（2時間）
- 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめます。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をします。（計15時間）
- その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりします。

【成績の評価】

課題およびワークシートの取組みと内容（20％）、保育指導案作成（30％）定期試験(50％)

ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取組み、提出します。

課題、保育指導案作成については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年3月 文部科学省)

保育所保育指針解説(平成30年3月 厚生労働省)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

【参考文献】

適宜、資料を配布します。

科目名： <KIS06> 教育課程論

担当教員： 山岸 知幸

【授業の紹介】

教育課程・カリキュラムに関する意義や編成原理、カリキュラム・マネジメントについて講義するとともに、教育課程について具体的な事例に基づいて考察する。

なお「必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を実践と関連づけて理解」すること、また自身の「資質向上に向けて継続的に学ぶ能力」を身に付けることをめざす。

【到達目標】

1. 教育課程・カリキュラムに関わる歴史や理論を理解することができる。
2. 学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程の意義や編成方法を体系的に理解することができる。
3. 各学校の实情にあわせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：我が国の戦後の教育課程の変遷
 - 第3回：カリキュラム改革の歴史（1） - 児童中心主義思想を中心に -
 - 第4回：カリキュラム改革の歴史（2） - 教育内容の現代化を中心に -
 - 第5回：教育課程の編成原理と類型
 - 第6回：教育課程の編成・実施・評価・改善
 - 第7回：小学校学習指導要領を学ぶ（1） - 総則を中心に -
 - 第8回：小学校学習指導要領を学ぶ（2） - カリキュラム・マネジメントの視点から -
 - 第9回：小学校学習指導要領を学ぶ（3） - 幼小連携と小中連携の視点から -
 - 第10回：教育課程の実際（1） - 年間行事計画 -
 - 第11回：教育課程の実際（2） - 時間割の作成 -
 - 第12回：教育課程の実際（3） - 日課・週時程の編成 -
 - 第13回：教育課程の実際（4） - 教科年間指導計画 -
 - 第14回：教育課程の実際（5） - 特色ある学校づくりと学校評価 -
 - 第15回：まとめ - これからの教育課程・カリキュラムの課題 -
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

事前に指示された資料及びテキストを精読し、学んだこと・疑問点をノートにまとめておくこと（2時間）。レポート作成に向けて、毎回の授業内容のポイントをA5一枚程度にまとめておくこと（2時間）。

【成績の評価】

レポート試験（60%）、毎回の授業後に提出する小レポート（40%）
レポートについては、採点基準を説明する。毎回の授業後に提出する小レポートについては、次の授業時間にコメントを添えて返却する。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）

【参考文献】

授業中に適宜資料を配付する。

科目名： <KIS07> 保育原理

担当教員： 相馬 宗胤(SOMA Munetane)

【授業の紹介】

本授業科目では、保育に関する知識や心構えを習得する第一歩として、保育の概念、我が国の保育制度、保育の歴史や保育をめぐる思想などについて学習します。これらの事項の学習を通して、保育者に必要な基礎知識を習得しつつ、良い保育について考えるための思考力を養うことをめざします。

なお、本授業科目は、保育士資格取得のための必修科目です。本授業科目の単位が認定されていない場合、2年次に実施される「保育実習」の履修が困難になる恐れがあります。

また、本授業科目では、課題の指示や提出にあたり、Google Classroomを使用します。

【到達目標】

1. 保育の制度・思想・歴史などの基本的事項の学習を通して、保育者として理解しておかなければならない問題、考えておかなければならない問題について考えることを通して、使命感・倫理観を高めることができる。

2. 保育の意義や目的、保育者に求められる資質能力について学習したことをもとに、自分自身が当たり前のものである保育のイメージを再考し、保育について多角的に考えることができる。

3. 保育の制度・思想・歴史に関する専門的知識を習得し、より良い保育を考えるための「考え方」を身につけることができる。

4. 豊かな保育実践を展開するための基礎として、保育を支える原理や基礎理論を理解し、より良い保育実践を行うために必要な着眼点や思考法を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 本授業の目的・ルール・評価方法など / 保育の理念と概念
 - 第2回 保育の社会的役割と責任
 - 第3回 保育の制度
 - 第4回 保育の実施体系
 - 第5回 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
 - 第6回 保育の目標と方法
 - 第7回 乳児の保育
 - 第8回 1歳以上3歳未満児の保育
 - 第9回 3歳以上児の保育
 - 第10回 保育の計画とカリキュラム・マネジメント
 - 第11回 保育の計画・記録・省察・評価
 - 第12回 欧米の保育の思想・歴史
 - 第13回 日本の保育の思想・歴史
 - 第14回 諸外国の保育
 - 第15回 日本の保育の現代的課題
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・教科書の指定箇所を読み、締め切りまでに予習課題を行い、提出する。(1時間)
 - ・授業内容を振り返り、締め切りまでに確認試験を行い、提出する。(1時間)
 - ・2度のレポート課題に取り組む。(計15時間)
 - ・自習用のフォームなどを使い、期末試験の勉強に取り組む。(計15時間)
- 課題の指示や提出にあたり、Google Classroomを使用します。

【成績の評価】

- ・小テストの成績(30%)
- ・中間レポート(20%)
- ・期末試験(50%)

小テストの解説は、授業内で行います。レポートおよび試験については点数確定後にフィードバックを行います。

【使用テキスト】

『新・基本保育シリーズ1 保育原理』(天野珠路・北野幸子編、中央法規出版社、2019年)

【参考文献】

保育所保育指針(厚生労働省、2017年3月告示)

幼稚園教育要領(文部科学省、2017年3月告示)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017年3月告示)

科目名： <KIS08> 家庭支援論
担当教員： 田中 弓子(TANAKA Yumiko)

【授業の紹介】

子ども家庭支援論では、私的領域であった家庭内の子育てを、社会全体で支えるようになった背景について理解し、職業使命感と倫理観を高めます。その上で、保育所・こども園・幼稚園を利用する親子のみならず、地域の親子までを視野に入れた支援のあり方に関する専門的知識を身に付け、保育実践力向上へと導いていきます。

【到達目標】

1. 学生は、子育て家庭への支援者としての教育・保育職の意義を理解することによって使命感や倫理観を高めることができる。
2. 学生は、家庭ならびに子育て家庭への支援に関する専門的知識や判断力を習得することができる。

【授業計画】

- 第1回 家族の今とむかし
 - 第2回 家族の機能
 - 第3回 現代家族の状況(1) 結婚
 - 第4回 現代家族の状況(2) 家族の変化
 - 第5回 現代家族の状況(3) 子育てにおける問題
 - 第6回 子育て支援政策
 - 第7回 家庭支援の基本姿勢
 - 第8回 保育所保育指針における家庭支援
 - 第9回 こども園教育・保育要領における家庭支援
 - 第10回 幼稚園教育要領における家庭支援
 - 第11回 子育て家庭の理解(専業主婦・働く母親)
 - 第12回 要保護児童・家庭への支援
 - 第13回 特別な支援を必要とする子ども・家庭への支援
 - 第14回 さまざまな子育て支援サービスが抱える問題
 - 第15回 今後の家庭支援のあり方
- 定期試験

【授業時間外の学習】

次回の授業範囲の予習として4時間、本授業に関連する保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領を確認しておいてください。分からない言葉は、調べ、ノートにまとめておいてください。

また、復習としては、4時間、授業開始時に説明をした事例内容を再度読み返し理解を深めてください。

【成績の評価】

学習シートの記入・提出(30%)、レポート(10%)、定期試験(60%)の合計点で評価し、単位認定をします。第1回目に詳しく説明しますので、履修意思のある人は、必ず出席してください。定期試験の結果は、オフィスアワーの際に解説します。

【使用テキスト】

- 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)
- 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)
- 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

【参考文献】

改訂2版 新 保育士養成講座第10巻 家庭支援論 家庭支援と保育相談支援(平成27年 全国保育士養成講座編纂委員会 全国社会福祉協議会)
実践 家庭支援論【第3版】(平成29年 松本園子、永田陽子、福川須美、堀口美智子著 ななみ書房)

科目名： <KIS05>カリキュラム論
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

保育者は日々子どもと遊びを共にしながら、子どもが幼稚園や保育所、認定こども園に入園（所）してから修了するまでの生活の全貌を見通した保育の計画を立て実践しています。本授業では、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき各園で編成・作成される教育課程・全体的な計画の意義や方法を学び、保育の計画、実践、評価、改善の過程についての全体構造を理解していきます。そして、他教科の学びと関連付けて理解し、保育の実践力を構築していく力が身に付くことをめざします。また、保育の基本的理念を理解することを通して、保育者としての使命感、倫理観を育てていくこととなります。

【到達目標】

1. 教育課程・全体的な計画が有する役割・機能・意義を理解し論理的に思考・創造することができる。
 - （1）幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格及び位置付け並びに編成・作成の目的が理解できる。
 - （2）幼稚園教育要領、保育所保育指針の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景が理解できる。
 - （3）教育課程・全体的な計画が社会において果たしている役割や機能を理解し、使命感をもつことができる。
 - （4）教育課程の基礎理論の習得により保育の旨みの本質を探究しようとする態度を育むことができる。
2. 教育課程・全体的な計画の基本原則及び教育実践に即した編成・作成の方法を理解し、実践力の向上に努めることができる。
 - （1）教育課程編成、全体的な計画作成の基本原則が理解できる。
 - （2）幼児教育の特質と幼児期に育みたい資質・能力を例示し、多面的に課題に取り組むことができる。
 - （3）長期的な視野からまた、乳幼児や園、地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性が理解できる。
3. 園全体のカリキュラムを把握し、教育課程、全体の計画をマネジメントすることの意義を理解することができる。
 - （1）カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解し、柔軟な思考力を用いて課題に取り組むことができる。
 - （2）カリキュラム評価の基礎的な考え方が理解できる。

【授業計画】

- | | |
|------|--|
| 第1回 | カリキュラムについて |
| 第2回 | 保育の基本と計画 |
| 第3回 | 幼稚園における教育課程の役割 |
| 第4回 | 保育所における全体的な計画 |
| 第5回 | 幼保連携型認定こども園における教育及び保育並びに子育て支援等における全体的な計画 |
| 第6回 | 幼児教育の特質と幼児期に育みたい資質・能力 |
| 第7回 | 長期の指導計画と短期の指導計画の実際 |
| 第8回 | 保育の評価 |
| 第9回 | カリキュラム・マネジメントの意義と実際 |
| 第10回 | 小学校へつなぐ保育と計画 |
| 第11回 | 幼稚園教育要領、保育所保育指針の改訂の変遷とその背景 |
| 第12回 | 指導計画の実際（1）指導計画の作成方法 |
| 第13回 | 指導計画の実際（2）部分指導案の作成 |
| 第14回 | 指導計画の実際（3）全日指導案の作成 |
| 第15回 | 指導計画立案の発表と評価 |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- 予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示されたテキスト・資料を熟読し、疑問点や気付いたことをノート等にまとめておきます。（2時間）
- 復習：授業内容を復習し、ノートにまとめます。（1時間）また、指導案作成の課題提出に向けて準備をします。（計15時間）
- その他、他教科との学びの連動を利用し観察記録に生かしたり、様々な情報を収集したりします。

【成績の評価】

課題およびワークシートの取組みと内容（20％）、保育指導案作成（30％）定期試験(50％)

ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取組み、提出します。

課題、保育指導案作成については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年3月 文部科学省)

保育所保育指針解説(平成30年3月 厚生労働省)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

【参考文献】

適宜、資料を配布します。

科目名： <KIS08> 子ども家庭支援論
担当教員： 田中 弓子(TANAKA Yumiko)

【授業の紹介】

子ども家庭支援論では、私的領域であった家庭内の子育てを、社会全体で支えるようになった背景について理解し、職業使命感と倫理観を高めます。その上で、保育所・こども園・幼稚園を利用する親子のみならず、地域の親子までを視野に入れた支援のあり方に関する専門的知識を身に付け、保育実践力向上へと導いていきます。

【到達目標】

1. 学生は、子育て家庭への支援者としての教育・保育職の意義を理解することによって使命感や倫理観を高めることができる。
2. 学生は、家庭ならびに子育て家庭への支援に関する専門的知識や判断力を習得することができる。

【授業計画】

- 第1回 家族の今とむかし
 - 第2回 家族の機能
 - 第3回 現代家族の状況(1) 結婚
 - 第4回 現代家族の状況(2) 家族の変化
 - 第5回 現代家族の状況(3) 子育てにおける問題
 - 第6回 子育て支援政策
 - 第7回 家庭支援の基本姿勢
 - 第8回 保育所保育指針における家庭支援
 - 第9回 こども園教育・保育要領における家庭支援
 - 第10回 幼稚園教育要領における家庭支援
 - 第11回 子育て家庭の理解(専業主婦・働く母親)
 - 第12回 要保護児童・家庭への支援
 - 第13回 特別な支援を必要とする子ども・家庭への支援
 - 第14回 さまざまな子育て支援サービスが抱える問題
 - 第15回 今後の家庭支援のあり方
- 定期試験

【授業時間外の学習】

次回の授業範囲の予習として4時間、本授業に関連する保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領を確認しておいてください。分からない言葉は、調べ、ノートにまとめておいてください。

また、復習としては、4時間、授業開始時に説明をした事例内容を再度読み返し理解を深めてください。

【成績の評価】

学習シートの記入・提出(30%)、レポート(10%)、定期試験(60%)の合計点で評価し、単位認定をします。第1回目に詳しく説明しますので、履修意思のある人は、必ず出席してください。定期試験の結果は、オフィスアワーの際に解説します。

【使用テキスト】

- 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)
- 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)
- 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

【参考文献】

改訂2版 新 保育士養成講座第10巻 家庭支援論 家庭支援と保育相談支援(平成27年 全国保育士養成講座編纂委員会 全国社会福祉協議会)
実践 家庭支援論【第3版】(平成29年 松本園子、永田陽子、福川須美、堀口美智子著 ななみ書房)

専門科目：子どもの心の育ちを支える科目

| 科目 | 担当教員 |
|--------------------------|--------|
| <KOKO1> 発達心理学 I | 中塚 勝俊 |
| <KOKO2> 教育心理学 | 徳岡 大 |
| <KOKO3> 教育相談 | 織田 幸美 |
| <KOKO4> 保育内容－人間関係 I | 徳岡 大 |
| <KOKO5> 保育内容－人間関係 II【発A】 | 徳岡 大 |
| <KOKO5> 保育内容－人間関係 II【発B】 | 徳岡 大 |
| <KOKO6> 保育内容－環境 I【発A】 | 川口 めぐみ |
| <KOKO6> 保育内容－環境 I【発B】 | 川口 めぐみ |
| <KOKO7> 保育内容－環境 II【発A】 | 川口 めぐみ |
| <KOKO7> 保育内容－環境 II【発B】 | 川口 めぐみ |
| <KOKO8> 道徳教育論【3年～】 | 七條 正典 |
| <KOKO8> 道徳教育論【2年】 | 七條 正典 |
| <KOKO9> 生徒指導の研究(進路指導を含む) | 七條 正典 |
| <KISO8> 子ども家庭支援の心理学 | 磯部 健一 |
| <KOKO11> 子どもと人間関係 | 徳岡 大 |
| <KOKO12> 子どもと環境 | 川原 亜津美 |

科目名： <KOK01> 発達心理学

担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

人間のこころとからだは、生まれてから死ぬまで一生涯を通じて発達(=変化)しつづけます。特に、乳幼児期の発達は一生涯のなかで最も著しく、量的にも質的にも大きな変化を示します。将来、保育者を目指す学生にとって、乳幼児の心身の発達について正しい知識を持っているかどうかは大変重要です。そこで本講義では、乳幼児の心身の発達(運動、認知、言語、知能、情動、気質、人間関係、社会性など)についての授業を通して、発達に応じた子どもへの働きかけや調和のとれた子どもの育ちを支える保育者を目指します。

【到達目標】

- ・発達心理学の基礎知識を身に付け、保育者に必要な「子供を見る目」「親とかかわる態度」などを習得できる。
- ・教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション(発達と保育の営み)
 - 第2回 運動の発達(乳幼児)
 - 第3回 認知の発達 各発達段階と年齢の特徴
 - 第4回 認知の発達 発達の仕組み
 - 第5回 言語・コミュニケーションの発達 前言語的コミュニケーション
 - 第6回 言語・コミュニケーションの発達 言語的コミュニケーション
 - 第7回 知能の発達
 - 第8回 情動の発達
 - 第9回 気質の発達
 - 第10回 遊びの発達
 - 第11回 親子関係・きょうだい関係・仲間関係の発達
 - 第12回 道徳性・向社会的行動の発達
 - 第13回 自己の発達(自我から自己へ)
 - 第14回 乳幼児期の発達の連関 歩行開始前
 - 第15回 乳幼児期の発達の連関 歩行開始以後
- 定期試験

【授業時間外の学習】

重要と思われる内容は、事前に予習の範囲を指定します。調べてきたことを、ノート等にまとめておくこと。(2時間)復習として、授業終了後新たに抱いた疑問などについて調べ、ノートなどに整理しておくこと。(2時間)

【成績の評価】

- ・授業への参加度(10%)、提出物(授業へのコメント・レポート)(20%)、テスト(70%)から総合的に評価します。
- ・提出物に関しては、授業時にコメントを返却します。試験については、個人的に研究室でフィードバックします。

【使用テキスト】

本郷一夫(編著)『シードブック 発達心理学 保育・教育に活かす子どもの理解』(建帛社、2007年)1995円

【参考文献】

幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)

科目名： <K0K02> 教育心理学
担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

教師は、幼児・児童の発達、学習状態を正しくとらえ、それに応じて指導することが求められています。本講義では、児童・生徒の性格、知的能力（記憶、思考、学習）、やる気、学習指導と評価などについての基本的知識の獲得を目指します。また、特別な学習支援が必要な幼児・児童の学習過程についても、その特徴などを学びます。本講義の目標は「心理学による教育方法の充実」です。小学校・特別支援学校や幼稚園・保育所で直接に子どもの教育・保育に関わるに際し必要となる理論を紹介し受講した学生が理論と教育実践と結びつけられることをめざします。

【到達目標】

1. 学生が子どもの教育・保育にあたるための幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、理論を含めた基礎的な知識を身に付けることができる。
2. 学生が各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる。
3. 学生がそのような知識をどのようにして子どもの教育・保育の実践に生かせるのか考える態度を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：記憶（1）記憶のメカニズム
 - 第3回：記憶（2）効率的に覚えてられる指導
 - 第4回：学習（1）古典的条件づけと道具的条件づけによる学習のメカニズム
 - 第5回：学習の動機づけ（1）達成動機づけを高く保つ要因
 - 第6回：学習の動機づけ（2）学習の理由や目的が動機づけに及ぼす影響
 - 第7回：発達 遺伝と環境が発達に及ぼす影響
 - 第8回：知的能力の発達 IQとは何か
 - 第9回：人格の発達 発達段階における課題と性格特性
 - 第10回：発達障害の理解と支援
 - 第11回：学習指導の形態と効果
 - 第12回：教育評価の方法と効果
 - 第13回：学級における社会的構造
 - 第14回：学級の荒れと学級の特徴
 - 第15回：教育心理学を学ぶ意義
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習として、テキストの指定範囲を読み理解しておくこと、およびICTを利用した予習の確認問題を課す（2時間）。復習として、授業内容のまとめや授業で扱った理論を応用した実践を考えること、考えた実践についてディカッションすることを課す（2時間）。

【成績の評価】

各回の授業の最後に行う課題（30%）、心理学実験・調査への参加（10%）、および、定期試験（60%）の総合判断により行う。
授業内に実施する課題は次回授業時に解答のポイントを示すとともに受講学生の回答を全体で共有することによりフィードバックを行う。
定期試験の結果は採点基準と解答のポイントを研究室のドアに掲示し希望者にはオフィスアワーの際に個別対応して解説する。

【使用テキスト】

鎌原雅彦・竹綱誠一郎 著（2019）「やさしい教育心理学」（有斐閣）

【参考文献】

- 大久保智生・牧郁子（2019）「教師として考えつづけるための教育心理学 多角的な視点から学校の現実を考える」（ナカニシヤ出版）
森敏昭・青木多寿子・淵上克義 編（2010）「よくわかる学校教育心理学」（ミネルヴァ書房）
中澤潤 編（2008）「よくわかる教育心理学」（ミネルヴァ書房）
石井正子・松尾直博 編著（2004）「教育心理学 保育者をめざす人へ」（樹村房）
藤田哲也 編著（2007）「絶対に役立つ教育心理学」（ミネルヴァ書房）

科目名： <KOK03> 教育相談

担当教員： 織田 幸美(ODA Yukimi)

【授業の紹介】

教育相談は、子どもたちの心理的発達を支援するための日常的な教育活動であり、教育の専門家としての教師にとって、教育相談に関する基礎的知識の習得は不可欠である。発達段階に即しつつ、個々の特性や課題を適切に捉えるための基礎的知識や、保護者や関係機関と連携して子どもを支援するために必要な知識を身につける。また、複雑化する教育相談に関する問題について柔軟に対応するためのスキルについて学習する。

授業では、子ども理解の方法およびそれに基づく援助の方法について、具体的事例を挙げながら学習していく。また、保護者や関係諸機関との連携の実際や、生徒の心理的成長を支える予防的援助について学習する。

【到達目標】

到達目標は以下の4点である。

1. 学校における教育相談の意義と理論を理解する。
2. 教育相談を進める際に必要な基礎的知識を理解する。
3. 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。
4. 学校での生徒に対する予防的心理教育の方法について理解し、実践力を高める。

【授業計画】

- 第1回 教育相談の理解
- 第2回 教育相談の基礎理論
- 第3回 教育相談の方法
- 第4回 子どもの発達段階と課題
- 第5回 子ども理解の意義と方法
- 第6回 アセスメントの実際
- 第7回 反社会的行動の理解と対応
- 第8回 非社会的行動の理解と行動
- 第9回 特別な支援を必要とする子どもの理解と対応
- 第10回 教育相談に生かせるカウンセリングの理論
- 第11回 チームで行う教育相談
- 第12回 育てる教育相談
- 第13回 育てる教育相談
- 第14回 教師の成長と教育相談
- 第15回 学校教育と教育相談

定期試験

【授業時間外の学習】

指示した内容について調べておくとともに、配布資料を必ず読んで講義に臨むこと。内容についての小レポートを課すので復讐をしておくこと。

【成績の評価】

学期末試験（80%）と小レポート（20%）

【使用テキスト】

授業時間中に資料を配布します。

【参考文献】

生徒指導提要（平成22年3月 文部科学省 教育図書）
初めて学ぶ教職 教育相談（2019年3月 吉田武男監修 ミネルヴァ書房）
新訂版 学校教育相談入門（2014年5月 有村久春 金子書房）

科目名： <KOK04> 保育内容 - 人間関係

担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

子どもたちを取り巻く「人間関係」の希薄さ、子ども自身の「人間関係」づくりの弱さなどの問題に対し、保育者として、また、親としてどのように対応すればいいのだろうか。幼稚園教育要領、および、保育所保育指針における基本理念をふまえながら、乳幼児の様々な生活場面での「人とのかかわり」の育ちについて、心理学的な知識を仲立ちとした、保育理念と保育実践の統合という観点から検討します。子どもの育ちについて理論と実践力を兼ね備えた、子育て支援社会を支える豊かな心と創造力を身に付けることをめざします。

【到達目標】

領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すことができるものである。

1. 学生が、幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて深く理解できる。
2. 学生が、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して理論と結びついた実践的な保育を構想する方法を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：現代社会と子どもの「人間関係」（教材研究に係る内容）
 - 第3回：外国の保育（教材研究に係る内容）
 - 第4回：道徳性の芽生えとルール（1）（道徳性の芽生えを培う、教材研究に係る内容）
 - 第5回：道徳性の芽生えとルール（2）（集団のルールやきまりに気づき守る、教材研究に係る内容）
 - 第6回：道徳性と向社会的行動の発達（1）（道徳性の発達理論、ねらいと内容を考える）
 - 第7回：道徳性と向社会的行動の発達（2）（向社会的行動と社会化への支援、ねらいと内容を考える）
 - 第8回：ジェンダーと保育（保育実践の動向を知る、教材研究に係る内容）
 - 第9回：ジェンダーフリーの教育から学ぶ（保育実践の動向を知る、教材研究に係る内容、ICT機器、教材の活用を含む）
 - 第10回：多様な文化的背景をもつ幼児の保育（教材研究に係る内容）
 - 第11回：乳児期の自己の発達（保育の展開を考える）
 - 第12回：幼児期の自己の発達（保育の展開を考える）
 - 第13回：乳児期の人間関係の特徴（保育の展開を考える）
 - 第14回：幼児期の人間関係の特徴（保育の展開を考える）
 - 第15回：まとめ（保育における人間関係の大切さを考える）
- 定期試験は実施しない（レポート）

【授業時間外の学習】

予習としてテキスト該当範囲の読み、内容について理解しておくことを求める（20分）。復習として、授業内で行ったディスカッションの内容をまとめ（20分）、事例についての対応や考えをまとめることを求める（20分）。

【成績の評価】

授業の授業課題（30%）、心理学関連調査への参加状況（10%）、グループ発表（30%）、期末レポート（30%）の総合判断により行います。

授業での課題や発表については授業内でフィードバックを行う。

レポートについては、全体傾向と採点基準について研究室のドアに掲示する。

【使用テキスト】

新保育ライブラリー 保育内容 人間関係（小田豊・奥野正義 編著、北大路書房、2009年）

【参考文献】

平成30年施行 保育所保育指針幼稚園教育要領幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント（汐見稔幸・武藤 隆監修、ミネルヴァ書房、2018年）

保育所保育指針平成29年告示（フレーベル館、2017年）

幼稚園教育要領平成29年告示付・教育基本法、学校教育法（抄）、学校教育法施行規則（抄）（フレーベル館、2017年）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領平成29年告示（フレーベル館、2017年）

科目名： <KOK05> 保育内容 - 人間関係 【発A】

担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

本講義では、保育内容 - 人間関係 に引き続き、幼稚園教育要領、および、保育所保育指針の基本理念をふまえた上で、子どもの人間関係をどのようにとらえるのか、また指導はどのようにあるべきかについて、人間関係に関するさまざまな心理学的知見をもとに検討する。特に、日々の保育の中で起こりうる子どもの「人とのかかわり」に関する具体的な問題を多くとりあげ、そのような問題に対処する理論に基づいた基本的な考え方と対処方法について学ぶ。保育や教育で必要となる理論と実践を備え、子育て支援社会を支えるための実践力の向上をめざす。

【到達目標】

領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すものである。

1. 学生が、幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて深く理解できる。
2. 学生が、乳幼児の「人とのかかわり」に関するさまざまな事項を検討・考察することで、人間関係全般に関する基礎的指導力のさらなる育成を目標とする。
3. 学生が、子どもにとっての人とのかかわりの意味の重要性をあらためて理解し、主観に陥らない子どもと問題のとらえ方を身に付け、子育て支援社会を支えるための実践力の向上をめざす。

【授業計画】

- 第1回：あそびと人間関係
 - 第2回：あそびと保育者
 - 第3回：新しいあそび
 - 第4回：保育者と子どもの人間関係(1)(6ヶ月未満児、6ヶ月～1歳3ヶ月児の保育)
 - 第5回：保育者と子どもの人間関係(2)(1歳3ヶ月～2歳児の保育)
 - 第6回：保育者と子どもの人間関係(3)(幼児の仲間づくりと保育者)
 - 第7回：長時間の昼間保育の効果
 - 第8回：人間関係でちょっと気になる子ども(1)(「気になる子ども」と自分の「見方」)
 - 第9回：人間関係でちょっと気になる子ども(2)(「気になる子ども」のチェックリスト)
 - 第10回：保育所・幼稚園における人間関係
 - 第11回：地域に生きる保育者の人間関係
 - 第12回：保育者同士の人間関係
 - 第13回：領域「人間関係」の考え方(1)(幼稚園教育要領を中心に)
 - 第14回：領域「人間関係」の考え方(2)(保育所保育指針を中心に)
 - 第15回：まとめ(現代社会における保育者の役割を考える)
- 定期試験は実施しない(レポート)

【授業時間外の学習】

テキスト該当範囲の予習を課す(各30分)。また各回の内容についてグループでの発表を課すため、資料作成等を課す(計8時間)。また、グループをつくり最低1回は授業内容について資料を作成し、発表することになります。担当回の授業資料は、授業時間外に作成することになります。

【成績の評価】

授業の授業課題(30%)、心理学関連調査への参加状況(10%)、グループ発表(30%)、期末レポート(30%)の総合判断により行います。

授業での課題や発表については授業内でフィードバックを行う。

レポートについては、全体傾向と採点基準について研究室のドアに掲示する。

【使用テキスト】

新保育ライブラリー 保育内容 人間関係(小田豊・奥野正義 編著、北大路書房、2009年)

【参考文献】

平成30年施行 保育所保育指針幼稚園教育要領幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント(汐見稔幸・武藤 隆監修、ミネルヴァ書房、2018年)

保育所保育指針平成29年告示(フレーベル館、2017年)

幼稚園教育要領平成29年告示付・教育基本法、学校教育法(抄)、学校教育法施行規則(抄)(フレーベル館、2017年)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領平成29年告示(フレーベル館、2017年)

科目名： <K0K05> 保育内容 - 人間関係 【発B】

担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

本講義では、保育内容 - 人間関係 に引き続き、幼稚園教育要領、および、保育所保育指針の基本理念をふまえた上で、子どもの人間関係をどのようにとらえるのか、また指導はどのようにあるべきかについて、人間関係に関するさまざまな心理学的知見をもとに検討する。特に、日々の保育の中で起こりうる子どもの「人とのかかわり」に関する具体的な問題を多くとりあげ、そのような問題に対処する理論に基づいた基本的な考え方と対処方法について学ぶ。保育や教育で必要となる理論と実践を備え、子育て支援社会を支えるための実践力の向上をめざす。

【到達目標】

領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すものである。

1. 学生が、幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて深く理解できる。
2. 学生が、乳幼児の「人とのかかわり」に関するさまざまな事項を検討・考察することで、人間関係全般に関する基礎的指導力のさらなる育成を目標とする。
3. 学生が、子どもにとっての人とのかかわりの意味の重要性をあらためて理解し、主観に陥らない子どもと問題のとらえ方を身に付け、子育て支援社会を支えるための実践力の向上をめざす。

【授業計画】

- 第1回：あそびと人間関係
 - 第2回：あそびと保育者
 - 第3回：新しいあそび
 - 第4回：保育者と子どもの人間関係(1)(6ヶ月未満児、6ヶ月～1歳3ヶ月児の保育)
 - 第5回：保育者と子どもの人間関係(2)(1歳3ヶ月～2歳児の保育)
 - 第6回：保育者と子どもの人間関係(3)(幼児の仲間づくりと保育者)
 - 第7回：長時間の昼間保育の効果
 - 第8回：人間関係でちょっと気になる子ども(1)(「気になる子ども」と自分の「見方」)
 - 第9回：人間関係でちょっと気になる子ども(2)(「気になる子ども」のチェックリスト)
 - 第10回：保育所・幼稚園における人間関係
 - 第11回：地域に生きる保育者の人間関係
 - 第12回：保育者同士の人間関係
 - 第13回：領域「人間関係」の考え方(1)(幼稚園教育要領を中心に)
 - 第14回：領域「人間関係」の考え方(2)(保育所保育指針を中心に)
 - 第15回：まとめ(現代社会における保育者の役割を考える)
- 定期試験は実施しない(レポート)

【授業時間外の学習】

テキスト該当範囲の予習を課す(各30分)。また各回の内容についてグループでの発表を課すため、資料作成等を課す(計8時間)。また、グループをつくり最低1回は授業内容について資料を作成し、発表することになります。担当回の授業資料は、授業時間外に作成することになります。

【成績の評価】

授業の授業課題(30%)、心理学関連調査への参加状況(10%)、グループ発表(30%)、期末レポート(30%)の総合判断により行います。

授業での課題や発表については授業内でフィードバックを行う。

レポートについては、全体傾向と採点基準について研究室のドアに掲示する。

【使用テキスト】

新保育ライブラリー 保育内容 人間関係(小田豊・奥野正義 編著、北大路書房、2009年)

【参考文献】

平成30年施行 保育所保育指針幼稚園教育要領幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント(汐見稔幸・武藤 隆監修、ミネルヴァ書房、2018年)

保育所保育指針平成29年告示(フレーベル館、2017年)

幼稚園教育要領平成29年告示付・教育基本法、学校教育法(抄)、学校教育法施行規則(抄)(フレーベル館、2017年)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領平成29年告示(フレーベル館、2017年)

科目名： <K0K06> 保育内容 - 環境 【発A】

担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。子どもは、周囲の様々な環境（人、もの、自然、社会、文化など）に好奇心や探究心をもって関わります。子どもにとってよりよい環境や保育者が果たす役割などについて、具体的指導場面での事例や体験的な実践を通して考えながら、保育実践力を培っていきます。その中でも、主に自然との関わりに焦点をあて、大学内のフィールドワークを通して指導上の留意点等について考え、保育実践力向上を目指します。

また、小学校教育とのつながりを理解し、連携をしていく上での工夫や配慮等についても考えていきます。

【到達目標】

1. 領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解できる。
2. 保育内容「環境」のねらいや内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解できる。
3. 幼児理解と評価についての考え方を理解できる。
4. 領域「環境」と小学校移行の教科等とのつながりを理解できる。

【授業計画】

- | | |
|------|------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション、「環境」とは |
| 第2回 | 5領域の中の「環境」について、領域「環境」のねらいと内容 |
| 第3回 | 0, 1, 2歳児の育ちと環境とのかかわり |
| 第4回 | 3, 4, 5歳児の育ちと環境とのかかわり |
| 第5回 | 身近な自然との関わりと具体的活動（子どもの育ち・発達を捉える） |
| 第6回 | 身近な自然との関わりと具体的活動（保育者の援助や関わり） |
| 第7回 | 身近な自然との関わりと具体的活動 グループワーク |
| 第8回 | 身近な自然との関わりと具体的活動 グループワーク |
| 第9回 | 身近な自然との関わりと具体的活動 発表・実践 |
| 第10回 | 身近な自然との関わりと具体的活動 振り返り・評価 |
| 第11回 | 数量・図形との関わりと具体的な活動（子どもの育ち・発達を捉える） |
| 第12回 | 数量・図形との関わりと具体的な活動（保育者の援助や関わり） |
| 第13回 | 幼小接続期の育ちと環境とのかかわり |
| 第14回 | 身近な自然との関わりと具体的活動 「オリジナル植物図鑑」の作品鑑賞会 |
| 第15回 | 保育の現代的課題（ESD）、まとめ（これまでの学びの振り返り） |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・要領及び指針の領域「環境」についてよく読んでおくこと。（30分）
- ・次回の授業までに課題がある場合は、事前に伝えるのでレポートにまとめてくること。（1時間）
- ・各自で情報収集を行い、「オリジナル植物図鑑」を作成すること。（計15時間）
- ・配布資料をよく読み、授業の振り返りをしておくこと。（30分）

【成績の評価】

関心・態度（10%）、授業時のワークシート及びオリジナル植物図鑑（60%）、定期試験（30%）
ワークシートや課題については、添削して授業時に返却したり、次時の授業で活用したりする。

【使用テキスト】

文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

【参考文献】

厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

科目名： <K0K06> 保育内容 - 環境 【発B】

担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。子どもは、周囲の様々な環境（人、もの、自然、社会、文化など）に好奇心や探究心をもって関わります。子どもにとってよりよい環境や保育者が果たす役割などについて、具体的指導場面での事例や体験的な実践を通して考えながら、保育実践力を培っていきます。その中でも、主に自然との関わりに焦点をあて、大学内のフィールドワークを通して指導上の留意点等について考え、保育実践力向上を目指します。

また、小学校教育とのつながりを理解し、連携をしていく上での工夫や配慮等についても考えていきます。

【到達目標】

1. 領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解できる。
2. 保育内容「環境」のねらいや内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解できる。
3. 幼児理解と評価についての考え方を理解できる。
4. 領域「環境」と小学校移行の教科等とのつながりを理解できる。

【授業計画】

- | | |
|------|------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション、「環境」とは |
| 第2回 | 5領域の中の「環境」について、領域「環境」のねらいと内容 |
| 第3回 | 0, 1, 2歳児の育ちと環境とのかかわり |
| 第4回 | 3, 4, 5歳児の育ちと環境とのかかわり |
| 第5回 | 身近な自然との関わりと具体的活動（子どもの育ち・発達を捉える） |
| 第6回 | 身近な自然との関わりと具体的活動（保育者の援助や関わり） |
| 第7回 | 身近な自然との関わりと具体的活動 グループワーク |
| 第8回 | 身近な自然との関わりと具体的活動 グループワーク |
| 第9回 | 身近な自然との関わりと具体的活動 発表・実践 |
| 第10回 | 身近な自然との関わりと具体的活動 振り返り・評価 |
| 第11回 | 数量・図形との関わりと具体的な活動（子どもの育ち・発達を捉える） |
| 第12回 | 数量・図形との関わりと具体的な活動（保育者の援助や関わり） |
| 第13回 | 幼小接続期の育ちと環境とのかかわり |
| 第14回 | 身近な自然との関わりと具体的活動 「オリジナル植物図鑑」の作品鑑賞会 |
| 第15回 | 保育の現代的課題（ESD）、まとめ（これまでの学びの振り返り） |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・要領及び指針の領域「環境」についてよく読んでおくこと。（30分）
- ・次回の授業までに課題がある場合は、事前に伝えるのでレポートにまとめてくること。（1時間）
- ・各自で情報収集を行い、「オリジナル植物図鑑」を作成すること。（計15時間）
- ・配布資料をよく読み、授業の振り返りをしておくこと。（30分）

【成績の評価】

関心・態度（10%）、授業時のワークシート及びオリジナル植物図鑑（60%）、定期試験（30%）
ワークシートや課題については、添削して授業時に返却したり、次時の授業で活用したりする。

【使用テキスト】

文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

【参考文献】

厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

科目名： <K0K07> 保育内容 - 環境 【発A】

担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。環境では、環境の内容を発展させ、子どもが主体的に環境に関わる力を育む保育について、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付けていきます。そのため、指導案や指導計画の作成、模擬保育を行い、こどもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を培っていきます。

また、園の室内環境や安全な環境について知識や技術を深めたり、現代的課題や保育実践の動向について学んだりすることを通して、保育構想の向上を目指します。

【到達目標】

1. 幼児の発達や学びの過程を理解し、環境を再構成することができる専門的知識や実践力を身に付けることができる。
2. 領域「環境」の特性及び情報機器や教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。
3. 具体的な保育を構想した指導案や指導計画を作成することができる。
4. 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けることができる。
5. 現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

【授業計画】

- | | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション・環境を通して行う教育・保育の意義 |
| 第2回 | 園の環境をデザインする（室内環境） |
| 第3回 | 園の環境をデザインする（室内環境） |
| 第4回 | 社会生活とのかかわり（文化や伝統、行事に親しむ保育の実際） |
| 第5回 | 指導形態とカリキュラム |
| 第6回 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（指導計画・指導案の作成） |
| 第7回 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（指導計画・指導案の作成） |
| 第8回 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際） |
| 第9回 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際） |
| 第10回 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際） |
| 第11回 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際） |
| 第12回 | 指導の実際の振り返り、幼児理解と評価（記録と映像資料等の活用） |
| 第13回 | 物や人との関わりを深める環境の構成と保育の展開（映像資料等の活用） |
| 第14回 | 乳幼児の安全な環境について |
| 第15回 | 保育内容における現代的課題や保育実践の動向、まとめ（これまでの学びの振り返り） |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・要領及び指針の領域「環境」についてよく読んでおくこと。（30分）
- ・次回の授業までに課題がある場合は、事前に伝えるのでレポートにまとめてくること。（1時間）
- ・指導案や指導計画を作成し、模擬保育の準備をすること。（計10時間）
- ・配布資料をよく読み、授業の振り返りをしておくこと。（30分）

【成績の評価】

関心・態度（10%）、グループ活動・ワークシート及び事前課題・指導案等の提出（60%）、定期試験（30%）

授業の振り返りやレポートは、添削して授業時に返却したり、次時の授業で活用したりする。

【使用テキスト】

文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

【参考文献】

厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

科目名： <K0K07> 保育内容 - 環境 【発B】

担当教員： 川口 めぐみ

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。環境 では、環境 の内容を発展させ、子どもが主体的に環境に関わる力を育む保育について、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付けていきます。そのため、指導案や指導計画の作成、模擬保育を行い、こどもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を培っていきます。

また、園の室内環境や安全な環境について知識や技術を深めたり、現代的課題や保育実践の動向について学んだりすることを通して、保育構想の向上を目指します。

【到達目標】

1. 幼児の発達や学びの過程を理解し、環境を再構成することができる専門的知識や実践力を身に付けることができる。
2. 領域「環境」の特性及び情報機器や教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。
3. 具体的な保育を構想した指導案や指導計画を作成することができる。
4. 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けることができる。
5. 現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

【授業計画】

- | | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション・環境を通して行う教育・保育の意義 |
| 第2回 | 園の環境をデザインする（室内環境） |
| 第3回 | 園の環境をデザインする（室内環境） |
| 第4回 | 社会生活とのかかわり（文化や伝統、行事に親しむ保育の実際） |
| 第5回 | 指導形態とカリキュラム |
| 第6回 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（指導計画・指導案の作成） |
| 第7回 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（指導計画・指導案の作成） |
| 第8回 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際） |
| 第9回 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際） |
| 第10回 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際） |
| 第11回 | 子どもの環境に関わる姿と援助の工夫（情報機器や教材を活用した指導の実際） |
| 第12回 | 指導の実際の振り返り、幼児理解と評価（記録と映像資料等の活用） |
| 第13回 | 物や人との関わりを深める環境の構成と保育の展開（映像資料等の活用） |
| 第14回 | 乳幼児の安全な環境について |
| 第15回 | 保育内容における現代的課題や保育実践の動向、まとめ（これまでの学びの振り返り） |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・要領及び指針の領域「環境」についてよく読んでおくこと。（30分）
- ・次回の授業までに課題がある場合は、事前に伝えるのでレポートにまとめてくること。（1時間）
- ・指導案や指導計画を作成し、模擬保育の準備をすること。（計10時間）
- ・配布資料をよく読み、授業の振り返りをしておくこと。（30分）

【成績の評価】

関心・態度（10%）、グループ活動、ワークシート及び事前課題、指導案等の提出（60%）、定期試験（30%）
授業の振り返りやレポートは、添削して授業時に返却したり、次時の授業で活用したりする。

【使用テキスト】

文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

【参考文献】

厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

科目名： <K0K08> 道徳教育論【3年～】

担当教員： 七條 正典(SHICHIJO Masanori)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目である。学校現場や教育行政での豊富な経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行う。授業の内容は、大まかに理論編と実践編に分ける。理論編では、現代社会と道徳問題について概説し、道徳及び道徳教育の本質について講義する。実践編では、学習指導要領に基づいた道徳教育のあり方や実践的方法について具体例や模擬授業を通して考えていく。

以上のことを通して、教育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育の実践と関連づけて理解できるようにする。

【到達目標】

道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付けることができる。

道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解することができる。

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導法を理解することができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション

第2回：[]理論編：現代社会と道徳問題

第3回：道徳の本質

第4回：道徳性の発達

第5回：道徳教育の歴史

第6回：学校における道徳教育及び道徳科の目標と内容

第7回：[]実践編：学校における道徳教育の指導計画

第8回：道徳科の指導方法

第9回：道徳科の教材と授業設計（小学校）（価値内容と教材分析）

第10回：道徳科の教材と授業設計（小学校）（教材の活用と授業設計）

第11回：学習指導案の作成（小学校）（学習指導案作成の手順と内容）

第12回：学習指導案の作成（小学校）（学習指導案の作成）

第13回：模擬授業と学習評価（小学校）（模擬授業の準備）

第14回：模擬授業と学習評価（小学校）（模擬授業の実施と評価）

第15回：学校全体で取り組む道徳科を要とした道徳教育の推進

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

前時に指示した内容について調べておくとともに、配布資料を必ず読んで講義に臨むこと（1時間）。

【成績の評価】

定期試験（30%）、授業への取り組み及び指導案や小レポート（70%）

なお、定期試験の結果については、オフィスアワーの際に解説する。また、小レポートは添削して授業時に返却する。

【使用テキスト】

『小学校学習指導要領解説 道徳編』、『中学校学習指導要領解説 道徳編』、平成29年、文部科学省

【参考文献】

授業時に随時提示する。またはプリントを配布する。

科目名： <K0K08> 道徳教育論【2年】

担当教員： 七條 正典(SHICHIJO Masanori)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目である。学校現場や教育行政での豊富な経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行う。授業の内容は、大まかに理論編と実践編に分ける。理論編では、現代社会と道徳問題について概説し、道徳及び道徳教育の本質について講義する。実践編では、学習指導要領に基づいた道徳教育のあり方や実践的方法について具体例や模擬授業を通して考えていく。

以上のことを通して、教育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育の実践と関連づけて理解できるようにする。

【到達目標】

道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付けることができる。

道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解することができる。

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導法を理解することができる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション

第2回：[]理論編：現代社会と道徳問題

第3回：道徳の本質

第4回：道徳性の発達

第5回：道徳教育の歴史

第6回：学校における道徳教育及び道徳科の目標と内容

第7回：[]実践編：学校における道徳教育の指導計画

第8回：道徳科の指導方法

第9回：道徳科の教材と授業設計（小学校）（価値内容と教材分析）

第10回：道徳科の教材と授業設計（小学校）（教材の活用と授業設計）

第11回：学習指導案の作成（小学校）（学習指導案作成の手順と内容）

第12回：学習指導案の作成（小学校）（学習指導案の作成）

第13回：模擬授業と学習評価（小学校）（模擬授業の準備）

第14回：模擬授業と学習評価（小学校）（模擬授業の実施と評価）

第15回：学校全体で取り組む道徳科を要とした道徳教育の推進

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

前時に指示した内容について調べておくとともに、配布資料を必ず読んで講義に臨むこと（1時間）。

【成績の評価】

定期試験（30%）、授業への取り組み及び指導案や小レポート（70%）

なお、定期試験の結果については、オフィスアワーの際に解説する。また、小レポートは添削して授業時に返却する。

【使用テキスト】

『小学校学習指導要領解説 道徳編』、『中学校学習指導要領解説 道徳編』、平成29年、文部科学省

【参考文献】

授業時に随時提示する。またはプリントを配布する。

科目名： <K0K09> 生徒指導の研究（進路指導を含む）

担当教員： 七條 正典(SHICHIJO Masanori)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目である。学校現場や教育行政での豊富な経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行う。また、授業の内容は、学校における生徒指導の進め方、進路指導・キャリア教育のあり方について、児童生徒の社会的な自己実現に関わる様々な「問題」やトピックスを取り上げながら臨床教育学的に考察するものである。

以上のことを通して、教育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育の実践と関連づけて理解できるようにする。

【到達目標】

この授業では、学校の教育活動全体を通じて行われる生徒指導、進路指導・キャリア教育の理論と方法について学び、学校において組織的・効果的な生徒指導と進路指導・キャリア教育を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回：生徒指導の意義と教育課程における位置づけ
 - 第2回：生徒指導の方法原理
 - 第3回：生徒指導と教育相談
 - 第4回：生徒指導と進め方（1） - ほめと叱りの人間学
 - 第5回：生徒指導の進め方（2） - 集団づくりと生徒指導
 - 第6回：生徒指導の組織的な取り組みと学校内外の連携
 - 第7回：生徒指導上の「問題」 - 不登校を中心に
 - 第8回：生徒指導上の「問題」 - いじめを中心に
 - 第9回：生徒指導ケーススタディー - 小学校の事例 -
 - 第11回：生徒指導ケーススタディー - 中学校の事例 -
 - 第11回：進路指導・キャリア教育の意義と教育課程における位置づけ
 - 第12回：職業に関する体験活動とキャリア教育
 - 第13回：進路指導・キャリア教育の組織的な推進体制と連携
 - 第14回：学校における異年齢集団活動
 - 第15回：生涯を通じたキャリア形成とキャリア・カウンセリング
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

前時に指示した内容について調べておくとともに、配布資料を必ず読んで講義に臨むこと（1時間）。

【成績の評価】

学期末試験（80%）と授業内の小レポート（20%）による総合評価
なお、定期試験の結果については、オフィスアワーの際に解説する。また、小レポートは添削して授業時に返却する。

【使用テキスト】

文部科学省『生徒指導提要』教育図書（平成22年3月）

【参考文献】

随時資料を配布する

科目名： <KIS08> 子ども家庭支援の心理学

担当教員： 磯部 健一(ISOBE Kenichi),徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

本授業は、発達科学部のディプロマ・ポリシーの中でも、「教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解する」ことに関わる授業である。特に、子どもの発達や精神保健について基礎的な事項を学習するとともに、子どもを取り巻く家庭や家族の機能を学び、それらの現状や課題の理解をめざす。

【到達目標】

1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解することができる。
2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得することができる。
3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解することができる。
4. 子どもの精神保健とその課題について理解することができる。

【授業計画】

1. 生涯発達とライフサイクル（担当：徳岡）
2. 乳幼児期から学童期（担当：徳岡）
3. 学童期後期から青年期（担当：徳岡）
4. 成人期から老年期（担当：徳岡）
5. 家族・家庭の意義と機能（担当：徳岡）
6. 親子関係の定義・特徴（担当：徳岡）
7. 子育ての経験と親としての育ち（担当：徳岡）
8. 子どもと家庭の状況（担当：徳岡）
9. ライフコースと仕事・子育て（担当：徳岡）
10. 多様な家庭とその理解（担当：徳岡）
11. 特別な配慮を要する子どもと家庭（担当：磯部）
12. 子どもの精神保健を学ぶ意義（担当：磯部）
13. 子どもの生活・生育環境とその影響（担当：磯部）
14. 子どもの心の健康にかかわる問題（1）アタッチメント障害、知的障害（担当：磯部）
15. 子どもの心の健康にかかわる問題（2）発達障害、心身症（担当：磯部）

定期試験

【授業時間外の学習】

予習として、次回の講義内容に関する範囲を教科書で指定するので、事前に読み、キーワードや専門用語の意味を調べ、ノート等にまとめておくこと（2時間）。復習として、キーワードや専門用語の意味を再度確認するとともに、授業内容を要約すること（2時間）。

【成績の評価】

予習課題15%、各授業ごとのミニレポート15%、定期試験70%、試験結果については、オフィスアワーを利用する。予習とミニレポートについては、授業時に返却する。

【使用テキスト】

原信夫・井上美鈴 著（2019）子ども家庭支援の心理学（北樹出版）

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

科目名： <KOK011> 子どもと人間関係

担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

本講義では、子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を身に付けることをめざす。また、幼稚園や保育所等で直接に子どもの保育・教育に必要な子どもたちの人間関係に関する諸理論およびその基礎となる社会性に関する諸理論を学ぶことを通じて、子どもと様々な人との関係性の質が子どもの発達にどのような影響を与えるのかを検討する。また、保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における人間関係のねらいや内容についての考え方の根拠について学ぶ。

【到達目標】

1. 領域「人間関係」の指導の基盤となる、乳幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付けることができる。
2. 乳幼児の人間関係に関する理論やその背景にある研究を検討・考察することで、乳幼児における人との関わりがどのような意味を持つかについて、学生が理論と実践を結びつけながら理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：幼稚園・保育所での人間関係
- 第3回：子どもと人間関係をめぐる現代的課題
- 第4回：愛着と信頼関係
- 第5回：自己主張と自己抑制
- 第6回：他者の心の理解
- 第7回：他者の心の理解のめばえと深まり
- 第8回：うそと欺きの発達からみる子どもの社会性
- 第9回：道徳性の発達
- 第10回：コミュニケーションの発達
- 第11回：メタ認知と社会性
- 第12回：あそびの中における人間関係の発達（1）Parten理論、形態論と目標水準仮説
- 第13回：あそびの中における人間関係の発達（2）Brunerの足場づくり理論
- 第14回：実践の理論化
- 第15回：教育要領や保育指針からみる人間関係

【授業時間外の学習】

各回で学習内容した内容をまとめる課題を課す（30分）。また、各回の概要について配布した資料などを用いて予習する範囲を指示する（30分）。

【成績の評価】

定期試験（60%）、授業課題（40%）の割合で総合評価する。授業課題については、課題を実施した次の授業にて全体に対してフィードバックを行う。試験については、全体の傾向について研究室のドアに掲示する。

【使用テキスト】

授業中に適宜資料を配布する。

【参考文献】

集団遊びの発達心理学（平成26年、田中浩司著、北大路書房）
新時代の保育双書 保育内容人間関係（平成21年、濱名浩編著、みらい）
子どもの社会的な心の発達（平成28年、林創著、金子書房）

科目名： <KOK012> 子どもと環境

担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi)

【授業の紹介】

この授業は実務経験のある教員による授業科目である。この授業では、領域「環境」の側面から、幼児の発達とその指導について学習する。教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するために、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容を基本とし、幼児が経験し身に付けていく心情・意欲・態度について具体的に学ぶ。教育・保育に携わる者に求められる豊かな心や様々なものへの興味・関心を持ち続けるために、実践的な活動と結びつけて理解することをめざす。子どもたちの生活や遊び、そして5領域と関連させながら、就学前教育における領域「環境」について学習し、教育・保育の実践力を身につける。この授業を通して、日常の生活においても身近な環境に意識を向け、継続的に学ぶ力を養うことをめざす。

【到達目標】

1. 領域「環境」のねらい及び内容を理解し、記述できる。
2. 領域「環境」において幼児が経験し身に付けていく内容について知り、子どもの育ちと活動を関連づけて、考えることができる。
3. 領域「環境」に関連する基本的な知識を身に付け、教育・保育の実践的な活動を自分で考えることができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション（領域「環境」とは）
- 第2回：身近な環境と子どもの育ち
- 第3回：身近な自然との関わり
- 第4回：生き物との関わり
- 第5回：ものの性質・仕組みへの関心
- 第6回：季節・生活の変化への関心
- 第7回：数量・図形などへの関心
- 第8回：標識・文字などへの関心
- 第9回：生活のなかの情報と地域施設への関心
- 第10回：子どもの遊びと領域「環境」
- 第11回：領域「環境」と指導計画
- 第12回：領域「環境」と観察・記録
- 第13回：領域「環境」の実践事例から学ぶ
- 第14回：5領域と領域「環境」について
- 第15回：現代社会における子どもと「環境」

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

予習として、次回の授業内容に関連する情報を収集したり、身近な環境を調べたりする。（1時間）復習として、授業シート・配布資料等を読み返し、学習内容・疑問点等をノートにまとめる。（1時間）

【成績の評価】

レポート（40%）、毎回の授業シート（30%）、小テスト（30%）により、評価する。
レポート・授業シート・小テストは添削して授業時に返却する。

【使用テキスト】

- ・文部科学省「幼稚園教育要領解説」（2018）
- ・神長美津子他編著『乳幼児教育・保育シリーズ 保育内容 環境』（2018年,光生館）

【参考文献】

- ・内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（2018）
- ・厚生労働省「保育所保育指針解説」（2018）

専門科目:子どもの体の育ちを支える科目

| 科目 | 担当教員 |
|----------------------|--------|
| <KARA31>乳児保育Ⅰ【2年】 | 川原 亜津美 |
| <KARA31>乳児保育Ⅰ【3年～】 | 川原 亜津美 |
| <KARA32>乳児保育Ⅱ | 川原 亜津美 |
| <KARA3>子どもの食と栄養Ⅰ | 川染 節江 |
| <KARA4>子どもの食と栄養Ⅱ | 川染 節江 |
| <KARA5>子どもの保健 | 磯部 健一 |
| <KARA5>子どもの保健Ⅰ－Ⅰ | 磯部 健一 |
| <KARA7>子どもの保健Ⅱ | 磯部 健一 |
| <KARA8>保育内容－健康Ⅰ【発A】 | 田中 美季 |
| <KARA8>保育内容－健康Ⅰ【発B】 | 田中 美季 |
| <KARA9>保育内容－健康Ⅱ【発A】 | 田中 美季 |
| <KARA9>保育内容－健康Ⅱ【発B】 | 田中 美季 |
| <KARA10>体育Ⅰ－Ⅰ | 山神 眞一 |
| <KARA11>体育Ⅰ－Ⅱ | 山神 眞一 |
| <KARA12>体育Ⅱ－Ⅰ【小対象】 | 上野 耕平 |
| <KARA12>体育Ⅱ－Ⅰ【幼保対象】 | 花城 清紀 |
| <KARA13>体育Ⅱ－Ⅱ【小対象】 | 上野 耕平 |
| <KARA13>体育Ⅱ－Ⅱ【幼保対象】 | 花城 清紀 |
| <KARA14>野外活動実習Ⅰ | 峯 寛文 |
| <KARA15>野外活動実習Ⅱ | 峯 寛文 |
| <KARA16>保育内容－表現Ⅲ【発A】 | 田中 美季 |
| <KARA16>保育内容－表現Ⅲ【発B】 | 田中 美季 |
| <KARA7>子どもの健康と安全 | 磯部 健一 |
| <KARA6>子どもと健康 | 田中 美季 |

科目名： <KARA31> 乳児保育 【2年】

担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育士として3歳未満児の生活をつくり上げていくために必要な知識と技術を獲得することを目的としています。乳児保育の意義・目的、歴史的変遷、3歳未満児の発達、保育内容、保護者・地域との連携を基本柱として学び、保育者に求められる「理論」と「実践力」を身につけることを目指します。保育所保育だけでなく乳児院等多様な保育の現場における乳児保育の現状と課題について理解し、子育てを支える保育者としての視点を養います。

【到達目標】

- ・乳児保育に関わるねらい及び内容について理解し、記述できる。
- ・子どもの発達過程を理解し、発達の特徴について説明できる。
- ・発達に応じた子どもの生活・遊びを実現するために、必要な保育者のかかわり・環境構成を説明できる。
- ・指導計画の立案、遊び場面の観察・記録ができる。
- ・乳児保育の現状と課題について理解し、今後必要な子育て支援について考えることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 乳児保育の意義・目的
- 第3回 乳児保育の理念と歴史
- 第4回 乳児保育の基礎知識
- 第5回 乳児院における乳児保育
- 第6回 保育所における乳児保育
- 第7回 6か月未満児の発達と保育内容 保護者との連携
- 第8回 6か月から1歳未満児の発達と保育内容
- 第9回 1歳から2歳未満児の発達と保育内容
- 第10回 2歳児の発達と保育内容
- 第11回 乳児保育の計画
- 第12回 乳児保育の観察・記録及び自己評価
- 第13回 保護者・地域との連携
- 第14回 乳児保育の実際
- 第15回 保育者の専門性

定期試験なし

【授業時間外の学習】

次回の授業内容を確認し、予習としてテキスト範囲を読み、必要に応じて専門用語の意味等を調べ、A4用紙にまとめておくこと。(1時間)

授業の最後に課す課題についてレポートにまとめ、提出すること。(1時間)

【成績の評価】

小テスト40%、授業シート30%、レポート30%により、評価します。

小テスト、授業シート、レポートは、添削して授業時に返却します。

【使用テキスト】

- ・松本峰雄・池田りな監修『よくわかる！保育士エクササイズ 乳児保育演習ブック〔第2版〕』（ミネルヴァ書房 2019年）
- ・厚生労働省「保育所保育指針解説」（2018年）

【参考文献】

- ・茶々保育園グループ社会福祉法人あすみ福祉会編『見る・考える・創りだす 養成校と保育室をつなぐ理論と実践 乳児保育』（萌文書林 2019年）

科目名： <KARA31> 乳児保育 【3年～】
担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育士として3歳未満児の生活をつくり上げていくために必要な知識と技術を獲得することを目的としています。乳児保育の意義・目的、歴史的変遷、3歳未満児の発達、保育内容、保護者・地域との連携を基本柱として学び、保育者に求められる「理論」と「実践力」を身につけることを目指します。保育所保育だけでなく乳児院等多様な保育の現場における乳児保育の現状と課題について理解し、子育てを支える保育者としての視点を養います。

【到達目標】

- ・乳児保育に関わるねらい及び内容を理解し、記述できる。
- ・子どもの発達過程を理解し、発達の特徴について説明できる。
- ・発達に応じた子どもの生活・遊びを実現するために必要な、保育者のかかわり・環境構成を説明できる。
- ・指導計画の立案、遊び場面の観察・記録ができる。
- ・乳児保育の現状と課題について、自分の考えを述べるができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 乳児保育の意義・目的
- 第3回 乳児保育の理念と歴史
- 第4回 乳児保育の基礎知識
- 第5回 乳児院における乳児保育
- 第6回 保育所における乳児保育
- 第7回 6か月未満児の発達と保育内容
- 第8回 6か月から1歳未満児の発達と保育内容
- 第9回 1歳から2歳未満児の発達と保育内容
- 第10回 2歳児の発達と保育内容
- 第11回 乳児保育の計画
- 第12回 乳児保育の観察・記録及び自己評価
- 第13回 保護者・地域との連携
- 第14回 乳児保育の実際
- 第15回 保育者の専門性

定期試験なし

【授業時間外の学習】

次回の授業内容を確認し、予習としてテキスト範囲を読み、必要に応じて専門用語の意味等を調べ、A4用紙にまとめておくこと。(1時間)

授業の最後に課す課題についてレポートにまとめ、提出すること。(1時間)

【成績の評価】

小テスト40%、授業シート30%、レポート30%により、評価します。

小テスト、授業シート、レポートは、添削して授業時に返却します。

【使用テキスト】

- ・松本峰雄・池田りな監修『よくわかる！保育士エクササイズ 乳児保育演習ブック〔第2版〕』（ミネルヴァ書房 2019年）
- ・厚生労働省「保育所保育指針解説」（2018年）

【参考文献】

- ・茶々保育園グループ社会福祉法人あすみ福祉会編『見る・考える・創りだす 養成校と保育室をつなぐ理論と実践 乳児保育』（萌文書林 2019年）

科目名： <KARA32> 乳児保育

担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育の現場で求められる保育士像を理解し、3歳未満の子どもの発育・発達の過程や特性を踏まえた保育を行うために必要な「理論」と「実践力」を獲得することを目的としています。養護及び教育の一体性を踏まえ、乳児保育で学んだ基礎的な知識・技術をより発展させるために、演習を多く取り入れます。3歳未満児の保育計画の立案、情報共有手段としてのおたより作成、遊び環境としてのおもちゃ作成等、さまざまな活動を通して、保育の方法、環境構成を学び、創造力を身につけます。

【到達目標】

- ・乳児保育における保育者の配慮と環境構成について説明できる。
- ・乳児期の指導計画の立案、保育場面の観察・記録・考察ができる。
- ・保護者・地域との連携を理解し、情報共有手段としてのおたよりを作成できる。
- ・乳児期の発達に応じた遊びとおもちゃを提案し、作成できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 乳児保育の基本
- 第3回 乳児保育の一日と配慮事項
- 第4回 乳児保育の生活環境
- 第5回 乳児保育の遊び環境
- 第6回 保育課程に基づく指導計画の作成
- 第7回 観察・記録及び自己評価
- 第8回 職員間の協働
- 第9回 保護者・地域との連携
- 第10回 おたよりの作成(1) 情報収集
- 第11回 おたよりの作成(2) 情報整理・まとめ
- 第12回 おたよりの発表と相互評価
- 第13回 手づくりおもちゃの発表と相互評価
- 第14回 さまざまな子育て支援 演習の振り返りをもとに
- 第15回 乳児保育の現状と課題

定期試験なし

【授業時間外の学習】

次回の授業内容を確認し、予習としてテキスト範囲を読み、必要に応じて専門用語の意味等を調べ、A4用紙にまとめておくこと。(1時間)
おたより・おもちゃ作成のために、情報収集・教材研究をし、完成させること。(1時間)

【成績の評価】

授業シート40%、課題(おたより、手づくりおもちゃ)30%、レポート30%により、評価します。
。授業シート・レポートは添削して授業時に返却します。おたより、おもちゃについては、発表時に解説します。

【使用テキスト】

・松本峰雄・池田りな監修『よくわかる！保育士エクササイズ 乳児保育演習ブック〔第2版〕』（ミネルヴァ書房 2019年）

【参考文献】

・厚生労働省「保育所保育指針解説」（2018年）
・茶々保育園グループ社会福祉法人あすみ福祉会編『見る・考える・創りだす 養成校と保育室をつなぐ 理論と実践 乳児保育』（萌文書林 2019年）

科目名： <KARA3> 子どもの食と栄養
担当教員： 川染 節江(KAWASOME Setsue)

【授業の紹介】

「子どもの食と栄養」では、最初に栄養学の基本として栄養素と栄養について学びます。次に小学校・特別支援学校や幼稚園、保育所で、直接的に子どもの教育、保育にあたるための「食と栄養、食生活」の領域における理論と実践力を身につけることをめざした授業内容です。
また、実際に食事づくりを体験し、栄養素と体の関係を理解するように授業を進めます。

【到達目標】

1. 乳幼児期から思春期に至る子どもの心身の発達に必要な栄養素の種類とその働きを知ることができる。
2. 心身の発達に必要な栄養素と食品について知ることができる。
3. 子どもの身体の発達を評価する手法を知ることができる。(BMI、肥満度)
4. 調理実習の体験から、栄養素、消化、吸収、味覚の仕組みを理解することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション(子どもの食と栄養とは何か、学ぶ目的は何か。)
 - 第2回 子どもの心身の健康と食生活の意義(発育・発達の評価方法)、食事の目的
 - 第3回 子どもの食生活環境の現状把握と課題(世界の子どもの栄養状態)
 - 第4回 子どもの食と栄養の特徴、生涯発達と食生活
 - 第5回 栄養の基本的概念、栄養素の種類と機能
 - 第6回 栄養素の種類と機能、栄養素の消化・吸収の機能、ビデオによる学習
 - 第7回 日本人の食事摂取基準(2015年度版)、PFCのエネルギーバランス、必要な栄養素
 - 第8回 食品の基礎知識、食品の分類、市販食品の現状、食品の選び方
 - 第9回 献立作成と調理の基本
 - 第10回 調理実習 思春期の望ましい食事づくり
 - 第11回 調理実習 離乳食、子どものおやつづくり
 - 第12回 子どもの発育・発達と栄養生理 食欲・味覚の仕組みなど
 - 第13回 子どもの発育・発達と食生活 (乳児期・離乳期・幼児期)
 - 第14回 子どもの発育・発達と食生活 (学童期・思春期)
 - 第15回 重要項目について確認及びテストについて
- 定期試験

【授業時間外の学習】

復習をしっかりと、毎回の授業内容を理解するために1時間以上の復習をして、指定した授業日はレポートとして提出するように取り組んでください。
教育実習・保育実習時における食事場面をよく観察し、授業内容の理解にいかしてください。

【成績の評価】

授業態度(10%)、実習レポート(20%)、テスト結果(70%)を総合的に評価します。
講義内容のミニレポート、実習などのレポートを提出して、理解度を深め、後日、返却することでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

岡崎 光子編『子どもの食と栄養』(光生館)2015年

【参考文献】

到達目標に関連した新聞記事やデータなどの資料を配布し、保育者としての資質向上をはかる。

科目名： <KARA4> 子どもの食と栄養
担当教員： 川染 節江(KAWASOME Setsue)

【授業の紹介】

「子どもの食と栄養」では、「子どもの食と栄養」で得た子どもの健全な成長・発達に、食生活と栄養が深くかかわっていることを理解し、食育の推進・子育て支援社会を支える豊かな心と創造力を身に付けるような内容とする。

【到達目標】

1. 離乳期から乳幼児期、児童期、思春期に至る、実際の食生活のあり方を知ることができる。
2. それぞれ発達段階に応じた栄養および食生活の問題点と対応策を知り、子育て支援にいかせることができる。
3. 幼稚園、保育所、小学校における食育推進の基本と実践力を身に付けることができる。
4. 子どもの食生活におけるアレルギー対策・障害のある子どもへの食事の支援などの知識を得る。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 離乳期の意識と食生活
 - 第3回 幼児期の食生活の特徴
 - 第4回 幼児期の食生活の特徴
 - 第5回 学童期・思春期の発育・発達と食生活
 - 第6回 妊娠期の心身の発達と栄養・食生活
 - 第7回 調理実習、おやつづくり
 - 第8回 調理実習、幼児食、学童食づくり
 - 第9回 食育の基本と内容 保育園の例、食育基本法、食育推進基本計画
 - 第10回 食育の基本と内容 学童期・思春期の例（食生活上の問題点、特に朝食の必要性）
 - 第11回 家庭における食育（生活習慣病・肥満対策）
 - 第12回 児童福祉施設における食事と栄養
 - 第13回 食物アレルギー・障害がある子どもの食と栄養
 - 第14回 保育所・学校給食の変遷・現状・栄養教諭の役割・学校で食育活動
 - 第15回 各自の目標達成度の確認、及びテストについて
- 定期試験

【授業時間外の学習】

復習をしっかりと、毎回の授業内容を理解するために1時間以上の復習をして、指定した授業日はレポートとして提出するように取り組んでください。

教育実習・保育実習時における食事場面をよく観察し、授業内容の理解にいかしてください。

【成績の評価】

授業態度（10%）、実習レポート（20%）、テスト結果（70%）を総合的に評価します。

講義内容のミニレポート、実習などのレポートを提出して、理解度を深め、後日、返却することでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

岡崎 光子 編『子どもの食と栄養』（光生館）2015年

【参考文献】

到達目標に関連した新聞記事やデータなどの資料を配布し、保育者としての資質向上をはかる。

科目名： <KARA5> 子どもの保健

担当教員： 磯部 健一 (ISOBE Kenichi)

【授業の紹介】

胎生期から新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期までの小児期全体を対象としますが、特に胎生期から乳幼児までを重点的に扱います。成長発達の途上において各臓器にはさまざまな臨界期が存在しており、一度それが障害されると一生を決定づける非可逆的な変化が引き起されます。子どもの健全な成長発達とその病的な面だけでなく、生理的な面の知識を習得することが重要です。これらの知識を基本として、三つの健康（身体健康、心の健康、社会健康）を重視する視点を学習し、子どもの教育・保育にあたるための理論と実践力を修得します。

【到達目標】

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。
2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解できる。
3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。
4. 子どもの疾病とその予防法と適切な対応について理解できる。

【授業計画】

- 第1回 子どもの健康と保健の意義
 - 第2回 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
 - 第3回 地域における保健活動と子ども虐待防止
 - 第4回 身体発育及び運動機能
 - 第5回 生理機能の発達 - 1 (呼吸・循環・体温・免疫・消化器・排泄)
 - 第6回 生理機能の発達 - 2 (水分代謝・内分泌・睡眠・感覚・神経)
 - 第7回 健康状態の観察
 - 第8回 発育・発達の把握と健康診断
 - 第9回 主な疾病の特徴-1 (新生児、先天性疾患)
 - 第10回 主な疾病の特徴-2 (呼吸器、循環器、血液、消化器疾患)
 - 第11回 主な疾病の特徴-3 (アレルギー、免疫、内分泌、代謝疾患)
 - 第12回 主な疾病の特徴-4 (神経、腎・泌尿器、その他の疾患)
 - 第13回 主な疾病の特徴-5 (感染症)
 - 第14回 子どもの疾病の予防と適切な対応
 - 第15回 これまでの講義の重要ポイントのまとめと質疑応答
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業内容についてのレポート作成を課題とする。次回の講義内容に関する範囲を教科書で指定するので事前に読み、専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと。（予習と復習は、各回4時間以上行うこと）

【成績の評価】

授業参加状況・ミニレポート（10%）、小テスト（20%）、定期試験（70%）の成績により総合的に判断する。

ミニレポートと小テストは授業時に返却し解説する。

定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。

【使用テキスト】

佐藤益子、中根淳子編著『新版子どもの保健』（ななみ書房、2018年）

【参考文献】

平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（内閣府 文部科学省 厚生労働省、チャイルド本社、2017年）

科目名： <KARA5> 子どもの保健 -
担当教員： 磯部 健一 (ISOBE Kenichi)

【授業の紹介】

胎生期から新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期までの小児期全体を対象としますが、特に胎生期から乳幼児までを重点的に扱います。成長発達の途上において各臓器にはさまざまな臨界期が存在しており、一度それが障害されると一生を決定づける非可逆的な変化が引き起されます。子どもの健全な成長発達とその病的な面だけでなく、生理的な面の知識を習得することが重要です。これらの知識を基本として、三つの健康（身体健康、心の健康、社会健康）を重視する視点を学習し、子どもの教育・保育にあたるための理論と実践力を修得します。

【到達目標】

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。
2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解できる。
3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。
4. 子どもの疾病とその予防法と適切な対応について理解できる。

【授業計画】

- 第1回 子どもの健康と保健の意義
 - 第2回 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
 - 第3回 地域における保健活動と子ども虐待防止
 - 第4回 身体発育及び運動機能
 - 第5回 生理機能の発達 - 1 (呼吸・循環・体温・免疫・消化器・排泄)
 - 第6回 生理機能の発達 - 2 (水分代謝・内分泌・睡眠・感覚・神経)
 - 第7回 健康状態の観察
 - 第8回 発育・発達の把握と健康診断
 - 第9回 主な疾病の特徴-1 (新生児、先天性疾患)
 - 第10回 主な疾病の特徴-2 (呼吸器、循環器、血液、消化器疾患)
 - 第11回 主な疾病の特徴-3 (アレルギー、免疫、内分泌、代謝疾患)
 - 第12回 主な疾病の特徴-4 (神経、腎・泌尿器、その他の疾患)
 - 第13回 主な疾病の特徴-5 (感染症)
 - 第14回 子どもの疾病の予防と適切な対応
 - 第15回 これまでの講義の重要ポイントのまとめと質疑応答
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業内容についてのレポート作成を課題とする。次回の講義内容に関する範囲を教科書で指定するので事前に読み、専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておくこと。(予習と復習は各回4時間以上行うこと)

【成績の評価】

授業参加状況・ミニレポート(10%)、小テスト(20%)、定期試験(70%)の成績により総合的に判断する。
ミニレポートと小テストは授業時に返却し解説する。
定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。

【使用テキスト】

子どもの保健 (中根淳子、佐藤直子 編著、ななみ書房、2019年)

【参考文献】

平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 (平内閣府 文部科学省 厚生労働省、チャイルド本社、2017年)

科目名： <KARA7> 子どもの保健

担当教員： 磯部 健一 (ISOBE Kenichi), 小川 佳代 (OGAWA Kayo)

【授業の紹介】

子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画と評価、子どもの健康増進及び心身の成長発達を促す保健活動、子どもの病気とその予防及びその対応について学習します。そして、乳児の抱き方や計測の仕方や包帯法などの救急時の対応と事故防止、安全管理について具体的に学び理論と実践力を修得するとともに、心と身体の健康問題と地域保健活動について理解を深めます。乳幼児の身体計測と評価、乳幼児の養護と看護は小川が担当し、子どもの疾病と対応、事故防止及び健康・安全管理は磯部が担当します。

【到達目標】

1. 子どもの成長発達と健康状態を把握するための計測や観察ができる。
2. 把握した健康状態をもとに保健活動の計画やその評価ができる。
3. 救急時の対応や病気・事故が発生した時の対応について具体的にわかる。
4. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動について考えられる。

【授業計画】

- 第1回 保健活動の計画と評価 (小川)
 - 第2回 乳幼児の身体計測と評価の実際 (小川)
 - 第3回 子どもの保健と環境 (小川)
 - 第4回 乳幼児の養護(抱き方・寝かせ方・おむつ交換)(小川)
 - 第5回 乳幼児の養護(授乳・調乳・離乳食・幼児食)(小川)
 - 第6回 乳幼児の養護(乳幼児の清潔)(小川)
 - 第7回 保育における看護(一般看護、包帯法など)(小川)
 - 第8回 子どもの疾病と適切な対応(感染症の予防と対応)(磯部)
 - 第9回 子どもの疾病と適切な対応(個別的な配慮を必要とする子どもへの対応)(磯部)
 - 第10回 事故防止及び健康管理・安全管理 (磯部)
 - 第11回 災害への備えと危機管理 (磯部)
 - 第12回 子どもの救急(応急)処置 (磯部)
 - 第13回 子どもの救急蘇生法(心肺蘇生法)(磯部)
 - 第14回 心とからだの健康問題と地域保健活動 (磯部)
 - 第15回 これまでの講義の重要ポイントのまとめと質疑応答 (磯部)
- 定期試験

【授業時間外の学習】

演習内容については事前に資料を配布するので、予習をして授業に臨むこと。授業時間内で実施した演習の体験は次回までにまとめて提出すること。(予習と復習で各回1時間以上)

【成績の評価】

学習態度(10%)、演習記録などの提出物(20%)、期末試験(70%)によって総合的に判断する。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。

【使用テキスト】

中根淳子、佐藤直子 編著『子どもの健康と安全』(ななみ書房、2019年)

【参考文献】

子どもの保健(2019年9月 中根淳子、佐藤直子 編著、ななみ書房)
平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本(内閣府 文部科学省 厚生労働省、チャイルド本社、2017年)
授業中に適宜紹介する。

科目名： <KARA8> 保育内容 - 健康 【発A】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

保育内容-健康 は、本学の教育課程編成・実施の方針をふまえ、この領域の教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解するための科目として位置づけられています。

最近では、子どもの運動能力の低下や身の自立ができていないことなどが話題となっています。本来、子どもにとって『健康』とは何でしょうか？

健康 および健康 では、幼稚園・保育園の保育の基本と領域「健康」の関係を明らかにし、そのねらい、内容、方法に関して理解を深めるとともに、本来の子どもの健康を考えます。健康 では、「子どもの健康」の考え方をふまえ、健康にかかわる子どもの生活実態を中心に学びます。

【到達目標】

1. 『健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う』という目標を達成するために、どのように子どもにかかわればよいのかを探求できる。
2. 子どもがたくましく生きるための健康や体力について修得できる。
3. 子どもの心と体の「理論」と子どもが健康で安全な生活を送ることができるための「実践力」を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 「健康」の考え方
 - 第2回 子どもの健康の考え方
 - 第3回 領域「健康」において育むもの
 - 第4回 領域「健康」と他の領域との関係
 - 第5回 小学校教育と領域「健康」の関連性
 - 第6回 健康にかかわる子どもの生活実態 (睡眠について)
 - 第7回 健康にかかわる子どもの生活実態 (食生活について)
 - 第8回 健康にかかわる子どもの生活実態 (日中の活動について)
 - 第9回 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもの運動の発達について)
 - 第10回 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもの運動能力について)
 - 第11回 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもの運動能力低下の背景について)
 - 第12回 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもの運動発達の特徴について)
 - 第13回 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもと運動遊びについて)
 - 第14回 総括 (指導案の作成を含む) <子どもと生活について>
 - 第15回 総括 (指導案の作成を含む) <子どもと運動について>
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください(30分)。
また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください(30分)。

【成績の評価】

期末試験：65% (この授業は、期末試験を受験しなければ単位を修得することはできません。)

授業中に作成する小レポート：20%

授業態度：15%

全体の60%以上の得点で合格とします。

期末試験の成績および小レポートの評価については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

- 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』(平成30年3月)
- 菊地秀範 石井美晴 『子どもと健康』(萌文書林、1990年)
- 森下はるみ 池田裕恵 『健康 - 乳幼児のこころとからだ - 』(不昧堂出版、1992年)
- 生田清衛門 秋山俊夫 『内容研究 領域 健康』(北大路書房、1993年)
- 原田碩三 『幼児健康学』(黎明書房、1997年)
- 無藤隆 倉持清美 『事例で学ぶ保育内容 領域 健康』(萌文書林、2007年)
- 河邊貴子編 『演習 保育内容 健康』(建帛社、2008年)

科目名： <KARA8> 保育内容 - 健康 【発B】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

保育内容-健康 は、本学の教育課程編成・実施の方針をふまえ、この領域の教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解するための科目として位置づけられています。

最近では、子どもの運動能力の低下や身の自立ができていないことなどが話題となっています。本来、子どもにとって『健康』とは何でしょうか？

健康 および健康 では、幼稚園・保育園の保育の基本と領域「健康」の関係を明らかにし、そのねらい、内容、方法に関して理解を深めるとともに、本来の子どもの健康を考えます。健康 では、「子どもの健康」の考え方をふまえ、健康にかかわる子どもの生活実態を中心に学びます。

【到達目標】

1. 『健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う』という目標を達成するために、どのように子どもにかかわればよいのかを探求できる。
2. 子どもがたくましく生きるための健康や体力について修得できる。
3. 子どもの心と体の「理論」と子どもが健康で安全な生活を送ることができるための「実践力」を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 「健康」の考え方
 - 第2回 子どもの健康の考え方
 - 第3回 領域「健康」において育むもの
 - 第4回 領域「健康」と他の領域との関係
 - 第5回 小学校教育と領域「健康」の関連性
 - 第6回 健康にかかわる子どもの生活実態 (睡眠について)
 - 第7回 健康にかかわる子どもの生活実態 (食生活について)
 - 第8回 健康にかかわる子どもの生活実態 (日中の活動について)
 - 第9回 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもの運動の発達について)
 - 第10回 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもの運動能力について)
 - 第11回 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもの運動能力低下の背景について)
 - 第12回 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもの運動発達の特徴について)
 - 第13回 子どもの身体の発達と運動能力 (子どもと運動遊びについて)
 - 第14回 総括 (指導案の作成を含む) <子どもと生活について>
 - 第15回 総括 (指導案の作成を含む) <子どもと運動について>
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください(30分)。
また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください(30分)。

【成績の評価】

期末試験：65% (この授業は、期末試験を受験しなければ単位を修得することはできません。)

授業中に作成する小レポート：20%

授業態度：15%

全体の60%以上の得点で合格とします。

期末試験の成績および小レポートの評価については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

- 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』(平成30年3月)
- 菊地秀範 石井美晴 『子どもと健康』(萌文書林 1990年)
- 森下はるみ 池田裕恵 『健康-乳幼児のこころとからだ-』(不昧堂出版 1992年)
- 生田清衛門 秋山俊夫 『内容研究 領域 健康』(北大路書房 1993年)
- 原田碩三 『幼児健康学』(黎明書房 1997年)
- 無藤隆 倉持清美 『事例で学ぶ保育内容 領域 健康』(萌文書林 2007年)
- 河邊貴子編 『演習 保育内容 健康』(建帛社 2008年)

科目名： <KARA9> 保育内容 - 健康 【発A】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

健康 は、本学の教育課程編成・実施の方針をふまえ、この領域の教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解するための科目として位置づけられています。

健康 の内容をふまえ、さらに「子どもの体や健康」について学習していきます。健康 では、子どもの身体の発達や運動の発達を中心に学び、それらの基礎理論をもとに、実際の園生活を考えます。乳幼児は、100%大人が保護し、守る義務があります。したがって、保育者として、どのような安全の管理と指導および援助の方法があるのかを実際の事例をもとに修得します。

【到達目標】

1. 子どもの身体および運動の発育発達の原則を理解することができる。
2. 子どもを取り巻くすべてに対して、生命を守るための安全をどのように捉え、子どもたちにどのように指導していくかについて実践的な立場から具体的に考察できる。
3. 健康 に引き続き、子どもの基本的生活習慣の「理論」、その基本的生活習慣を形成するための「実践力」を身につけることができる。

【授業計画】

- | | | |
|------|------------------|-------------------------------|
| 第1回 | 子どもの身体の発達の原則 | (身長と体重について) |
| 第2回 | 子どもの身体の発達の原則 | (骨の形成について) |
| 第3回 | 子どもの身体の発達の原則 | (脊柱の湾曲について) |
| 第4回 | 子どもの身体の発達の原則 | (生理的機能の発達について) |
| 第5回 | 子どもの身体と発達の原則 | (さまざまな発育曲線から発達の原則をよむ) |
| 第6回 | 子どもの身体と運動の発達のまとめ | |
| 第7回 | 基本的生活習慣の形成 | (食事について) |
| 第8回 | 基本的生活習慣の形成 | (睡眠について) |
| 第9回 | 基本的生活習慣の形成 | (衣服の着脱, 排泄について) |
| 第10回 | 基本的生活習慣の形成 | (生活リズムについて) |
| 第11回 | 安全の指導 | (けが・事故の実態について) |
| 第12回 | 安全の指導 | (事故のメカニズムについて) |
| 第13回 | 安全の指導 | (子どもの安全の指導) |
| 第14回 | 安全の指導 | (子どものルール・きまりの理解) |
| 第15回 | 総括 | (子どもの発育・発達の原則を踏まえた子どもの健康について) |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください(30分)。

また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください(30分)。

【成績の評価】

期末試験：70% (この授業は、期末試験を受験しなければ単位を修得することはできません。)

授業態度：20%

授業中に作成する小レポート：10%

全体の60%以上の得点で合格とします。

期末試験の成績および小レポートの評価については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

文部科学省 『幼稚園教育要領開設』(平成30年3月)

菊地秀範 石井美晴 『子どもと健康』(萌文書林 1990年)

森下はるみ 池田裕恵 『健康 - 乳幼児のこころとからだ - 』(不昧堂出版 1992年)

生田清衛門 秋山俊夫 『内容研究 領域 健康』(北大路書房 1993年)

原田碩三 『幼児健康学』(黎明書房 1997年)

無藤隆 倉持清美 『事例で学ぶ保育内容 領域 健康』(萌文書林 2007年)

科目名： <KARA9> 保育内容 - 健康 【発B】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

健康 は、本学の教育課程編成・実施の方針をふまえ、この領域の教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解するための科目として位置づけられています。

健康 の内容をふまえ、さらに「子どもの体や健康」について学習していきます。健康 では、子どもの身体の発達や運動の発達を中心に学び、それらの基礎理論をもとに、実際の園生活を考えます。乳幼児は、100%大人が保護し、守る義務があります。したがって、保育者として、どのような安全の管理と指導および援助の方法があるのかを実際の事例をもとに修得します。

【到達目標】

1. 子どもの身体および運動の発育発達の原則を理解することができる。
2. 子どもを取り巻くすべてに対して、生命を守るための安全をどのように捉え、子どもたちにどのように指導していくかについて実践的な立場から具体的に考察できる。
3. 健康 に引き続き、子どもの基本的生活習慣の「理論」、その基本的生活習慣を形成するための「実践力」を身につけることができる。

【授業計画】

- | | | |
|------|------------------|-------------------------------|
| 第1回 | 子どもの身体の発達の原則 | (身長と体重について) |
| 第2回 | 子どもの身体の発達の原則 | (骨の形成について) |
| 第3回 | 子どもの身体の発達の原則 | (脊柱の湾曲について) |
| 第4回 | 子どもの身体の発達の原則 | (生理的機能の発達について) |
| 第5回 | 子どもの身体と発達の原則 | (さまざまな発育曲線から発達の原則をよむ) |
| 第6回 | 子どもの身体と運動の発達のまとめ | |
| 第7回 | 基本的生活習慣の形成 | (食事について) |
| 第8回 | 基本的生活習慣の形成 | (睡眠について) |
| 第9回 | 基本的生活習慣の形成 | (衣服の着脱, 排泄について) |
| 第10回 | 基本的生活習慣の形成 | (生活リズムについて) |
| 第11回 | 安全の指導 | (けが・事故の実態について) |
| 第12回 | 安全の指導 | (事故のメカニズムについて) |
| 第13回 | 安全の指導 | (子どもの安全の指導) |
| 第14回 | 安全の指導 | (子どものルール・きまりの理解) |
| 第15回 | 総括 | (子どもの発育・発達の原則を踏まえた子どもの健康について) |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください(30分)。

また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください(30分)。

【成績の評価】

期末試験：70% (この授業は、期末試験を受験しなければ単位を修得することはできません。)

授業態度：20%

授業中に作成する小レポート：10%

全体の60%以上の得点で合格とします。

期末試験の成績および小レポートの評価については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

文部科学省 『幼稚園教育要領解説』(平成30年3月)

菊地秀範 石井美晴 『子どもと健康』(萌文書林、1990年)

森下はるみ 池田裕恵 『健康 - 乳幼児のこころとからだ - 』(不昧堂出版、1992年)

生田清衛門 秋山俊夫 『内容研究 領域 健康』(北大路書房、1993年)

原田碩三 『幼児健康学』(黎明書房、1997年)

無藤隆 倉持清美 『事例で学ぶ保育内容 領域 健康』(萌文書林、2007年)

河邊貴子編 『演習 保育内容 健康』(建帛社、2008年)

科目名： <KARA10> 体育 -
担当教員： 山神 眞一(YAMAGAMI Shin'ichi)

【授業の紹介】

- ・子どもの育ちを支えるための教育的実践力を学ぶ。
- ・体ほぐし運動や基礎・基本的な運動学習を通して、他者とのコミュニケーション能力を育む。
- ・わかって、できる論理的な思考力や創造力を生かした実践的指導力を養う。

【到達目標】

1. 小学校学習指導要領体育科における教科目標及び内容、指導上の留意点を理解できる。
2. 体づくり運動（特に体ほぐし）の基礎・基本を習得する。
3. 様々な基礎・基本的な運動（歩・走・跳・投・打・蹴）を習得する。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：子どもの心とからだの発達特性（小学校低学年）
 - 第3回：子どもの心とからだの発達特性（小学校中学年）
 - 第4回：子どもの心とからだの発達特性（小学校高学年）
 - 第5回：体づくり運動（小学校低学年）
 - 第6回：体づくり運動（小学校中学年）
 - 第7回：体づくり運動（小学校高学年）
 - 第8回：基礎・基本的動作（立つ・歩く）
 - 第9回：基礎・基本的動作（走る）
 - 第10回：基礎・基本的動作（跳ぶ）
 - 第11回：基礎・基本的動作（打つ・蹴る・泳ぐ）
 - 第12回：子どもの運動実践と心理的意義
 - 第13回：子どもの運動実践と身体的意義
 - 第14回：子どもの運動実践と社会的意義
 - 第15回：まとめ（これまでの講義の復習及び質疑応答）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

学習内容の予習・復習を毎週2時間ずつ行う。
具体的には、授業の初めにレジュメを渡すので、予習・復習に活用して授業に臨むようにしてください。
また、授業後には、振り返りして、ノートに記録するように心がける。

【成績の評価】

授業態度（40%）、小レポート（20%）、定期試験（40%）
出席率70%以上を原則として、評価点が全体の60%以上を合格とする。
定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。小テスト、レポートは添削して授業時に返却する。
模範解答を示し、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

使用せず、毎回資料を配布する。

【参考文献】

小学校学習指導要領解説 体育編（平成29年6月 文部科学省）

科目名： <KARA11> 体育 -

担当教員： 山神 眞一(YAMAGAMI Shin'ichi)

【授業の紹介】

- ・教師としての使命感、倫理観をもって児童と向かう。
- ・体の動きを高める運動を知識と実践を関連づけて学ばせる。
- ・自ら考えると共に仲間と意見交換しながら、課題解決していく協同性を養う。

【到達目標】

1. 小学校学習指導要領体育科における教科目標及び内容、指導上の留意点を説明できる。
2. 体づくり運動（特に体の動きを高める運動）の基礎・基本を習得する。
3. 基礎・基本的な運動を活用した組み合わせ運動を習得する。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：子どもの心とからだの体力的特性（小学校低学年）
 - 第3回：子どもの心とからだの体力的特性（小学校中学年）
 - 第4回：子どもの心とからだの体力的特性（小学校高学年）
 - 第5回：子どもの運動能力的特性（小学校低学年）
 - 第6回：子どもの運動能力的特性（小学校中学年）
 - 第7回：子どもの運動能力的特性（小学校高学年）
 - 第8回：体の動きを高める段階的運動指導法（小学校低学年）
 - 第9回：体の動きを高める段階的運動指導法（小学校中学年）
 - 第10回：体の動きを高める段階的運動指導法（小学校高学年）
 - 第11回：子どもの体力的特性を踏まえた運動指導法
 - 第12回：子どもの心理的特性を配慮した運動指導法
 - 第13回：子どもの社会性を踏まえた運動指導法
 - 第14回：運動会を楽しむ指導法
 - 第15回：まとめ（これまでの講義の復習及び質疑応答）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

学習内容の予習・復習を毎週2時間ずつ行う。
具体的には、授業の初めにレジュメを渡すので、予習・復習に活用して授業に臨むようにしてください。
また、授業後には、振り返りして、ノートに記録するように心がける。

【成績の評価】

授業態度（40%）、小レポート（20%）、定期試験（40%）
出席率70%以上を原則として、評価点が全体の60%以上を合格とする。
定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。小テスト、レポートは添削して授業時に返却する。
模範解答を示し、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

使用せず、毎回資料を配布する。

【参考文献】

小学校学習指導要領解説 体育編（平成29年6月 文部科学省）

科目名： <KARA12> 体育 - 【小対象】

担当教員： 上野 耕平(UENO Kouhei)

【授業の紹介】

体育 - における学習内容に基づき、幼児や児童を対象として運動遊びや体育を指導するための実践的な能力を養成することを目的とする。従って授業では、各運動の特性を理解すると共に、運動の実践能力、さらには授業を行う際の指導法の基礎を獲得することが求められる。自ら体を動かしつつ、「各運動のコツ」について体験を通じて学習する。

【到達目標】

1. ボール運動（ネット型・ゴール型・ベースボール型）の特性について説明できる。
2. 各運動を楽しんで行い、その楽しさについて説明できる。
3. 各運動の実践能力を向上させるコツについて説明できる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：ボール運動（ネット型の特徴）
 - 第3回：ネット型（バドミントン基礎）
 - 第4回：ネット型（バドミントン応用）
 - 第5回：ネット型（バドミントン発展）
 - 第6回：ボール運動（ゴール型の特徴）
 - 第7回：ゴール型（ハンドボール基礎）
 - 第8回：ゴール型（ハンドボール応用）
 - 第9回：ゴール型（ハンドボール発展）
 - 第10回：ボール運動（ベースボール型の特徴）
 - 第11回：ベースボール型（キックベースボール基礎）
 - 第12回：ベースボール型（キックベースボール応用）
 - 第13回：ベースボール型（キックベースボール発展）
 - 第14回：ボール運動（各型選択）
 - 第15回：ボール運動（各型選択）及び全体の振り返り
- 定期試験 無

【授業時間外の学習】

初回授業時に授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい。また、授業は実技形式で行いますので、普段から運動に親しみ、授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいて下さい。できれば週3回、ジョギング程度の運動強度で構いませんので、自らが好きな運動を1時間程度以上行って下さい。

【成績の評価】

成績は運動の実践能力（60%）、授業における発問への回答（40%）によって評価します。なお集団での活動になりますので、遅刻しないよう特に注意して下さい。

【使用テキスト】

授業中に適宜資料を配付する。

【参考文献】

体育科教育学入門（高橋健夫ほか編著、大修館書店）2010年
小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説（平成29年3月公示 文部科学省）

科目名： <KARA12> 体育 - 【幼保対象】

担当教員： 花城 清紀(HANASHIRO Kiyonori)

【授業の紹介】

体育 - ・ における学習内容に基づき、幼児や児童を対象として運動遊びや体育を指導するための実践的な能力を養成することを目的とする。従って授業では、各運動の特性を理解すると共に、運動の実践能力、さらには授業を行う際の指導法の基礎を獲得することが求められる。自ら体を動かしつつ、「各運動のコツ」について体験を通じて学習する。

【到達目標】

1. ボール運動（ネット型・ゴール型・ベースボール型）の特性について説明できる。
2. 各運動を楽しんで行い、その楽しさについて説明できる。
3. 各運動の実践能力を向上させるコツについて説明できる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：ボール運動（ネット型の特徴）
 - 第3回：ネット型（バドミントン基礎）
 - 第4回：ネット型（バドミントン応用）
 - 第5回：ネット型（バドミントン発展）
 - 第6回：ボール運動（ゴール型の特徴）
 - 第7回：ゴール型（ハンドボール基礎）
 - 第8回：ゴール型（ハンドボール応用）
 - 第9回：ゴール型（ハンドボール発展）
 - 第10回：ボール運動（ベースボール型の特徴）
 - 第11回：ベースボール型（キックベースボール基礎）
 - 第12回：ベースボール型（キックベースボール応用）
 - 第13回：ベースボール型（キックベースボール発展）
 - 第14回：ボール運動（各型選択）
 - 第15回：ボール運動（各型選択）及び全体の振り返り
- 定期試験 無

【授業時間外の学習】

初回授業時に授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい。また、授業は実技形式で行いますので、普段から運動に親しみ、授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいて下さい。できれば週3回、ジョギング程度の運動強度で構いませんので、自らが好きな運動を1時間程度以上行って下さい。

【成績の評価】

成績は運動の実践能力（60%）、授業における発問への回答（40%）によって評価します。なお集団での活動になりますので、遅刻しないよう特に注意して下さい。

【使用テキスト】

授業中に適宜資料を配付する。

【参考文献】

体育科教育学入門（高橋健夫ほか編著、大修館書店、2010年）
小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説（平成29年3月公示 文部科学省）

科目名： <KARA13> 体育 - 【小対象】

担当教員： 上野 耕平(UENO Kouhei)

【授業の紹介】

体育 - ・ における学習内容に基づき、幼児や児童を対象として運動遊びや体育を指導するための実践的な能力を養成することを目的とする。従って授業では、各運動の特性を理解すると共に、運動の実践能力、さらには授業を行う際の指導法の基礎を獲得することが求められる。自ら体を動かしつつ、「各運動のコツ」について体験を通じて学習する。

【到達目標】

1. マット運動、ボール運動、表現運動ほか各運動の特性について説明できる。
2. 各運動を楽しんで行い、その楽しさについて説明できる。
3. 各運動の実践能力を向上させるコツについて説明できる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：マット運動（前転・後転）
 - 第3回：マット運動（開脚前転・開脚後転）
 - 第4回：跳び箱運動（開脚跳び）
 - 第5回：跳び箱運動（台上前転）
 - 第6回：縄跳び（一回旋一・二跳躍）
 - 第7回：縄跳び（創作縄跳び）
 - 第8回：表現運動（各種ステップ）
 - 第9回：表現運動（リズムダンス）
 - 第10回：ボール運動（ネット型）
 - 第11回：ボール運動（ネット型：簡易ルール）
 - 第12回：ボール運動（ゴール型）
 - 第13回：ボール運動（ゴール型：簡易ルール）
 - 第14回：ボール運動（ベースボール型）
 - 第15回：ボール運動（ベースボール型：簡易ルール）及び全体の振り返り
- 定期試験 無

【授業時間外の学習】

初回授業時に授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み、授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい。また、授業は実技形式で行いますので、普段から運動に親しみ、授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいて下さい。できれば週3回、ジョギング程度の運動強度で構いませんので、自らが好きな運動を1時間程度以上行って下さい。

【成績の評価】

成績は運動の実践能力（60%）、授業における発問への回答（40%）によって評価します。なお、集団での活動になりますので、遅刻しないよう特に注意して下さい。

【使用テキスト】

授業中に適宜資料を配付する。

【参考文献】

体育科教育学入門（高橋健夫ほか編著、大修館書店、2010年）
小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説（平成29年3月公示 文部科学省）

科目名： <KARA13> 体育 - 【幼保対象】

担当教員： 花城 清紀(HANASHIRO Kiyonori)

【授業の紹介】

体育 - ・ における学習内容に基づき、幼児や児童を対象として運動遊びや体育を指導するための実践的な能力を養成することを目的とする。従って授業では、各運動の特性を理解すると共に、運動の実践能力、さらには授業を行う際の指導法の基礎を獲得することが求められる。自ら体を動かしつつ、「各運動のコツ」について体験を通じて学習する。

【到達目標】

1. マット運動、ボール運動、表現運動ほか各運動の特性について説明できる。
2. 各運動を楽しんで行い、その楽しさについて説明できる。
3. 各運動の実践能力を向上させるコツについて説明できる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：マット運動（前転・後転）
 - 第3回：マット運動（開脚前転・開脚後転）
 - 第4回：跳び箱運動（開脚跳び）
 - 第5回：跳び箱運動（台上前転）
 - 第6回：縄跳び（一回旋一・二跳躍）
 - 第7回：縄跳び（創作縄跳び）
 - 第8回：表現運動（各種ステップ）
 - 第9回：表現運動（リズムダンス）
 - 第10回：ボール運動（ネット型）
 - 第11回：ボール運動（ネット型：簡易ルール）
 - 第12回：ボール運動（ゴール型）
 - 第13回：ボール運動（ゴール型：簡易ルール）
 - 第14回：ボール運動（ベースボール型）
 - 第15回：ボール運動（ベースボール型：簡易ルール）及び全体の振り返り
- 定期試験 無

【授業時間外の学習】

初回授業時に授業の概要を紹介したレジュメを配布します。レジュメをよく読み、授業に主体的に取り組めるよう準備して下さい。また、授業は実技形式で行いますので、普段から運動に親しみ、授業で体を動かせる程度の体力を維持しておいて下さい。できれば週3回、ジョギング程度の運動強度で構いませんので、自らが好きな運動を1時間程度以上行って下さい。

【成績の評価】

成績は運動の実践能力（60%）、授業における発問への回答（40%）によって評価します。なお、集団での活動になりますので、遅刻しないよう特に注意して下さい。

【使用テキスト】

授業中に適宜資料を配付する。

【参考文献】

体育科教育学入門（高橋健夫ほか編著、大修館書店、2010年）
小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説（平成29年3月公示 文部科学省）

科目名： <KARA14> 野外活動実習

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi), 藤本 駿(FUJIMOTO Syun), 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

子どもたちの体力の低下や体験不足が指摘されています。今や子どもたちの体験不足は幼児期に及んでいると言われています。かつては、子どもたちが自然と触れ合う機会や仲間と遊ぶ場が豊富にありました。しかし、今日では、ゆっくりと自然と触れ合う、自然の中で友だちといっしょに工夫して遊ぶなどの生活体験も少なくなってきました。

この授業は、将来、小学校教員をめざす者を対象に実施するものです。

体験活動における様々な知識の獲得や活動フィールドの整備を行う上での知識や技能を身につけます。野外炊飯等を通して、子どもたちの様々な体験活動をサポートするための専門的知識・技能を学び、小学校の教員としての実践力を身につけるものです。

なお、この授業は、国立青少年教育振興機構の実施する「大学生・若手教員野外活動体験会」（6月7日（日）日帰り）、「学生ボランティアリーダー養成講座」（年8月17日（月）～8月19日（水）2泊3日）に参加します。

実習代金（4～5千円程度）は個人負担とする。詳細は、5月に掲示します。

【到達目標】

- ・体験活動の基礎的知識や安全に関する知識を習得することができる。
- ・キャンプの基礎知識やフィールド整備に関する基礎知識等を習得することができる。
- ・仲間との集団生活を通して社会性を身につけることができる。
- ・理論と実践力を備えた小学校教員になることをめざす。

【授業計画】

- ・事前オリエンテーション：5月（予定）
- ・大学生・若手教員野外活動体験会：2020年6月7日（日）日帰り
- ・学生ボランティアリーダー養成講座：2020年8月17日（月）～8月19日（水）2泊3日
- ・まとめ・報告会
- ・定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

体験活動に関する資料等を配布するので、実技に参加する前に熟読すること。また、青少年の体験活動に関する現状等についても予習しておく。

【成績の評価】

体験活動における活動状況（70%）および体験報告（30%）による。
体験報告のまとめを後日配付し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

- 「体験のかぜをおこそう - 体験活動の企画と展開 - 」田中壮一郎編（2012）悠光堂
- 「体験・遊びナビゲーター」独立行政法人国立青少年教育振興機構（2013）悠光堂

【参考文献】

その都度提示する。

科目名： <KARA15> 野外活動実習

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi), 藤本 駿(FUJIMOTO Syun), 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

子どもたちの成長にとって体験活動は大きな糧になります。国立青少年教育振興機構の調査研究でも、体験活動を通じて子どもたちの意欲・人間関係力・社会性などが高まることが報告されています。

この授業では、将来、小学校教員をめざす者を対象に「屋島チャレンジヴィレッジ」において9月20日(日)～22日(火)「子どもチャレンジキャンプ」<2泊3日>、11月14日(土)・15日(日)実施予定の親子自然体験「森のまつり」<日帰り2日間>の運営・サポートを行います。

なお、実習代金(保険代・食事代等実費額)は個人負担とします。

詳細は、7月上旬に掲示する。

この実習は「野外活動実習」を受講した学生に限ります。

【到達目標】

- ・子どもたちと活動フィールドの整備や野外炊飯など寝食を共にすることができる。
- ・子どもたちの様々な体験活動をサポートすることができる。
- ・親子の体験活動に関する技能と知識を身につけることができる。
- ・理論と実践力を備えた小学校教員になることをめざす。

【授業計画】

事前オリエンテーション : 未定

「子どもチャレンジキャンプ」 : 2020年9月20日(日)～22日(火) 2泊3日

親子自然体験「森の祭り」 : 2020年11月14日(土)・15日(日) 日帰り2日間

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

野外活動実習に関する冊子を事前に配布するので、野外活動実習に参加する前に熟読すること。また、青少年の体験活動に関する現状等についても予習しておくこと。

【成績の評価】

体験活動における活動状況(70%)および体験報告(30%)による。

体験報告のまとめを後日配付し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

「体験のかぜをおこそう - 体験活動の企画と展開 -」田中壮一郎編(2012) 悠光堂

「体験・遊びナビゲーター」独立行政法人国立青少年教育振興機構(2013) 悠光堂

【参考文献】

その都度提示する。

科目名： <KARA16> 保育内容 - 表現 【発A】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

保育内容-表現 では、本学の教育課程編成・実施の方針をふまえ、教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観た豊かな心をもてるようにします。また、この授業は、教育・保育に係る資質の向上に向けて継続的に学ぶ能力を養う科目として位置づけられています。

幼稚園・保育園の保育の基本理念をふまえ、「子どもにとって表現とは何か」「保育における表現とは何か」さらには「人間にとって表現とは何か」を考察した上で、「動きのスケッチ」による表現の方法を身につけます。

この授業では、今までにみなさんが行ってきた“創作ダンス”とは一味違う身体運動を行います。踊ることが“キライ”という人、からだは“カタイ”という人、人前でパフォーマンスをするのは“ニガテ”という人...も安心して授業を受けてください

【到達目標】

1. 自分が見たこと、感じたこと、考えたこと、想像したことなどを自分の身体を媒体にして自由に伸び伸びと動きで表現することができる。
 2. 子どもの身体表現の基礎的知識を理解し、実践できる。
 3. 子どもの発育発達に即して、主体的・対話的な学びが実現できる家庭をふまえ、実際の指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけることができる。
 4. 表現活動をとおして、豊かな心と創造力を身につけることができる。
- 上記の到達目標を達成することで、本学の卒業認定・学位授与の方針に示す、教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 人間と表現の関係について 《講義》
 - 第2回 子どもと表現の関係について 《講義》
 - 第3回 保育の基本と表現（子どもにとって表現とは何か） 《講義》
 - 第4回 保育の基本と表現（子どもの表現活動の実際） 《講義》
 - 第5回 身体の部分を使ってのいろいろな動き 《実技》
 - 第6回 身体全体を使ってのいろいろな動き（2人組での動き） 《実技》
 - 第7回 身体全体を使ってのいろいろな動き（音楽に合わせての動き） 《実技》
 - 第8回 主題に対する表現（指導案の作成を含む）<小さな動物> 《実技》
 - 第9回 主題に対する表現（指導案の作成を含む）<大きな動物> 《実技》
 - 第10回 主題に対する表現（指導案の作成を含む）<小さな乗り物> 《実技》
 - 第11回 主題に対する表現（指導案の作成を含む）<大きな乗り物> 《実技》
 - 第12回 子どもの生活における表現活動を考える（模擬保育） 《実技》
 - 第13回 子どもの表現活動へのアプローチの実際（模擬保育） 《実技》
 - 第14回 総括（子どもの表現活動をの本質を考える） 《講義》
 - 第15回 総括（子どもと表現活動のまとめ） 《レポート作成》
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

《講義》次回の授業内容を把握し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておいてください（30分）。また、毎回、授業ごとに、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。

《実技》授業の終わりに、次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので、グループで予習しておいてください（30分）。また、各グループで行った作品についての振り返りを記録しておいてください（30分）。

【成績の評価】

授業時間内での作品評価：70%

授業態度：20%

授業中に作成する小レポート：10%

全体の60%以上の得点で合格とします。

授業内で発表する作品の評価は、ビデオ等により振り返り、フィードバックします。

小レポートの評価は、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

- 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月）
杉浦 とく他 『子どもの表現力を高める舞踊』（明治図書 1988年）
黒川 建一他編 『保育内容 表現』（ミネルヴァ書房 1990年）
高橋 和子他編 『表現 - 風の卵がころがったとき - 』（不昧堂出版 1995年）

科目名： <KARA16> 保育内容 - 表現 【発B】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

保育内容-表現 では、本学の教育課程編成・実施の方針をふまえ、教育・保育に携わる者に求められる高い使命感・倫理観と豊かな心をもてるようにします。また、この授業は、教育・保育に係る資質の向上に向けて継続的に学ぶ能力を養う科目として位置づけられています。

幼稚園・保育園の保育の基本理念をふまえ、「子どもにとって表現とは何か」「保育における表現とは何か」さらには「人間にとって表現とは何か」を考察した上で、「動きのスケッチ」による表現の方法を身につけます。

この授業では、今までにみなさんが行ってきた“創作ダンス”とは一味違う身体運動を行います。踊ることが“キライ”という人、からだは“カタイ”という人、人前でパフォーマンスをするのは“ニガテ”という人...も安心して授業を受けてください

【到達目標】

1. 自分が見たこと、感じたこと、考えたこと、想像したことなどを自分の身体を媒体にして自由に伸び伸びと動きで表現することができる。
 2. 子どもの身体表現の基礎的知識を理解し、実践できる。
 3. 子どもの発育発達に即して、主体的・対話的な学びが実現できる家庭をふまえ、実際の指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけることができる。
 4. 表現活動をとおして、豊かな心と創造力を身につけることができる。
- 上記の到達目標を達成することで、本学の卒業認定・学位授与の方針に示す、教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の実践力を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 人間と表現の関係について 《講義》
 - 第2回 子どもと表現の関係について 《講義》
 - 第3回 保育の基本と表現（子どもにとって表現とは何か） 《講義》
 - 第4回 保育の基本と表現（子どもの表現活動の実際） 《講義》
 - 第5回 身体の部分を使ってのいろいろな動き 《実技》
 - 第6回 身体全体を使ってのいろいろな動き（2人組での動き） 《実技》
 - 第7回 身体全体を使ってのいろいろな動き（音楽に合わせての動き） 《実技》
 - 第8回 主題に対する表現（指導案の作成を含む）<小さな動物> 《実技》
 - 第9回 主題に対する表現（指導案の作成を含む）<大きな動物> 《実技》
 - 第10回 主題に対する表現（指導案の作成を含む）<小さな乗り物> 《実技》
 - 第11回 主題に対する表現（指導案の作成を含む）<大きな乗り物> 《実技》
 - 第12回 子どもの生活における表現活動を考える（模擬保育） 《実技》
 - 第13回 子どもの表現活動へのアプローチの実際（模擬保育） 《実技》
 - 第14回 総括（子どもの表現活動の本質を考える） 《講義》
 - 第15回 総括（子どもと表現活動のまとめ） 《レポート作成》
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

《講義》次回の授業内容を把握し、予習としてその範囲の専門用語の意味等を調べ、ノート等にまとめておいてください（30分）。また、毎回、授業ごとに、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。

《実技》授業の終わりに、次の授業で行う動きづくりのテーマについて提示するので、グループで予習しておいてください（30分）。また、各グループで行った作品についての振り返りを記録しておいてください（30分）。

【成績の評価】

授業時間内での作品評価：70%

授業態度：20%

授業中に作成する小レポート：10%

全体の60%以上の得点で合格とします。

授業内で発表する作品の評価は、ビデオ等により振り返り、フィードバックします。

成績（小レポートの評価を含む）は、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

- 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月）
杉浦 とく他 『子どもの表現力を高める舞踊』（明治図書、1988年）
黒川 建一他編 『保育内容 表現』（ミネルヴァ書房、1990年）
高橋 和子他編 『表現 - 風の卵がころがったとき - 』（不昧堂出版、1995年）

科目名： <KARA7> 子どもの健康と安全

担当教員： 磯部 健一

【授業の紹介】

保育所保育指針及び関連する各種ガイドライン等を踏まえ、子どもの健康や安全に係る実施体制や保健活動の計画および評価、保育における子どもの健康安全管理の実際、子どもの感染性疾患と予防対策、個別的な対応が必要な子どもへの対応について学びます。そして、乳児の抱き方や計測法や包帯法などの応急処置と事故防止、安全管理について具体的に学び理論と実践力を修得します。

【到達目標】

保健的観点に基づく保育の環境整備や心身の健康・安全管理の実施体制など、実践的な力を習得することをめざす。

1. 保健的観点に基づいた保育環境や援助を理解できる。
2. 保育における衛生管理、事故防止、災害対策等について具体的に理解できる。
3. 体調不良等や事故発生に対する適切な対応について具体的に理解できる。
4. 保育における感染症対策について具体的に理解できる。
5. 子どもの状態に即して個別的に適切な対応が理解できる。

【授業計画】

- 第1回：保育における保健活動の計画（防災も含む）及び評価、発育状況の把握（担当：小川）
第2回：乳幼児の身体計測と評価の実際（担当：小川）
第3回：子どもの保健と保育の環境（担当：小川）
第4回：乳幼児の養護（3歳未満児の抱き方・寝かせ方・おむつ交換）（担当：小川）
第5回：乳幼児の養護（3歳未満児を対象とした授乳・調乳・離乳食・幼児食）（担当：小川）
第6回：乳幼児の養護（特に3歳未満児の乳幼児の清潔）（担当：小川）
第7回：体調不良や事故発生時の対応（一般看護、包帯法など）（担当：小川）
第8回：健康・安全管理の実際（衛生管理、事故防止及び安全対策）（担当：磯部）
第9回：災害への備えと危機管理（担当：磯部）
第10回：子どもの応急処置（担当：磯部）
第11回：子どもの救急処置及び救急蘇生法（担当：磯部）
第12回：感染症対策（担当：磯部）
第13回：個別的な配慮を必要とする子どもへの対応（食物アレルギー等）（担当：磯部）
第14回：健康安全管理の実施体制（母子保健・地域保健と保育及び地域との連携）（担当：磯部）
第15回：これまでの講義のまとめと質疑応答（担当：磯部）
定期試験

【授業時間外の学習】

演習内容については事前に資料を配布するので、予習をして授業に臨むこと。授業時間内で実施した演習の体験は次回までにまとめて提出する。（予習と復習で各回1時間以上）

【成績の評価】

学習態度（10%）、演習記録などの提出物（20%）、定期試験（70%）によって総合的に評価する。なお、提出物は、評価して後日返却する。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説する。

【使用テキスト】

中根淳子、佐藤直子 編著『子どもの健康と安全』（ななみ書房、2019年）

【参考文献】

子どもの保健（2019年9月 中根淳子、佐藤直子 編著、ななみ書房）
平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（平成29年6月 内閣府 文部科学省 厚生労働省、チャイルド本社）

科目名： <KARA6>子どもと健康
担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

子どもと健康では、本学の卒業認定・学位授与の方針をふまえ、子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観を身につけ、自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性を養うための科目として位置づけられています。

乳幼児の発育発達原則を解説したうえで、運動発達、基本的生活習慣の形成、安全な生活などの専門事項を修得します。保育の基本理念をふまえ、子どもにとっての健康の意義を探求することを何よりも大切にしたいと思います。

【到達目標】

1. 健康の定義をふまえて、乳幼児期の健康の意義を理解することができる。
2. 乳幼児の体の発達の特徴を修得することができる。
3. 乳幼児の基本的生活習慣の形成とその意義を説明することができる。
4. 幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：保育の基本理念と領域「健康」
- 第2回：領域「健康」の特徴
- 第3回：子どもの健康（1） <乳幼児期の健康とは>
- 第4回：子どもの健康（2） <乳幼児期の心の健康と体の健康について>
- 第5回：子どもの発達と健康（1） <乳幼児の発達の考え方について>
- 第6回：子どもの発達と健康（2） <乳幼児の身体の発達について>
- 第7回：子どもの発達と健康（3） <乳幼児の運動の発達について>
- 第8回：子どもの発達と健康（4） <乳幼児の精神機能の発達について>
- 第9回：子どもの基本的生活習慣の発達（1） <乳幼児における基本的生活習慣とは>
- 第10回：子どもの基本的生活習慣の発達（2） <乳幼児における基本的生活習慣の各論>
- 第11回：子どもの基本的生活習慣の発達（3） <乳幼児の基本的生活習慣形成の方法について>
- 第12回：子どもの安全教育と健康教育（1） <乳幼児の安全能力と事故防止について>
- 第13回：子どもの安全教育と健康教育（2） <園における安全管理の実際について>
- 第14回：子どもの安全教育と健康教育（3） <幼稚園・保育所における健康教育の具体的な取り組み>
- 第15回：総括
定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業内容を復習し、A4 1枚程度の内容要約を行って記録しておいてください（30分）。

また、次回の授業内容を予告するので、授業中に配布する補助資料のプリントや該当するテキストの内容を熟読しておいてください（30分）。

【成績の評価】

授業内に作成する小レポート：50%

期末試験：30%

授業態度：20%

全体の60%以上の得点で合格とします。

期末試験の成績および小レポートの評価については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

原田碩三 『幼児健康学』（黎明書房、1997年）

河邊貴子編 『演習 保育内容 健康』（建帛社、2008年）

井狩芳子 『演習 保育内容 健康 - 大人から子どもへつなぐ健康の視点 -』（萌文書林、2014年）

内閣府 文部科学省 厚生労働省 『平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』（チャイルド本社、2017年）

専門科目：子どもの知性の発達を促す科目

| 科目 | 担当教員 |
|--------------------------|--------|
| <TISE1>教育の方法及び技術 | 松下 文夫 |
| <TISE3>保育内容－言葉Ⅰ | 中塚 勝俊 |
| <TISE4>保育内容－言葉Ⅱ【発A】 | 中塚 勝俊 |
| <TISE4>保育内容－言葉Ⅱ【発B】 | 中塚 勝俊 |
| <TISE5>国語(書写を含む) | 澤田 文男 |
| <TISE6>社会 | 野村 一夫 |
| <TISE7>算数 | 環 修 |
| <TISE8>児童英語 | 竹田 忠弘 |
| <TISE9>生活 | 高橋 佳生 |
| <TISE10>理科 | 織田 幸美 |
| <TISE11>子ども文化Ⅰ【発A】 | 藤澤 典子 |
| <TISE11>子ども文化Ⅰ【発B】 | 藤澤 典子 |
| <TISE12>子ども研究【発A】 | 山田 純子 |
| <TISE12>子ども研究【発B】 | 山田 純子 |
| <TISE13>保育内容－表現Ⅰ | 津田 浩二 |
| <TISE14>図画工作Ⅰ－Ⅰ | 津田 浩二 |
| <TISE15>図画工作Ⅰ－Ⅱ | 津田 浩二 |
| <TISE16>図画工作Ⅱ－Ⅰ【発A】 | 津田 浩二 |
| <TISE16>図画工作Ⅱ－Ⅰ【発B】 | 津田 浩二 |
| <TISE17>図画工作Ⅱ－Ⅱ【発A】 | 津田 浩二 |
| <TISE17>図画工作Ⅱ－Ⅱ【発B】 | 津田 浩二 |
| <TISE18>特別活動の研究 | 七條 正典 |
| <TISE19>保育原理Ⅱ | 相馬 宗胤 |
| <TISE20>家庭 | 中村 真由美 |
| <TISE21>保育内容－総合【発A】 | 藤澤 典子 |
| <TISE21>保育内容－総合【発B】 | 藤澤 典子 |
| <TISE22>在宅保育 | 川原 亜津美 |
| <TISE23>造形表現Ⅰ【発A】 | 津田 浩二 |
| <TISE23>造形表現Ⅰ【発B】 | 津田 浩二 |
| <TISE14>図画工作Ⅰ－Ⅰ【3年～】【発A】 | 津田 浩二 |
| <TISE14>図画工作Ⅰ－Ⅰ【3年～】【発B】 | 津田 浩二 |
| <TISE24>造形表現Ⅱ【発A】 | 津田 浩二 |
| <TISE24>造形表現Ⅱ【発B】 | 津田 浩二 |
| <TISE15>図画工作Ⅰ－Ⅱ【3年～】【発A】 | 津田 浩二 |
| <TISE15>図画工作Ⅰ－Ⅱ【3年～】【発B】 | 津田 浩二 |
| <TISE11>子ども文化【発A】 | 藤澤 典子 |
| <TISE11>子ども文化【発B】 | 藤澤 典子 |
| <TISE12>幼児理解【発A】 | 山田 純子 |
| <TISE12>幼児理解【発B】 | 山田 純子 |
| <TISE18>特別活動論 | 七條 正典 |
| <TISE2>子どもと言葉 | 中塚 勝俊 |

科目名： < TISE1 > 教育の方法及び技術
担当教員： 松下 文夫(MATSUSHITA Humio)

【授業の紹介】

現代は高度情報通信社会と言われるように、スマホやタブレット型情報端末等に代表される各種の情報メディアが開発され、容易に大量の情報生成、蓄積、流通等が可能になり、その普及は今やパソコンを凌駕する勢いです。このような社会で求められる能力は、インターネットや新しいICTを活用し、必要とする情報の選択、加工、創造、伝達等に関わる新しいコミュニケーション能力です。しかし、従来の一斉指導形態の授業では限界があります。そこで、授業は、学習者の「主体的で対話的な深い学び」を目標にアクティブラーニングの手法を用いて行います。

この科目では、学習者の豊かな発想や興味・関心に対応できる学習形態の中で、経験、観察や調査、情報検索、映像やCGなどが活用できる自由度の高いメディアの選択とその構成、活用を可能とする教育の方法と技術が修得できることをめざします。

【到達目標】

1. 教育実践に必要な教育の方法に関する基礎的・基本的な知識の理解、技術の習得ができる。
2. 新しい学力観に対応した教授学習システムを設計することができる。
3. 情報ネットや情報メディアなど、ICTを活用した教育技術の習得ができる。
4. アクティブラーニングの手法を通して、新しい教育の方法・技術の活用法を習得することで、教育者としての資質・力量の向上をめざす。

【授業計画】

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | 良い授業（保育）の調査からみる教育方法・技術 |
| 第2回 | 子どもの成長・発達における教育の役割 |
| 第3回 | 小学校学習指導要領（幼稚園教育要領）と「生きる力」 |
| 第4回 | 授業（保育）計画に伴う構成要素 |
| 第5回 | 指導（保育）技術に関する構成要素 |
| 第6回 | 教育（保育）目標と評価 |
| 第7回 | アクティブラーニング（遊びこむ保育）の有効性と限界 |
| 第8回 | ICTの特徴と教育（保育）利用の有効性 |
| 第9回 | ICTを活用した学習（保育）指導案の作成 |
| 第10回 | ICTによるマルチメディア教材の作成 |
| 第11回 | ICTを活用した学習（保育）の成果の記録 |
| 第12回 | 情報社会の光と影・情報モラル |
| 第13回 | ALによる幼・小教育の円滑な実施（1）指導内容・方法 |
| 第14回 | ALによる幼・小教育の円滑な実施（2）人的環境他 |
| 第15回 | 教育の方法及び技術のまとめと展望等 |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

以下の数字は授業回数、a.は予習内容、b.は復習内容、()内の数字は、およその時間を示す。

- 1.a.人間に対する教育の必要性を文献(例、学問のすすめ他)やWebなどで調べる。自らの経験からよい保育・授業の条件を抽出する(2)。b.人間の存在理由、及び教育の必要性、並びに良い授業の条件についてレポートにまとめる(2)。
- 2.a.幼児期の段階的な成長・発達の特徴及びそれらと教育の役割等を、文献「例、認知発達」やWebなどから調べる(1.5)。b.直観的思考、具体的操作、形式的操作等の各段階と教育の特徴についてまとめる(2.5)。
- 3.a.文科省は、幼稚園及び小学校において学力をどの様に捉えているかを学習指導要領及び文献(例、教科書第1章)で調べる(2)。b.内容の精選、新しい学力観、生きる力、自主的・対話的な深い学び(例、同第1章1(1))などの用語からまとめる(2)。
- 4.a.小学2年生の算数「(2位数)+(2位数)で繰り上がりのない筆算ができる」という目標で学習展開を想定しながら、指導過程の略案を作成する(1.5)。b.授業(保育)は、教育目標、内容(学習材)、教師、子ども、教育メディア等の構成要素が融合したシステムとして、繰り上がりのある筆算の学習指導過程を作成する(2.5)。
- 5.a.動機付け理論とは何かをWebで調べるとともに、質問に回答できなかった子どもに対する望ましい言葉掛けについて考える(1.5)。b.授業における子どもの学習意欲を向上する指導(保育)技術について、動機付けとKR情報についてまとめる(2.5)。
- 6.a.教育における評価の重要性について文献(例、教科書第7章)やWebから調べる(2)。b.指導と評価の一体化(P-D-C-A)、授業中での評価、テスト得点による評価、数値によらない評価等についてまとめる(2)。
- 7.a.アクティブラーニング(AL)、フィンランドの教育、我が国のALの状況等について文献(例、教科書第3章)やWebで調べる(2)。b.『わが国でALを円滑に導入するための条件を探る』という主題でまとめ、レポートを提出する(3)。
- 8.a.ICTの利用とその効果について、文献(例、教科書第6章)やWebから調べる(2)。b.Scratchによるプログラミング教育が導入される。その教育の目標をまとめるとともに、PowerPointによる情報の提示や調べ学習での活用についてまとめる(3)。
- 9.a.ICTを活用した学習指導案の作成方法を文献(例、教科書第6章)やWeb(例、ICT活用の指導案)から調べる(1.5)。b.小学校3年理科・社会の教科書から題材を選び、教科書の口絵・図表等をデータ化して教材化し、Wordソフトで学習指導案にまとめる(2.5)。
- 10.a.PowerPointソフトによる教育情報(学習材)の提示には、子どもたちの学習にとって、どのような長所及び短所があるかを文献(例、教科書)やWebで調べる(2)。b.このソフトでマルチメディア教材を制作するための絵コンテ(学習フローチャート)を作成する(2)。
- 11.a.ICTによる学習成果の記録についてどのような方法があるかを文献(例、教科書第6・5 ICT活用の今後の姿)やWebで調べる(1.5)。b.学習過程を視覚情報として記録する方法が、e-ポートフォリオである。PowerPointの活用によりe-ポートフォリオ・モデルを作成する(2.5)。
- 12.a.情報社会には様々な問題があることを文献(例、教科書第6章)やWeb(例、ICT活用の指導案)から調べる(2)。b.情報社会の利点及び問題点、特に学童期に指導しておきたい事項についてまとめる(3)。
- 13.a.幼・小のAL教育の円滑な実施のための指導内容・方法に関する条件を文献(例、教科書第3章2)やWebから調べる(2)。b.グループ学習で、『AL教育の円滑な授業実施のために抽出した指導内容・方法に関する条件』についてまとめ、PowerPointソフトで6枚のスライドで表現する(3)。
- 14.a.幼・小のAL教育の円滑な実施のための人的環境等に関する条件を文献(例、教科書第3章2)やWebから調べる(2)。b.グループ学習で、『AL教育の円滑な授業実施のために抽出した人的環境等に関する条件』についてまとめ、PowerPointソフトで6枚のスライドで表現する(2.5)。
- 15.a.『AL教育を円滑に実施する条件』の結果を全体会で公表するためのプレゼン用予稿を作成する(2)。b.『AL教育を円滑に実施するための条件を探る』の実践結果を小論文にまとめる。最後に、自己評価表(チェックリスト)によって評価をする(4)。

【成績の評価】

課題別レポート(30%)、定期試験(70%)に基づいて評価します。レポートについては、その都度、結果を講評し、フィードバックを行います。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領及び小学校学習指導要領(文部科学省、平成29年3月)
教育の方法と技術(田中俊也編、ナカニシヤ出版、平成29年10月)

【参考文献】

授業の中で適宜印刷物(資料)を配布します。

科目名： < TISE3 > 保育内容 - 言葉

担当教員： 中塚 勝俊 (NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

保育計画、保育実践、保育評価、保育の改善・修正を、具体的保育場面において試みることができるように授業を進めます。その中で教室での学びを教育・保育の実践と関連付けて理解することをめざします。

【到達目標】

- ・保育場面におけるPDCAサイクルを理解することができる。
- ・言語習得過程を理解することができる。
- ・表出言語が発達する以前の理解言語の重要性を認識することができる。

【授業計画】

- 第1回 保育内容としての言葉と乳幼児の発達
 - 第2回 保育内容としての言葉のねらいと内容
 - 第3回 言葉の育ちと環境 (1) 文脈としての経験の意味
 - 第4回 言葉の育ちと環境 (2) 三項関係と経験の共有化
 - 第5回 言葉の育ちと環境 (3) メタ言語能力、メタコミュニケーション
 - 第6回 身体言語の意味
 - 第7回 好奇心・疑問と言葉 (内言)
 - 第8回 見立て遊びと言葉
 - 第9回 絵本の中の言葉 (ICT機器、教材の活用を含む)
 - 第10回 保育者の専門性と言葉
 - 第11回 言葉と保育指導計画 (保育指導案の作成)
 - 第12回 言葉と環境構成
 - 第13回 言葉と保育実践 (模擬授業)
 - 第14回 言葉と保育の評価
 - 第15回 総合的指導と言葉 (生活科との関連)
- 定期試験

【授業時間外の学習】

新聞記事に記載してある、自分にとって興味をそそられる語句や表現を収集し、授業の導入の部分で発表してもらいます。(2時間)
収集された語句や表現について、少なくとも3個以上を用いて文章を作成する。(2時間)

【成績の評価】

- レポート(10%)、期末試験(80%)、授業への参加度(10%)
- ・課題(試験やレポート等)に対して、研究室で個人的にフィードバックします。

【使用テキスト】

柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編『保育内容 言葉』(ミネルヴァ書房、2010年)

【参考文献】

- 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)
- 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)
- 保育所保育方針(平成29年3月告示 文部科学省)

科目名： <TISE4> 保育内容 - 言葉 【発A】
担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育・保育に必要な言語発達の知識を幅広く体系的に理解し、文化的刺激と言葉の重要性について理解を深める。お遊戯会や生活発表会において台本の制作や演劇指導の基本的スキルを習得する。

【到達目標】

- ・領域「言葉」のねらいや内容を児童文化財に見出し、保育計画の中に取り入れたらいいかかを考えることができる。
- ・絵本や劇活動などについて理解し、構想し、創作することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 保育の場とエピソードの意味
- 第3回 領域「言葉」についての意義
- 第4回 領域「言葉」のねらい
- 第5回 環境構成と保育の意図性
- 第6回 観察法と記録法の実際
- 第7回 指導計画のなぜ（保育指導案の作成）
- 第8回 保育の評価の意義と指導計画
- 第9回 童話の中の言葉
- 第10回 紙芝居と言葉（ICT機器利用）
- 第11回 パネルシアターと言葉
- 第12回 パネルシアターの製作
- 第13回 絵本の製作
- 第14回 四季の行事と言葉 ひなまつり、こいのぼり等
- 第15回 総合的指導とは
定期試験

【授業時間外の学習】

- ・四季を描いた形容詞や表現、花鳥風月を表す語句を調べ、授業の導入部において紹介してもらいます。（2時間）復習として、毎回の授業ごとに四季にまつわる気候文を200字程度作成すること。（2時間）

【成績の評価】

- レポート（10%）、期末試験（70%）、作品（20%）
- ・課題（試験やレポート等）は、個人的に研究室でフィードバックします。パネルシアターや絵本は授業時にコメントを付けて返却します。

【使用テキスト】

柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編『保育内容 言葉』（ミネルヴァ書房、2010年）2200円

【参考文献】

- 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）
- 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- 保育所保育指針（平成29年3月告示 文部科学省）

科目名： <TISE4> 保育内容 - 言葉 【発B】
担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育・保育に必要な言語発達の知識を幅広く体系的に理解し、文化的刺激と言葉の重要性について理解を深める。お遊戯会や生活発表会において台本の制作やえんげきしどうの基本的スキルを習得する。

【到達目標】

- ・領域「言葉」のねらいや内容を児童文化財に見出し、保育計画の中に取り入れたらいいかかを考えることができる。
- ・絵本や劇活動などについて理解し、構想し、創作することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 保育の場とエピソードの意味
 - 第3回 領域「言葉」についての意義
 - 第4回 領域「言葉」のねらい
 - 第5回 環境構成と保育の意図性
 - 第6回 観察法と記録法の実際
 - 第7回 指導計画のなぜ（保育指導案の作成）
 - 第8回 保育の評価の意義と指導計画
 - 第9回 童話の中の言葉
 - 第10回 紙芝居と言葉（ICT機器利用）
 - 第11回 パネルシアターと言葉
 - 第12回 パネルシアターの製作
 - 第13回 絵本の製作
 - 第14回 四季の行事と言葉 ひなまつり、こいのぼり等
 - 第15回 総合的指導とは
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・四季を描いた形容詞や表現、花鳥風月を表す語句を調べ、授業の導入部において紹介してもらいます。（2時間）復習として、毎回の授業ごとに四季にまつわる気候文を200字程度作成すること。（2時間）

【成績の評価】

- レポート（10%）、期末試験（70%）、作品（20%）
- ・課題（試験やレポート等）は、個人的に研究室でフィードバックします。パネルシアターや絵本は授業時にコメントを付けて返却します。

【使用テキスト】

柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編『保育内容 言葉』（ミネルヴァ書房、2010年）2200円

【参考文献】

- 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省）
- 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- 保育所保育指針（平成29年3月告示 文部科学省）

科目名： < TISE5 > 国語（書写を含む）

担当教員： 澤田 文男(SAWADA Fumio)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。

○小学校や幼稚園などで国語教育にあたるための理論や表現力を身に付けることをねらいとした授業です。

○学生が自ら主体的に取り組むアクティブラーニングの手法を取り入れた授業活動の中で、宮沢賢治の各種作品や小学校・中学校の教科書に掲されている様々な教材の詳細な読解を通じて「国語」の指導力を高めます。

○授業活動を通じて、今後の社会で特に必要とされる文章や情報を正確に読み解き対話する力や科学的に思考・吟味する力を養います。

○また、書写については、毎授業冒頭で平仮名・片仮名の実践的な練習をします。

【到達目標】

1. 学生が、幼稚園・小学校教育に携わる教員として必要な「国語」を適切に表現し、正確に理解する力を付けることができます。

2. 学生が、「国語」を通じて思考力や想像力、言語感覚を養い、国語を尊重する態度を育てる力を付けることができます。

3. 学生が、主体的に取り組むアクティブラーニングを通じ、継続的に学び、自らの意見を表現する力を身につけることができます。

【授業計画】

第1回：学習指導要領と「国語」の意義について

第2回：宮沢賢治について・作品『やまなし』読解

第3回：作品『やまなし』読解

第4回：作品『やまなし』読解

第5回：様々な表現技術について（文学作品の分野）

第6回：様々な表現技術について（詩）

第7回：様々な表現技術について（短歌）

第8回：様々な表現技術について（修辞法）

第9回：様々な表現技術について（漢詩）（修辞法のいろいろ）

第10回：作品『注文の多い料理店』読解

第11回：作品『注文の多い料理店』読解

第12回：意見交換・表現について

第13回：作品『なめとこ山の熊』読解

第14回：作品『なめとこ山の熊』読解

第15回：これまでの読解・表現・書写についての整理

なお、書写については毎時間の冒頭に練習します。

定期試験

【授業時間外の学習】

○予習として、事前に配布した資料を辞書や図書館の資料で調べ、内容を確認しておくこと。（2時間）

○復習として、毎回の授業で学修した資料を完成させ、指定期日までに提出すること。（2時間）

【成績の評価】

1. 予習課題の提出状況を評価します。

2. 授業に対する取り組み姿勢を評価します。

3. 1 + 2（30%）と期末考査の結果（70%）を合わせて総合的に評価します。

なお、期末試験の結果については、考査終了後、正答例を研究室前に掲示します。

【使用テキスト】

○保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）

○幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

○小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

○『やまなし』・『よだかの星』・『注文の多い料理店』・『なめとこ山の熊』（宮沢賢治著）

○自作資料集

【参考文献】

○関連する参考図書については、授業の中で適宜紹介します。

科目名： <TISE6> 社会

担当教員： 野村 一夫

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。教育行政と小学校教員の経験を踏まえ、学校実情に即した社会科教育の在り方を追究します。

社会科は「社会認識による社会的知性を前提条件として究極的には公民的資質の育成を図る教科」です。小学校社会科では、「国際社会を主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育成することが目標とされています。

本授業では、社会の変化と社会科の果たす役割や小学校社会科の内容構成や目標、内容、教材、評価などの基本的な考え方、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた社会科授業の在り方を追究していきます。

これらの学修をもとに、これからの社会で求められる力を社会科を通じていかに身に付けるのかを考え、理論を踏まえて実践できる基礎的な資質・能力を培うことを目指します。

【到達目標】

社会の変化と学校教育における社会科の役割を考え、小学校教員として社会科学習をいかに指導するかを述べるができる。

- 1) 社会の変化と社会科教育の歴史を理解し、社会科の本質を述べるができる。
- 2) 社会科、地理歴史科、公民科の関連を理解し、小学校社会科の内容構成の特色を述べるができる。
- 3) 小学校社会科の目標、内容、評価の在り方などを理解し、指導計画を立てることができる。
- 4) 社会科の学習過程や学習形態、学習活動の在り方を考え、授業計画を立てることができる。
- 5) 総合的な学習の時間や特別の教科道徳等との関連を理解し、社会科の役割を述べるができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・社会科の歴史
- 第2回 社会の変化と社会科教育
- 第3回 社会科の本質・目標
- 第4回 小学校社会科と中学校社会科、地理歴史科、公民科との関連
- 第5回 小学校社会科と総合的な学習の時間、特別の教科道徳等との関連
- 第6回 小学校社会科における地域学習・郷土学習
- 第7回 小学校社会科における社会的事象の地理的な見方・考え方
- 第8回 小学校社会科における歴史的学習
- 第9回 小学校社会科における公民的学習
- 第10回 小学校社会科指導計画の作成と配慮事項
- 第11回 小学校社会科の学習過程と学習形態
- 第12回 小学校社会科の評価
- 第13回 小学校社会科における教材・教具の開発と活用
- 第14回 小学校社会科における学習の個別・最適化とICT活用
- 第15回 「社会に開かれた教育課程」における小学校社会科の在り方
定期試験

【授業時間外の学習】

- 1) 事前学修課題について、図書や資料等を参考に自分考えをノート等にまとめておくこと(毎2時間)
- 2) 学習中に課したワークシートの記述内容を振り返り、ノート等に整理しておくこと。(毎2時間)

【成績の評価】

学修内容の理解度はもとより、学修に対する意欲と態度を評価します。
授業中に作成するリフレクションペーパー(40%)、期末試験(60%)とします。
リフレクションペーパーは、評価と解説を行い、授業の中で返却します。
定期試験は、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編 平成30年 文部科学省
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編 平成30年 文部科学省
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編 平成30年 文部科学省
小学校教科書「新しい社会」3年、4年、5年上・下、6年上・下 令和2年 東京書籍
小学校教科書「楽しく学ぶ小学生の地図帳」 令和2年 帝国書院

【参考文献】

日本社会科教育学会編 新版 社会科教育事典 2012年 ぎょうせい
全国社会科教育学会 新 社会科授業づくりハンドブック 小学校編 2015年 明治図書
香川県小学校社会科教育研究会 社会に開かれた教育課程による2タイプの社会科学習 2019年 東洋館出版社

科目名： <TISE7> 算数

担当教員： 環 修

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小・中・高等学校での学校現場指導及び、教育委員会での行政指導の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。また、この授業は、算数・数学に関する問題に対し、あなたが考え、あなたが解決する時間です。身近な生活の中にある算数から論理的思考へと広がっていく数学の世界のおもしろさや良さを実感し、数学的な見方・考え方を認識していきます。算数・数学を学ぶ意義を考え、それを子どもたちに伝えていこうとする力を育てていきます。

【到達目標】

- ・算数・数学のおもしろさや良さを理解し、数学的な見方・考え方を身に付けることができる。
- ・算数・数学科の学習評価の考え方が理解できる。
- ・算数指導の背景となる数学の内容との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
- ・算数教育に必要な知識を体系的に整理し、実践と関係づけて理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：算数・数学教育の意義
 - 第2回：算数・数学教育の現状と課題（全国学力・学習状況調査）
 - 第3回：数と計算（小学校の内容）
 - 第4回：数と式（中学校の内容）
 - 第5回：測定（小学校の内容）
 - 第6回：図形（小学校の内容）
 - 第7回：図形（中学校の内容）
 - 第8回：変化と関係（小学校の内容）
 - 第9回：関数（中学校の内容）
 - 第10回：データの活用（小学校の内容）
 - 第11回：データの活用（中学校の内容）
 - 第12回：数学的活動（小学校の内容）
 - 第13回：数学的活動（中学校の内容）
 - 第14回：数学的な見方・考え方（小学校の内容）
 - 第15回：数学的な見方・考え方（中学校の内容）
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

- ・学習指導要領の領域や学年ごとの内容のまとめ作業を課題として行う。（1時間）
- ・身近な生活の中での、算数・数学的に魅力ある問題を探してくる。（1時間）

【成績の評価】

- 受講態度（10%） 演習（10%） レポート（10%） 期末試験（70%）
- ・小テスト及び演習を行うことで内容把握を細かく行う。
 - ・レポートについては、コメントを記入し、状況把握を図る。
 - ・期末試験は、今後の対策についてのコメントを記入し、返却する。

【使用テキスト】

- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 算数編」（平成29年7月）

【参考文献】

なし

科目名： <TISE8> 児童英語

担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro), 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

【授業の紹介】

令和2年度から小学校3, 4年生には外国語活動が導入され, 5, 6年生では英語が教科として新設される。こういう状況のなか、小学校や幼稚園の教師になろうとする人たちは、英語圏の子どもたちが使っている「生きている」英語はどのようなものかを、読んだり、聞いたりして体験しておくことは、非常に大切なことと思える。この授業では、音声、文字、絵を媒体とした「子どもの英語」をとりあげ、さらに、児童英語教育に必要な基本的知識や指導方法を紹介する。

【到達目標】

英語圏や日本で出版された英語の絵本や紙芝居に触れ、

1. その中の一冊の英語をしっかりと理解し、読み聞かせが上手にできるようになる
2. 英語で書かれた物語を読んだり聞いたりして、それらを子どもたちにとって分かりやすい日本語に直し、伝えることができるようになる
3. 教室英語の基本的なものを理解し、使えるようになる
4. さらに、子どもに対し英語を指導する際、知っておく必要がある知識・技能を獲得する。

【授業計画】

第1回：授業概要の説明と各自担当の物語の決定

第2回：読み聞かせの実際（DVD鑑賞）、読み聞かせ・翻訳の練習

第3回：「児童英語教育の目指すもの」と読み聞かせ・翻訳の練習

第4回：「日本における現状と課題」と読み聞かせ・翻訳の練習

第5回：「国際理解教育と英語の役割」と読み聞かせ・翻訳の練習

第6回：「子どもの言語獲得と言語習得」と読み聞かせ・翻訳の練習

第7回：「言語心理学からの知見」と読み聞かせ・翻訳の練習

第8回：「子どもに対する代表的な英語指導法（1）」と読み聞かせ・翻訳の練習

第9回：「子どもに対する代表的な英語指導法（2）」と読み聞かせ・翻訳の練習

第10回：「子どもに対する代表的な英語指導法（3）」と読み聞かせ・翻訳の練習

第11回：「基本的なクラスルーム・イングリッシュ（1）」と読み聞かせ・翻訳の練習

第12回：「基本的なクラスルーム・イングリッシュ（2）」と読み聞かせ・翻訳の練習

第13回：「子どもが好きな英語の歌（1）」と読み聞かせ・翻訳の練習

第14回：「子どもが好きな英語の歌（2）」と読み聞かせ・翻訳の練習

第15回：読み聞かせの最終発表

定期試験

【授業時間外の学習】

英語絵本を読む、聞く、訳すための予習は自宅で必ず行い、英語の絵本の読み聞かせや紙芝居の実演のための準備は長期間にわたり少しずつなされることが求められる。

【成績の評価】

英語の絵本の発表30%、復習テスト20%、日本語訳20%、定期試験30%として、最終評価を行う。定期試験以外は、毎時間、それらが行われた直後、コメント、アドバイスをし、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

図書館に備え付けてある多くの英語の絵本の中から、自分にとって興味あるものを選び、読み聞かせの練習に使う。翻訳を求める物語は、随時こちらで用意する。

【参考文献】

「えいごよみきかせ絵本1」、「えいごよみきかせ絵本1」（ともに成美堂出版）

科目名： <TISE9> 生活

担当教員： 高橋 佳生

【授業の紹介】

自らの体験を基に、生活科学習に関する疑問、質問を出し合い、解決の視点づくりに取り組む。子どもたちの体験不足は、自らもまた同様であることに気付き、学内の空き地を活用した畑、ビオトープでの動植物の飼育栽培をする体験活動、おもちゃ作り、地域のフィールドワーク等に挑戦しながら、生活科教育の概要と現状を把握する。そこから、保こ幼と小の違いに目を向けて、「わかる」から「できる」へと実践力を高めていく。

【到達目標】

1. 生活科創設の歴史的背景を探り、生活科本来の目標を把握するとともに、教科用図書を基に、価値ある体験活動の重視、個性重視、学・家・地域連携のあり方を理解できる。
2. 児童主体の生活科教育の理解を通して、教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 学校現場の生活科教育の現状
 - 第2回 生活科の創設と歴史的背景
 - 第3回 生活科の役割と特色
 - 第4回 生活科の目標と内容
 - 第5回 1年生の内容と体験活動（アサガオ栽培）
 - 第6回 自然との関わり（昆虫採集、淡水魚の採集）
 - 第7回 体験活動と表現活動
 - 第8回 2年生の内容と体験活動（野菜の栽培）
 - 第9回 地域のフィールドワーク（公共機関や土地利用）
 - 第10回 物作り（おもちゃ作り）と科学的な見方・考え方
 - 第11回 安全教育とのかかわり
 - 第12回 身近な人々とのかかわり
 - 第13回 合科的指導の展開
 - 第14回 幼児教育との連携（スタートカリキュラム）
 - 第15回 小学校教育における生活科の役割
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

日頃から、学内及び春日川周辺の自然や人の営みに関心を持ち、「町たんけんファイル」を作成する。見つけた動植物を調べて特徴等を記載したり、気付いた課題を整理したりする。（4時間）

【成績の評価】

小テスト2回(60%)やレポート(20%)、授業への参加態度、水やり等日常活動(20%)。小テスト、レポートについては、その都度、結果を授業時に説明、講評する。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領解説生活編(平成29年3月告示 文部科学省)
教科書 「あたらしいせいかつ上、新しい生活下」 東京書籍

【参考文献】

授業において適宜紹介、資料配布する。

科目名： <TISE10>理科

担当教員： 織田 幸美(ODA Yukimi)

【授業の紹介】

子どもたちの理科離れ、自然離れが指摘されています。本来、子どもは好奇心が強く、自然のいろいろな事物・現象に興味津々です。子どもたちが不思議に思う気持ちを大切に受け止め、驚きや感動を共有して、いっしょに調べ、考えていこうとする教師の姿勢が大切です。

また、今日の社会が目ざす方向を示す標語として、「持続可能な社会」という言葉が使われます。先人が築きあげ、大切に受け継いできた文化や自然が急速に失われつつあることへの警鐘です。

これらを考え合わせ、授業では、小学校理科で学習する内容の中から生物・地学教材を中心に、観察、実験、栽培、飼育などの体験的な方法や技能を鍛えながら、自然認識の形成と自然環境の保全について考え、学んでいきます。将来、小学校で授業を行う際の「理論」と「実践力」を養います。

【到達目標】

- (1)子どもたちの学びの場となる自然および自然の事物・現象についての基本的な知識を身につけることができる。
- (2)子どもに自然のすばらしさ、巧みさ、不思議さを気づかせる指導技術を養うことをめざす。
- (3)正しい自然認識を形成し、「持続可能な社会」の実現に向けた指導について、考えることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 小学校理科の目標と内容の取り扱い
- 第3回 自然観察の方法（生物教材）
- 第4回 春の自然観察・学内の生き物
- 第5回 春の自然観察・春日川と野鳥
- 第6回 栽培の方法
- 第7回 飼育の方法
- 第8回 自然観察の方法（地学教材）
- 第9回 身近な大地のづくり
- 第10回 身近な大地のづくり
- 第11回 動物の誕生・メダカ
- 第12回 花から実へ・植物の成長
- 第13回 教材研究と授業計画
- 第14回 指導案作成
- 第15回 模擬授業
- 第16回 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・『小学校指導要領解説 理科編』と配付資料を読んで授業に臨むこと。
- ・ワークシートを完成させて、提出すること。
- ・各回30～60分程度の準備と復習をしてください。

【成績の評価】

レポート、模擬授業など授業の成果と筆記試験をそれぞれ50%で評価する。
小テスト、レポートについては、評価と解説を行い、授業の中で返却します。

【使用テキスト】

文部科学省『小学校理科の観察、実験の手引き』（文部科学省ホームページからダウンロード）

【参考文献】

日本自然保護協会／編集・監修『自然観察ハンドブック』（平凡社、1994年）2160円
文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』（平成29年告示）

科目名： <TISE11>子ども文化 【発A】

担当教員： 藤澤 典子(FUZISAWA Noriko)

【授業の紹介】

子どもは、自分を取り巻く文化の中で育ち、遊びながら学んでいきます。いろいろな遊びをとおして、言葉を獲得したり、あれこれ工夫したりする知力を養います。また、いっしょに遊ぶことから人と関わる力を身につけたり、体力や意欲を向上させていきます。子どもがどれだけ、生き生きと遊びに夢中になっているかは、保育の質と深さに関わってきます。保育者は、子どもの遊びの計画を立てたり、思わず遊びたくなるような教材を準備したり、実際の遊びの中に一緒に入り、さらに遊びが楽しくなるように配慮しなければなりません。

本授業では、玩具や絵本などの児童文化財について学ぶと共に、子どもと関わる人たちの行動の仕方やものの見方・考え方についても理解していきます。伝承遊びや読み聞かせ、劇づくりなど具体的な活動を通して、幅広い教養と実践的能力を身に付けていきます。

【到達目標】

1. 子ども文化が子どもの感性や心の育ちに与える影響について理解することができる。
2. 子どもの生活や遊びを豊かにする文化について理解を深めることができる。

【授業計画】

- 第1回 子ども文化って何だろう
 - 第2回 子ども観の変遷と子どもの遊び
 - 第3回 子どもの遊びと消費生活
 - 第4回 ゲーム文化と子どもの遊び
 - 第5回 電子空間の可能性と危険性（ディベートを通して考える）
 - 第6回 子どもの発達と児童文化・児童文化財、児童文化施設
 - 第7回 子どもの生活を生き生きとさせる児童文化（子どもは玩具でどう遊ぶのか）
 - 第8回 子どもの生活と遊び（子どもに伝えたい伝承遊び）
 - 第9回 子どもの生活と遊び（子どもに伝えたい伝承遊びの実際）
 - 第10回 子どもと文学（わらべうた・おはなしの世界）
 - 第11回 子どもと文学（絵本の力）
 - 第12回 劇づくり（選書とシナリオ作り）
 - 第13回 劇づくり（練習）
 - 第14回 劇づくり（発表と評価）
 - 第15回 子ども文化を伝承すること、創ること
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・ 保育実習園、図書館、美術館、街等で子ども文化を見つける。（計1時間）
- ・ 授業の振り返りやまとめをミニレポートとして提出する（計5時間）
- ・ 課題（「ゲーム文化と子どもの遊び」）についての情報収集と考察をし、討議できるようにする。（計3時間）
- ・ 伝承遊びや劇づくりでは、グループで協力して実践できるよう、自分に分担された準備をしっかりとする。（計6時間）

【成績の評価】

関心・態度（20%）ワークシート等への記入内容や発表内容、提出物（40%）定期試験（40%）

授業の振り返りやレポートは添削して返したり、次時の授業で活用したりする。

伝承遊びや劇づくりの実践的活動では、準備や学習態度、意欲等を重視する。教員からの講評を受けることで、フィードバックを行う。

15分以上の遅刻3回で欠席1回とみなす。

【使用テキスト】

皆川美恵子編著「新版 児童文化」（ななみ書房 2016年）

【参考文献】

- 絵本 かこさとし作「どろぼうがっこう」（偕成社）
- 瀬田貞二作「かさじぞう」（福音館書店）
- グリム童話「おおかみと七ひきのこやぎ」（福音館書店）
- 北欧民話「三びきのやぎのがらがらどん」（福音館書店） など

科目名： <TISE11>子ども文化 【発B】

担当教員： 藤澤 典子(FUZISAWA Noriko)

【授業の紹介】

子どもは、自分を取り巻く文化の中で育ち、遊びながら学んでいきます。いろいろな遊びをとおして、言葉を獲得したり、あれこれ工夫したりする知力を養います。また、いっしょに遊ぶことから人と関わる力を身につけたり、体力や意欲を向上させていきます。子どもがどれだけ、生き生きと遊びに夢中になっているかは、保育の質と深さに関わってきます。保育者は、子どもの遊びの計画を立てたり、思わず遊びたくなるような教材を準備したり、実際の遊びの中に一緒に入り、さらに遊びが楽しくなるように配慮しなければなりません。

本授業では、玩具や絵本などの児童文化財について学ぶと共に、子どもと関わる人たちの行動の仕方やものの見方・考え方についても理解していきます。伝承遊びや読み聞かせ、劇づくりなど具体的な活動を通して、幅広い教養と実践的能力を身に付けていきます。

【到達目標】

1. 子ども文化が子どもの感性や心の育ちに与える影響について理解することができる。
2. 子どもの生活や遊びを豊かにする文化について理解を深めることができる。

【授業計画】

- 第1回 子ども文化って何だろう
 - 第2回 子ども観の変遷と子どもの遊び
 - 第3回 子どもの遊びと消費生活
 - 第4回 ゲーム文化と子どもの遊び
 - 第5回 電子空間の可能性と危険性（ディベートを通して考える）
 - 第6回 子どもの発達と児童文化・児童文化財、児童文化施設
 - 第7回 子どもの生活を生き生きとさせる児童文化（子どもは玩具でどう遊ぶのか）
 - 第8回 子どもの生活と遊び（子どもに伝えたい伝承遊び）
 - 第9回 子どもの生活と遊び（子どもに伝えたい伝承遊びの実際）
 - 第10回 子どもと文学（わらべうた・おはなしの世界）
 - 第11回 子どもと文学（絵本の力）
 - 第12回 劇づくり（選書とシナリオ作り）
 - 第13回 劇づくり（練習）
 - 第14回 劇づくり（発表と評価）
 - 第15回 子ども文化を伝承すること、創ること
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・ 保育実習園、図書館、美術館、街等で子ども文化を見つける。（計1時間）
- ・ 授業の振り返りやまとめをミニレポートとして提出する（計5時間）
- ・ 課題（「ゲーム文化と子どもの遊び」）についての情報収集と考察をし、討議できるようにする。（計3時間）
- ・ 伝承遊びや劇づくりでは、グループで協力して実践できるよう、自分に分担された準備をしっかりとする。（計6時間）

【成績の評価】

関心・態度（20%）ワークシート等への記入内容や発表内容、提出物（40%）定期試験（40%）

授業の振り返りやレポートは添削して返したり、次時の授業で活用したりする。

伝承遊びや劇づくりの実践的活動では、準備や学習態度、意欲等を重視する。教員からの講評を受けることで、フィードバックを行う。

15分以上の遅刻3回で欠席1回とみなす。

【使用テキスト】

皆川美恵子編著「新版 児童文化」（ななみ書房 2016年）

【参考文献】

- 絵本 かこさとし作「どろぼうがっこう」（偕成社）
- 瀬田貞二作「かさじぞう」（福音館書店）
- グリム童話「おおかみと七ひきのこやぎ」（福音館書店）
- 北欧民話「三びきのやぎのがらがらどん」（福音館書店） など

科目名： <TISE12> 子ども研究【発A】

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員が担当する授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

幼児期にふさわしい保育を行う際に必要なことは、幼児一人一人の特性を的確に把握し、理解することです。そのため、本授業では、幼児理解の意義と重要性を理解し、それらを保育実践と結びつけて考察する力を身に付けることをめざします。また、文献や観察記録、映像視聴など様々な演習方法を通して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法について学ぶとともに、個と集団の関係や家庭との連携を含めて考える力を身に付けていきます。そして、幼児の育ちを支えるために必要な保育の実践力及び豊かな人間性を養うことをめざします。

【到達目標】

1. 幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。
 - (1) 幼児の生活及び遊びの実態に即した幼児理解の意義が理解できる。
 - (2) 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解することができる。
 - (3) 幼児理解を深めるための保育者の基礎的な態度を理解することができる。
2. 幼児理解の方法を具体的に理解する。
 - (1) 観察や記録の意義や目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。
 - (2) 個と集団の関係を捉える意義や方法が理解できる。
 - (3) 幼児の発達や学びの過程で生じるつまずきやその要因を周りの幼児との関係やその他の背景から捉える原理及び方法を示すことができる。
 - (4) 保護者の心情や基礎的な対応の方法が理解できる。

【授業計画】

- 第1回 幼児理解の必要性
 - 第2回 保育における「幼児理解」 子どもを見る目
 - 第3回 幼児の発達や学びの理解
 - 第4回 幼児の遊びと幼児理解
 - 第5回 幼児理解を深める保育者の姿勢
 - 第6回 幼児理解に向けて～個と集団
 - 第7回 保育における「理解」と「援助」
 - 第8回 幼児理解と保育者の意図
 - 第9回 幼児理解の様々な方法
 - 第10回 幼児理解を深める「観察と記録」
 - 第11回 幼児のつまずきの理解とその対応
 - 第12回 気になる行動への保育者の対応
 - 第13回 子育て支援における幼児理解
 - 第14回 保護者への対応のロールプレイ
 - 第15回 幼児の学びのつながり 園内の協力体制と関係機関との連携
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておきます。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておきます。(1時間)

その際、実習における記録等が参考となりますので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておきます。

【成績の評価】

課題およびワークシートの取組みと内容(40%)、期末試験(60%)により評価します。

ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取組み、提出します。

課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

随時、資料を配布します。

【参考文献】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

保育所保育指針解説(平成30年 厚生労働省)

幼保連携型こども園教育・保育要領(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < TISE12 > 子ども研究【発B】

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員が担当する授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

幼児期にふさわしい保育を行う際に必要なことは、幼児一人一人の特性を的確に把握し、理解することです。そのため、本授業では、幼児理解の意義と重要性を理解し、それらを保育実践と結びつけて考察する力を身に付けることをめざします。また、文献や観察記録、映像視聴など様々な演習方法を通して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法について学ぶとともに、個と集団の関係や家庭との連携を含めて考える力を身に付けていきます。そして、幼児の育ちを支えるために必要な保育の実践力及び豊かな人間性を養うことをめざします。

【到達目標】

1. 幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。
 - (1) 幼児の生活及び遊びの実態に即した幼児理解の意義が理解できる。
 - (2) 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解することができる。
 - (3) 幼児理解を深めるための保育者の基礎的な態度を理解することができる。
2. 幼児理解の方法を具体的に理解する。
 - (1) 観察や記録の意義や目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。
 - (2) 個と集団の関係を捉える意義や方法が理解できる。
 - (3) 幼児の発達や学びの過程で生じるつまずきやその要因を周りの幼児との関係やその他の背景から捉える原理及び方法を示すことができる。
 - (4) 保護者の心情や基礎的な対応の方法が理解できる。

【授業計画】

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第1回 | 幼児理解の必要性 |
| 第2回 | 保育における「幼児理解」 子どもを見る目 |
| 第3回 | 幼児の発達や学びの理解 |
| 第4回 | 幼児の遊びと幼児理解 |
| 第5回 | 幼児理解を深める保育者の姿勢 |
| 第6回 | 幼児理解に向けて～個と集団 |
| 第7回 | 保育における「理解」と「援助」 |
| 第8回 | 幼児理解と保育者の意図 |
| 第9回 | 幼児理解の様々な方法 |
| 第10回 | 幼児理解を深める「観察と記録」 |
| 第11回 | 幼児のつまずきの理解とその対応 |
| 第12回 | 気になる行動への保育者の対応 |
| 第13回 | 子育て支援における幼児理解 |
| 第14回 | 保護者への対応のロールプレイ |
| 第15回 | 幼児の学びのつながり 園内の協力体制と関係機関との連携 |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておきます。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておきます。(1時間)

その際、実習における記録等が参考となりますので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておきます。

【成績の評価】

課題およびワークシートの取組みと内容(40%)、期末試験(60%)により評価します。

ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取組み、提出します。

課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

随時、資料を配布します。

【参考文献】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

保育所保育指針解説(平成30年 厚生労働省)

幼保連携型こども園教育・保育要領解説(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： <TISE13> 保育内容 - 表現

担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

本授業は、「折り紙による表現」、「お話を絵にする」、「切り紙による模様の表現」、「形のあそび」によって、子どもが持っているありのままの姿を素直に表せる感性を高めることの工夫や、表現という力を育てるために必要な知識や技能を修得し、集団の場での「表現」体験を通して、思考力やコミュニケーション力を育み、保育の実践力を身に付ける。

【到達目標】

1. 子どもの自己表現や意欲を受け入れる感性を身に付けることができる。
2. 子どもの発達段階における造形表現とその特徴を理解することができる。
3. 「造形あそび」を体験することによって、さまざまな表現のあり方を修得することができる。
4. 豊かな感性や人間性を育み、子どもたちの「あそび」から創作へと展開できる自由で楽しい造形に導ける保育者を目指す。

【授業計画】

- 第1回 幼児造形における「造形あそび」について
- 第2回 折り紙による表現(1)(ICT機器による検索、試作)
- 第3回 折り紙による表現(2)(制作)
- 第4回 折り紙による表現(3)(制作、組み立て)
- 第5回 お話を絵にする(1)(ICT機器による検索、お話をつくる)
- 第6回 お話を絵にする(2)(スケッチ、彩色)
- 第7回 お話を絵にする(3)(彩色)
- 第8回 お話を絵にする(4)(彩色、仕上げ)
- 第9回 切り紙による模様の表現(1)(試作)
- 第10回 切り紙による模様の表現(2)(制作)
- 第11回 切り紙による模様の表現(3)(制作、仕上げ)
- 第12回 形のあそび(1)(アイデアスケッチ)
- 第13回 形のあそび(2)(下絵、展開)
- 第14回 形のあそび(3)(配色、仕上げ)
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

「折り紙による表現」、「お話を絵にする」、「切り紙による模様の表現」、「形のあそび」の制作において、資料収集をしておくことや、アイデアスケッチなど、指定した時に提出できるように常に制作準備を整えておくこと。(1時間)

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容(80%)、授業態度・意欲・準備物(20%)
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 『保育内容・表現』(平田智久編著、ミネルヴァ書房、2010年)
 - 『幼稚園教育要領』(平成30年 文部科学省)
 - 『保育所保育指針』(平成30年 厚生労働省)
 - 『幼保連携認定こども園教育・保育要領』(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)
- 授業中に適宜資料を配付する。

科目名： <TISE14> 図画工作 -
担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

子どもの教育にあたる人にとって造形とは、「美」にふれることを教えることである。子どもが本来持っている素直で自由な表現力を高めるには、日々の生活の中から育まれる「美」への発見を喜びに結ばせ、楽しく自由な表現活動を行うことが重要である。「水彩画」、「素描」、「ペーパークラフト」、「平面構成」を通して、造形活動に必要な基礎的知識と技能を修得し、教育の実践と関連づけて理解できることによって、子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

1. 自然の中における色や形を考えることによって、「美」の発見と造形表現のイメージをもつことができる。
2. 各種の造形表現によって、基礎的な造形力を身に付けることができる。
3. 構想する力によって、創造性を養うことができる。
4. 表現することの喜びを得ることによって、豊かな感性を磨くことを目指す。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 水彩画(1)(モチーフの配置、下絵)
- 第3回 水彩画(2)(下絵、彩色)
- 第4回 水彩画(3)(彩色)
- 第5回 水彩画(4)(彩色、仕上げ)
- 第6回 素描(1)(構図、明暗描写)
- 第7回 素描(2)(細部描写、仕上げ)
- 第8回 ペーパークラフト(1)(ユニットのアイデア)
- 第9回 ペーパークラフト(2)(ユニットの加工)
- 第10回 ペーパークラフト(3)(ユニットの構成)
- 第11回 平面構成(1)(アイデアスケッチ、レイアウト)
- 第12回 平面構成(2)(配色)
- 第13回 平面構成(3)(配色と調整)
- 第14回 平面構成(4)(配色と調整、仕上げ)
- 第15回 講評、これまでの制作についてりのまとめ
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「水彩画」、「素描」、「ペーパークラフト」、「平面構成」の制作において、資料収集をしておくことや、アイデアスケッチなど、指定した時に提出できるように常に制作準備を整えておくこと。(1時間)

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容(80%)、授業態度・意欲・準備物(20%)
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

『小学校図画工作の基礎』(樋口一成著、萌文書林、2020年)

科目名： <TISE15> 図画工作 -
担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

子どもの教育にあたる人にとって造形とは、「美」にふれることを教えることである。子どもが本来持っている素直で自由な表現力を高めるには、日々の生活の中から育まれる「美」への発見を喜びに結ばせ、楽しく自由な表現活動を行うことが重要である。「技法のいろいろ」、「手づくり絵本」、「粘土造形」、「デザイン」を通して、造形活動に必要な基礎的知識と技能を修得し、教育の実践力を身に付けることによって、子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

1. 自然の中における色や形を考えることによって、「美」の発見と造形表現のイメージをもつことができる。
2. 各種の造形表現によって、基礎的な造形力を身に付けることができる。
3. 構想する力によって、創造性を養うことができる。
4. 作品鑑賞や表現することの喜びを得ることによって、豊かな感性を磨くことを目指す。

【授業計画】

- 第1回 感ずる心と創造
- 第2回 技法のいろいろ (1) 「ドリップング」「マーブリング」「ぼかし」
- 第3回 技法のいろいろ (2) 「スパッタリング」「ウォッシング」「フロッタージュ」
- 第4回 技法のいろいろ (3) 「スクラッチボード」「デカルコマニー」「技法による作品制作」
- 第5回 手づくり絵本 (1) (あら筋、アイデアスケッチ)
- 第6回 手づくり絵本 (2) (下絵、彩色)
- 第7回 手づくり絵本 (3) (彩色)
- 第8回 手づくり絵本 (4) (彩色、仕上げ)
- 第9回 粘土造形 (1) (成形)
- 第10回 粘土造形 (2) (彩色、仕上げ)
- 第11回 デザイン (1) (アイデアスケッチ、レイアウト)
- 第12回 デザイン (2) (下絵、着色)
- 第13回 デザイン (3) (着色)
- 第14回 デザイン (4) (着色、レタリング、仕上げ)
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「技法のいろいろ」、「手づくり絵本」、「粘土造形」、「デザイン」の制作において、資料を収集しておくことや、アイデアスケッチなど、指定した時に提出できるように、常に制作準備を整えておくこと。(1時間)

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容(80%)、授業態度・意欲・準備物(20%)
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

『小学校図画工作の基礎』(樋口一成著、萌文書林、2020年)

科目名： <TISE16> 図画工作 - 【発A】

担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

造形は、人間が独創的で積極的に創造活動を行うことができるものである。創作へのイメージや構想は多くの人がもてるものである。しかし、これが不定形なものでは創造とはいえない。これを表現という手段で実体化し、自己のイメージと一致したときにはじめて創造の喜びが生まれる。「水彩画」、「素描」、「切り絵」、「デザイン」の作品を制作する。造形に必要な基礎的知識や美的感覚を養い、教育・保育の実践と関連づけて理解できることによって、子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

1. 素描の仕方、形の取り方、構成の仕方、彩色方法など造形の基本的な表現技法を学ぶことができる。
2. 絵画やデザインなどの創造活動によって、美的体験を豊かにすることができる。
3. 造形表現力や作品鑑賞力によって、美術を愛好する態度を養うことができる。
4. 観察から創作へと展開できる自由で楽しい造形に導ける指導者を目指す。

【授業計画】

- 第1回 表現力について
- 第2回 水彩画(1)(モチーフの配置と構図のとり方、スケッチ)
- 第3回 水彩画(2)(彩色)
- 第4回 水彩画(3)(彩色、仕上げ)
- 第5回 静物による素描(1)(形、明暗、材質、空間の把握)
- 第6回 静物による素描(2)(ヴァルールの表現)
- 第7回 切り絵(1)(ラフスケッチ、試作、下絵)
- 第8回 切り絵(2)(細部のカッティング)
- 第9回 切り絵(3)(細部と大きい部分のカッティング)
- 第10回 切り絵(4)(カッティング、修正、仕上げ)
- 第11回 デザイン(1)(作品鑑賞、アイディアスケッチ)
- 第12回 デザイン(2)(レイアウト、配色、着色)
- 第13回 デザイン(3)(着色)
- 第14回 デザイン(4)(着色、仕上げ)
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ。
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「水彩画」、「静物デッサン」、「切り絵」、「デザイン」の制作において、資料収集をしておくことや、アイディアスケッチなど、指定した時に提出できるように常に制作準備を整えておくこと。(1時間)

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容(80%)、授業態度・意欲・準備物(20%)
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 『幼児造形教育の基礎知識』(永守基樹・清原知二著、建帛社、1999年)
- 『アートテクニク大百科』(美術出版社、1996年)

科目名： <TISE16> 図画工作 - 【発B】

担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

造形は、人間が独創的で積極的に創造活動を行うことができるものである。創作へのイメージや構想は多くの人のもてるものである。しかし、これが不定形なものでは創造とはいえない。これを表現という手段で実体化し、自己のイメージと一致したときにはじめて創造の喜びが生まれる。「水彩画」、「素描」、「切り絵」、「デザイン」の作品を制作する。造形に必要な基礎的知識や美的感覚を養い、教育・保育の実践と関連づけて理解できることによって、子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

1. 素描の仕方、形の取り方、構成の仕方、彩色方法など造形の基本的な表現技法を学ぶことができる。
2. 絵画やデザインなどの創造活動によって、美的体験を豊かにすることができる。
3. 造形表現力や作品鑑賞力によって、美術を愛好する態度を養うことができる。
4. 観察から創作へと展開できる自由で楽しい造形に導ける指導者を目指す。

【授業計画】

- 第1回 表現力について
- 第2回 水彩画(1)(モチーフの配置と構図のとり方、スケッチ)
- 第3回 水彩画(2)(彩色)
- 第4回 水彩画(3)(彩色、仕上げ)
- 第5回 静物による素描(1)(形、明暗、材質、空間の把握)
- 第6回 静物による素描(2)(ヴァルールの表現)
- 第7回 切り絵(1)(ラフスケッチ、試作、下絵)
- 第8回 切り絵(2)(細部のカッティング)
- 第9回 切り絵(3)(細部と大きい部分のカッティング)
- 第10回 切り絵(4)(カッティング、修正、仕上げ)
- 第11回 デザイン(1)(作品鑑賞、アイディアスケッチ)
- 第12回 デザイン(2)(レイアウト、配色、着色)
- 第13回 デザイン(3)(着色)
- 第14回 デザイン(4)(着色、仕上げ)
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ。
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「水彩画」、「静物デッサン」、「切り絵」、「デザイン」の制作において、資料収集をしておくことや、アイディアスケッチなど、指定した時に提出できるように常に制作準備を整えておくこと。(1時間)

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容(80%)、授業態度・意欲・準備物(20%)
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 『幼児造形教育の基礎知識』(永守基樹・清原知二著、建帛社、1999年)
- 『アートテクニク大百科』(美術出版社、1996年)

科目名： <TISE17> 図画工作 - 【発A】

担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

造形は、人間が最も独創的で積極的に創造活動を行うことができるものである。創作へのイメージや構想は多くの人々がもてるものである。しかし、これが不定形なものでは創造とはいえない。これを表現という手段で実体化し、自己のイメージと一致したときにはじめて創造の喜びが生まれる。「絵本の制作」、「ペーパークラフト」、「技法による作品制作」によって、造形に必要な基礎的能力や美的感覚を養い、教育・保育の実践力を身に付けることによって、子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

- 1．素描の仕方、形の取り方、構成の仕方、彩色方法など造形の基本的な表現技法を学ぶことができる。
- 2．創作絵本などの創造活動によって、美的体験を豊かにすることができる。
- 3．造形表現力や作品鑑賞力によって、美術を愛好する態度を養うことができる。
- 4．観察から創作へと展開できる自由で楽しい造形に導ける指導者を目指す。

【授業計画】

- 第1回 保育の絵本、絵本作家の作品鑑賞
- 第2回 絵本の制作(1) (題材を決める、あら筋を考える、ストーリーの整理、ページ割り)
- 第3回 絵本の制作(2) (イラスト下絵)
- 第4回 絵本の制作(3) (イラスト着色)
- 第5回 絵本の制作(4) (イラスト着色、仕上げ)
- 第6回 絵本の制作(5) (レタリング)
- 第7回 絵本の制作(6) (表紙・裏表紙デザイン)
- 第8回 絵本の制作(7) (製本、仕上げ)
- 第9回 ペーパークラフト(1) (レイアウト、カッティング)
- 第10回 ペーパークラフト(2) (カッティング、彩色)
- 第11回 ペーパークラフト(3) (彩色、仕上げ)
- 第12回 技法による作品制作(1) (モダンテクニックによる試作)
- 第13回 技法による作品制作(2) (制作)
- 第14回 技法による作品制作(3) (制作、仕上げ)
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ。
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「絵本の制作」、「ペーパークラフト」、「技法による作品」の制作において、資料収集をしておくことや、アイデアスケッチなど、指定した時に提出できるように常に制作準備を整えておくこと。(1時間)

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容(80%)、授業態度・意欲・準備物(20%)
課題は中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 『幼児造形教育の基礎知識』(永守基樹・清原知二著、建帛社、1999年)
- 『保育の絵本研究』(井上共子編著、三晃書房、1992年)

科目名： <TISE17> 図画工作 - 【発B】

担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

造形は、人間が最も独創的で積極的に創造活動を行うことができるものである。創作へのイメージや構想は多くの人々がもてるものである。しかし、これが不定形なものでは創造とはいえない。これを表現という手段で実体化し、自己のイメージと一致したときにはじめて創造の喜びが生まれる。「絵本の制作」、「ペーパークラフト」、「技法による作品制作」によって、造形に必要な基礎的能力や美的感覚を養い、教育・保育の実践力を身に付けることによって、子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

1. 素描の仕方、形の取り方、構成の仕方、彩色方法など造形の基本的な表現技法を学ぶことができる。
2. 創作絵本などの創造活動によって、美的体験を豊かにすることができる。
3. 造形表現力や作品鑑賞力によって、美術を愛好する態度を養うことができる。
4. 観察から創作へと展開できる自由で楽しい造形に導ける指導者を目指す。

【授業計画】

- 第1回 保育の絵本、絵本作家の作品鑑賞
- 第2回 絵本の制作(1) (題材を決める。あら筋を考える。ストーリーの整理。ページ割り)
- 第3回 絵本の制作(2) (イラスト下絵)
- 第4回 絵本の制作(3) (イラスト着色)
- 第5回 絵本の制作(4) (イラスト着色、仕上げ)
- 第6回 絵本の制作(5) (レタリング)
- 第7回 絵本の制作(6) (表紙・裏表紙デザイン)
- 第8回 絵本の制作(7) (製本、仕上げ)
- 第9回 ペーパークラフト(1) (レイアウト、カッティング)
- 第10回 ペーパークラフト(2) (カッティング、彩色)
- 第11回 ペーパークラフト(3) (彩色、仕上げ)
- 第12回 技法による作品制作(1) (モダンテクニックによる試作)
- 第13回 技法による作品制作(2) (制作)
- 第14回 技法による作品制作(3) (制作、仕上げ)
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ。
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「絵本の制作」、「ペーパークラフト」、「技法による作品」の制作において、資料収集をしておくことや、アイデアスケッチなど、指定した時に提出できるように常に制作準備を整えておくこと。(1時間)

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容(80%)、授業態度・意欲・準備物(20%)
課題は中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 『幼児造形教育の基礎知識』(永守基樹・清原知二著、建帛社、1999年)
- 『保育の絵本研究』(井上共子編著、三晃書房、1992年)

科目名： < TISE18 > 特別活動の研究
担当教員： 七條 正典(SHICHIJO Masanori)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目である。学校現場や教育行政での豊富な経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行う。また、学校における多様な集団活動を通して課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる活動の総体である特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」「チームとしての学校」の視点から、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

以上のことを通して、教育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育の実践と関連づけて理解できるようにする。

【到達目標】

学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解することができる。

教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解することができる。

学級活動・ホームルーム活動の特質を理解することができる。

児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解することができる。

教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解することができる。

特別活動における取組の評価・改善活動の重要性を理解することができる。

合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。

特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解することができる。

【授業計画】

第1回：特別活動の意義・目標・内容と教育課程における位置づけ

第2回：特別活動の歴史の変遷

第3回：特別活動と生徒指導

第4回：特別活動と学級経営

第5回：学級活動の意義・目標・内容

第6回：児童会活動の意義・目標・内容

第7回：クラブ活動の意義・目標・内容

第8回：学校行事の意義・目標・内容

第9回：特別活動の指導の在り方 - 小学校の事例（学級活動を中心に） -

第10回：特別活動の指導の在り方 - 小学校の事例（児童会・クラブ活動を中心に） -

第11回：特別活動の指導の在り方 - 小学校の事例（学校行事を中心に） -

第12回：学級活動の指導の実際（模擬体験）

第13回：児童会活動の指導の実際（模擬体験）

第14回：学校行事の指導の実際（模擬体験）

第15回：これからの特別活動

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

前時に指示した内容について調べておくとともに、配布資料を必ず読んで講義に臨むこと（1時間）。

【成績の評価】

小レポート（30%）および学期末の最終レポート（70%）による。

なお、定期試験の結果については、オフィスアワーの際に解説する。また、小レポートは添削して授業時に返却する。

【使用テキスト】

授業中に適宜資料を配布する。

【参考文献】

「小学校学習指導要領解説 特別活動編」（平成29年6月 文部科学省）

「中学校学習指導要領解説 特別活動編」（平成29年7月 文部科学省）

科目名： < TISE19 > 保育原理

担当教員： 相馬 宗胤(SOMA Munetane)

【授業の紹介】

本授業科目では、保育に関するテーマをピックアップし、そのテーマについて理論的に探究することを通して、保育という営み・現象に対する理解を深め、高度な専門的知識と的確な洞察力を身に付けることをめざします。また、対象のテーマについて講義を行った上で、受講生にはエッセーの執筆・相互添削、ディスカッション、ディベートなどの学習活動を課します。また、第14～15回では、これまでの学びを踏まえて、自分なりの保育理念を執筆していくことで、この授業での学びを保育者に求められる使命感や倫理観、そして人間性へと繋げていきます。

本授業科目は、保育士資格取得のための選択必修科目、および、社会福祉主事任用資格取得のための選択必修科目となっています。原則として、「保育原理」の単位が認定されている学生を受講対象としています。受講生には多くの課題およびグループワークを課すため、積極的・主体的に活動に取り組むことを求めます。

なお、授業でピックアップするテーマは、受講生の関心や卒業研究のテーマに応じて、柔軟に設計します。

【到達目標】

1. 保育に関わる諸概念について考察・議論し、その上で、自身の保育理念について考えていくことで、保育者・教師として求められる使命感・倫理観を高めることができる。
2. グループワークにおいて、他者の意見を尊重し、他者の考えから学ぼうとするなど、協同的な姿勢で臨むことができる。
3. 保育に関わる諸テーマについて理解した上で、テーマエッセーの中で自分なりに問題をまとめることができる。

【授業計画】

- 第1回 本授業の進め方を理解する、保育という概念(1)なぜ概念にこだわるのか
- 第2回 保育という概念(2)「保育」と「教育」「養護」
- 第3回 「遊び」をめぐる議論から保育を再考する。
- 第4回 「遊び」について書いたエッセーをレビューする。
- 第5回 「遊び」をテーマにディスカッションを行い、考えを深める。
- 第6回 「メディア」をめぐる議論から保育を再考する。
- 第7回 「メディア」について書いたエッセーをレビューする。
- 第8回 「メディア」をテーマにディスカッションを行い、考えを深める。
- 第9回 「物語」をめぐる議論から保育を再考する。
- 第10回 「物語」について書いたエッセーをレビューする。
- 第11回 「物語」をテーマにディスカッションを行い、考えを深める。
- 第12回 「理論と実践」をめぐる議論から保育を再考する。
- 第13回 「理論と実践」をテーマにディスカッションを行い、考えを深める。
- 第14回 これまでの授業をまとめ、自らの保育理念を考える。
- 第15回 フィードバックを踏まえて、自らの保育理念を深める。
定期試験は行いません。

【授業時間外の学習】

- ・テーマエッセーを執筆し提出する。また、添削コメントを踏まえて、エッセーを改善し、再提出する。(計20時間)
 - ・課題文章を読み、その内容をノート等にまとめる。(計20時間)
 - ・グループワーク課題に向けて、準備をする。(計20時間)
- 授業回ごとに時間外学習の内容が異なります。時間外学習の課題の詳細は、授業内でアナウンスします。

【成績の評価】

- ・テーマエッセーの完成度(15%×3=45%)
- ・授業への参加度(30%)
- ・最終エッセーの完成度(25%)

すべてのエッセー(計4回)を提出していることが、評価の条件です。テーマエッセーと最終エッセーへのフィードバックは、授業内での返却もしくはメール返却にて行います。
「授業への参加度」とは、出席数のことではありません。授業に出席した上で、授業内活動にどれだけ参加し、貢献しているかを教員が判断し、評価したものです。

【使用テキスト】

テキストは指定しません。資料は適宜配布します。

【参考文献】

- ・『保育学講座1 保育学とは 問いと成り立ち』（日本保育学会編、東京大学出版会、2016年）。
- ・『教育的思考の作法3 進化する子ども学』（小笠原道雄編、福村出版、2009年）。

科目名： <TISE20> 家庭

担当教員： 中村 真由美(NAKAMURA Mayumi)

【授業の紹介】

家庭科は家庭生活を中心にした生活を学習対象として、体験的・実践的に学習し、ひとりひとりがよりよく生きることを目標としている教科である。指導する教員は生活者としての視点と生活実践力を持つことが必要とされる。

この授業では、小学校家庭科の学習内容に関する演習や実験・実習などの実践的・体験的な活動を中心として、小学校で家庭科の授業を行うために必要な家庭科の学習内容についての知識と基礎的な技能を習得し、生活実践力の獲得に繋げる。また、そのような活動を通じて生活者としての視点を養い、小学校家庭科の教材についての認識を深め、教材研究をする力を培う。

被服製作実習では裁縫道具及び布地などの資材、調理実習では白衣またはエプロン、三角巾、布巾などの準備が必要である。また、共通で使用するものの材料費として受講生全員から実習費を徴収する。

「家庭科指導法研究」を履修する予定の学生は、受講すること。

【到達目標】

生活者としての視点を持ち、生活実践力を身につけようと継続的に学ぼうとする力を身につけることができる。

小学校の家庭科の授業を行うために必要な知識や基礎的な技能を習得することができる。

小学校の家庭科の学習内容を把握した上で教材研究ができる。

【授業計画】

第1回 ガイダンス（授業のねらいと進め方について）

第2回 「A家庭生活と家族」 自立について

第3回 「A家庭生活と家族」 生活リズムについて

第4回 「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」 エコ掃除について 指あみのエコたわしの製作

第5回 「B衣食住の生活」 衣生活分野 被服製作の基礎知識

第6回 「B衣食住の生活」 衣生活分野 手縫いの基礎とボタンつけ

第7回 「B衣食住の生活」 衣生活分野 ミシン縫いの基礎

第8回 「B衣食住の生活」 衣生活分野 「生活を豊かにするための布を用いた製作」 型紙の製作

第9回 「B衣食住の生活」 衣生活分野 「生活を豊かにするための布を用いた製作」 裁断・印つけ

第10回 「B衣食住の生活」 衣生活分野 「生活を豊かにするための布を用いた製作」 本縫い

第11回 「B衣食住の生活」 衣生活分野 「生活を豊かにするための布を用いた製作」 本縫い

第12回 「B衣食住の生活」 衣生活分野 「生活を豊かにするための布を用いた製作」 本縫い

第13回 「B衣食住の生活」 衣生活分野 「生活を豊かにするための布を用いた製作」 本縫い

第14回 「B衣食住の生活」 衣生活分野 「生活を豊かにするための布を用いた製作」 本縫い

第15回 「B衣食住の生活」 食生活分野 毎日何を食べているのか

第16回 「B衣食住の生活」 食生活分野 何をどう食べるのか

第17回 「B衣食住の生活」 食生活分野 調理の基礎

第18回 「B衣食住の生活」 食生活分野 鍋でご飯を炊いてみよう 味噌玉作り

第19回 「B衣食住の生活」 食生活分野 ご飯と味噌汁 茹でる料理の調理

第20回 「B衣食住の生活」 食生活分野 ご飯と味噌汁 茹でる料理の試食と評価

第21回 「B衣食住の生活」 食生活分野 ご飯と味噌汁 炒める料理の調理

第22回 「B衣食住の生活」 食生活分野 ご飯と味噌汁 炒める料理の試食と評価

第23回 「B衣食住の生活」 食生活分野 1食分の献立の立案と調理

第24回 「B衣食住の生活」 食生活分野 1食分の献立の試食と評価

第25回 「B衣食住の生活」 食生活分野 アレルギー対応のお菓子 清涼飲料水を作ってみよう

第26回 「B衣食住の生活」 住生活分野 調理室のエコ掃除

第27回 「B衣食住の生活」 食生活分野 郷土料理の調理

第28回 「B衣食住の生活」 食生活分野 郷土料理の試食と評価

第29回 教材研究のプレゼンテーション

第30回 これまでの講義の要点の確認と質疑応答

定期試験

【授業時間外の学習】

授業の予習、復習には1回の授業につきそれぞれ30分以上の時間を費やすことが必要である。予習として、次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気づいたこと等をノートにまとめておくこと(30分)。復習として、授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに調べたことなどを記入しておくこと(30分)。

被服製作実習の授業に関しては、授業までに必要な道具や資材などを準備し、「被服製作実習計画表」に必要事項を記入し、授業での作業内容を確認しておくこと(30分)。授業後は学習した技能の習得のため、繰り返し練習することを課す(30分)。練習で製作したものは授業での製作物とともに提出すること。なお、授業での製作物の製作は授業でのみ行うこととする。

調理実習の授業に関しては、授業までに食材を準備することに加え、必要な食材の分量、調理の手順、使用する道具、グループ内での仕事の分担を「実習の記録」プリントに記入しておくこと(30分)。調理技能の習得のため、授業外でも調理し、画像とともに記録すること(30分)。記録は調理実習の最後の授業時に提出すること。

家庭科の指導においては、まず教師自身が基礎的・基本的な知識と技能を習得し、生活面で自立していることが必要とされる。授業の予習、復習だけでなく、各自が日々の生活を科学的な視点から改めて見直し、気づいたことを追求し、技能的なことは繰り返し実践し、主体的に生活することを心がけることが必要である。

【成績の評価】

授業態度及び意欲(10%)、予習復習の課題(10%)、提出物の提出状況や提出内容(40%)、教材作成や発表内容(10%)、定期試験(30%)。提出物の提出期限後の提出及び未提出、事前連絡なしの遅刻、欠席は減点とする。

また、遅刻3回で欠席1回とみなす。被服製作及び調理実習については準備なしでの授業への参加は認めない。

レポート等の課題については授業時間内またはオフィスアワーに解説する。定期試験の模範解答は教務課窓口で閲覧できるようにする。

【使用テキスト】

「小学校学習指導要領解説 家庭編」, 文部科学省, 東洋館出版社, 2017年

「新編 新しい家庭5・6年」, 東京書籍, 2020年

「楽しい家庭科ノート5・6年」, 文教社, 2020年

【参考文献】

関連する参考文献については講義の中で適宜説明する。

科目名： <TISE21> 保育内容 - 総合【発A】

担当教員： 藤澤 典子(FUZISAWA Noriko)

【授業の紹介】

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の3つが改定され、全ての施設において、これまで以上に質の高い教育・保育が求められています。そのため、保育者は深い子ども理解に基づいた保育の構想力や実践力を身に付けておく必要があります。

本授業では、特に具体的な子どもの姿と関連づけながら、領域別に学んだ保育内容を総合的にとらえていく見方や考え方を学びます。また、指導計画作成の実際や、保育の現状や課題についての考察などを通して、実態に応じてカリキュラム・マネジメントできる豊かな保育実践的能力を培っていきます。

【到達目標】

1. 幼稚園教育要領等に示された乳幼児教育・保育の指導の考え方を理解できる。
2. 乳幼児の発達や学びの過程を見通した指導計画を作成し、子ども理解に根ざした保育を構想する力を身に付けることができる。
3. 保育の現状と課題について知り、保育構想の向上を図ろうとする意欲を高めることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・保育の基本とその内容
 - 第2回 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における教育・保育の内容の考え方と改定の趣旨
 - 第3回 保育内容の変遷
 - 第4回 遊びを通じた総合的な指導（子どもにとっての遊びの意味をグループワークで考える）
 - 第5回 幼児教育と小学校教育との接続（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながり）
 - 第6回 幼児教育と小学校教育との接続（アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム）
 - 第7回 子ども理解に基づく保育の展開と保育者の姿勢（グループワークで事例の考察をする）
 - 第8回 保育の計画の考え方
 - 第9回 指導計画作成の実際（手順や配慮事項）
 - 第10回 指導計画の評価・改善と保育者の役割
 - 第11回 ものや人との関わりを深める環境の構成と教材研究
 - 第12回 園行事の考え方と指導
 - 第13回 保育内容の現状と課題（現代の子どもの生活と発達・障害のある子どもの指導）
 - 第14回 保育実践の動向と課題
 - 第15回 課題の考察と保育者の資質向上
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・予習として、その前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み、新しく知ったことや疑問等をまとめておく。（計7時間）
- ・授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をミニレポートとして提出する。（計5時間）
- ・「保育内容の現状と課題」については、全員発表の場を設けるので、日常から情報収集に努めるとともに、課題をまとめておく。（計3時間）

【成績の評価】

関心・態度（10%）ワークシート等への記入内容や課題の提出（50%）定期試験（40%）
ミニレポートは添削して返し、参考となるレポートを紹介したり、次時の授業で活用したりする。
「保育の現状と課題」についての発表では、教員からの講評を受けることでフィードバックを行う。
15分以上の遅刻3回で欠席1回とみなす。

【使用テキスト】

平成29年告示の「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
神長美津子・津金美智子・田代幸代編著「乳幼児 教育・保育シリーズ『保育内容総論』」光生館（2018年3月30日発行）

【参考文献】

文部科学省「幼稚園教育要領」解説（平成30年3月）
倉橋惣三著「幼稚園真諦」・「育ての心」フレーベル館（1976年）

科目名： <TISE21> 保育内容 - 総合【発B】

担当教員： 藤澤 典子(FUZISAWA Noriko)

【授業の紹介】

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の3つが改定され、全ての施設において、これまで以上に質の高い教育・保育が求められています。そのため、保育者は深い子ども理解に基づいた保育の構想力や実践力を身に付けておく必要があります。

本授業では、特に具体的な子どもの姿と関連づけながら、領域別に学んだ保育内容を総合的にとらえていく見方や考え方を学びます。また、指導計画作成の実際や、保育の現状や課題についての考察などを通して、実態に応じてカリキュラム・マネジメントできる豊かな保育実践的能力を培っていきます。

【到達目標】

1. 幼稚園教育要領等に示された乳幼児教育・保育の指導の考え方を理解できる。
2. 乳幼児の発達や学びの過程を見通した指導計画を作成し、子ども理解に根ざした保育を構想する力を身に付けることができる。
3. 保育の現状と課題について知り、保育構想の向上を図ろうとする意欲を高めることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・保育の基本とその内容
 - 第2回 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における教育・保育の内容の考え方と改定の趣旨
 - 第3回 保育内容の変遷
 - 第4回 遊びを通じた総合的な指導（子どもにとっての遊びの意味をグループワークで考える）
 - 第5回 幼児教育と小学校教育との接続（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながり）
 - 第6回 幼児教育と小学校教育との接続（アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム）
 - 第7回 子ども理解に基づく保育の展開と保育者の姿勢（グループワークで事例の考察をする）
 - 第8回 保育の計画の考え方
 - 第9回 指導計画作成の実際（手順や配慮事項）
 - 第10回 指導計画の評価・改善と保育者の役割
 - 第11回 ものや人との関わりを深める環境の構成と教材研究
 - 第12回 園行事の考え方と指導
 - 第13回 保育内容の現状と課題（現代の子どもの生活と発達・障害のある子どもの指導）
 - 第14回 保育実践の動向と課題
 - 第15回 課題の考察と保育者の資質向上
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・予習として、その前の授業で指定する範囲の指定教科書を事前に読み、新しく知ったことや疑問等をまとめておく。（計7時間）
- ・授業の最後に課す授業内容のまとめに関する課題をミニレポートとして提出する。（計5時間）
- ・「保育内容の現状と課題」については、全員発表の場を設けるので、日常から情報収集に努めるとともに、課題をまとめておく。（計3時間）

【成績の評価】

関心・態度（10%）ワークシート等への記入内容や課題の提出（50%）定期試験（40%）
ミニレポートは添削して返し、参考となるレポートを紹介したり、次時の授業で活用したりする。
「保育の現状と課題」についての発表では、教員からの講評を受けることでフィードバックを行う。
15分以上の遅刻3回で欠席1回とみなす。

【使用テキスト】

平成29年告示の「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
神長美津子・津金美智子・田代幸代編著「乳幼児 教育・保育シリーズ『保育内容総論』」光生館（2018年3月30日発行）

【参考文献】

文部科学省「幼稚園教育要領」解説（平成30年3月）
倉橋惣三著「幼稚園真諦」・「育ての心」フレーベル館（1976年）

科目名： < TISE22 > 在宅保育

担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi)

【授業の紹介】

保育形態の1つに、子どもの家庭に保育者が訪問して保育をおこなう家庭訪問保育があります。本科目では、保育制度における家庭訪問保育の独自性について施設保育との比較から学びます。さらに、家庭訪問保育に必要な基本姿勢や保育技術について実践的に学び、子育て支援社会を支えるために必要な「理論」と「実践力」を身につけます。

【到達目標】

- ・家庭訪問保育の社会的役割について理解し、記述できる。
- ・子どものより良い生活と遊びを支えるための保育者の配慮・環境構成について説明できる。
- ・子育てに関する基本的知識を持ち、他者にわかりやすく伝えることができる。
- ・家庭訪問保育に必要な基本的姿勢について考え、話し合うことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 居宅訪問型保育の概要
- 第3回 乳幼児の生活と遊び
- 第4回 乳幼児の食事と栄養
- 第5回 小児保健
- 第6回 居宅訪問型保育の保育内容
- 第7回 居宅訪問型保育における環境整備
- 第8回 居宅訪問型保育の運営
- 第9回 安全の確保とリスクマネジメント
- 第10回 居宅訪問型保育者の職業倫理と配慮事項
- 第11回 居宅訪問型保育における保護者への対応
- 第12回 子ども虐待
- 第13回 特別に配慮を要する子どもへの対応
- 第14回 実践演習（生活・遊び）
- 第15回 一般型家庭訪問保育の業務の流れ

定期試験なし

【授業時間外の学習】

予習として、次回の授業内容のテキスト範囲を読み、分からない言葉を調べたり重要なポイントを整理したりして、A4用紙一枚程度にまとめる。（2時間）

復習として、テキストと授業シートを読み返し、学習内容や疑問点を整理して、A4用紙一枚程度にまとめる。（2時間）

【成績の評価】

授業シート40%、小テスト30%、レポート30%により、評価する。
授業シート、小テスト、レポートは添削して授業時に返却します。

【使用テキスト】

- ・公益社団法人全国保育サービス協会監修『家庭訪問保育の理論と実際 第2版 居宅訪問型保育基礎研修テキスト・一般型家庭訪問保育学習テキスト』（中央法規出版 2019年）

【参考文献】

- ・厚生労働省「保育所保育指針解説」（2018年）

科目名： < TISE23 > 造形表現 【 発 A 】

担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

造形表現は、「もの」との関わりを通して感性・表現力・創造力を豊かにするものである。「モダンテクニックの技法」、「ポップアップカード作り」、「紙粘土のオブジェ」、「ワークショップ」の作品を制作する。音楽や身体、言語などと共に集団の場での造形表現体験を通して、思考力やコミュニケーション力を育み、造形表現の基礎的知識や技能を修得し、情操豊かな人として子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

1. 造形表現に関する基礎的な知識や各種の技法を身に付けることができる。
2. 造形素材を用いることによって、造形表現の幅を広げることができる。
3. ものの色や形、感触やイメージ等に親しむことによって思考力を育むことができる。
4. 子どもの遊びや経験を造形表現に結びつけることができる。

【授業計画】

- 第1回 「もの」と造形表現について
- 第2回 モダンテクニックの技法(1) 「デカルコマニー」「ドリップング」「ステンシル」
- 第3回 モダンテクニックの技法(2) (モダンテクニックによる作品制作)
- 第4回 モダンテクニックの技法(3) (モダンテクニックによる作品制作、仕上げ)
- 第5回 ポップアップカード作り(1) (アイディアスケッチ、試作)
- 第6回 ポップアップカード作り(2) (制作)
- 第7回 ポップアップカード作り(3) (制作、仕上げ)
- 第8回 紙粘土のオブジェ(1) (成形)
- 第9回 紙粘土のオブジェ(2) (彩色、仕上げ)
- 第10回 ワークショップ(1) (アイディアスケッチ)
- 第11回 ワークショップ(2) (レイアウト)
- 第12回 ワークショップ(3) (配色)
- 第13回 ワークショップ(4) (配色と調整)
- 第14回 ワークショップ(5) (配色と調整、仕上げ)
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「モダンテクニックの技法」、「ポップアップカード作り」、「紙粘土のオブジェ」、「ワークショップ」の制作において、資料収集をしておくことや、アイディアスケッチなど、指定した時に提出できるように常に制作準備を整えておくこと。(1時間)

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容(80%)、授業態度・意欲・準備物(20%)
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 『幼児の造形表現』(渡辺一洋著、ななみ書房、2015年)
- 『保育をひらく造形表現』(槇英子著、萌文書林、2008年)
- 『幼稚園教育要領』(平成30年 文部科学省)
- 『保育所保育指針』(平成30年 厚生労働省)
- 『幼保連携認定こども園教育・保育要領』(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < TISE23 > 造形表現 【 発 B 】

担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

造形表現は、「もの」との関わりを通して感性・表現力・創造性を豊かにするものである。「モダンテクニックの技法」、「ポップアップカード作り」、「紙粘土のオブジェ」、「ワークショップ」の作品を制作する。音楽や身体、言語などと共に集団の場での造形表現体験を通して、思考力やコミュニケーション力を育み、造形表現の基礎的知識や技能を修得し、情操豊かな人として子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

1. 造形表現に関する基礎的な知識や各種の技法を身に付けることができる。
2. 造形素材を用いることによって、造形表現の幅を広げることができる。
3. ものの色や形、感触やイメージ等に親しむことによって思考力を育むことができる。
4. 子どもの遊びや経験を造形表現に結びつけることができる。

【授業計画】

- 第1回 「もの」と造形表現について
- 第2回 モダンテクニックの技法(1) 「デカルコマニー」「ドリップング」「ステンシル」
- 第3回 モダンテクニックの技法(2) (モダンテクニックによる作品制作)
- 第4回 モダンテクニックの技法(3) (モダンテクニックによる作品制作、仕上げ)
- 第5回 ポップアップカード作り(1) (アイディアスケッチ、試作)
- 第6回 ポップアップカード作り(2) (制作)
- 第7回 ポップアップカード作り(3) (制作、仕上げ)
- 第8回 紙粘土のオブジェ(1) (成形)
- 第9回 紙粘土のオブジェ(2) (彩色、仕上げ)
- 第10回 ワークショップ(1) (アイディアスケッチ)
- 第11回 ワークショップ(2) (レイアウト)
- 第12回 ワークショップ(3) (配色)
- 第13回 ワークショップ(4) (配色と調整)
- 第14回 ワークショップ(5) (配色と調整、仕上げ)
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「モダンテクニックの技法」、「ポップアップカード作り」、「紙粘土のオブジェ」、「ワークショップ」の制作において、資料収集をしておくことや、アイディアスケッチなど、指定した時に提出できるように常に制作準備を整えておくこと。(1時間)

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容(80%)、授業態度・意欲・準備物(20%)
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 『幼児の造形表現』(渡辺一洋著、ななみ書房、2015年)
- 『保育をひらく造形表現』(榎英子著、萌文書林、2008年)
- 『幼稚園教育要領』(平成30年 文部科学省)
- 『保育所保育指針』(平成30年 厚生労働省)
- 『幼保連携認定こども園教育・保育要領』(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： <TISE14> 図画工作 - 【3年～】【発A】

担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

造形表現は、「もの」との関わりを通して感性・表現力・創造性を豊かにするものである。「モダンテクニックの技法」、「ポップアップカード作り」、「紙粘土のオブジェ」、「ワークショップ」の作品を制作する。音楽や身体、言語などと共に集団の場での造形表現体験を通して、思考力やコミュニケーション力を育み、造形表現の基礎的知識や技能を修得し、情操豊かな人として子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

1. 造形表現に関する基礎的な知識や各種の技法を身に付けることができる。
2. 造形素材を用いることによって、造形表現の幅を広げることができる。
3. ものの色や形、感触やイメージ等に親しむことによって思考力を育むことができる。
4. 子どもの遊びや経験を造形表現に結びつけることができる。

【授業計画】

- 第1回 「もの」と造形表現について
- 第2回 モダンテクニックの技法(1) 「デカルコマニー」「ドリップング」「ステンシル」
- 第3回 モダンテクニックの技法(2) (モダンテクニックによる作品制作)
- 第4回 モダンテクニックの技法(3) (モダンテクニックによる作品制作、仕上げ)
- 第5回 ポップアップカード作り(1) (アイディアスケッチ、試作)
- 第6回 ポップアップカード作り(2) (制作)
- 第7回 ポップアップカード作り(3) (制作、仕上げ)
- 第8回 紙粘土のオブジェ(1) (成形)
- 第9回 紙粘土のオブジェ(2) (制作、仕上げ)
- 第10回 ワークショップ(1) (アイディアスケッチ)
- 第11回 ワークショップ(2) (レイアウト)
- 第12回 ワークショップ(3) (配色)
- 第13回 ワークショップ(4) (配色と調整)
- 第14回 ワークショップ(5) (配色と調整、仕上げ)
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「モダンテクニックの技法」、「ポップアップカード作り」、「紙粘土のオブジェ」、「ワークショップ」の制作において、資料収集をしておくことや、アイディアスケッチなど、指定した時に提出できるように常に制作準備を整えておくこと。(1時間)

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容(80%)、授業態度・意欲・準備物(20%)
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 『幼児の造形表現』(渡辺一洋著、ななみ書房、2015年)
- 『保育をひらく造形表現』(槇英子著、萌文書林、2008年)
- 『幼稚園教育要領』(平成30年 文部科学省)
- 『保育所保育指針』(平成30年 厚生労働省)
- 『幼保連携認定こども園教育・保育要領』(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： <TISE14> 図画工作 - 【3年～】【発B】

担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

造形表現は、「もの」との関わりを通して感性・表現力・創造性を豊かにするものである。「モダンテクニックの技法」、「ポップアップカード作り」、「紙粘土のオブジェ」、「ワークショップ」の作品を制作する。音楽や身体、言語などと共に集団の場での造形表現体験を通して、思考力やコミュニケーション力を育み、造形表現の基礎的知識や技能を修得し、情操豊かな人として子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

1. 造形表現に関する基礎的な知識や各種の技法を身に付けることができる。
2. 造形素材を用いることによって、造形表現の幅を広げることができる。
3. ものの色や形、感触やイメージ等に親しむことによって思考力を育むことができる。
4. 子どもの遊びや経験を造形表現に結びつけることができる。

【授業計画】

- 第1回 「もの」と造形表現について
- 第2回 モダンテクニックの技法(1) 「デカルコマニー」「ドリップング」「ステンシル」
- 第3回 モダンテクニックの技法(2) (モダンテクニックによる作品制作)
- 第4回 モダンテクニックの技法(3) (モダンテクニックによる作品制作、仕上げ)
- 第5回 ポップアップカード作り(1) (アイディアスケッチ、試作)
- 第6回 ポップアップカード作り(2) (制作)
- 第7回 ポップアップカード作り(3) (制作、仕上げ)
- 第8回 紙粘土のオブジェ(1) (成形)
- 第9回 紙粘土のオブジェ(2) (彩色、仕上げ)
- 第10回 ワークショップ(1) (アイディアスケッチ)
- 第11回 ワークショップ(2) (レイアウト)
- 第12回 ワークショップ(3) (配色)
- 第13回 ワークショップ(4) (配色と調整)
- 第14回 ワークショップ(5) (配色と調整、仕上げ)
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「モダンテクニックの技法」、「ポップアップカード作り」、「紙粘土のオブジェ」、「ワークショップ」の制作において、資料収集をしておくことや、アイディアスケッチなど、指定した時に提出できるように常に制作準備を整えておくこと。(1時間)

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容(80%)、授業態度・意欲・準備物(20%)
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 『幼児の造形表現』(渡辺一洋著、ななみ書房、2015年)
- 『保育をひらく造形表現』(榎英子著、萌文書林、2008年)
- 『幼稚園教育要領』(平成30年 文部科学省)
- 『保育所保育指針』(平成30年 厚生労働省)
- 『幼保連携認定こども園教育・保育要領』(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < TISE24 > 造形表現 【発A】

担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

本授業では、「描画」、「立体構成」、「壁面のデザイン」、「貼り絵」によって、創造活動のおもしろさと喜びを味わい、幼児の造形力を育てるための基礎的な知識と技能を修得し、保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる能力を養い、子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

1. さまざまな素材、用具、教材等の特性を理解し活用することができる。
2. 各種の造形表現によって、表現力を高め創造性を豊かにすることができる。
3. 子どもの遊びや表現する姿を理解することができる。
4. アイディアの具現化のために場や材料を提供するなど、創造活動の動機付けを図ることができる。

【授業計画】

- 第1回 「発達」と造形表現
- 第2回 描画(1)(スケッチ、彩色)
- 第3回 描画(2)(彩色、仕上げ)
- 第4回 立体構成(3)(試作)
- 第5回 立体構成(4)(色彩表現)
- 第6回 立体構成(1)(色彩表現、立体制作)
- 第7回 壁画のデザイン(2)(アイディアスケッチ)
- 第8回 壁画のデザイン(3)(彩色)
- 第9回 壁画のデザイン(1)(彩色、仕上げ)
- 第10回 貼り絵(2)(アイディアスケッチ、構図を考える)
- 第11回 貼り絵(3)(配色を考える)
- 第12回 貼り絵(4)(色の集合体を表現する)
- 第13回 貼り絵(1)(色のバランス、調整)
- 第14回 貼り絵(2)(色の調整と修正、仕上げ)
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「描画」、「立体構成」、「壁画のデザイン」、「貼り絵」の制作において、資料収集をしておくことや、アイディアスケッチなど、指定した時に提出できるように常に制作準備を整えておくこと。(1時間)

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容(80%)、授業態度・意欲・準備物(20%)
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 『幼児の造形表現』(渡辺一洋著、ななみ書房、2015年)
- 『保育をひらく造形表現』(槇英子著、萌文書林、2008年)
- 『幼稚園教育要領』(平成30年 文部科学省)
- 『保育所保育指針』(平成30年 厚生労働省)
- 『幼保連携認定こども園教育・保育要領』(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < TISE24 > 造形表現 【 発 B 】

担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

本授業では、「描画」、「立体構成」、「壁画のデザイン」、「貼り絵」によって、創造活動のおもしろさと喜びを味わい、幼児の造形力を育てるための基礎的な知識と技能を修得し、保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる能力を養い、子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

1. さまざまな素材、用具、教材等の特性を理解し活用することができる。
2. 各種の造形表現によって、表現力を高め創造性を豊かにすることができる。
3. 子どもの遊びや表現する姿を理解することができる。
4. アイディアの具現化のために場や材料を提供するなど、創造活動の動機付けを図ることができる。

【授業計画】

- 第1回 「発達」と造形表現
- 第2回 描画(1)(スケッチ、彩色)
- 第3回 描画(2)(彩色、仕上げ)
- 第4回 立体構成(1)(試作)
- 第5回 立体構成(2)(色彩表現)
- 第6回 立体構成(3)(色彩表現、立体制作)
- 第7回 壁画のデザイン(1)(アイディアスケッチ、下絵)
- 第8回 壁画のデザイン(2)(彩色)
- 第9回 壁画のデザイン(3)(彩色、仕上げ)
- 第10回 貼り絵(1)(アイディアスケッチ、構図を考える)
- 第11回 貼り絵(2)(配色を考える)
- 第12回 貼り絵(3)(色の集合体を表現する)
- 第13回 貼り絵(4)(色のバランス、調整)
- 第14回 貼り絵(5)(色の調整と修正、仕上げ)
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「描画」、「立体構成」、「壁画のデザイン」、「貼り絵」の制作において、資料を収集しておくことや、アイディアスケッチなど、指定した時に提出できるように常に制作準備を整えておくこと。(1時間)

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容(80%)、授業態度・意欲・準備物(20%)
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 『幼児の造形表現』(渡辺一洋著、ななみ書房、2015年)
- 『保育をひらく造形表現』(榎英子著、萌文書林、2008年)
- 『幼稚園教育要領』(平成30年 文部科学省)
- 『保育所保育指針』(平成30年 厚生労働省)
- 『幼保連携認定こども園教育・保育要領』(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： <TISE15> 図画工作 - 【3年～】【発A】

担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

本授業では、「描画」、「立体構成」、「壁面のデザイン」、「貼り絵」によって、創造活動のおもしろさと喜びを味わい、幼児の造形力を育てるための基礎的な知識と技能を修得し、教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる能力を養い、子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

1. さまざまな素材、用具、教材等の特性を理解し活用することができる。
2. 各種の造形表現によって、表現力を高め創造性を豊かにすることができる。
3. 子どもの遊びや表現する姿を理解することができる。
4. アイディアの具現化のために場や材料を提供するなど、創造活動の動機付けを図ることができる。

【授業計画】

- 第1回 「発達」と造形表現
- 第2回 描画(1)(スケッチ、彩色)
- 第3回 描画(2)(彩色、仕上げ)
- 第4回 立体構成(1)(試作)
- 第5回 立体構成(2)(色彩表現)
- 第6回 立体構成(3)(色彩表現、立体制作)
- 第7回 壁画のデザイン(1)(アイディアスケッチ、下絵)
- 第8回 壁画のデザイン(2)(彩色)
- 第9回 壁画のデザイン(3)(彩色、仕上げ)
- 第10回 貼り絵(1)(アイディアスケッチ、構図を考える)
- 第11回 貼り絵(2)(配色を考える)
- 第12回 貼り絵(3)(色の集合体を表現する)
- 第13回 貼り絵(4)(色のバランス、調整)
- 第14回 貼り絵(5)(色の調整と修正、仕上げ)
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「描画」、「立体構成」、「壁画のデザイン」、「貼り絵」の制作において、資料収集をしておくことや、アイディアスケッチなど、指定した時に提出できるように常に制作準備を整えておくこと。(1時間)

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容(80%)、授業態度・意欲・準備物(20%)
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 『幼児の造形表現』(渡辺一洋著、ななみ書房、2015年)
- 『保育をひらく造形表現』(槇英子著、萌文書林、2008年)
- 『幼稚園教育要領』(平成30年 文部科学省)
- 『保育所保育指針』(平成30年 厚生労働省)
- 『幼保連携認定こども園教育・保育要領』(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： <TISE15> 図画工作 - 【3年～】【発B】

担当教員： 津田 浩二(TSUDA Koji)

【授業の紹介】

本授業では、「描画」、「立体構成」、「壁画のデザイン」、「貼り絵」によって、創造活動のおもしろさと喜びを味わい、幼児の造形力を育てるための基礎的な知識と技能を修得し、教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できる能力を養い、子育て支援社会に貢献します。

【到達目標】

1. さまざまな素材、用具、教材等の特性を理解し活用することができる。
2. 各種の造形表現によって、表現力を高め創造性を豊かにすることができる。
3. 子どもの遊びや表現する姿を理解することができる。
4. アイディアの具現化のために場や材料を提供するなど、創造活動の動機付けを図ることができる。

【授業計画】

- 第1回 「発達」と造形表現
- 第2回 描画(1)(スケッチ、彩色)
- 第3回 描画(2)(彩色、仕上げ)
- 第4回 立体構成(1)(試作)
- 第5回 立体構成(2)(色彩表現)
- 第6回 立体構成(3)(色彩表現、立体制作)
- 第7回 壁画のデザイン(1)(アイディアスケッチ、下絵)
- 第8回 壁画のデザイン(2)(彩色)
- 第9回 壁画のデザイン(3)(彩色、仕上げ)
- 第10回 貼り絵(1)(アイディアスケッチ、構図を考える)
- 第11回 貼り絵(2)(配色を考える)
- 第12回 貼り絵(3)(色の集合体を表現する)
- 第13回 貼り絵(4)(色のバランス、調整)
- 第14回 貼り絵(5)(色の調整と修正、仕上げ)
- 第15回 講評、これまでの制作についてのまとめ
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

「描画」、「立体構成」、「壁画のデザイン」、「貼り絵」の制作において、資料収集をしておくことや、アイディアスケッチなど、指定した時に提出できるように常に制作準備を整えておくこと。(1時間)

【成績の評価】

課題作品の提出状況と提出内容(80%)、授業態度・意欲・準備物(20%)
課題についてはその都度中間チェックをし、採点基準を説明する。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 『幼児の造形表現』(渡辺一洋著、ななみ書房、2015年)
- 『保育をひらく造形表現』(槇英子著、萌文書林、2008年)
- 『幼稚園教育要領』(平成30年 文部科学省)
- 『保育所保育指針』(平成30年 厚生労働省)
- 『幼保連携認定こども園教育・保育要領』(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： <TISE11>子ども文化【発A】
担当教員： 藤澤 典子(FUZISAWA Noriko)

【授業の紹介】

子どもは、自分を取り巻く文化の中で育ち、遊びながら学んでいきます。いろいろな遊びをとおして、言葉を獲得したり、あれこれ工夫したりする知力を養います。また、いっしょに遊ぶことから人と関わる力を身につけたり、体力や意欲を向上させていきます。子どもがどれだけ、生き生きと遊びに夢中になっているかは、保育の質と深さに関わってきます。保育者は、子どもの遊びの計画を立てたり、思わず遊びたくなるような教材を準備したり、実際の遊びの中に一緒に入り、さらに遊びが楽しくなるように配慮しなければなりません。

本授業では、玩具や絵本などの児童文化財について学ぶと共に、子どもと関わる人たちの行動の仕方やものの見方・考え方についても理解していきます。伝承遊びや読み聞かせ、劇づくりなど具体的な活動を通して、幅広い教養と実践的能力を身に付けていきます。

【到達目標】

1. 子ども文化が子どもの感性や心の育ちに与える影響について理解することができる。
2. 子どもの生活や遊びを豊かにする文化について理解を深めることができる。

【授業計画】

- 第1回 子ども文化って何だろう
 - 第2回 子ども観の変遷と子どもの遊び
 - 第3回 子どもの遊びと消費生活
 - 第4回 ゲーム文化と子どもの遊び
 - 第5回 電子空間の可能性と危険性（ディベートを通して考える）
 - 第6回 子どもの発達と児童文化・児童文化財、児童文化施設
 - 第7回 子どもの生活を生き生きとさせる児童文化（子どもは玩具でどう遊ぶのか）
 - 第8回 子どもの生活と遊び（子どもに伝えたい伝承遊び）
 - 第9回 子どもの生活と遊び（子どもに伝えたい伝承遊びの実際）
 - 第10回 子どもと文学（わらべうた・おはなしの世界）
 - 第11回 子どもと文学（絵本の力）
 - 第12回 劇づくり（選書とシナリオ作り）
 - 第13回 劇づくり（練習）
 - 第14回 劇づくり（発表と評価）
 - 第15回 子ども文化を伝承すること、創ること
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・ 保育実習園、図書館、美術館、街等で子ども文化を見つける。（計1時間）
- ・ 授業の振り返りやまとめをミニレポートとして提出する（計5時間）
- ・ 課題（「ゲーム文化と子どもの遊び」）についての情報収集と考察をし、討議できるようにする。（計3時間）
- ・ 伝承遊びや劇づくりでは、グループで協力して実践できるよう、自分に分担された準備をしっかりとする。（計6時間）

【成績の評価】

関心・態度（20%）ワークシート等への記入内容や発表内容、提出物（40%）定期試験（40%）
授業の振り返りやレポートは添削して返したり、次時の授業で活用したりする。
伝承遊びや劇づくりの実践的活動では、準備や学習態度、意欲等を重視する。教員からの講評を受けることで、フィードバックを行う。
15分以上の遅刻3回で欠席1回とみなす。

【使用テキスト】

皆川美恵子編著「新版 児童文化」（ななみ書房 2016年）

【参考文献】

- 絵本 かこさとし作「どろぼうがっこう」（偕成社）
- 瀬田貞二作「かさじぞう」（福音館書店）
- グリム童話「おおかみと七ひきのこやぎ」（福音館書店）
- 北欧民話「三びきのやぎのがらがらどん」（福音館書店） など

科目名： <TISE11>子ども文化【発B】
担当教員： 藤澤 典子(FUZISAWA Noriko)

【授業の紹介】

子どもは、自分を取り巻く文化の中で育ち、遊びながら学んでいきます。いろいろな遊びをとおして、言葉を獲得したり、あれこれ工夫したりする知力を養います。また、いっしょに遊ぶことから人と関わる力を身につけたり、体力や意欲を向上させていきます。子どもがどれだけ、生き生きと遊びに夢中になっているかは、保育の質と深さに関わってきます。保育者は、子どもの遊びの計画を立てたり、思わず遊びたくなるような教材を準備したり、実際の遊びの中に一緒に入り、さらに遊びが楽しくなるように配慮しなければなりません。

本授業では、玩具や絵本などの児童文化財について学ぶと共に、子どもと関わる人たちの行動の仕方やものの見方・考え方についても理解していきます。伝承遊びや読み聞かせ、劇づくりなど具体的な活動を通して、幅広い教養と実践的能力を身に付けていきます。

【到達目標】

1. 子ども文化が子どもの感性や心の育ちに与える影響について理解することができる。
2. 子どもの生活や遊びを豊かにする文化について理解を深めることができる。

【授業計画】

- 第1回 子ども文化って何だろう
 - 第2回 子ども観の変遷と子どもの遊び
 - 第3回 子どもの遊びと消費生活
 - 第4回 ゲーム文化と子どもの遊び
 - 第5回 電子空間の可能性と危険性（ディベートを通して考える）
 - 第6回 子どもの発達と児童文化・児童文化財、児童文化施設
 - 第7回 子どもの生活を生き生きとさせる児童文化（子どもは玩具でどう遊ぶのか）
 - 第8回 子どもの生活と遊び（子どもに伝えたい伝承遊び）
 - 第9回 子どもの生活と遊び（子どもに伝えたい伝承遊びの実際）
 - 第10回 子どもと文学（わらべうた・おはなしの世界）
 - 第11回 子どもと文学（絵本の力）
 - 第12回 劇づくり（選書とシナリオ作り）
 - 第13回 劇づくり（練習）
 - 第14回 劇づくり（発表と評価）
 - 第15回 子ども文化を伝承すること、創ること
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・ 保育実習園、図書館、美術館、街等で子ども文化を見つける。（計1時間）
- ・ 授業の振り返りやまとめをミニレポートとして提出する（計5時間）
- ・ 課題（「ゲーム文化と子どもの遊び」）についての情報収集と考察をし、討議できるようにする。（計3時間）
- ・ 伝承遊びや劇づくりでは、グループで協力して実践できるよう、自分に分担された準備をしっかりとする。（計6時間）

【成績の評価】

関心・態度（20%）ワークシート等への記入内容や発表内容、提出物（40%）定期試験（40%）
授業の振り返りやレポートは添削して返したり、次時の授業で活用したりする。
伝承遊びや劇づくりの実践的活動では、準備や学習態度、意欲等を重視する。教員からの講評を受けることで、フィードバックを行う。
15分以上の遅刻3回で欠席1回とみなす。

【使用テキスト】

皆川美恵子編著「新版 児童文化」（ななみ書房 2016年）

【参考文献】

- 絵本 かこさとし作「どろぼうがっこう」（偕成社）
- 瀬田貞二作「かさじぞう」（福音館書店）
- グリム童話「おおかみと七ひきのこやぎ」（福音館書店）
- 北欧民話「三びきのやぎのがらがらどん」（福音館書店） など

科目名： < TISE12 > 幼児理解【発A】

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員が担当する授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

幼児期にふさわしい保育を行う際に必要なことは、幼児一人一人の特性を的確に把握し、理解することです。そのため、本授業では、幼児理解の意義と重要性を理解し、それらを保育実践と結びつけて考察する力を身に付けることをめざします。また、文献や観察記録、映像視聴など様々な演習方法を通して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法について学ぶとともに、個と集団の関係や家庭との連携を含めて考える力を身に付けていきます。そして、幼児の育ちを支えるために必要な保育の実践力及び豊かな人間性を養うことをめざします。

【到達目標】

1. 幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。
 - (1) 幼児の生活及び遊びの実態に即した幼児理解の意義が理解できる。
 - (2) 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解することができる。
 - (3) 幼児理解を深めるための保育者の基礎的な態度を理解することができる。
2. 幼児理解の方法を具体的に理解する。
 - (1) 観察や記録の意義や目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。
 - (2) 個と集団の関係を捉える意義や方法が理解できる。
 - (3) 幼児の発達や学びの過程で生じるつまずきやその要因を周りの幼児との関係やその他の背景から捉える原理及び方法を示すことができる。
 - (4) 保護者の心情や基礎的な対応の方法が理解できる。

【授業計画】

- 第1回 幼児理解の必要性
 - 第2回 保育における「幼児理解」 子どもを見る目
 - 第3回 幼児の発達や学びの理解
 - 第4回 幼児の遊びと幼児理解
 - 第5回 幼児理解を深める保育者の姿勢
 - 第6回 幼児理解に向けて～個と集団
 - 第7回 保育における「理解」と「援助」
 - 第8回 幼児理解と保育者の意図
 - 第9回 幼児理解の様々な方法
 - 第10回 幼児理解を深める「観察と記録」
 - 第11回 幼児のつまずきの理解とその対応
 - 第12回 気になる行動への保育者の対応
 - 第13回 子育て支援における幼児理解
 - 第14回 保護者への対応のロールプレイ
 - 第15回 幼児の学びのつながり 園内の協力体制と関係機関との連携
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておきます。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておきます。(1時間)

その際、実習における記録等が参考となりますので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておきます。

【成績の評価】

課題およびワークシートの取組みと内容(40%)、期末試験(60%)により評価します。

ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取組み、提出します。

課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

随時、資料を配布します。

【参考文献】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

保育所保育指針解説(平成30年 厚生労働省)

幼保連携型こども園教育・保育要領(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < TISE12 > 幼児理解【発B】

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員が担当する授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

幼児期にふさわしい保育を行う際に必要なことは、幼児一人一人の特性を的確に把握し、理解することです。そのため、本授業では、幼児理解の意義と重要性を理解し、それらを保育実践と結びつけて考察する力を身に付けることをめざします。また、文献や観察記録、映像視聴など様々な演習方法を通して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法について学ぶとともに、個と集団の関係や家庭との連携を含めて考える力を身に付けていきます。そして、幼児の育ちを支えるために必要な保育の実践力及び豊かな人間性を養うことをめざします。

【到達目標】

1. 幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。
 - (1) 幼児の生活及び遊びの実態に即した幼児理解の意義が理解できる。
 - (2) 幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解することができる。
 - (3) 幼児理解を深めるための保育者の基礎的な態度を理解することができる。
2. 幼児理解の方法を具体的に理解する。
 - (1) 観察や記録の意義や目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。
 - (2) 個と集団の関係を捉える意義や方法が理解できる。
 - (3) 幼児の発達や学びの過程で生じるつまずきやその要因を周りの幼児との関係やその他の背景から捉える原理及び方法を示すことができる。
 - (4) 保護者の心情や基礎的な対応の方法が理解できる。

【授業計画】

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第1回 | 幼児理解の必要性 |
| 第2回 | 保育における「幼児理解」 子どもを見る目 |
| 第3回 | 幼児の発達や学びの理解 |
| 第4回 | 幼児の遊びと幼児理解 |
| 第5回 | 幼児理解を深める保育者の姿勢 |
| 第6回 | 幼児理解に向けて～個と集団 |
| 第7回 | 保育における「理解」と「援助」 |
| 第8回 | 幼児理解と保育者の意図 |
| 第9回 | 幼児理解の様々な方法 |
| 第10回 | 幼児理解を深める「観察と記録」 |
| 第11回 | 幼児のつまずきの理解とその対応 |
| 第12回 | 気になる行動への保育者の対応 |
| 第13回 | 子育て支援における幼児理解 |
| 第14回 | 保護者への対応のロールプレイ |
| 第15回 | 幼児の学びのつながり 園内の協力体制と関係機関との連携 |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておきます。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておきます。(1時間)

その際、実習における記録等が参考となりますので、観察記録・日誌などをしっかり読み返し、幼児理解に係る要点をノートに記入しておきます。

【成績の評価】

課題およびワークシートの取組みと内容(40%)、期末試験(60%)により評価します。

ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取組み、提出します。

課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

随時、資料を配布します。

【参考文献】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

保育所保育指針解説(平成30年 厚生労働省)

幼保連携型こども園教育・保育要領解説(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < TISE18 > 特別活動論

担当教員： 七條 正典(SHICHIJO Masanori)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目である。学校現場や教育行政での豊富な経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行う。また、学校における多様な集団活動を通して課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる活動の総体である特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」「チームとしての学校」の視点から、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

以上のことを通して、教育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育の実践と関連づけて理解できるようにする。

【到達目標】

学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解することができる。

教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解することができる。

学級活動・ホームルーム活動の特質を理解することができる。

児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解することができる。

教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解することができる。

特別活動における取組の評価・改善活動の重要性を理解することができる。

合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。

特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解することができる。

【授業計画】

第1回：特別活動の意義・目標・内容と教育課程における位置づけ

第2回：特別活動の歴史的変遷

第3回：特別活動と生徒指導

第4回：特別活動と学級経営

第5回：学級活動の意義・目標・内容

第6回：児童会活動の意義・目標・内容

第7回：クラブ活動の意義・目標・内容

第8回：学校行事の意義・目標・内容

第9回：特別活動の指導の在り方 - 小学校の事例（学級活動を中心に） -

第10回：特別活動の指導の在り方 - 小学校の事例（児童会・クラブ活動を中心に） -

第11回：特別活動の指導の在り方 - 小学校の事例（学校行事を中心に） -

第12回：学級活動の指導の実際（模擬体験）

第13回：児童会活動の指導の実際（模擬体験）

第14回：学校行事の指導の実際（模擬体験）

第15回：これからの特別活動

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

前時に指示した内容について調べておくとともに、配布資料を必ず読んで講義に臨むこと（1時間）。

【成績の評価】

小レポート（30%）および学期末の最終レポート（70%）による。

なお、定期試験の結果については、オフィスアワーの際に解説する。また、小レポートは添削して授業時に返却する。

【使用テキスト】

授業中に適宜資料を配布する。

【参考文献】

「小学校学習指導要領解説 特別活動編」（平成29年6月 文部科学省）

「中学校学習指導要領解説 特別活動編」（平成29年7月 文部科学省）

科目名： <TISE2>子どもと言葉

担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

言葉の獲得は乳幼児期の発達課題として重要なものである。子どもの言葉の育ちを支えるための必要な言語環境の重要性について学び、保育者の果たす役割について理論的背景と関連付けて理解する。

【到達目標】

1. 乳幼児の言葉の獲得過程を理解し、言語発達に沿った保育・教育の在り方を修得する。
2. 言葉に関して理論的背景に裏打ちされた保育指導場面を構想することができる。

【授業計画】

- 第1回 保育内容としての言葉の独自性
 - 第2回 保育内容としての言葉のねらい
 - 第3回 言葉獲得以前の母子のコミュニケーション(1) エンタテインメント
 - 第4回 言葉獲得以前の母子のコミュニケーション(2) マザリース
 - 第5回 言葉の先駆的行動(共同注意、ポインティング、三項関係)
 - 第6回 言葉環境(1) 人的環境
 - 第7回 言葉環境(2) 子どもの生活と言葉
 - 第8回 言葉環境(3) 言葉と発達の連関
 - 第9回 言葉と幼児理解
 - 第10回 言葉と思考(1) ルリアの理論
 - 第11回 言葉と思考(2) 言語調整機能
 - 第12回 保育者の役割と援助
 - 第13回 障がい児とのかかわり(1) 学習困難
 - 第14回 障がい児とのかかわり(2) 自閉症
 - 第15回 障がい児とのかかわり(3) 注意欠陥多動性障害
- 定期試験

【授業時間外の学習】

本授業とは別に開講されている「観察参加」で記録した直近の言語的エピソードを毎回整理しておくこと。(1時間)

【成績の評価】

レポート(10%)、定期試験(80%)、授業への参加度(10%)
課題(試験やレポートなど)に対して、研究室で個人的にフィードバックする。

【使用テキスト】

「保育内容 言葉」(平成30年 柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編、ミネルヴァ書房)

【参考文献】

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)
幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)

専門科目：特別な支援を必要とする子育てを支えるための科目

| 科目 | 担当教員 |
|-------------------------|--------|
| <TOKU1> 社会的養護 | 植村 倫子 |
| <TOKU2> 社会的養護内容 | 瀧本 逸誠 |
| <TOKU3> 特別支援教育総論 | 笠井 新一郎 |
| <TOKU4> 特別支援教育演習 | 山口 明日香 |
| <TOKU5> 知的障害児の心理 | 中塚 勝俊 |
| <TOKU6> 知的障害児の生理・病理 | 宮崎 雅仁 |
| <TOKU7> 病弱児の心理・生理・病理 | 磯部 健一 |
| <TOKU8> 肢体不自由児の心理・生理・病理 | 磯部 健一 |
| <TOKU9> 障害児保育 I | 山口 明日香 |
| <TOKU10> 障害児保育 II | 山口 明日香 |
| <TOKU11> 障害児の教育課程と指導法 | 堺 りり子 |
| <TOKU13> 知的障害児教育 | 堺 りり子 |
| <TOKU14> 知的障害児教育演習【3年～】 | 笠井 新一郎 |
| <TOKU14> 知的障害児教育演習【2年】 | 笠井 新一郎 |
| <TOKU15> 病弱児教育 | 堺 りり子 |
| <TOKU12> 病弱児教育演習 | 堺 りり子 |
| <TOKU17> 肢体不自由児教育【1・2年】 | 川田 人包 |
| <TOKU17> 肢体不自由児教育【3年～】 | 川田 人包 |
| <TOKU18> 肢体不自由児教育演習 | 川田 人包 |
| <TOKU19> 視覚の発達と障害 | 恵羅 修吉 |
| <TOKU20> 聴覚障害教育総論 | 川合 紀宗 |
| <TOKU21> 重複障害教育総論 | 落合 俊郎 |
| <TOKU1> LD等教育総論 | 井上 とも子 |
| <TOKU23> 相談援助【発A】 | 赤川 陽子 |
| <TOKU23> 相談援助【発B】 | 赤川 陽子 |
| <TOKU24> 保育相談支援【発A】 | 瀧本 逸誠 |
| <TOKU24> 保育相談支援【発B】 | 瀧本 逸誠 |
| <TOKU25> 社会福祉 | 瀧本 逸誠 |
| <TOKU26> 児童家庭福祉 | 瀧本 逸誠 |
| <TOKU27> 特別支援教育指導法研究 | 堺 りり子 |
| <TOKU1> 社会的養護 I | 植村 倫子 |
| <TOKU26> 特別支援教育 | 湯浅 恭正 |
| <TOKU2> 社会的養護 II | 瀧本 逸誠 |

科目名： < TOKU1 > 社会的養護

担当教員： 植村 倫子(UEMURA Michiko)

【授業の紹介】

近年、多様かつ複雑な家庭環境の増加により家庭の子育ての潜在力が小さくなり、社会的養護を必要とする子どもが増加しています。

本講義では、社会的養護を要する子どもの現状と課題及び施設養護の現状について学び、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解します。そして、児童福祉施設の援助者としての基礎知識、技術、倫理観、特に「思考力・判断力」や「保育実践力」を習得します。

【到達目標】

- ・子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本原則を理解し、内容を説明できる。
- ・施設養護や家庭養護に関する基本的な知識を身につけ、必要な用語について説明できるとともに虐待を受けた子どもの言動の特徴を学び援助の方法や関係機関との連携の在り方を理解することができる。
- ・社会的養護の現状と課題について考えを述べることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 社会的養護の歴史的変遷
 - 第3回 児童の権利擁護と社会的養護
 - 第4回 児童家庭福祉の一分野としての社会的養護
 - 第5回 施設養護における養育
 - 第6回 児童相談所の役割と連携
 - 第7回 家庭からの保護
 - 第8回 虐待された子どもの理解と対応
 - 第9回 虐待された子どもの理解と対応 ・施設見学等
 - 第10回 社会的養護の制度と実施体系
 - 第11回 児童福祉施設援助者の資質
 - 第12回 施設養護の現状（乳児院・養護施設）
 - 第13回 施設養護の現状（児童心理治療施設・児童自立支援施設・障害児入所施設）
 - 第14回 家庭養護の実際
 - 第15回 社会的養護の現状と課題
- 定期試験

【授業時間外の学習】

今回の授業内容を確認し専門用語等2時間の予習、受講後レポートのまとめ等2時間の復習を求めます。

【成績の評価】

- ・レポート30%（期間中2回実施し、授業時添削して返却します）
- ・筆記試験70%（模範解答は教務課に掲示します）によって評価します。

【使用テキスト】

児童の福祉を支える社会的養護<第3版> 吉田眞里編著 萌林書林 2,160円 2019年

【参考文献】

なし

科目名： < TOKU2 > 社会的養護内容

担当教員： 瀧本 逸誠(TAKIMOTO Issei)

【授業の紹介】

実務経験(障害児施設、児童自立支援施設、児童相談所、心身障害児就学指導委員など)のある教員による授業科目です。

現代では、子どもの健全な生存・成長を担うには、家庭だけでは十分にその機能が果たせないために、多くの子どもに社会的養護が必要になってきています。施設養護や家庭的養護において、どのような支援がおこなわれているかを学び、子どもの虐待防止や家庭支援、相談援助等に必要な方法・技術を獲得します。さらに、支援計画・記録・評価の実際について理解し、事例検討を通して福祉に関わる「思考力・判断力」「多様な専門家との協力・協働」や「保育実践力」を身に付けます。

【到達目標】

1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解できる。
2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解できる。
3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解できる。
4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解できる。
5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション(児童福祉施設の体系と概要)
 - 第2回 子どもの最善の利益と権利擁護
 - 第3回 社会的養護における保育士の専門性
 - 第4回 家庭で生活できない子ども
～入所施設各論「乳児院」～
 - 第5回 家庭で生活できない子ども
～入所施設各論「児童養護施設」～
 - 第6回 家庭で生活できない子ども
～入所施設各論「医療型障害児入所施設」～
 - 第7回 家庭で生活できない子ども
～児童自立支援施設児童心理治療施設～
 - 第8回 里親制度の特徴とその実際
 - 第9回 虐待された子どもへの支援
 - 第10回 養護の具体的内容・方法
～入所中の支援「親子関係の調整」～
 - 第11回 養護の具体的内容・方法
～入所中の支援「地域・学校との関係づくり」～
 - 第12回 養護の具体的内容・方法
～入所中の支援「自立への支援」～
 - 第13回 社会的養護にかかわる相談援助の技術と活用
 - 第14回 入所後から退所後に至る支援
 - 第15回 社会的養護の課題と展望～地域連携
- 定期試験

【授業時間外の学習】

児童福祉施設ごとに、配布されたプリントやノートを使って授業内容の整理をし、施設の特徴等について記録しておくこと。

また、期間中に各施設の関連事例について、10回程度のショートレポートを課す。(計15時間)

【成績の評価】

期末テスト(50%)、ショートレポート(50%)

ショートレポートについては、次回の授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

テキストは使用しない。テーマに沿ったレジュメやスライド資料を用意する。

【参考文献】

辰巳隆・岡本眞幸(編)「保育士を目指す人の社会的養護内容」(株)みらい 2011年

福永博文(編著)「社会的養護内容」北大路書房 2013年

吉田眞理(編著)「社会的養護」萌文書林 2019年

犬塚峰子(編)「子どもの発達・アセスメントと養育・支援プラン」明石書店 2013年

相沢仁・村井美紀・大竹智(編)「社会的養護」中央法規 2019年

科目名： < TOKU3 > 特別支援教育総論
担当教員： 笠井 新一郎(KASAI Sinichiro)

【授業の紹介】

教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できることを目指す。

その上で、特別支援教育の現状を知り、障害児・者の正しい理解と認識を深めるとともに、特別支援教育の本質及び目標と今日的課題について紹介する。

また、障害については、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病虚弱などの従来の障害に加えて、注意欠如多動性障害（ADHD）、自閉症スペクトラム障害（ASD）、学習障害（LD）などについても、総合的な観点（保健・医学・福祉・教育・労働など）から概要について解説する。

【到達目標】

1．特別支援教育の現状を知り、障害児・者の正しい理解と認識を深めるとともに、特別支援教育の本質及び目標と今日的課題について理解できる。

2．障害については、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病虚弱などの従来の障害に加えて、注意欠如多動性障害、自閉症スペクトラム障害、学習障害などについても、総合的な観点から概要について理解できる。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション

第2回：障害児とは（障害の定義）

第3回：障害と療育・教育

第4回：視覚障害児の理解と支援

第5回：聴覚障害児の理解と支援

第6回：知的障害児の理解と支援

第7回：肢体不自由児の理解と支援

第8回：病虚弱児の理解と支援

第9回：発達障害児（ADHD・ASD・LDなど）の理解と支援（1）

第10回：発達障害児（ADHD・ASD・LDなど）の理解と支援（2）

第11回：言語聴覚障害児の理解と支援

第12回：特別支援教育と関係機関（保健・医療・福祉・労働など）の連携（1）

第13回：特別支援教育と関係機関（保健・医療・福祉・労働など）の連携（2）

第14回：特別支援教育（幼児・児童・生徒）の現状と問題点（1）

第15回：特別支援教育（幼児・児童・生徒）の現状と問題点（2）

定期試験

【授業時間外の学習】

授業計画に基づいて、必ず予習を行う必要がある（キーワード予習用 有）。（2時間）また、授業終了後、配布された講義資料に基づいて復習する必要がある（キーワード復習用 有）（2時間）。予習・復習を繰り返すことで、教師として必要な専門的知識・技術が身に付けられる。

【成績の評価】

毎回の講義に対するキーワード予習用・復習用レポート（15%）、ミニレポート（15%）、定期試験（70%）を総合的に評価する。

レポートについては、その都度、授業時に講評し、フィードバックを行う。また、試験に対してもフィードバックを行う。

【使用テキスト】

拓殖 雅義、木船 憲幸著 『特別支援教育総論（改訂新版）』（放送大学教育振興会 2016年）

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

科目名： < TOKU4 > 特別支援教育演習
担当教員： 山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka)

【授業の紹介】

特別支援教育演習は、特別支援教育を必要とする幼児・児童・生徒の特徴やその支援の概要について総合的に学び、特別支援学校の授業形態や指導方法の実際を学ぶとともに、特別支援教育の指導形態に応じた学習指導の工夫について演習を通じて学びます。特別支援教育を必要としている教育現場において求められる知識及び実践力の基礎を培います。

【到達目標】

特別支援教育の実践者として求められる基礎的知識の基盤形成し、実践的技能の基礎獲得することを目指します。そのために、以下の到達目標を設定します。

1. 多様な障害のある子どもの基礎知識について説明できる
2. 特別支援学校教育の実際に触れ、個々の教育的ニーズに応じた指導について説明できる
3. 児童生徒の個々のニーズに応じた基本的な対応及び配慮事項を提案できる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 特別支援教育とICF
 - 第3回 特別支援教育の現状と動向
 - 第4回 知的障害児の教育の概要と特徴
 - 第5回 肢体不自由児の教育の概要と特徴
 - 第6回 視覚障害児の教育の概要と特徴
 - 第7回 聴覚障害児の教育の概要と特徴
 - 第8回 重度・重複障害児の教育の概要と特徴
 - 第9回 発達障害児の教育の概要と特徴(1: ASD)
 - 第10回 発達障害児の教育の概要と特徴(2: ADHD)
 - 第11回 発達障害児の教育の概要と特徴(3: LD)
 - 第12回 その他の障害児の教育の概要と特徴
 - 第13回 特別支援教育と自立
 - 第14回 特別支援教育と合理的配慮
 - 第15回 重要ポイントの確認と整理
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

各授業時間のテーマについて毎回レポートの提出を課します。資料や参考文献を用いて予習及び復習が必要になります(1時間)。また、特別支援教育の教育現場の参観や見学を予定しています。各自2箇所の参観及び見学を課します(3時間)。

【成績の評価】

受講態度(30%)、課題の提出状況(70%)などを総合して成績を評価します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

特別支援教育総論：インクルーシブ時代の理論と実践，川合紀宗他著，北大路書房，2016.
その他必要に応じて，資料を配布します。

【参考文献】

必要に応じて，講義内で紹介します。

科目名： < TOKU5 > 知的障害児の心理
担当教員： 中塚 勝俊 (NAKATSUKA Katsutoshi)

【授業の紹介】

知的障害のある子どもへの適切な教育的支援を実践するためには、子ども理解はもちろん保護者や子育てにかかわる人々と十分なコミュニケーションをとることができることが必要です。そのための基礎的知識を習得します。

【到達目標】

- ・ 保育所や幼稚園、特別支援学校などにおける知的障害のある子どもの心理学的知識を理解することができる。
- ・ その子にあった教育的支援・援助を実践するための方策を具体的に計画することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 知的障害の定義
 - 第3回 知的障害の分類
 - 第4回 知的障害のアセスメント
 - 第5回 言語のアセスメント
 - 第6回 社会生活のアセスメント
 - 第7回 学習
 - 第8回 言語獲得と社会的相互作用
 - 第9回 行動調整機能
 - 第10回 記憶の特徴
 - 第11回 動機づけ
 - 第12回 自閉症（高機能自閉症）
 - 第13回 ダウン症
 - 第14回 学習障害（LD）
 - 第15回 注意欠陥多動性障害（ADHD）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

特に重要と思われる内容は、事前に予習の範囲を指定し、レジュメを作成してもらいます。（2時間）
予習時理解が困難であった専門用語について講義終了後どれくらい理解が進んだかについて記録しておくこと。（2時間）

【成績の評価】

- ・ 成績の評価は、授業への参加度（15%）、ショート・レポート（15%）、期末試験（70%）の結果をもとに総合的に行います。
- ・ ショート・レポートは授業時にコメントを付けて返却します。期末試験に関しては、個人的に研修室でフィードバックします。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

新保育士養成講座編纂委員会（編）『子どもの保健』（全国社会福祉協議会、2012年）
湯浅恭正（編）『よくわかる 特別支援教育』（ミネルヴァ書房、2008年）

科目名： < TOKU6 > 知的障害児の生理・病理
担当教員： 宮崎 雅仁(MIYAZAKI Masahito)

【授業の紹介】

特別支援教育は身体や知的に障害を持つ子どもたちへの教育支援プログラムである。その中で最近では知的レベルに問題のある知的障害に加えて行動や情緒に障害のある発達障害に対する社会的認知度の高まりにより、それを専門とする教員への期待度・必要性が高まりつつある。それに伴い、その教育に關与する教員は子どもたちが持つ障害特性や病態生理を十分に理解し、科学的根拠の基に仁愛の念を持って対応する事が必要不可欠となる。本講義では特別支援教育に必要な定型的な子どもの成長・発達の知識から各障害の具体的な診断、治療、対処法までの内容を出来るだけわかり易く授業する予定である。

【到達目標】

1. 子どもの定型発達を正しく理解できる。
2. 特別支援教育を必要とする子どもたちの障害特性を充分理解できる。
3. その知識を生かして子どもたちの持つ表面的な症状だけでなく、その病態生理に基づいた適切な対応ができる。

【授業計画】

- 第 1回 子どもの成長・発達
 - 第 2回 知的・発達障害概論（総論的内容）
 - 第 3回 発達障害各論（自閉症スペクトラム障害の病態生理）
 - 第 4回 発達障害各論（自閉症スペクトラム障害の診断・治療）
 - 第 5回 発達障害各論（注意欠陥/多動性障害の病態生理）
 - 第 6回 発達障害各論（注意欠陥/多動性障害の診断・治療）
 - 第 7回 発達障害各論（限局性学習障害の病態生理・診断・治療）
 - 第 8回 発達障害各論（発達性協調運動障害、トゥレット障害の病態生理・診断・治療）
 - 第 9回 中間習熟度チェック（質疑応答と意見交換）
 - 第10回 知的障害各論（精神遅滞（脳性麻痺合併を含む））
 - 第11回 知的障害各論（染色体異常）
 - 第12回 知的障害各論（てんかんの病態生理・診断・治療）
 - 第13回 知的障害各論（遺伝性・代謝性疾患の病態生理）
 - 第14回 知的障害各論（遺伝性・代謝性疾患の診断・治療）
 - 第15回 期末習熟度チェック（授業のまとめと質疑応答・意見交換）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業前に指定教科書で授業内容を予習し、必要に応じて図書館・等で専門用語の意味・内容を調べて疑問点を自習ノートに記載しておく（2時間）。
授業で使用したスライド原稿や授業の最後に実施した小テストを持ち帰り復習すると同時に自らの到達度を把握する（2時間）。

【成績の評価】

毎回の講義の最後に実施する小テストの成績（15%）、中間習熟度チェック（5%）、期末試験（80%）の総合評価により判定する。
小テストの正答は当日解説し、学生自身が毎回理解度を確認する。

【使用テキスト】

宮崎雅仁・編：脳科学から学ぶ発達障害：小児プライマリケア/特別支援教育に携わる人のために（医学書院、2012年）本体3500円（税別）

【参考文献】

なし

科目名： < TOKU7 > 病弱児の心理・生理・病理

担当教員： 磯部 健一 (ISOBE Kenichi)

【授業の紹介】

病弱児の心理、生理、病理では、病弱児の種々の病気を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できることを目指す授業です。特に、病弱児に対しては、医療的な対応や支援が必要とされるので、多様な専門性を持つ人材とコミュニケーションが十分にでき、また、協力・協働できることも目指します。医学・医療、心理の立場から多面的に映像的な資料としてスライドなどを使用して講義を行います。また、病弱児の主要な疾患についてグループ毎に発表を行い、理解を深める授業にします。

【到達目標】

1. 病弱児・虚弱児について理解し説明できる。
2. 多様化、重度化しつつある病弱児の主要な疾患について具体的に理解できる。
3. 病弱児への対応や支援に関する他職種との協力・協働について理解できる。

【授業計画】

- 第1回 総論（病弱・虚弱児の定義、病弱児教育の歴史）
 - 第2回 病弱児教育の意義（病弱児教育と対象疾患）
 - 第3回 病弱児教育（病弱児教育の仕組み）
 - 第4回 グループ発表（神経疾患、循環器疾患）
 - 第5回 グループ発表（心身症 - 1）
 - 第6回 グループ発表（心身症 - 2）
 - 第7回 グループ発表（精神疾患）
 - 第8回 グループ発表（慢性疾患）
 - 第9回 グループ発表（内分泌疾患）
 - 第10回 グループ発表（血液疾患、膠原病）
 - 第11回 グループ発表（先天異常など）
 - 第12回 小児の感染症、感染予防とスタンダードプレコーション
 - 第13回 愛着形成
 - 第14回 病弱・虚弱児の医療的ケア
 - 第15回 これまでの講義のまとめと質疑応答
- 定期試験

【授業時間外の学習】

各授業時に病弱・虚弱児に関係する事柄や疾患等（前もって提示）について質問するので、図書館等で調べノートにまとめること。また、病弱・虚弱児の主要な疾患をグループ毎に割り当てるので、グループ発表とレポートの提出を義務付けます。（予習と復習は、各回4時間以上行うこと）

【成績の評価】

学習態度（10%）、レポート（20%）、定期試験（70%）の結果により総合的に判断します。グループ発表時に各疾患についての解説を行います。定期試験の結果はオフィスアワーの際に解説します。

【使用テキスト】

使用しません。

【参考文献】

全国病弱養護学校長会編著『病弱教育Q&A PART1 改訂版』（ジヤース教育新社、2002年）
及川郁子監 伊藤龍子、及川郁子編『小児慢性特定疾患療養育成指導マニュアル』（診断と治療社、2006年）
独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所著『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』（ジヤース教育新社、2015年）

科目名： < TOKU8 > 肢体不自由児の心理・生理・病理

担当教員： 磯部 健一 (ISOBE Kenichi), 川田 人包 (KAWATA Hitokane)

【授業の紹介】

この授業では、肢体不自由児の心理、生理、病理をそれぞれの観点から考えることとします。具体的には、(1) 肢体不自由の概念を明らかにしたうえで、医学的な観点からは、人間行動の成り立ちと肢体不自由、身体のしくみとその生理と病理、肢体不自由の原因と主な起因疾患について、(2) 心理学的な観点からは、肢体不自由と発達の関係、肢体不自由児の感覚・知覚、運動・動作、コミュニケーション、肢体不自由児への心理的支援について考えます。これらを通じて、肢体不自由児の教育にあたるための理論と実践力を身につけることを学びます。なお、授業は、生理・病理の領域を磯部が担当し、心理の領域を川田が担当して行います。

【到達目標】

特別支援学校などにおける肢体不自由児について、肢体不自由児の主要な疾患や肢体不自由児の心理・生理・病理を理解することにより、実践力を身につけ肢体不自由児に適切な支援ができる教員としての資質を培うことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・肢体不自由の概念 (磯部)
- 第2回 人間行動の成り立ちと肢体不自由 (子どもの正常運動発達) (磯部)
- 第3回 身体のしくみとその生理・病理-1 (運動器) (磯部)
- 第4回 身体のしくみとその生理・病理-2 (中枢神経系) (磯部)
- 第5回 肢体不自由の原因と主な起因疾患-1 (脳・脊髄性疾患) (磯部)
- 第6回 肢体不自由の原因と主な起因疾患-2 (筋原性疾患) (磯部)
- 第7回 肢体不自由の原因と主な起因疾患-3 (骨関節疾患) (磯部)
- 第8回 肢体不自由と発達の関係 (川田)
- 第9回 肢体不自由児の感覚・知覚 (川田)
- 第10回 肢体不自由児の運動・動作 (川田)
- 第11回 肢体不自由児のコミュニケーション-1 (川田)
- 第12回 肢体不自由児のコミュニケーション-2 (川田)
- 第13回 肢体不自由児への心理的支援 (川田)
- 第14回 肢体不自由に係わる社会的・制度的課題 (磯部)
- 第15回 講義の重要ポイントのまとめと質疑応答
定期試験

【授業時間外の学習】

次回の講義内容を確認し、肢体不自由の原因となる疾患等について教科書や図書館等で調べノートにまとめること。また、3回のグループ発表とレポートの提出を義務付けます。(予習と復習は、各回4時間以上行うこと)

【成績の評価】

授業参加状(10%)、レポート(20%)、定期試験(70%)の成績により総合的に判断します。グループ発表時に各疾患についての解説を行います。

【使用テキスト】

安藤隆男・藤田継道編著『よくわかる肢体不自由教育』(ミネルバ書房、2015年)(川田)
授業者が作成した資料を講義テキストとします(磯部)。

【参考文献】

篠田達明監修、沖 高司、岡川敏郎、土橋圭子編集『肢体不自由児の医療・療育・教育改訂3版』(金芳堂、2015年)
その他、授業のなかで、適宜紹介します。

科目名： < TOKU9 > 障害児保育

担当教員： 山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka)

【授業の紹介】

障害のある子どもに関する環境は、特別支援教育の実施に伴い、早期発見・早期療養が求められており、保育現場でも特別なニーズを伴う幼児への支援が求められています。本講義では、「特別支援教育」の特徴と実際を学び、障害のある幼児の育ちに関わる諸問題に気づき、保育現場で求められている具体的な支援の在り方や保育の仕方について理解を深め、専門性を高めます。この授業を通じて、様々な問題に自ら気づき、子どもの育ちを確実にそして豊かにするための課題解決を自ら行う主体性と意欲を育みます。

【到達目標】

特別支援教育を必要とする子どもの特性と効果的な実践を理解し、望ましい教育的支援の在り方、効果的な支援方法の理解、ニーズに応じた環境設定の仕方、効果的な教材開発の仕方を学習し、多様なニーズを有する幼児への保育士としての知識、技能を高め、多様なニーズに応じた基本的な対応及び環境調整を提案することができる。そのために以下の項目を到達目標とする。

1. 特別支援教育の理念と幼児期の位置づけとその特徴について説明できる
2. 特別支援教育を必要とする子どもの特性について説明できる
3. ニーズを有する子どもに必要な環境設定、教材の工夫について説明できる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 特別支援教育と障害児保育
 - 第3回 知的障害児の特徴と支援
 - 第4回 肢体不自由児の特徴と支援
 - 第5回 視覚障害児の特徴と支援
 - 第6回 聴覚障害児の特徴と支援
 - 第7回 言語障害児の特徴と支援
 - 第8回 自閉症スペクトラム児の特徴と支援（1：特徴と行動）
 - 第9回 自閉症スペクトラム児の特徴と支援（2：環境支援）
 - 第10回 限局性学習障害児の特徴と支援
 - 第11回 注意欠陥多動性障害児の特徴と支援
 - 第12回 グレーゾーンの子の特徴と支援
 - 第13回 重度・重複障害児の特徴と支援
 - 第14回 インクルーシブ保育の展望と課題
 - 第15回 合理的配慮の実施とまとめ
- 定期試験を実施しません

【授業時間外の学習】

履修する学生には、前時の復習と次時の予習を求めます。また、毎時間、復習を兼ねたレポートや感想文の提出を毎時間求めます。各回のテーマについて事前に授業時間外に検索したり(1時間)、まとめたりする必要があります(2時間)。

【成績の評価】

受講態度(20%)、提出物(30%)、レポート(50%)を総合して成績を評価します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また、必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

小橋明子・小橋拓真『障がい児保育』（中山書店）2019年

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介します。

科目名： < TOKU10 > 障害児保育
担当教員： 山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka)

【授業の紹介】

障害のある子どもに関する環境は、特別支援教育の実施に伴い、早期発見・早期療養が求められており、保育現場でも特別なニーズを伴う幼児への支援が求められています。本講義では、「特別支援教育」の基本的概念と理念、その体系を学び、保育現場で求められている特別なニーズのある幼児への支援の在り方や保育に求められている「特別支援教育」について理解を深めます。

【到達目標】

特別支援教育の基本的概念や理念を理解し、望ましい支援の在り方、効果的な支援方法の理解、ニーズに応じた環境設定の仕方を学び、多様なニーズを有する幼児への「特別支援教育」を担う保育士としての知識、技能を高め、ニーズに応じた基本的な対応及び配慮の工夫を提案することができる。

1. 「障害」についてICFを基に理解することができる
2. 特別支援教育の共通性と障害種による個別性について説明できる
3. 子どもの発達段階や障害特性に応じた個別の対応の基本について説明できる
4. 子どものニーズに応じた環境設定の仕方について、複数の案を提案することができる
5. 多様なニーズを有する子どもの修学支援のポイントについて説明できる
6. 多様なニーズを有する子どもの保護者との連携のポイントと関係機関とのチーム支援について説明できる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 「障害」と「特別なニーズ」
 - 第3回 特別支援教育の特徴(1)(知的障害教育・肢体不自由教育)
 - 第4回 特別支援教育の特徴(2)(聴覚障害教育)
 - 第5回 障害児保育の実践(1)3歳児の事例と配慮の工夫
 - 第6回 障害児保育の実践(2)4歳児の事例と配慮の工夫
 - 第7回 障害児保育の実践(3)5歳児の事例と配慮の工夫
 - 第8回 障害児保育の実践(4)環境構成と配慮の工夫
 - 第9回 障害児保育の実践(5)就学支援の実際
 - 第10回 保護者への支援と保育士の役割(1)
 - 第11回 保護者への支援と保育士の役割(2)
 - 第12回 関係機関との連携とチーム支援
 - 第13回 早期発見・早期療育の視点と実践
 - 第14回 障害児保育の展望と課題
 - 第15回 障害児保育における保育者資質
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

履修する学生には、前時の授業のまとめを通じた復習と次時資料の確認など予習を求めます(1時間)。
また、復習を兼ねたレポートや感想文の提出を求めます(1時間)。

【成績の評価】

受講態度(20%)、レポート課題の提出状況(60%)、発表(20%)等を総合して成績を評価します。
課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。
また、必要に応じてオフィスアワーにおいて個別にフィードバックします。

【使用テキスト】

小野次朗編『発達障害』(ミネルヴァ書房)2010年

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介します

科目名： < TOKU11 > 障害児の教育課程と指導法

担当教員： 堺 るり子(SAKAI Ruriko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。障害児の教育課程と指導法は、本学の教育課程編成・実施の方針を踏まえ、特別な支援を必要とする子育てを支えるための科目として位置付けられています。本授業科目の目標は、特別支援学校や特別支援学級等における教育課程の基本的内容及び障害に応じた指導法を修得することです。教育課程は、学校の教育目標、教育内容、授業時数を要素とする学校の教育計画です。小学校や特別支援学校の教員をめざす受講生が、学校の教育目標を踏まえた学級・教科等の目標設定、特別な支援を必要とする子どもに応じた指導計画について、必要な知識を幅広く体系的に理解できるように分かりやすく解説します。また、特別な支援を必要とする子どもの学習課題に対して、どのような科目を設定してどのように指導するか、具体的な実践を紹介します。できるだけ多くの子ども像を共有しながら、個に応じた教育課程や指導の在り方について考察し、問題を解決する力を培います。

なお、毎時間活用する「特別支援学校学習指導要領及び同解説」を読み解きやすくするために、用語や基本的内容は、実践と関連付けて解説します。

【到達目標】

1. 教育課程編成に関わる法令・規定等を理解することができる。
2. 新しい学習指導要領の内容を理解し、教育課程の編成や教育実践について基礎的な知識を修得することができる。
3. 障害別の教育課程や指導法等を理解し、説明することができる。
4. 個別の指導計画を作成することができる。

上記の目標を達成することにより、特別支援教育に必要な専門的な知識と実践力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 教育課程の基準
 - 第2回 教育課程の編成及び実施
 - 第3回 知的障害教育における教育課程の編成と指導
 - 第4回 視覚障害教育における教育課程の編成と指導
 - 第5回 聴覚障害教育における教育課程の編成と指導
 - 第6回 肢体不自由教育における教育課程の編成と指導
 - 第7回 病弱教育における教育課程の編成と指導
 - 第8回 重複障害者等を対象とした教育課程
 - 第9回 自立活動の指導
 - 第10回 確かな学力の育成を目指す教育課程の編成の工夫
 - 第11回 一人一人のニーズに応じた教育課程の編成の工夫
 - 第12回 就労に向けた教育課程の編成の工夫
 - 第13回 生きる力の育成に向けた教育課程の編成の工夫
 - 第14回 社会に開かれた教育課程
 - 第15回 個別の指導計画の作成
- 定期試験

【授業時間外の学習】

使用テキストで次回の授業内容を予習すると共に、予習課題について調べた内容をワークシートにまとめましょう(2時間)。毎時、授業内容に関するキーワードを示します。キーワードについて理解した内容や新たに調べた内容を、ワークシートにまとめましょう(2時間)。

なお、ユニットの区切りで小テストを3回実施します。

【成績の評価】

受講態度や毎回授業後に提出するリフレクションシートの内容を重視するとともに、予習・復習課題の内容(30%)、小テスト(10%)、定期試験(60%)の成績を総合して評価します。

予習・復習課題や小テストは、模範解答を示して次回の授業で講評し、フィードバックします。

【使用テキスト】

- ・文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部)』(開隆堂出版 2018年)

【参考文献】

- ・必要に応じて授業で紹介します。

科目名： < TOKU13 > 知的障害児教育
担当教員： 堺 るり子(SAKAI Ruriko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。知的障害児教育は、本学の教育課程編成・実施の方針を踏まえ、特別な支援を必要とする子育てを支えるための科目として位置付けられています。

本授業科目では、知的障害の特性、指導や支援の内容・方法、教育課程、知的障害児教育の今日的課題等、特別な支援を必要とする子どもの教育・保育に必要な知識を、幅広く体系的に理解できるように解説します。また、その知識体系を実践と関連付けて理解できるように、知的障害児教育の実践や知的障害児教育に関連する最近の施策をできるだけ多く紹介します。実践等の分析・考察を通して知的障害児教育の問題を明らかにするとともに、問題を解決する力や特別支援教育に必要な実践力を培います。

【到達目標】

1. 知的障害の障害特性を理解することができる。
2. 知的障害児教育における教育課程及び指導の特徴を理解し、説明することができる。
3. 知的障害児教育における指導・支援に必要な知識・技能を身に付けることができる。
4. 知的障害児教育の今日的な課題や特別支援教育の動向について、理解することができる。

【授業計画】

- 第1回 知的障害児教育と特別支援教育
 - 第2回 知的障害のある子どもの心理的な特徴と子ども理解の基本
 - 第3回 知的障害を伴う自閉症児に対する教育
 - 第4回 知的障害児教育における教育課程の編成
 - 第5回 知的障害児教育における教科別の指導
 - 第6回 知的障害児教育の指導法（日常生活の指導、遊びの指導）
 - 第7回 知的障害児教育の指導法（生活単元学習）
 - 第8回 知的障害児教育の指導法（作業学習）
 - 第9回 知的障害児教育の指導法（自立活動）
 - 第10回 個別の指導計画と個別の教育支援計画
 - 第11回 職業教育と移行支援計画
 - 第12回 知的障害児教育とキャリア教育
 - 第13回 個のニーズに応じた授業づくり
 - 第14回 交流及び共同学習
 - 第15回 インクルーシブ教育システム
- 定期試験

【授業時間外の学習】

使用テキストで次回の授業内容を予習すると共に、予習課題について調べた内容をワークシートにまとめましょう（2時間）。毎時、授業内容に関するキーワードを示します。キーワードについて理解した内容や新たに調べた内容を、ワークシートにまとめましょう（2時間）。

なお、ユニットの区切りで小テストを3回実施します。

【成績の評価】

受講態度や毎回授業後に提出するリフレクションシートの内容を重視するとともに、予習・復習課題の内容（30%）、小テスト（10%）、定期試験（60%）の成績を総合して評価します。

予習・復習課題や小テストは、模範解答を示して次回の授業で講評し、フィードバックします。

【使用テキスト】

- ・太田俊己、藤原義博著『知的障害教育総論』（放送大学教育振興会 2016年）

【参考文献】

- ・必要に応じて授業で紹介します。

科目名： < TOKU14 > 知的障害児教育演習【3年～】

担当教員： 笠井 新一郎(KASAI Sinichiro)

【授業の紹介】

教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できることを目指す。

その上で、特別支援教育を行っていくためには、的確な検査・評価を実施することで、正しい障害像が得られる。特に、知的障害教育を実践するためには、臨床的な評価とともに、客観的な評価を実施し、総合的な評価を得る必要がある。各種検査実習を通して、的確な検査・評価（臨床的評価、客観的評価、総合評価）の意義、重要性及び知的障害教育での活用方法について紹介する。

【到達目標】

1. 特別支援教育において、的確な検査・評価（臨床的評価、客観的評価）の意義、重要性について、理解できる。
2. 各種検査（発達、知能、言語、その他）について、各検査の特性について理解し、その結果を知的障害教育の実践場面で活用できる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：的確な検査・評価の重要性（1）
 - 第3回：的確な検査・評価の重要性（2）
 - 第4回：発達検査の概要の紹介
 - 第5回：発達検査の実習
 - 第6回：検査結果の指導計画への活用方法
 - 第7回：知能検査の概要の紹介
 - 第8回：知能検査の実習
 - 第9回：検査結果の指導計画への活用方法
 - 第10回：言語発達検査の概要の紹介
 - 第11回：言語発達検査の実習
 - 第12回：検査結果の指導計画への活用方法
 - 第13回：その他の検査の概要の紹介
 - 第14回：その他の検査の概要の実習
 - 第15回：検査結果の支援計画への活用方法
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業計画に基づいて、必ず予習を行う必要がある（キーワード予習用 有）。（30分）また、授業終了後、配布された講義資料に基づいて復習する必要がある（キーワード復習用 有）（30分）。予習・復習を繰り返すことで、教師として必要な専門的知識・技術が身に付けられる。

【成績の評価】

毎回の講義に対するキーワード予習用・復習用レポート（15%）、ミニレポート（15%）、定期試験（70%）を総合的に評価する。

レポートについては、その都度、授業時に講評し、フィードバックを行う。また、試験に対してもフィードバックを行う。

【使用テキスト】

- 上野一彦・他著 『日本版WISC- による発達障害のアセスメント』（日本文化科学社 2016年）
- 上野一彦・他著 『特別支援教育の理論と実践 概論・アセスメント』（金剛出版 2013年）

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

科目名： < TOKU14 > 知的障害児教育演習【2年】

担当教員： 笠井 新一郎(KASAI Sinichiro)

【授業の紹介】

教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できることを目指す。

その上で、特別支援教育を行っていくためには、的確な検査・評価を実施することで、正しい障害像が得られる。特に、知的障害教育を実践するためには、臨床的な評価とともに、客観的な評価を実施し、総合的な評価を得る必要がある。各種検査実習を通して、的確な検査・評価（臨床的評価、客観的評価、総合評価）の意義、重要性及び知的障害教育での活用方法について紹介する。

【到達目標】

1. 特別支援教育において、的確な検査・評価（臨床的評価、客観的評価）の意義、重要性について、理解できる。
2. 各種検査（発達、知能、言語、その他）について、各検査の特性について理解し、その結果を知的障害教育の実践場面で活用できる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：的確な検査・評価の重要性（1）
 - 第3回：的確な検査・評価の重要性（2）
 - 第4回：発達検査の概要の紹介
 - 第5回：発達検査の実習
 - 第6回：検査結果の指導計画への活用方法
 - 第7回：知能検査の概要の紹介
 - 第8回：知能検査の実習
 - 第9回：検査結果の指導計画への活用方法
 - 第10回：言語発達検査の概要の紹介
 - 第11回：言語発達検査の実習
 - 第12回：検査結果の指導計画への活用方法
 - 第13回：その他の検査の概要の紹介
 - 第14回：その他の検査の概要の実習
 - 第15回：検査結果の支援計画への活用方法
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業計画に基づいて、必ず予習を行う必要がある（キーワード予習用 有）。（30分）また、授業終了後、配布された講義資料に基づいて復習する必要がある（キーワード復習用 有）（30分）。予習・復習を繰り返すことで、教師として必要な専門的知識・技術が身に付けられる。

【成績の評価】

毎回の講義に対するキーワード予習用・復習用レポート（15%）、ミニレポート（15%）、定期試験（70%）を総合的に評価する。

レポートについては、その都度、授業時に講評し、フィードバックを行う。また、試験に対してもフィードバックを行う。

【使用テキスト】

- 上野一彦・他著 『日本版WISC- による発達障害のアセスメント』（日本文化科学社 2016年）
- 上野一彦・他著 『特別支援教育の理論と実践 概論・アセスメント』（金剛出版 2013年）

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

科目名： < TOKU15 > 病弱児教育
担当教員： 堺 るり子(SAKAI Ruriko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。病弱児教育は、本学の教育課程編成・実施の方針を踏まえ、特別な支援を必要とする子育てを支えるための科目として位置付けられています。

病弱児は、特別支援学校(病弱)や地域の小・中学校にある特別支援学級(病弱・身体虚弱)、病院内の特別支援学級、通常の学級、幼稚園、保育所等に在籍しています。近年、子どもの病気は多様化し、心身症やうつ病等の精神疾患、発達障害の二次障害としての行動障害等、心のケアが必要な子どもも増加しています。本授業科目では、病気の種類や治療方法、病弱児に対する指導・支援等、特別な支援を必要とする子どもの教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解できるように解説します。また、その知識体系を実践と関連付けて理解できるように、病弱児教育の実践や病弱児教育に関する最近の施策をできるだけ多く紹介します。実践等の分析・考察を通して、病弱児教育の問題を明らかにするとともに、問題を解決する力や特別支援教育に必要な実践力を培います。

なお、本授業科目は「病弱児の心理・病理・生理」で修得した内容を基盤として、授業を行います。

【到達目標】

1. 病弱児教育の対象となる疾患等について理解し、説明することができる。
2. 病弱児教育の意義と役割について理解することができる。
3. 一人一人に応じた適切な指導・支援について理解することができ、実践に必要な知識・技能を身に付けることができる。
4. 医療及び福祉関係機関、家族との連携・協働に関する課題について、意見を述べることができる。

【授業計画】

- 第1回 病気の子どもを取り巻く現状
 - 第2回 病弱児教育の定義と歴史
 - 第3回 病気等の状態に応じた配慮事項 (白血病等悪性新生物)
 - 第4回 病気等の状態に応じた配慮事項 (筋ジストロフィー、神経系疾患)
 - 第5回 病気等の状態に応じた配慮事項 (心臓病、糖尿病、腎疾患、アレルギー疾患)
 - 第6回 病気等の状態に応じた配慮事項 (うつ病等の気分障害、不登校)
 - 第7回 学習指導要領を踏まえた指導
 - 第8回 教科等の指導
 - 第9回 自立活動の指導、ICT機器を活用した指導
 - 第10回 心身症・精神疾患のある児童生徒の指導
 - 第11回 ベッドサイド教育、病院との連携
 - 第12回 進路指導、キャリア教育
 - 第13回 高校生への支援及び学習指導
 - 第14回 特別支援学校(病弱教育)のセンター的役割
 - 第15回 医療及び福祉関係機関、家族との連携・協働
- 定期試験

【授業時間外の学習】

使用テキストで次回の授業内容を予習すると共に、予習課題について調べた内容をワークシートにまとめましょう(2時間)。毎時、授業内容に関するキーワードを示します。キーワードについて理解した内容や新たに調べた内容を、ワークシートにまとめましょう(2時間)。日頃より、病弱教育に関する記事や文献等を読み、病弱教育や病気の子どもの現状について認識を深めてください。

なお、ユニットの区切りで小テストを3回実施します。

【成績の評価】

受講態度や毎回授業後に提出するリフレクションシートの内容を重視するとともに、予習・復習課題の内容(30%)、小テスト(10%)、定期試験(60%)の成績を総合して評価します。

予習・復習課題や小テストは、模範解答を示して次回の授業で講評し、フィードバックします。

【使用テキスト】

- ・丹羽 登監修、全国特別支援学校病弱教育校長会編著『特別支援学校の学習指導要領を踏まえた病気の子どもガイドブック 病弱教育における指導の進め方』(ジヤース教育新社 2017年)

【参考文献】

- ・西牧謙吾監修、松浦俊弥編著『チームで育む病気の子ども』(北樹出版 2017年)
- ・山本昌邦、島 治伸、滝川国芳編集、日本育療学会編著『標準 病弱児の教育テキスト』(ジヤース教育新社 2019年)
- ・全国病弱教育研究会編著『病気の子どもの教育入門』(クリエイツかもがわ 2015年)

科目名： < TOKU12 > 病弱児教育演習
担当教員： 堺 るり子(SAKAI Ruriko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。病弱児教育演習は、本学の教育課程編成・実施の方針を踏まえ、特別な支援を必要とする子育てを支えるための科目として位置付けられています。

本授業科目では、「病弱児の心理・生理・病理」及び「病弱児教育」で修得した内容を基盤にして演習を行います。病弱児が病気に向き合う意欲を高め、社会の中でより良く生きていくために、病弱児教育はどうあるべきか、ペアワークやグループワークを通して問題を明らかにし、その問題を解決する力を培います。また、ICT機器の活用や自立活動の指導、心身症・精神疾患のある子どもの指導、医療との連携等の課題については、一人一人の子どもに応じた指導・支援の内容・方法等を受講生自ら提案してください。

病弱児の状態は、病状や発達段階等により一人一人異なります。実践の基礎になる子どもに寄り添う豊かな心を育み、病弱児教育に携わる教員としての資質の向上をめざします。

【到達目標】

1. 病弱児教育の課題について考察することができる。
2. 病弱児に対する教育上の配慮事項について理解し、説明することができる。
3. 指導内容に応じた教材・教具を考え、作製することができる。
4. 病弱児の実情に応じた指導・支援について考察・提案することを通して、より良い実践を行うために必要な着眼点とスキルを身に付けることができる。

上記の到達目標を達成することにより、教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解することができるとともに、特別な支援を必要とする子どもを支える実践力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 病弱児教育の現状と課題
 - 第2回 発達障害のある子どもや不登校の子どもの理解と支援
 - 第3回 医療的ケアの実際
 - 第4回 自立活動の指導（事例の検討）
 - 第5回 自立活動の指導（発表・討論・考察）
 - 第6回 教科指導（事例検討）
 - 第7回 教科指導（発表・討論・考察）
 - 第8回 体験的な活動における指導（事例の検討）
 - 第9回 体験的な活動における指導（発表・討論・考察）
 - 第10回 補助用具やICT機器の活用（事例の検討）
 - 第11回 補助用具やICT機器の活用（発表・討論・考察）
 - 第12回 遠隔教育（事例の検討）
 - 第13回 遠隔教育（発表・討論・考察）
 - 第14回 ライフステージに応じたがん対策、緩和ケア
 - 第15回 「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」の作成
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

特別支援学校（病弱）や特別支援学級（病弱・身体虚弱）、医療施設等における実地研修を通して、指導や支援の在り方を考察します。考察した内容をレポートとして提出することを求めます。

次回の授業内容を予習する（2時間）と共に、事例の理解を深めるために、関連文献や資料等で調べた内容や考察したことをノートにまとめましょう（2時間）。

【成績の評価】

演習への参加態度（20%）、授業中の発言・質疑応答の内容（30%）、レポートを総合して評価します。レポートは、次回の授業時に講評し、フィードバックします。

【使用テキスト】

ありません。

【参考文献】

- ・丹羽 登監修、全国特別支援学校病弱教育校長会編著『病弱教育における各教科等の指導』（ジヤース教育新社 2015年）
- ・丹羽 登監修、全国特別支援学校病弱教育校長会編著『特別支援学校の学習指導要領を踏まえた病気の子どものガイドブック 病弱教育における指導の進め方』（ジヤース教育新社 2017年）
- ・西牧謙吾監修、松浦俊弥編著『チームで育む病気の子ども』（北樹出版 2017年）

科目名： <TOKU17> 肢体不自由児教育【1・2年】

担当教員： 川田 人包(KAWATA Hitokane)

【授業の紹介】

「肢体不自由児教育」は、肢体不自由児の教育や療育についての基礎・基本を学び、障がいの多様な肢体不自由児に適切に対応するために設けられた科目である。本講義では、他の障がい種の組み合わせを含め、重度・重複・多様化した幼児児童生徒一人ひとりに対して、適切な指導と必要な支援のあり方について学ぶ。また、共体験（ボディワーク）等を通して肢体不自由児の心と身体に対する理解と支援を深める。

【到達目標】

肢体不自由児の正しい理解に努め、望ましい指導や支援の基本的な学びを通し、一人ひとりに向けた効果的な指導法や環境づくり、教材教具の活用等を習得することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 肢体不自由児の教育 - 歴史と現状 -
 - 第3回 脳性まひ児等の肢体不自由疾患による特性
 - 第4回 肢体不自由児の運動発達と課題
 - 第5回 肢体不自由児の心理発達
 - 第6回 特別支援学校や特別支援学級における教育の実際
 - 第7回 教育課程編成の基本と授業づくり（P D C Aサイクル）
 - 第8回 身体の動きの指導や支援
 - 第9回 コミュニケーションの指導や支援
 - 第10回 各教科・領域の指導や支援
 - 第11回 重度・重複障がい児の理解と指導 - 医療的ケア対象児含 -
 - 第12回 自立活動と個別の指導計画
 - 第13回 教材教具を活用した発達支援 - 福祉機器等 -
 - 第14回 肢体不自由児のキャリア教育
 - 第15回 新たな取組と今後の課題 - 権利擁護と社会生活 -
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

履修する学生には、事前に配布する授業資料やテキストを通して1時間程度の準備学修（予習・復習）を求める。また、課題解決に向けたレポートや感想文の提出を求めることもある。

特に、特別支援教育や障がい児・者の支援に係る研究や実践に触れる機会を数多く利用することを願う。

【成績の評価】

受講態度（30%）、提出物（30%）、小筆記試験（40%）を総合して成績を評価する。
なお、課題解決に係る小筆記試験並びにレポートについては、適宜フィードバックを行う。

【使用テキスト】

「よくわかる肢体不自由児教育」安藤隆男・藤田継道編著 ミネルヴァ書房 2015年

【参考文献】

必要な文献、論文については適宜紹介する。

科目名： <TOKU17> 肢体不自由児教育【3年～】

担当教員： 川田 人包(KAWATA Hitokane)

【授業の紹介】

肢体不自由児の教育や療育について、基礎・基本を学ぶ。障がいの多様な肢体不自由児を正しく理解し、必要とされる様々な視点や実践的な指導や支援につながる内容を提供する。
。 重度・重複・多様化した幼児児童生徒一人ひとりの心と身体に対する理解が深まるように共体験（ボディワーク）等を通して教育や福祉の実践者としての見識を高める。

【到達目標】

肢体不自由児の正しい理解に努め望ましい指導や支援の基本的な学びを通し、幼児児童生徒一人ひとりに向けた効果的な指導法や環境づくり、教材教具の活用等を習得することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 肢体不自由児の教育 - 歴史と現状 -
 - 第3回 脳性まひ児等の肢体不自由疾患による特性
 - 第4回 肢体不自由児の運動発達と課題
 - 第5回 肢体不自由児の心理発達
 - 第6回 特別支援学校や特別支援学級における教育の実際
 - 第7回 教育課程編成の基本と授業づくり（PDCAサイクル）
 - 第8回 身体の動きの指導や支援
 - 第9回 コミュニケーションの指導や支援
 - 第10回 各教科・領域の指導や支援
 - 第11回 重度・重複障がい児の理解と指導 - 医療的ケア対象児含 -
 - 第12回 自立活動と個別の指導計画
 - 第13回 教材教具を活用した発達支援 - 福祉機器等 -
 - 第14回 肢体不自由児のキャリア教育
 - 第15回 新たな取組と今後の課題 - 権利擁護と社会生活 -
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

履修する学生には、事前に配布する授業資料やテキスト等を通して1時間程度の準備学修（予習・復習）を求める。また、課題解決にむけたレポート等の提出を求めることもある。
特に、特別支援学校や福祉施設等の見学や実習等を通して問題意識を高める姿勢を求める。

【成績の評価】

発表等主体的な受講態度（30%）、レポート（30%）、小筆記試験（40%）を総合して成績を評価する。
。 課題解決を図る小筆記試験並びにレポートについては、適宜フィードバックを行う。

【使用テキスト】

「よくわかる肢体不自由児教育」安藤隆男・藤田継道編著 ミネルバ書房 2015年

【参考文献】

必要な文献や論文については適宜紹介する。

科目名： < TOKU18 > 肢体不自由児教育演習

担当教員： 川田 人包(KAWATA Hitokane)

【授業の紹介】

「肢体不自由児教育演習」は、「肢体不自由児教育」で学んだ基礎・基本を基盤にして、肢体不自由児個々の実態把握に基づいて展開される具体的な指導法や評価のあり方等を学ぶために設けられた科目です。特に、本演習では教育心理学的なアプローチ等を通して肢体不自由児の心と身体を支える具体的な指導法や支援のあり方を学びます。また、肢体不自由児が安心して学べる環境のあり方や合理的な配慮についても検証します。

【到達目標】

- ・肢体不自由児に対する関係機関との連携（個別の教育支援計画）を理解することができる。
- ・「実態把握 指導・支援 評価 改善 引継」といった継続性や連続性を備えた偏りのない授業づくり（個別の指導計画）ができることをめざす。
- ・「自立活動」で活用されている指導法等を学び、肢体不自由児教育に携わる教員として実践できることをめざす。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 IEPの理念と実践 - 「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」 -
 - 第3回 肢体不自由児教育における「自立活動」の計画・実践・評価・改善
 - 第4回 肢体不自由児教育における指導法（動作不自由の特徴）
 - 第5回 肢体不自由児教育における指導法（身体の動き1）リラクゼーション
 - 第6回 肢体不自由児教育における指導法（身体の動き2）座位
 - 第7回 肢体不自由児教育における指導法（身体の動き3）膝立ち位
 - 第8回 肢体不自由児教育における指導法（身体の動き4）立位・歩行
 - 第9回 肢体不自由児教育における指導法（授業づくり1）姿勢保持・姿勢変換・移動
 - 第10回 肢体不自由児教育における指導法（授業づくり2）身体の動きの指導と評価
 - 第11回 肢体不自由児教育における指導法（授業づくり3）外部専門家の導入と連携
 - 第12回 事例検討会 ～個別事例への指導・支援の検討
 - 第13回 事例検討会 ～個別事例への指導・支援の検討
 - 第14回 事例検討会 ～個別事例への指導・支援の検討
 - 第15回 事例検討会 ～様々なアプローチの有用性や環境設定のあり方
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

履修する学生には、特別支援学校や特別支援学級、福祉施設等の実地見学や実習等を通して肢体不自由児や重度・重複障害児等に対する問題意識を高める姿勢を求める。

また、1時間程度の準備学修（予習・復習）と復習を兼ねたレポートや感想文の提出を求めることがる。

【成績の評価】

演習への参加態度（30%）や習熟度（30%）、レポート等（40%）を総合して成績を評価する。

なお、習熟度につきましては運動・動作を用いた指導技法を通して実践を取り入れながらフィードバックする。

【使用テキスト】

「障害者のための絵でわかる動作法2 自立活動へのはじめの一步」宮崎昭、村主光子、田丸秋穂、杉林寛仁、長田実著 福村出版 2018年

【参考文献】

必要な文献や論文については、適宜紹介する。

科目名： < TOKU19 > 視覚の発達と障害

担当教員： 惠羅 修吉(ERA Shukichi)

【授業の紹介】

目が見える人にとって、目が見えない人の経験する世界を想像することはとても難しいことです。目が見えていない私たちは、「見える」ということを子どもの時から当たり前のこととして経験してきました。当たり前のように存在している「見え」の世界。しかしながら、私たちは経験としては気づいていませんが、「見え」の世界は子どもから大人になるについて少しずつ変化しているのです。この授業では、「見え」の発達について、いろいろな事例や研究を通して基礎的な知識を提供することをめざします。さらに、目が見えない、あるいは目が見えにくいといった視覚障害について解説します。講義を通して、視機能に困難のある子どもにとって望ましい成長・発達を支援するための専門的知識と技能の獲得と、実践的能力の基礎となる知見の獲得を目指します。

本授業は「特別支援学校教諭免許」に必要な科目です。視覚障害のある子どもの理解と教育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識を教育や支援の実践で活かせるように自ら多様な情報を収集・分析することで、将来にわたり継続的に学ぶ姿勢を身につけていきます。

【到達目標】

1. 視覚の成立に関わる生物学的構造について理解できる。
2. 視覚に関わる検査について、その意義を説明することができる。
3. 視機能に困難を有する子どもの心理特性について理解し、配慮点について説明できる。
4. 視覚障害教育の歴史と現状について理解できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 視覚の構造1：眼から脳まで
- 第3回 視覚の構造2：高次脳機能
- 第4回 視覚障害の定義と分類
- 第5回 視覚検査1：視力検査
- 第6回 視覚検査2：眼位検査
- 第7回 視覚検査3：色覚検査
- 第8回 視覚検査3：その他の検査，中間試験（前半の内容に関する小テスト）
- 第9回 視覚障害児の心理学的特性1：聴覚認知
- 第10回 視覚障害児の心理学的特性2：触運知覚
- 第11回 視覚障害児の心理学的特性3：空間認知（空間移動を含む）
- 第12回 視覚障害児の心理学的特性4：音声言語の発達
- 第13回 視覚障害児の心理学的特性5：視覚言語（点字を含む）の発達
- 第14回 視覚障害に対応した支援機器の活用
- 第15回 視覚障害児教育の歴史：授業のまとめ

【授業時間外の学習】

授業中に参考図書やホームページをいくつか紹介します。それらを可能な限り閲覧してください。授業期間中に報道された視覚障害に関連する記事を読み、その背景などについて調べてみましょう。新聞やWebでのニュースを注意深くみると、視覚障害やそれに関連する内容の記事が報道されています。授業期間中これらの記事を読み、関心を持った内容については、更にその背景を調べてみることで視覚障害ならびに視覚障害教育に関わる現状について認識を深めましょう。要する時間は、2時間/週程度を想定しています。

【成績の評価】

評価は、授業中の小レポート（30%）、中間試験（40%）、期末レポート（30%）とします。中間試験については試験終了後に正解を提示し、理解を正します。小レポートについては、次回の授業時に全体的に講評を加えます。

【使用テキスト】

ありません。

【参考文献】

- 香川邦生・千田耕基（編）『小・中学校における視力の弱い子どもの学習支援』（教育出版，2009年）
- 香川邦生（編）『四訂版 視覚障害教育に携わる方のために』（慶應義塾大学出版会，2010年）

科目名： < TOKU20 > 聴覚障害教育総論
担当教員： 川合 紀宗(KAWAI Norimune)

【授業の紹介】

聴覚障害のある幼児児童生徒に対する教育的支援に必要となる制度や実践的側面、心理・生理・病理的側面に関する基本的な事項の知識を体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解するなど、聴覚障害教育の在り方について幅広く学習します。

【到達目標】

- ・聴覚障害教育について考える際に基盤となる事項について、基礎的な知識を身につけることができる。
- ・聴覚障害教育の実際について、幼児児童生徒の発達段階を追い、具体的に教育の内容と方法を理解することができる。
- ・聴覚障害の心理・生理・病理的側面に関する基本的な事項を理解することができる。
- ・聴覚障害教育の望ましいあり方について主体的に考え、話し合うことができる。

【授業計画】

- 第1回 聴覚障害の歴史的展開
 - 第2回 聴覚障害教育の心理・生理・病理
 - 第3回 特別支援教育における聴覚障害
 - 第4回 聴覚障害教育の教育課程
 - 第5回 聴覚障害教育とコミュニケーション方法
 - 第6回 聴覚障害児に対する自立活動
 - 第7回 聴覚障害児の教科学習と読み書き能力
 - 第8回 通常の学級で学ぶ聴覚障害児
- 定期試験なし

【授業時間外の学習】

配布された資料について予習（講義資料の予習をし、講師に対する質問事項を考えておく）や復習（授業を通して学んだこと・疑問に思ったことをコメントする）を1回あたり90分に相当する時間必ず行い、内容を理解しておいてください。

【成績の評価】

授業中の積極的な参加（質疑応答、グループワーク等：40%）と課題レポートの内容（60%）によって評価します。については、受講者の発言・応答内容やグループ発表に対して口頭や記述による質的評価を行います。については、授業内容の理解度をレポートの記述内容から分析し、量的評価を行います。

【使用テキスト】

ありません。必要に応じて講義資料を配付します。

【参考文献】

四日市章・鄭 仁豪・澤 隆史・ハリー・クノールス・マーク・マーシャーク編「学習と指導 発達と心理学的基礎」(明石書店、2018年)
我妻敏博「改訂版 聴覚障害児の言語指導 実践のための基礎知識」(田研出版、2011年)
脇中起余子「聴覚障害教育 これまでとこれから: コミュニケーション論争・9歳の壁・障害認識を中心に」(北大路書房、2009年)

科目名： < TOKU21 > 重複障害教育総論
担当教員： 落合 俊郎(OCHIAI Toshiro)

【授業の紹介】

特別支援学校の中でも重度でかつ複数の障害をあわせもった子どもたちの教育を知り、教育者に求められる知識だけでなく、使命感と倫理観も培います。まず、重複障害児教育の歴史をさかのぼり、ヘレン・ケラーに始まる盲ろう二重障害の教育方法を学び、点字、手話、発話へとどのように教育するのか学習します。1979年の養護学校義務制実施以降、知的障害、肢体不自由、病弱をあわせもつ重複障害の子どもが多くなりました。このような児童生徒に対して、どのような授業を展開するのか、さらに改訂される学習指導要領の新旧の違いについて説明します。また、たんの吸引、経管栄養、胃ろう等の医療的ケアが必要な子どもたちへの対応と実践についても学びます。国連障害者の権利条約批准後、重複障害のある子どもたちの合理的配慮をどのようにするのかを説明します。重複障害のある児童生徒に寄り添った豊かな人間性をはぐくみ、授業の内容に対して積極的かつ主体的に意見の発表を行うような授業を行います。さらに重複障害のある児童生徒の教育の課題を明らかにし、その課題を解決する力を身に付け、特別支援学校の教員になる前にボランティア等で社会に貢献する気づきを養います。授業で修学した専門的知識や技能を生かし、特別支援学校での実践的能力を培います。

【到達目標】

重複障害のある児童生徒の教育に関する新しい学習指導要領の内容を理解し、新旧学習指導要領の違いを理解することができる。そして、重複障害のある児童生徒の心理・生理・病理的な特徴と、特別支援学校重複学級の中では、どのような授業が行われるか理解すると同時に、医療的ケアが必要な児童生徒の対応に関する知識を含め、特別支援学校教諭に必要な総合的な知識と教育実践に必要な知識とスキルを身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション。
- 第2回 重複障害の定義と新旧学習指導要領の違いを説明します。
- 第3回 重複障害教育の歴史をさかのぼって：盲ろう二重障害児の教育とはどのようなものか紹介します。
- 第4回 NHK「ETVスペシャル あなたと話したい」から学ぶもの：重度の知的障害・肢体不自由・病弱を併せもつ児童生徒の教育とは何か紹介します。
- 第5回 個別の教育計画、個別の指導計画、合理的配慮とはなにか、具体的な内容について学びます。
- 第6回 自立活動について(学習指導要領解説から)：授業案を作成するときのポイント、行動の見方について学びます。
- 第7回 重複障害のある児童生徒の教育課程：特別支援学校重複障害学級の中での授業を紹介します。
- 第8回 医療的ケアが必要な子どもたちへの対応についての説明と授業の振り返りを行います。
- 第9回 定期試験の実施

【授業時間外の学習】

重複障害のある児童生徒は肢体不自由特別支援学校や病弱特別支援学校に在籍していることが多いのでボランティアや介護等の体験等でこれらの子どもたちと親しむことを勧めます。授業開始一週間前からGoogle Classroomに講義内容ならびに資料を閲覧可能な状態にします。授業開始までの予習に3時間、講義終了後の復習に3時間かけて復習してください。さらにGoogle Classroomには当該学年度開示しますので、質問等がございましたら、Google Classroomを通じて質疑応答を行います。特別支援学校での教育実習は2週間という短い間で研究授業を行い、指導案も書かなければなりません。重複障害のある児童生徒の担当になることもありますので、事前にボランティア活動等をと通して、これら重複障害のある児童生徒への対応を経験してください。

【成績の評価】

授業の参加状況(20%)と試験(80%)の結果により総合的に評価します。授業の参加状況については、出席だけではなく、学生と教員との意見のやり取り、質疑応答等の内容も評価対象とします。Google Classroomで毎時間、感想と質問を記載するようにします。それも評価の対象にします。

【使用テキスト】

文部科学省(2018)特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)
開隆堂
本体159円+税

【参考文献】

授業の中で必要な資料を配布します。広島県立福山特別支援学校発行の自立活動のガイドラインを紹介いたします。授業開始前に授業内容を知りたい方はGoogle Classroomにログインしてください。クラスコードは2oi05gです。

科目名： < TOKU1 > L D 等教育総論
担当教員： 井上 とも子 (INOUE Tomoko)

【授業の紹介】

発達障害、主にLD・ADHD・高機能自閉症スペクトラム障害の様態に応じて必要となる支援、特に教育的支援について学び、専門知識を身につけ、特別支援教育に関する実践的能力を培います。はじめに、発達障害の定義について、教育的支援の方向性を示す形で解説します。教育的支援を組み立てるために、アセスメントについて話を進める中で、標準化された発達検査についても触れ、発達障害児の学校内の様態についての理解を進めます。次にそれぞれの学習上の特性に応じた指導・支援方法を論じた後、問題行動に関しても、対応方法と共に説明します。この時、グループ協議の形で、課題への気づきとともに、配慮点や教育対応方法を考えるなどの演習を行い、解決する力を育成します。

【到達目標】

幼児期と小学校期の発達障害の様態を理解することができる。
児が起こす行動の意味を知り、特性と行動の意味にあった支援・指導の方法を知ることができる。
通常の学級における特別支援教育のあり方全般の知識を修得することをめざす。
以上の3つのことを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・教育分野の3つの発達障害とは
 - 第2回 LDとは
 - 第3回 ADHDとは - 動画から知るADHD
 - 第4回 学校におけるADHD児の実態と理解
 - 第5回 ASDとは - わかりにくさの理解
 - 第6回 学校教育とアセスメント
 - 第7回 支援についての基本的考え方と実践的方法
 - 第8回 学級内配慮はどうあるべきか
 - 第9回 学校におけるASD支援の実際
 - 第10回 インクルーシブ教育と合理的配慮
 - 第11回 通常の学級内における特別支援教育の在り方
 - 第12回 校内支援体制の構築 教師間連携
 - 第13回 問題行動の意味と対策
 - 第14回 保護者支援の在り方・通級による指導
 - 第15回 まとめ（これまでの講義にかかる質問・応答、課題に応じたレポート作成と発表）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- 1 第1回目の授業までに発達障害児関連の書籍を数冊読み、1回目の授業時に「発達障害とは何か」についてのレポートを提出する（計15時間）
- 2 授業前半、8時間が終わったところで関心のある発達障害児を取り上げ、支援方法に関わる書籍を読んで、例「ADHDの支援方法」と題したレポートを作成する（計20時間）
- 3 第8回目までの授業を振り返り、第9回目の授業の際に「発達障害児に対して自身が取り組みたい支援についての疑問点、理解困難な点」について発表し、後半授業の個々の目標を明らかにして授業に臨むために授業資料を見直し、復習する（計10時間）
- 4 15回の授業と授業資料を基に「発達障害について」と「通常学級の中の特別支援教育について」分かったことをレポートにまとめ、提出する（計15時間）

【成績の評価】

レポート30% 授業中の質問・発言10% 授業態度10% 試験50%
レポートについては、読んだ後、コメントをつけて返します。
成績評価の不明な点についての質問には、十分な説明を行います。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- 小島道生・宇野宏幸・井澤信三編著『発達障害の子がいるクラスの授業・学級経営の工夫』明時図書（2008）
- 小野次郎・上野一彦・藤田継道編『よく分かる発達障害』第2版ミネルヴァ書房（2010）
- 日本LD学会編『発達障害事典』（2016）

科目名： < TOKU23 > 相談援助【発A】

担当教員： 赤川 陽子(AKAGAWA Youko)

【授業の紹介】

本講義では、保育所や児童福祉施設など子どもとその家族に関わる援助専門職として、子どもと家族に適切な支援・援助を実践するために必要な相談援助の手法を習得することを目的とする。特に、事例を用いて具体的に学ぶ中で、援助専門職としての実践力に直結する知識を身に付けることを目標とする。

【到達目標】

1. 相談援助の概要について理解することができる。
2. 相談援助の方法と技術について理解することができる。
3. 相談援助の具体的展開について理解することができる。
4. 保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象の理解を深めることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：授業の進め方や評価の方法について
 - 第2回 相談援助の概要（1）相談援助の理論と意義
 - 第3回 相談援助の概要（2）相談援助の機能とソーシャルワーク
 - 第4回 相談援助の概要（3）保育とソーシャルワーク
 - 第5回 第2回～第4回のテーマに関するまとめとグループワークと討議
 - 第6回 相談援助の方法と技術（1）保育の専門性と相談援助
 - 第7回 相談援助の方法と技術（2）保育所における相談援助とその役割
 - 第8回 相談援助の具体的展開（1）計画・記録・反省
 - 第9回 相談援助の具体的展開（2）関係機関との連携
 - 第10回 第6回～第9回のテーマに関するまとめとグループワークと討議
 - 第11回 事例分析（1）乳児をもつ保護者への支援
 - 第12回 事例分析（2）幼児をもつ保護者への支援
 - 第13回 事例分析（3）虐待を受ける子どもとその保護者への支援
 - 第14回 事例分析（4）障がいのある子どもとその保護者への支援
 - 第15回 第11回～第14回のテーマに関するまとめとグループワークと討議およびこれまでの授業の質疑応答
- 定期試験は、実施しない。

【授業時間外の学習】

- ・予習として、配布した資料を予習しておき、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、個人のノート等にまとめておくこと。（1時間）
- ・復習として振り返りノートの内容を見直し、質問等があれば、次回の授業にて質問できるようにノート等にまとめておくこと。（1時間）

【成績の評価】

振り返りノート（50%）、授業態度（30%）、授業外レポート（20%）
受講態度、提出物（レポート・振り返りノートなど）他を総合的に判断する。
成績評価の具体的な方法については、第1回のオリエンテーション時に説明する。

（評価対象者）

- ・10回以上出席した学生
- ・振り返りノートの、第1回目～第3回目の内容を記述して提出し、振り返りノートに担当教員の確認印がある。

【使用テキスト】

テーマに関係のある文献については授業中に随時紹介する。

【参考文献】

テーマに関係のある文献については授業中に随時紹介する。

科目名： < TOKU23 > 相談援助【発B】

担当教員： 赤川 陽子(AKAGAWA Youko)

【授業の紹介】

本講義では、保育所や児童福祉施設など子どもとその家族に関わる援助専門職として、子どもと家族に適切な支援・援助を実践するために必要な相談援助の手法を習得することを目的とする。特に、事例を用いて具体的に学ぶ中で、援助専門職としての実践力に直結する知識を身に付けることを目標とする。

【到達目標】

1. 相談援助の概要について理解することができる。
2. 相談援助の方法と技術について理解することができる。
3. 相談援助の具体的展開について理解することができる。
4. 保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象の理解を深めることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：授業の進め方や評価の方法について
 - 第2回 相談援助の概要（1）相談援助の理論と意義
 - 第3回 相談援助の概要（2）相談援助の機能とソーシャルワーク
 - 第4回 相談援助の概要（3）保育とソーシャルワーク
 - 第5回 第2回～第4回のテーマに関するまとめとグループワークと討議
 - 第6回 相談援助の方法と技術（1）保育の専門性と相談援助
 - 第7回 相談援助の方法と技術（2）保育所における相談援助とその役割
 - 第8回 相談援助の具体的展開（1）計画・記録・反省
 - 第9回 相談援助の具体的展開（2）関係機関との連携
 - 第10回 第6回～第9回のテーマに関するまとめとグループワークと討議
 - 第11回 事例分析（1）乳児をもつ保護者への支援
 - 第12回 事例分析（2）幼児をもつ保護者への支援
 - 第13回 事例分析（3）虐待を受ける子どもとその保護者への支援
 - 第14回 事例分析（4）障がいのある子どもとその保護者への支援
 - 第15回 第11回～第14回のテーマに関するまとめとグループワークと討議およびこれまでの授業の質疑応答
- 定期試験は、実施しない。

【授業時間外の学習】

- ・予習として、配布した資料を予習しておき、必要に応じて図書館等で専門用語の意味等を調べ、個人のノート等にまとめておくこと。（1時間）
- ・復習として振り返りノートの内容を見直し、質問等があれば、次回の授業にて質問できるようにノート等にまとめておくこと。（1時間）

【成績の評価】

振り返りノート（50%）、授業態度（30%）、授業外レポート（20%）
受講態度、提出物（レポート・振り返りノートなど）他を総合的に判断する。
成績評価の具体的な方法については、第1回のオリエンテーション時に説明する。

（評価対象者）

- ・10回以上出席した学生
- ・振り返りノートの、第1回目～第3回目の内容を記述して提出し、振り返りノートに担当教員の確認印がある。

【使用テキスト】

テーマに関係のある文献については授業中に随時紹介する。

【参考文献】

テーマに関係のある文献については授業中に随時紹介する。

科目名： < TOKU24 > 保育相談支援【発A】

担当教員： 瀧本 逸誠(TAKIMOTO Issei)

【授業の紹介】

実務経験(児童相談所や発達障害者支援センター)においての、三歳児精神発達精密健康診査、障害児を持つ母親へのグループワーク、幼稚園・保育所・小学校の発達障害児への訪問指導など)のある教員による授業科目です。我が国は人口減少社会を迎えて今日に至っています。保育所が子どもや子育て家庭を取り巻く今日的課題を踏まえ、保育の専門機関として地域社会に貢献することが求められています。保育者としての【専門性】の向上を目指して「保育所保育指針」が改定され、「食育の推進」や「保護者支援」などがうたわれました。保育者が現場での「問題の発見」「情報の収集・分析」「多様な専門家との協力・協働」等を含め、ソーシャルワークを使いこなして、保育実践を、園内はもちろん地域社会に伸ばし、より実り豊かなものにできるよう取り組みます。

【到達目標】

1. 保育相談支援の意義と原則について理解できる。
2. 保護者支援の基本を理解できる。
3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解できる。
4. 保育所等児童福祉施設における保護者支援の事例について理解できる。

【授業計画】

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 第1回 | 保育相談支援の意義 |
| 第2回 | 保育相談支援の原理 |
| 第3回 | 保育相談支援の構造・展開 |
| 第4回 | 保育相談支援の基本 - 子どもの最善の利益、保護者の養育力の向上等 |
| 第5回 | 保育相談支援の基本 - 受容、自己決定、秘密保持等 |
| 第6回 | 保育相談支援の基本 - 地域資源の活用、機関連携等 |
| 第7回 | 保育相談支援の実際 - 保護者支援の内容と方法 |
| 第8回 | 保護者支援の実際 - 保護者支援の技術、記録、評価等 |
| 第9回 | 児童福祉施設における保育相談支援 - 保育所での家庭支援事例 |
| 第10回 | 児童福祉施設における保育相談支援 - 保育所での発達障害事例 |
| 第11回 | 児童福祉施設における保育相談支援 - 保育所で特別対応を要する事例 |
| 第12回 | 児童福祉施設における保育相談支援 - 児童養護施設での家庭支援事例 |
| 第13回 | 児童福祉施設における保育相談支援 - 障害児施設等での事例 |
| 第14回 | 地域に向けた保育相談支援の取り組みー役割、機能、事例等 |
| 第15回 | 保育者の成長 研修、スーパーバイズ等 |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業ごとに、配布されたプリントやノートを使って授業内容の整理をし、記録しておくこと。期間中に虐待対応事例や、相談関連事例について5回のレポートを課す。(計15時間)

【成績の評価】

期末テスト(50%)、レポート(50%)
レポートについては、次回の授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

テキストは使用しない。テーマに沿ったレジュメまたはスライド資料を用意する。

【参考文献】

- 二宮裕子「子育て支援」萌文書林 2018年
吉田眞理「保育相談支援」青鞥社 2016年
柏女霊峰・橋本真紀(編著)「保育相談支援」ミネルヴァ書房 2012年
福丸由佳・安藤智子・無藤隆(編著)「保育相談支援」北大路書房 2013年
大島恭二・金子恵美(編著)『保育相談支援』建帛社 2012年
笠師千恵・小橋明子著『相談援助 保育相談支援』中山書店 2014年
児童育成協会監修/西村重稀・青井夕貴(編集)『保育相談支援』中央法規 2015年
二宮祐子「子育て支援」萌文書林 2018年

科目名： < TOKU24 > 保育相談支援【発B】

担当教員： 瀧本 逸誠(TAKIMOTO Issei)

【授業の紹介】

実務経験(児童相談所や発達障害者支援センター)においての、三歳児精神発達精密健康診査、障害児を持つ母親へのグループワーク、幼稚園・保育所・小学校の発達障害児への訪問指導など)のある教員による授業科目です。我が国は人口減少社会を迎えて今日に至っています。保育所が子どもや子育て家庭を取り巻く今日的課題を踏まえ、保育の専門機関として地域社会に貢献することが求められています。保育者としての【専門性】の向上を目指して「保育所保育指針」が改定され、「食育の推進」や「保護者支援」などがうたわれました。保育者が現場での「問題の発見」「情報の収集・分析」「多様な専門家との協力・協働」等を含め、ソーシャルワークを使いこなして、保育実践を、園内はもちろん地域社会に伸ばし、より実り豊かなものにできるよう取り組みます。

【到達目標】

1. 保育相談支援の意義と原則について理解できる。
2. 保護者支援の基本を理解できる。
3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解できる。
4. 保育所等児童福祉施設における保護者支援の事例について理解できる。

【授業計画】

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 第1回 | 保育相談支援の意義 |
| 第2回 | 保育相談支援の原理 |
| 第3回 | 保育相談支援の構造・展開 |
| 第4回 | 保育相談支援の基本 - 子どもの最善の利益、保護者の養育力の向上等 |
| 第5回 | 保育相談支援の基本 - 受容、自己決定、秘密保持等 |
| 第6回 | 保育相談支援の基本 - 地域資源の活用、機関連携等 |
| 第7回 | 保育相談支援の実際 - 保護者支援の内容と方法 |
| 第8回 | 保護者支援の実際 - 保護者支援の技術、記録、評価等 |
| 第9回 | 児童福祉施設における保育相談支援 - 保育所での家庭支援事例 |
| 第10回 | 児童福祉施設における保育相談支援 - 保育所での発達障害事例 |
| 第11回 | 児童福祉施設における保育相談支援 - 保育所で特別対応を要する事例 |
| 第12回 | 児童福祉施設における保育相談支援 - 児童養護施設での家庭支援事例 |
| 第13回 | 児童福祉施設における保育相談支援 - 障害児施設等での事例 |
| 第14回 | 地域に向けた保育相談支援の取り組みー役割、機能、事例等 |
| 第15回 | 保育者の成長 研修、スーパーバイズ等 |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業ごとに、配布されたプリントやノートを使って授業内容の整理をし、記録しておくこと。期間中に虐待対応事例や、相談関連事例について5回のレポートを課す。(計15時間)

【成績の評価】

期末テスト(50%)、レポート(50%)
レポートについては、次回の授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

テキストは使用しない。テーマに沿ったレジュメまたはスライド資料を用意する。

【参考文献】

- 二宮裕子「子育て支援」萌文書林 2018年
吉田眞理「保育相談支援」青鞥社 2016年
柏女霊峰・橋本真紀(編著)「保育相談支援」ミネルヴァ書房 2012年
福丸由佳・安藤智子・無藤隆(編著)「保育相談支援」北大路書房 2013年
大島恭二・金子恵美(編著)『保育相談支援』建帛社 2012年
笠師千恵・小橋明子著『相談援助 保育相談支援』中山書店 2014年
児童育成協会監修/西村重稀・青井夕貴(編集)『保育相談支援』中央法規 2015年
二宮祐子「子育て支援」萌文書林 2018年

科目名： < TOKU25 > 社会福祉

担当教員： 瀧本 逸誠(TAKIMOTO Issei)

【授業の紹介】

実務経験(児童相談所、障害者支援施設、発達障害者支援センター、民生児童委員、引きこもり対策検討委員など)のある教員による授業科目である。

社会福祉の基本「福祉とは何か」を共に考えていく。社会福祉の考え方や、社会福祉を取り巻く現状・課題を学習したうえで、子ども家庭福祉の視点について理解していく。社会福祉の制度や実施体系、共生社会の実現と障害者施策、また、相談援助等の社会福祉全般に関する理解を深め、「専門的知識と思考力」「多様な専門家との協力・協働」「豊かな人間性」や専門職が順守すべき「倫理(望ましい態度)」などを身に付け、社会に貢献できることを目指す。

【到達目標】

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭福祉の視点について理解できる。
2. 社会福祉の制度や実施体制について理解できる。
3. 社会福祉における相談援助について理解できる。
4. 社会福祉における利用者保護に関わる仕組みについて理解できる。
5. 社会福祉の動向と課題について理解できる。

【授業計画】

- | | |
|------|-------------------------------|
| 第1回 | 社会福祉の理念と概念 |
| 第2回 | 社会福祉の歴史の変遷 - イギリス、アメリカ、スウェーデン |
| 第3回 | 社会福祉の歴史の変遷 - 日本 |
| 第4回 | 子ども家庭福祉と社会福祉 |
| 第5回 | 社会福祉の制度と法体系 |
| 第6回 | 社会福祉行財政と実施機関 |
| 第7回 | 社会福祉施設と福祉専門職 |
| 第8回 | 社会保障及び関連制度の概要 |
| 第9回 | 相談援助の意義 |
| 第10回 | 相談援助の理論と方法 |
| 第11回 | 相談援助の対象と技術 |
| 第12回 | 利用者の保護～権利擁護と苦情解決等 |
| 第13回 | 現代の福祉問題 - 少子化社会における子育て支援 |
| 第14回 | 現代の福祉問題 - 共生社会の実現と障害者施策 |
| 第15回 | 社会福祉の動向と課題 - 在宅福祉・地域福祉の推進 |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業ごとに、配布されたプリントを使って授業内容の整理をし、記録しておくこと(計30時間)。その中で特に気づいたこと、疑問に思ったことは図書館等で調べ、ノートにまとめておくこと。期間中に3回のレポートを課す(計30時間)

【成績の評価】

期末テスト(70%) レポート(30%)
レポートについては、次の授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

テキストは使用しない。テーマに沿ってレジュメ又はスライド資料を用意する。

【参考文献】

- 橋本好一・宮田徹(編著)『保育と社会福祉』(みらい 2014年)
小林育子・一瀬早百合(共著)『社会福祉と私たちの生活』(萌文書林 2016年)
西村昇・日開野博・山下政國(編著)『社会福祉概論』(中央法規 2013年)
直島正樹・原田旬哉(編著)『社会福祉』(萌文書林 2015年)
吉田眞理(著)『社会福祉』(青鞥社 2014年)
松原康雄・坪洋一・金子充(編集)『社会福祉』(中央法規 2019年)
新川康弘・宮野安治(編集)『社会福祉』(青鞥社 2020年)

科目名： < TOKU26 > 児童家庭福祉
担当教員： 瀧本 逸誠(TAKIMOTO Issei)

【授業の紹介】

実務経験(児童相談所、児童自立支援施設、障害児施設、不登校等各種委員、民生児童委員など)のある教員による授業科目である。

子ども家庭福祉は、子どもの福祉の増進とともに、「子どものより良き適応を援助する」だけでなく、子どもの家庭を含めて支援する体制や仕組みが必要となっている。また、現代社会における子ども・家庭問題は、少子化の中で、児童虐待をはじめ、危機的状況に立たされている。このような現状と課題に加えて、子ども家庭福祉の専門職として、子どもの人権擁護や貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応等について理解を深める。そして、「職業使命感と倫理観」「専門的知識と思考力・判断力」や「豊かな人間性」などを身に付け、子どもや保護者に温かく適切に対応できるようになることを目指す。

【到達目標】

1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解できる。
2. 子どもの人権擁護について理解できる。
3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解できる。
4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解できる。
5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解できる。

【授業計画】

- 第1回 子ども家庭福祉の理念と概念
 - 第2回 子ども家庭福祉の歴史 - イギリス、アメリカ
 - 第3回 子ども家庭福祉の歴史 - 日本
 - 第4回 現代社会と子ども家庭福祉
 - 第5回 子どもの人権擁護 - 歴史の変遷
 - 第6回 子どもの人権擁護 - 子どもの権利条約
 - 第7回 子ども家庭福祉の制度と法体系
 - 第8回 児童福祉施設と専門職
 - 第9回 少子化と地域子育て支援
 - 第10回 多様な保育ニーズへの対応
 - 第11回 子ども虐待・DVとその防止
 - 第12回 障害のある子どもへの対応
 - 第13回 少年非行等への対応
 - 第14回 貧困家庭、外国籍の子どもとその家族への対応
 - 第15回 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進
- 定期試験

【授業時間外の学習】

毎回の授業ごとに、配布されたプリントやノートを使って授業内容の整理をし(計30時間)、予習として、次回テーマに関して、専門用語などを図書館等で調べてノートにまとめておくこと。
また、期間中に、特定のテーマについて3回のレポートを課す。(計30時間)

【成績の評価】

期末テスト(70%)、レポート(30%)
レポートについては、次の授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

テキストは使用しない。テーマに沿ってレジュメ又はスライド資料を用意する。

【参考文献】

- 吉田真理著『子ども家庭福祉』(萌文書林 2018年)
- 松本園子、堀口美智子、森和子著『子どもと家庭の福祉を学ぶ』(みなみ書房 2018年)
- 佐々木政人、澁谷昌史編著『子ども家庭福祉』(光生館 2011年)
- 児童育成会(監修)新保幸男・小林理(編集)『子ども家庭福祉』(中央法規 2019年)
- 西郷泰之・宮島清(編集)『保育者のための児童家庭福祉データブック2019』(中央法規 2018年)

科目名： < TOKU27 > 特別支援教育指導法研究

担当教員： 堺 るり子(SAKAI Ruriko),山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka)

【授業の紹介】

特別支援学校における教育実習に向けて、特別支援学校の授業形態や指導方法の実際を学ぶとともに、大学において習得した障害特性や環境調整に関する知識や技能を基盤として、特別支援教育の指導形態に応じた学習指導の工夫について演習を通じて学びます。特別支援教育実習において求められる実践力の基礎を培います。

【到達目標】

特別支援教育の実践者として求められる基礎的知識や技能の基盤形成及び実践的技能の習得を目指し、特別支援学校教育の実際に触れ、それぞれの学部で用いられている学習指導案を研究することで、学習指導案の作成に求められる基礎的な技能を習得できる。

1. 特別支援教育で用いる学習指導案の特徴について説明できる
2. 特別支援教育で用いる学習指導案の形式に従って、指導計画を立案することができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 特別支援教育における教育実習のねらい
 - 第3回 特別支援学校(知的障害)の概要と特徴
 - 第4回 特別支援学校(肢体不自由)の概要と特徴
 - 第5回 特別支援学校(病弱)の概要と特徴
 - 第6回 特別支援学校教育の実際(1)(特別支援学校の訪問)
 - 第7回 特別支援学校教育の実際(2)(特別支援学校の訪問)
 - 第8回 特別支援学校教育の実際(3)(特別支援学校の訪問)
 - 第9回 特別支援学校教育の実際(4)(特別支援学校の訪問)
 - 第10回 特別支援教育指導法研究(教育課程と学習指導案)
 - 第11回 特別支援教育指導法研究(幼稚部の学習指導案)
 - 第12回 特別支援教育指導法研究(小学部の学習指導案)
 - 第13回 特別支援教育指導法研究(中学部の学習指導案)
 - 第14回 特別支援教育指導法研究(高等部の学習指導案)
 - 第15回 重要ポイントの確認と整理
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

これまで講義や演習で学んだこととともに、指導案の作成や教材研究など自宅学習の時間確保が必要です(1時間)。また特別支援学校の授業参観やボランティア活動に積極的に参加して(計4時間以上)、実践力の基盤形成に努めることが大切です。

【成績の評価】

受講態度(30%)、レポート課題(70%)などを総合して成績を評価します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

特別支援教育の学習指導案と授業研究-子どもたちが学ぶ楽しさを味わえる授業づくり-,肥後祥治ら(2013)ジアース教育新社

【参考文献】

必要に応じて、講義内で紹介します。

科目名： < TOKU1 > 社会的養護
担当教員： 植村 倫子 (UEMURA Michiko)

【授業の紹介】

近年多様かつ複雑な家庭環境の増加により家庭の子育ての潜在力が小さくなり、社会的養護を必要とする子どもが増加しています。

本講義では、社会的養護を要する子どもの現状と課題及び施設養護の現状について学び、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解します。そして、児童福祉施設の援助者としての基礎知識、技術、倫理観、特に「思考力・判断力」や「保育実践力」を習得します。

【到達目標】

- ・子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本原則を理解し、内容を説明できる。
- ・施設養護や家庭養護に関する基本的な知識を身につけ、必要な用語について説明できるとともに虐待を受けた子どもの言動の特徴を学び援助の方法や関係機関との連携の在り方を理解することができる。
- ・社会的養護の現状と課題について考えを述べることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 社会的養護の歴史的変遷
 - 第3回 児童の権利擁護と社会的養護
 - 第4回 児童家庭福祉の一分野としての社会的養護
 - 第5回 施設養護における養育
 - 第6回 児童相談所の役割と連携
 - 第7回 家庭からの保護
 - 第8回 虐待された子どもの理解と対応
 - 第9回 虐待された子どもの理解と対応 ・施設見学等
 - 第10回 社会的養護の制度と実施体系
 - 第11回 児童福祉施設援助者の資質
 - 第12回 施設養護の現状（乳児院・養護施設）
 - 第13回 施設養護の現状（児童心理治療施設・児童自立支援施設・障害児入所施設）
 - 第14回 家庭養護の実践
 - 第15回 社会的養護の現状と課題
- 定期試験

【授業時間外の学習】

今回の授業内容を確認し専門用語等2時間の予習、受講後レポートのまとめ等2時間の復習を求めます。

【成績の評価】

- ・レポート30%（期間中2回実施し、授業時添削して返却します）
- ・筆記試験70%（模範解答は教務課に掲示します）によって評価します。

【使用テキスト】

児童の福祉を支える社会的養護<第3版> 吉田眞里編著 萌林書林 2,160円 2019年

【参考文献】

なし

科目名： < TOKU26 > 特別支援教育
担当教員： 湯浅 恭正(YUASA Takamasa)

【授業の紹介】

特別の支援を必要とする児童・生徒(発達障害児・知的障害児等)の理解を進めるための基本を講義し、学校等において支援するための教育内容・方法についての基本を学ぶ。そのために、特別な支援を必要とする児童・生徒の心理特性・発達特性を踏まえて、学級経営・授業づくり等の場面での指導方法とその背景にある教育課程の概要を講義する。具体的な実践事例も取り上げて、教師の資質・能力として必要な知識・技術・教育観について学ぶ。さらにインクルーシブ教育の国際的な背景や動向・制度の基本を押さえ、「通級による指導」や個別の指導計画・教育支援計画の必要性・関係機関との連携等、特別支援教育に関する現代の課題にも触れる。

【到達目標】

1. 特別な支援を必要とする児童・生徒(発達障害児・知的障害児等)の生活・発達・学習における困難さ・個別のニーズを把握するための基本を理解することができる。
2. 特別な支援を必要とする児童・生徒が授業や学級活動に参加するために教師や学校組織等に必要な知識・支援方法・関係機関との連携のあり方の基本を理解することができる。
3. 特別な支援を必要とする児童・生徒とともに生きるインクルーシブな共生社会の在り方の基本を理解することができる。

【授業計画】

- 第1回: 特別支援教育を学ぶために-授業のガイダンス
 - 第2回: インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の理念・制度について
 - 第3回: 発達障害、知的障害のある児童・生徒の発達特性について
 - 第4回: 発達障害、知的障害のある児童・生徒の心理特性について
 - 第5回: 特別支援学校・学級に在籍する児童・生徒の学習・発達における困難さについて
 - 第6回: 特別な支援を必要とする幼児の支援方法について
 - 第7回: 特別な支援を必要とする児童・生徒の支援方法について
 - 第8回: 教育課程における「通級による指導」「自立活動」の位置づけについて
 - 第9回: 「通級による指導」の内容について
 - 第10回: 「自立活動」の内容について
 - 第11回: 個別の指導計画・個別の教育支援計画の意義と教育課程について
 - 第12回: 個別の指導計画・個別の教育支援計画を作成する方法について
 - 第13回: 関係機関と連携して特別支援教育の体制を構築する意義について
 - 第14回: 母国語や貧困等の問題により特別なニーズのある児童・生徒の困難さと組織的対応について
 - 第15回: インクルーシブ教育時代の特別支援教育の方向について
- 定期試験

【授業時間外の学習】

各授業で示す課題を授業時間外において学習して、次の授業時に提出するなどの復習・予習することが必要である(2時間)。授業で紹介した特別支援教育についての文献・実践記録等を検索して収集し、学習した結果を指定期日までに提出することが必要である(2時間)。

【成績の評価】

定期試験(80%)、いくつかの授業の区切りの最後に提出するレポート(20%)
提出されたレポートは、添削等のコメントをつけて返却する。また、定期試験においては採点基準を示して説明する。

【使用テキスト】

『よくわかる特別支援教育 第2版』(湯浅恭正編、ミネルヴァ書房、2018)

【参考文献】

授業中適宜資料を配付する。

科目名： < TOKU2 > 社会的養護

担当教員： 瀧本 逸誠(TAKIMOTO Issei)

【授業の紹介】

実務経験(障害児施設、児童自立支援施設、児童相談所、心身障害児就学指導委員など)のある教員による授業科目です。

現代では、子どもの健全な生存・成長を担うには、家庭だけでは十分にその機能が果たせないために、多くの子どもに社会的養護が必要になってきています。施設養護や家庭的養護において、どのような支援がおこなわれているかを学び、子どもの虐待防止や家庭支援、相談援助等に必要な方法・技術を獲得します。さらに、支援計画・記録・評価の実際について理解し、事例検討を通して福祉に関わる「思考力・判断力」「多様な専門家との協力・協働」や「保育実践力」を身に付けます。

【到達目標】

1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解できる。
2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解できる。
3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解できる。
4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解できる。
5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション(児童福祉施設の体系と概要)
 - 第2回 子どもの最善の利益と権利擁護
 - 第3回 社会的養護における保育士の専門性
 - 第4回 家庭で生活できない子ども
～入所施設各論「乳児院」～
 - 第5回 家庭で生活できない子ども
～入所施設各論「児童養護施設」～
 - 第6回 家庭で生活できない子ども
～入所施設各論「医療型障害児入所施設」～
 - 第7回 家庭で生活できない子ども
～児童自立支援施設児童心理治療施設～
 - 第8回 里親制度の特徴とその実際
 - 第9回 虐待された子どもへの支援
 - 第10回 養護の具体的内容・方法
～入所中の支援「親子関係の調整」～
 - 第11回 養護の具体的内容・方法
～入所中の支援「地域・学校との関係づくり」～
 - 第12回 養護の具体的内容・方法
～入所中の支援「自立への支援」～
 - 第13回 社会的養護にかかわる相談援助の技術と活用
 - 第14回 入所後から退所後に至る支援
 - 第15回 社会的養護の課題と展望～地域連携
- 定期試験

【授業時間外の学習】

児童福祉施設ごとに、配布されたプリントやノートを使って授業内容の整理をし、施設の特徴等について記録しておくこと。また、期間中に各施設の関連事例について、10回程度のショートレポートを課す。(計15時間)

【成績の評価】

期末テスト(50%)、ショートレポート(50%)
ショートレポートについては、次回の授業時に講評し、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

テキストは使用しない。テーマに沿ったレジュメやスライド資料を用意する。

【参考文献】

- 辰巳隆・岡本眞幸(編)「保育士を目指す人の社会的養護内容」(株)みらい 2011年
- 福永博文(編著)「社会的養護内容」北大路書房 2013年
- 吉田眞理(編著)「社会的養護」萌文書林 2019年
- 犬塚峰子(編)「子どもの発達・アセスメントと養育・支援プラン」明石書店 2013年
- 相沢仁・村井美紀・大竹智(編)「社会的養護」中央法規 2019年

専門科目:子どもの音楽教育に関する科目

| 科目 | 担当教員 |
|-----------------------|---------|
| <ONGA1>音楽理論 | 柴田 玲子 |
| <ONGA3>声楽 | 藤原 フサエ |
| <ONGA3>声楽 | 水嶋 育 |
| <ONGA4>合唱 | 藤原 フサエ |
| <ONGA5>合奏 | 金川 公久 |
| <ONGA6>音楽Ⅰ－Ⅰ | 水嶋 育 |
| <ONGA6>音楽Ⅰ－Ⅱ | 水嶋 育 |
| <ONGA8>音楽Ⅱ－Ⅰ【発A】 | 西村 京子 |
| <ONGA8>音楽Ⅱ－Ⅰ【発A】 | 酒井 信 |
| <ONGA8>音楽Ⅱ－Ⅰ【発A】 | 日野 朝代 |
| <ONGA8>音楽Ⅱ－Ⅰ【発A】 | 徳山 眞矢 |
| <ONGA8>音楽Ⅱ－Ⅰ【発A】 | 出木浦 さゆり |
| <ONGA8>音楽Ⅱ－Ⅰ【発B】 | 西村 京子 |
| <ONGA8>音楽Ⅱ－Ⅰ【発B】 | 酒井 信 |
| <ONGA8>音楽Ⅱ－Ⅰ【発B】 | 日野 朝代 |
| <ONGA8>音楽Ⅱ－Ⅰ【発B】 | 渡辺 磨奈 |
| <ONGA8>音楽Ⅱ－Ⅰ【発B】 | 出木浦 さゆり |
| <ONGA9>音楽Ⅱ－Ⅱ【発A】 | 西村 京子 |
| <ONGA9>音楽Ⅱ－Ⅱ【発A】 | 酒井 信 |
| <ONGA9>音楽Ⅱ－Ⅱ【発A】 | 日野 朝代 |
| <ONGA9>音楽Ⅱ－Ⅱ【発A】 | 徳山 眞矢 |
| <ONGA9>音楽Ⅱ－Ⅱ【発A】 | 出木浦 さゆり |
| <ONGA9>音楽Ⅱ－Ⅱ【発B】 | 西村 京子 |
| <ONGA9>音楽Ⅱ－Ⅱ【発B】 | 酒井 信 |
| <ONGA9>音楽Ⅱ－Ⅱ【発B】 | 日野 朝代 |
| <ONGA9>音楽Ⅱ－Ⅱ【発B】 | 渡辺 磨奈 |
| <ONGA9>音楽Ⅱ－Ⅱ【発B】 | 出木浦 さゆり |
| <ONGA10>音楽Ⅲ－Ⅰ【弦楽器】 | 福崎 至佐子 |
| <ONGA10>音楽Ⅲ－Ⅰ【管楽器】 | 金川 公久 |
| <ONGA10>音楽Ⅲ－Ⅰ【電子オルガン】 | 西村 京子 |
| <ONGA10>音楽Ⅲ－Ⅰ【ピアノ】 | 酒井 信 |
| <ONGA11>音楽Ⅲ－Ⅱ【声楽】 | 藤原 フサエ |
| <ONGA11>音楽Ⅲ－Ⅱ【声楽】 | 水嶋 育 |
| <ONGA12>保育内容－表現Ⅱ | 水嶋 育 |
| <ONGA13>子ども音楽療育概論 | 栗田 京子 |
| <ONGA14>子ども音楽療育演習 | 栗田 京子 |
| <ONGA15>子ども音楽療育実習 | 栗田 京子 |
| <ONGA2>器楽【電子オルガン】 | 西村 京子 |
| <ONGA2>器楽【ピアノ】 | 酒井 信 |
| <ONGA2>器楽【弦楽器】 | 福崎 至佐子 |
| <ONGA6>音楽表現Ⅰ【発A】 | 藤原 フサエ |
| <ONGA6>音楽表現Ⅰ【発A】 | 水嶋 育 |
| <ONGA6>音楽表現Ⅰ【発A】 | 西村 京子 |
| <ONGA6>音楽表現Ⅰ【発A】 | 酒井 信 |
| <ONGA6>音楽表現Ⅰ【発A】 | 日野 朝代 |
| <ONGA6>音楽表現Ⅰ【発B】 | 藤原 フサエ |
| <ONGA6>音楽表現Ⅰ【発B】 | 日野 朝代 |
| <ONGA6>音楽表現Ⅰ【発B】 | 渡辺 磨奈 |
| <ONGA6>音楽表現Ⅰ【発B】 | 徳山 眞矢 |
| <ONGA6>音楽表現Ⅰ【発B】 | 出木浦 さゆり |
| <ONGA6>音楽Ⅰ－Ⅰ【発A】【3年～】 | 藤原 フサエ |
| <ONGA6>音楽Ⅰ－Ⅰ【発B】【3年～】 | 藤原 フサエ |
| <ONGA7>音楽表現Ⅱ【発A】 | 藤原 フサエ |
| <ONGA7>音楽表現Ⅱ【発A】 | 水嶋 育 |
| <ONGA7>音楽表現Ⅱ【発A】 | 西村 京子 |
| <ONGA7>音楽表現Ⅱ【発A】 | 酒井 信 |
| <ONGA7>音楽表現Ⅱ【発A】 | 日野 朝代 |
| <ONGA7>音楽表現Ⅱ【発B】 | 藤原 フサエ |
| <ONGA7>音楽表現Ⅱ【発B】 | 日野 朝代 |
| <ONGA7>音楽表現Ⅱ【発B】 | 渡辺 磨奈 |
| <ONGA7>音楽表現Ⅱ【発B】 | 徳山 眞矢 |
| <ONGA7>音楽表現Ⅱ【発B】 | 出木浦 さゆり |
| <ONGA7>音楽Ⅰ－Ⅱ【発A】【3年～】 | 藤原 フサエ |
| <ONGA7>音楽Ⅰ－Ⅱ【発B】【3年～】 | 藤原 フサエ |

科目名： <ONGA1> 音楽理論

担当教員： 柴田 玲子(SHIBATA Reiko)

【授業の紹介】

時間芸術である音楽、これを再現する手段として「楽譜」があります。楽譜から様々な情報を得て私たちは演奏しています。それを正しく読み取ること、そして逆の立場から、人にこちらの思う通りに正確に演奏してもらえる楽譜を書くことが音楽活動には必要です。五線に記号を並べただけのものから、あの名曲が再現されるのです。ソルフェージュの授業とも関連がありますが、楽譜の秘密を解き明かしながら様々な方向から音楽にアプローチしていきます。この授業を通して、子どもの教育・保育にあたる際の実践力、特に音楽環境を豊かにできる基礎力を身に付けることができます。

【到達目標】

1. 正確に楽譜の読み書きができる
2. 楽譜の知識をもとにして、理論的裏付けのある表現ができる
3. 正しく楽譜を使って子どもたちに的確な対応ができる
4. 子どもの音楽環境を豊かに保ち、音楽的感性を拓く人的環境になることをめざす

【授業計画】

- | | |
|------|---------------------------------|
| 第1回 | 中学校までの教育現場で扱われる音楽理論、音符と休符 |
| 第2回 | 五線、音部記号、日本とドイツの音名、連符 |
| 第3回 | 正しい記譜法、3度音程、和音の基礎 |
| 第4回 | キーボード上の3度音程と和音、コードネーム |
| 第5回 | 音程の基礎・判断、記譜の練習 |
| 第6回 | 長音階の構造から長調の調号へ |
| 第7回 | 長調の調号、様々な音程、長音階と音程のまとめ |
| 第8回 | 平行調の理解、短調の調号、短音階 |
| 第9回 | 五度円の理解と使い方、近親調 |
| 第10回 | 調号の復習、移調の基礎 |
| 第11回 | 管弦楽の楽器、移調楽器の概念 |
| 第12回 | コードネームの利用、移調奏の基礎 |
| 第13回 | 三和音と七の和音、属七の和音の重要性 |
| 第14回 | 授業のまとめ 練習問題の実施 |
| 第15回 | 練習問題の解説 各種の楽譜を題材にこれまでの復習、応用の可能性 |
- 定期試験

【授業時間外の学習】

授業用のメモ・ワークシートの他に、毎時練習課題を配布します。その内容は授業の復習であると共に次時への基礎・予習も含んでいるので必ず完成して(2時間)持参してください。
また、毎日目にするピアノの楽譜の中に学習した内容を発見することも大切です。疑問点を明らかにすることを目指して自ら(練習課題を参考に)問題を作ることをもう一つの課題とします。(2時間)
そういう取り組みを通して、これまでより楽譜に注目して音楽を聴く習慣をつけることを心がけてください。

【成績の評価】

筆記試験70%、講義・演習(学習シート)への取り組み30%
学習シート内の課題や練習課題は次回の授業時に解説、自作の問題についてはその都度チェックします。
。定期試験の模範解答と解説は、試験終了後に配布します。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

菊池有恒著 『楽典 音楽家を志す人のための』音楽之友社
幡野友香著 『かんたん楽譜の読み方』成美堂出版
春畑セロリ・向井大策共著 『イチから知りたい楽典の教科書』西東社

科目名： < ONGA3 > 声楽

担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解する中で「音楽」は重要な要素の一分野である。「声」という最も身近で個性的かつ魅力的な楽器の使用法(発声法)を中心に学び、教育・保育の現場で子どもに対して魅力的な範唱ができるよう、専門的な技能を体得する。また子どもとの豊かな音楽活動を実現できるよう歌唱レパートリーを充実させる。

【到達目標】

- ・ 息の流れを習得することができる。
- ・ 音域を広げることができる。
- ・ 声を明瞭にすることができる。
- ・ 童謡、唱歌、日本の抒情歌をそれぞれ歌うことができる。(1曲ずつ)

【授業計画】

| | | | |
|------|-----------|----------------|----------|
| 第1回 | オリエンテーション | | |
| 第2回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番1~3、 | 春の童謡 |
| 第3回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番4~6、 | 春の唱歌 |
| 第4回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番7~9、 | 夏の童謡 |
| 第5回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番10~12、 | 夏の唱歌 |
| 第6回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番13~15、 | 秋の童謡 |
| 第7回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番16~18、 | 秋の唱歌 |
| 第8回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番19~21、 | 冬の童謡 |
| 第9回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番22~24、 | 冬の唱歌 |
| 第10回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番25~27、 | 日本の抒情歌 |
| 第11回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番28~30、 | 日本の抒情歌 |
| 第12回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番31~33、 | イタリア古典歌曲 |
| 第13回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番34~36、 | イタリア古典歌曲 |
| 第14回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番世界の名曲 | |
| 第15回 | 呼吸法と発声練習 | 各クラスにて発表演奏 | |

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

呼吸法と発声練習(音読を含む)を毎日約30分繰り返し練習をし、歌詞の音読は特に丁寧に心掛けて欲しい。

指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。

【成績の評価】

指定された楽曲に取り組むことができること。歌の楽しさ美しさを表現していること。楽曲に取り組む態度等を加味して評価し、単位を認定する。

当日発表演奏 90% 課題への取り組み方 10%

実技の発表、課題への取り組み方ともに授業内でその都度講評を行う他、オフィス・アワー等授業時間外にも個別の質問や相談に応じる。

最終回は全員でクラス発表を行い、感想を述べあう。問題点がある場合は再度練習をしてより高い完成度を目指す。

【使用テキスト】

『コンコーネ50番』(畑中良輔 編)(全音楽譜出版社)

『こどものうた大集合210』(坂田おさむ 編)(ソットーミュージック出版 2012年)

『日本の名歌集1・2』(音楽之友社 編)(音楽之友社 2010年)

『イタリア古典歌曲集』(畑中良輔 編)(全音楽譜出版社)

【参考文献】

『美しい発声法』(D.P.マクロスキー著、高山教子 訳)(音楽之友社 2002年)

科目名： < ONGA3 > 声楽

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

声楽経験者も初心者も受講できる少人数制で個別指導を含む授業である。基本的な無理のない発声練習を行いながら、情感豊かな表現力に富んだ声で童謡や唱歌、日本の抒情歌を中心に演奏する。又声楽の基本であるイタリア古典歌曲や世界の名曲にも取り組みたい。「声」という最も身近な楽器の使用法を学び、教育・保育の現場で子どもに対して魅力的な範唱ができるよう、専門的な技能を体得する。また子どもとの豊かな音楽活動を実現できるよう歌唱レパートリーを充実させる。

【到達目標】

- ・息の流れを習得することができる。
- ・音域を広げることができる。
- ・声を明瞭にすることができる。
- ・童謡、唱歌、日本の抒情歌をそれぞれ歌うことができる。(1曲ずつ)

【授業計画】

| | | | |
|------|-----------|----------------|----------|
| 第1回 | オリエンテーション | | |
| 第2回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番1~3、 | 春の童謡 |
| 第3回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番4~6、 | 春の唱歌 |
| 第4回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番7~9、 | 夏の童謡 |
| 第5回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番10~12、 | 夏の唱歌 |
| 第6回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番13~15、 | 秋の童謡 |
| 第7回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番16~18、 | 秋の唱歌 |
| 第8回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番19~21、 | 冬の童謡 |
| 第9回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番22~24、 | 冬の唱歌 |
| 第10回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番25~27、 | 日本の抒情歌 |
| 第11回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番28~30、 | 日本の抒情歌 |
| 第12回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番31~33、 | イタリア古典歌曲 |
| 第13回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番34~36、 | イタリア古典歌曲 |
| 第14回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番世界の名曲 | |
| 第15回 | 呼吸法と発声練習 | 各クラスにて発表演奏 | |

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

呼吸法と発声練習を毎日繰り返し練習をし、歌詞の音読に特に時間を掛けて欲しい。指定された曲の予習、また復習を授業1回に対して1時間以上行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。

【成績の評価】

指定された楽曲に取り組むことができること。歌の楽しさ美しさを表現していること。楽曲に取り組む態度等を加味して評価し、単位を認定する。
当日発表演奏90% 課題への取り組み方10%
クラス発表後全員で感想を述べあう。
実技の発表、課題への取り組み方ともに授業内でその都度講評を行う他、オフィス・アワー等授業時間外にも個別の質問や相談に応じる。

【使用テキスト】

- 『コンコーネ50番』(畑中良輔 編)(全音楽譜出版社)
- 『こどものうた大集合210』(坂田おさむ 編)(ソットーミュージック出版 2012年)
- 『日本の名歌集1・2』(音楽之友社 編)(音楽之友社 2010年)
- 『イタリア古典歌曲集』(畑中良輔 編)(全音楽譜出版社)

【参考文献】

- 『美しい発声法』(D.P.マクロスキー著、高山教子 訳)(音楽之友社 2002年)

科目名： <ONGA4> 合唱

担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae), 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解する中で「音楽」は重要な要素の一分野である。「声」は最も身近で个性的かつ魅力的な楽器である。受講者全員が其々の声を響かせ、心をつなげて歌い上げる合唱は、子どもの豊かな心や創造力を導き出す為に、高い使命感・倫理観を醸成し、教育・保育に必要な実践力を体現することができる。受講者全員の声を聴きそれぞれの声に合ったパート分けをし、二部、三部、四部合唱等を楽しむことができるようにします。女声合唱、男声合唱、混声合唱等各種の合唱の魅力味わい、人の声の素晴らしさを体験し、曲目については、日本の名曲、世界の名曲、童謡等から選び外国の曲は原語で演奏する。バロックから現代まで幅広く選曲します。

【到達目標】

- ・各自のパートをしっかりと歌うことができる。
- ・合唱になっても他のパートにつられない様に歌うことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション6曲の合唱曲発表。パート分け
- 第2回 発声練習、楽曲解説、パート練習
- 第3回 発声練習、パート練習 春の曲、夏の曲
- 第4回 発声練習、パート練習 秋の曲、冬の曲
- 第5回 発声練習、パート練習 春の曲、夏の曲
- 第6回 発声練習、パート練習 秋の曲、冬の曲
- 第7回 発声練習、パート練習、全体練習 春の曲、夏の曲
- 第8回 発声練習、パート練習、全体練習 秋の曲、冬の曲
- 第9回 発声練習、パート練習、全体練習 春の曲、夏の曲
- 第10回 発声練習、パート練習、全体練習 秋の曲、冬の曲
- 第11回 発声練習、全体練習、パート練習 春、夏、秋の曲、3曲
- 第12回 発声練習、全体練習、パート練習 夏、秋、冬の曲、3曲
- 第13回 発声練習、全体練習、パート練習 春、冬、を中心に完成度の低い曲
- 第14回 発声練習、全体練習、パート練習 全6曲
- 第15回 発声練習、全体練習、その後公開演奏、総合的なまとめ
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

まず、テキストの音読と各自のパートの譜読みに毎日少しずつ、週に1時間以上時間を十分かけて欲しい。テキストの内容の解釈に努めてほしい。

【成績の評価】

各自の個性を大切にしつつ全体のハーモニーの事を考え、楽曲の理解や演奏内容を考慮して評価し、単位を認定する。

公開演奏90% 課題への取り組み方10%

最終授業時に、広い会場で演奏して音楽の美しさ・楽しさを感じ取ること。録音をして完成度確かめ各パート問題箇所は続いてオータムコンサートに向けて更に練習すること。

【使用テキスト】

- 『コンコーネ50番』（畑中良輔編）（全音楽譜出版社）
- 『各種合唱名曲集』等

【参考文献】

- 『声とことばのトレーニング』（加藤友康）桐書房出版（1998年）

科目名： < ONGA5 > 合奏

担当教員： 金川 公久(KANAGAWA Hirohisa)

【授業の紹介】

中学・高校の吹奏楽部などで器楽演奏を経験した者及び個人的に習ったことのある者が、管打楽器を使用して合奏を行う授業です。

指導者による合奏を通し、演奏上の様々な問題点についての支援方法を体験することにより、将来、子どもたちをより良い環境に導くための実践的能力を養うことで教育に係る資質を身に付け、学部をめざす教育者像をめざします。

【到達目標】

1. 演奏技術及び合奏技術の向上を図ることができる。
2. 集団での演奏活動を通して、積極性、協調性、社会性、集中力や感性を養うことができる。
3. 将来、子どもたちを指導するためのポイントのつかみ方を学ぶことができる。

【授業計画】

| | |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲「J-BEST～平成メガコレクション」 |
| 第3回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲「J-BEST～平成メガコレクション」 |
| 第4回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲「J-BEST～平成メガコレクション」 |
| 第5回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲「J-BEST～平成メガコレクション」 |
| 第6回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲「J-BEST～平成メガコレクション」 |
| 第7回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲「J-BEST～平成メガコレクション」 |
| 第8回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲「J-BEST～平成メガコレクション」 |
| 第9回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲「J-BEST～平成メガコレクション」 |
| 第10回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲（曲目未定） |
| 第11回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲（曲目未定） |
| 第12回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲（曲目未定） |
| 第13回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲（曲目未定） |
| 第14回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲（曲目未定） |
| 第15回 | 基礎合奏及び最近のヒット曲（曲目未定） |

定期試験は行わない

【授業時間外の学習】

楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日30分以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。

【成績の評価】

平常の授業への取り組む姿勢40%、個人的指導に対する応える能力40%、演奏行事（オープンキャンパス）への参加20%

演奏内容について、合奏する合間で、常に講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

全体的な演奏の技量に応じて、楽譜などを配布します。

【参考文献】

JBCバンドスタディ（ヤマハ楽譜出版）

3Dハンドブック（ヤマハ楽譜出版）

科目名： < ONGA6 > 音楽 -

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu), 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

小学校音楽科の授業、また音楽に関連した特別活動の指導上必要な専門的知識と実践的能力を身に付けられるよう以下の項目を中心に学ぶ。

- ・ピアノを中心とした鍵盤楽器の演奏技能。
- ・授業展開に必要な音楽理論。
- ・小学校音楽科で扱われる種々の楽器の取り扱いと演奏技術。
- ・歌唱共通教材を中心に、八、二、へ、ト、変口長調の階名唱。
- ・簡単な合奏と、4分の2、4分の3、4分の4、8分の6拍子の指揮法。

また自ら継続的に学ぶ能力を養うために、毎週系統的な課題に臨み、安定した学びの習慣を確立する。

【到達目標】

- 1 児童教育現場で、授業を円滑に行うために必要な歌唱および器楽の演奏技術と音楽理論を修得できる。
- 2 曲想と音楽の構造との関わりについて理解して演奏することができる。
- 3 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うことができる。
- 4 小学校教諭にとって音楽に関する必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識を教育の実践と関連づけて理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、ピアノ演奏技術の進捗調査（自由曲の演奏）、楽譜の説明
 - 第2回：ピアノ奏法（1）、八長調、イ短調音階、八長調の階名唱、I度の三和音
 - 第3回：ピアノ奏法（2）、ト長調、ホ短調音階、ト長調の階名唱、V度の三和音
 - 第4回：ピアノ奏法（3）、ニ長調、ロ短調音階、ニ長調階名唱、IV度の三和音
 - 第5回：ピアノ奏法（4）、ヘ長調、二短調音階、ヘ長調の階名唱、V7の和音
 - 第6回：ピアノ奏法（5）、変口長調、ト短調音階、変口長調の階名唱、和音の転回、
 - 第7回：ピアノ奏法（6）、基本的な伴奏法
 - 第8回：ピアノ奏法（7）、簡単なコード（C,F,G,G7）による伴奏法
 - 第9回：歌唱共通教材を使用した歌唱法
 - 第10回：歌唱共通教材のピアノ弾き歌い
 - 第11回：リコーダー奏法
 - 第12回：鍵盤ハーモニカ奏法
 - 第13回：さまざまな打楽器の奏法、ボディ・パーカッションと音楽遊び
 - 第14回：4分の2、あるいは4分の4拍子の合奏曲と指揮法
 - 第15回：4分の3および8分の6拍子の合奏曲と指揮法
- 定期試験：筆記試験、実技試験（ピアノ弾き歌い）

【授業時間外の学習】

学習用ワークシートを宿題とする。理論的な課題に沿って適宜指定された実技練習を行い、毎週合わせて120分以上を目安とする。実技練習に関しては、学習成果を把握できるようワークシート上にチェック項目を記すこととする。

【成績の評価】

定期試験-筆記（20%）、定期試験-実技（50%）、予習・復習と授業に取り組む姿勢（30%）
実技の試験や発表に対する評価は個別に説明を行う。筆記試験や提出物は採点、添削の上返却する。

【使用テキスト】

小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠
（平成30年2月発行、初等科音楽教育研究会 編、音楽之友社）

【参考文献】

小学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年6月 文部科学省）

科目名： < ONGA6 > 音楽 -

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu), 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

小学校音楽科の授業、また音楽に関連した特別活動の指導上必要な専門的知識と実践的能力を身に付けられるよう、音楽I-IIに引き続き、以下の項目を中心に学ぶ。

- ・ピアノを中心とした鍵盤楽器の演奏技能。
- ・授業展開に必要な音楽理論。
- ・小学校音楽科で扱われる種々の楽器の取り扱いと演奏技術。
- ・階名唱の反復練習、簡単な弾き歌い、および2部合唱。
- ・出来るだけ多くの楽器の体験。
- ・(既存の合奏譜に加える形で)打楽器パートのリズム譜の作成とその演奏。

また自ら継続的に学ぶ能力を養うために、毎週系統的な課題に臨み、安定した学びの習慣を確立する。

【到達目標】

- 1 児童教育現場で、授業を円滑に行うために必要な歌唱および器楽の演奏技術と音楽理論を修得できる。
- 2 曲想と音楽の構造との関わりについて理解して演奏することができる。
- 3 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うことができる。
- 4 小学校教諭にとって音楽に関する必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識を教育の実践と関連づけて理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期の復習
 - 第2回：ピアノ奏法(1)拍子の確認
 - 第3回：ピアノ奏法(2)音価の確認
 - 第4回：ピアノ奏法(3)I/IV/V/V7の和音の確認
 - 第5回：ピアノ奏法(4)和音の転回の確認
 - 第6回：ピアノ奏法(5)コード(C,F,G,G7)の確認
 - 第7回：弾き歌い(1)低学年の曲から
 - 第8回：弾き歌い(2)中学年の曲から
 - 第9回：合唱(1)さまざまな練習法、パート練習
 - 第10回：合唱(2)全体練習、留意点の確認
 - 第11回：合唱(3)発表、ふり返り
 - 第12回：合奏(1)リズム譜の作成
 - 第13回：合奏(2)さまざまな練習法、パート練習
 - 第14回：合奏(3)全体練習、留意点の確認
 - 第15回：合奏(4)発表、ふり返り
- 定期試験：筆記試験、実技試験(ピアノ弾き歌い)

【授業時間外の学習】

学習用ワークシートを宿題とする。理論的な課題に沿って適宜指定された実技練習を行い、毎週合わせて120分以上を目安とする。実技練習に関しては学習成果を把握できるようワークシート上にチェック項目を記すこととする。

【成績の評価】

定期試験-筆記(20%)、定期試験-実技(50%)、予習・復習と授業に取り組む姿勢(30%)
実技の試験や発表に対する評価は個別に説明を行う。筆記試験や提出物は採点、添削の上返却する。

【使用テキスト】

小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠
(平成30年2月発行、初等科音楽教育研究会 編、音楽之友社)

【参考文献】

小学校学習指導要領解説 音楽編(平成29年6月 文部科学省)

科目名： <ONGA8> 音楽 - 【発A】
担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

子どもの音楽教育に関する科目です。
幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。
この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル80番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。
また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

1. 音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
2. 教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
3. ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
4. 他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
5. 保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション（受講者各自のピアノ演奏能力を調査し、教則本を選定・楽曲を選ぶ。ピアノ既修者は、各自の使用楽譜を持参する。）
第2回 実技指導 バイエル 8番～17番
第3回 実技指導 バイエル18番～27番
第4回 実技指導 バイエル28番～37番
第5回 実技指導 バイエル38番～47番
第6回 実技指導 バイエル48番～57番
第7回 実技指導 バイエル58番～69番
第8回 実技指導 バイエル70番～80番
前期末実技試験の課題曲発表
第9回 課題曲を中心に実技指導（この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせて、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。）
第10回 課題曲を中心に実技指導
第11回 課題曲を中心に実技指導
第12回 課題曲を中心に実技指導
第13回 課題曲を中心に実技指導
第14回 課題曲を中心に実技指導（各クラスにおいて課題の発表演奏）
第15回 課題曲を中心に実技指導（クラス間合同発表演奏）
定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。
特に、初心者は楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。
また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

前期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。
当日の実技発表演奏90%、課題への取り組み方10%で評価する。
発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』
『ツェルニー100番・30番教則本』
『ブルグミュラー25番練習曲集』
『ソナチネアルバム第1巻』
『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： < ONGA8 > 音楽 - 【 発 A 】

担当教員： 酒井 信(SAKAI Makoto)

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育園・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル80番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

たとえ初心者であっても、将来、保育園・幼稚園・小学校等の教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲が弾けるように、基礎的、尚且つ的確なピアノ演奏技術の習得を目標とします。

既にピアノ演奏技術の習得が、進んでいる者については、各種コンサート等、他の人に聴かせる演奏ができるよう、より高度な楽曲に取り組むことも目標とします。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、受講者各自のピアノ演奏能力を調査し、教則本を選定・楽曲を選ぶ(ピアノ既修者は、各自の使用楽譜を持参する。)

第2回 実技指導 バイエル 8番～17番

第3回 実技指導 バイエル18番～27番

第4回 実技指導 バイエル28番～37番

第5回 実技指導 バイエル38番～47番

第6回 実技指導 バイエル48番～57番

第7回 実技指導 バイエル58番～69番

第8回 実技指導 バイエル70番～80番

前期末実技試験の課題曲発表

第9回 この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。

第10回 課題曲を中心に実技指導

第11回 課題曲を中心に実技指導

第12回 課題曲を中心に実技指導

第13回 課題曲を中心に実技指導

第14回 課題曲を中心に実技指導 、各クラスにおいて課題の発表演奏

第15回 課題曲を中心に実技指導 、クラス間合同発表演奏

定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者は楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

前期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日、実技発表演奏90%、課題への取り組み方10%、

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA8> 音楽 - 【発A】

担当教員： 日野 朝代(HINO Tomoyo)

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育園・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル80番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

たとえ初心者であっても、将来、保育園・幼稚園・小学校等の教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲が弾けるように、基礎的、尚且つ的確なピアノ演奏技術の習得を目標とします。

既にピアノ演奏技術の習得が、進んでいる者については、各種コンサート等、他の人に聴かせる演奏ができるよう、より高度な楽曲に取り組むことも目標とします。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、受講者各自のピアノ演奏能力を調査し、教則本を選定・楽曲を選ぶ(ピアノ既修者は、各自の使用楽譜を持参する)。

第2回 実技指導 バイエル 8番～17番

第3回 実技指導 バイエル18番～27番

第4回 実技指導 バイエル28番～37番

第5回 実技指導 バイエル38番～47番

第6回 実技指導 バイエル48番～57番

第7回 実技指導 バイエル58番～69番

第8回 実技指導 バイエル70番～80番

前期末実技試験の課題曲発表

第9回 この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。

第10回 課題曲を中心に実技指導

第11回 課題曲を中心に実技指導

第12回 課題曲を中心に実技指導

第13回 課題曲を中心に実技指導

第14回 課題曲を中心に実技指導 、各クラスにおいて課題の発表演奏

第15回 課題曲を中心に実技指導 、クラス間合同発表演奏

定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者は楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

前期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日、実技発表演奏90%、課題への取り組み方10%、

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： < ONGA8 > 音楽 - 【 発 A 】

担当教員： 徳山 眞矢(TOKUYAMA Maya)

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育園・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル80番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

たとえ初心者であっても、将来、保育園・幼稚園・小学校等の教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲が弾けるように、基礎的、尚且つ的確なピアノ演奏技術の習得を目標とします。

既にピアノ演奏技術の習得が、進んでいる者については、各種コンサート等、他の人に聴かせる演奏ができるよう、より高度な楽曲に取り組むことも目標とします。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、受講者各自のピアノ演奏能力を調査し、教則本を選定・楽曲を選ぶ(ピアノ既修者は、各自の使用楽譜を持参する。

第2回 実技指導 バイエル 8番～17番

第3回 実技指導 バイエル18番～27番

第4回 実技指導 バイエル28番～37番

第5回 実技指導 バイエル38番～47番

第6回 実技指導 バイエル48番～57番

第7回 実技指導 バイエル58番～69番

第8回 実技指導 バイエル70番～80番

前期末実技試験の課題曲発表

第9回 この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。

第10回 課題曲を中心に実技指導

第11回 課題曲を中心に実技指導

第12回 課題曲を中心に実技指導

第13回 課題曲を中心に実技指導

第14回 課題曲を中心に実技指導 、各クラスにおいて課題の発表演奏

第15回 課題曲を中心に実技指導 、クラス間合同発表演奏

定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者は楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

前期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日、実技発表演奏90%、課題への取り組み方10%、

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA8> 音楽 - 【発A】
担当教員： 出木浦 さゆり(DEKIURA Sayuri)

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育園・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル80番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

たとえ初心者であっても、将来、保育園・幼稚園・小学校等の教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲が弾けるように、基礎的、尚且つ的確なピアノ演奏技術の習得を目標とします。

既にピアノ演奏技術の習得が、進んでいる者については、各種コンサート等、他の人に聴かせる演奏ができるよう、より高度な楽曲に取り組むことも目標とします。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、受講者各自のピアノ演奏能力を調査し、教則本を選定・楽曲を選ぶ(ピアノ既修者は、各自の使用楽譜を持参する)。

第2回 実技指導 バイエル 8番～17番

第3回 実技指導 バイエル18番～27番

第4回 実技指導 バイエル28番～37番

第5回 実技指導 バイエル38番～47番

第6回 実技指導 バイエル48番～57番

第7回 実技指導 バイエル58番～69番

第8回 実技指導 バイエル70番～80番

前期末実技試験の課題曲発表

第9回 この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。

第10回 課題曲を中心に実技指導

第11回 課題曲を中心に実技指導

第12回 課題曲を中心に実技指導

第13回 課題曲を中心に実技指導

第14回 課題曲を中心に実技指導 、各クラスにおいて課題の発表演奏

第15回 課題曲を中心に実技指導 、クラス間合同発表演奏

定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者は楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

前期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日、実技発表演奏90%、課題への取り組み方10%、

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： < ONGA8 > 音楽 - 【発B】
担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育園・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル80番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

たとえ初心者であっても、将来、保育園・幼稚園・小学校等の教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲が弾けるように、基礎的、尚且つ的確なピアノ演奏技術の習得を目標とします。

既にピアノ演奏技術の習得が、進んでいる者については、各種コンサート等、他の人に聴かせる演奏ができるよう、より高度な楽曲に取り組むことも目標とします。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、受講者各自のピアノ演奏能力を調査し、教則本を選定・楽曲を選ぶ(ピアノ既修者は、各自の使用楽譜を持参する)。

第2回 実技指導 バイエル 8番～17番

第3回 実技指導 バイエル18番～27番

第4回 実技指導 バイエル28番～37番

第5回 実技指導 バイエル38番～47番

第6回 実技指導 バイエル48番～57番

第7回 実技指導 バイエル58番～69番

第8回 実技指導 バイエル70番～80番

前期末実技試験の課題曲発表

第9回 この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。

第10回 課題曲を中心に実技指導

第11回 課題曲を中心に実技指導

第12回 課題曲を中心に実技指導

第13回 課題曲を中心に実技指導

第14回 課題曲を中心に実技指導 、各クラスにおいて課題の発表演奏

第15回 課題曲を中心に実技指導 、クラス間合同発表演奏

定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者は楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

前期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日、実技発表演奏90%、課題への取り組み方10%、

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】

- 全音楽譜出版社『バイエル教則本』
- 『ツェルニー100番・30番教則本』
- 『ブルグミュラー25番練習曲集』
- 『ソナチネアルバム第1巻』
- 『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： < ONGA8 > 音楽 - 【発B】

担当教員： 酒井 信(SAKAI Makoto)

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育園・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル80番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

たとえ初心者であっても、将来、保育園・幼稚園・小学校等の教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲が弾けるように、基礎的、尚且つ的確なピアノ演奏技術の習得を目標とします。

既にピアノ演奏技術の習得が、進んでいる者については、各種コンサート等、他の人に聴かせる演奏ができるよう、より高度な楽曲に取り組むことも目標とします。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、受講者各自のピアノ演奏能力を調査し、教則本を選定・楽曲を選ぶ(ピアノ既修者は、各自の使用楽譜を持参する)。

第2回 実技指導 バイエル 8番～17番

第3回 実技指導 バイエル18番～27番

第4回 実技指導 バイエル28番～37番

第5回 実技指導 バイエル38番～47番

第6回 実技指導 バイエル48番～57番

第7回 実技指導 バイエル58番～69番

第8回 実技指導 バイエル70番～80番

前期末実技試験の課題曲発表

第9回 この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。

第10回 課題曲を中心に実技指導

第11回 課題曲を中心に実技指導

第12回 課題曲を中心に実技指導

第13回 課題曲を中心に実技指導

第14回 課題曲を中心に実技指導 、各クラスにおいて課題の発表演奏

第15回 課題曲を中心に実技指導 、クラス間合同発表演奏

定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者は楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

前期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日、実技発表演奏90%、課題への取り組み方10%、

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA8> 音楽 - 【発B】

担当教員： 日野 朝代(HINO Tomoyo)

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育園・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル80番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

たとえ初心者であっても、将来、保育園・幼稚園・小学校等の教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲が弾けるように、基礎的、尚且つ的確なピアノ演奏技術の習得を目標とします。

既にピアノ演奏技術の習得が、進んでいる者については、各種コンサート等、他の人に聴かせる演奏ができるよう、より高度な楽曲に取り組むことも目標とします。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、受講者各自のピアノ演奏能力を調査し、教則本を選定・楽曲を選ぶ(ピアノ既修者は、各自の使用楽譜を持参する)。

第2回 実技指導 バイエル 8番～17番

第3回 実技指導 バイエル18番～27番

第4回 実技指導 バイエル28番～37番

第5回 実技指導 バイエル38番～47番

第6回 実技指導 バイエル48番～57番

第7回 実技指導 バイエル58番～69番

第8回 実技指導 バイエル70番～80番

前期末実技試験の課題曲発表

第9回 この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。

第10回 課題曲を中心に実技指導

第11回 課題曲を中心に実技指導

第12回 課題曲を中心に実技指導

第13回 課題曲を中心に実技指導

第14回 課題曲を中心に実技指導 、各クラスにおいて課題の発表演奏

第15回 課題曲を中心に実技指導 、クラス間合同発表演奏

定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者は楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

前期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日、実技発表演奏90%、課題への取り組み方10%、

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： < ONGA8 > 音楽 - 【 発 B 】

担当教員： 渡辺 磨奈 (WATANABE Mana)

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育園・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル80番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

たとえ初心者であっても、将来、保育園・幼稚園・小学校等の教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲が弾けるように、基礎的、尚且つ的確なピアノ演奏技術の習得を目標とします。

既にピアノ演奏技術の習得が、進んでいる者については、各種コンサート等、他の人に聴かせる演奏ができるよう、より高度な楽曲に取り組むことも目標とします。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、受講者各自のピアノ演奏能力を調査し、教則本を選定・楽曲を選ぶ(ピアノ既修者は、各自の使用楽譜を持参する)。

第2回 実技指導 バイエル 8番～17番

第3回 実技指導 バイエル 18番～27番

第4回 実技指導 バイエル 28番～37番

第5回 実技指導 バイエル 38番～47番

第6回 実技指導 バイエル 48番～57番

第7回 実技指導 バイエル 58番～69番

第8回 実技指導 バイエル 70番～80番

前期末実技試験の課題曲発表

第9回 この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。

第10回 課題曲を中心に実技指導

第11回 課題曲を中心に実技指導

第12回 課題曲を中心に実技指導

第13回 課題曲を中心に実技指導

第14回 課題曲を中心に実技指導 、各クラスにおいて課題の発表演奏

第15回 課題曲を中心に実技指導 、クラス間合同発表演奏

定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者は楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

前期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日、実技発表演奏90%、課題への取り組み方10%、

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA8> 音楽 - 【発B】

担当教員： 出木浦 さゆり(DEKIURA Sayuri)

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で、音楽が果たす役割は大きく、保育園・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、個人の能力に応じて、教則本を選定し、大学入学後にピアノを始めた初心者については、バイエル80番終了を目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指すと共に、基本的な音符・休符や音楽記号・音楽用語についても学びます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

たとえ初心者であっても、将来、保育園・幼稚園・小学校等の教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲が弾けるように、基礎的、尚且つ的確なピアノ演奏技術の習得を目標とします。

既にピアノ演奏技術の習得が、進んでいる者については、各種コンサート等、他の人に聴かせる演奏ができるよう、より高度な楽曲に取り組むことも目標とします。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、受講者各自のピアノ演奏能力を調査し、教則本を選定・楽曲を選ぶ(ピアノ既修者は、各自の使用楽譜を持参する)。

第2回 実技指導 バイエル 8番～17番

第3回 実技指導 バイエル18番～27番

第4回 実技指導 バイエル28番～37番

第5回 実技指導 バイエル38番～47番

第6回 実技指導 バイエル48番～57番

第7回 実技指導 バイエル58番～69番

第8回 実技指導 バイエル70番～80番

前期末実技試験の課題曲発表

第9回 この回以降は、前期末実技試験課題曲の中から各自の能力・希望に合わせ、楽曲を選定し、その曲を中心に実技指導を行う。

第10回 課題曲を中心に実技指導

第11回 課題曲を中心に実技指導

第12回 課題曲を中心に実技指導

第13回 課題曲を中心に実技指導

第14回 課題曲を中心に実技指導 、各クラスにおいて課題の発表演奏

第15回 課題曲を中心に実技指導 、クラス間合同発表演奏

定期試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者は楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

前期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日、実技発表演奏90%、課題への取り組み方10%、

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて、気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA9> 音楽 - 【発A】
担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

子どもの音楽教育に関する科目です。
幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育所・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、音楽 - に引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー100番・30番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。ピアノ演奏技術を向上させることにより、日常的な音楽活動をスムーズに行う力、どのようなピアノ伴奏にも対応できる力をつけることができます。また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

1. 音楽表現のための基礎的な知識を身につけることができる。
2. 教育現場で、無理なく、その場に合わせた楽曲を弾くことができる。
3. ピアノの基礎的な技能を生かし、幼児・児童の音楽教育に展開させることができる。
4. 他者の演奏を聴くことで、より豊かな音楽表現につなげていくことができる。
5. 保育・教育に携わる者としての高い使命感を持ち、音楽の実践力を身につけることを目指す。

【授業計画】

| | |
|------|---------------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション（各自のピアノ演奏能力を再調査し、教則本・楽曲を選ぶ。） |
| 第2回 | 実技指導 バイエル81番～83番 |
| 第3回 | 実技指導 バイエル84番～86番 |
| 第4回 | 実技指導 バイエル87番～91番 |
| 第5回 | 実技指導 バイエル92番～94番 |
| 第6回 | 実技指導 バイエル95番～97番 |
| 第7回 | 実技指導 バイエル98番～100番 |
| 第8回 | 実技指導 バイエル101番～103番 |
| 第9回 | 実技指導 バイエル104番～106番（後期末実技試験の課題曲発表） |
| 第10回 | 課題曲を中心に実技指導 |
| 第11回 | 課題曲を中心に実技指導 |
| 第12回 | 課題曲を中心に実技指導 |
| 第13回 | 課題曲を中心に実技指導 |
| 第14回 | 課題曲を中心に実技指導（各クラスにおいて課題の発表演奏） |
| 第15回 | 課題曲を中心に実技指導（クラス間合同発表演奏） |
| | 実技試験 |

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。
特に、初心者には、楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。
また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

後期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。
当日の実技発表演奏90%、課題曲への取り組み方10%で評価する。
発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』
『ツェルニー100番・30番 教則本』
『ブルグミュラー25番練習曲集』
『ソナチネアルバム第1巻』
『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： < ONGA9 > 音楽 - 【 発 A 】

担当教員： 酒井 信(SAKAI Makoto)

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育園・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、音楽 - に引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー100番・30番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

音楽 - に引き続き、将来無理なく保育現場・教育現場で、その場に合わせた楽曲が弾けるように、基礎的、尚且つ的確なピアノ演奏技術の習得を目標とします。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、各自のピアノ演奏能力を再調査し、教則本・楽曲を選ぶ。

第2回 実技指導 バイエル81番～83番

第3回 実技指導 バイエル84番～86番

第4回 実技指導 バイエル87番～91番

第5回 実技指導 バイエル92番～94番

第6回 実技指導 バイエル95番～97番

第7回 実技指導 バイエル98番～100番

第8回 実技指導 バイエル101番～103番

第9回 実技指導 バイエル104番～106番、後期末実技試験の課題曲発表

第10回 課題曲を中心に実技指導

第11回 課題曲を中心に実技指導

第12回 課題曲を中心に実技指導

第13回 課題曲を中心に実技指導

第14回 課題曲を中心に実技指導、各クラスにおいて課題の発表演奏

第15回 課題曲を中心に実技指導、クラス間合同発表演奏

実技試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者には、楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

後期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日、実技発表演奏90%、課題曲への取り組み方10%

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番 教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA9> 音楽 - 【発A】

担当教員： 日野 朝代(HINO Tomoyo)

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育園・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、音楽 - に引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー100番・30番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

音楽 - に引き続き、将来無理なく保育現場・教育現場で、その場に合わせた楽曲が弾けるように、基礎的、尚且つ的確なピアノ演奏技術の習得を目標とします。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、各自のピアノ演奏能力を再調査し、教則本・楽曲を選ぶ。

第2回 実技指導 バイエル81番～83番

第3回 実技指導 バイエル84番～86番

第4回 実技指導 バイエル87番～91番

第5回 実技指導 バイエル92番～94番

第6回 実技指導 バイエル95番～97番

第7回 実技指導 バイエル98番～100番

第8回 実技指導 バイエル101番～103番

第9回 実技指導 バイエル104番～106番、後期末実技試験の課題曲発表

第10回 課題曲を中心に実技指導

第11回 課題曲を中心に実技指導

第12回 課題曲を中心に実技指導

第13回 課題曲を中心に実技指導

第14回 課題曲を中心に実技指導、各クラスにおいて課題の発表演奏

第15回 課題曲を中心に実技指導、クラス間合同発表演奏

実技試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者には、楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

後期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日、実技発表演奏90%、課題曲への取り組み方10%

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番 教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： < ONGA9 > 音楽 - 【 発 A 】

担当教員： 徳山 眞矢(TOKUYAMA Maya)

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育園・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、音楽 - に引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー100番・30番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

音楽 - に引き続き、将来無理なく保育現場・教育現場で、その場に合わせた楽曲が弾けるように、基礎的、尚且つ的確なピアノ演奏技術の習得を目標とします。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、各自のピアノ演奏能力を再調査し、教則本・楽曲を選ぶ。

第2回 実技指導 バイエル81番～83番

第3回 実技指導 バイエル84番～86番

第4回 実技指導 バイエル87番～91番

第5回 実技指導 バイエル92番～94番

第6回 実技指導 バイエル95番～97番

第7回 実技指導 バイエル98番～100番

第8回 実技指導 バイエル101番～103番

第9回 実技指導 バイエル104番～106番、後期末実技試験の課題曲発表

第10回 課題曲を中心に実技指導

第11回 課題曲を中心に実技指導

第12回 課題曲を中心に実技指導

第13回 課題曲を中心に実技指導

第14回 課題曲を中心に実技指導、各クラスにおいて課題の発表演奏

第15回 課題曲を中心に実技指導、クラス間合同発表演奏

実技試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者には、楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

後期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日、実技発表演奏90%、課題曲への取り組み方10%

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番 教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA9> 音楽 - 【発A】

担当教員： 出木浦 さゆり(DEKIURA Sayuri)

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育園・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、音楽 - に引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー100番・30番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

音楽 - に引き続き、将来無理なく保育現場・教育現場で、その場に合わせた楽曲が弾けるように、基礎的、尚且つ的確なピアノ演奏技術の習得を目標とします。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、各自のピアノ演奏能力を再調査し、教則本・楽曲を選ぶ。

第2回 実技指導 バイエル81番～83番

第3回 実技指導 バイエル84番～86番

第4回 実技指導 バイエル87番～91番

第5回 実技指導 バイエル92番～94番

第6回 実技指導 バイエル95番～97番

第7回 実技指導 バイエル98番～100番

第8回 実技指導 バイエル101番～103番

第9回 実技指導 バイエル104番～106番、後期末実技試験の課題曲発表

第10回 課題曲を中心に実技指導

第11回 課題曲を中心に実技指導

第12回 課題曲を中心に実技指導

第13回 課題曲を中心に実技指導

第14回 課題曲を中心に実技指導、各クラスにおいて課題の発表演奏

第15回 課題曲を中心に実技指導、クラス間合同発表演奏

実技試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者には、楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

後期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日、実技発表演奏90%、課題曲への取り組み方10%

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番 教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA9> 音楽 - 【発B】
担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育園・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、音楽 - に引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー100番・30番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

音楽 - に引き続き、将来無理なく保育現場・教育現場で、その場に合わせた楽曲が弾けるように、基礎的、尚且つ的確なピアノ演奏技術の習得を目標とします。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション、各自のピアノ演奏能力を再調査し、教則本・楽曲を選ぶ。
- 第2回 実技指導 バイエル81番～83番
- 第3回 実技指導 バイエル84番～86番
- 第4回 実技指導 バイエル87番～91番
- 第5回 実技指導 バイエル92番～94番
- 第6回 実技指導 バイエル95番～97番
- 第7回 実技指導 バイエル98番～100番
- 第8回 実技指導 バイエル101番～103番
- 第9回 実技指導 バイエル104番～106番、後期末実技試験の課題曲発表
- 第10回 課題曲を中心に実技指導
- 第11回 課題曲を中心に実技指導
- 第12回 課題曲を中心に実技指導
- 第13回 課題曲を中心に実技指導
- 第14回 課題曲を中心に実技指導、各クラスにおいて課題の発表演奏
- 第15回 課題曲を中心に実技指導、クラス間合同発表演奏
実技試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者には、楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

後期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日、実技発表演奏90%、課題曲への取り組み方10%

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】

- 全音楽譜出版社『バイエル教則本』
- 『ツェルニー100番・30番 教則本』
- 『ブルグミュラー25番練習曲集』
- 『ソナチネアルバム第1巻』
- 『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA9> 音楽 - 【発B】

担当教員： 酒井 信(SAKAI Makoto)

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育園・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、音楽 - に引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー100番・30番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

音楽 - に引き続き、将来無理なく保育現場・教育現場で、その場に合わせた楽曲が弾けるように、基礎的、尚且つ的確なピアノ演奏技術の習得を目標とします。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、各自のピアノ演奏能力を再調査し、教則本・楽曲を選ぶ。

第2回 実技指導 バイエル81番～83番

第3回 実技指導 バイエル84番～86番

第4回 実技指導 バイエル87番～91番

第5回 実技指導 バイエル92番～94番

第6回 実技指導 バイエル95番～97番

第7回 実技指導 バイエル98番～100番

第8回 実技指導 バイエル101番～103番

第9回 実技指導 バイエル104番～106番、後期末実技試験の課題曲発表

第10回 課題曲を中心に実技指導

第11回 課題曲を中心に実技指導

第12回 課題曲を中心に実技指導

第13回 課題曲を中心に実技指導

第14回 課題曲を中心に実技指導、各クラスにおいて課題の発表演奏

第15回 課題曲を中心に実技指導、クラス間合同発表演奏

実技試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者には、楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

後期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日、実技発表演奏90%、課題曲への取り組み方10%

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番 教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA9> 音楽 - 【発B】

担当教員： 日野 朝代(HINO Tomoyo)

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育園・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、音楽 - に引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー100番・30番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

音楽 - に引き続き、将来無理なく保育現場・教育現場で、その場に合わせた楽曲が弾けるように、基礎的、尚且つ的確なピアノ演奏技術の習得を目標とします。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、各自のピアノ演奏能力を再調査し、教則本・楽曲を選ぶ。

第2回 実技指導 バイエル81番～83番

第3回 実技指導 バイエル84番～86番

第4回 実技指導 バイエル87番～91番

第5回 実技指導 バイエル92番～94番

第6回 実技指導 バイエル95番～97番

第7回 実技指導 バイエル98番～100番

第8回 実技指導 バイエル101番～103番

第9回 実技指導 バイエル104番～106番、後期末実技試験の課題曲発表

第10回 課題曲を中心に実技指導

第11回 課題曲を中心に実技指導

第12回 課題曲を中心に実技指導

第13回 課題曲を中心に実技指導

第14回 課題曲を中心に実技指導、各クラスにおいて課題の発表演奏

第15回 課題曲を中心に実技指導、クラス間合同発表演奏

実技試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者には、楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

後期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日、実技発表演奏90%、課題曲への取り組み方10%

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番 教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA9> 音楽 - 【発B】

担当教員： 渡辺 磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育園・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、音楽 - に引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー100番・30番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

音楽 - に引き続き、将来無理なく保育現場・教育現場で、その場に合わせた楽曲が弾けるように、基礎的、尚且つ的確なピアノ演奏技術の習得を目標とします。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、各自のピアノ演奏能力を再調査し、教則本・楽曲を選ぶ。

第2回 実技指導 バイエル81番～83番

第3回 実技指導 バイエル84番～86番

第4回 実技指導 バイエル87番～91番

第5回 実技指導 バイエル92番～94番

第6回 実技指導 バイエル95番～97番

第7回 実技指導 バイエル98番～100番

第8回 実技指導 バイエル101番～103番

第9回 実技指導 バイエル104番～106番、後期末実技試験の課題曲発表

第10回 課題曲を中心に実技指導

第11回 課題曲を中心に実技指導

第12回 課題曲を中心に実技指導

第13回 課題曲を中心に実技指導

第14回 課題曲を中心に実技指導、各クラスにおいて課題の発表演奏

第15回 課題曲を中心に実技指導、クラス間合同発表演奏

実技試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者には、楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

後期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日、実技発表演奏90%、課題曲への取り組み方10%

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番 教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA9> 音楽 - 【発B】

担当教員： 出木浦 さゆり(DEKIURA Sayuri)

【授業の紹介】

幼児・初等教育の中で、音楽の果たす役割は、大変大きく、保育園・幼稚園・小学校において、音楽は生活の一部として取り入れられています。そのため、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になろうとする者にとって、音楽技術の習得は、必要不可欠です。

この授業では、音楽 - に引き続き、個人の能力に応じて教則本を選定し、バイエルが終了まで弾けるようになることを目標として、ピアノ演奏技術の向上を目指します。バイエルが終了している学生は、ツェルニー100番・30番、ブルグミュラー、ソナチネ等に進み、より高度な演奏技術を身につけると共に、基本的な音符・休符・音楽記号・用語等も学びます。

また、他学生の演奏を聴くことにより、各自の音楽表現をより豊かなものにします。

【到達目標】

音楽 - に引き続き、将来無理なく保育現場・教育現場で、その場に合わせた楽曲が弾けるように、基礎的、尚且つ的確なピアノ演奏技術の習得を目標とします。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション、各自のピアノ演奏能力を再調査し、教則本・楽曲を選ぶ。

第2回 実技指導 バイエル81番～83番

第3回 実技指導 バイエル84番～86番

第4回 実技指導 バイエル87番～91番

第5回 実技指導 バイエル92番～94番

第6回 実技指導 バイエル95番～97番

第7回 実技指導 バイエル98番～100番

第8回 実技指導 バイエル101番～103番

第9回 実技指導 バイエル104番～106番、後期末実技試験の課題曲発表

第10回 課題曲を中心に実技指導

第11回 課題曲を中心に実技指導

第12回 課題曲を中心に実技指導

第13回 課題曲を中心に実技指導

第14回 課題曲を中心に実技指導、各クラスにおいて課題の発表演奏

第15回 課題曲を中心に実技指導、クラス間合同発表演奏

実技試験

【授業時間外の学習】

授業中の教員からの指導点、注意点などは、楽譜上に書き留めておき、それに気を付けながら、毎日、必ず30分以上はピアノに向かい、練習すること。

特に、初心者には、楽譜になれ、読譜力を付けられるように、毎日、努力することが、大切である。

また、練習時には、録音を行い、自らの演奏をチェックしながら、演奏技術の向上を目指す。

【成績の評価】

後期終了時に、実技演奏発表を行い、担当教員6名で、曲の難易度も考慮し、音楽的な完成度を評価する。

当日、実技発表演奏90%、課題曲への取り組み方10%

発表演奏後、担当教員より、各自に、演奏を聴いて気付いた点、評価などを伝え、今後の勉強の為に、役立てるようにする。

【使用テキスト】

全音楽譜出版社『バイエル教則本』

『ツェルニー100番・30番 教則本』

『ブルグミュラー25番練習曲集』

『ソナチネアルバム第1巻』

『ソナタアルバム』 その他

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA10> 音楽 - 【弦楽器】

担当教員： 福崎 至佐子(FUKUZAKI Hisako)

【授業の紹介】

この授業は3年生前期に行います。

打楽器(小太鼓・大太鼓・カスタネット・スネア・タンバリン・すず・トライアングル)・音板楽器(木琴・鉄琴)・ピアノ・管楽器(リコーダー)等を用いて、簡単な重奏や合奏にした楽曲・クラシックの名曲を演奏し、基本的な指揮(アインザッツ・表現方法)を学びます。

【到達目標】

学生が幅広く数多くの楽器の基礎演奏法を身に付けることができる。

将来保育士・幼稚園・小学校等の教諭となるための音楽の基礎知識(楽典)を理解し、自らも豊かな感性を磨き、後世に音楽の素晴らしさを伝えることができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション(合奏について)

第2回 楽器の扱い方(手入れの仕方)

第3回 エルガー作曲 行進曲「威風堂々」第1番を演奏、強弱記号、速度記号について理解を深める

第4回 モーツァルト作曲 アイネクライネナハトムジークを演奏、総譜(スコア)の読み方に慣れる

第5回 ブラムス作曲 ハンガリアン舞曲5番を演奏、強弱記号、反復記号をマスターする

第6回 バッハ作曲 G線上のアリアを演奏、緩やかなリズムの取り方、美しい音の出し方を学ぶ

第7回 メンデルスゾーン作曲 歌の翼にを演奏、細かい音符をはっきり出す奏法を学ぶ

第8回 ヴィヴァルディ作曲 四季より「春」を演奏、はぎれ良い音の出し方を研究

第9回 ヨハン・シュトラウス2世作曲「青く美しきドナウ」を演奏、ワルツのリズム感(3拍子)を会得する

第10回 ヨハン・シュトラウス1世 デラッキー行進曲を演奏、打楽器の基礎奏法と明確な音の出し方を研究する

第11回~第15回

毎回、すべての曲を演奏し、お互いに指揮をしながら強弱、テンポ設定を声に出せるようになることをめざします

すべての回で全員に2拍子、3拍子、4拍子、8分の6拍子の指揮ができるように指導します

定期試験

【授業時間外の学習】

復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。1日1時間以上の復習を心がけましょう。授業で勉強している曲・作曲者の多方面の曲をDVD、CDなどで常に聞くようにしましょう。

【成績の評価】

平常の授業への取り組みを重視し、期末試験も含め総合的に評価します。

期末試験点 80%

平常点 20%

また、発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

こどもの器楽合奏大全集 クラシック1
クラシック2

株式会社デプロ(2007年発行)

【参考文献】

音楽科の基礎練習

パウル・ヒンデミット著 坂本良隆/千蔵八郎 英訳

音楽之友(昭和63年発行)

科目名： < ONGA10 > 音楽 - 【管楽器】
担当教員： 金川 公久(KANAGAWA Hirohisa)

【授業の紹介】

中学・高校の吹奏楽部などで器楽演奏を経験した者及び個人的に習ったことのある管打楽器を使用して合奏を行う授業です。
指導者と学生がコミュニケーションをとりながら授業（合奏）を進め、その場に応じた支援方法を体験することにより、将来子供たちを指導するためのポイントをつかむことで教育に係る資質を身に付け、学部のため教育者像をめざします。

【到達目標】

1. 演奏技術及び合奏技術の向上を図ることができる。
2. 集団での演奏活動を通して、積極性、協調性、社会性、集中力や感性を養うことができる。
3. 将来子供たちを指導するためのポイントのつかみ方を学ぶことができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション
第2回 基礎合奏及び吹奏楽オリジナル作品 1
第3回 基礎合奏及び吹奏楽オリジナル作品 1
第4回 基礎合奏及び吹奏楽オリジナル作品 1
第5回 基礎合奏及び吹奏楽オリジナル作品 1
第6回 基礎合奏及び吹奏楽オリジナル作品 1
第7回 基礎合奏及びスクリーン・ミュージック等
第8回 基礎合奏及びスクリーン・ミュージック等
第9回 基礎合奏及びスクリーン・ミュージック等
第10回 基礎合奏及びスクリーン・ミュージック等
第11回 基礎合奏及び吹奏楽オリジナル作品 2
第12回 基礎合奏及び吹奏楽オリジナル作品 2
第13回 基礎合奏及び吹奏楽オリジナル作品 2
第14回 基礎合奏及び吹奏楽オリジナル作品 2
第15回 基礎合奏及び吹奏楽オリジナル作品 2
定期試験は行わない

【授業時間外の学習】

楽器の演奏技術の習熟には、個人練習が不可欠です。毎日30分間以上楽器に触れて、練習を重ね、個人的技術向上に努めましょう。

【成績の評価】

平常の授業への取り組む姿勢40%、個人的指導に対する応える能力40%、演奏行事（オープンキャンパス）への参加20%。演奏内容について、合奏する合間で、常に講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

全体的な演奏の技量に応じて、楽譜などを配布します。

【参考文献】

JBCバンドスタディ（ヤマハ楽譜出版）
3Dハンドブック（ヤマハ楽譜出版）

科目名： <ONGA10> 音楽 - 【電子オルガン】

担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

電子オルガンの授業です。教育・保育現場における音楽活動に必要な知識や演奏技術を楽曲を通して学び、自主的に音楽表現を行えるように、個人レッスン形式で演奏指導を行います。電子オルガンの経験は問いません。初心者・経験者それぞれに合わせて選曲し進めていきますので心配ありません。電子オルガン用の3段譜とコードネーム付き1段譜の両方を学習することにより、教育・保育の場で、より実践的な力が身に付きます。

【到達目標】

1. 両手・両足を使って、いろいろなリズムの曲の演奏技術を習得する
 2. コードネームを見て、その曲に適切な伴奏をつける能力を身につける
 3. 日常的な子どもの活動に合わせて、その場にふさわしい音楽をつけることができる
- 器楽[鍵盤]から引き続いて履修する学生は、より高度な楽曲が弾けるようになることを目指すとともに、自分でレジストを選択したり、現場に対応した簡単な編曲ができるようになることも目指す。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション(各自のピアノ演奏能力・電子オルガン演奏能力を調査し、楽曲を選定する)
- 第2回 ジャズを弾く ゴスペル(アメイジング・グレイス)、マイレパートリー を弾く
- 第3回 ジャズを弾く デキシーランドジャズ(聖者の行進)、マイレパートリー を弾く
- 第4回 ジャズを弾く チャールストン(5匹のこぶたとチャールストン)、マイレパートリー を弾く
- 第5回 8ビートを弾く ライトステップ(サザエさん)、マイレパートリー を弾く
- 第6回 8ビートを弾く サニーポップ(となりのトトロ)、マイレパートリー を弾く
- 第7回 マーチを弾く キッズマーチ1(小さな世界)、マイレパートリー を弾く
- 第8回 マーチを弾く キッズマーチ2(ビビディ・バビディ・ブー)、マイレパートリー を弾く
- 第9回 ワルツを弾く ベーシックワルツ(うみ)、マイレパートリー を弾く
- 第10回 ワルツを弾く スノーワルツ1(ふるさと)、マイレパートリー を弾く
- 第11回 クリスマス曲を弾く スノーワルツ2(牧人ひつじを)、マイレパートリー を弾く
- 第12回 クリスマス曲を弾く ウィンターシング(サンタが街にやってくる)、マイレパートリー を弾く
- 第13回 ラテンのリズムを弾く コミカルルンバ(とんでったバナナ)、マイレパートリー を弾く
- 第14回 ラテンのリズムを弾く シーカーニバル(ハクナ・マタタ)、実技テストに弾く曲の復習
- 第15回 ラテンのリズムを弾く ポップチャチャ(さらばジャマイカ)、実技テストに弾く曲の復習
- 定期試験

【授業時間外の学習】

楽器演奏には、日々の練習が欠かせません。また、練習しないと授業そのものが成り立ちません。授業時に指摘した問題点を1週間の練習によって改善してください。毎日10分でも15分でも、楽器の前に座って練習することで楽器に慣れ、楽器と仲良くなることで技術の向上も早くなります。

また、積極的にコンサートなどの学校行事に参加して、発表の機会も増やすよう努力しましょう。

【成績の評価】

定期試験(70%)による評価とともに、授業に取り組む姿勢(30%)なども加味して評価します。定期試験は、「両手・両足を使って弾ける」「ゆっくりでもリズムに合わせて弾ける」「指示されたテンポでプログラムに合わせて弾ける」「強弱もつけて音楽的に仕上げられている」の4段階を基準に採点します。

授業においては、楽曲の演奏について、指摘した問題点を次の授業に、また、定期試験においては、試験終了後に演奏のフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- こどものうた 稲葉夕佳他著(2003年ヤマハミュージックメディア)
- スタジオジブリ作品集1 上野みゆき他著(2005年ヤマハミュージックメディア)
- ディズニー映画ベストソングセレクション 岩崎孝昭他著(2005年ヤマハミュージックメディア)他

【参考文献】

- STAGEAレジストレーションメニューで弾くベストメロディーズ165
- STAGEAレジストレーションメニューで弾くベストメロディーズ165 Vol.2
- 尾野力オル他著(2004年ヤマハミュージックメディア)

科目名： <ONGA10> 音楽 - 【ピアノ】

担当教員： 酒井 信(SAKAI Makoto)

【授業の紹介】

ピアノの授業です。教育、保育の現場における音楽活動に必要な知識を、楽曲を通して学び、自主的に音楽表現を行えるように、個人レッスンで指導をします。

ソナチネ以上の演奏技術を有する学生対象の授業で、ソナチネ程度以上の楽曲から任意の一曲を選び、仕上げていきます。その中で演奏技術、音楽性を高めます。

【到達目標】

より高度な楽曲に取り組むことで高い技術の習得を、また、その作品の作曲家について学び、楽曲の簡単な分析を行い解釈できることをめざす。

【授業計画】

| | |
|------|-----------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーションおよび楽曲の決定 |
| 第2回 | 各自のレベルに応じた個人指導（～第13回） |
| 第3回 | 譜読み指導 作品全体について説明 |
| 第4回 | ” 運指、装飾音など奏法に関すること |
| 第5回 | ” 調性、臨時記号（楽曲に応じて） |
| 第6回 | 技術指導 ペダル |
| 第7回 | ” 難しい箇所のリズム練習 |
| 第8回 | ” タッチの練習、音のバランス |
| 第9回 | 作品の背景 作曲家について |
| 第10回 | ” 作曲年代、時代背景 |
| 第11回 | 作品の構成 形式、フレーズ、和声構造 |
| 第12回 | 暗譜を通して弾く、解釈について |
| 第13回 | テンポ、リズム等の調整 |
| 第14回 | 実技テストに向けて～リハーサル |
| 第15回 | まとめ（受講生同士で演奏を聴き合い、お互いに意見・感想を交換する） |

定期試験

【授業時間外の学習】

譜読みのための練習（30分以上）と、授業時に指摘した問題点を克服するための練習（30分以上）を毎日行ってください。

【成績の評価】

定期試験（90％）による評価とともに、授業に取り組む姿勢（10％）なども加味して評価します。

授業においては、楽曲の演奏について指摘した問題点を、次回の授業にて、また定期試験においては、試験終了後に演奏のフィードバックを行います。

【使用テキスト】

ソナチネアルバム以上のレベルの曲集

【参考文献】

なし

科目名： <ONGA11> 音楽 - 【声楽】
担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解する中で「音楽」は重要な要素の一分野である。「声」という最も身近で個性的かつ魅力的な楽器の使用法(発声法)を中心に学び、教育・保育の現場で子どもに対して魅力的な範唱ができるよう、専門的な技能を体得する。また子どもとの豊かな音楽活動を実現できるよう歌唱レパートリーを充実させる。

【到達目標】

- ・息の流れを習得することができる。
- ・音域を広げることができる。
- ・声を明瞭にすることができる。
- ・童謡、唱歌、日本の抒情歌をそれぞれ歌うことができる。(1曲ずつ)

【授業計画】

| | | | |
|------|-----------|----------------|----------|
| 第1回 | オリエンテーション | | |
| 第2回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番1~3、 | 春の童謡 |
| 第3回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番4~6、 | 春の唱歌 |
| 第4回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番7~9、 | 夏の童謡 |
| 第5回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番10~12、 | 夏の唱歌 |
| 第6回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番13~15、 | 秋の童謡 |
| 第7回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番16~18、 | 秋の唱歌 |
| 第8回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番19~21、 | 冬の童謡 |
| 第9回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番22~24、 | 冬の唱歌 |
| 第10回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番25~27、 | 日本の抒情歌 |
| 第11回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番28~30、 | 日本の抒情歌 |
| 第12回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番31~33、 | イタリア古典歌曲 |
| 第13回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番34~36、 | イタリア古典歌曲 |
| 第14回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番世界の名曲 | |
| 第15回 | 呼吸法と発声練習 | 各クラスにて発表演奏 | |

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

呼吸法と発声練習(音読を含む)を毎日約30分繰り返し練習をし、歌詞の音読は特に丁寧に心掛けて欲しい。
指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。

【成績の評価】

指定された楽曲に取り組むことができること。歌の楽しさ美しさを表現していること。楽曲に取り組む態度等を加味して評価し、単位を認定する。
当日発表演奏90% 課題への取り組み方10%
実技の発表、課題への取り組み方ともに授業内でその都度講評を行う他、オフィス・アワー等授業時間外にも個別の質問や相談に応じる。
最終回は全員でクラス発表を行い、感想を述べあう。問題点がある場合は、再度練習をしてより高い完成度をめざす。

【使用テキスト】

- 『コンコーネ50番』(畑中良輔 編)(全音楽譜出版社)
- 『こどものうた大集合210』(坂田おさむ 編)(ソットーミュージック出版 2012年)
- 『日本の名歌集1・2』(音楽之友社 編)(音楽之友社 2010年)
- 『イタリア古典歌曲集』(畑中良輔 編)(全音楽譜出版社)

【参考文献】

- 『美しい発声法』(D.P.マクロスキー著、高山教子 訳)(音楽之友社 2002年)

科目名： <ONGA11> 音楽 - 【声楽】

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

声楽経験者も初心者も受講できる少人数制で個別指導を含む授業である。基本的な無理のない発声練習を行いながら、情感豊かな表現力に富んだ声で童謡や唱歌、日本の抒情歌を中心に演奏する。又声楽の基本であるイタリア古典歌曲や世界の名曲にも取り組みたい。「声」という最も身近な楽器の使用法を学び、教育・保育の現場で子どもに対して魅力的な範唱ができるよう、専門的な技能を体得する。また子どもとの豊かな音楽活動を実現できるよう歌唱レパートリーを充実させる。

【到達目標】

- ・息の流れを習得することができる。
- ・音域を広げることができる。
- ・声を明瞭にすることができる。
- ・童謡、唱歌、日本の抒情歌をそれぞれ歌うことができる。（1曲ずつ）

【授業計画】

| | | | |
|------|-----------|----------------|----------|
| 第1回 | オリエンテーション | | |
| 第2回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番1~3、 | 春の童謡 |
| 第3回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番4~6、 | 春の唱歌 |
| 第4回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番7~9、 | 夏の童謡 |
| 第5回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番10~12、 | 夏の唱歌 |
| 第6回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番13~15、 | 秋の童謡 |
| 第7回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番16~18、 | 秋の唱歌 |
| 第8回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番19~21、 | 冬の童謡 |
| 第9回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番22~24、 | 冬の唱歌 |
| 第10回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番25~27、 | 日本の抒情歌 |
| 第11回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番28~30、 | 日本の抒情歌 |
| 第12回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番31~33、 | イタリア古典歌曲 |
| 第13回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番34~36、 | イタリア古典歌曲 |
| 第14回 | 呼吸法と発声練習 | コンコーネ50番世界の名曲 | |
| 第15回 | 呼吸法と発声練習 | 各クラスにて発表演奏 | |

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

呼吸法と発声練習を毎日繰り返し練習をし、歌詞の音読に特に時間を掛けて欲しい。
指定された曲の予習、また復習を行う。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時に指導を受けること。

【成績の評価】

指定された楽曲に取り組むことができること。歌の楽しさ美しさを表現していること。楽曲に取り組む態度等を加味して評価し、単位を認定する。
当日発表演奏90% 課題への取り組み方10%
クラス発表後全員で感想を述べあう。
実技の発表、課題への取り組み方ともに授業内でその都度講評を行う他、オフィス・アワー等授業時間外にも個別の質問や相談に応じる。

【使用テキスト】

- 『コンコーネ50番』（畑中良輔 編）（全音楽譜出版社）
- 『こどものうた大集合210』（坂田おさむ 編）（ソットーミュージック出版 2012年）
- 『日本の名歌集1・2』（音楽之友社 編）（音楽之友社 2010年）
- 『イタリア古典歌曲集』（畑中良輔 編）（全音楽譜出版社）

【参考文献】

- 『美しい発声法』（D.P.マクロスキー著、高山教子 訳）（音楽之友社 2002年）

科目名： < ONGA12 > 保育内容 - 表現
担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

子どもの育ちを支えるために必要な教育・保育の一環として音楽的表現活動を指導するために必要な専門的知識、技能および実践力を修得する。幼稚園教育要領の示す領域「表現」のうち音楽に関わる内容を理解し、種々の音楽的表現と指導法を学ぶ。グループワークによる課題を通して各々の自由な発想を呼び起こし、豊かに創造する力と園児に伝える力を育成する。またほぼ毎回行う発表や模擬授業を通して保育者としての実践力を高めると同時に、観察および評価の力を養う。保育現場において専門性を持つ人材と協働し子どもとの音楽活動に十分に対応できる幅広い音楽知識を修得する。

【到達目標】

1. 領域「表現」のねらいと内容を理解できる。
2. 保育者に問われる基礎的な音楽能力と身体表現力（楽しんで発表できる力）を身に付ける。
3. 子どもの発達に合わせた保育内容の計画と実践、および適切な評価ができる。
4. レパートリーの習得（15曲）に加え、自由な発想による振付が短時間でできる。
5. 子どもに寄り添う音楽を理解し、堅実な実践力により彼らの豊かな音楽経験をサポートできる。
6. 音楽に関わる指導場面を具体的に想定し保育を構想することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション（授業の進め方）、幼稚園教育要領の領域「表現」、音楽表現の芽生えと発達、他領域との関連
- 第2回：手遊び歌・体遊び歌（1）「季節の歌」
- 第3回：手遊び歌・体遊び歌（2）「園生活の歌」
- 第4回：手遊び歌・体遊び歌（3）「人気のダンス」
- 第5回：わらべ歌、遊びと表現、音楽を伴ったさまざまな遊び、遊びの創作
- 第6回：リズム遊び「ボディー・パーカッション」「簡単なクラッピング・ミュージック」
- 第7回：リトミック「さまざまなリズムを聴きとり、反応する」「さまざまな音の表情を聴き取り、反応する」「リズムカード」ICT機器の活用
- 第8回：音楽表現における教材選び、指導案の作成
- 第9回：トーンチャイムを使ったさまざまな音楽活動
- 第10回：簡単な楽器を使った合奏（鍵盤楽器、打楽器、トーンチャイム等）
- 第11回：指導案に沿った模擬保育とその振り返り
- 第12回：簡単な音楽劇の制作についてのオリエンテーション（素材や手法の説明、計画の立て方、表現指導上の留意点、援助のあり方）ICT機器の活用
- 第13回：音楽劇の準備・練習（1）（小道具の製作、楽器伴奏、振り付け）
- 第14回：音楽劇の準備・練習（2）（総合的な練習）
- 第15回：音楽劇の発表会、振り返り、評価の考え方
- 定期試験

【授業時間外の学習】

指定された曲の予習、また復習を週に最低1時間以上行う。課題曲は必ず歌詞を覚える。楽典上の不明点、技術上の難点を楽譜上に書き留め、授業時またはオフィスアワーに指導を受けること。

【成績の評価】

定期試験（35%）、授業における発表（35%）、課題に取り組む姿勢・提出物（30%）
定期試験については採点基準を説明する。授業における発表に対してはその都度コメントを与える。
提出物は添削し、返却する。

【使用テキスト】

本廣明実・加藤照恵著 「幼稚園・保育園のうた/ピアノ伴奏曲集」ドレミ楽譜出版社

【参考文献】

幼稚園教育要領（2017年 厚生労働省）

科目名： < ONGA13 > 子ども音楽療育概論

担当教員： 栗田 京子(KURITA Kyoko)

【授業の紹介】

子どもの発達には子どもによって様々です。発達曲線に沿って伸びていく子どももいれば、どこかに歪みを持った子どももいます。そこで、生きにくい要素を持った子どもたちに音楽を通して援助できる方法を模索する授業です。子どもを支援していく上で、ノンバーバルで関われるのが音楽です。その音楽の持っている特性や力を音楽療法という分野からの観点で学習します。支援学級のみならず、通常学級でも生かせる知識と技術です。2年次までに学習した発達心理学を復習しながら、様々な生きにくい子ども達に音楽での具体的援助方法を学習します。

【到達目標】

- ・障害のある子ども達に音楽を使う時に必要な基礎や専門知識を習得することができる。
- ・音楽の持つ特性を熟知し、心身の発達過程と音楽の関わりを学習し、将来関わっていくであろう様々な子どもたちへのかかわり方の一つとして、より豊かな知識と技術を習得することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション(授業目標及び授業の概要の確認)
 - 第2回 音楽の機能と音楽の効果について
 - 第3回 発達障害について復習(2年次までの障害児研究を検証する)
 - 第4回 個人・集団での療育の違い
 - 第5回 音楽で関わった時の子どもの変化を観る(先行文献の研究)
 - 第6回 療育における目標設定の立て方
 - 第7回 感覚統合と音楽療育との関係
 - 第8回 コミュニケーションを育てるプログラム検証1
 - 第9回 コミュニケーションを育てるプログラム検証2
 - 第10回 重度重複障害児への音楽療育とは
 - 第11回 養護学校における音楽療育とは
 - 第12回 学校教育における音楽療育とは
 - 第13回 音楽療育に使える楽曲紹介及び実技1
 - 第14回 音楽療育に使える楽曲紹介及び実技2
 - 第15回 まとめ(音楽療育の意義を確認する)
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- 予習として、前時に提示する課題について、指定教科書および配布資料で調べたことをノート等にまとめておくこと(毎週2時間)
- 復習として、授業中のキーワードについて調べてノートにまとめておくこと(毎週2時間)

【成績の評価】

- 定期試験 (50%)
授業態度 (50%)
採点基準を説明することでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

- 二俣 泉 著「音楽で育てよう」(春秋社、2011年)
必要な資料はその都度配布する

【参考文献】

- クライブ・ロビンズ 著『音楽する人間』(春秋社、2007年)

科目名： <ONGA14> 子ども音楽療育演習

担当教員： 栗田 京子(KURITA Kyoko)

【授業の紹介】

障害を持った子ども達と関わる現場は、障害の区分や形態(個人・集団)の違いがあります。それぞれの現場に対応できる音楽の使い方をシュミレーションしながら学習します。子ども音楽療育概論で学習した理論を踏まえ、音楽の効果を実践に使えるように目標設定・プランの立て方・技術を体得していきます。

【到達目標】

- ・障害のある子ども及び通常発達児を対象とした音楽療育の方法を、具体的に楽器や音楽の使い方を学習することで、自在に音楽を使うことができる。
- ・目標設定やプランを立てることで実践に向かって、より効果的な音楽の使い方が習得できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション(授業目標および本授業の到達目標を示唆する)
 - 第2回 音楽療育に使う楽器紹介および楽器の効果的使い方
 - 第3回 コードネームの理解
 - 第4回 コード進行および簡単な伴奏法の学習
 - 第5回 視覚刺激の作成
 - 第6回 活動目標のたてかた(アセスメントの方法および目標設定)
 - 第7回 視覚刺激の発表(各自が作成した視覚刺激作品の活用例の発表)
 - 第8回 絵本に音楽をつける(音楽の効果的な使い方を習得)
 - 第9回 活動の展開方法の検証
 - 第10回 プラン作成方法(目標・セッションの流れ・準備物など)
 - 第11回 プラン作成
 - 第12回 模擬セッション(各自が立てたプランの実施)
 - 第13回 模擬セッション(各自が立てたプランの実施)
 - 第14回 記録書の書き方及び模擬セッションの記録書作成
 - 第15回 まとめ(授業で習得した技術の確認)
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

予習として、事前に提示された課題・・視覚刺激の作成・オリジナルソングの作成・活動プランの作成・記録書の作成等を提出期限までに作成して提出のこと(各課題3時間)
復習として、作成、提出したものについて、プレゼンテーションできるように、準備する(各課題2時間)

【成績の評価】

提出物 (50%)
授業程度 (30%)
パフォーマンス (20%)
提出物およびパフォーマンスに対してその都度アドバイスをする。

【使用テキスト】

二俣 泉 著 『音楽で育てよう』(春秋社、2011年)

【参考文献】

生野 里花 著 『静かな森の大きな木』(春秋社、2001年)

科目名： <ONGA15> 子ども音楽療育実習

担当教員： 栗田 京子(KURITA Kyoko)

【授業の紹介】

3年次までに習得した知識及び技術を現場で検証する授業である。机上の空論ではなく、直接子どもたちに音楽を使って支援できることを考え、実施する。毎時スーパーバイザーのもと実習後フィードバックし、検証しながら授業を進める。指定された施設での実習となるので、施設の職員さんをはじめ、他業種の人たちとのコミュニケーションも欠かせない要素となる。実践の場を経験することで、卒業後の仕事に役立つ授業とする。

【到達目標】

- ・対象となる子どもたちの困り感を軽減するプランの作成・実践・記録ができる。
- ・子どもたちの支援となる方法を模索、検証することができる。

【授業計画】

第1回 学内オリエンテーション
第2回 施設オリエンテーション
第3回 実習1
第4回 実習2
第5回 実習3
第6回 実習4
第7回 実習5
第8回 実習6
第9回 実習7
第10回 実習8
第11回 実習9
第12回 実習10
第13回 実習11
第14回 実習12
第15回 まとめ(実習の結果・反省)
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

実習の準備のためプランの作成・記録を準備する。(20時間)
仔細はオリエンテーション時に渡す要綱に沿って実習の準備をする。(20時間)

【成績の評価】

プランの作成(40%)
パフォーマンス(30%)
記録書等の提出物(30%)
プラン・記録書等、毎時の提出物については添削し返却する。パフォーマンスは、実習後の時間に反省会を持ち討論を行うことでフィードバックする。

【使用テキスト】

二俣泉著 「音楽で育てよう」(春秋社2011年)

【参考文献】

なし

科目名： < ONGA2 > 器楽【電子オルガン】

担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

電子オルガンの授業です。教育・保育現場における音楽活動に必要な知識や演奏技術を楽曲を通して学び、自主的に音楽表現を行えるように、個人レッスン形式で演奏指導を行います。こども音楽療育士の資格取得に関する科目です。電子オルガンの経験は問いません。初心者・経験者それぞれに合わせて選曲し進めていきますので心配ありません。電子オルガン用の3段楽譜とコードネーム付き1段譜の両方を学習することにより、教育・保育の現場での、より実践的な力が身に付きます。

【到達目標】

1. 両手・両足を使って、いろいろなリズムの曲の演奏技術を習得する。
2. コードネームを見て、その曲に適切な伴奏をつける能力を身につける。
3. 日常的な子ども活動に合わせて、その場にふさわしい音楽をつけることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（各自のピアノ演奏能力、電子オルガン演奏能力を調査し、楽曲を選定する。電子オルガンの基本的操作の練習をする。）
- 第2回 ジャズを弾く クラリネットスイング（茶色的小びん）、マイレパートリー を弾く
- 第3回 ジャズを弾く デキシードジャズ（わらの中の七面鳥）、マイレパートリー を弾く
- 第4回 ジャズを弾く チャールストン（森のくまさん）、マイレパートリー を弾く
- 第5回 8ビートを弾く シンプル8ビート1（キラキラ星）、マイレパートリー を弾く
- 第6回 8ビートを弾く シンプル8ビート2（オーラリー）、マイレパートリー を弾く
- 第7回 マーチを弾く キッズマーチ1（1年生になったら）、マイレパートリー を弾く
- 第8回 マーチを弾く キッズマーチ2（さんぽ）、マイレパートリー を弾く
- 第9回 ワルツを弾く ピュアワルツ（エーデルワイス）、マイレパートリー を弾く
- 第10回 クリスマス曲を弾く スノーワルツ1（きよしこの夜）、マイレパートリー を弾く
- 第11回 クリスマス曲を弾く スノーワルツ2（おめでとうクリスマス）、マイレパートリー を弾く
- 第12回 クリスマス曲を弾く ウィンタースイング（ジングルベル）、マイレパートリー を弾く
- 第13回 ラテンのリズムを弾く コミカルルンバ（南の島のハメハメハ大王）、マイレパートリー を弾く
- 第14回 ラテンのリズムを弾く コミカルサンバ（アイアイ）、実技テストに弾く曲の復習
- 第15回 ラテンのリズムを弾く ポップチャチャ（おもちゃのチャチャチャ）、実技テストに弾く曲の復習
- 定期試験

【授業時間外の学習】

楽器演奏には、日々の練習が欠かせません。また練習しないと授業そのものが成り立ちません。授業時に指摘した問題点を1週間の練習によって改善してください。

毎日10分でも15分でも、楽器の前に座って練習することで、楽器に慣れ、楽器と仲良くなることで技術の向上も早くなります。

【成績の評価】

定期試験（70%）による評価とともに、授業に取り組む姿勢（30%）なども加味して評価します。

定期試験は、「両手・両足を使って弾ける」、「ゆっくりでもリズムに合わせて弾ける」、「指示されたテンポでプログラムに合わせて弾ける」、「強弱もつけて音楽的に仕上げられている」の4段階を基準に採点します。

授業においては、楽曲の演奏について、指摘した問題点を次の授業に、また定期試験においては、試験終了後に演奏のフィードバックを行います。

【使用テキスト】

こどものうた 稲葉夕佳他著（2003年ヤマハミュージックメディア）

スタジオジブリ作品集1 上野みゆき他著（2005年ヤマハミュージックメディア）

ディズニー映画ベストソングセレクション 岩崎孝昭他著（2005年ヤマハミュージックメディア）等

【参考文献】

STAGEAレジストレーションメニューで弾くベストメロディーズ165

STAGEAレジストレーションメニューで弾くベストメロディーズ165 Vol.2

尾野カオル他著（2004年ヤマハミュージックメディア）

科目名： <ONGA2> 器楽【ピアノ】
担当教員： 酒井 信(SAKAI Makoto)

【授業の紹介】

ピアノの授業です。教育、保育の現場における音楽活動に必要な知識を、楽曲を通して学び、自主的に音楽表現を行えるように、個人レッスンで指導をします。こども音楽療育士の資格取得に関する科目です。

ソナチネ以上の演奏技術を有する学生対象の授業で、ソナチネ程度以上の楽曲から任意の一曲を選び、仕上げていきます。その中で演奏技術、音楽性を高めます。

【到達目標】

より高度な楽曲ー西洋クラシックを中心としたピアノ音楽に取り組むことで高い技術の習得を、また、作品の背景についても学び、高度な音楽性の習得をめざす。

【授業計画】

| | |
|------|-----------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーションおよび楽曲の決定 |
| 第2回 | 各自のレベルに応じた個人指導（～第13回） |
| 第3回 | 譜読み指導 作品全体について説明 |
| 第4回 | ＼ 運指、装飾音など奏法に関すること |
| 第5回 | ＼ 調性、臨時記号（楽曲に応じて） |
| 第6回 | 技術指導 ペダル |
| 第7回 | ＼ 難しい箇所のリズム練習 |
| 第8回 | ＼ タッチの練習、音のバランス |
| 第9回 | 作品の背景 作曲家について |
| 第10回 | ＼ 作曲年代、時代背景 |
| 第11回 | 作品の構成 形式、フレーズ、和声構造 |
| 第12回 | 暗譜を通して弾く、解釈について |
| 第13回 | テンポ、リズム等の調整 |
| 第14回 | 実技テストに向けて～リハーサル |
| 第15回 | まとめ（受講生同士で演奏を聴き合い、お互いに意見・感想を交換する） |

定期試験

【授業時間外の学習】

譜読みのための練習（30分以上）と、授業時に指摘した問題点を克服するための練習（30分以上）を毎日行ってください。

【成績の評価】

定期試験（90％）による評価とともに、授業に取り組む姿勢（10％）なども加味して評価します。

授業においては、楽曲の演奏について指摘した問題点を、次回の授業にて、また定期試験においては、試験終了後に演奏のフィードバックを行います。

【使用テキスト】

ソナチネアルバム以上のレベルの曲集

【参考文献】

なし

科目名： < ONGA2 > 器楽【弦楽器】
担当教員： 福崎 至佐子(FUKUZAKI Hisako)

【授業の紹介】

ヴァイオリンの基礎奏法を学びます。
ヴァイオリンについての概略（楽器の構造・歴史・取り扱い方法・弦の張り方・調弦方法・楽器の構え方）
弓についても同上とする。簡易な作品からスタートします。

【到達目標】

- ・やさしい童謡からスタートし、レベルに合わせて高度な楽曲も演奏することができる。
- ・美しい音色、正しい音程を聞き分ける耳を養い、絶対音感を身に付けることができる。
- ・大学のオータムコンサートに出演することができる。

【授業計画】

| | |
|------|---------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 楽器の構造・名称 |
| 第3回 | 楽器の持ち方、弓の持ち方、姿勢 |
| 第4回 | ボーイング（運弓）の練習（右手） |
| 第5回 | 運指の練習（左手） |
| 第6回 | リズムの練習 |
| 第7回 | 全弓の練習（全音符、付点2分音符、等） |
| 第8回 | キラキラ星変奏曲 |
| 第9回 | ＼ |
| 第10回 | 蝶々、ロングロングアゴー |
| 第11回 | かすみか雲か、むすんでひらいて |
| 第12回 | バッハ作曲 メヌエット1 |
| 第13回 | ＼ 2 |
| 第14回 | ＼ 3 |
| 第15回 | ゴセック作曲 ガボット |
| | 定期試験 |

【授業時間外の学習】

復習をするかしないかによって技術のつき方が100%変わります。1日1時間以上の復習を心がけましょう。

【成績の評価】

授業態度（20%）、期末試験（80%）により総合的に判断します。
また、発表内容について教員から講評を受けることでフィードバックします。

【使用テキスト】

鈴木慎一ヴァイオリン指導曲集第1巻
ヴァイオリン練習曲カイザー第1巻～第3巻

【参考文献】

ホーマンヴァイオリン教則本第1巻～第4巻

科目名： < ONGA6 > 音楽表現 【 発 A 】
担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業である。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行う。個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざす。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
- 1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通し、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆうびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましよう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましよう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいげんすることを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。
上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詞を覚えるまで約30分読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(90%)、教科の目標の内容についてのレポート(10%)
試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
好成績を収めた受講生の演奏を全員で聴く。試験演奏に問題が生じた時は担当教員と専任教員でアドバイスをする。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)
幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版)

【参考文献】

童謡は心のふるさと(平成13年 川田正子著、東京新聞出版局)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < ONGA6 > 音楽表現 【 発 A 】

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業である。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行う。個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活躍できる実践力の涵養をめざす。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
- 1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいた ひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通し、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましよう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましよう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいけんすることを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。

上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詩を覚えるまで読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(80%)試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。後日、好成绩を収めた受講生の演奏を全員で聴く。

教科の目標についてのレポート提出(20%)

【使用テキスト】

幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版)

【参考文献】

童謡は心のふるさと(平成13年 川田正子著、東京新聞出版局)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < ONGA6 > 音楽表現 【発A】
担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業である。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行う。個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活躍できる実践力の涵養をめざす。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
- 1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいた ひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通し、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましよう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましよう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいけんすることを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。
上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詩を覚えるまで読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(80%)試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。後日、好成绩を収めた受講生の演奏を全員で聴く。
教科の目標についてのレポート提出(20%)

【使用テキスト】

幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)
幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版)

【参考文献】

童謡は心のふるさと(平成13年 川田正子著、東京新聞出版局)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < ONGA6 > 音楽表現 【発A】

担当教員： 酒井 信(SAKAI Makoto)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業である。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行う。個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活躍できる実践力の涵養をめざす。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
- 1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいた ひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通し、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましよう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましよう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいけんすることを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。

上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詩を覚えるまで読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(80%)試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。後日、好成绩を収めた受講生の演奏を全員で聴く。

教科の目標についてのレポート提出(20%)

【使用テキスト】

幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版)

【参考文献】

童謡は心のふるさと(平成13年 川田正子著、東京新聞出版局)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < ONGA6 > 音楽表現 【発A】

担当教員： 日野 朝代(HINO Tomoyo)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業である。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行う。個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活躍できる実践力の涵養をめざす。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
- 1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいた ひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通し、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましよう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましよう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいけんすることを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。

上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詩を覚えるまで読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(80%)試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。後日、好成绩を収めた受講生の演奏を全員で聴く。

教科の目標についてのレポート提出(20%)

【使用テキスト】

幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版)

【参考文献】

童謡は心のふるさと(平成13年 川田正子著、東京新聞出版局)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < ONGA6 > 音楽表現 【 発 B 】
担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業である。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行う。個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活用できる実践力の涵養をめざす。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
- 1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいたひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通し、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましよう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましよう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいけんすることを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。
上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詞を覚えるまで約30分読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(90%)、教科についてのレポート(10%)
試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。
好成績を収めた受講生の演奏を全員で聴く。演奏結果に問題が生じた場合は担当教員と専任教員でアドバイスをを行う。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)
幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版)

【参考文献】

童謡は心のふるさと(平成13年 川田正子著、東京新聞出版局)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < ONGA6 > 音楽表現 【 発 B 】

担当教員： 日野 朝代(HINO Tomoyo)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業である。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行う。個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活躍できる実践力の涵養をめざす。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
- 1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいた ひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通し、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましよう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましよう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいけんすることを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。
上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詩を覚えるまで読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(80%) 試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。後日、好成绩を収めた受講生の演奏を全員で聴く。
教科の目標についてのレポート提出(20%)

【使用テキスト】

幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)
幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版)

【参考文献】

童謡は心のふるさと(平成13年 川田正子著、東京新聞出版局)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < ONGA6 > 音楽表現 【 発 B 】

担当教員： 渡辺 磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業である。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行う。個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活躍できる実践力の涵養をめざす。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
- 1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいた ひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通し、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましよう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましよう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいけんすることを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。
上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詩を覚えるまで読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(80%)試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。後日、好成绩を収めた受講生の演奏を全員で聴く。
教科の目標についてのレポート提出(20%)

【使用テキスト】

幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)
幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版)

【参考文献】

童謡は心のふるさと(平成13年 川田正子著、東京新聞出版局)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < ONGA6 > 音楽表現 【 発 B 】

担当教員： 徳山 眞矢(TOKUYAMA Maya)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業である。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行う。個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活躍できる実践力の涵養をめざす。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
- 1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいた ひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通し、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましよう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましよう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいけんすることを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。
上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詩を覚えるまで読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(80%)試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。後日、好成绩を収めた受講生の演奏を全員で聴く。
教科の目標についてのレポート提出(20%)

【使用テキスト】

幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)
幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版)

【参考文献】

童謡は心のふるさと(平成13年 川田正子著、東京新聞出版局)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < ONGA6 > 音楽表現 【発B】

担当教員： 出木浦 さゆり(DEKIURA Sayuri)

【授業の紹介】

童謡やわらべうた等に描かれている四季折々の情景や心情を理解して、美しい言葉や響きを感じ表現する事が出来るような健康的で明るい声を探究し、園児たちに音楽の楽しさや素晴らしさを伝え導くための授業である。ピアノ伴奏技術を学びながら弾き歌いを行う。個々の子どもたちに応じた音楽表現を実践の場で活躍できる実践力の涵養をめざす。

【到達目標】

1. 音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
2. 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
4. 表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。
5. 音楽表現を通して様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことのイメージを豊かにする。
6. 保育・教育に携わる者は高い使命感・倫理感や豊かな心を持ち表現活動に取り組むことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションにて、
- 1) 幼児期の表現の特性やそれを受け止めていくことの重要性、幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現に関し、映像や具体的な事例を通して説明し、幼児の世界に関心をもつようにする。
- 第2回 呼吸法・発声練習 ア母音を中心に(春が来た、せんせいとおともだち)歌唱と弾き歌い
- 第3回 呼吸法・発声練習 エ母音を中心に(チューリップ、あくしゅでこんにちは)歌唱と弾き歌い
- 第4回 呼吸法・発声練習 イ母音を中心に(むすんでひらいて、ひらいた ひらいた)歌唱と弾き歌い
- 2) 身体の諸感覚を通し、身近な表現活動に取り組みその面白さや可能性、重要性を説明する。
- 第5回 呼吸法・発声練習 オ母音を中心に(いとまき、こいのぼり)歌唱と弾き歌い
- 第6回 呼吸法・発声練習 ウ母音を中心に(とうさんゆびどこ、おかあさん)歌唱と弾き歌い
- 第7回 呼吸法・発声練習 各母音の3度音程(ころころたまご、やぎさんゆびん)歌唱と弾き歌い
- 第8回 呼吸法・発声練習 各母音の5度音程(はじまるよ、おもちゃのチャチャチャ)歌唱と弾き歌い
- 3) 自然・生活・文化における様々な表現に触れ、感じたことを共有したり、そのイメージを再構築し表現したりする機会を設ける。
- 第9回 呼吸法・発声練習 各母音のオクターブ(おべんとう、アイスクリームのうた)歌唱と弾き歌い
- 第10回 呼吸法・発声練習 P子音を中心に(てをたたきましょう、とけいのうた)歌唱と弾き歌い
- 第11回 呼吸法・発声練習 B子音を中心に(げんこつ山、かわいいかくれんぼ)歌唱と弾き歌い
- 4) 季節や行事、伝統芸能、文化的活動、伝承遊びなどを体験する機会を設ける。
- 第12回 呼吸法・発声練習 M子音を中心に(大きな栗の木の下で、たなばたさま)歌唱と弾き歌い
- 第13回 呼吸法・発声練習 T子音を中心に(おおきなたいこ、ドロップスのうた)歌唱と弾き歌い
- 第14回 呼吸法・発声練習 N子音を中心に(うみ きらきらぼし)歌唱と弾き歌い
- 第15回 呼吸法・発声練習 全母音・子音(手をたたきましょう、虹)歌唱と弾き歌い
- 5) 様々な表現をたいけんすることを通し、表現の多様性について説明する。また、表現を育成する過程について、学生自身の体験を通して分析する機会を設ける。

定期試験

それぞれ決められた課題曲(童謡)を担当教員6名の前で弾き歌いの実技試験。

上記の到達目標の課題のレポート提出。

【授業時間外の学習】

童謡やわらべうた等、園児とともに楽しみかつ、表現活動を指導できるような健康的で美しい声、明確な言葉で話ができるような魅力的な声を獲得するのは長い年月とたゆまぬ努力が求められる。幼稚園で日々の保育活動に支障をきたさないで愛情あふれる心優しい声を目指す為には、授業で学習した発声練習を念頭において各自呼吸練習、舌や唇の訓練を毎日行うこと。又ピアノ伴奏と歌は分けて練習し、その後弾きながら歌と合わせるようにすること。特に新しい曲は最初に歌詩を覚えるまで読むと良い。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(80%)試験後には教員担当が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。後日、好成绩を収めた受講生の演奏を全員で聴く。

教科の目標についてのレポート提出(20%)

【使用テキスト】

幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(平成22年 本廣明美・加藤照恵共著 ドレミ出版)

【参考文献】

童謡は心のふるさと(平成13年 川田正子著、東京新聞出版局)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： <ONGA6> 音楽 - 【発A】【3年～】

担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

- ・ピアノを中心とした鍵盤楽器の演奏技術を磨くことと並行して、楽音が分かりやすく可視化される鍵盤楽器の特性を生かして授業展開に必要な音楽理論を学ぶ。
- ・小学校音楽科で扱われる種々の楽器に触れ、その取り扱いと演奏技術を学ぶ。
- ・歌唱については、歌唱共通教材を中心に、ハ、二、ヘ、ト、変口長調の階名唱の練習を行う。
- ・簡単な合奏と、4分の2、4分の3、4分の4、8分の6拍子の指揮法を学ぶ。
- ・定期的に筆記、実技の小テストを行い進歩の様子をチェックする。次回授業の課題の予習は必須とする。

【到達目標】

- 1 児童教育現場で、授業を円滑に行うために必要な歌唱および器楽の演奏技術と音楽理論を修得することを目指す。
- 2 曲想と音楽の構造との関わりについて理解して演奏することができる。
- 3 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。
- 4 小学校教諭にとって音楽に関する必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識を教育の実践と関連づけて理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、ピアノ演奏技術の進度調査（自由曲の演奏）、楽譜の説明
 - 第2回：ピアノ奏法（1）、ハ長調、イ短調音階、ハ長調の階名唱、I度の三和音
 - 第3回：ピアノ奏法（2）、ト長調、ホ短調音階、ト長調の階名唱、V度の三和音
 - 第4回：ピアノ奏法（3）、ニ長調、ロ短調音階、ニ長調階名唱、IV度の三和音
 - 第5回：ピアノ奏法（4）、ヘ長調、二短調音階、ヘ長調の階名唱、V7の和音
 - 第6回：ピアノ奏法（5）、変口長調、ト短調音階、変口長調の階名唱、和音の転回、
 - 第7回：ピアノ奏法（6）、基本的な伴奏法
 - 第8回：ピアノ奏法（7）、簡単なコード（C,F,G,G7）による伴奏法
 - 第9回：歌唱共通教材を使用した歌唱法
 - 第10回：歌唱共通教材のピアノ弾き歌い
 - 第11回：リコーダー奏法
 - 第12回：鍵盤ハーモニカ奏法
 - 第13回：さまざまな打楽器の奏法、ボディ・パーカッションと音楽遊び
 - 第14回：4分の2、あるいは4分の4拍子の合奏曲と指揮法
 - 第15回：4分の3および8分の6拍子の合奏曲と指揮法
- 定期試験：筆記試験、実技試験（ピアノ弾き歌い）

【授業時間外の学習】

次回授業の課題を予習する。

【成績の評価】

定期試験-筆記（20%）、定期試験-実技（50%）、予習・復習と授業に取り組む姿勢（30%）
実技の試験や発表に対する評価は個別に説明を行う。筆記試験や提出物は採点、添削の上返却する。

【使用テキスト】

小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠
（平成30年2月発行、初等科音楽教育研究会 編、音楽之友社）

【参考文献】

小学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年6月 文部科学省）

科目名： <ONGA6> 音楽 - 【発B】【3年～】

担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

- ・ピアノを中心とした鍵盤楽器の演奏技術を磨くことと並行して、楽音が分かりやすく可視化される鍵盤楽器の特性を生かして授業展開に必要な音楽理論を学ぶ。
- ・小学校音楽科で扱われる種々の楽器に触れ、その取り扱いと演奏技術を学ぶ。
- ・歌唱については、歌唱共通教材を中心に、ハ、二、ヘ、ト、変口長調の階名唱の練習を行う。
- ・簡単な合奏と、4分の2、4分の3、4分の4、8分の6拍子の指揮法を学ぶ。
- ・定期的に筆記、実技の小テストを行い進歩の様子をチェックする。次回授業の課題の予習は必須とする。

【到達目標】

- 1 児童教育現場で、授業を円滑に行うために必要な歌唱および器楽の演奏技術と音楽理論を修得することを目指す。
- 2 曲想と音楽の構造との関わりについて理解して演奏することができる。
- 3 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。
- 4 小学校教諭にとって音楽に関する必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識を教育の実践と関連づけて理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、ピアノ演奏技術の進度調査（自由曲の演奏）、楽譜の説明
 - 第2回：ピアノ奏法（1）、八長調、イ短調音階、八長調の階名唱、I度の三和音
 - 第3回：ピアノ奏法（2）、ト長調、ホ短調音階、ト長調の階名唱、V度の三和音
 - 第4回：ピアノ奏法（3）、二長調、ロ短調音階、二長調階名唱、IV度の三和音
 - 第5回：ピアノ奏法（4）、ヘ長調、ニ短調音階、ヘ長調の階名唱、V7の和音
 - 第6回：ピアノ奏法（5）、変口長調、ト短調音階、変口長調の階名唱、和音の転回、
 - 第7回：ピアノ奏法（6）、基本的な伴奏法
 - 第8回：ピアノ奏法（7）、簡単なコード（C,F,G,G7）による伴奏法
 - 第9回：歌唱共通教材を使用した歌唱法
 - 第10回：歌唱共通教材のピアノ弾き歌い
 - 第11回：リコーダー奏法
 - 第12回：鍵盤ハーモニカ奏法
 - 第13回：さまざまな打楽器の奏法、ボディ・パーカッションと音楽遊び
 - 第14回：4分の2、あるいは4分の4拍子の合奏曲と指揮法
 - 第15回：4分の3および8分の6拍子の合奏曲と指揮法
- 定期試験：筆記試験、実技試験（ピアノ弾き歌い）

【授業時間外の学習】

次回授業の課題を予習する。

【成績の評価】

定期試験-筆記（20%）、定期試験-実技（50%）、予習・復習と授業に取り組む姿勢（30%）
実技の試験や発表に対する評価は個別に説明を行う。筆記試験や提出物は採点、添削の上返却する。

【使用テキスト】

小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠
(平成30年2月発行、初等科音楽教育研究会 編、音楽之友社)

【参考文献】

小学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年6月 文部科学省）

科目名： <ONGA7> 音楽表現 【発A】
担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

前期の音楽表現Iを終了した学生が続けて受講する。これまでに培ってきた演奏能力を土台にして、幼児教育・保育の歌の弾き歌いの技能をさらに磨く。まず授業開始の30分で声楽担当教員の下、一般的な発声法と共に課題となる歌を使ってその歌唱法を学ぶ。続く60分では各グループに分かれ、今度はピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いに挑戦する。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導き出すために、自らが楽しみながら美しい模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現I」の復習
第2回：呼吸法・発声練習 英語の歌(Are You sleeping?, The Bear Song) 弾き歌い
第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱(とんぼのめがめ、夕焼け小焼け) 弾き歌い
第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート歌唱(虫のこえ、大きな古時計) 弾き歌い
第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習(たきび、やまのおんがくか) 弾き歌い
第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱(まっかな秋、となりのトトロ) 弾き歌い
第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1(やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも) 弾き歌い
第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2(ゆき、うちゅうせんのうた) 弾き歌い
第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1(あわてんぼうのサンタクロース、ハッピー・バースデー・トゥ・ユー) 弾き歌い
第10回：呼吸法・発声練習 弱起の曲2(ジングル・ベル、世界中のこどもたちが) 弾き歌い
第11回：呼吸法・発声練習 母音の発音復習(お正月、アイアイ) 弾き歌い
第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1(おばけなんてないさ、ふしぎなポケット) 弾き歌い
第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2(うれしいひなまつり、さんぽ) 弾き歌い
第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3(思い出のアルバム、メダカの学校) 弾き歌い
第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4(1年生になったら、ドレミの歌) 弾き歌い
定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の弾き歌い演奏で評価する(100%)

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(本廣明美・加藤昭恵共著)ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： < ONGA7 > 音楽表現 【発A】

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

前期の音楽表現Iを修了した学生が、これまでに身に付けた演奏能力を土台に、幼児教育・保育の歌の弾き歌いのレパートリー拡大を目指す。

保育現場の音楽的表現活動において十分にかつ楽しく指導が行えるよう、また、その資質向上のために継続的に学ぶことができるよう、自らの表現力と専門的技能を磨き、実践能力をさらに高めていく。

まず授業開始の30分で声楽担当教員の下、一般的な発声法と共に課題となる歌を使ってその歌唱法を学ぶ。続く60分では各グループに分かれ、ピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いに挑戦する。

【到達目標】

・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しく模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。

・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現I」の復習

第2回：呼吸法・発声練習 英語の歌(Are You sleeping?, The Bear Song) 弾き歌い

第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱(とんぼのめがめ、夕焼け小焼け) 弾き歌い

第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート(虫のこえ、大きな古時計) 弾き歌い

第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習(たきび、やまのおんがくか) 弾き歌い

第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱(まっかな秋、となりのトトロ) 弾き歌い

第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1(やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも) 弾き歌い

第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2(ゆき、うちゅうせんのうた) 弾き歌い

第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1(あわてんぼうのサンタクロース、

ハッピー・バースデー・トゥ・ユー) 弾き歌い

第10回：A班「電子オルガン体験」、B班・発声練習(ジングル・ベル、世界中のこどもたちが) 弾き歌い

第11回：B班「電子オルガン体験」、A班・発声練習(ジングル・ベル、世界中のこどもたちが) 弾き歌い

第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1(おばけなんてないさ、ふしぎなポケット) 弾き歌い

第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2(うれしいひなまつり、さんぼ) 弾き歌い

第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3(思い出のアルバム、メダカの学校) 弾き歌い

第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4(1年生になったら、ドレミの歌) 弾き歌い

定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点

・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の演奏で評価(80%)

試験後には担当教員が結果報告と演奏に対して解説を行い、今後の勉学の指針とするべきことを伝える。

教科の目標についてのレポート提出(20%)

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(本廣明美・加藤昭恵共著)ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： <ONGA7> 音楽表現 【発A】
担当教員： 西村 京子(NISHIMURA Kyoko)

【授業の紹介】

前期の音楽表現Iを終了した学生が続けて受講する。これまでに培ってきた演奏能力を土台にして、幼児教育・保育の歌の弾き歌いの技能をさらに磨く。まず授業開始の30分で声楽担当教員の下、一般的な発声法と共に課題となる歌を使ってその歌唱法を学ぶ。続く60分では各グループに分かれ、今度はピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いに挑戦する。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導き出すために、自らが楽しみながら美しい模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現I」の復習
第2回：呼吸法・発声練習 英語の歌(Are You sleeping?, The Bear Song) 弾き歌い
第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱(とんぼのめがめ、夕焼け小焼け) 弾き歌い
第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカートの歌唱(虫のこえ、大きな古時計) 弾き歌い
第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習(たきび、やまのおんがくか) 弾き歌い
第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱(まっかな秋、となりのトトロ) 弾き歌い
第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1(やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも) 弾き歌い
第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2(ゆき、うちゅうせんのうた) 弾き歌い
第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1(あわてんぼうのサンタクロース、ハッピー・バースデー・トゥ・ユー) 弾き歌い
第10回：呼吸法・発声練習 弱起の曲2(ジングル・ベル、世界中のこどもたちが) 弾き歌い
第11回：呼吸法・発声練習 母音の発音復習(お正月、アイアイ) 弾き歌い
第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1(おばけなんてないさ、ふしぎなポケット) 弾き歌い
第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2(うれしいひなまつり、さんぽ) 弾き歌い
第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3(思い出のアルバム、メダカの学校) 弾き歌い
第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4(1年生になったら、ドレミの歌) 弾き歌い
定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の弾き歌い演奏で評価する(100%)

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(本廣明美・加藤昭恵共著)ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： < ONGA7 > 音楽表現 【発A】

担当教員： 酒井 信(SAKAI Makoto)

【授業の紹介】

前期の音楽表現Iを終了した学生が続けて受講する。これまでに培ってきた演奏能力を土台にして、幼児教育・保育の歌の弾き歌いの技能をさらに磨く。まず授業開始の30分で声楽担当教員の下、一般的な発声法と共に課題となる歌を使ってその歌唱法を学ぶ。続く60分では各グループに分かれ、今度はピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いに挑戦する。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導き出すために、自らが楽しみながら美しい模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現I」の復習
- 第2回：呼吸法・発声練習 英語の歌(Are You sleeping?, The Bear Song)弾き歌い
- 第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱(とんぼのめがめ、夕焼け小焼け)弾き歌い
- 第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート歌唱(虫のこえ、大きな古時計)弾き歌い
- 第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習(たきび、やまのおんがくか)弾き歌い
- 第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱(まっかな秋、となりのトトロ)弾き歌い
- 第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1(やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも)弾き歌い
- 第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2(ゆき、うちゅうせんのうた)弾き歌い
- 第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1(あわてんぼうのサンタクロース、ハッピー・バースデー・トゥ・ユー)弾き歌い
- 第10回：呼吸法・発声練習 弱起の曲2(ジングル・ベル、世界中のこどもたちが)弾き歌い
- 第11回：呼吸法・発声練習 母音の発音復習(お正月、アイアイ)弾き歌い
- 第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1(おばけなんてないさ、ふしぎなポケット)弾き歌い
- 第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2(うれしいひなまつり、さんぽ)弾き歌い
- 第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3(思い出のアルバム、メダカの学校)弾き歌い
- 第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4(1年生になったら、ドレミの歌)弾き歌い
- 定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の弾き歌い演奏で評価する(100%)

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(本廣明美・加藤昭恵共著)ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： <ONGA7> 音楽表現 【発A】

担当教員： 日野 朝代(HINO Tomoyo)

【授業の紹介】

前期の音楽表現Iを終了した学生が続けて受講する。これまでに培ってきた演奏能力を土台にして、幼児教育・保育の歌の弾き歌いの技能をさらに磨く。まず授業開始の30分で声楽担当教員の下、一般的な発声法と共に課題となる歌を使ってその歌唱法を学ぶ。続く60分では各グループに分かれ、今度はピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いに挑戦する。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導き出すために、自らが楽しみながら美しい模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現I」の復習
- 第2回：呼吸法・発声練習 英語の歌(Are You sleeping?, The Bear Song) 弾き歌い
- 第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱(とんぼのめがめ、夕焼け小焼け) 弾き歌い
- 第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカートの歌唱(虫のこえ、大きな古時計) 弾き歌い
- 第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習(たきび、やまのおんがくか) 弾き歌い
- 第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱(まっかな秋、となりのトトロ) 弾き歌い
- 第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1(やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも) 弾き歌い
- 第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2(ゆき、うちゅうせんのうた) 弾き歌い
- 第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1(あわてんぼうのサンタクロース、ハッピー・バースデー・トゥ・ユー) 弾き歌い
- 第10回：呼吸法・発声練習 弱起の曲2(ジングル・ベル、世界中のこどもたちが) 弾き歌い
- 第11回：呼吸法・発声練習 母音の発音復習(お正月、アイアイ) 弾き歌い
- 第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1(おばけなんてないさ、ふしぎなポケット) 弾き歌い
- 第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2(うれしいひなまつり、さんぽ) 弾き歌い
- 第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3(思い出のアルバム、メダカの学校) 弾き歌い
- 第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4(1年生になったら、ドレミの歌) 弾き歌い
- 定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の弾き歌い演奏で評価する(100%)

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(本廣明美・加藤昭恵共著)ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： <ONGA7> 音楽表現 【発B】
担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

前期の音楽表現Iを終了した学生が続けて受講する。これまでに培ってきた演奏能力を土台にして、幼児教育・保育の歌の弾き歌いの技能をさらに磨く。まず授業開始の30分で声楽担当教員の下、一般的な発声法と共に課題となる歌を使ってその歌唱法を学ぶ。続く60分では各グループに分かれ、今度はピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いに挑戦する。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導きだすために、自らが楽しみながら美しい模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現I」の復習
第2回：呼吸法・発声練習 英語の歌(Are You sleeping?, The Bear Song)弾き歌い
第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱(とんぼのめがめ、夕焼け小焼け)弾き歌い
第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート歌唱(虫のこえ、大きな古時計)弾き歌い
第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習(たきび、やまのおんがくか)弾き歌い
第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱(まっかな秋、となりのトトロ)弾き歌い
第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1(やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも)弾き歌い
第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2(ゆき、うちゅうせんのうた)弾き歌い
第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1(あわてんぼうのサンタクロース、ハッピー・バースデー・トゥ・ユー)弾き歌い
第10回：呼吸法・発声練習 弱起の曲2(ジングル・ベル、世界中のこどもたちが)弾き歌い
第11回：呼吸法・発声練習 母音の発音復習(お正月、アイアイ)弾き歌い
第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1(おばけなんてないさ、ふしぎなポケット)弾き歌い
第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2(うれしいひなまつり、さんぽ)弾き歌い
第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3(思い出のアルバム、メダカの学校)弾き歌い
第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4(1年生になったら、ドレミの歌)弾き歌い
定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の弾き歌い演奏で評価する(100%)

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(本廣明美・加藤昭恵共著)ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： <ONGA7> 音楽表現 【発B】

担当教員： 日野 朝代(HINO Tomoyo)

【授業の紹介】

前期の音楽表現Iを終了した学生が続けて受講する。これまでに培ってきた演奏能力を土台にして、幼児教育・保育の歌の弾き歌いの技能をさらに磨く。まず授業開始の30分で声楽担当教員の下、一般的な発声法と共に課題となる歌を使ってその歌唱法を学ぶ。続く60分では各グループに分かれ、今度はピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いに挑戦する。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導き出すために、自らが楽しみながら美しい模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現I」の復習
- 第2回：呼吸法・発声練習 英語の歌(Are You sleeping?, The Bear Song)弾き歌い
- 第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱(とんぼのめがめ、夕焼け小焼け)弾き歌い
- 第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート歌唱(虫のこえ、大きな古時計)弾き歌い
- 第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習(たきび、やまのおんがくか)弾き歌い
- 第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱(まっかな秋、となりのトトロ)弾き歌い
- 第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1(やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも)弾き歌い
- 第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2(ゆき、うちゅうせんのうた)弾き歌い
- 第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1(あわてんぼうのサンタクロース、ハッピー・バースデー・トゥ・ユー)弾き歌い
- 第10回：呼吸法・発声練習 弱起の曲2(ジングル・ベル、世界中のこどもたちが)弾き歌い
- 第11回：呼吸法・発声練習 母音の発音復習(お正月、アイアイ)弾き歌い
- 第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1(おばけなんてないさ、ふしぎなポケット)弾き歌い
- 第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2(うれしいひなまつり、さんぽ)弾き歌い
- 第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3(思い出のアルバム、メダカの学校)弾き歌い
- 第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4(1年生になったら、ドレミの歌)弾き歌い
- 定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の弾き歌い演奏で評価する(100%)

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(本廣明美・加藤昭恵共著)ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： < ONGA7 > 音楽表現 【 発 B 】

担当教員： 渡辺 磨奈(WATANABE Mana)

【授業の紹介】

前期の音楽表現Iを終了した学生が続けて受講する。これまでに培ってきた演奏能力を土台にして、幼児教育・保育の歌の弾き歌いの技能をさらに磨く。まず授業開始の30分で声楽担当教員の下、一般的な発声法と共に課題となる歌を使ってその歌唱法を学ぶ。続く60分では各グループに分かれ、今度はピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いに挑戦する。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導き出すために、自らが楽しみながら美しい模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現 I」の復習
- 第2回：呼吸法・発声練習 英語の歌 (Are You sleeping?, The Bear Song) 弾き歌い
- 第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱 (とんぼのめがめ、夕焼け小焼け) 弾き歌い
- 第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート歌唱 (虫のこえ、大きな古時計) 弾き歌い
- 第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習 (たきび、やまのおんがくか) 弾き歌い
- 第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱 (まっかな秋、となりのトトロ) 弾き歌い
- 第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1 (やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも) 弾き歌い
- 第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2 (ゆき、うちゅうせんのうた) 弾き歌い
- 第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1 (あわてんぼうのサンタクロース、ハッピー・バースデー・トゥ・ユー) 弾き歌い
- 第10回：呼吸法・発声練習 弱起の曲2 (ジングル・ベル、世界中のこどもたちが) 弾き歌い
- 第11回：呼吸法・発声練習 母音の発音復習 (お正月、アイアイ) 弾き歌い
- 第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1 (おばけなんてないさ、ふしぎなポケット) 弾き歌い
- 第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2 (うれしいひなまつり、さんぽ) 弾き歌い
- 第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3 (思い出のアルバム、メダカの学校) 弾き歌い
- 第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4 (1年生になったら、ドレミの歌) 弾き歌い
- 定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の弾き歌い演奏で評価する (100%)

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集 (本廣明美・加藤昭恵共著) ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： < ONGA7 > 音楽表現 【 発 B 】

担当教員： 徳山 眞矢(TOKUYAMA Maya)

【授業の紹介】

前期の音楽表現Iを終了した学生が続けて受講する。これまでに培ってきた演奏能力を土台にして、幼児教育・保育の歌の弾き歌いの技能をさらに磨く。まず授業開始の30分で声楽担当教員の下、一般的な発声法と共に課題となる歌を使ってその歌唱法を学ぶ。続く60分では各グループに分かれ、今度はピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いに挑戦する。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導き出すために、自らが楽しみながら美しい模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現 I」の復習
 - 第2回：呼吸法・発声練習 英語の歌 (Are You sleeping?, The Bear Song) 弾き歌い
 - 第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱 (とんぼのめがめ、夕焼け小焼け) 弾き歌い
 - 第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカートの歌唱 (虫のこえ、大きな古時計) 弾き歌い
 - 第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習 (たきび、やまのおんがくか) 弾き歌い
 - 第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱 (まっかな秋、となりのトトロ) 弾き歌い
 - 第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1 (やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも) 弾き歌い
 - 第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2 (ゆき、うちゅうせんのうた) 弾き歌い
 - 第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1 (あわてんぼうのサンタクロース、ハッピー・バースデー・トゥ・ユー) 弾き歌い
 - 第10回：呼吸法・発声練習 弱起の曲2 (ジングル・ベル、世界中のこどもたちが) 弾き歌い
 - 第11回：呼吸法・発声練習 母音の発音復習 (お正月、アイアイ) 弾き歌い
 - 第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1 (おばけなんてないさ、ふしぎなポケット) 弾き歌い
 - 第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2 (うれしいひなまつり、さんぽ) 弾き歌い
 - 第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3 (思い出のアルバム、メダカの学校) 弾き歌い
 - 第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4 (1年生になったら、ドレミの歌) 弾き歌い
- 定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の弾き歌い演奏で評価する (100%)

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集 (本廣明美・加藤昭恵共著) ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： <ONGA7> 音楽表現 【発B】
担当教員： 出木浦 さゆり(DEKIURA Sayuri)

【授業の紹介】

前期の音楽表現Iを終了した学生が続けて受講する。これまでに培ってきた演奏能力を土台にして、幼児教育・保育の歌の弾き歌いの技能をさらに磨く。まず授業開始の30分で声楽担当教員の下、一般的な発声法と共に課題となる歌を使ってその歌唱法を学ぶ。続く60分では各グループに分かれ、今度はピアノ担当教員の指導に従い弾き歌いに挑戦する。

【到達目標】

- ・保育の現場で幼児の音楽表現を導き出すために、自らが楽しみながら美しい模範的な弾き歌いが出来るよう、その技能を身につける。
- ・音楽表現Iで身につけた弾き歌いのレパートリーに加え、さらにレベルアップした新しい30曲の暗譜演奏が出来る。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期「音楽表現I」の復習
第2回：呼吸法・発声練習 英語の歌(Are You sleeping?, The Bear Song)弾き歌い
第3回：呼吸法・発声練習 ヨナ抜き音階の歌唱(とんぼのめがめ、夕焼け小焼け)弾き歌い
第4回：呼吸法・発声練習 レガートとスタッカート歌唱(虫のこえ、大きな古時計)弾き歌い
第5回：呼吸法・発声練習 子音の発音復習(たきび、やまのおんがくか)弾き歌い
第6回：呼吸法・発声練習 上行跳躍の歌唱(まっかな秋、となりのトトロ)弾き歌い
第7回：呼吸法・発声練習 付点のリズム1(やきいもグーチーパー、線路は続くよどこまでも)弾き歌い
第8回：呼吸法・発声練習 付点のリズム2(ゆき、うちゅうせんのうた)弾き歌い
第9回：呼吸法・発声練習 弱起の曲1(あわてんぼうのサンタクロース、ハッピー・バースデー・トゥ・ユー)弾き歌い
第10回：呼吸法・発声練習 弱起の曲2(ジングル・ベル、世界中のこどもたちが)弾き歌い
第11回：呼吸法・発声練習 母音の発音復習(お正月、アイアイ)弾き歌い
第12回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ1(おばけなんてないさ、ふしぎなポケット)弾き歌い
第13回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ2(うれしいひなまつり、さんぽ)弾き歌い
第14回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ3(思い出のアルバム、メダカの学校)弾き歌い
第15回：呼吸法・発声練習 歌唱法まとめ4(1年生になったら、ドレミの歌)弾き歌い
定期試験 指導教員6名による課題曲引き歌い審査

【授業時間外の学習】

授業中の演奏と教員の指導を録音しておき、それに従い毎日必ず30分以上ピアノに向い練習すること。練習時も録音を行い、自らの演奏を繰り返しチェックし、弾き歌いの演奏技術の向上を目指す。また問題点・疑問点は楽譜上に書き留め、把握した上で授業に臨むこと。初心者は楽譜になれ、読譜力を付けるように努力すること。

【成績の評価】

定期試験の弾き歌い演奏で評価する(100%)

【使用テキスト】

幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集(本廣明美・加藤昭恵共著)ドレミ出版、平成22年

【参考文献】

「童謡は心のふるさと」川田正子著 東京新聞出版局 2001年

科目名： <ONGA7> 音楽 - 【発A】【3年～】

担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

音楽I-Iで習得した知識や能力を更に深める。

- ・ピアノを中心とした鍵盤楽器の演奏技術を磨くことと並行して、楽音が分かりやすく可視化される鍵盤楽器の特性を生かして授業展開に必要な音楽理論を学ぶ。
- ・小学校音楽科で扱われる種々の楽器に触れ、その取り扱いと演奏技術を学ぶ。
- ・歌唱については、基礎的な階名唱の練習を重ねつつ、簡単な弾き歌い、および2部合唱にも取り組む。
- ・合奏については、出来るだけ多くの楽器を体験する。また、既存の合奏譜に加え、自分たちで打楽器パートのリズム譜を作成し、演奏する。
- ・定期的に筆記、実技の小テストを行い進歩の様子をチェックする。次回授業の課題の予習は必須とする。

【到達目標】

- 1 児童教育現場で、授業を円滑に行うために必要な歌唱および器楽の演奏技術と音楽理論を修得することを目指す。
- 2 曲想と音楽の構造との関わりについて理解して演奏することができる。
- 3 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。
- 4 小学校教諭にとって音楽に関する必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識を教育の実践と関連づけて理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期の復習
 - 第2回：ピアノ奏法(1) 拍子の確認
 - 第3回：ピアノ奏法(2) 音価の確認
 - 第4回：ピアノ奏法(3) I/IV/V/V7の和音の確認
 - 第5回：ピアノ奏法(4) 和音の転回の確認
 - 第6回：ピアノ奏法(5) コード(C, F, G, G7)の確認
 - 第7回：弾き歌い(1) 低学年の曲から
 - 第8回：弾き歌い(2) 中学年の曲から
 - 第9回：合唱(1) さまざまな練習法、パート練習
 - 第10回：合唱(2) 全体練習、留意点の確認
 - 第11回：合唱(3) まとめ
 - 第12回：合奏(1) リズム譜の作成
 - 第13回：合奏(2) さまざまな練習法、パート練習
 - 第14回：合奏(3) 全体練習、留意点の確認
 - 第15回：合奏(4) まとめ
- 定期試験：筆記試験、実技試験(ピアノ弾き歌い)

【授業時間外の学習】

次回授業の課題を予習する。

【成績の評価】

定期試験-筆記(20%)、定期試験-実技(50%)、予習・復習と授業に取り組む姿勢(30%)
実技の試験や発表に対する評価は個別に説明を行う。筆記試験や提出物は採点、添削の上返却する。

【使用テキスト】

小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠
(平成30年2月発行、初等科音楽教育研究会 編、音楽之友社)

【参考文献】

小学校学習指導要領解説 音楽編(平成29年6月 文部科学省)

科目名： <ONGA7> 音楽 - 【発B】【3年～】

担当教員： 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae)

【授業の紹介】

音楽I-Iで習得した知識や能力を更に深める。

- ・ピアノを中心とした鍵盤楽器の演奏技術を磨くことと並行して、楽音が分かりやすく可視化される鍵盤楽器の特性を生かして授業展開に必要な音楽理論を学ぶ。
- ・小学校音楽科で扱われる種々の楽器に触れ、その取り扱いと演奏技術を学ぶ。
- ・歌唱については、基礎的な階名唱の練習を重ねつつ、簡単な弾き歌い、および2部合唱にも取り組む。
- ・合奏については、出来るだけ多くの楽器を体験する。また、既存の合奏譜に加え、自分たちで打楽器パートのリズム譜を作成し、演奏する。
- ・定期的に筆記、実技の小テストを行い進歩の様子をチェックする。次回授業の課題の予習は必須とする。

【到達目標】

- 1 児童教育現場で、授業を円滑に行うために必要な歌唱および器楽の演奏技術と音楽理論を修得することを目指す。
- 2 曲想と音楽の構造との関わりについて理解して演奏することができる。
- 3 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。
- 4 小学校教諭にとって音楽に関する必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識を教育の実践と関連づけて理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、前期の復習
 - 第2回：ピアノ奏法(1) 拍子の確認
 - 第3回：ピアノ奏法(2) 音価の確認
 - 第4回：ピアノ奏法(3) I/IV/V/V7の和音の確認
 - 第5回：ピアノ奏法(4) 和音の転回の確認
 - 第6回：ピアノ奏法(5) コード(C, F, G, G7)の確認
 - 第7回：弾き歌い(1) 低学年の曲から
 - 第8回：弾き歌い(2) 中学年の曲から
 - 第9回：合唱(1) さまざまな練習法、パート練習
 - 第10回：合唱(2) 全体練習、留意点の確認
 - 第11回：合唱(3) まとめ
 - 第12回：合奏(1) リズム譜の作成
 - 第13回：合奏(2) さまざまな練習法、パート練習
 - 第14回：合奏(3) 全体練習、留意点の確認
 - 第15回：合奏(4) まとめ
- 定期試験：筆記試験、実技試験(ピアノ弾き歌い)

【授業時間外の学習】

次回授業の課題を予習する。

【成績の評価】

定期試験-筆記(20%)、定期試験-実技(50%)、予習・復習と授業に取り組む姿勢(30%)
実技の試験や発表に対する評価は個別に説明を行う。筆記試験や提出物は採点、添削の上返却する。

【使用テキスト】

小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠
(平成30年2月発行、初等科音楽教育研究会 編、音楽之友社)

【参考文献】

小学校学習指導要領解説 音楽編(平成29年6月 文部科学省)

専門科目:教科指導に関する科目

| 科目 | 担当教員 |
|------------------------|--------|
| <KYOU19>教職教養演習Ⅰ | 佐竹 勝利 |
| <KYOU20>教職教養演習Ⅱ | 佐竹 勝利 |
| <KYOU21>教職教養演習Ⅲ | 秋山 達也 |
| <KYOU22>教職専門演習 | 秋山 達也 |
| <KYOU1>国語指導法研究Ⅰ | 秋山 達也 |
| <KYOU2>国語指導法研究Ⅱ | 秋山 達也 |
| <KYOU3>社会科指導法研究Ⅰ | 野村 一夫 |
| <KYOU4>社会科指導法研究Ⅱ | 野村 一夫 |
| <KYOU5>算数指導法研究Ⅰ | 環 修 |
| <KYOU6>算数指導法研究Ⅱ | 環 修 |
| <KYOU7>理科指導法研究Ⅰ | 高木 由美子 |
| <KYOU8>理科指導法研究Ⅱ | 高木 由美子 |
| <KYOU9>生活科指導法研究Ⅰ | 高橋 佳生 |
| <KYOU10>生活科指導法研究Ⅱ | 高橋 佳生 |
| <KYOU11>家庭科指導法研究 | 中村 真由美 |
| <KYOU112>体育指導法研究 | 上野 耕平 |
| <KYOU13>音楽指導法研究Ⅰ | 水嶋 育 |
| <KYOU14>音楽指導法研究Ⅱ | 水嶋 育 |
| <KYOU15>図画工作指導法研究 | 速水 史朗 |
| <KYOU16>外国語活動(英語)指導法研究 | 竹田 忠弘 |
| <KYOU17>保育・教職実践演習(保・幼) | 山田 純子 |
| <KYOU18>教職実践演習(小) | 峯 寛文 |
| <KYOU23>特別演習Ⅰ | 秋山 達也 |
| <KYOU24>特別演習Ⅱ | 秋山 達也 |
| <KYOU25>特別演習Ⅲ | 秋山 達也 |
| <KYOU1>国語指導法Ⅰ | 秋山 達也 |
| <KYOU2>国語指導法Ⅱ | 秋山 達也 |
| <KYOU3>社会科指導法Ⅰ | 野村 一夫 |
| <KYOU4>社会科指導法Ⅱ | 野村 一夫 |
| <KYOU5>算数指導法Ⅰ | 環 修 |
| <KYOU6>算数指導法Ⅱ | 環 修 |
| <KYOU7>理科指導法Ⅰ | 高木 由美子 |
| <KYOU8>理科指導法Ⅱ | 高木 由美子 |

科目名： < KYOU19 > 教職教養演習

担当教員： 佐竹 勝利 (SATAKE Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育原理、教育史、保育原理などの教職教養の基礎知識は備わっただろうか。本授業はそれらの確認や復習のために実施します。それは発達科学部の専門科目である教育学原論や教育制度論、保育原理、あるいは教師論で既に学んだ内容であり、受験に向けて基礎知識の定着を図るものでもあります。主として問題演習を行うが、解説を通して内容を実践に結びつけて理解することも目的とします。このような基礎知識の定着やそれらを実践と結びつけることは学部のディプロマポリシーに含まれているものです。

【到達目標】

- ・教育・保育や学校（園）に関する専門的な知識を習得し、用語や内容について説明することができる。
- ・教育・保育の思想や仕組みについて理解し、説明することができる。
- ・習得した知識を教育・保育の実践と関連づけて、自分なりの意見や考えを述べることができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション
第2回 教育・保育の意義と目的
第3回 西洋教育（保育）史（1）近代まで
第4回 西洋教育（保育）史（2）近代以降
第5回 日本教育（保育）史（1）近代まで
第6回 日本教育（保育）史（2）近代以降
第7回 教育（保育）行政と制度
第8回 教育課程（保育内容）
第9回 教育方法
第10回 生徒指導（1）
第11回 生徒指導（2）体罰、いじめ
第12回 教職員（1）
第13回 教職員（2）法制
第14回 社会教育
第15回 総合問題
定期試験は行わない。

【授業時間外の学習】

- ・毎時間、前回の内容に関するテストを実施する（20分）ので、復習が必要である（例えば1日30分、毎週4日間）。定着させるには一夜漬けではいけない。
- ・単なる知識の習得に終わらせず、教育・保育の専門家を志す者として、自分なりの考えや問題意識を整理しておくこと。

【成績の評価】

授業中の態度や発言（30%）、小テスト（70%）とする。割合については、状況を見て若干変更することもある。
小テストは毎回解答を示し、解説する。

【使用テキスト】

テキストは使用せず、資料を配布する。

【参考文献】

田嶋 一著『やさしい教育原理 第3版』有斐閣、2016年、ほか

科目名： < KYOU20 > 教職教養演習

担当教員： 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi)

【授業の紹介】

子どもや子育てに関する問題が目まぐるしく起こっており、これまで見られなかった複雑な判断が求められることもある教育や保育の現場において、法規についての基礎的理解が欠かせません。教育法規の意義は何か、憲法では教育はどのように規定されているか、学校教育に関してどのような法律がどのように定められているか、子育て支援など保育に関係する法規はどのように定められているのだろうか、等々について質疑応答しながら、小学校、幼稚園・保育所などの採用試験対策としての問題練習及び解説を行います。法規の基礎的理解は、本学部のディプロマポリシーにある「体系的理解」や「問題解決」の力に沿ったものです。

【到達目標】

1. 教育・保育の法規の意義、教育・保育に関する基本的な法規の内容、教育・保育の諸問題についての法的な関わりなどを理解し、説明できる。
2. 教育・保育の法規そのものに対する知識や理論を獲得するとともに、具体的な事例や判例を学ぶことによって、教員・保育士に求められる実践的な判断ができる。
3. 小学校や幼稚園・保育所等の採用試験に出る法規の問題を解くことができる。
4. 法規の見方読み方を身につけることができる。

【授業計画】

- | | |
|------|----------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 教育法規の意義 |
| 第3回 | 憲法の教育関係規定 |
| 第4回 | 教育基本法と教育・保育 |
| 第5回 | 教育基本法と行政、学校、教員 |
| 第6回 | 行政と教育・保育 |
| 第7回 | これまでのまとめ(復習) |
| 第8回 | 学校(園)と教育法規 |
| 第9回 | 教育課程と教育法規 |
| 第10回 | 学校(園)経営と教育法規 |
| 第11回 | 教職員と法規 |
| 第12回 | 幼児・児童の人権と法規 |
| 第13回 | 家庭教育と法規 |
| 第14回 | 現代社会と教育法規 |
| 第15回 | 教育法規改革の動向 |
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

毎回、前回についてのパーフェクトをめざす小テストを行う(20分)ので、各回に学んだことを、次回までに復習しておく(例えば1日30分、毎週4日)ことが必要である。

【成績の評価】

質疑応答状況(20%)、小テスト(80%)を総合して評価する。
毎回、小テストの解答を示し、解説する。

【使用テキスト】

使用しない。適宜資料を配付する。

【参考文献】

- ・仙波克也・榊達雄[編著]『現代教育法制の構造と課題』(コレール社、2010年)
- ・解説教育六法編修委員会編『解説教育六法 2020 令和2年版』(三省堂、2020年)
- ・ミネルヴァ書房編集部編『保育小六法 2020〔令和2年版〕』(ミネルヴァ書房、2020年)

科目名： < KYOU21 > 教職教養演習

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

本気で教員を目指しませんか。この授業は、小学校教諭を強く志望し、4年次に小学校教員採用試験を受験する学生が対象です。教員採用試験の「教職教養」「小学校全科」に出題される学習指導要領に関する問題を多数扱います。「教職専門演習」「特別演習」も必ず受講してください。

本授業は、「学位授与の方針」にある「教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解」「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することに重きを置いています。

また、本授業は実務経験のある教員が担当します。小学校の教育現場での授業や教育研究会での公開授業・提案発表の経験を生かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【到達目標】

教員採用試験対策の一環として位置づけています。教員としての「専門的知識」を試される一次試験突破を目指します。学習指導要領及び解説編や解説書等を用いて自主的に学習を進めていくことが前提です。

・ 学習指導要領の「総則」「道徳」各教科の全体目標の全文暗記ができる。

各回の範囲の学習指導要領を・解説編を熟読しノートにまとめることができる。

毎回、教員採用試験における学習指導要領に関連する問題（「（ ）に適語を入れよ」）での合格点（正答率80%）をとることができる。

【授業計画】

第1回 小学校学習指導要領とは(教育課程に関する法令との関連、改訂の歴史的背景) ガイダンス(学習方法・授業時間外の学習について)

第2回 新学習指導要領「総則」について (学力観の具現化、言語活動の充実など)

第3回 新学習指導要領「総則」について

第4回 新学習指導要領「道徳」について

第5回 新学習指導要領「道徳」について

第6回 新学習指導要領「国語」について (言語活動の充実を図る方策の明確化)

第7回 新学習指導要領「社会」について

第8回 新学習指導要領「算数」について

第9回 新学習指導要領「算数」について

第10回 新学習指導要領「理科」について

第11回 新学習指導要領「理科」について

第12回 新学習指導要領「外国語活動」について

第13回 新学習指導要領「総合的な学習の時間」について

第14回 新学習指導要領「特別活動」について

第15回 学習のまとめ(現学習指導要領の特徴を捉え、レポートにまとめる)

定期試験

【授業時間外の学習】

・ 毎回実施する学習指導要領の各教科に関するテストへ向けての自主的な学習を行うこと。

・ 学習指導要領及び解説編を熟読しまとめ、「学習指導要録ノート」を作成すること。

・ また、受験する地域の教員採用試験の過去問題を分析し、学習指導要領に関する問題の傾向を把握し対策を立てておくこと。

毎日、最低でも30分以上の時間を上記3点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。

【成績の評価】

毎回実施する小テスト「教員採用試験における学習指導要領に関連する問題（「（ ）に適語を入れよ」）」を合わせた試験問題の点数による評価（20%）、期末試験（90%）を基本としますが、学習指導要領を分析、まとめたノートづくりや毎回の小テストへの取り組み状況などを併せて総合的に評価します。

学習指導要領に関わる学習内容は、教員採用試験対策講座等の集団討論・個人面接において活かします。

【使用テキスト】

・ 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（東洋館出版、2018年）

・ 文部科学省『学習指導要領解説（各教科等）』（東洋館、日本教文、開隆堂、廣済堂、2018年）価格は各教科ごとによる。

【参考文献】

・ 日本教材システム編集部『一目でわかる2色刷り 小学校学習指導要領新旧対照表』（日本教材システム、2018年）

・ 資格試験研究会編『小学校学習指導要領らくらくマスター [2020年度版]』（実用教育出版、2018年）

・ 現代教育情報研究会『すいすい身につく小学校学習指導要領 2020年度版』（一ツ橋書店、2018年）

科目名： < KYOU22 > 教職専門演習
担当教員： 秋山 達也 (AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

本気で教員を目指しましょう。この授業は、小学校教諭・特別支援学校教諭を強く志望し、本年度の教員採用試験を受験する学生が対象です。「特別演習」で扱った模擬授業と、そこでは扱えなかった小学校における教科外の専門的知識と実践的指導力の習得を図ります。また、教員採用試験の面接対策にもなる「エントリーシート」「自己アピール」等の記述の指導を通して、教職に就く心構え、教育観、学校観、学力観を明確にしていきます。

本授業は、「教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解（「学位授与の方針の一部」）することをねらいとしています。また、本授業は実務経験のある教員が担当します。小学校の教育現場での授業や教育研究会での公開授業・提案発表の経験を生かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【到達目標】

「学位授与の方針」にある「教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解」に関わる目標として、自らの教育観・教職観・学校観を明確にし、原稿用紙1枚程度にまとめることができる。
「学位授与の方針」にある「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」に関わる目標として、「教職専門演習ノート」を作成し、大学での学習や生活、ボランティア活動や教育実習などの経験を具体例とし、自己アピール文やスピーチに的確にまとめることができる。
教員採用試験において過去に出題された問題をもとに集団・個人面接や集団討論・集団活動を想定し、や でまとめた内容を効果的に表現できる。

【授業計画】

| | | |
|------|---------------------------------------|------|
| 第1回 | ガイダンス（授業構成の説明、次回以降の授業準備等について） | 模擬授業 |
| 第2回 | エントリーシートの基本と書き方 「項目と条件」 | 模擬授業 |
| 第3回 | エントリーシートの基本と書き方 「自己アピールと具体例」 | 模擬授業 |
| 第4回 | 明確な教育観・教職観・学校観のアピール 「キーワード」のとらえ方 | 模擬授業 |
| 第5回 | 明確な教育観・教職観・学校観のアピール 「自分の意見と具体例、具体策」 | 模擬授業 |
| 第6回 | 明確な教育観・教職観・学校観のアピール 「模範解答と自分の主張」 | 模擬授業 |
| 第7回 | 場面指導について 「基本と展開」 | 模擬授業 |
| 第8回 | 場面指導について 「場面の分類」 | 模擬授業 |
| 第9回 | 場面指導について 「各場面における指導のあり方」 | 模擬授業 |
| 第10回 | 場面指導について 「学習習慣を確立させる場」の具体的な指導 | 模擬授業 |
| 第11回 | 場面指導について 「知識・技能を習得させる場や活用させる場」の具体的な指導 | 模擬授業 |
| 第12回 | 面接における「明確な教育観・教職観・学校観のアピール」の実際 | 模擬授業 |
| 第13回 | 面接における「場面指導」の実際 | 模擬授業 |
| 第14回 | 面接における「明確な教育観・教職観・学校観のアピール」の実際 | 模擬授業 |
| 第15回 | 面接における「場面指導」の実際 | 模擬授業 |

定期試験

【授業時間外の学習】

教育観・教職観・学校観の「論題」を事前に知らせておくので、授業までにまとめておくこと。
場面指導についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。
模擬授業で取り上げる題材についても事前に知らせておくので、具体的な指導を練習しておくこと。
～ で学習したことを、「教職専門演習ノート」に整理しておくこと。
毎日、最低でも30分以上の時間を上記4点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。

【成績の評価】

到達目標 ～ について各4段階評価したものを点数化し評価の基礎データとします。
到達目標 (25%)、到達目標 「教職専門演習ノート」(50%)、到達目標 「模擬面接・討論・授業」(25%)
しかし、本来、点数化になじまない授業内容ですので、授業態度（教職に向けての意欲が現れているか）を大事にして総合的に評価します。
評価したものは、授業時間外に実施する教員採用試験対策講座の面接指導等に反映します。

【使用テキスト】

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（東洋館出版、2018年）
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説 総則編・特別活動編』（東洋館出版社、2018年）
- 他、小学校学習指導要領解説 各教科
- その他、授業において、文献資料等を配布します。

【参考文献】

- ・協同教育研究会編『香川県教員試験「過去問」シリーズ 香川県の論作文・面接 2020年度版』（共同出版、2018年）
- ・野口芳宏『教員採用試験 シリーズ2020年度版「模擬授業・場面指導」』（一ツ橋書店、2018年）
- ・沖山吉和編者『教員採用 シリーズ2020年度版「教育論作文」』（一ツ橋書店、2018年）
- ・現代教職研究会編者『教員採用試験 シリーズ2020年度版「30秒アピール面接」』（一ツ橋書店、2018年）

科目名： < KYOU1 > 国語指導法研究
担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

「国語指導法研究」は、小学校の国語教育の全領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を、その目的、内容評価について、原理原論的立場からと、実践的立場からの両面について考えます。「国語指導法研究」の授業では、「学位授与の方針」にある「教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解」「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することの「知識を幅広く体系的に理解」に重きを置きます。この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小学校の教育現場での授業や教育研究会での公開授業・提案発表の経験を生かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【到達目標】

国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、国語科の全領域を指導するために必要な指導力を明らかにします。様々な学習指導理論を検討し、確かな理論に基づく指導を展開できる実践的実践力の向上をめざします。「学位授与の方針」にある「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することの基礎として、次の3点を到達目標とします。

学習指導要領における国語科の目標・主な内容・全体構造を理解できる。
PISA調査で明らかになった「読解力」の課題と、新学習指導要領改訂への繋がりを理解できる。
具体的な指導場面を通して、「思考力・判断力・表現力」を育成する授業のあり方を考えることができる。

【授業計画】

- 第1回：ガイダンス（授業のすすめ方、実践記録を読むことの必要性、「百人一首」札取りの分担）
 - 第2回：PISA調査と「読解力」（1）PISA調査の概要と日本の児童生徒の課題
 - 第3回：PISA調査と「読解力」（2）PISA2003年調査以降の「読解力」向上の施策
 - 第4回：国語科の全体構造と新旧学習指導要領の比較
 - 第5回：「話すこと・聞くこと」の理論（「思考力・判断力・表現力」と「知識及び技能」）
 - 第6回：「話すこと・聞くこと」の実際（1）「思考力・判断力・表現力」を身につける「言語活動例」
 - 第7回：「話すこと・聞くこと」の実際（2）「言語活動例」を通じた「知識及び技能」の指導
 - 第8回：「書くこと」の理論（「思考力・判断力・表現力」と「知識及び技能」）
 - 第9回：「書くこと」の実際（1）「思考力・判断力・表現力」を身につける「言語活動例」
 - 第10回：「書くこと」の実際（2）「言語活動例」を通じた「知識及び技能」の指導
 - 第11回：「読むこと」の理論（「思考力・判断力・表現力」と「知識及び技能」）
 - 第12回：「読むこと」の実際（1）「思考力・判断力・表現力」を身につける「言語活動例」
 - 第13回：「読むこと」の実際（2）「言語活動例」を通じた「知識及び技能」の指導
 - 第14回：国語科における「主体的・対話的で深い学びの実現を図る」デジタル教科書の活用
 - 第15回：これからの読書指導（大村はま実践とアニメーション等）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・国語科教育の実践記録を読み、指導理論・方法についてまとめる（毎月：A41枚1400字程度）
- ・小学校の配当漢字に関するテストを毎回実施します。読み・筆順等の学習を行って来てください。また、学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください。
- 毎日、最低でも30分以上の時間を上記2点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。

【成績の評価】

- ・期末試験を基本とし(80%)、実践記録感想文等の提出物(10%)、授業への取り組み・授業態度(10%)等を併せ総合的に評価します。定期試験は後期授業に返却、解説し内容の定着を図ります。

【使用テキスト】

- ・『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』（東洋館出版、2018年）
- ・『新編 あたらしいこくご』（一上～六上）（東京書籍、令和2年版）

【参考文献】

- ・教師修行9 国語の授業が楽しくなる（向山洋一著、明治図書、1986年）
- ・読解力を高める国語科授業の改革 PISA型読解力を中心に（鶴田清司著、明治図書、2008年）
- ・国語科授業批判（宇佐見寛著、明治図書、1986年）

科目名： < KYOU2 > 国語指導法研究
担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

「教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている（卒業認定・学位授与の方針の一部）」の「実践」に関わる授業です。国語科の全領域を、実際に教壇に立った際に指導できるために必要な実践的指導力のトレーニングを行います。その活動を通して、「思考力・判断力・表現力」の育成を検討します。この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小学校の教育現場での授業や教育研究会での公開授業・提案発表の経験を生かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【到達目標】

模擬授業等の活動を通し、「学位授与の方針」にある「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することとして、次の実践的指導力を身に付けることができる。

1. 目標を明確にした授業略案と板書計画案をそれぞれA4用紙1枚程度に表すことができる。
2. 発問・指示・説明(指導言)を吟味し、揺れのない明確な指導言を発することができる。
3. 必要な教材教具の準備ができ、授業において効果的に活用できる。

【授業計画】

第1回：学習計画説明（「範読」「音読指導」「話すこと・聞くことの指導」「漢字指導」「模擬授業」の分担）
第2回：教科書教材の「範読」（1）音読・朗読における「知識及び技能」 学生による「範読」活動
第3回：教科書教材の「範読」（2）音読・朗読と「思考力・判断力・表現力」 学生による「範読」活動
第4回：「話すこと・聞くこと」の指導における「知識及び技能」 学生による模擬授業
第5回：「話すこと・聞くこと」の指導における「思考力・判断力・表現力」 学生による模擬授業
第6回：「話すこと・聞くこと」の振り返り 指導技術と評価のあり方 デジタル教科書の活用
第7回：「音読指導」における「知識及び技能」 学生による模擬授業
第8回：「音読指導」における「思考力・判断力・表現力」 学生による模擬授業
第9回：「音読指導」の振り返り 指導技術と評価のあり方 デジタル教科書の活用
第10回：「漢字指導」における「知識及び技能」 学生による模擬授業
第11回：「漢字指導」における「思考力・判断力・表現力」 学生による模擬授業
第12回：「漢字指導」の振り返り 指導技術と評価のあり方 デジタル教科書の活用
第13回：教科書教材を用いた模擬授業（1）「知識及び技能」に関わる指導
第14回：教科書教材を用いた模擬授業（2）「思考力・判断力・表現力」の指導
第15回：教科書教材を用いた模擬授業の振り返り 指導技術と評価のあり方 デジタル教科書の活用
定期試験

【授業時間外の学習】

模擬授業に関する資料参照、学習指導案作成のアドバイス等オフィスアワーを含め随時対応しますので、空き時間を利用して、積極的に実践的指導力の向上を図ってください。空き時間等に学友と模擬授業を見せ合い、多様な視点からの授業づくりに心がけてください。学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください。毎日、最低でも30分以上の時間を の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねてください。

【成績の評価】

「話すこと・聞くこと」「音読」「漢字」「百人一首」の各指導(10%)、「模擬授業」(50%)の評価を基本とし、授業への取り組み・授業態度(10%)等を併せ総合的に評価します。各指導・模擬授業は授業において随時、評価・解説し、改善点等を示します。

【使用テキスト】

- ・『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）国語編』（東洋館出版、2018年）
- ・『新編 あたらしいこくご（一上～六上）』（東京書籍、令和2年版）

【参考文献】

- ・教育新書1 授業の腕を上げる法則（向山洋一著、明治図書、1985年）
- ・教員採用試験 シリーズ「模擬授業・場面指導」（野口芳宏著、一ツ橋書店、2016年）

科目名： < KYOU3 > 社会科指導法研究

担当教員： 野村 一夫

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。教育行政と小学校教員の経験を踏まえ、学校の実情に即した指導の在り方を追究します。

本授業では、小学校学習指導要領に示された社会科の目標、内容及び内容の取扱いを踏まえた授業設計や教材の開発、指導法、評価等についての基礎的な理解と実践力の育成を図り、小学校教員としての資質・能力の基礎を培うことを目指します。具体的には、教科書や実践記録等の分析を通じて単元構想、指導計画、教材開発、授業の展開及び評価等に関する理解を深め、学習指導案を作成します。

【到達目標】

小学校社会科の基礎的な指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計ができる。

- 1) 小学校社会科の目標、内容、方法及び評価について理解し、児童の発達段階を踏まえその特色を述べるができる。
- 2) 学年の目標、内容及び内容の取扱いを踏まえ、単元構想を立てることができる。
- 3) 指導案作成の意義と基本を理解し、単元構想を具現化する学習指導案を作成することができる。
- 4) 児童の発達段階や学習内容を理解し、個別・最適化を図る情報機器等の活用方法を述べるができる。
- 5) 地図や地球儀、資料等の特色を理解し、活用方法を述べるができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（小学校社会科学習のイメージ）
 - 第2回 小学校社会科の目標と内容及び内容の取扱い：解説の構成と読み方
 - 第3回 教科書や副読本、資料、地図、地球儀の役割と活用
 - 第4回 情報機器及び映像資料等の特色と活用
 - 第5回 単元構想と問題解決的な学習の進め方
 - 第6回 地域教材の開発と観察や見学・調査など体験的な学習の進め方
 - 第7回 国土と産業学習の進め方
 - 第8回 歴史学習の進め方
 - 第9回 教科書及び実践記録等の分析（第3学年）
 - 第10回 教科書及び実践記録等の分析（第4学年）
 - 第11回 教科書及び実践記録等の分析（第5学年）
 - 第12回 教科書及び実践記録等の分析（第6学年）
 - 第13回 単元構想と学習指導案の作成方法
 - 第14回 単元構想と学習指導案の作成
 - 第15回 単元構想と学習指導案の相互評価
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- 1) 新聞やニュース、旅行先、身近な地域などで気にかかる社会事象や社会問題を収集し、「教材スクラップブック」を作成すること。（全30時間）
- 2) 学修中に課したワークシートの記述内容を振り返り、ノート等に整理しておくこと。（毎2時間）

【成績の評価】

学修内容の理解度はもとより、学修に対する意欲と態度を評価します。

授業中に作成するリフレクションペーパー（20%）、教材スクラップブック（40%）、期末試験（40%）とします。

リフレクションペーパーは、返却の際に評価観点を解説します。

教材スクラップブックは、第14回に各自の作品について評価観点を解説します。

定期試験は、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編 平成30年 文部科学省

小学校教科書「新しい社会」3年、4年、5年上・下、6年上・下 令和2年 東京書籍

小学校教科書「楽しく学ぶ小学生の地図帳」 令和2年 帝国書院

【参考文献】

香川県小学校社会科教育研究会 社会に開かれた教育課程による2タイプの社会科学習 2019年 東洋館出版社

科目名： < KYOU4 > 社会科指導法研究

担当教員： 野村 一夫

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。教育行政と小学校教員の経験を踏まえ、学校の実情に即した指導の在り方を追究します。

本授業では、小学校学習指導要領に示された社会科の目標、内容及び内容の取扱いを踏まえた授業設計や教材の開発、指導法、評価等についての基礎的な理解に基づき、授業設計や学習指導、教材開発などの実践力を育成し、小学校教員としての資質・能力の基礎を培うことを目指します。学習指導案を作成し、模擬授業を通じ板書や発問、指導助言、学習形態などの在り方を検討します。

【到達目標】

小学校社会科の基礎的な指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計ができる。

- 1) 小学校社会科の目標、内容、方法及び評価について理解し、整理することができる。
- 2) 学年の目標、内容及び内容の取扱いを踏まえ、単元構想を立てることができる。
- 3) 指導案作成の意義と基本を理解し、単元構想を具現化する学習指導案を作成することができる。
- 4) 児童の発達段階や学習内容を理解し、教材・教具の最適な活用方法を述べることができる。
- 5) 模擬授業を通じて、授業改善の在り方を述べることができる。

【授業計画】

| | |
|------|---------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション（印象に残っている小学校社会科授業） |
| 第2回 | 各学年の目標、内容及び内容の取扱い |
| 第3回 | 模擬授業と授業改善：第3学年 地域社会の社会的事象 |
| 第4回 | 模擬授業と授業改善：第3学年 地域社会の社会的事象 |
| 第5回 | 模擬授業と授業改善：第4学年 地域社会の社会的事象 |
| 第6回 | 模擬授業と授業改善：第4学年 地域社会の社会的事象 |
| 第7回 | 模擬授業と授業改善：第4学年 地域社会の社会的事象 |
| 第8回 | 模擬授業と授業改善：第5学年 我が国の国土や産業 |
| 第9回 | 模擬授業と授業改善：第5学年 我が国の国土や産業 |
| 第10回 | 模擬授業と授業改善：第5学年 我が国の国土や産業 |
| 第11回 | 模擬授業と授業改善：第6学年 我が国の政治の働き |
| 第12回 | 模擬授業と授業改善：第6学年 我が国の歴史上の主な事象 |
| 第13回 | 模擬授業と授業改善：第6学年 我が国の歴史上の主な事象 |
| 第14回 | 模擬授業と授業改善：第6学年 グローバル化する世界と日本の役割 |
| 第15回 | 社会科指導の在り方：まとめ |

定期試験

【授業時間外の学習】

模擬授業に向け、教材研究を行い、学習指導案と資料等を作成すること。（計42時間）

担当模擬授業実施の際に指摘された事項を整理し、修正した学習指導案を提出すること。（計6時間）

模擬授業の相互評価で学んだことを毎回整理すること。（計12時間）

【成績の評価】

学修内容の理解度はもとより、学修に対する意欲と態度を評価します。

授業中に作成するリフレクションペーパー（20%）、修正学習指導案（40%）、期末試験（40%）とします。

リフレクションペーパーは、返却の際に評価観点を解説します。

修正学習指導案は、評価観点を説明します。

定期試験は、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編 平成30年 文部科学省

小学校教科書「新しい社会」3年、4年、5年上・下、6年上・下 令和2年 東京書籍

小学校教科書「楽しく学ぶ小学生の地図帳」 令和2年 帝国書院

【参考文献】

香川県小学校社会科教育研究会 社会に開かれた教育課程による2タイプの社会科学習 2019年 東洋館出版社

教員養成コンソーシアム四国編集 『博物館等の活用の手引き』

科目名： < KYOU5 > 算数指導法研究

担当教員： 環 修

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小・中・高等学校での学校現場指導及び、教育委員会での行政指導の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。また、算数科の授業に必要な知識や技能を幅広く体系的に知り、算数・数学の見方・考え方に触れることで、豊かな人間性や主体的に生きる力を育てていきます。また、グループでの指導案作成や検証により、子どものつまずきを考えたり、その対応を考えたりすることで、子どもにとって分かりやすい指導のあり方を身に付けていきます。

【到達目標】

- ・ 学習指導要領における算数科の目標、内容及び全体構造を理解することができる。
- ・ 楽しい、分かる授業ができるようになるためのポイントを把握できる。
- ・ 魅力ある算数科の授業ができるための教材研究のあり方を理解することができる。
- ・ 算数教育に必要な知識を体系的に整理し、実践と関係づけて理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：算数・数学教育の意義
 - 第2回：算数・数学教育の現状と課題（全国学力・学習状況調査）
 - 第3回：学習指導要領の目標と内容（数と計算）
 - 第4回：学習指導要領の目標と内容（測定）
 - 第5回：学習指導要領の目標と内容（図形）
 - 第6回：学習指導要領の目標と内容（変化と関係）
 - 第7回：学習指導要領の目標と内容図形（データの活用）
 - 第8回：楽しい、分かる授業をするためのポイント（心構え、表情・話し方、発問、助言）
 - 第9回：楽しい、分かる授業をするためのポイント（指名、発言の取り上げ方、机間指導、）
 - 第10回：楽しい、分かる授業をするためのポイント（板書、ノート指導、グループ学習）
 - 第11回：課題解決学習
 - 第12回：主体的・対話的で深い学びをめざす授業のあり方
 - 第13回：学習指導案作成のポイント（数と計算）
 - 第14回：学習指導案作成のポイント（図形）
 - 第15回：学習指導案作成のポイント（測定、変化と関係、データの活用）
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

- ・ 学習指導要領の領域や学年ごとの内容のまとめ作業を課題として行う。（30分）
- ・ 身近な生活の中での、算数・数学的に魅力ある教材を見つけ、授業実現の方法を考える。（30分）

【成績の評価】

- 受講態度（10%） 学習指導案（30%） 期末試験（60%）
- ・ 小テストを行うことで内容把握を細かく行う。
 - ・ 学習指導案については、コメントを記入し、状況把握を図る。
 - ・ 期末試験は、今後の対策についてのコメントを記入し、返却する。

【使用テキスト】

- ・ 文部科学省「小学校学習指導要領解説 算数編」（平成29年7月）
- ・ 新興出版社 啓林館 「わくわく算数（1～6年）」（平成31 検定済）

【参考文献】

- ・ 香川県教育委員会「さぬきの授業基礎・基本[改訂版]」（平成29年3月）

科目名： < KYOU6 > 算数指導法研究

担当教員： 環 修

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小・中・高等学校での学校現場指導及び、教育委員会での行政指導の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。また、算数科の授業に必要な知識や技能を幅広く体系的に知り、算数・数学の見方・考え方に触れることで、豊かな人間性や主体的に生きる力を育てていきます。また、グループや個人で学習指導案を作成し、それをもとに模擬授業を実施し、全体で検討を行います。

【到達目標】

- ・学習指導要領における算数科の目標、内容及び全体構造を理解することができる。
- ・算数科の教材をもとに、学習指導案を作成することができる。
- ・学習指導案をもとに、授業の基本的な技能を生かし、授業を展開することができる。
- ・算数科の学習評価の考え方を理解し、それを授業に生かすことができる。

【授業計画】

- 第1回：師範授業と授業討議
 - 第2回：模擬授業のための学習指導案づくり（数と計算）
 - 第3回：模擬授業と授業討議（数と計算）
 - 第4回：模擬授業のための学習指導案づくり（図形）
 - 第5回：模擬授業と授業討議（図形）
 - 第6回：模擬授業のための学習指導案づくり（測定）
 - 第7回：模擬授業と授業討議（測定）データの活用
 - 第8回：模擬授業のための学習指導案づくり（変化と関係）
 - 第9回：模擬授業と授業討議（変化と関係）
 - 第10回：模擬授業のための学習指導案づくり（データの活用）
 - 第11回：模擬授業と授業討議（データの活用）
 - 第12回：数学的活動を位置付けた学習指導案づくり
 - 第13回：数学的活動を位置付けた学習指導案にもとづく模擬授業
 - 第14回：模擬授業の総括
 - 第15回：教育実習への心構え
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

- ・学習指導要領の領域や学年ごとの内容のまとめ作業を課題として行う。（30分）
- ・身近な生活の中での、算数・数学的に魅力ある教材を見つけ、授業実現の方法を考える。（30分）

【成績の評価】

- 受講態度（10%） 学習指導案（20%） 模擬授業（20%） 期末試験（50%）
- ・小テストを行うことで内容把握を細かく行う。
 - ・学習指導案、模擬授業については、コメントを記入し、状況把握を図る。
 - ・期末試験は、今後の対策についてのコメントを記入し、返却する。

【使用テキスト】

- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 算数編」（平成29年7月）
- ・新興出版社 啓林館 「わくわく算数（1～6年）」（平成31 検定済）

【参考文献】

- ・香川県教育委員会「さぬきの授業基礎・基本[改訂版]」（平成29年3月）

科目名： < KYOU7 > 理科指導法研究

担当教員： 高木 由美子

【授業の紹介】

小学校教諭1種免許状を取得することを目的に、小学校理科の授業を実施するための基本的な内容を身につけるとともに、授業に役立つ理科的な実習ならびに教材研究の実習とその報告を作成する。授業に役立つ理科的な実習を一通り行ったのち、理科教材としての実験・観察について、教員と学生が相談して扱う対象を決め、全学生が実演し、その原理と教育的意味を報告し、そのあと検討の議論を行う。理科的な実習の成果はレポートに、教材研究の実験は実験カードにまとめる。

【到達目標】

- ・理科の観察・実験・実習の方法を理解し、その方法にもとづいて観察・実験・実習を行うことができる。
- ・取り上げられた物理・化学・生物・地学の各トピックの基礎的な概念を身に着け、実習・実験の考察に使用できる。
- ・簡単な探究的な課題に取り組み、そのレポートを書くことができる。
- ・実験を行う上での安全への適切な配慮を示すことができる。
- ・理科室の管理・運営に関する基本的な理解をもって行動することができる。
- ・理科授業において効果的な実験教材を限られた期間内に準備して予備実験を済ませ、実際に演示しわかりやすく説明し、カードを作成することができる。

【授業計画】

1. 授業内容説明、授業前アンケート実施
2. 理科室の基本的な運営管理方法について
3. 化学分野（実験1：化学の概要、実験器具の基本操作）
4. 化学分野（実験2：物の燃え方と空気）
5. 化学分野（実験3：水溶液の性質とはたらき）
6. 化学分野（実験4：マイクロスケール実験）
7. 物理分野（もののおもさとてんびん）
8. 生物分野（レポートの書き方・光学顕微鏡の操作方法、花粉の観察）
9. 地学分野（日なたと日かげの温度調べ）
10. 実施実験についての検討・予備実験
11. 物理分野演示実験
12. 化学分野演示実験
13. 生物分野演示実験
14. 地学分野演示実験
15. アンコール実験、まとめ

【授業時間外の学習】

理科教材実験は全員をグループに分け、2人または3人で授業時間外に行う予備実験によって、選んだ実験を追試・改良または開発し、授業時間内に実演する。演示が終わった実験については、授業時間外にその内容を実験カードにまとめ、翌週までに提出する。

【成績の評価】

出席点、課題レポート、理科カードなどを総合評価し単位を認定する。演示した実験の教育的意義、難易度、実施できた水準、原理の考察の度合い、演示におけるコミュニケーション力などを総合判断して評価する。無断欠席またはレポート未提出があれば単位を認定しないことがある。

【使用テキスト】

理科実験はテキストを配布する。教材実験は、図書館の教材、インターネットに掲載されている実験などを参考とする。

【参考文献】

科目名： < KYOU8 > 理科指導法研究

担当教員： 高木 由美子

【授業の紹介】

教育実習の前に身につけておくべきことの習得を目指して、理科の単元案及び授業案を作成し、模擬授業を行うまでの実践力を育くむ。

分野ごとにどの単元案をつくるか決める。学生がそれぞれの単元の実践例などで参考になるものを探し、それと教科書の流れを比較し、その違いについてまとめて報告する。単元案を作成して報告する。また、模擬授業を行うところを選び、その指導案を作成し、模擬授業を行って、その内容について議論し、より良い指導案に改善することによって授業を行うにあたって教師が考えるべきことについて学ぶ。

【到達目標】

・理科の単元案を、グループで相談しながら構想し、学習指導要領、教科書の内容の分析・検討を的確に行い、簡潔にまとめることができる。

・指導案及びその改善案を自身で作成する方法を学び、その学びを生かした模擬授業を行うことができる。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 単元案の作成法(教科書比較表および単元案のかき方)
3. 各分野で取り組む単元の決定
4. 比較表および単元案の発表の提案・議論
5. 比較表および単元案の発表の提案・議論
6. 比較表および単元案の発表の提案・議論
7. 比較表および単元案の発表の提案・議論
8. 比較表および単元案の発表の提案・議論
9. 比較表および単元案の発表の提案・議論
10. 各自が行う模擬授業の分野決定・指導案の作成
11. 模擬授業の実施およびその授業検討
12. 模擬授業の実施およびその授業検討
13. 模擬授業の実施およびその授業検討
14. 模擬授業の実施およびその授業検討
15. 模擬授業の実施およびその授業検討

【授業時間外の学習】

・履修者の人数に合わせて6つのグループを作り、グループごとに「比較表」と「単元表」を各教科作成する。授業時間内には、提出されたものに基づいて検討し、議論を進める。

・議論されたことをふまえて、授業終了後に各グループで再び検討し、「比較表」と「単元表」を完成させ、期限までに提出する。

・模擬授業は一人一回担当し、指導案作成は事前に行い、模擬授業に取り組む。

・模擬授業を行う前に、予備実験や必要な教材の準備などを実施する。

【成績の評価】

作成した「比較表」「単元表」「指導案」の内容および発表・模擬授業における生徒との応答の実際、討議における発言内容を総合的に判断して評価する。

【使用テキスト】

新編 新しい理科 3 - 6年 東京書籍

比較表、単元表の作成に使用した他の資料は該当部分を人数分コピーする。

【参考文献】

科目名： < KYOU9 > 生活科指導法研究

担当教員： 高橋 佳生

【授業の紹介】

生活科の学習指導を行う上で基本となる学習指導要領の目標や内容について理解を深めるために、花や野菜の栽培活動、生物の飼育活動、おもちゃづくり、地域のフィールドワークなど、体験重視、個性重視、学術連携を3本柱に、学校現場の実践例について、協議検討を重ねる。「わかる」から「できる」ための教育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力や実践的指導力を身に付けるようにする。なお、飼育・栽培活動は、当番を決めて責任を果たせるようにする。

【到達目標】

1. 小学校学習指導要領生活科における教科目標及び内容、指導上の留意点を理解できる。
2. 児童の意欲や思考力、判断力、表現力などの実態を視野に入れた授業づくりができる。
3. 学習指導案の構成を理解し、体験活動や個性を生かす学習指導案が作成できる。
4. 生活科教育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、実践に生かすことができる。

【授業計画】

- 第1回 生活科指導法オリエンテーション
- 第2回 生活科のねらいと内容
- 第3回 教科書の概要
- 第4回 年間指導計画の作成と単元計画の基本
- 第5回 各学年の目標及び内容のポイントと解説(1)学校と生活
- 第6回 内容(2)家庭と生活、(3)地域と生活
- 第7回 内容(4)公共物や公共施設の利用、(5)季節の変化と生活
- 第8回 内容(6)自然や物を使った遊び、(7)動植物の飼育・栽培
- 第9回 内容(8)生活や出来事の交流、(9)自分の成長
- 第10回 内容(5)の実際(フィールドワーク)
- 第11回 内容(7)の実際(飼育・栽培活動の準備)
- 第12回 内容(6)の実際(おもちゃ作り)
- 第13回 学習指導の進め方と授業参観
- 第14回 生活科と他教科・他領域との関連
- 第15回 まとめと評価
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ビオトープの整備・管理、栽培園の整備や野菜の栽培活動での水やり、草取り、収穫など当番活動を行う。(1時間)

【成績の評価】

小テスト(60%)やレポートや提出物(20%)、授業への参加態度、日常活動(20%)。
小テスト、レポートについては、その都度、結果を授業時間に説明、講評する。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領解説生活編(平成29年3月告示 文部科学省)
教科書「あたらしいせいかつ上、新しい生活下」東京書籍

【参考文献】

授業において適宜紹介、資料配布する。

科目名： < KYOU10 > 生活科指導法研究

担当教員： 高橋 佳生

【授業の紹介】

生活科の学習指導において教師に求められる視点は、児童主体の学習展開であり、児童が学びの対象である自然や社会等のように働きかけるとよいかについて、学ぶ児童の立場に立って支援・援助することである。「生活科指導法研究」の学修を基に、単元構想案及び学習指導案づくり、模擬授業の実施、その協議・検討を通して、生活科の学習指導についての力量、実践力を高めていく。また、課題に気付いて解決する力や社会に貢献できる力を身に付けるようにする。

【到達目標】

1. 体験活動、表現活動を通して、得られた気付きを質的に高める学習指導のあり方を理解するとともに、模擬授業を通して、児童主体の学習指導の視点を見付けることができる。
2. 小1プロブレムなどの問題を把握し、保幼小・小の具体的な連携の視点が理解できる。
3. 生活科指導法の学修を通して、その知識体系を実践と関連付けて理解できる。

【授業計画】

- 第1回 生活科の課題と学習指導要領改善の基本方針
- 第2回 学習指導案づくりに向けたグループ分けとグループごとの計画づくり
- 第3回 単元構想案づくりとグループ検討会
- 第4回 単元構想案の全体発表と討議
- 第5回 学習指導案づくり(1)、教材研究(教材・教具)
- 第6回 学習指導案づくり(2)、グループ別検討会
- 第7回 模擬授業及び研究討議(1)(グループ)
- 第8回 模擬授業及び研究討議(2)(グループ)
- 第9回 学習指導案の修正
- 第10回 模擬授業及び研究討議(全体)
- 第11回 模擬授業及び研究協議(全体)
- 第12回 生活科における地域連携
- 第13回 保幼小、小の連携における課題
- 第14回 総合的な学習の時間との関連
- 第15回 まとめ 生活科が小学校教育に果たす役割
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

学内の栽培園で、冬野菜の栽培活動を当番制で毎日行う。(水やり、草取り、肥料やり、収穫)(1時間)

【成績の評価】

小テスト(60%)や学習指導案、模擬授業、レポート(20%)、授業への参加態度、日常活動(20%)。小テスト、レポートは、その都度、結果を授業時間に説明、講評する。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領解説 生活編 (平成29年3月告示 文部科学省)
教科書「あたらしいせいかつ上、新しい生活下」東京書籍

【参考文献】

授業において適宜紹介、資料配布する。

科目名： < KYOU11 > 家庭科指導法研究

担当教員： 中村 真由美 (NAKAMURA Mayumi)

【授業の紹介】

家庭科は、家庭生活を中心とした生活を学習対象として、体験的・実践的に学習し、ひとりひとりがよりよく生きることを目標としている教科である。この授業では、家庭科の教科としての歴史の変遷や独自性を理解し、学習指導要領に示された目標、内容、指導上の留意点などを踏まえた上で、学習指導案を作成し、グループごとに模擬授業を行う。また、家庭科の授業において必要不可欠な調理及び被服製作実習の指導に必要な基礎的・基本的な知識や技能を、実習を交えて修得する。授業を通して、家庭科の指導に必要な資質である生活者としての視点と生活実践力を身につけようと継続的に学ぶ能力や実践的指導力を身につけるようにする。実習の授業の際には裁縫道具や布地などの資材、食材や白衣またはエプロン、三角巾、布巾などの準備が必要である。なお、この授業の受講前に「家庭」を履修しておくこと。

【到達目標】

1. 小学校学習指導要領における家庭科の目標及び内容、指導上の留意点を理解できる。
2. 家庭科教育における体験的・実践的学習の意義が理解できる。
3. 児童の意欲や認識、生活等の実態を視野に入れた授業計画を構想することができる。
4. 具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成し、模擬授業を実施することができる。
5. 児童の実践的・体験的な学習を展開するために必要な基礎的・基本的な知識や技能を修得することができる。

【授業計画】

- 第1回：ガイダンス（授業のねらいと進め方について）
- 第2回：小学校家庭科教育の変遷
- 第3回：小学校家庭科教育の意義とねらい及び内容
- 第4回：小学校家庭科の授業づくり（年間指導計画・ICT機器の活用方法）
- 第5回：「A 家庭生活と家族」「C 消費生活・環境」の学習内容及び教材研究
- 第6回：「B 衣食住の生活」衣生活分野及び住生活分野の学習内容及び教材研究
- 第7回：「生活を豊かにするための布を用いた製作」手縫いの基礎
- 第8回：「生活を豊かにするための布を用いた製作」ミシン縫いの基礎とティッシュケースの製作
- 第9回：「B 衣食住の生活」食生活分野の学習内容及び教材研究
- 第10回：ご飯と味噌汁の調理
- 第11回：ご飯と味噌汁の試食と評価
- 第12回：模擬授業の計画（教材研究・指導案作成）
- 第13回：第1グループの模擬授業及び授業観察
- 第14回：第2グループの模擬授業及び授業観察
- 第15回：小学校現場における家庭科の学習指導の要点
定期試験

【授業時間外の学習】

授業の予習、復習にはそれぞれ2時間以上の時間を費やすことが必要である。予習としては、次回の授業内容を確認し、その範囲のことを調べ、疑問点や気づいたこと等をノートにまとめておくこと（2時間）。復習として、授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、感想や意見、さらに関連して調べたことなどを記入しておくこと（2時間）。実習の授業については、予習として実習に必要な準備物は授業までに準備し、計画表を完成しておき、実習内容に必要な知識や技能について調べ、実習における自分の課題を確認しておくこと（2時間）。また、実習後は授業で学んだ技能を各自の生活で実践し、確実に修得するよう努力し、実施状況を記録しておくこと（2時間）。家庭科は家庭生活を中心とした生活に関わる内容を取り扱う教科であるため、各自が自立した生活主体者として暮らし、常に科学的な視点で日々の生活において問題を見出し、気づいたことはノートに書き留めておき、常に解決する努力をし続けること。

【成績の評価】

授業態度及び意欲（10%）、予習復習の課題（10%）、提出物の提出状況及びその内容（50%）、定期試験（30%）。

なお、提出物の提出期限を過ぎての提出及び未提出、事前連絡なしの遅刻、欠席は減点とする。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。被服製作及び調理実習については準備なしでの授業への出席は認めない。レポート等の課題については授業時間内またはオフィスアワーに解説する。定期試験の模範解答は教務課窓口で閲覧できるようにする。

【使用テキスト】

テキスト

- 「小学校学習指導要領解説 家庭編」,文部科学省,東洋館出版社,2017年
- 「新編 新しい家庭5・6年」,東京書籍,2020年
- 「楽しい家庭科ノート」,文教社,2020年

【参考文献】

- 「初等家庭科の研究－指導力につなげる専門性の育成」,大竹美登利 倉持清美著,萌文書林,2018年
 - 「小学校家庭科教育法」大竹美登利編纂,建帛社,2018年
- その他関連する参考文献については講義の中で適宜説明する。

科目名： < KYOU112 > 体育指導法研究

担当教員： 上野 耕平(UENO Kouhei)

【授業の紹介】

小学校学習指導要領「体育科」では、体育科の目標を「心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する」としています。つまり、小学校体育では児童のスポーツ愛好度を高めることを重視した授業を求めています。本授業では児童が「夢中になって取り組める授業づくり」ができる知識や技能を修得し、創造的な教材開発力と授業実践力を身に付けることをめざします。

【到達目標】

授業の到達目標及びテーマ

1. 小学校学習指導要領体育科における教科目標及び内容、指導上の留意点について説明できる。
2. 児童の意欲や思考力、判断力などの実態に応じた授業づくり・教材づくりができる。
3. 教育に係る資質向上に向けて、自らの体育授業を客観的に評価・反省し、継続的に学習することができる。
4. 「良い体育授業」の基礎的・内容的条件を踏まえ、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：スポーツ・運動の価値
 - 第3回：体育の目的
 - 第4回：体育の目標の変遷
 - 第5回：体育の学習指導要領
 - 第6回：良い体育授業の条件
 - 第7回：体育における指導・学習スタイル
 - 第8回：体育における教材と教具
 - 第9回：体育の学習評価
 - 第10回：体育授業の観察・評価の方法
 - 第11回：学習指導案づくり
 - 第12回：体育の模擬授業（体づくり：体ほぐしの運動）
 - 第13回：体育の模擬授業（体づくり：体の動きを高める運動）
 - 第14回：体育の模擬授業（器械運動：マット運動 接点技群）
 - 第15回：体育の模擬授業（器械運動：マット運動 翻転技群）
 - 第16回：体育の模擬授業（器械運動：跳び箱運動 切り返し系）
 - 第17回：体育の模擬授業（器械運動：跳び箱運動 回転系）
 - 第18回：体育の模擬授業（陸上運動：短距離走）
 - 第19回：体育の模擬授業（陸上運動：リレー）
 - 第20回：体育の模擬授業（ボール運動：ゴール型 宝取り鬼）
 - 第21回：体育の模擬授業（ボール運動：ゴール型 コロコロボール）
 - 第22回：体育の模擬授業（ボール運動：ゴール型 ハンドボール）
 - 第23回：体育の模擬授業（ボール運動：ネット型 キャッチバレーボール）
 - 第24回：体育の模擬授業（ボール運動：ネット型 ソフトバレーボール）
 - 第25回：体育の模擬授業（ボール運動：ベースボール型 キックベースボール）
 - 第26回：体育の模擬授業（表現運動：表現）
 - 第27回：体育の模擬授業（表現運動：フォークダンス）
 - 第28回：体育の模擬授業（保健：心の発達）
 - 第29回：体育の模擬授業（保健：心と体の相互の影響）
 - 第30回：授業のまとめと今後の課題の提示
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

次時の学習内容を予告するので、関連内容について参考資料等により予習してください。模擬授業の担当者は前時終了までに学習指導案を作成した上で教員のチェックを受けてください。模擬授業の準備はグループのメンバーで協力して行き責任を果たしてください。文部科学省HPにある小学生を対象とした指導モデルを参考に、毎週の担当者の授業と比較しながら振り返ることにより、2時間程度の復習をして下さい。

【成績の評価】

中間テスト（30%）、模擬授業の発表内容（30%）、模擬授業実施後のレポート（40%）で評価する。レポートは模擬授業を実施した次の週に全員で振り返りますので、それまでに必ず提出して下さい。

【使用テキスト】

テキストは特に使用せず、授業中に適宜資料を配付する。

【参考文献】

体育科教育学入門（高橋健夫ほか編著、大修館書店）2010年
小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説（平成29年3月公示 文部科学省）

科目名： < KYOU13 > 音楽指導法研究
担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

- ・児童が生活の中で音楽に親しみ味わえるようサポートするための授業を行なえる力を磨く。
- ・共通教材を用いたピアノの弾き歌いやリコーダー、指揮等の技能と共に必要な理論を修得する。また教材を研究し自ら指導案を作成、模擬授業や相互評価を行い実践的な流れを体験する。
- ・将来、教育現場において自ら継続的に学ぶことができるよう、個々に適応した準備や練習の工程を作成する。
- ・定期的に筆記、実技の小テストを行い進歩の様子をチェックする。次回授業の課題の予習は必須とする。

【到達目標】

1. 小学校学習指導要領に示された音楽科の教科の目標と第1から第3学年までの内容を理解できる。
2. 授業を円滑に行うために必要な演奏技術と音楽理論を修得し、教材となる曲を確実に演奏することができる。
3. 指導上の留意点を理解し、学習指導要領に忠実な指導案を作成できる。
4. 児童を導き評価を行うための聴く力（共通教材演奏時、音程やリズムの違いを判断できる力、こちよい響きを判定できる力）を身に付け、また適切な表現でコメントすることができる。
5. 教材と学習のねらいを的確に判断し、自ら継続的に学ぶ能力を獲得することができる。
6. 音楽教科の幅広く体系的な理解を礎に、具体的な授業の計画を行うことができる。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、ピアノ演奏技術の進捗調査（自由曲の演奏）
 - 第2回：学習指導要領に示された教科の目標と指導内容
 - 第3回：弾き歌いの指導（1）「うみ」ト長調と階名、拍子
 - 第4回：弾き歌いの指導（2）「日のまる」ヘ長調と階名、コードネームによる伴奏
 - 第5回：弾き歌いの指導（3）「春がきた」美しい発声法
 - 第6回：弾き歌いの指導（4）「虫のこえ」擬声語と打楽器による表現
 - 第7回：弾き歌いの指導（5）「うさぎ」日本古謡と陰音階
 - 第8回：弾き歌いの指導（6）「茶つみ」ヨナ抜き音階、手遊び、リズム打ち
 - 第9回：リコーダー奏法
 - 第10回：指揮法と器楽および声楽アンサンブル
 - 第11回：「音楽づくり」の意義と指導法
 - 第12回：「鑑賞」の教材研究と指導法、ICT機器の使用
 - 第13回：学習指導案の作成
 - 第14回：第1回模擬授業と振り返り、音楽科における学習評価の考え方について
 - 第15回：第2回模擬授業と振り返り、1～3学年の指導法についての総括
- 定期試験：筆記試験、実技試験（ピアノ弾き歌い）

【授業時間外の学習】

週に最低1時間以上、次回授業で取り上げる歌唱共通教材の譜読みをし、ピアノ伴奏の練習を行う。楽典上の疑問点をリストアップ、あるいは自分なりの曲の解釈をノートに纏めておく。学習指導案の草稿を作成し、授業後には念入りに修正を行い、より洗練されたものへと仕上げる。必要であれば教具を作成する。

【成績の評価】

定期試験-筆記（35%）、定期試験-実技（35%）、作成した学習指導案（10%）、予習・復習と授業に取り組む姿勢（20%）
実技の試験や発表に対する評価は個別に説明を行う。筆記試験や提出物は採点、添削の上返却する。

【使用テキスト】

小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠
(平成30年2月発行、初等科音楽教育研究会 編、音楽之友社)

【参考文献】

文部科学省「小学校学習指導要領解説 音楽編」平成29年7月

科目名： < KYOU14 > 音楽指導法研究
担当教員： 水嶋 育 (MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

- ・音楽指導法研究Ⅰで得た基礎能力にさらに磨きをかけ、また反復によって指導者としての資質を高める。
 - ・児童が生活の中で音楽に親しみ味わえるようサポートするための授業を行なえる力を磨く。
 - ・共通教材を用いたピアノの弾き歌いやその他の楽器、指揮等の技能と共に必要な理論を習得する。
- また教材を研究し自ら指導案を作成、模擬授業や相互評価を行い実践的な流れを体験する。
- ・将来、教育現場において自ら継続的に学ぶことができるよう、個々に適応した準備や練習の工程を作成する。また邦楽と洋楽の比較、他教科や特別活動との関連付けを通して視野の拡大と内容の理解を深め、幅広く音楽に係わるシーンを知っていく。
 - ・定期的に筆記、実技の小テストを行い進歩の様子をチェックする。次回授業の課題の予習は必須とする。

【到達目標】

1. 小学校学習指導要領に示された音楽科の教科の目標と第4から第6学年までの内容を理解できる。
2. 授業を円滑に行うために必要な演奏技術と音楽理論を修得し、教材となる曲を楽しむ（実技試験で滑らかに演奏する）ことができる。
3. 教材を多様な側面から研究し、自らのアイデアで学習指導案を作成できる。
4. 児童を導き評価を行うための聴く力（共通教材演奏時、音程やリズムの違いを判断する力、ここちよい響きを判定できる力）を身に付け、また適切な表現でコメントすることができる。
5. 教材と学習のねらいを的確に判断し、自ら継続的に学ぶ能力を獲得することができる。
6. 音楽教科の幅広く体系的な理解を礎に、具体的な授業の計画を行うことができる。
7. 学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深め、より豊かな指導へと結びつけることができる。

【授業計画】

- 第1回：学習指導要領に示された教科の目標と指導内容
 - 第2回：弾き歌いの指導（1）「とんび」美しい発声法
 - 第3回：弾き歌いの指導（2）「もみじ」へ長調と階名、（2部合唱への試み）
 - 第4回：弾き歌いの指導（3）「子もり歌」日本古謡、五音音階、（リコーダーとの重奏）
 - 第5回：弾き歌いの指導（4）「冬げしき」二部合唱、3拍子と抑揚の体得
 - 第6回：弾き歌いの指導（5）「おぼろ月夜」弱起、歌詞の理解と情景の味わい
 - 第7回：弾き歌いの指導（6）「われは海の子」二長調と階名、明瞭な発音、滑舌や発声のまとめ
 - 第8回：打楽器の奏法と指導法
 - 第9回：指揮法と器楽・声楽アンサンブル
 - 第10回：日本の伝統音楽と外国の民族音楽 ICT機器の使用
 - 第11回：音楽科と他教科、特別活動との関連
 - 第12回：「鑑賞」の教材研究と指導法、ICT機器の使用
 - 第13回：学習指導案の作成
 - 第14回：第1回模擬授業と振り返り、音楽科における学習評価の考え方について
 - 第15回：第2回模擬授業と振り返り、第4～6学年の指導法についての総括
- 定期試験

【授業時間外の学習】

週に最低1時間以上次回授業で取り上げる歌唱共通教材の譜読みをし、ピアノ伴奏の練習を行う。楽典上の疑問点をリストアップ、あるいは自分なりの曲の解釈をノートに纏めておく。学習指導案の草稿を作成し、授業後には念入りに修正を行い、より洗練されたものへと仕上げる。必要であれば教具を作成する。

【成績の評価】

定期試験-筆記（35%）、定期試験-実技（35%）、作成した学習指導案（10%）、予習・復習と授業に取り込む姿勢（20%）
実技の試験や発表に対する評価は個別に説明を行う。筆記試験や提出物は採点、添削の上返却する。

【使用テキスト】

小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠
（平成30年2月発行、初等科音楽教育研究会編、音楽之友社）

【参考文献】

文部科学省「小学校学習指導要領解説 音楽編-平成29年7月」

科目名： < KYOU15 > 図画工作指導法研究

担当教員： 速水 史朗(HAYAMI Shiro), 速水 規里(HAYAMI Misato)

【授業の紹介】

平面や立体（紙、粘土、木等の素材）の造形表現実習及び美術館の鑑賞などの活動を通して、作り出す喜び、美術にふれる楽しさを自身で体験する。「造形的な見方・考え方」を働かせるにはどうしてゆくかを、その体験から考察し図画工作の学習指導法に活かしてゆく。

その活動から、課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力を身につけ、教育（図画工作指導）の知識・能力や態度・指向性を修得する。

【到達目標】

・「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することをめざす」授業を行えるために、図画工作のいろいろな教育内容を適切に具体的に体験ができる。

・体験した中での問題点や課題に気づいて解決する力を身につけることをめざす。

・それをいろいろな場面にあてはめながら、「児童生徒一人一人が表現の楽しさを覚え、感性を働かせながらつくり出す喜びを味わい、造形的な能力を培い、豊かな情操を養う」という目標を持った指導方法を考察し、構築してゆく力を身につけることをめざす。

（図画工作指導法研究における教育目的、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された図画工作指導法研究の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることをめざす。）

【授業計画】

第1回：オリエンテーション、講師自己紹介、学生自己紹介(1)授業の方針と進め方の説明、次回授業の説明、学生の目的、要望の聞き取り

第2回：色彩構成(平面)(2)色紙による色彩構成、構図を考える

第3回：色彩構成(平面)(3)配色を考えながら構成制作

第4回：色彩構成、立体構成(4)色彩構成の完成、立体構成を考える

第5回：紙による立体構成(5)画用紙での立体造形 構成を考える

第6回：紙による立体構成(6)組み立て及び配色

第7回：絵を描く(人物・彩色)(7)友人を描く デッサン

第8回：絵を描く(人物・彩色)(8)彩色

第9回：美術の鑑賞(香川県立ミュージアム、市立美術館等)2時間(9)学芸員の説明を受けての美術の鑑賞

第10回：美術の鑑賞(香川県立ミュージアム、市立美術館等)2時間(10)学芸員の説明を受けての美術の鑑賞

第11回：提出課題の講評、粘土による造形(11)粘土の扱い方 立体の捉え方

第12回：粘土による造形(12)細かい部分の仕上げ(乾燥後焼成して返却)

第13回：学習指導案作成(13)粘土を使った授業の指導案作成

第14回：学習指導案作成(14)粘土を使った授業の指導案作成

第15回：コラージュ制作(15)印刷物を切り取りイメージの再構築(導入部分に模擬授業を行う)

第16回：コラージュ制作(16)再構築したイメージの張り込み

第17回：美術の鑑賞(香川県立ミュージアム、市立美術館等)2時間(17)学芸員の説明を受けての美術の鑑賞

第18回：美術の鑑賞(香川県立ミュージアム、市立美術館等)2時間(18)学芸員の説明を受けての美術の鑑賞、課外授業の考察

第19回：提出課題の講評、絵手紙(19)出す相手を決めて構図を考える

第20回：絵手紙(20)絵手紙作成

第21回：木のレリーフ制作(21)デザインを考える

第22回：木のレリーフ制作(22)木に図柄をうつし、掘り始める

第23回：木のレリーフ制作(23)木を彫る

第24回：木のレリーフ制作(24)木を彫る

第25回：木のレリーフ制作(25)彫り上げた作品に色を付ける

第26回：木のレリーフ制作(26)作品の色付けおよび仕上げ、展示、講評

第27回：抽象表現(27)花、動物など具体的な事象をどのように表すかの考察

第28回：抽象表現(28)絵の具色紙などを使って制作

第29回：前回の指導案の講評、学習指導案作成(29)前回の指導案の注意点を踏まえて、指導案作成

第30回：学習指導案作成及び講評(30)指導案作成及び発表

定期試験は実施しない。

美術の鑑賞は2時間となるため、原則として土曜日の3・4時限にて行う(補講)

【授業時間外の学習】

課題は原則授業の最後に提出。いろいろな課題をどの様に授業に活かしてゆくかを考え、疑問点問題点などを話し合いながら制作。次回の授業に必要な資料、アイデアスケッチなどを準備しておく。（15時間程度）

提出出来ない場合は、次回授業で提出になるので、各自持ち帰って完成すること。（12時間程度）

美術の鑑賞では、次回授業時に「鑑賞、学芸員の説明に対する感想、授業としてどう活かすか」などのレポート提出。（3時間程度）

授業に出席できない場合（実習、個人の理由ともに）課題もしくはレポートを提出。（3時間程度）

【成績の評価】

受講態度、課題提出状況、発表、授業に対する理解度等を総合的に判断します。

各課題・レポート（70%）、学習指導案（30%）

各課題については数回に分けて授業の冒頭もしくは授業中に個別に講評を行います。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領解説図画工作編（平成29年告示）

【参考文献】

なし

科目名： < KYOU16 > 外国語活動（英語）指導法研究

担当教員： 竹田 忠弘(TAKEDA Tadahiro), 藤井 昭洋(FUJII Akihiro)

【授業の紹介】

小学校外国語教育についての基礎的な知識・理解を深め、子どもの第二言語習得についての知識とその活用法を学び、授業実践に必要な基礎的な指導技術を修得する。知識・理解を深めるために、調べてきたことや準備してきたことを発表する授業形態をとり、知識の活用法や指導技術を身に付けるために、ペアワークやグループワークによる言語活動を学生自ら体験しながら学ぶ。

また、実際の授業づくりにも取り組む。講義、演習、実習を組み合わせ、主体的・対話的で深い学びになるよう、講義中心ではなくワークショップ中心の授業を行う。

【到達目標】

- ・小学校における外国語活動（英語）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付けることができる。
- ・英語を使ってコミュニケーションを図るための素地を児童に効果的に習得させることができる。
- ・英語の発音やアクセントなど、音声指導が確実にできる。
- ・小学校英語教育に求められる英語力を身に付けることができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

第2回 新学習指導要領（外国語活動）を読み解く（構成の変更、授業改善、目標や内容の具体化等）藤井

第3回 新学習指導要領（外国語活動）を読み解く（領域ごとの目標、知識及び技能について等）藤井

第4回 小学校外国語活動の基礎と実践（外国語活動の目標）藤井

第5回 小学校外国語活動の基礎と実践（中学年の発達段階と外国語）藤井

第6回 授業の構成の考え方、教材の扱い方 藤井

第7回 学級担任の役割 藤井

第8回 ゲームの仕方（ゲームの内容や目的を学ぶ）藤井

第9回 ゲームの仕方（ゲームの実践）竹田

第10回 英語との出会わせ方、英語と日本語との違い 竹田

第11回 文字の扱い方、2往復以上のやり取り 竹田

第12回 動作の取り扱い方・語彙の取り入れ方、絵本の効果的な扱い方 竹田

第13回 模擬授業の実践及び授業研究（指導案の書き方）竹田

第14回 模擬授業の実践及び授業研究（模擬授業の実践）竹田

第15回 模擬授業の実践及び授業研究（模擬授業のフィードバック）竹田

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

予習として、授業中に配付する小学校外国語活動指導法に係る資料に目を通すとともに、テキストの各回に実施する範囲を読み、内容を発表できるようにして授業に臨んでください。（2時間）また、復習として、授業中に体験した言語活動を自ら繰り返し練習するとともに、単語や熟語等の語彙やクラスルームイングリッシュ等の表現を暗記してください。（2時間）

【成績の評価】

「授業への関心・意欲・態度」30%、「レポート等、授業以外に課す課題」40%、「プレゼンテーション及び模擬授業」30%の3項目を総合的に評価します。レポート、プレゼンテーション及び模擬授業については、その都度フィードバックを行います。

なお、30分以上の遅刻は欠席とみなし、また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

【使用テキスト】

中学年用 はじめての小学校外国語活動 実践ガイドブック 新学習指導要領対応
(大城 賢、萬谷隆一編著、開隆堂、2017年)

【参考文献】

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説 外国語編及び外国語活動編
(平成29年3月 文部科学省)

科目名： < KYOU17 > 保育・教職実践演習（保・幼）

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko), 藤原 フサエ(FUJIWARA Fusae), 田中 美季(TANAKA Miki), 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi), 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi), 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi), 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi), 徳岡 大(TOKUOKA Masaru), 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu), 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員も担当する授業科目です。保育所、幼稚園等の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

本授業は教職課程やそれ以外の授業科目、あるいはその他の種々の理論的、実践的活動を通して、学生が身につけた豊かな心や創造力等の資質・能力が保育者に最小限必要なものとして形成され、有機的に統合されたかについて、個々の授業計画の中で確認するものです。そのため、1年次より記録してきた教職ポートフォリオの活用による振り返り、討議、現地調査、事例研究、ロールプレイング、演習などを通して定着を図ります。

なお、後期開講ですが、必要に応じて、前期にも時間を調整して実施することがあります。

【到達目標】

- (1) 幼稚園教員や保育士としての使命感や責任感、教育的愛情等を身に付けることができる。
- (2) 幼稚園教員や保育士としての社会性や対人関係能力を身に付けることができる。
- (3) 乳幼児についての理解や学級経営等に関する知識を身に付け、考え方や基礎的事項を例示することができる。
- (4) 教育課程・全体の指導計画等についての知識や保育内容の指導力を身に付けることをめざす。

【授業計画】

以下のように各回2コマ実施します。

- | | | |
|------|--|--------------|
| 第1回 | オリエンテーション・保育職を取り巻く現代の問題 本演習の目的と進め方 | 演習 |
| 第2回 | 社会性や対人関係能力に関する事項(1) 教員や保育士に求められるマナーや社会性(講義) | 模擬面接 |
| 第3回 | 実習の振り返りを通しての検討課題の抽出 講義 | 演習 |
| 第4回 | 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(1) 講義 | 演習 |
| 第5回 | 社会性や対人関係能力に関する事項(2) 講義 | 演習 |
| 第6回 | 保育内容の指導力に関する事項(1) 表現に関する保育方法や技術の検討(講義) | 演習 |
| 第7回 | 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(2) 講義 | 演習 |
| 第8回 | 乳幼児理解や保育経営等に関する事項(1) 特別な支援を必要とする乳幼児の理解(講義) | 演習 |
| 第9回 | 乳幼児理解や保育経営等に関する事項(2) 乳幼児の保護者との懇談 | 演習 |
| 第10回 | 乳幼児理解や保育経営等に関する事項(3) 講義 | 演習 |
| 第11回 | 保育内容の指導力に関する事項(2) 健康に関する保育方法や技術の検討(講義) | 演習 |
| 第12回 | 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(3) 講義 | 演習 |
| 第13回 | 社会性や対人関係能力に関する事項(3) 講義 | 演習(ロールプレイング) |
| 第14回 | 保育内容の指導力に関する事項(3) 講義 | 演習 |
| 第15回 | 保育職に求められる資質・能力 総括 | 演習 |
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

予習：授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及びテキスト・資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておきます。(1時間)

復習：授業内容を復習し、ノートに整理しておきます。また、各回について、ワークシート、授業後の感想、疑問、意見等をまとめて、指定期日までに提出します。(1時間)

【成績の評価】

受講状況(20%)、毎回のワークシート・課題についてのまとめ(80%)によって、総合的に評価します。たとえ、欠席であっても、毎回のワークシート、課題は必ず取り組み、提出します。

【使用テキスト】

必要に応じて資料を配付、または紹介します。

【参考文献】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

保育所保育指針解説(平成30年 厚生労働省)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年 内閣府、文部科学省、厚生労働省)

科目名： < KYOU18 > 教職実践演習（小）

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi), 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya), 七條 正典(SHICHIJO Masanori), 山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka), 堺 るり子(SAKAI Ruriko), 藤本 駿(FUJIMOTO Syun), 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke), 糸目 真也(ITOME Shinya)

【授業の紹介】

本授業は教職課程やそれ以外の授業科目、あるいはその他の種々の学修活動を通して、身に付けた資質・能力が教員として最小限必要なものとして形成され、有機的に統合されたかについて、個々の授業計画の中で確認するものである。1年次より記録してきた教職ポートフォリオの活用による振り返り、討議、現地調査、事例研究、ロールプレイング、演習などを通して「理論」と「実践力」の定着を図る。

なお、後期開講であるが、必要に応じて、前期にも時間を調整して実施することがある。

また、本授業は、実務経験のある教員も担当する授業科目で、小学校、特別支援学校等の現場での経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行う。

【到達目標】

1. 小学校の教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を身に付けることができる。
2. 小学校の教員としての社会性や対人関係能力を身に付けることができる。
3. 児童についての理解や学級経営等に関する知識を身に付け、基礎的経験をする。
4. 小学校の教育課程や指導についての知識や技能、指導力等を高めることができる。

【授業計画】

授業計画 以下のように各回2コマ実施します。

- | | | |
|------|---|----------------------|
| 第1回 | 社会性や対人関係能力に関する事項(1) 教員に求められるマナーや社会性 | 模擬面接 |
| 第2回 | 小学校の教育内容の指導力に関する事項(1) 小学校現場の課題把握 | 小学校教員との交流 |
| 第3回 | 教職を取り巻く現代的課題 本演習の目的と進め方 | 到達目標について討議、ワークシートの作成 |
| 第4回 | 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(1) 講話 | 教育実習を振り返って |
| 第5回 | 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項(2) 講話 | 現職教員と学校現場の課題について討議 |
| 第6回 | 使命感や責任感、教育的愛情に関する事項(3) 教育行政関係職員との討議 | 小学校管理職との討議 |
| 第7回 | 社会性や対人関係能力に関する事項(2) 保護者への対応(講話) | ロールプレイング |
| 第8回 | 社会性や対人関係能力に関する事項(3) 保護者の思い(講話) | 保護者との懇談会 |
| 第9回 | 児童理解や学級経営等に関する事項(1) 特別な支援を必要とする児童の理解(講話) | 同(演習) |
| 第10回 | 児童理解や学級経営等に関する事項(2) 学校、学級経営の理解(講話) | 新規採用教員等との懇談会 |
| 第11回 | 児童理解や学級経営等に関する事項(3) 学級経営計画について(講話) | 学級経営計画の作成、発表、討議 |
| 第12回 | 教育内容の指導力に関する事項(2) 教育課程の編成原理について(講話) | 年間指導計画の作成 |
| 第13回 | 教育内容の指導力に関する事項(3) 教科内容等の指導力について検討 | 模擬授業 |
| 第14回 | 教育内容の指導力に関する事項(4) 新しい教育方法や技術の検討 | 模擬授業 |
| 第15回 | 教員に求められる資質・能力のまとめ 求められる教師像のまとめ発表 | 総括 |
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

各回について、1時間程度の復習として、ワークシート、授業後の感想、疑問、意見等をまとめて、次回に提出する。

【成績の評価】

討議や発表における参加度(50%)や毎回のまとめ(30%)、ワークシート(20%)によって評価。まとめやワークシートは、その都度添削して授業時間に返却する。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領解説 総則編(平成29年3月告示 文部科学省)
教育小六法(平成30年 学陽書房)

【参考文献】

適宜紹介、資料として配付する。

科目名： < KYOU23 > 特別演習

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

本気で教員を目指しませんか。この授業は、4年次に小学校の教員採用試験を受験する学生を対象とした授業です。教員採用試験の2次試験対策の一環として位置づけ、小学校教諭に必要とされる教科の実践的指導力を身につけることをねらいとしています。模擬授業の相互評価を通して、教科の授業を指導する際に必要なスキルを身につけることに徹します。また、後期開講の「特別演習」、4年次の「特別演習」「教職専門演習」の授業も必ず受講してください。

本授業は、「学位授与の方針」にある「教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解」「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することの、「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することを向上させることをねらいとし、実務経験のある教員が担当します。小学校の教育現場での授業や教育研究会での公開授業・提案発表の経験を生かし、具体的な指導言（発問・指示・説明）を示しながら授業を行います。

【到達目標】

「学位授与の方針」にある「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することに関わる目標として、次の3つを設定します。

- ・ 小学校算数科・国語科の模擬授業を通して修得する技能として、
 - 1 授業場面において適切な発問・指示・説明ができる。
 - 2 授業場面において児童との適切な対応（応答）と評価ができる。
 - 3 国語科・算数科の本来の意味を押さえた教材研究と授業をすることができる。

【授業計画】

- | | | | |
|------|-------------------------------|-------------------------------|------------------|
| 第1回 | ガイダンス | 小学校算数科(3~6年生)の教材確認と模擬授業担当等の確認 | |
| 第2回 | 小学校算数科(3~6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価 | | 「百玉そろばん」実演 |
| 第3回 | 小学校算数科(3~6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価 | | 「百玉そろばん」実施(3名程度) |
| 第4回 | 小学校算数科(3~6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価 | | 「百玉そろばん」実施(3名程度) |
| 第5回 | 小学校算数科(3~6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価 | | 「百玉そろばん」実施(3名程度) |
| 第6回 | 小学校算数科(3~6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価 | | 「百玉そろばん」実施(3名程度) |
| 第7回 | 小学校算数科(3~6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価 | | |
| 第8回 | 小学校算数科(3~6年生)の教材を用いた模擬授業と相互評価 | | |
| 第9回 | 小学校国語科の教材を用いた模擬授業と相互評価 | | |
| | | (「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導) | |
| 第10回 | 小学校国語科の説明文教材を用いた模擬授業と相互評価 | | |
| 第11回 | 小学校国語科の説明文教材を用いた模擬授業と相互評価 | | |
| 第12回 | 小学校国語科の文学作品教材を用いた模擬授業と相互評価 | | |
| 第13回 | 小学校国語科の文学作品教材を用いた模擬授業と相互評価 | | |
| 第14回 | 小学校国語科の教材を用いた模擬授業と相互評価 | 百人一首の指導 | |
| 第15回 | 小学校国語科の教材を用いた模擬授業と相互評価 | 百人一首の指導 | |
- 毎時間の模擬授業において評価を行うので定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の3点は必ず準備しておくこと。

担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。

学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。

模擬授業担当前日までに「板書計画」「学習指導案(略案)」を担当教員に提出し、授業当日に受講者全員に配布できるよう準備すること。

毎日、最低でも30分以上の時間を の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。

【成績の評価】

模擬授業においては、「教員としての声」「子どもへの目線」「子どもへの対応・応答」(20%)、「発問・指示の明確さ」(20%)、「導入からの指導の流れ・リズム」(20%)、「指導の組み立て」「学習指導案の記述」(20%)、「板書」(20%)について4段階評価したものを基礎データとします。また、模擬授業への取り組み、授業検討での質疑応答などを併せて総合的に評価します。

毎回実施する模擬授業ごとに、上記の評価観点で評価コメントし、次時以降の模擬授業や「特別演習

- ・」の授業における活動に反映させます。

【使用テキスト】

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（東洋館出版、2018年）
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説 総則編』（東洋館出版、2018年）
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説 算数編』（日本文教出版、2018年）
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説 国語編』（東洋館出版、2018年）

【参考文献】

- ・野口芳宏 『教員採用試験 シリーズ2020年度版「模擬授業・場面指導」』（一ツ橋書店、2018年）1188円
- ・向山洋一 『教育新書1 授業の腕を上げる法則』（明治図書、1985年）860円

科目名： < KYOU24 > 特別演習

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

「特別演習」と同様、4年次に小学校教員採用試験を受験する学生を対象とした授業です。小学校教諭に必要とされる教科（主に社会科・理科）の実践的指導力を身につけます。それは、「学位授与の方針」にある「教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解」「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することの、「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することの向上に大きく関わります。

実際に教壇に立つ場面を想定して模擬授業を行い、相互評価を通して、教科の授業を指導する際に必要なスキルを身につけることに徹し、実務経験のある教員が担当します。小学校の教育現場での授業や教育研究会での公開授業・提案発表の経験を生かし、具体的な指導言（発問・指示・説明）を示しながら授業を行います。

この授業は、小学校教員採用試験の2次試験対策の一環として位置づけています。教員採用試験を受験する学生には必須の授業です。また、後期の「教職教養演習」、4年次の「特別演習」「教職専門演習」の授業とも関連が深いので、これらの授業も必ず受講してください。

【到達目標】

「学位授与の方針」にある「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することに関わる目標として、次の3つを設定します。

- ・小学校社会科・理科の模擬授業を通して修得する技能として、
 - 1 授業場面において適切な発問・指示・説明ができる。
 - 2 児童との対応（応答）場面において適切な声かけや評価ができる。
 - 3 社会科・理科の本来の意味を押さえた教材研究と学習指導案を作成することができる。

【授業計画】

| | | |
|------|------------------------|---------------------------|
| 第1回 | ガイダンス | 小学校社会科(3～6年生)の教材と模擬授業について |
| 第2回 | 小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価 | 教科書の資料(画像・絵図)の扱い |
| 第3回 | 小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価 | 資料(グラフ・表)の読ませ方 |
| 第4回 | 小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価 | 知識として身につけさせる内容 |
| 第5回 | 小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価 | 思考力を育成させる場面 |
| 第6回 | 小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価 | 「ねらい」を明確にする |
| 第7回 | 小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価 | 学習課題(めあて)の取り扱い |
| 第8回 | 小学校社会科の教材を用いた模擬授業と相互評価 | 10分間で授業を完結させる |
| 第9回 | ガイダンス | 小学校理科(3～6年生)の教材と模擬授業について |
| 第10回 | 小学校理科の教材を用いた模擬授業と相互評価 | 実験器具の準備と取り扱い |
| 第11回 | 小学校理科の教材を用いた模擬授業と相互評価 | 「予想」させる際の留意点 |
| 第12回 | 小学校理科の教材を用いた模擬授業と相互評価 | 「実験」させる際の留意点 |
| 第13回 | 小学校理科の教材を用いた模擬授業と相互評価 | 「結果の検証」をさせる際の留意点 |
| 第14回 | 小学校理科の教材を用いた模擬授業と相互評価 | 「ねらい」を明確にする |
| 第15回 | 小学校理科の教材を用いた模擬授業と相互評価 | 20分間で授業を完結させる |

毎回の模擬授業において評価を行うので定期試験は行わない。

【授業時間外の学習】

ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次のことは必ず準備しておくこと。

担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。

学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。

社会・理科の模擬授業担当前日までに、担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、模擬授業当日には「学習指導案」を受講者全員に配布できるよう準備すること。

毎日、最低でも30分以上の時間を の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。

【成績の評価】

模擬授業においては、「教員としての声」「子どもへの目線」「子どもへの対応・応答」(20%)、「発問・指示の明確さ」(20%)、「導入からの指導の流れ・リズム」(20%)、「指導の組み立て」「学習指導案の記述」(20%)、「板書」(20%)について4段階評価したものを基礎データとします。また、模擬授業への取り組み、授業検討での質疑応答などを併せて総合的に評価します。毎回実施する模擬授業ごとに、上記の評価観点で評価コメントし、次時以降の模擬授業や「特別演習」の授業における活動に反映させます。

【使用テキスト】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)』(東洋館出版、2018年)
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』(日本文教出版、2018年)
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』(東洋館出版、2018年)

【参考文献】

- ・常磐会学園大学教職教育研究会編『論作文と面接・模擬授業 教員採用試験のために』（大阪教育図書、2018年）2484円
その他、授業で適宜紹介します。

科目名： < KYOU25 > 特別演習

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

小学校教員採用試験の2次試験で実施される模擬授業に対応した授業です。受験する教員採用試験に対応します。

「特別演習」で培ったスキルをもとに、確かな学力を子どもたちに身につけさせられる実践的指導力を目指します。本授業は、「学位授与の方針」にある「教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解」「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」すること、「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することの向上に重点を置いています。

また、本授業は実務経験のある教員が担当します。小学校の教育現場での授業や教育研究会での公開授業・提案発表の経験を生かし、具体的な指導言（発問・指示・説明）を示しながら授業を行います。

【到達目標】

「学位授与の方針」にある「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することに関わる目標として、次の5つを設定します。

- 1 受験する教員採用試験の模擬授業についての情報を収集し熟知する。
- 2 授業場面において適切な発問・指示・説明ができる。
- 3 児童との対応(応答)場面において適切な声かけや評価ができる。
- 4 授業を構成する際に必要とされる基本的な教材研究ができる。
- 5 模擬授業を実施するにあたっての学習指導案、単元計画案を作成することができる。

【授業計画】

- | | | |
|------|----------------------------|-----------------------------|
| 第1回 | ガイダンス | 教員採用試験受験地の模擬授業に関する情報の収集と分析 |
| 第2回 | 教員採用試験受験地の模擬授業に関する情報の収集と分析 | |
| 第3回 | 教員採用試験受験地の模擬授業に関する情報の収集と分析 | |
| 第4回 | 過去問題による模擬授業の実践と相互評価 | (毎時間各1回以上) 学習指導者としての声と言葉遣い |
| 第5回 | 過去問題による模擬授業の実践と相互評価 | (毎時間各1回以上) 指導する際の立ち位置 |
| 第6回 | 過去問題による模擬授業の実践と相互評価 | (毎時間各1回以上) 机間指導の必要性 |
| 第7回 | 過去問題による模擬授業の実践と相互評価 | (毎時間各1回以上) 「修得」の際の指導 |
| 第8回 | 過去問題による模擬授業の実践と相互評価 | (毎時間各1回以上) 「活用」の際の指導 |
| 第9回 | 過去問題による模擬授業の実践と相互評価 | (毎時間各1回以上) 「板書」の構成(1) |
| 第10回 | 過去問題による模擬授業の実践と相互評価 | (毎時間各1回以上) 「板書」の構成(2) |
| 第11回 | 過去問題による模擬授業の実践と相互評価 | (毎時間各1回以上) 「めあて」の示し方(1) |
| 第12回 | 過去問題による模擬授業の実践と相互評価 | (毎時間各1回以上) 「めあて」の示し方(2) |
| 第13回 | 過去問題による模擬授業の実践と相互評価 | (毎時間各1回以上) 「まとめ」の示し方 |
| 第14回 | 過去問題による模擬授業の実践と相互評価 | (毎時間各1回以上) 10分間で授業を完結させる(1) |
| 第15回 | 過去問題による模擬授業の実践と相互評価 | (毎時間各1回以上) 10分間で授業を完結させる(2) |
- 毎回の授業において評価を行うので定期試験は行わない。

【授業時間外の学習】

ほぼ毎回模擬授業を担当することになるので、次の3点は必ず準備しておくこと。

担当する授業の単元に関わる教科書、教科書指導書のコピーを取ること。

学習指導要領、指導要領解説の関連部分を熟読し授業のねらいを明確にしておくこと。

模擬授業前日までに担当教員に「板書計画」「学習指導案(略案)」を提出し、授業当日に受講者全員に配布できるように準備すること。毎日、最低でも30分以上の時間をの学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。

【成績の評価】

点数評価になじまない科目ですので、模擬授業への取り組み、授業検討での質疑応答・意見など総合的に評価します。

模擬授業に関しては、「教員としての声」「子どもへの目線」「子どもへの対応・応答」(20%)、「発問・指示の明確さ」(20%)、「導入からの指導の流れ・リズム」(20%)、「指導の組み立て」「学習指導案の記述」(20%)、「板書」(20%)について4段階評価したものを基礎データとします。

毎回実施する模擬授業ごとに、上記の評価観点で評価コメントし、次時以降の模擬授業や「教職専門演習」の授業における活動に反映させます。

【使用テキスト】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)』(東洋館出版、2018年)
- ・協同教育研究会編『香川県教員試験「過去問」シリーズ 香川県の論作文・面接 2020年度版』(共同出版、2018年)1620円等、受験する教員採用試験の地域の過去問題集などを各自準備すること。

【参考文献】

適宜紹介します。

- ・野口芳宏『教員採用試験 シリーズ2020年度版「模擬授業・場面指導」』（一ツ橋書店、2018年）
- ・常磐会学園大学教職教育研究会編『論作文と面接・模擬授業 教員採用試験のために』（大阪教育図書、2018年）

科目名： < KYOU1 > 国語指導法

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

「国語指導法」は、小学校の国語教育の全領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を、その目的、内容評価について、原理原論的立場からと、実践的立場からの両面について考えます。「国語指導法」の授業では、「学位授与の方針」にある「教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解」「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することの、「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することに重きを置きます。この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小学校の教育現場での授業や教育研究会での公開授業・提案発表の経験を生かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【到達目標】

国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、国語科の全領域を指導するために必要な指導力を明らかにします。様々な学習指導理論を検討し、確かな理論に基づく指導を展開できる実践的実践力の向上をめざします。「学位授与の方針」にある「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することの基礎として、次の3点を到達目標とします。

学習指導要領における国語科の目標・主な内容・全体構造を理解できる。

PISA調査で明らかになった「読解力」の課題と、新学習指導要領改訂への繋がりを理解できる。

具体的な指導場面を通して、「思考力・判断力・表現力」を育成する授業のあり方を考えることができる。

【授業計画】

- 第1回：ガイダンス（授業のすすめ方、実践記録を読むことの必要性、「百人一首」札取りの分担）
 - 第2回：PISA調査と「読解力」（1）PISA調査の概要と日本の児童生徒の課題
 - 第3回：PISA調査と「読解力」（2）PISA2003年調査以降の「読解力」向上の施策
 - 第4回：国語科の全体構造と新旧学習指導要領の比較
 - 第5回：「話すこと・聞くこと」の理論（「思考力・判断力・表現力」と「知識及び技能」）
 - 第6回：「話すこと・聞くこと」の実際（1）「思考力・判断力・表現力」を身につける「言語活動例」
 - 第7回：「話すこと・聞くこと」の実際（2）「言語活動例」を通した「知識及び技能」の指導
 - 第8回：「書くこと」の理論（「思考力・判断力・表現力」と「知識及び技能」）
 - 第9回：「書くこと」の実際（1）「思考力・判断力・表現力」を身につける「言語活動例」
 - 第10回：「書くこと」の実際（2）「言語活動例」を通した「知識及び技能」の指導
 - 第11回：「読むこと」の理論（「思考力・判断力・表現力」と「知識及び技能」）
 - 第12回：「読むこと」の実際（1）「思考力・判断力・表現力」を身につける「言語活動例」
 - 第13回：「読むこと」の実際（2）「言語活動例」を通した「知識及び技能」の指導
 - 第14回：国語科における「主体的・対話的で深い学びの実現を図る」デジタル教科書の活用
 - 第15回：これからの読書指導（大村はま実践とアニメーション等）
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- ・国語科教育の実践記録を読み、指導理論・方法についてまとめる（毎月：A41枚1400字程度）
- ・小学校の配当漢字に関するテストを毎回実施します。読み・筆順等の学習を行って来てください。また、学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください。
- 毎日、最低でも30分以上の時間を上記2点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。

【成績の評価】

- ・期末試験を基本とし(80%)、実践記録感想文等の提出物(10%)、授業への取り組み・授業態度(10%)等を併せ総合的に評価します。定期試験は後期授業に返却、解説し内容の定着を図ります。

【使用テキスト】

- ・『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』（東洋館出版、2018年）
- ・『新編 あたらしいこくご』（一上～六上）（東京書籍、令和2年版）

【参考文献】

- ・教師修行9 国語の授業が楽しくなる（向山洋一著、明治図書、1986年）
- ・読解力を高める国語科授業の改革 PISA型読解力を中心に（鶴田清司著、明治図書、2008年）
- ・国語科授業批判（宇佐見寛著、明治図書、1986年）

科目名： < KYOU2 > 国語指導法

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

「教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できている（卒業認定・学位授与の方針の一部）」の「実践」に関わる授業です。

国語科の全領域を、実際に教壇に立った際に指導できるために必要な実践的指導力のトレーニングを行います。その活動を通して、「思考力・判断力・表現力」の育成を検討します。

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小学校の教育現場での授業や教育研究会での公開授業・提案発表の経験を生かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

【到達目標】

模擬授業等の活動を通し、「学位授与の方針」にある「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することとして、次の実践的指導力を身に付けることができる。

1. 目標を明確にした授業略案と板書計画案をそれぞれA4用紙1枚程度に表すことができる。
2. 発問・指示・説明(指導言)を吟味し、揺れのない明確な指導言を発することができる。
3. 必要な教材教具の準備ができ、授業において効果的に活用できる。

【授業計画】

- 第1回：学習計画説明（「範読」「音読指導」「話すこと・聞くことの指導」「漢字指導」「模擬授業」の分担）
 - 第2回：教科書教材の「範読」（1）音読・朗読における「知識及び技能」 学生による「範読」活動
 - 第3回：教科書教材の「範読」（2）音読・朗読と「思考力・判断力・表現力」 学生による「範読」活動
 - 第4回：「話すこと・聞くこと」の指導における「知識及び技能」 学生による模擬授業
 - 第5回：「話すこと・聞くこと」の指導における「思考力・判断力・表現力」 学生による模擬授業
 - 第6回：「話すこと・聞くこと」の振り返り 指導技術と評価のあり方 デジタル教科書の活用
 - 第7回：「音読指導」における「知識及び技能」 学生による模擬授業
 - 第8回：「音読指導」における「思考力・判断力・表現力」 学生による模擬授業
 - 第9回：「音読指導」の振り返り 指導技術と評価のあり方 デジタル教科書の活用
 - 第10回：「漢字指導」における「知識及び技能」 学生による模擬授業
 - 第11回：「漢字指導」における「思考力・判断力・表現力」 学生による模擬授業
 - 第12回：「漢字指導」の振り返り 指導技術と評価のあり方 デジタル教科書の活用
 - 第13回：教科書教材を用いた模擬授業（1）「知識及び技能」に関わる指導
 - 第14回：教科書教材を用いた模擬授業（2）「思考力・判断力・表現力」の指導
 - 第15回：教科書教材を用いた模擬授業の振り返り 指導技術と評価のあり方 デジタル教科書の活用
- 定期試験

【授業時間外の学習】

模擬授業に関する資料参照、学習指導案作成のアドバイス等オフィスアワーを含め随時対応しますので、空き時間を利用して、積極的に実践的指導力の向上を図ってください。

空き時間等に学友と模擬授業を見せ合い、多様な視点からの授業づくりに心がけてください。

学内で実施される「漢字能力検定」「日本語検定」を積極的に受検するなど、教科の指導を担えるだけの基礎的・基本的な学力を身につけるよう努力してください。

毎日、最低でも30分以上の時間を の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねてください。

【成績の評価】

「話すこと・聞くこと」「音読」「漢字」「百人一首」の各指導(10%)、「模擬授業」(50%)の評価を基本とし、授業への取り組み・授業態度(10%)等を併せ総合的に評価します。各指導・模擬授業は授業において随時、評価・解説し、改善点等を示します。

【使用テキスト】

- ・『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）国語編』（東洋館出版、2018年）
- ・『新編 あたらしいこくご（一上～六上）』（東京書籍、令和2年版）

【参考文献】

- ・教育新書1 授業の腕を上げる法則（向山洋一著、明治図書、1985年）
- ・教員採用試験 シリーズ「模擬授業・場面指導」（野口芳宏著、一ツ橋書店、2016年）

科目名： < KYOU3 > 社会科指導法

担当教員： 野村 一夫

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。教育行政と小学校教員の経験を踏まえ、学校の実情に即した指導の在り方を追究します。

本授業では、小学校学習指導要領に示された社会科の目標、内容及び内容の取扱いを踏まえた授業設計や教材の開発、指導法、評価等についての基礎的な理解と実践力の育成を図り、小学校教員としての資質・能力の基礎を培うことを目指します。具体的には、教科書や実践記録等の分析を通じて単元構想、指導計画、教材開発、授業の展開及び評価等に関する理解を深め、学習指導案を作成します。

【到達目標】

小学校社会科の基礎的な指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計ができる。

- 1) 小学校社会科の目標、内容、方法及び評価について理解し、児童の発達段階を踏まえその特色を述べることができる。
- 2) 学年の目標、内容及び内容の取扱いを踏まえ、単元構想を立てることができる。
- 3) 指導案作成の意義と基本を理解し、単元構想を具現化する学習指導案を作成することができる。
- 4) 児童の発達段階や学習内容を理解し、個別・最適化を図る情報機器等の活用方法を述べるができる。
- 5) 地図や地球儀、資料等の特色を理解し、活用方法を述べるができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（小学校社会科学習のイメージ）
 - 第2回 小学校社会科の目標と内容及び内容の取扱い：解説の構成と読み方
 - 第3回 教科書や副読本、資料、地図、地球儀の役割と活用
 - 第4回 情報機器及び映像資料等の特色と活用
 - 第5回 単元構想と問題解決的な学習の進め方
 - 第6回 地域教材の開発と観察や見学・調査など体験的な学習の進め方
 - 第7回 国土と産業学習の進め方
 - 第8回 歴史学習の進め方
 - 第9回 教科書及び実践記録等の分析（第3学年）
 - 第10回 教科書及び実践記録等の分析（第4学年）
 - 第11回 教科書及び実践記録等の分析（第5学年）
 - 第12回 教科書及び実践記録等の分析（第6学年）
 - 第13回 単元構想と学習指導案の作成方法
 - 第14回 単元構想と学習指導案の作成
 - 第15回 単元構想と学習指導案の相互評価
- 定期試験

【授業時間外の学習】

- 1) 新聞やニュース、旅行先、身近な地域などで気にかかる社会事象や社会問題を収集し、「教材スクラップブック」を作成すること。（全30時間）
- 2) 学修中に課したワークシートの記述内容を振り返り、ノート等に整理しておくこと。（毎2時間）

【成績の評価】

学修内容の理解度はもとより、学修に対する意欲と態度を評価します。

授業中に作成するリフレクションペーパー（20%）、教材スクラップブック（40%）、期末試験（40%）とします。

リフレクションペーパーは、返却の際に評価観点を解説します。

教材スクラップブックは、第14回に各自の作品について評価観点を解説します。

定期試験は、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編 平成30年 文部科学省

小学校教科書「新しい社会」3年、4年、5年上・下、6年上・下 令和2年 東京書籍

小学校教科書「楽しく学ぶ小学生の地図帳」 令和2年 帝国書院

【参考文献】

香川県小学校社会科教育研究会 社会に開かれた教育課程による2タイプの社会科学習 2019年 東洋館出版社

科目名： < KYOU4 > 社会科指導法

担当教員： 野村 一夫

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。教育行政と小学校教員の経験を踏まえ、学校の実情に即した指導の在り方を追究します。

本授業では、小学校学習指導要領に示された社会科の目標、内容及び内容の取扱いを踏まえた授業設計や教材の開発、指導法、評価等についての基礎的な理解に基づき、授業設計や学習指導、教材開発などの実践力を育成し、小学校教員としての資質・能力の基礎を培うことを目指します。学習指導案を作成し、模擬授業を通じ板書や発問、指導助言、学習形態などの在り方を検討します。

【到達目標】

小学校社会科の基礎的な指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計ができる。

- 1) 小学校社会科の目標、内容、方法及び評価について理解し、整理することができる。
- 2) 学年の目標、内容及び内容の取扱いを踏まえ、単元構想を立てることができる。
- 3) 指導案作成の意義と基本を理解し、単元構想を具現化する学習指導案を作成することができる。
- 4) 児童の発達段階や学習内容を理解し、教材・教具の最適な活用方法を述べることができる。
- 5) 模擬授業を通じて、授業改善の在り方を述べることができる。

【授業計画】

| | |
|------|---------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション（印象に残っている小学校社会科授業） |
| 第2回 | 各学年の目標、内容及び内容の取扱い |
| 第3回 | 模擬授業と授業改善：第3学年 地域社会の社会的事象 |
| 第4回 | 模擬授業と授業改善：第3学年 地域社会の社会的事象 |
| 第5回 | 模擬授業と授業改善：第4学年 地域社会の社会的事象 |
| 第6回 | 模擬授業と授業改善：第4学年 地域社会の社会的事象 |
| 第7回 | 模擬授業と授業改善：第4学年 地域社会の社会的事象 |
| 第8回 | 模擬授業と授業改善：第5学年 我が国の国土や産業 |
| 第9回 | 模擬授業と授業改善：第5学年 我が国の国土や産業 |
| 第10回 | 模擬授業と授業改善：第5学年 我が国の国土や産業 |
| 第11回 | 模擬授業と授業改善：第6学年 我が国の政治の働き |
| 第12回 | 模擬授業と授業改善：第6学年 我が国の歴史上の主な事象 |
| 第13回 | 模擬授業と授業改善：第6学年 我が国の歴史上の主な事象 |
| 第14回 | 模擬授業と授業改善：第6学年 グローバル化する世界と日本の役割 |
| 第15回 | 社会科指導の在り方：まとめ |

定期試験

【授業時間外の学習】

模擬授業に向け、教材研究を行い、学習指導案と資料等を作成すること。（計42時間）

担当模擬授業実施の際に指摘された事項を整理し、修正した学習指導案を提出すること。（計6時間）

模擬授業の相互評価で学んだことを毎回整理すること。（計12時間）

【成績の評価】

学修内容の理解度はもとより、学修に対する意欲と態度を評価します。

授業中に作成するリフレクションペーパー（20%）、修正学習指導案（40%）、期末試験（40%）とします。

リフレクションペーパーは、返却の際に評価観点を解説します。

修正学習指導案は、評価観点を説明します。

定期試験は、採点基準を説明します。

【使用テキスト】

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編 平成30年 文部科学省

小学校教科書「新しい社会」3年、4年、5年上・下、6年上・下 令和2年 東京書籍

小学校教科書「楽しく学ぶ小学生の地図帳」 令和2年 帝国書院

【参考文献】

香川県小学校社会科教育研究会 社会に開かれた教育課程による2タイプの社会科学習 2019年 東洋館出版社

教員養成コンソーシアム四国編集 『博物館等の活用の手引き』

科目名： < KYOU5 > 算数指導法

担当教員： 環 修

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小・中・高等学校での学校現場指導及び、教育委員会での行政指導の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。また、算数科の授業に必要な知識や技能を幅広く体系的に知り、算数・数学の見方・考え方に触れることで、豊かな人間性や主体的に生きる力を育てていきます。また、グループでの指導案作成や検証により、子どものつまずきを考えたり、その対応を考えたりすることで、子どもにとって分かりやすい指導のあり方を身に付けていきます。

【到達目標】

- ・学習指導要領における算数科の目標、内容及び全体構造を理解することができる。
- ・楽しい、分かる授業ができるようになるためのポイントを把握できる。
- ・魅力ある算数科の授業ができるための教材研究のあり方を理解することができる。
- ・算数教育に必要な知識を体系的に整理し、実践と関係づけて理解することができる。

【授業計画】

- 第1回：算数・数学教育の意義
 - 第2回：算数・数学教育の現状と課題（全国学力・学習状況調査）
 - 第3回：学習指導要領の目標と内容（数と計算）
 - 第4回：学習指導要領の目標と内容（測定）
 - 第5回：学習指導要領の目標と内容（図形）
 - 第6回：学習指導要領の目標と内容（変化と関係）
 - 第7回：学習指導要領の目標と内容図形（データの活用）
 - 第8回：楽しい、分かる授業をするためのポイント（心構え、表情・話し方、発問、助言）
 - 第9回：楽しい、分かる授業をするためのポイント（指名、発言の取り上げ方、机間指導、）
 - 第10回：楽しい、分かる授業をするためのポイント（板書、ノート指導、グループ学習）
 - 第11回：課題解決学習
 - 第12回：主体的・対話的で深い学びをめざす授業のあり方
 - 第13回：学習指導案作成のポイント（数と計算）
 - 第14回：学習指導案作成のポイント（図形）
 - 第15回：学習指導案作成のポイント（測定、変化と関係、データの活用）
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

- ・学習指導要領の領域や学年ごとの内容のまとめ作業を課題として行う。（30分）
- ・身近な生活の中での、算数・数学的に魅力ある教材を見つけ、授業実現の方法を考える。（30分）

【成績の評価】

- 受講態度（10%） 学習指導案（30%） 期末試験（60%）
- ・小テストを行うことで内容把握を細かく行う。
 - ・学習指導案については、コメントを記入し、状況把握を図る。
 - ・期末試験は、今後の対策についてのコメントを記入し、返却する。

【使用テキスト】

- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 算数編」（平成29年7月）
- ・新興出版社 啓林館 「わくわく算数（1～6年）」（平成31 検定済）

【参考文献】

- ・香川県教育委員会「さぬきの授業基礎・基本[改訂版]」（平成29年3月）

科目名： < KYOU6 > 算数指導法

担当教員： 環 修

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。小・中・高等学校での学校現場指導及び、教育委員会での行政指導の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。また、算数科の授業に必要な知識や技能を幅広く体系的に知り、算数・数学の見方・考え方に触れることで、豊かな人間性や主体的に生きる力を育てていきます。また、グループや個人で学習指導案を作成し、それをもとに模擬授業を実施し、全体で検討を行います。

【到達目標】

- ・学習指導要領における算数科の目標、内容及び全体構造を理解することができる。
- ・算数科の教材をもとに、学習指導案を作成することができる。
- ・学習指導案をもとに、授業の基本的な技能を生かし、授業を展開することができる。
- ・算数科の学習評価の考え方を理解し、それを授業に生かすことができる。

【授業計画】

- 第1回：師範授業と授業討議
 - 第2回：模擬授業のための学習指導案づくり（数と計算）
 - 第3回：模擬授業と授業討議（数と計算）
 - 第4回：模擬授業のための学習指導案づくり（図形）
 - 第5回：模擬授業と授業討議（図形）
 - 第6回：模擬授業のための学習指導案づくり（測定）
 - 第7回：模擬授業と授業討議（測定）データの活用
 - 第8回：模擬授業のための学習指導案づくり（変化と関係）
 - 第9回：模擬授業と授業討議（変化と関係）
 - 第10回：模擬授業のための学習指導案づくり（データの活用）
 - 第11回：模擬授業と授業討議（データの活用）
 - 第12回：数学的活動を位置付けた学習指導案づくり
 - 第13回：数学的活動を位置付けた学習指導案にもとづく模擬授業
 - 第14回：模擬授業の総括
 - 第15回：教育実習への心構え
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

- ・学習指導要領の領域や学年ごとの内容のまとめ作業を課題として行う。（30分）
- ・身近な生活の中での、算数・数学的に魅力ある教材を見つけ、授業実現の方法を考える。（30分）

【成績の評価】

- 受講態度（10%） 学習指導案（20%） 模擬授業（20%） 期末試験（50%）
- ・小テストを行うことで内容把握を細かく行う。
 - ・学習指導案、模擬授業については、コメントを記入し、状況把握を図る。
 - ・期末試験は、今後の対策についてのコメントを記入し、返却する。

【使用テキスト】

- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 算数編」（平成29年7月）
- ・新興出版社 啓林館「わくわく算数（1～6年）」（平成31 検定済）

【参考文献】

- ・香川県教育委員会「さぬきの授業基礎・基本[改訂版]」（平成29年3月）

科目名： < KYOU7 > 理科指導法

担当教員： 高木 由美子

【授業の紹介】

小学校教諭1種免許状を取得することを目的に、小学校理科の授業を実施するための基本的な内容を身につけるとともに、授業に役立つ理科的な実習ならびに教材研究の実習とその報告を作成する。授業に役立つ理科的な実習を一通り行ったのち、理科教材としての実験・観察について、教員と学生が相談して扱う対象を決め、全学生が実演し、その原理と教育的意味を報告し、そのあと検討の議論を行う。理科的な実習の成果はレポートに、教材研究の実験は実験カードにまとめる。

【到達目標】

- ・理科の観察・実験・実習の方法を理解し、その方法にもとづいて観察・実験・実習を行うことができる。
- ・取り上げられた物理・化学・生物・地学の各トピックの基礎的な概念を身に着け、実習・実験の考察に使用できる。
- ・簡単な探究的な課題に取り組み、そのレポートを書くことができる。
- ・実験を行う上での安全への適切な配慮を示すことができる。
- ・理科室の管理・運営に関する基本的な理解をもって行動することができる。
- ・理科授業において効果的な実験教材を限られた期間内に準備して予備実験を済ませ、実際に演示しわかりやすく説明し、カードを作成することができる。

【授業計画】

1. 授業内容説明、授業前アンケート実施
2. 理科室の基本的な運営管理方法について
3. 化学分野（実験1：化学の概要、実験器具の基本操作）
4. 化学分野（実験2：物の燃え方と空気）
5. 化学分野（実験3：水溶液の性質とはたらき）
6. 化学分野（実験4：マイクロスケール実験）
7. 物理分野（もののおもさとてんびん）
8. 生物分野（レポートの書き方・光学顕微鏡の操作方法、花粉の観察）
9. 地学分野（日なたと日かげの温度調べ）
10. 実施実験についての検討・予備実験
11. 物理分野演示実験
12. 化学分野演示実験
13. 生物分野演示実験
14. 地学分野演示実験
15. アンコール実験、まとめ

【授業時間外の学習】

理科教材実験は全員をグループに分け、2人または3人で授業時間外に行う予備実験によって、選んだ実験を追試・改良または開発し、授業時間内に実演する。演示が終わった実験については、授業時間外にその内容を実験カードにまとめ、翌週までに提出する。

【成績の評価】

出席点、課題レポート、理科カードなどを総合評価し単位を認定する。演示した実験の教育的意義、難易度、実施できた水準、原理の考察の度合い、演示におけるコミュニケーション力などを総合判断して評価する。無断欠席またはレポート未提出があれば単位を認定しないことがある。

【使用テキスト】

理科実験はテキストを配布する。教材実験は、図書館の教材、インターネットに掲載されている実験などを参考とする。

【参考文献】

科目名： < KYOU8 > 理科指導法

担当教員： 高木 由美子

【授業の紹介】

教育実習の前に身につけておくべきことの習得を目指して、理科の単元案及び授業案を作成し、模擬授業を行うまでの実践力を育む。

分野ごとにどの単元案をつくるか決める。学生がそれぞれの単元の実践例などで参考になるものを探し、それと教科書の流れを比較し、その違いについてまとめて報告する。単元案を作成して報告する。また、模擬授業を行うところを選び、その指導案を作成し、模擬授業を行って、その内容について議論し、より良い指導案に改善することによって授業を行うにあたって教師が考えるべきことについて学ぶ。

【到達目標】

・理科の単元案を、グループで相談しながら構想し、学習指導要領、教科書の内容の分析・検討を的確に行い、簡潔にまとめることができる。

・指導案及びその改善案を自身で作成する方法を学び、その学びを生かした模擬授業を行うことができる。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 単元案の作成法(教科書比較表および単元案のかき方)
3. 各分野で取り組む単元の決定
4. 比較表および単元案の発表表の提案・議論
5. 比較表および単元案の発表表の提案・議論
6. 比較表および単元案の発表表の提案・議論
7. 比較表および単元案の発表表の提案・議論
8. 比較表および単元案の発表表の提案・議論
9. 比較表および単元案の発表表の提案・議論
10. 各自が行う模擬授業の分野決定・指導案の作成
11. 模擬授業の実施およびその授業検討
12. 模擬授業の実施およびその授業検討
13. 模擬授業の実施およびその授業検討
14. 模擬授業の実施およびその授業検討
15. 模擬授業の実施およびその授業検討

【授業時間外の学習】

・履修者の人数に合わせて6つのグループを作り、グループごとに「比較表」と「単元表」を各教科作成する。授業時間内には、提出されたものに基づいて検討し、議論を進める。

・議論されたことをふまえて、授業終了後に各グループで再び検討し、「比較表」と「単元表」を完成させ、期限までに提出する。

・模擬授業は一人一回担当し、指導案作成は事前に行い、模擬授業に取り組む。

・模擬授業を行う前に、予備実験や必要な教材の準備などを実施する。

【成績の評価】

作成した「比較表」「単元表」「指導案」の内容および発表・模擬授業における生徒との応答の実際、討議における発言内容を総合的に判断して評価する。

【使用テキスト】

新編 新しい理科 3 - 6年 東京書籍

比較表、単元表の作成に使用した他の資料は該当部分を人数分コピーする。

【参考文献】

専門科目:実習の科目

| 科目 | 担当教員 |
|------------------------------|--------|
| <JISS1> 観察参加 I | 中塚 勝俊 |
| <JISS2> 観察参加 II | 中塚 勝俊 |
| <JISS5> 教育実習事前事後指導(幼) | 山田 純子 |
| <JISS6> 教育実習事前事後指導(小) | 峯 寛文 |
| <JISS7> 教育実習 I (幼稚園) | 山田 純子 |
| <JISS8> 教育実習 II (幼稚園) | 山田 純子 |
| <JISS10> 小学校教育実習 | 峯 寛文 |
| <JISS11> 特別支援教育実習(事前事後指導を含む) | 山口 明日香 |
| <JISS12> 保育実習 I | 川原 亜津美 |
| <JISS13> 保育実習指導 I - I | 川原 亜津美 |
| <JISS14> 保育実習指導 I - II | 川原 亜津美 |
| <JISS15> 保育実習 II | 川口 めぐみ |
| <JISS16> 保育実習指導 II | 川口 めぐみ |
| <JISS19> 保育実習 IV | 川原 亜津美 |
| <JISS20> 介護体験 | 山口 明日香 |
| <JISS3> 学校支援ボランティア I | 峯 寛文 |
| <JISS4> 学校支援ボランティア II | 峯 寛文 |
| <JISS5> 教育実習事前事後指導 I【幼】 | 山田 純子 |
| <JISS6> 教育実習事前事後指導 II【小】 | 峯 寛文 |
| <JISS7> 教育実習 I【幼】 | 山田 純子 |
| <JISS8> 教育実習 II【幼】 | 山田 純子 |
| <JISS10> 教育実習 IV【小】 | 峯 寛文 |

科目名： <JISS1> 観察参加

担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi), 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員も担当する授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

本学の特色の一つである実践力は直接保育現場に出向いての継続的長期的観察により、子どもと生活を共にする中で、園生活の様子や子どもの実態を体感することです。

子どもに話しかけたり一緒に遊んだりすることを通して、書物で学んだ子どもの発達を生で体験することにより、子どもについての理解が深まります。また、理論と実践の接点を見出すことが可能になるだろう。この授業を通して、より確かな子ども観や実践力の基礎を学びます。

【到達目標】

- ・幼稚園での観察・参加を通して、子供理解を深め保育の流れや保育活動に必要な知識技能を習得することができる。
- ・子ども達とどのようにかわり、そのかわりのどこをどのように観て記録するかについて理解することができる。

【授業計画】

| | |
|-----------|-----------------------------|
| 第1回～第2回 | オリエンテーション |
| 第3回～第4回 | 参加実習の意義・目的・形態・内容・方法 |
| 第5回～第6回 | 実習の心得・態度 |
| 第7回～第8回 | 観察園の概要について知る |
| 第9回～第10回 | 観察記録のとり方 |
| 第11回～第12回 | 観察の視点1・園の生活のリズムを理解する |
| 第13回～第14回 | 同上 |
| 第15回～第16回 | 観察の視点2・子どもと保育者の在り方 |
| 第17回～第18回 | 同上 |
| 第19回～第20回 | 観察の視点3・年齢への着目(3歳児の生活) |
| 第21回～第22回 | 同上(4歳児の生活) |
| 第23回～第24回 | 同上(5歳児の生活) |
| 第25回～第26回 | 観察の視点4・保育室・園庭の遊具と環境整理(安全管理) |
| 第27回～第28回 | 心に残った子どもの記録 |
| 第29回～第30回 | まとめ・参加実習で学んだこと |

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

毎時間のテーマ・観察目標を事前にチェックし、自分なりに目標達成のための工夫ポイントを用意して観察・参加に臨むこと。(2時間)観察結果について、提示された視点から考察を行う。その際、活動の羅列だけではなく客観と主観を重ねた保育観察記録を、次週までに仕上げ提出する。(2時間)

【成績の評価】

- ・観察記録(20%)、観察参加の態度(20%)、観察後の話し合いへの参加態度と意欲等(60%)を総合評価
- ・観察記録はクラス担任の先生のコメントが毎週返却されます。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

幼稚園実習 保育所・施設実習[第2版](2014年、ミネルヴァ書房、大豆生田啓友他(編))

科目名： < JISS2 > 観察参加

担当教員： 中塚 勝俊(NAKATSUKA Katsutoshi), 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員も担当する授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

この授業は観察参加 に続いての授業となるので、傍観者的観察者としてではなく、主体的なかかわり方を求めます。そこから、保育者としてのかかわり方やいろいろな遊び場面における環境構成の方法や、援助の在り方、さらに随時環境の再構成について学んでいきます。また、子どもの発達についても理解を深め、その期の保育のねらいと子どもの動き、配慮の仕方など実践的観察参加の中から学び取っていきます。

【到達目標】

- ・子どもの特性や発達への理解を深め、保育活動に必要な知識技能を修めることができる。
- ・教育実習に向けて継続的に学ぶ態度を身に付け、保育指導の計画立案能力を試みることができる。

【授業計画】

第1回～第2回 オリエンテーション
第3回～第4回 観察の視点・教師の役割について
第5回～第6回 同上
第7回～第8回 同上
第9回～第10回 配属クラスの観察
第11回～第12回 子どもの名前を覚えよう
第13回～第14回 その子らしさを感じよう
第15回～第16回 子どもの遊びに参加する
第17回～第18回 3歳児と話したり遊んだりする
第19回～第20回 4歳児と話したり遊んだりする
第21回～第22回 5歳児と話したり遊んだりする
第23回～第24回 環境構成の実際について
第25回～第26回 子ども同士のトラブルについて
第27回～第28回 生活指導への参加とそのポイント
第29回～第30回 まとめ・参加実習 で学んだこと
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

- ・毎時間のテーマ・観察目標を事前にチェックし、自分なりに目標達成のための工夫ポイントを用意して授業（観察参加）に臨む。（2時間）
- ・観察結果について記録にのみ留まることなく、背景や意図を探り、分析、考察する習慣を身につける。（2時間）
- ・日常的に子どもの言動に注意し、「子どもらしさ、子どもならではの...等」の気づきにメモをとる習慣をつけ、観察眼を生活の中で養う。

【成績の評価】

- ・観察記録（20%）、観察参加の態度（20%）、観察後の話し合いへの参加態度と意欲等（60%）を総合評価
- ・観察記録はクラス担任の先生のコメントが毎週返却されます。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

幼稚園実習 保育所・施設実習 [第2版] (2014年、ミネルヴァ書房、大豆生田啓友他(編))

科目名： < JISS5 > 教育実習事前事後指導（幼）

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

本授業は、教育実習を円滑に、より効果的にその目標を達成させるために行うものであり、実習の前後に講義・演習を行います。幼稚園教育実習の目的・目標・方法等の概要、実習の心得等の理解を深め、課題をもって実習に取り組みるように学びを深めていきましょう。また、保育に必要な知識・技能を取得しようとする意欲を高め、保育技術を身に付けることをめざします。保育・教育に携わる者として豊かな人間性を養うよう努めていきましょう。

【到達目標】

1. 事前指導では教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高めることができる。
 2. 事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解できる。
 3. これらのことを通して教育実習の意義を理解することができる。
- 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
- 教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解することができる。

【授業計画】

- | | |
|------|---------------------|
| 第1回 | 教育実習の意義と目的 |
| 第2回 | 教育実習の概要 |
| 第3回 | 保育実践の要件 |
| 第4回 | 保育を計画する 部分実習 |
| 第5回 | 保育を計画する 研究保育 |
| 第6回 | 保育の実践 |
| 第7回 | 実習日誌の実際 |
| 第8回 | 実習直前の準備と心得 |
| 第9回 | 教育実習の振り返り |
| 第10回 | 教育実習の振り返り（グループ協議） |
| 第11回 | 幼児同士のトラブルの対応（事例研究） |
| 第12回 | 実習日誌の作成 |
| 第13回 | 教育実習に向けて |
| 第14回 | 指導計画の作成 - 日案 |
| 第15回 | 保育の実践 部分保育 |
| 第16回 | 保育の実践 研究保育 |
| 第17回 | 教育実習の振り返り |
| 第18回 | 教育実習の振り返り（グループ協議） |
| 第19回 | 教育実習報告会に向けて |
| 第20回 | 教育実習報告会 |
| 第21回 | 教育実習報告会の反省と自己課題の明確化 |
| 第22回 | 幼児理解と援助（事例研究） |
| 第23回 | まとめと今後の課題 |
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておきます。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておきます。（各1時間）

部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出します。（10時間）
また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行います。（10時間）

【成績の評価】

課題・学習シートのまとめ（50%）、実習レポート（50%）

なお、教育実習事前事後指導は、教育実習及び教育実習と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。

ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取組み、提出します。

課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

【参考文献】

適宜、資料を配布します。

科目名： < JISS6 > 教育実習事前事後指導（小）

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi), 藤本 駿(FUJIMOTO Syun), 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

教育実習事前事後指導は、教育実習を円滑に、より効果的にその目標を達成させるために行うもので、実習の前後に講義・演習を行う。教育実習の目的・目標・方法等の概要、実習の心得等の理解を深め、課題をもって実習に取り組めるようにするとともに、教育活動に必要な知識・技能の修得をめざす。2年次に履修した「学校支援ボランティア」の体験を生かし、質の高い実践力、豊かな人間性や主体的に生きる力を身に付けることができるようにする。

【到達目標】

- 1．小学校教諭の業務や職業倫理について理解し、教師としての使命感や倫理観を培うことができる。
- 2．学校教育活動に必要な知識や判断力を修得することができる。
- 3．学習指導計画の作成・実践・記録・評価等を体験する中で、教師として必要な技能、実践力を修得することができる。
- 4．自己評価及び自己課題の明確化を通して豊かな人間性を育むことができる。

【授業計画】

授業計画

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 教育実習の意義と目的 |
| 第2回 | 教育実習の概要・心得・態度等 |
| 第3回 | 教育実習の内容と方法、実習日誌の書き方 |
| 第4回 | 学習指導案の書き方と教材準備の仕方 |
| 第5回 | 各種トラブル等の具体的解決策 |
| 第6回 | 実習直前の準備と心得 |
| 第7回 | 教育実習前半についてグループ討議、振り返りとまとめ |
| 第8回 | 指導計画・事例研究 |
| 第9回 | 模擬授業のあり方 |
| 第10回 | 教育実習の振り返り（日誌の整理） |
| 第11回 | 教育実習の振り返り（学校、子どもたちへの礼状） |
| 第12回 | 教育実習報告会に向けて（報告資料の作成） |
| 第13回 | 教育実習報告会に向けて（印刷、製本） |
| 第14回 | 教育実習報告会の反省と自己課題の明確化 |
| 第15回 | 自己評価と今後の課題について |

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

研究授業の教科を決めて、教科、ゼミナール担当教員の指導を受けながら、指導案作成時間として毎回1時間程度は、作成練習に取り組む。また、自らの課題解決に向けた資料収集に努める。

【成績の評価】

授業への参加態度(40%)、教材研究のあり方(30%)、実習のまとめ(30%)等から評価します。報告会において、各自の成果、課題について、説明、講評する。なお、教育実習事前事後指導(小)は、小学校教育実習と連動している科目のため、単独で単位認定されることはない。

【使用テキスト】

適宜、資料を配布する。

【参考文献】

なし。

科目名： <JISS7>教育実習（幼稚園）

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会です。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、幼児教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることをめざします。

【到達目標】

(1) 幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた園経営及び保育活動の特色を理解する。

幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。

指導教員等の実施する保育を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。

教育実習園の園経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解できる。

学級担任の補助的な役割を担うことができる。

(2) 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を保育実践に活かすことができる。

幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。

保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。

学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解できる。

様々な活動の場面で適切に幼児と関わるすることができる。

【授業計画】

- | | | |
|-----|---|-----------------------------|
| 第1週 | 1 | 実習園の概要を知る |
| | 2 | 実習園の1日の流れを把握する |
| | 3 | 幼児の遊びの状況を理解し、参加する |
| | 4 | 発達特性により、遊び、生活、課題への取組みの違いを知る |
| | 5 | 幼児の行動観察、記録とその活用について学ぶ |
| | 6 | 実習記録の取り方、反省、評価について学ぶ |
| | 7 | 安全に対する配慮、清掃、環境整備の仕方を知る |
| 第2週 | 1 | 年間指導計画の中での現在の保育を理解する |
| | 2 | 配属クラスの個々の子どもの特徴を知る |
| | 3 | いろいろな子どもとの関係を深める |
| | 4 | 保育における指導と援助のあり方を探る |
| | 5 | 部分実習をする |
| | 6 | 保育実践の反省、評価を受ける |
| | 7 | 園行事に参加し、行事のあり方について考える |

上記内容と順序は、実習園の都合、指導方針により変更することがあります。
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

研究保育指導案を作成しておきます。また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行います。（15時間）

毎日、実習日誌を記録し、一日を振り返ります。そこから自己の課題を見出し日誌等に記載します。また、実習園の教員からご指導いただいたことを記録しておきます。（15時間）

【成績の評価】

実習園の評価（60%）、実習日誌・提出物（20%）、実習状況（20%）

なお、教育実習は、教育実習事前事後指導と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。

日誌は、配属のクラス担任の先生の指導を受け、返却されます。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： <JISS8>教育実習（幼稚園）

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員が担当する授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

教育実習は、教育実習の学習を踏まえたうえで、幼児教育の特質を知り、幼稚園保育の実際を理解し、実践力を培うことをねらいとします。実習園では、指導教員の指導を受けながら、観察・部分保育・全日保育・研究保育などの実習を行います。実習とはいえ一定期間、教師としての職責を果たすことになるので、実習生の主体的、意欲的な学習への取組が不可欠となります。

【到達目標】

(1) 幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた園経営及び保育活動の特色を理解する。

幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。

指導教員等の実施する保育を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。

教育実習園の園経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解できる。

学級担任の補助的な役割を担うことができる。

(2) 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を保育実践に活かすことができる。

幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。

保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。

学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解できる。

様々な活動の場面で適切に幼児と関わるることができる。

【授業計画】

- | | | |
|-----|---|---------------------------------|
| 第1週 | 1 | 子どもの成長発達を理解する |
| | 2 | 集団生活における子どもの学びを知る |
| | 3 | 学級経営について学ぶ（グループ編成、当番活動を含む） |
| | 4 | 特別な配慮を必要とする子どもへのかかわり方を知る |
| | 5 | 季節の行事に関する保育を知る |
| | 6 | 研究保育をする（保育計画を立案し、実践する） |
| | 7 | 保育実践の反省、評価を受け、その問題点を整理する |
| | 8 | 幼稚園と家庭との連携についてその意義と方法を知る |
| 第2週 | 1 | 保育室の環境整備・経営について知り、実践する |
| | 2 | 幼稚園教諭についての職務内容を理解する |
| | 3 | 地域との協力関係、幼稚園の社会的意義を理解する |
| | 4 | 幼稚園の特色ある保育についての理解を深める |
| | 5 | 子育て支援についての現状を知る（預かり、延長、未就園児保育等） |
| | 6 | 全日保育の計画、実践を行う |
| | 7 | 総合的に子ども・保護者・幼稚園を理解する |
| | 8 | 実習反省会・お別れ会 |
| | 9 | これからの課題についてまとめ、指導助言を受ける |

上記内容と順序は、実習園の都合、指導方針により変更することがある。

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

事前：必ず全日及び研究保育指導案を作成しておきます。また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行います。（15時間）

事後：毎日、実習日誌を記録し、一日を振り返ります。そこから自己の課題を見出し日誌等に記載します。

実習園の教員からご指導いただいたことを記録しておきます。（15時間）

【成績の評価】

実習園の評価（60%）、実習日誌・提出物（20%）、実習状況（20%）

なお、教育実習は、教育実習事前事後指導と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。

日誌は、配属のクラス担任の先生の指導を受け、返却されます。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： < JISS10 > 小学校教育実習

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi), 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

この授業は実務経験のある教員による授業科目である。
教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事前に設定した課題解決に取り組む。一定の期間、教科等の指導をはじめ、生徒指導、教育相談、学校事務など実践を通して、学級経営、学校経営及び教育活動の特色や小学校教育全般についての理解を深めていく。さらに、教育実習で得られた成果と課題を振り返り、教員免許取得までの補充を実践的に進める。

【到達目標】

1. 経験豊かな担当教員の指導を受けながら、学校教育の実際を体験的、総合的に理解して、教育実践並びに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることができる。
2. 学校現場での教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を高めるとともに、その資質・能力や適性を身に付けることができる。

【授業計画】

授業計画

- 第1回：学校の教育方針や特色ある教育（校長）、配属学級での活動
 - 第2回：指導講話 実習全般（教頭）、授業参観と授業記録の取り方
 - 第3回：学級の実態と学級経営
 - 第4回：指導講話 学習指導（現職教育主任）、授業参観（学習過程、板書、発問等）
 - 第5回：指導講話 生徒指導（生徒指導主事）、授業参観（児童の反応、つぶやき等）
 - 第6回：指導講話 保健指導（養護教諭、保健主事）、師範授業の参観と研究
 - 第7回：学習指導案の立案、考え方、学級事務についての考え方と実習
 - 第8回：指導講話 褒め方、叱り方（主幹教諭等）、朝の会、帰りの会の運営
 - 第9回：児童の人間関係の把握、給食・清掃指導、授業研究（各教科等）
 - 第10回：教室環境の整備、学級事務の処理、授業研究（道徳、特別活動）
 - 第11回：日常活動、特別活動への参加、指導、授業研究（総合的な学習の時間、外国語活動）
 - 第12回：授業研究（選択した教科の学習指導案の作成）
 - 第13回：授業研究（選択した教科外の学習指導案の作成）
 - 第14回：問題のある児童の実態把握の仕方
 - 第15回：授業研究 で作成した学習指導案に基づく模擬授業の反省と指導案の修正
 - 第16回：授業研究 で作成した学習指導案に基づく模擬授業の反省と指導案の修正
 - 第17回：研究授業 選択した教科の授業実践と指導、評価
 - 第18回：研究授業 選択した教科外の授業実践と指導、評価
 - 第19回：教育実習のまとめと反省、関係者懇談、指導
 - 第20回：学級での諸活動、実習記録の整理
- 以上のような回数（日数）と内容を各学校の計画に従って実施する。
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

毎日、実習した内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。
気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。

【成績の評価】

教育実習校からの評価(40%)、担当教員による研究授業評価(30%)、実習日誌や提出物(30%)等により評価。教育実習事前事後指導の報告会において、各自の成果、課題を明らかにして、参加者の講評をもってフィードバックを行う。

【使用テキスト】

小学校教育実習の手引き(平成29年 高松大学)

【参考文献】

小学校学習指導要領 全解説編(平成29年3月告示 文部科学省)

科目名： < JISS11 > 特別支援教育実習（事前事後指導を含む）

担当教員： 山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka), 堺 るり子(SAKAI Ruriko)

【授業の紹介】

本授業は、特別支援教育指導法研究」を受講しており、特別支援学校教諭免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）を取得する学生を対象としています。一定期間特別支援学校において、指導教員の指導を受けながら特別支援学校の実際について体験し学びます。

併せて、教育実習を円滑に、より効果的にその目的を達成させるために、実習の前後に講義・演習を行います。事前指導では、学習指導案の作成及び模擬授業の実施を行い、実践力の基盤を固めます。また特別支援教育実習の概要や実習の心得等の理解を深め、課題をもって実習に取り組みできるようにしていきます。この特別支援教育実習及び事前事後指導を通じて、チームティーチングが求められる特別支援教育現場で求められる周囲との協調や協働する態度や姿勢を身に付け、教員として求められる使命感や倫理観を育みます。

【到達目標】

1. 特別支援教育の実践者として求められる専門性を理解し、必要な知識を習得することができる。
2. 子どもの実態把握、指導計画の作成・実践・記録・評価を通して、基本的な指導技術を習得することができる。

【授業計画】

事前指導

- ・教育実習の意義、目的、内容等について
- ・特別支援学校の実態、幼児児童生徒の理解
- ・特別支援学校の教育課程、指導の実際
- ・学習指導案の作成
- ・模擬授業の実施と反省
- ・実習の事前準備と心得及び直前指導(日誌等の書き方、挨拶、自己紹介等)

特別支援教育実習(2週間)

- ・実習校の概要
- ・幼児児童生徒の理解
- ・授業参観と授業参加
- ・実地授業の準備と実施
- ・研究授業の準備と実施
- ・研究授業の反省会

事後指導

- ・実習内容のまとめと反省
- ・実習成果の報告書作成
- ・特別支援教育実習報告会と実習評価

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

事前・事後指導における資料作成、教育実習中の学習指導案の作成、実習日誌の記入など、かなりの自主学習の時間が必要となります(3時間)。また、事前に特別支援学校の授業参観やボランティア活動に積極的に参加して(計4時間以上)、障害理解に努めてください。

【成績の評価】

事前・事後学習の活動状況(40%)、実習(40%)、報告会での発表(20%)を総合的に評価して、単位を認定します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

本学作成『特別支援教育実習の手引き』

【参考文献】

授業の中で、必要に応じて紹介します。

科目名： < JISS12 > 保育実習

担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi), 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育実習は、保育所実習と施設実習からなり、保育所実習は保育所、認定こども園、施設実習は、乳児院、児童養護施設、障害者支援施設等において、それぞれ2週間、保育士の仕事に助手的な形で携わります。実習体験に基づいて、実習日誌に計画・記録し、計画・観察・記録・自己評価等の方法を具体的に学びます。これまでの授業で学んできた知識や技術を実践と関連づけて理解し、保育士としての実践力を身につけます。そして、子どもや利用者、その家族や教職員の方々と実際に関わるなかで、使命感や倫理観を養います。

【到達目標】

保育士の業務内容や職業倫理について知り、記述できる。
乳幼児（児童・利用者）とのかかわりを通して、感じたこと・考えたことを記述できる。
施設の概要を把握するとともに、施設運営の実際を理解し、具体的に記述できる。
保育士の職務や役割等の専門性について理解し、必要な知識や技術を習得することができる。
子どもの実態を把握し、保育の計画・観察・記録・評価について理解し、指導案を記入できる。
保育士を志すものとしての自覚を持つことができる。

【授業計画】

【事前・事後指導】

「保育実習指導 - 」及び「保育実習指導 - 」で実施する。

【観察実習】

この期間に実習施設の概要を理解し、一日の（保育の）流れや子どもたち（利用者）の発達の特徴などを把握する。

【参加・助手的実習】

担当者になって助手的な役割を果たしながら、保育（養護）の実際について学ぶ。

【部分実習】

生活や遊び（レクリエーション）の場面において、保育者の指導の下に、指導案を作成し、実際に責任をもって保育・指導を行い、保育者としての態度と技術を身に付ける。

定期試験なし

【授業時間外の学習】

毎日実習の記録として日誌を作成します。一日の記録ページ、反省・考察・個人観察ページを記入し、次の出勤時に実習施設に提出します。（1時間）その他、指導案（1回以上）の作成、保育教材作り（部分実習に必要な教材準備）など、実習時間以外の事前・事後学習や準備が必要です。（2時間）

【成績の評価】

実習施設の実習評価60%、実習日誌40%により、評価します。実習日誌は、担当の教職員から返却され、指導を受けます。また、保育実習指導 - 、 - の授業時にまとめて返却します。

なお、「保育実習 - 」、「保育実習指導 - 」、「保育実習指導 - 」は、形式上、それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、これら3つの科目は、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、3つの科目の内、どれか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

- ・高松大学・高松短期大学版『保育実習の手引き』
- ・厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018年）

【参考文献】

- ・山本淳子編著『改訂新版 実習の記録と指導案』（ひかりのくに 2018年）

科目名： < JISS13 > 保育実習指導 -

担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi), 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育実習指導 - は、保育実習 の前半に実施される施設実習のための事前事後指導です。この授業では、保育実習の意義や目的を理解し、施設実習に向けた目的意識を高め、自らの実習課題をもって実習に取り組めるように学んでいきます。実習生としての心構え、子どもの権利擁護、プライバシーの保護等について、改めて考え、学び、現場に入る前に、使命感や倫理観を高めます。また、実習後は実習の総括、自己評価を行い、今後の課題を明確化することを通して、継続的に学ぶ能力を養います。

【到達目標】

- ・ 保育実習の自己課題を明確にし、説明できる。
- ・ 実習施設の概要、理念などを知り、記述できる。
- ・ 実習施設における子ども・利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について、理解し、説明できる。
- ・ 実習日誌の書き方・適切な表現などを理解し、記述することができる。
- ・ 実習後の振り返りを通して、自分の評価できる点・改善すべき点に気づき、今後の自己課題を説明できる。

【授業計画】

- | | |
|------|--------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 施設実習の目的 |
| 第3回 | 施設実習の概要 |
| 第4回 | 施設実習での学習内容と課題 |
| 第5回 | 実習施設についての事前学習 |
| 第6回 | 実習に際しての留意事項 |
| 第7回 | 実習日誌の記録 (記録の意義、実習日誌の様式) |
| 第8回 | 実習日誌の記録 (実習日誌の書き方) |
| 第9回 | 実習生の心得 (子どもの人権、最善の利益の考慮) |
| 第10回 | 実習生の心得 (プライバシーの保護と守秘義務) |
| 第11回 | 実習課題の確認 |
| 第12回 | 実習の振り返り (ワークシートをもとに振り返る) |
| 第13回 | 実習の振り返り (グループ討議) |
| 第14回 | 実習の振り返り (今後の課題の明確化) |
| 第15回 | 実習の総括と今後に向けて |

定期試験なし

【授業時間外の学習】

予習として次回の授業内容の「保育実習の手引き」の範囲を熟読し、専門用語等の意味を調べ、ノート等にまとめておくこと。(1時間)実習の概要や課題、配属施設について学習し、保育実習日誌・レポート等にまとめること。(1時間)

【成績の評価】

提出物(ワークシート、レポート、保育実習日誌等)80%と授業態度(模擬保育、グループ活動への参加)20%により、十分な実習の準備・反省ができていないか評価します。提出物は添削して授業時に返却します。

正当な理由のない欠席は認めません。また、実習への意欲や誠実な授業態度に欠ける場合には、実習の履修が許可されません。

なお、「保育実習」、「保育実習指導 -」、「保育実習指導 -」は、形式上、それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、これら3つの科目は、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、3つの科目の内、どれか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

- ・ 厚生労働省「保育所保育指針解説」(2018年)
- ・ 内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(2018年)
- ・ 高松大学・高松短期大学版『保育実習の手引き』
- ・ 山本淳子編著『改訂新版 実習の記録と指導案』(ひかりのくに 2018年)

【参考文献】

適宜指示します。

科目名： < JISS14 > 保育実習指導 -

担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi), 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育実習指導 - は、保育実習 の後半に実施される保育所実習のための事前事後指導です。この授業では、保育実習の意義や目的を再確認し、保育所実習に向けた目的意識を高め、自らの実習課題をもって実習に取り組めるように学んでいきます。観察や記録、指導案の立案や教材準備、保育実技、子どもの最善の利益の考慮など実習を円滑に進めるための知識や技術を習得し、実践力を身につけます。また、実習後は、実習の総括、自己評価を行い、今後の学習課題を明確にすることを通して、継続的に学ぶ能力を養います。

【到達目標】

- ・ 保育実習の自己課題を明確にし、説明できる。
- ・ 実習施設の概要、理念などを知り、記述できる。
- ・ 実習日誌、指導案の書き方を理解し、記述することができる。
- ・ 指導案に基づいて実践し、計画と実践の相違点、自らの反省点・改善点に気づき、記述できる。
- ・ 実習後の振り返りを通して、自分の評価できる点・改善すべき点に気づき、今後の自己課題を説明できる。

【授業計画】

- | | |
|------|--------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 保育所実習の目的 |
| 第3回 | 保育所実習の概要 |
| 第4回 | 保育所実習での学習内容と課題 |
| 第5回 | 実習日誌の記録方法（記録の意義、実習日誌の様式） |
| 第6回 | 実習日誌の記録方法（実習日誌の書き方） |
| 第7回 | 指導案の作成（指導案作成の基本） |
| 第8回 | 指導案の作成（指導案の立て方） |
| 第9回 | 模擬保育（第1グループ） |
| 第10回 | 模擬保育（第2グループ） |
| 第11回 | 実習の振り返り（ワークシートをもとに振り返る） |
| 第12回 | 実習の振り返り（グループ討議） |
| 第13回 | 実習の振り返り（今後の課題の明確化） |
| 第14回 | 保育所実習報告会に向けて |
| 第15回 | 実習の総括と今後に向けて |

定期試験なし

【授業時間外の学習】

予習として次回の授業内容の「保育実習の手引き」の範囲を熟読し、専門用語等の意味を調べ、ノート等にまとめておくこと。（1時間）実習の概要や課題、配属施設について学習し、保育実習日誌・レポート等にまとめること（1時間）。

【成績の評価】

提出物（ワークシート、レポート、保育実習日誌等）80%と授業態度（模擬保育、意見交換への参加）20%により、十分な実習の準備・反省ができてきているか評価します。提出物は添削して授業時に返却します。

正当な理由のない欠席は認めません。また、実習の意欲や誠実な授業態度に欠ける場合には、実習の履修が許可されません。

なお、「保育実習」、「保育実習指導 -」、「保育実習指導 -」は、形式上、それぞれ個別に単位認定がなされません。ただし、これら3つの科目は、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、3つの科目の内、どれか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

- ・ 厚生労働省「保育所保育指針解説」（2018年）
- ・ 内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（2018年）
- ・ 高松大学・高松短期大学版『保育実習の手引き』
- ・ 山本淳子編著『改訂新版 実習の記録と指導案』（ひかりのくに、2018年）

【参考文献】

適宜指示します。

科目名： < JISS15 > 保育実習

担当教員： 川口 めぐみ

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場での保育士経験を活かして、実習前後、実習中の指導を行います。保育実習は、3年次に行われ、保育施設において2週間の実習を行います。2年次の保育実習の保育所実習で学んだことを発展的に深化させることを目的とします。実習の内容としては、観察・参加・助手実習および部分実習に加え、一日の指導計画を立案し保育を行う全日実習を行います。全日保育を通して乳幼児の実態をとらえ、そこからねらいや内容を導き出すこと、計画の立案、環境設定や必要な準備、計画と実践とのかかわりと相違点の実感、臨機応変な対応の必要性などを体験的に理解することをめざします。そして、これまでの授業で学んできた知識や技術を実践と関連づけて理解し、保育士としての実践力を身につけます。

【到達目標】

保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解することができる。
保育実習の経験を踏まえ、子どもの保育や保護者支援について総合的に学ぶことができる。
保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深めることができる。
子どもの実態を把握し、保育の計画・観察・記録・評価について実際に取り組み理解を深めることができる。
保育士としての自己課題を明確化できる。

【授業計画】

[事前・事後指導]

「保育実習指導」で実施する。

[観察実習]

2回目の実習であるので、最短の期間を充てる。

[参加・助手的実習]

保育士の助手的な役割を果たしながら、実際に保育にかかわる。

[部分実習]

保育実習と同様、数回の部分実習を経験し、最終的な全日実習につなげる。

[全日実習]

事前に指導案を作成し、実習生自身が保育者となり、一日の保育を行うことを通して、保育の責務を自覚する。

定期試験なし

【授業時間外の学習】

毎日実習後に、実習日誌を記入します。一日の記録1ページ、反省・考察・個人観察1ページを記入し(2時間)、次の出勤日に実習施設に提出します。その他、指導案(部分・全日)の作成(2時間)、保育教材の準備(2時間)、実習日程終了後のまとめ4ページ(2時間)等、実習時間以外にも記録・準備が必要です。

【成績の評価】

実習施設の実習評価50%、実習日誌50%をもとに総合的に評価します。実習日誌は添削し、保育実習指導の授業時に返却します。

なお、「保育実習」、「保育実習指導」は、形式上それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、どちらか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

- ・高松大学・高松短期大学版『保育実習の手引き』
- ・厚生労働省『保育所保育指針解説』2018年

【参考文献】

- ・山本淳子編著『改訂新版 実習の記録と指導案』(ひかりのくに 2018年)
- ・関口はつ江編『学びをいかに保育実習ハンドブック』(大学図書出版 2018年)

科目名： < JISS16 > 保育実習指導

担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi), 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。保育現場での保育士経験を活かし、観察や記録、指導案の作成や教材準備、保育実技など実習を円滑に進めるために必要な知識・技術について具体的に説明します。

保育実習指導 は、保育実習 で行われる保育所実習のための事前事後指導です。保育実習 の保育所実習で学んだことを発展的に深化させることを目的とします。2回目の保育実習としての意義や目的を理解し、目的意識を高め、課題をもって実習に取り組めるように学んでいきます。また、事前、事後の学習や実習体験を振り返り、子どもの発達と遊び、環境構成、そして保育士の役割や職務内容などを具体的に・総合的に学んでいくことを通して、「実践力」を身につけます。

【到達目標】

- ・ 保育実習の自己課題を明確にし、説明できる。
- ・ 実習施設の概要、理念などを学び、記載できる。
- ・ 実習日誌、部分指導案、全日指導案の書き方を理解し、実習をイメージして記載することができる。
- ・ 指導案に基づいて実践し、計画と実践の相違点に気づき、反省点・改善点を記載できる。
- ・ 事後指導・自己評価を通して、自分の評価できる点・改善すべき点に気づき、自己課題を説明できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 保育所実習での学習内容と課題
- 第3回 保育士の専門性と求められる倫理観
- 第4回 保育士の職業倫理（情報モラル・守秘義務）
- 第5回 子どもの保育と保護者支援（子育て支援の基本）
- 第6回 子どもの保育と保護者支援（子育て支援の演習）
- 第7回 実習日誌・指導案の作成（全日実習の日誌）
- 第8回 実習日誌・指導案の作成（指導案の作成）
- 第9回 保育の実践（模擬保育指導案の作成）
- 第10回 保育の実践（第1グループ）
- 第11回 保育の実践（第2グループ）
- 第12回 実習直前の準備と心得について
- 第13回 実習の振り返り（ワークシートをもとに振り返る）
- 第14回 実習の振り返り（グループ討議）
- 第15回 自己評価と今後の課題について

定期試験なし

【授業時間外の学習】

保育実習の概要や課題、配属施設について学習し、保育実習日誌・レポート等にまとめること（2時間）
。保育実習中におこなう部分実習・全日実習等の指導案作成、教材準備等をおこなうこと。（2時間）

【成績の評価】

提出物（ワークシート、レポート、保育実習日誌等）80%と授業態度（模擬保育、グループ討議への参加）20%により、十分な実習の準備・反省ができているか評価します。提出物は添削して授業時に返却します。

正当な理由のない欠席は認めません。また、実習の意欲や誠実な授業態度に欠ける場合には、実習の履修が許可されません。

なお、「保育実習」、「保育実習指導」は、形式上、それぞれ個別に単位認定がなされます。ただし、それぞれが有機的に連動して学習成果が測られる性格を有する科目のため、どちらか1つが単独で単位認定されることはありません。

【使用テキスト】

- ・ 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018年）
- ・ 高松大学・高松短期大学版『保育実習の手引き』
- ・ 山本淳子編著『改訂新版 実習の記録と指導案』（ひかりのくに 2018年）
- ・ 関口はつ江編『学びをいかす保育実習ハンドブック』（大学図書出版 2018年）

【参考文献】

必要があれば適宜紹介します

科目名： < JISS19 > 保育実習

担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi)

【授業の紹介】

この授業は実務経験のある教員による授業です。保育実習 は、4年次に行われ、これまでの保育実習
・ の保育所実習で学んだことを発展的に深化させることを目的とします。実習の内容としては、観察
・ 参加・助手実習および部分実習に加え、全日実習を行います。全日実習を通して乳幼児の実態をとらえ、そこからねらいや内容を導き出すこと、計画の立案、環境設定や必要な準備、計画と実践とのかかわりと相違点、臨機応変な対応の必要性などを体験的に理解します。保育者としての使命感・倫理観を高め、保育士としての実践的能力を身につけます。また、保育士としての自らの課題を明確にし、継続的に学ぶ姿勢・能力を養います。

【到達目標】

次のことを目標に掲げ学習を進めていきます。

保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて説明できる。

保育実習 ・ の経験を踏まえ、子どもの保育や保護者支援について考察し、記述できる。

保育所の役割や機能について、具体的な実践例に基づいて記述できる。

子どもの発達・保育のねらい等を把握し、指導計画の立案、実践、反省ができる。

実習全体、部分実習、全日実習を振り返り、保育士としての自己課題を明確化し、記述できる。

【授業計画】

【事前・事後指導】

保育実習 までの期間に実習課題の明確化、指導案作成等をおこなう。

実習後に振り返りをおこない、具体的な反省点をもとに保育士としての自己課題を明確にする。

【観察実習】

3回目の実習であるので、最短の期間を充てる。

【参加・助手的実習】

保育士の助手的な役割を果たしながら、実際に保育にかかわる。

【部分実習】

保育実習 ・ と同様、数回の部分実習を経験し、最終的な全日実習につなげる。

【全日実習】

事前に指導案を作成し、実習生自身が保育者となり、一日の保育を行うことを通して、保育の責務を自覚する。

定期試験なし

【授業時間外の学習】

実習までに「保育実習の手引き」を熟読し、特に必要な点や自分の実習課題について、ノート等にまとめておく。(2時間)また、可能であれば、実習までに実習施設を訪問し、できる限り、施設の概要、保育内容等について、情報を集め、まとめる。実習前、実習中を通して、指導案の立案、教材研究をおこなう。(2時間)実習中は、毎日、実習日誌を記録し、考察・反省をおこなう。(1時間)

【成績の評価】

保育所の実習評価60%に、実習日誌20%や実習前後のレポート20%を加えて総合的に評価します。実習日誌、レポートは添削して、返却します。

【使用テキスト】

- ・高松大学・高松短期大学版『保育実習の手引き』
- ・厚生労働省編『保育所保育指針解説書』(フレーベル館 2018年)

【参考文献】

- ・山本淳子編著『改訂新版 実習の記録と指導案』(ひかりのくに 2018年)

科目名： < JISS20 > 介護体験

担当教員： 山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka)

【授業の紹介】

介護体験は、介護等体験特例法によって教員免許状取得にあたり義務付けられたものです。高齢者の方や障害のある方などの社会福祉施設等で介護等の体験をすることが求められます。介護等体験は、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間の合計7日間行います。本科目では、介護等体験実習及び実習の事前学習、事後学習を行います。事前学習では、介護等体験の心得、特別支援学校や社会福祉施設の概要の理解、実習中の利用者の方と接し方についても学習します。介護等体験実習後は実習記録を整理し、レポートにまとめて報告します。この科目は、小学校教員免許状取得希望者のみ受講できます。また受講には、実習費など約1万円が必要になります。介護体験を通じて、教育者に求められる様々な人々とコミュニケーションを図るための態度や姿勢を身に付け、人間性の向上を目指す自律的に学ぶ意欲を育みます。

【到達目標】

特別なニーズのある子どもや利用者の方と交流を持ち、介護等を体験することにより、

1. 特別支援学校や社会福祉施設の役割を学び、人との関わり、援助する上で大切にすべき姿勢や視点を体験的に獲得する
2. 教育を担うものに求められる受容的な態度及び豊かな人間性を高めることができる
3. 教育現場で求められる共生社会をめざす姿勢や視点を獲得できる

【授業計画】

事前学習(10回程度予定)

- ・介護等体験に関するガイダンス
- ・介護等体験の心得について学ぶ
- ・特別支援学校の概要の理解や通っている児童・生徒との接し方について学ぶ
- ・社会福祉施設の概要と利用者との接し方について学ぶ

介護等体験

- ・特別支援学校(2日間)、社会福祉施設(5日間)

事後学習(2回程度予定)

- ・体験レポートの提出、報告会

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

実習の直前には、事前学習で学んだことを再度確認することを求めます(1時間)。また実習後には、体験レポート作成や実習先への礼状書きなどを自宅学習で行います(3時間)。

【成績の評価】

事前・事後学習の受講態度(35%)、課題の提出状況(50%)、報告会での発表(15%)などを総合して成績を評価します。

課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。

また、必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

高松大学発達科学部『介護体験の手引き』

【参考文献】

必要に応じて、講義内で紹介します。

科目名： <JISS3> 学校支援ボランティア

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi), 織田 幸美(ODA Yukimi)

【授業の紹介】

この授業は実務経験のある教員による授業科目である。

3年生で教育実習を実施する前段階として、学校現場で教育活動への理解を深め、児童への接し方、指導・支援のあり方を体験し、学ぶことを目的としている。

香川県内の小学校や教育支援センターの要請を受けて行われており、具体的には、要請のあった小学校等に出向き、児童と共に活動したり、教師の仕事を手伝ったりして、学校教育活動の補助を行う。そうした中で、得られる様々な実感や体感を通して、大学の講義への理解を深め、より確かな児童観、自分がめざす教師像、教育観を育ていく。

【到達目標】

1. 子どもの特性や発達への理解を深め、教育活動に必要な知識技能を習得できる。
2. 学校現場での実践を通して、よりよく問題を解決する教員としての資質や能力を身に付けることができる。

【授業計画】

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 オリエンテーション
- 第3回 学校支援ボランティア配置についての説明会
- 第4回 学校支援ボランティア配置についての連絡調整
- 第5回 学校支援ボランティアの意義と目的
- 第6回 学校支援ボランティアの形態・内容・方法
- 第7回 支援者としての心得・態度
- 第8回 支援者としての留意点
- 第9回 担当学校の概要
- 第10回 担当学校の教育計画等について
- 第11回 指導・支援記録について
- 第12回 指導・支援記録のとり方の実際
- 第13回 学校生活のリズムについて
- 第14回 学校生活のリズムと週時程
- 第15回 子どもの実態把握について
- 第16回 子どもの実態把握の仕方
- 第17回～第28回 学校の要請に応じたボランティア活動
- 第29回 まとめ・学んだこと（報告会前半）
- 第30回 まとめ・学んだこと（報告会後半）

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

指導・支援結果について、提示された視点から考察を行う。その際、活動の羅列だけでなく、課題を見つけ、次週での具体的な対応策を考える。

【成績の評価】

活動開始前のオリエンテーションや反省会での参加態度と成果及び指導・支援記録(40%)、ボランティアへの参加状況及び参加態度等(60%)で評価する。学校支援ボランティア参加報告会において、各自の成果、課題を明らかにして、参加者の講評をもってフィードバックを行う。

【使用テキスト】

学校支援ボランティアQ&A (平成29年 高松大学)

【参考文献】

随時紹介、資料として配布する。

科目名： <JISS4> 学校支援ボランティア

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi), 織田 幸美(ODA Yukimi)

【授業の紹介】

この授業は実務経験のある教員による授業科目である。

前期に引き続いて、担当校の要請に沿った支援・援助に努めるとともに、自らの課題を見つけ主体的に取り組んでいく。そこから、教科等の学習場面や生活場面における教師の支援・援助のあり方について学ぶ。また、児童の発達についても理解を深め、児童の実態把握の方法や技術を学修する。

【到達目標】

1. 子どもの特性や発達への理解を深め、教育活動に必要な知識技能の修得できる。
2. 学校現場での実践を通して、より良く問題を解決する教師としての資質や能力を身に付けられるようにするとともに、教育実習に向けて自主的に学ぶとする態度を養うことができる。

【授業計画】

授業計画

- 第1回 前期のボランティア活動の振り返り（具体策の作成）
- 第2回 前期のボランティア活動の振り返り（具体策の検討）
- 第3回 学校等との打ち合わせ（学校の諸計画）
- 第4回 学校等との打ち合わせ（日程調整）
- 第5～12回 要請に応じたボランティア活動
- 第13回 管理職との面談（活動報告）
- 第14回 管理職との面談（指導助言）
- 第15～24回 要請に応じたボランティア活動
- 第25回 教科指導への参加とそのポイント
- 第26回 教科指導への参加と支援活動
- 第27回 生徒指導のポイント
- 第28回 生徒指導実践例
- 第29回 まとめ 報告会（前半）
- 第30回 まとめ 報告会（後半）

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

- ・ 自らのテーマをチェックし、自分なりに目標達成のためのポイントを用意して支援・援助に参加する。
- ・ 支援・援助結果について記録のみに留まることなく、背景や意図を探り、分析、考察する習慣を身に付ける。
- ・ 日常的に子どもの言動に注意し、メモを取る習慣を付け、児童理解に努める。

【成績の評価】

活動への参加状況及び意欲と態度(60%)、支援・援助記録(20%)、報告会の資料作成、参加態度(20%)で評価。支援・援助記録、報告資料の添削、報告会を講評して、フィードバックを行う。

【使用テキスト】

学校支援ボランティアQ&A(平成29年 高松大学)

【参考文献】

随時紹介又は資料として配布する。

科目名： < JISS5 > 教育実習事前事後指導 【幼】

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

本授業は、教育実習を円滑に、より効果的にその目標を達成させるために行うものであり、実習の前後に講義・演習を行います。幼稚園教育実習の目的・目標・方法等の概要、実習の心得等の理解を深め、課題をもって実習に取り組めるように学びを深めていきましょう。また、保育に必要な知識・技能を取得しようとする意欲を高め、保育技術を身に付けることをめざします。保育・教育に携わる者として豊かな人間性を養うよう努めていきましょう。

【到達目標】

1. 事前指導では教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高めることができる。
2. 事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解できる。
3. これらのことを通して教育実習の意義を理解することができる。
教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解することができる。

【授業計画】

- | | |
|------|---------------------|
| 第1回 | 教育実習の意義と目的 |
| 第2回 | 教育実習の概要 |
| 第3回 | 保育実践の要件 |
| 第4回 | 保育を計画する 部分実習 |
| 第5回 | 保育を計画する 研究保育 |
| 第6回 | 保育の実践 |
| 第7回 | 実習日誌の実際 |
| 第8回 | 実習直前の準備と心得 |
| 第9回 | 教育実習の振り返り |
| 第10回 | 教育実習の振り返り (グループ協議) |
| 第11回 | 幼児同士のトラブルの対応(事例研究) |
| 第12回 | 実習日誌の作成 |
| 第13回 | 教育実習に向けて |
| 第14回 | 指導計画の作成 - 日案 |
| 第15回 | 保育の実践 部分保育 |
| 第16回 | 保育の実践 研究保育 |
| 第17回 | 教育実習の振り返り |
| 第18回 | 教育実習の振り返り (グループ協議) |
| 第19回 | 教育実習報告会に向けて |
| 第20回 | 教育実習報告会 |
| 第21回 | 教育実習報告会の反省と自己課題の明確化 |
| 第22回 | 幼児理解と援助(事例研究) |
| 第23回 | まとめと今後の課題 |
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

予習として、授業計画によるテーマに基づき、事前に指示された課題及び資料を熟読し、疑問点や気づいたことをノート等にまとめておきます。そして、毎回のワークシートを基に授業内容を復習し、ノートに整理しておきます。(各1時間)

部分保育指導案及び研究保育指導案、全日保育指導案を作成し、期日までに提出します。(10時間)

また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行います。(10時間)

【成績の評価】

課題・学習シートのまとめ(50%)、実習レポート(50%)

なお、教育実習事前事後指導は、教育実習及び教育実習と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。

ワークシートは、たとえ欠席であっても必ず取組み、提出します。

課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

【参考文献】

適宜、資料を配布します。

科目名： < JISS6 > 教育実習事前事後指導 【小】

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi), 藤本 駿(FUJIMOTO Syun), 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

教育実習事前事後指導は、教育実習を円滑に、より効果的にその目標を達成させるために行うもので、実習の前後に講義・演習を行う。教育実習の目的・目標・方法等の概要、実習の心得等の理解を深め、課題をもって実習に取り組めるようにするとともに、教育活動に必要な知識・技能の修得をめざす。2年次に履修した「学校支援ボランティア」の体験を生かし、質の高い実践力、豊かな人間性や主体的に生きる力を身に付けることができるようにする。

【到達目標】

1. 小学校教諭の業務や職業倫理について理解し、教師としての使命感や倫理観を培うことができる。
2. 学校教育活動に必要な知識や判断力を修得することができる。
3. 学習指導計画の作成・実践・記録・評価等を体験する中で、教師として必要な技能、実践力を修得することができる。
4. 自己評価及び自己課題の明確化を通して豊かな人間性を育むことができる。

【授業計画】

授業計画

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 教育実習の意義と目的 |
| 第2回 | 教育実習の概要・心得・態度等 |
| 第3回 | 教育実習の内容と方法、実習日誌の書き方 |
| 第4回 | 学習指導案の書き方と教材準備の仕方 |
| 第5回 | 各種トラブル等の具体的解決策 |
| 第6回 | 実習直前の準備と心得 |
| 第7回 | 教育実習前半についてグループ討議、振り返りとまとめ |
| 第8回 | 指導計画・事例研究 |
| 第9回 | 模擬授業のあり方 |
| 第10回 | 教育実習の振り返り（日誌の整理） |
| 第11回 | 教育実習の振り返り（学校、子どもたちへの礼状） |
| 第12回 | 教育実習報告会に向けて（報告資料の作成） |
| 第13回 | 教育実習報告会に向けて（印刷、製本） |
| 第14回 | 教育実習報告会の反省と自己課題の明確化 |
| 第15回 | 自己評価と今後の課題について |

定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

研究授業の教科を決めて、教科、ゼミナール担当教員の指導を受けながら、指導案作成時間として毎回1時間程度は、作成練習に取り組む。また、自らの課題解決に向けた資料収集に努める。

【成績の評価】

授業への参加態度(40%)、教材研究のあり方(30%)、実習のまとめ(30%)等から評価します。報告会において、各自の成果、課題について、説明、講評する。なお、教育実習事前事後指導(小)は、小学校教育実習と連動している科目のため、単独で単位認定されることはない。

【使用テキスト】

適宜、資料を配布する。

【参考文献】

なし。

科目名： <JISS7>教育実習 【幼】
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員による授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。

教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会です。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、幼児教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることをめざします。

【到達目標】

(1) 幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた園経営及び保育活動の特色を理解する。

幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。

指導教員等の実施する保育を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。

教育実習園の園経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解できる。

学級担任の補助的な役割を担うことができる。

(2) 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を保育実践に活かすことができる

幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。

保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。

学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解できる。

様々な活動の場面で適切に幼児と関わるすることができる。

【授業計画】

- | | | |
|-----|---|-----------------------------|
| 第1週 | 1 | 実習園の概要を知る |
| | 2 | 実習園の1日の流れを把握する |
| | 3 | 幼児の遊びの状況を理解し、参加する |
| | 4 | 発達特性により、遊び、生活、課題への取組みの違いを知る |
| | 5 | 幼児の行動観察、記録とその活用について学ぶ |
| | 6 | 実習記録の取り方、反省、評価について学ぶ |
| | 7 | 安全に対する配慮、清掃、環境整備の仕方を知る |
| 第2週 | 1 | 年間指導計画の中での現在の保育を理解する |
| | 2 | 配属クラスの個々の子どもの特徴を知る |
| | 3 | いろいろな子どもとの関係を深める |
| | 4 | 保育における指導と援助のあり方を探る |
| | 5 | 部分実習をする |
| | 6 | 保育実践の反省、評価を受ける |
| | 7 | 園行事に参加し、行事のあり方について考える |

上記内容と順序は、実習園の都合、指導方針により変更することがあります。
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

研究保育指導案を作成しておきます。また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行います。（15時間）

毎日、実習日誌を記録し、一日を振り返ります。そこから自己の課題を見出し日誌等に記載します。また、実習園の教員からご指導いただいたことを記録しておきます。（15時間）

【成績の評価】

実習園の評価（60%）、実習日誌・提出物（20%）、実習状況（20%）

なお、教育実習は、教育実習事前事後指導と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。

日誌は、配属のクラス担任の先生の指導を受け、返却されます。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： <JISS8>教育実習 【幼】
担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

この授業は、実務経験のある教員が担当する授業科目です。幼稚園の現場での保育・教育の経験を活かし、具体的な事例を示しながら授業を行います。
教育実習は、教育実習の学習を踏まえたうえで、幼児教育の特質を知り、幼稚園保育の実際を理解し、実践力を培うことをねらいとします。実習園では、指導教員の指導を受けながら、観察・部分保育・全日保育・研究保育などの実習を行います。実習とはいえ一定期間、教師としての職責を果たすことになるので、実習生の主体的、意欲的な学習への取組が不可欠となります。

【到達目標】

- (1) 幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた園経営及び保育活動の特色を理解する。
幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。
指導教員等の実施する保育を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。
教育実習園の園経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解できる。
学級担任の補助的な役割を担うことができる。
- (2) 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を保育実践に活かすことができる。
幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。
保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。
学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解できる。
様々な活動の場面で適切に幼児と関わるることができる。

【授業計画】

- | | | |
|-----|-------------------------|---------------------------------|
| 第1週 | 1 | 子どもの成長発達を理解する |
| | 2 | 集団生活における子どもの学びを知る |
| | 3 | 学級経営について学ぶ（グループ編成、当番活動を含む） |
| | 4 | 特別な配慮を必要とする子どもへのかかわり方を知る |
| | 5 | 季節の行事に関するの保育を知る |
| | 6 | 研究保育をする（保育計画を立案し、実践する） |
| | 7 | 保育実践の反省、評価を受け、その問題点を整理する |
| 第2週 | 8 | 幼稚園と家庭との連携についてその意義と方法を知る |
| | 1 | 保育室の環境整備・経営について知り、実践する |
| | 2 | 幼稚園教諭についての職務内容を理解する |
| | 3 | 地域との協力関係、幼稚園の社会的意義を理解する |
| | 4 | 幼稚園の特色ある保育についての理解を深める |
| | 5 | 子育て支援についての現状を知る（預かり、延長、未就園児保育等） |
| | 6 | 全日保育の計画、実践を行う |
| | 7 | 総合的に子ども・保護者・幼稚園を理解する |
| | 8 | 実習反省会・お別れ会 |
| 9 | これからの課題についてまとめ、指導助言を受ける | |

上記内容と順序は、実習園の都合、指導方針により変更することがある。
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

事前：必ず全日及び研究保育指導案を作成しておきます。また、様々な保育技能を保育現場で活用できるよう、教材製作やピアノ等の練習を行います。（15時間）
事後：毎日、実習日誌を記録し、一日を振り返ります。そこから自己の課題を見出し日誌等に記載します。
実習園の教員からご指導いただいたことを記録しておきます。（15時間）

【成績の評価】

実習園の評価（60%）、実習日誌・提出物（20%）、実習状況（20%）
なお、教育実習は、教育実習事前事後指導と連動している科目のため、単独で単位認定されることはありません。
日誌は、配属のクラス担任の先生の指導を受け、返却されます。

【使用テキスト】

幼稚園教育要領解説(平成30年 文部科学省)

【参考文献】

適宜、紹介します。

科目名： <JISS10> 教育実習 【小】

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi), 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

この授業は実務経験のある教員による授業科目である。
教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事前に設定した課題解決に取り組む。一定の期間、教科等の指導をはじめ、生徒指導、教育相談、学校事務など実践を通して、学級経営、学校経営及び教育活動の特色や小学校教育全般についての理解を深めていく。さらに、教育実習で得られた成果と課題を振り返り、教員免許取得までの補充を実践的に進める。

【到達目標】

1. 経験豊かな担当教員の指導を受けながら、学校教育の実際を体験的、総合的に理解して、教育実践並びに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることができる。
2. 学校現場での教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を高めるとともに、その資質・能力や適性を身に付けることができる。

【授業計画】

授業計画

- 第1回：学校の教育方針や特色ある教育（校長）、配属学級での活動
 - 第2回：指導講話 実習全般（教頭）、授業参観と授業記録の取り方
 - 第3回：学級の実態と学級経営
 - 第4回：指導講話 学習指導（現職教育主任）、授業参観（学習過程、板書、発問等）
 - 第5回：指導講話 生徒指導（生徒指導主事）、授業参観（児童の反応、つぶやき等）
 - 第6回：指導講話 保健指導（養護教諭、保健主事）、師範授業の参観と研究
 - 第7回：学習指導案の立案、考え方、学級事務についての考え方と実習
 - 第8回：指導講話 褒め方、叱り方（主幹教諭等）、朝の会、帰りの会の運営
 - 第9回：児童の人間関係の把握、給食・清掃指導、授業研究（各教科等）
 - 第10回：教室環境の整備、学級事務の処理、授業研究（道徳、特別活動）
 - 第11回：日常活動、特別活動への参加、指導、授業研究（総合的な学習の時間、外国語活動）
 - 第12回：授業研究（選択した教科の学習指導案の作成）
 - 第13回：授業研究（選択した教科外の学習指導案の作成）
 - 第14回：問題のある児童の実態把握の仕方
 - 第15回：授業研究 で作成した学習指導案に基づく模擬授業の反省と指導案の修正
 - 第16回：授業研究 で作成した学習指導案に基づく模擬授業の反省と指導案の修正
 - 第17回：研究授業 選択した教科の授業実践と指導、評価
 - 第18回：研究授業 選択した教科外の授業実践と指導、評価
 - 第19回：教育実習のまとめと反省、関係者懇談、指導
 - 第20回：学級での諸活動、実習記録の整理
- 以上のような回数（日数）と内容を各学校の計画に従って実施する。
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

毎日、実習した内容を実習日誌に記録することによって、一日の反省と明日への準備の機会とする。
気付いた課題については、その具体的対策を検討、実践に生かす。

【成績の評価】

教育実習校からの評価(40%)、担当教員による研究授業評価(30%)、実習日誌や提出物(30%)等により評価。教育実習事前事後指導の報告会において、各自の成果、課題を明らかにして、参加者の講評をもってフィードバックを行う。

【使用テキスト】

小学校教育実習の手引き(平成29年 高松大学)

【参考文献】

小学校学習指導要領 全解説編(平成29年3月告示 文部科学省)

専門科目:ゼミナール等科目

| 科目 | 担当教員 |
|-----------------------------|--------|
| <KENK1>基礎演習Ⅰ【1ゼミ】 | 秋山 達也 |
| <KENK1>基礎演習Ⅰ【2ゼミ】 | 糸目 真也 |
| <KENK1>基礎演習Ⅰ【3ゼミ】 | 峯 寛文 |
| <KENK1>基礎演習Ⅰ【4ゼミ】 | 川口 めぐみ |
| <KENK1>基礎演習Ⅰ【5ゼミ】 | 堺 るり子 |
| <KENK1>基礎演習Ⅰ【6ゼミ】 | 織田 幸美 |
| <KENK1>基礎演習Ⅰ【7ゼミ】 | 佐々木 啓祐 |
| <KENK1>基礎演習Ⅰ【8ゼミ】 | 藤本 駿 |
| <KENK2>基礎演習Ⅱ【1ゼミ】 | 秋山 達也 |
| <KENK2>基礎演習Ⅱ【2ゼミ】 | 糸目 真也 |
| <KENK2>基礎演習Ⅱ【3ゼミ】 | 峯 寛文 |
| <KENK2>基礎演習Ⅱ【4ゼミ】 | 川口 めぐみ |
| <KENK2>基礎演習Ⅱ【5ゼミ】 | 堺 るり子 |
| <KENK2>基礎演習Ⅱ【6ゼミ】 | 織田 幸美 |
| <KENK2>基礎演習Ⅱ【7ゼミ】 | 佐々木 啓祐 |
| <KENK2>基礎演習Ⅱ【8ゼミ】 | 藤本 駿 |
| <KENK3>演習Ⅰ【児童教育ゼミ】 | 秋山 達也 |
| <KENK3>演習Ⅰ【幼児教育専修ゼミ】 | 松原 勝敏 |
| <KENK3>演習Ⅰ【健康ゼミ】 | 田中 美季 |
| <KENK3>演習Ⅰ【人間関係ゼミ】 | 徳岡 大 |
| <KENK3>演習Ⅰ【乳児保育ゼミ】 | 川原 亜津美 |
| <KENK3>演習Ⅰ【環境ゼミ】 | 川口 めぐみ |
| <KENK3>演習Ⅰ【言葉ゼミ】 | 山田 純子 |
| <KENK3>演習Ⅰ【表現ゼミ】 | 水嶋 育 |
| <KENK3>演習Ⅰ【特別支援教育ゼミ】 | 山口 明日香 |
| <KENK4>演習Ⅱ【児童教育ゼミ】 | 秋山 達也 |
| <KENK4>演習Ⅱ【幼児教育専修ゼミ】 | 松原 勝敏 |
| <KENK4>演習Ⅱ【健康ゼミ】 | 田中 美季 |
| <KENK4>演習Ⅱ【人間関係ゼミ】 | 徳岡 大 |
| <KENK4>演習Ⅱ【乳児保育ゼミ】 | 川原 亜津美 |
| <KENK4>演習Ⅱ【環境ゼミ】 | 川口 めぐみ |
| <KENK4>演習Ⅱ【言葉ゼミ】 | 山田 純子 |
| <KENK4>演習Ⅱ【表現ゼミ】 | 水嶋 育 |
| <KENK4>演習Ⅱ【特別支援教育ゼミ】 | 山口 明日香 |
| <KENK5>演習Ⅲ【幼児教育ゼミ】 | 山田 純子 |
| <KENK5>演習Ⅲ【保育ゼミ】 | 松原 勝敏 |
| <KENK5>演習Ⅲ【保育実践ゼミ】 | 川原 亜津美 |
| <KENK5>演習Ⅲ【特別支援教育支援システムゼミ】 | 山口 明日香 |
| <KENK5>演習Ⅲ【授業研究ゼミ】 | 秋山 達也 |
| <KENK5>演習Ⅲ【健康スポーツゼミ】 | 田中 美季 |
| <KENK5>演習Ⅲ【教育心理ゼミ】 | 徳岡 大 |
| <KENK5>演習Ⅲ【音楽ゼミ】 | 水嶋 育 |
| <KENK5>演習Ⅲ【学校教育ゼミ】 | 藤本 駿 |
| <KENK5>演習Ⅲ【特別支援教育ゼミ】 | 堺 るり子 |
| <KENK5>演習Ⅲ【乳幼児保育研究ゼミ】 | 川口 めぐみ |
| <KENK5>演習Ⅲ【教育相談ゼミ】 | 織田 幸美 |
| <KENK5>演習Ⅲ【教科指導ゼミ】 | 糸目 真也 |
| <KENK5>演習Ⅲ【生徒指導力向上ゼミ】 | 峯 寛文 |
| <KENK6>演習Ⅳ【幼児教育ゼミ】 | 山田 純子 |
| <KENK6>演習Ⅳ【保育ゼミ】 | 松原 勝敏 |
| <KENK6>演習Ⅳ【保育実践ゼミ】 | 川原 亜津美 |
| <KENK6>演習Ⅳ【特別支援教育支援システムゼミ】 | 山口 明日香 |
| <KENK6>演習Ⅳ【授業研究ゼミ】 | 秋山 達也 |
| <KENK6>演習Ⅳ【健康スポーツゼミ】 | 田中 美季 |
| <KENK6>演習Ⅳ【教育心理ゼミ】 | 徳岡 大 |
| <KENK6>演習Ⅳ【音楽ゼミ】 | 水嶋 育 |
| <KENK6>演習Ⅳ【学校教育ゼミ】 | 藤本 駿 |
| <KENK6>演習Ⅳ【特別支援教育ゼミ】 | 堺 るり子 |
| <KENK6>演習Ⅳ【乳幼児保育研究ゼミ】 | 川口 めぐみ |
| <KENK6>演習Ⅳ【教育相談ゼミ】 | 織田 幸美 |
| <KENK6>演習Ⅳ【教科指導ゼミ】 | 糸目 真也 |
| <KENK6>演習Ⅳ【生徒指導力向上ゼミ】 | 峯 寛文 |
| <KENK7>卒業論文【授業研究ゼミ】 | 秋山 達也 |
| <KENK7>卒業論文【教育ゼミ】 | 佐竹 勝利 |
| <KENK7>卒業論文【特別支援教育支援システムゼミ】 | 山口 明日香 |
| <KENK7>卒業論文【健康スポーツゼミ】 | 田中 美季 |
| <KENK7>卒業論文【音楽ゼミ】 | 水嶋 育 |
| <KENK7>卒業論文【保育ゼミ】 | 松原 勝敏 |
| <KENK7>卒業論文【教育心理ゼミ】 | 徳岡 大 |
| <KENK7>卒業論文【幼児教育ゼミ】 | 山田 純子 |
| <KENK7>卒業論文【保育実践ゼミ】 | 川原 亜津美 |

科目名： <KENK1>基礎演習 【1ゼミ】

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya), 澤田 文男(SAWADA Fumio)

【授業の紹介】

発達科学部子ども発達学科へのご入学、おめでとうございます。さあ、これから「先生」を目指して、日々の学習が始まります。期待に胸を躍らせていることと思います。でも、その一方で、ついて行けるかどうか不安な気持ちもあるかと思いますが。

大学においては、授業の進行や学園生活の内容などに、高校とは大きく異なる側面がたくさんあります。この演習では、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

【到達目標】

- ・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込める力量の形成する。
- ・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現する力量を獲得する。
- ・社会人の基礎教養としての日本語・漢字の力を獲得する。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、自分を見つめる力や協力・協働の力を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション ゼミ単位で友だち紹介
 - 第2回 今の自分を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「プライベートな私」
 - 第3回 図書館大発見！ 図書館は宝の山！ 図書館の検索演習
 - 第4回 創る愉しみを体感しよう！ 学外セミナーの振り返りと次年度に向けた討議
 - 第5回 これからの自分の道を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「教職を目指す私」
 - 第6回 文章による伝達について改めて考えてみよう：読むこと・書くことの基礎
 - 第7回 ノート・テイキングの基礎を学ぼう！
 - 第8回 Eメール・携帯メールの作法を学ぼう
 - 第9回 レポート作成の基礎を学ぼう！
 - 第10回 レポートを作ってみよう！(1) よいレポートとは
 - 第11回 レポートを作ってみよう！(2) 「ふるさと自慢！」のレポート作成
 - 第12回 レポートを作ってみよう！(3) 「ふるさと自慢！」をまとめよう
 - 第13回 「ふるさと自慢！」の発表準備
 - 第14回 作ったレポートを発表しよう！ 全体で発表会「ふるさと自慢！」
 - 第15回 前期を振り返ろう！ 教職ポートフォリオ「自分自身を振り返ろう」
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように授業開始時に漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和2年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和2年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK1> 基礎演習 【2ゼミ】

担当教員： 糸目 真也(ITOME Shinya)

【授業の紹介】

発達科学部子ども発達学科へのご入学、おめでとうございます。さあ、これから「先生」を目指して、日々の学習が始まります。期待に胸を躍らせていることと思います。でも、その一方で、ついて行けるかどうか不安な気持ちもあるかと思いますが、

大学においては、授業の進行や学園生活の内容などに、高校とは大きく異なる側面がたくさんあります。この演習では、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

【到達目標】

- ・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込める力量の形成する。
- ・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現する力量を獲得する。
- ・社会人の基礎教養としての日本語・漢字の力を獲得する。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、自分を見つめる力や協力・協働の力を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション ゼミ単位で友だち紹介
- 第2回 今の自分を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「プライベートな私」
- 第3回 図書館大発見！ 図書館は宝の山！ 図書館の検索演習
- 第4回 創る愉しみを体感しよう！ 学外セミナーの振り返りと次年度に向けた討議
- 第5回 これからの自分の道を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「教職を目指す私」
- 第6回 文章による伝達について改めて考えてみよう：読むこと・書くことの基礎
- 第7回 ノート・テイキングの基礎を学ぼう！
- 第8回 Eメール・携帯メールの作法を学ぼう
- 第9回 レポート作成の基礎を学ぼう！
- 第10回 レポートを作ってみよう！(1) よいレポートとは
- 第11回 レポートを作ってみよう！(2) 「ふるさと自慢！」のレポート作成
- 第12回 レポートを作ってみよう！(3) 「ふるさと自慢！」をまとめよう
- 第13回 「ふるさと自慢！」の発表準備
- 第14回 作ったレポートを発表しよう！ 全体で発表会「ふるさと自慢！」
- 第15回 前期を振り返ろう！ 教職ポートフォリオ「自分自身を振り返ろう」
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように授業開始時に漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和2年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和2年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK1> 基礎演習 【3ゼミ】

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi)

【授業の紹介】

発達科学部子ども発達学科へのご入学、おめでとうございます。さあ、これから「先生」を目指して、日々の学習が始まります。期待に胸を躍らせていることと思います。でも、その一方で、ついて行けるかどうか不安な気持ちもあるかと思いますが。

大学においては、授業の進行や学園生活の内容などに、高校とは大きく異なる側面がたくさんあります。この演習では、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

【到達目標】

- ・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込める力量の形成する。
- ・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現する力量を獲得する。
- ・社会人の基礎教養としての日本語・漢字の力を獲得する。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、自分を見つめる力や協力・協働の力を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション ゼミ単位で友だち紹介
 - 第2回 今の自分を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「プライベートな私」
 - 第3回 図書館大発見！ 図書館は宝の山！ 図書館の検索演習
 - 第4回 創る愉しみを体感しよう！ 学外セミナーの振り返りと次年度に向けた討議
 - 第5回 これからの自分の道を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「教職を目指す私」
 - 第6回 文章による伝達について改めて考えてみよう：読むこと・書くことの基礎
 - 第7回 ノート・テイキングの基礎を学ぼう！
 - 第8回 Eメール・携帯メールの作法を学ぼう
 - 第9回 レポート作成の基礎を学ぼう！
 - 第10回 レポートを作ってみよう！(1) よいレポートとは
 - 第11回 レポートを作ってみよう！(2) 「ふるさと自慢！」のレポート作成
 - 第12回 レポートを作ってみよう！(3) 「ふるさと自慢！」をまとめよう
 - 第13回 「ふるさと自慢！」の発表準備
 - 第14回 作ったレポートを発表しよう！ 全体で発表会「ふるさと自慢！」
 - 第15回 前期を振り返ろう！ 教職ポートフォリオ「自分自身を振り返ろう」
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように授業開始時に漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和2年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和2年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK1>基礎演習 【4ゼミ】

担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi), 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

発達科学部子ども発達学科へのご入学、おめでとうございます。さあ、これから「先生」を目指して、日々の学習が始まります。期待に胸を躍らせていることと思います。でも、その一方で、ついて行けるかどうか不安な気持ちもあるかと思いますが。

大学においては、授業の進行や学園生活の内容などに、高校とは大きく異なる側面がたくさんあります。この演習では、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

【到達目標】

- ・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込める力量の形成する。
- ・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現する力量を獲得する。
- ・社会人の基礎教養としての日本語・漢字の力を獲得する。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、自分を見つめる力や協力・協働の力を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション ゼミ単位で友だち紹介
- 第2回 今の自分を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「プライベートな私」
- 第3回 図書館大発見！ 図書館は宝の山！ 図書館の検索演習
- 第4回 創る愉しみを体感しよう！ 学外セミナーの振り返りと次年度に向けた討議
- 第5回 これからの自分の道を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「教職を目指す私」
- 第6回 文章による伝達について改めて考えてみよう：読むこと・書くことの基礎
- 第7回 ノート・テイキングの基礎を学ぼう！
- 第8回 Eメール・携帯メールの作法を学ぼう
- 第9回 レポート作成の基礎を学ぼう！
- 第10回 レポートを作ってみよう！(1) よいレポートとは
- 第11回 レポートを作ってみよう！(2) 「ふるさと自慢！」のレポート作成
- 第12回 レポートを作ってみよう！(3) 「ふるさと自慢！」をまとめよう
- 第13回 「ふるさと自慢！」の発表準備
- 第14回 作ったレポートを発表しよう！ 全体で発表会「ふるさと自慢！」
- 第15回 前期を振り返ろう！ 教職ポートフォリオ「自分自身を振り返ろう」
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように授業開始時に漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和2年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和2年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK1>基礎演習 【5ゼミ】

担当教員： 堺 るり子(SAKAI Ruriko),松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

発達科学部子ども発達学科へのご入学、おめでとうございます。さあ、これから「先生」を目指して、日々の学習が始まります。期待に胸を躍らせていることと思います。でも、その一方で、ついて行けるかどうか不安な気持ちもあるかと思いますが、

大学においては、授業の進行や学園生活の内容などに、高校とは大きく異なる側面がたくさんあります。この演習では、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

【到達目標】

- ・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込める力量の形成する。
- ・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現する力量を獲得する。
- ・社会人の基礎教養としての日本語・漢字の力を獲得する。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、自分を見つめる力や協力・協働の力を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション ゼミ単位で友だち紹介
 - 第2回 今の自分を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「プライベートな私」
 - 第3回 図書館大発見！ 図書館は宝の山！ 図書館の検索演習
 - 第4回 創る愉しみを体感しよう！ 学外セミナーの振り返りと次年度に向けた討議
 - 第5回 これからの自分の道を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「教職を目指す私」
 - 第6回 文章による伝達について改めて考えてみよう：読むこと・書くことの基礎
 - 第7回 ノート・テイキングの基礎を学ぼう！
 - 第8回 Eメール・携帯メールの作法を学ぼう
 - 第9回 レポート作成の基礎を学ぼう！
 - 第10回 レポートを作ってみよう！(1) よいレポートとは
 - 第11回 レポートを作ってみよう！(2) 「ふるさと自慢！」のレポート作成
 - 第12回 レポートを作ってみよう！(3) 「ふるさと自慢！」をまとめよう
 - 第13回 「ふるさと自慢！」の発表準備
 - 第14回 作ったレポートを発表しよう！ 全体で発表会「ふるさと自慢！」
 - 第15回 前期を振り返ろう！ 教職ポートフォリオ「自分自身を振り返ろう」
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように授業開始時に漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和2年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和2年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK1>基礎演習 【6ゼミ】

担当教員： 織田 幸美(ODA Yukimi)

【授業の紹介】

発達科学部子ども発達学科へのご入学、おめでとうございます。さあ、これから「先生」を目指して、日々の学習が始まります。期待に胸を躍らせていることと思います。でも、その一方で、ついて行けるかどうか不安な気持ちもあるかと思いますが、

大学においては、授業の進行や学園生活の内容などに、高校とは大きく異なる側面がたくさんあります。この演習では、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

【到達目標】

- ・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込める力量の形成する。
- ・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現する力量を獲得する。
- ・社会人の基礎教養としての日本語・漢字の力を獲得する。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、自分を見つめる力や協力・協働の力を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション ゼミ単位で友だち紹介
- 第2回 今の自分を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「プライベートな私」
- 第3回 図書館大発見！ 図書館は宝の山！ 図書館の検索演習
- 第4回 創る愉しみを体感しよう！ 学外セミナーの振り返りと次年度に向けた討議
- 第5回 これからの自分の道を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「教職を目指す私」
- 第6回 文章による伝達について改めて考えてみよう：読むこと・書くことの基礎
- 第7回 ノート・テイキングの基礎を学ぼう！
- 第8回 Eメール・携帯メールの作法を学ぼう
- 第9回 レポート作成の基礎を学ぼう！
- 第10回 レポートを作ってみよう！(1) よいレポートとは
- 第11回 レポートを作ってみよう！(2) 「ふるさと自慢！」のレポート作成
- 第12回 レポートを作ってみよう！(3) 「ふるさと自慢！」をまとめよう
- 第13回 「ふるさと自慢！」の発表準備
- 第14回 作ったレポートを発表しよう！ 全体で発表会「ふるさと自慢！」
- 第15回 前期を振り返ろう！ 教職ポートフォリオ「自分自身を振り返ろう」
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように授業開始時に漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和2年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和2年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK1>基礎演習 【7ゼミ】

担当教員： 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

発達科学部子ども発達学科へのご入学、おめでとうございます。さあ、これから「先生」を目指して、日々の学習が始まります。期待に胸を躍らせていることと思います。でも、その一方で、ついて行けるかどうか不安な気持ちもあるかと思いますが。

大学においては、授業の進行や学園生活の内容などに、高校とは大きく異なる側面がたくさんあります。この演習では、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

【到達目標】

- ・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込める力量の形成する。
- ・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現する力量を獲得する。
- ・社会人の基礎教養としての日本語・漢字の力を獲得する。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、自分を見つめる力や協力・協働の力を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション ゼミ単位で友だち紹介
 - 第2回 今の自分を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「プライベートな私」
 - 第3回 図書館大発見！ 図書館は宝の山！ 図書館の検索演習
 - 第4回 創る愉しみを体感しよう！ 学外セミナーの振り返りと次年度に向けた討議
 - 第5回 これからの自分の道を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「教職を目指す私」
 - 第6回 文章による伝達について改めて考えてみよう：読むこと・書くことの基礎
 - 第7回 ノート・テイキングの基礎を学ぼう！
 - 第8回 Eメール・携帯メールの作法を学ぼう
 - 第9回 レポート作成の基礎を学ぼう！
 - 第10回 レポートを作ってみよう！(1) よいレポートとは
 - 第11回 レポートを作ってみよう！(2) 「ふるさと自慢！」のレポート作成
 - 第12回 レポートを作ってみよう！(3) 「ふるさと自慢！」をまとめよう
 - 第13回 「ふるさと自慢！」の発表準備
 - 第14回 作ったレポートを発表しよう！ 全体で発表会「ふるさと自慢！」
 - 第15回 前期を振り返ろう！ 教職ポートフォリオ「自分自身を振り返ろう」
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように授業開始時に漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和2年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和2年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK1>基礎演習 【8ゼミ】

担当教員： 藤本 駿(FUJIMOTO Syun),佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi)

【授業の紹介】

発達科学部子ども発達学科へのご入学、おめでとうございます。さあ、これから「先生」を目指して、日々の学習が始まります。期待に胸を躍らせていることと思います。でも、その一方で、ついて行けるかどうか不安な気持ちもあるかと思いますが。

大学においては、授業の進行や学園生活の内容などに、高校とは大きく異なる側面がたくさんあります。この演習では、あなたが大学での学習にスムーズに対応できるように、様々な方法や心構えを学びます。発達科学部の教員全員でサポートします！

【到達目標】

- ・大学における学習にスムーズに対応し、勉学や研究に打ち込める力量の形成する。
- ・大学における具体的な学習方法の習得、図書館を有効に活用して情報を収集・分析する力の獲得、そして、学習した成果を適切にまとめて表現する力量を獲得する。
- ・社会人の基礎教養としての日本語・漢字の力を獲得する。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、自分を見つめる力や協力・協働の力を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション ゼミ単位で友だち紹介
- 第2回 今の自分を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「プライベートな私」
- 第3回 図書館大発見！ 図書館は宝の山！ 図書館の検索演習
- 第4回 創る愉しみを体感しよう！ 学外セミナーの振り返りと次年度に向けた討議
- 第5回 これからの自分の道を見つめよう！ 教職ポートフォリオ「教職を目指す私」
- 第6回 文章による伝達について改めて考えてみよう：読むこと・書くことの基礎
- 第7回 ノート・テイキングの基礎を学ぼう！
- 第8回 Eメール・携帯メールの作法を学ぼう
- 第9回 レポート作成の基礎を学ぼう！
- 第10回 レポートを作ってみよう！(1) よいレポートとは
- 第11回 レポートを作ってみよう！(2) 「ふるさと自慢！」のレポート作成
- 第12回 レポートを作ってみよう！(3) 「ふるさと自慢！」をまとめよう
- 第13回 「ふるさと自慢！」の発表準備
- 第14回 作ったレポートを発表しよう！ 全体で発表会「ふるさと自慢！」
- 第15回 前期を振り返ろう！ 教職ポートフォリオ「自分自身を振り返ろう」
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように授業開始時に漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和2年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和2年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK2> 基礎演習 【1ゼミ】

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya), 澤田 文男(SAWADA Fumio)

【授業の紹介】

前期の学びにおいては、大学で学習する基礎的な力量が獲得されているはずですが、後期においては、その力量をさらに大きく伸ばすことを目指します。

特に、後期においては、「書くこと」「表現すること」を通して、学びの深化を図ります。言いたいことがあるのに伝えられなかったことはありませんか？ 伝えたいのに伝わってなかったことはありませんか？ 後期の学びを通して、このような思いとサヨナラしましょう！

【到達目標】

- ・大学生として必要な文章表現力の獲得を目指す。
- ・手紙文、小論文、提案文などを実際に作成し、その発表・検討を通して、「書く能力」「表現する能力」そして、「人に伝える能力」を獲得する。
- ・日本語力、漢字力もさらに向上させる。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、自分を見つめる力や協力・協働の力を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 後期の学びの目標を立てよう！
- 第2回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その1） はがき文
- 第3回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その2） 手紙文
- 第4回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その3） ゼミで実践
- 第5回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その1）大いにディスカッション
- 第6回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その2）まとめ
- 第7回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その3）発表
- 第8回 美しく語ろう！敬語のはたらきと使い方（その1）敬語のはたらき
- 第9回 美しく語ろう！敬語のはたらきと使い方（その2）敬語の使い方
- 第10回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！
- 第11回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その1）ディスカッション
- 第12回 所属するゼミを考えよう！
- 第13回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その2）まとめ
- 第14回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その3）発表
- 第15回 1年間の学びの成果を確認しよう！
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和2年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和2年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK2> 基礎演習 【2ゼミ】

担当教員： 糸目 真也(ITOME Shinya)

【授業の紹介】

前期の学びにおいては、大学で学習する基礎的な力量が獲得されているはずですが、後期においては、その力量をさらに大きく伸ばすことを目指します。

特に、後期においては、「書くこと」「表現すること」を通して、学びの深化を図ります。言いたいことがあるのに伝えられなかったことはありませんか？伝えたいのに伝わってなかったことはありませんか？後期の学びを通して、このような思いとサヨナラしましょう！

【到達目標】

- ・大学生として必要な文章表現力の獲得を目指す。
- ・手紙文、小論文、提案文などを実際に作成し、その発表・検討を通して、「書く能力」「表現する能力」そして、「人に伝える能力」を獲得する。
- ・日本語力、漢字力もさらに向上させる。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、自分を見つめる力や協力・協働の力を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 後期の学びの目標を立てよう！
 - 第2回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その1） はがき文
 - 第3回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その2） 手紙文
 - 第4回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その3） ゼミで実践
 - 第5回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その1）大いにディスカッション
 - 第6回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その2）まとめ
 - 第7回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その3）発表
 - 第8回 美しく語ろう！敬語のはたらきと使い方（その1）敬語のはたらき
 - 第9回 美しく語ろう！敬語のはたらきと使い方（その2）敬語の使い方
 - 第10回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！
 - 第11回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その1）ディスカッション
 - 第12回 所属するゼミを考えよう！
 - 第13回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その2）まとめ
 - 第14回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その3）発表
 - 第15回 1年間の学びの成果を確認しよう！
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。
個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和2年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和2年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK2> 基礎演習 【3ゼミ】

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi)

【授業の紹介】

前期の学びにおいては、大学で学習する基礎的な力量が獲得されているはずですが、後期においては、その力量をさらに大きく伸ばすことを目指します。

特に、後期においては、「書くこと」「表現すること」を通して、学びの深化を図ります。言いたいことがあるのに伝えられなかったことはありませんか？伝えたいのに伝わってなかったことはありませんか？後期の学びを通して、このような思いとサヨナラしましょう！

【到達目標】

- ・大学生として必要な文章表現力の獲得を目指す。
- ・手紙文、小論文、提案文などを実際に作成し、その発表・検討を通して、「書く能力」「表現する能力」そして、「人に伝える能力」を獲得する。
- ・日本語力、漢字力もさらに向上させる。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、自分を見つめる力や協力・協働の力を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 後期の学びの目標を立てよう！
 - 第2回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その1） はがき文
 - 第3回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その2） 手紙文
 - 第4回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その3） ゼミで実践
 - 第5回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その1）大いにディスカッション
 - 第6回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その2）まとめ
 - 第7回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その3）発表
 - 第8回 美しく語ろう！敬語のはたらきと使い方（その1）敬語のはたらき
 - 第9回 美しく語ろう！敬語のはたらきと使い方（その2）敬語の使い方
 - 第10回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！
 - 第11回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その1）ディスカッション
 - 第12回 所属するゼミを考えよう！
 - 第13回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その2）まとめ
 - 第14回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その3）発表
 - 第15回 1年間の学びの成果を確認しよう！
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和2年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和2年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK2> 基礎演習 【4ゼミ】

担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi), 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

前期の学びにおいては、大学で学習する基礎的な力量が獲得されているはずですが、後期においては、その力量をさらに大きく伸ばすことを目指します。

特に、後期においては、「書くこと」「表現すること」を通して、学びの深化を図ります。言いたいことがあるのに伝えられなかったことはありませんか？ 伝えたはずなのに伝わってなかったことはありませんか？ 後期の学びを通して、このような思いとサヨナラしましょう！

【到達目標】

- ・大学生として必要な文章表現力の獲得を目指す。
- ・手紙文、小論文、提案文などを実際に作成し、その発表・検討を通して、「書く能力」「表現する能力」そして、「人に伝える能力」を獲得する。
- ・日本語力、漢字力もさらに向上させる。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、自分を見つめる力や協力・協働の力を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 後期の学びの目標を立てよう！
 - 第2回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その1） はがき文
 - 第3回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その2） 手紙文
 - 第4回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その3） ゼミで実践
 - 第5回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その1）大いにディスカッション
 - 第6回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その2）まとめ
 - 第7回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その3）発表
 - 第8回 美しく語ろう！敬語のはたらきと使い方（その1）敬語のはたらき
 - 第9回 美しく語ろう！敬語のはたらきと使い方（その2）敬語の使い方
 - 第10回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！
 - 第11回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その1）ディスカッション
 - 第12回 所属するゼミを考えよう！
 - 第13回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その2）まとめ
 - 第14回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その3）発表
 - 第15回 1年間の学びの成果を確認しよう！
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和2年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和2年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK2> 基礎演習 【5ゼミ】

担当教員： 堺 るり子(SAKAI Ruriko), 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

前期の学びにおいては、大学で学習する基礎的な力量が獲得されているはずですが、後期においては、その力量をさらに大きく伸ばすことを目指します。

特に、後期においては、「書くこと」「表現すること」を通して、学びの深化を図ります。言いたいことがあるのに伝えられなかったことはありませんか？ 伝えたいのに伝わってなかったことはありませんか？ 後期の学びを通して、このような思いとサヨナラしましょう！

【到達目標】

- ・大学生として必要な文章表現力の獲得を目指す。
- ・手紙文、小論文、提案文などを実際に作成し、その発表・検討を通して、「書く能力」「表現する能力」そして、「人に伝える能力」を獲得する。
- ・日本語力、漢字力もさらに向上させる。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、自分を見つめる力や協力・協働の力を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 後期の学びの目標を立てよう！
- 第2回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その1） はがき文
- 第3回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その2） 手紙文
- 第4回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その3） ゼミで実践
- 第5回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その1）大いにディスカッション
- 第6回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その2）まとめ
- 第7回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その3）発表
- 第8回 美しく語ろう！敬語のはたらきと使い方（その1）敬語のはたらき
- 第9回 美しく語ろう！敬語のはたらきと使い方（その2）敬語の使い方
- 第10回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！
- 第11回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その1）ディスカッション
- 第12回 所属するゼミを考えよう！
- 第13回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その2）まとめ
- 第14回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その3）発表
- 第15回 1年間の学びの成果を確認しよう！
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和2年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和2年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK2> 基礎演習 【6ゼミ】

担当教員： 織田 幸美(ODA Yukimi)

【授業の紹介】

前期の学びにおいては、大学で学習する基礎的な力量が獲得されているはずですが、後期においては、その力量をさらに大きく伸ばすことを目指します。

特に、後期においては、「書くこと」「表現すること」を通して、学びの深化を図ります。言いたいことがあるのに伝えられなかったことはありませんか？伝えたいのに伝わってなかったことはありませんか？後期の学びを通して、このような思いとサヨナラしましょう！

【到達目標】

- ・大学生として必要な文章表現力の獲得を目指す。
- ・手紙文、小論文、提案文などを実際に作成し、その発表・検討を通して、「書く能力」「表現する能力」そして、「人に伝える能力」を獲得する。
- ・日本語力、漢字力もさらに向上させる。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、自分を見つめる力や協力・協働の力を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 後期の学びの目標を立てよう！
- 第2回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その1） はがき文
- 第3回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その2） 手紙文
- 第4回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その3） ゼミで実践
- 第5回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その1）大いにディスカッション
- 第6回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その2）まとめ
- 第7回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その3）発表
- 第8回 美しく語ろう！敬語のはたらきと使い方（その1）敬語のはたらき
- 第9回 美しく語ろう！敬語のはたらきと使い方（その2）敬語の使い方
- 第10回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！
- 第11回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その1）ディスカッション
- 第12回 所属するゼミを考えよう！
- 第13回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その2）まとめ
- 第14回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その3）発表
- 第15回 1年間の学びの成果を確認しよう！
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和2年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和2年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK2> 基礎演習 【7ゼミ】

担当教員： 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke)

【授業の紹介】

前期の学びにおいては、大学で学習する基礎的な力量が獲得されているはずですが、後期においては、その力量をさらに大きく伸ばすことを目指します。

特に、後期においては、「書くこと」「表現すること」を通して、学びの深化を図ります。言いたいことがあるのに伝えられなかったことはありませんか？伝えたいのに伝わってなかったことはありませんか？後期の学びを通して、このような思いとサヨナラしましょう！

【到達目標】

- ・大学生として必要な文章表現力の獲得を目指す。
- ・手紙文、小論文、提案文などを実際に作成し、その発表・検討を通して、「書く能力」「表現する能力」そして、「人に伝える能力」を獲得する。
- ・日本語力、漢字力もさらに向上させる。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、自分を見つめる力や協力・協働の力を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 後期の学びの目標を立てよう！
- 第2回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その1） はがき文
- 第3回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その2） 手紙文
- 第4回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その3） ゼミで実践
- 第5回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その1）大いにディスカッション
- 第6回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その2）まとめ
- 第7回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その3）発表
- 第8回 美しく語ろう！敬語のはたらきと使い方（その1）敬語のはたらき
- 第9回 美しく語ろう！敬語のはたらきと使い方（その2）敬語の使い方
- 第10回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！
- 第11回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その1）ディスカッション
- 第12回 所属するゼミを考えよう！
- 第13回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その2）まとめ
- 第14回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その3）発表
- 第15回 1年間の学びの成果を確認しよう！
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。
個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和2年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和2年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK2> 基礎演習 【8ゼミ】

担当教員： 藤本 駿(FUJIMOTO Syun), 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi)

【授業の紹介】

前期の学びにおいては、大学で学習する基礎的な力量が獲得されているはずですが、後期においては、その力量をさらに大きく伸ばすことを目指します。

特に、後期においては、「書くこと」「表現すること」を通して、学びの深化を図ります。言いたいことがあるのに伝えられなかったことはありませんか？ 伝えたいのに伝わってなかったことはありませんか？ 後期の学びを通して、このような思いとサヨナラしましょう！

【到達目標】

- ・大学生として必要な文章表現力の獲得を目指す。
- ・手紙文、小論文、提案文などを実際に作成し、その発表・検討を通して、「書く能力」「表現する能力」そして、「人に伝える能力」を獲得する。
- ・日本語力、漢字力もさらに向上させる。
- ・多くの場合、ゼミ単位の活動を通して行い、自分を見つめる力や協力・協働の力を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 後期の学びの目標を立てよう！
- 第2回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その1） はがき文
- 第3回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その2） 手紙文
- 第4回 伝える心：心遣いと言葉遣い（その3） ゼミで実践
- 第5回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その1）大いにディスカッション
- 第6回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その2）まとめ
- 第7回 調べて、まとめて、発表しよう！パート1（その3）発表
- 第8回 美しく語ろう！敬語のはたらきと使い方（その1）敬語のはたらき
- 第9回 美しく語ろう！敬語のはたらきと使い方（その2）敬語の使い方
- 第10回 伝わる文章表現のコツを学ぼう！
- 第11回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その1）ディスカッション
- 第12回 所属するゼミを考えよう！
- 第13回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その2）まとめ
- 第14回 調べて、まとめて、発表しよう！パート2（その3）発表
- 第15回 1年間の学びの成果を確認しよう！
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。また、毎回のように漢字や日本語の小テストを行いますので、事前に予習をしておく必要があります。

【成績の評価】

演習での活動状況とレポートの内容や発表の完成度（80%）、小テストの結果（20%）、を総合して評価し、単位を認定します。

個別面談等の機会を利用して、評価に関するフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・発達科学部オリジナルのテキスト
- ・日本漢字能力検定協会監修『漢検 3級 過去問題集 令和2年度版』（日本漢字能力検定協会）
- ・日本語検定委員会編『日本語検定 公式過去問題集 3級 令和2年度版』（東京書籍）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK3> 演習 【児童教育ゼミ】

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya), 織田 幸美(ODA Yukimi), 藤本 駿(FUJIMOTO Syun), 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke), 峯 寛文(MINE Hirofumi), 糸目 真也(ITOME Shinya)

【授業の紹介】

演習 は、「児童教育コース」に進む学生のゼミ活動となる授業です。小学校教諭を目指す学生の専門的な研究活動の入り口になります。教育現場における朝の会・学級活動などの実際を行い、教科を指導するにあたって必要な漢字力や文章力・小学校全科の学習などの基礎的な学力のトレーニングを行います。それらの活動を通して、子どもの教育にあたるための「理論」と「実践力」を兼ね備えることをねらいとしています。可能な限り教育現場に足を運んだり、授業のVTRやDVDを視聴して実際の教育活動に触れ、それをもとに教育活動を考えます。

本授業は、実務経験のある教員3名が担当します。小・中学校の教育現場での教科・生徒指導、教育委員会等での経験を生かし、豊富で具体的な事例を示しながら授業を行います。

【到達目標】

「学位授与の方針」にある「教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解」「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することに関わる目標として、次の5つを設定します。

- 1 小学校教諭に必要な教科指導力の基礎として「漢字検定2級」「日本語検定2級」の取得をめざす。
- 2 百人一首の札取りゲームの指導ができる。
- 3 自己紹介・朝の会のお話など、子どもの興味・関心を引く話が2つ以上できる。
- 4 朝・帰りの会や学級指導の際に子どもを熱中させるゲームが2つ以上できる。
- 5 新聞記事や文献等の要約やコメント記入を通して、教育観・教師観・学校観を明確に文章にすることができる。

【授業計画】

- | | | | |
|------|------------------------|---|--------------------|
| 第1回 | オリエンテーション（「演習」の内容と進め方） | | |
| 第2回 | 小学校教諭に必要な力 | 基礎的・基本的な学力（漢字検定・日本語検定） | |
| 第3回 | 小学校教諭に必要な力 | 教育観を育む（新聞記事収集とコメント） | |
| 第4回 | 小学校教諭に必要な力 | 子どもを惹きつける話 | |
| 第5回 | 小学校教諭に必要な力 | 子どもを熱中させるゲーム（百人一首の札取り） | |
| 第6回 | 小学校教諭に必要な力 | 子どもを熱中させるゲーム（SGE・SS） | |
| 第7回 | ～ | を組み合わせる学級活動を構成する1「歌」「朝の活動」「本の紹介」「最近の話題」（担当者による） | |
| 第8回 | ～ | を組み合わせる学級活動を構成する2「歌」「朝の活動」「本の紹介」「最近の話題」（担当者による） | |
| 第9回 | ～ | を組み合わせる学級活動を構成する3「歌」「朝の活動」「本の紹介」「最近の話題」（担当者による） | |
| 第10回 | ～ | を組み合わせる学級活動を構成する4 | 先生って魅力的 DVD視聴1 |
| 第11回 | ～ | を組み合わせる学級活動を構成する5 | 先生って魅力的 DVD視聴2 |
| 第12回 | ～ | を組み合わせる学級活動を構成する6 | 先生って魅力的 DVD視聴3 |
| 第13回 | ～ | を組み合わせる学級活動を構成する7 | 教育問題を考える1「学級崩壊」 |
| 第14回 | ～ | を組み合わせる学級活動を構成する8 | 教育問題を考える2「保護者との関係」 |
| 第15回 | ～ | を組み合わせる学級活動を構成する9 | 教育問題を考える3 |
- 毎回、担当の活動実施後に評価をするので定期試験は行わない。

【授業時間外の学習】

- ・ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分しておくこと。
- ・「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。
- ・また、学内での検定試験を受検すること（漢字検定：8月、2月 日本語検定：6月、11月）
- ・毎日、最低でも30分以上の時間を上記2点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。
- ・学内で開かれる教員採用対策講座、都道府県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。
- ・学内で実施する「オープンキャンパス」「百人一首大会」のスタッフとなり実践的な指導力の向上に努めること。

【成績の評価】

「朝の会」における司会進行「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」「教育問題のレジュメ検討」などの活動状況を、7段階評価（C-～A+）で点数化（50%）、「読書感想文」（25%）、「新聞記事論評」（25%）を基礎データとします。それに、ゼミ活動への取り組み意欲、出席状況などを併せて総合的に評価します。授業における活動を毎回評価コメントし、次時以降の活動に活かします。また、オープンキャンパス時、教員採用試験対策講座時において反映させます。

【使用テキスト】

- ・木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書、1981年）756円
- ・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（東洋館出版、2018年）

【参考文献】

- ・授業で紹介します。

科目名： <KENK3> 演習 【幼児教育専修ゼミ】

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育や保育を支える理念、歴史、制度に関する内容、あるいは、教育や保育について語られる現代的な問題を正確に分析できるように、厳しく指導していくつもりです。具体的には、各回でのゼミの担当者を決めてレジュメを切ってきてもらい、質疑応答を深めて問題を追及していきます。そして、ゼミの学習成果を大勢の方に理解してもらえるようなプレゼンテーションの方法を学習します。

学修を通じて、学部のポリシーに掲げる「教育・保育に関する研究の能力を涵養」「子どもの成長・発達を究明」する力を養います。

【到達目標】

・保育に関する文献を読みこなして正確にレジュメを作成し、まとめてきた内容を他者にわかりやすく伝える方法を獲得することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 発表及び討議：子ども観と保育
 - 第3回 発表及び討議：子どもの発達のとらえ方
 - 第4回 発表及び討議：保育と教育の概念の比較
 - 第5回 発表及び討議：保育の環境の検討
 - 第6回 発表及び討議：保育者の専門性
 - 第7回 発表及び討議：保育者の課題
 - 第8回 発表及び討議：幼稚園の生活
 - 第9回 発表及び討議：保育所の生活
 - 第10回 発表及び討議：認定こども園の生活
 - 第11回 発表及び討議：遊びと子どもの育ち
 - 第12回 発表及び討議：保育内容の構成
 - 第13回 発表及び討議：保育計画
 - 第14回 発表及び討議：今日の保育ニーズ
 - 第15回 研究内容のまとめ
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ゼミ発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。学習には、15時間以上が必要になるでしょう。

【成績の評価】

レジュメの内容(50%)やゼミでの質疑応答への参画の程度(50%)を総合的に評価し、単位を認定します。毎回の授業時に、各学生の学習成果を点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。

【使用テキスト】

基礎演習テキスト『しるべ』（年次の基礎演習テキスト）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK3> 演習 【健康ゼミ】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

演習 は、本学の教育課程編成・実施の方針をふまえ、子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができるようになるための科目として位置づけられています。

授業では、「保育内容 健康」の領域における文献研究を行うことで、専門的な研究活動への導入である分野を学習します。その際、言葉の意味を丁寧に調べ、理解を深めるとともに、読み取った内容について発表し、意見を交換します。

【到達目標】

1. 「保育内容 健康」の領域について研究を行った先行論文や書籍を通して、情報の収集、意見の発表、討論を行うための必要な知識と技能を養うことができる。
2. 修得した知識を活かし、「保育内容 健康」の領域における諸課題やその解決策についてレポートを作成できる。
3. レポートの内容について議論することにより、課題発見力、情報収集力、課題解決力、および表現（発表）力などの能力を高めることができる。
4. ゼミナール活動をとおして、共に支え合い、豊かな心と創造力を身につけることができる。

【授業計画】

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 課題の設定 |
| 第3回 | 課題における関連参考文献の検索 |
| 第4回 | 課題に関するトピックスを読む・見る |
| 第5回 | 課題の分析と討議（課題解決の目的） |
| 第6回 | 課題の分析と討議（問題の所在） |
| 第7回 | 課題の分析と討議（問題の所在に対する考察） |
| 第8回 | 課題の研究成果を発表しよう |
| 第9回 | 課題の設定 |
| 第10回 | 課題における関連参考文献の検索 |
| 第11回 | 課題に関するトピックスを読む・見る |
| 第12回 | 課題の分析と討議（課題解決における目的、問題の所在） |
| 第13回 | 課題の分析と討議（課題解決に向けての考察） |
| 第14回 | 課題の研究成果を発表しよう |
| 第15回 | 総括（研究成果のまとめ） |
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

演習の目的は、各個人が興味と関心に応じて課題を見つけ、自らの力で課題を解決すること、つまり問題解決能力を養うことです。

本授業では、ゼミ生が設定した課題解決に必要な情報を分担、協力して予め収集してもらいます（30分）。

また、授業後は、それぞれが収集した情報をもとに行った協働作業の内容の記録のまとめをA4 1枚程度に行ってください（30分）。

【成績の評価】

授業中に作成するレポート：50%

プレゼンテーション：30%

授業態度：20%

全体の60%以上の得点で合格とします。

成績（レポートの評価を含む）については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

その都度、提示する

科目名： <KENK3> 演習 【人間関係ゼミ】

担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

「人間関係」、すなわち、「人とのかかわり」は人間が人間として生きていく中で必要不可欠なものです。しかしながら、現代社会においては、その人間関係が希薄になりがちだといわれます。このことは人ごとではなく、実は、そのような社会の中で、あなたは育っており、そして、将来、あなたが先生になったときに直接関わる子どもたちもまた、そのような社会で成長してゆくことになるのです。幼児教育コース人間関係ゼミでは、「人とのかかわり」という視点から、心理学的知見をベースにして、子どもの発達や保育・教育を捉え直し、保育・教育に必要な知識を知識を幅広く体系的に理解すること、その知識体系を教育・保育実践と関連づけて理解することを目標とします。その際に、自分自身の人間関係に関わる具体的なテーマについて、文献の精読を行い、その内容に関して討論することを通して、知識を自ら学び取ることが重視されます。

【到達目標】

1. 自分自身の人間関係と幼稚園・保育所での人間関係について考察することができる
2. 豊かな心の基盤となる人間関係の重要性を捉え直すことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 関心領域に関する討論
 - 第3回 文献の選定（それぞれが候補とする文献を推薦する）
 - 第4回 文献の選定（他者の提案した本について概要を把握し、精読する文献を決定する）
 - 第5回 文献の精読と討論（前編部分について精読）
 - 第6回 文献の精読と討論（中編部分について精読）
 - 第7回 文献の精読と討論（後編部分について精読）
 - 第8回 文献の要約方法の紹介
 - 第9回 文献の要約発表と討論（前編部分についての要約発表）
 - 第10回 文献の要約発表と討論（中編部分についての要約発表）
 - 第11回 文献の要約発表と討論（後編部分についての要約発表）
 - 第12回 ロールプレイの意義
 - 第13回 ロールプレイ
 - 第14回 これまでの発表・討論の総括
 - 第15回 前期の反省
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

予習として、文献を事前に読んでおくこと（10時間）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すこと（5時間）が必要になります。

【成績の評価】

授業に対する態度（熱意、意欲など）（20%）、レポート（30%）、討論内容（20%）、プレゼンテーション（30%）など総合評価とする。発表や討論の内容に関して教員から講評を受けることでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

- バーナード・ワイナー（1989）「ヒューマン・モチベーション 動機づけの心理学」（金子書房）
鹿毛雅治（2012）「モチベーションをまなぶ12の理論」（金剛出版）
鹿毛雅治（2013）「学習意欲の理論：動機づけの教育心理学」（金子書房）
J.ピアジェ（2013）「遊びと発達の心理学（精神医学選書）」（黎明書房）
田中浩司（2014）「集団遊びの発達心理学」（北大路書房）

科目名： <KENK3> 演習 【乳児保育ゼミ】
担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi)

【授業の紹介】

演習（乳児保育ゼミ）では、文献学習、実践活動、レジюме作成などを通して研究に向けての基礎的な力を養うことを目標とします。教育や保育の場で必要な「理論」と「実践力」を養うために、学生の皆さんの興味のある分野を題材にして、文献学習、教材研究をおこないます。そこで得られた学びをレジюмеとしてまとめ、発表する経験を通して、論理的な思考を身につけます。研究テーマに基づいて、調査・学習を継続する経験を通して、保育者に必要な創造力を培うことをめざします。

【到達目標】

- ・文献、資料を調べて、必要な情報を得ることができる。
- ・知り得た情報をもとに、レジюмеを作成し、発表することができる。
- ・他学生の意見を聞いたり自分の考えを述べたりし、討議に参加できる。
- ・保育所保育指針解説を読み、実践的な内容と結びつけて、他学生と意見交換ができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 発表と討議（乳児保育における養護）
- 第3回 発表と討議（乳児保育：身体的発達）
- 第4回 発表と討議（乳児保育：社会的発達）
- 第5回 発表と討議（乳児保育：精神的発達）
- 第6回 発表と討議（3歳未満児の健康）
- 第7回 発表と討議（3歳未満児の環境）
- 第8回 発表と討議（3歳未満児の人間関係）
- 第9回 発表と討議（3歳未満児の言葉）
- 第10回 発表と討議（3歳未満児の表現）
- 第11回 これまでの討議内容の振り返り
- 第12回 ゼミ研究のテーマの検討
- 第13回 研究内容の検討
- 第14回 研究計画の検討
- 第15回 前期のまとめと演習 に向けての計画

定期試験なし

【授業時間外の学習】

保育所保育指針解説を読み、特に関心を持った内容について、資料を収集し、レジюмеを作成します。（1時間）ゼミ研究テーマに沿って、情報収集や教材研究をおこないます。（1時間）

【成績の評価】

レジюме作成・発表70%、討議への参加30%
レジюмеは、授業時間内に解説し、返却します。

【使用テキスト】

- ・厚生労働省「保育所保育指針解説」（2018年）

【参考文献】

- ・研究テーマに沿って、適宜指示します。

科目名： <KENK3> 演習 【環境ゼミ】

担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

「環境ゼミ」は、実践的な活動を通して、乳幼児教育における領域“環境”について考えるゼミです。演習では、学生の皆さんの興味関心に合わせて、保育現場で実践できる活動を文献などを用いて調べ、提案してもらいます。そして、事前学習を行った後、その活動について、計画を立て、実践し、省察をおこないます。

実践的な活動やレジュメ作成、討議を主な活動とし、研究に向けての基礎的な力を養うことを目標とします。また、これらを通して教育・保育に必要な専門的知識と実践力を養っていくと共に、保育者に必要な創造力を培うことをめざします。

【到達目標】

- ・文献等から知り得た情報をもとに、自らのテーマを決め、計画することができる。
- ・計画を実践、省察し、今後の課題を見出すことができる。
- ・協調性を持ちながら、他学生と意見交換をしたり積極的に実践活動に取り組んだりすることができる。
- ・「様々な環境に、好奇心や探求心をもってかかわる」ということについて自ら実践し、理解を深めることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 実践活動のテーマ選定
- 第3回 実践活動を提案するための事前学習・討議
- 第4回 実践活動の計画
- 第5回 実践・調査
- 第6回 省察・討議
- 第7回 実践活動を提案するための事前学習
- 第8回 実践活動の計画 発表・討議
- 第9回 実践・調査
- 第10回 省察・討議
- 第11回 実践活動を提案するための事前学習
- 第12回 実践活動の計画
- 第13回 実践・調査
- 第14回 省察・討議
- 第15回 前期の実践活動を通して振り返り、演習 に向けての計画
定期試験なし

【授業時間外の学習】

- ・実践活動の内容について事前に情報収集し、レポートにまとめます。(2時間)
- ・授業時間内に討議ができるよう、他学生への配布レジュメを作成します。(1時間)
- ・実践活動の前後には、教材研究とその準備をする必要があります。(1時間)

【成績の評価】

提出物(レジュメ、レポート等)60%、意見交換への参加20%、実践活動への参加20%を総合的に評価します。

レジュメ、レポートについては、授業時間内に講評を行い、課題改善に向けたフィードバックを行います。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

厚生労働省(2018)「保育所保育指針解説」フレーベル館
その他、必要であれば適宜紹介します。

科目名： <KENK3> 演習 【言葉ゼミ】

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

演習（言葉ゼミ）は、幼稚園教育要領の「言葉の獲得に関する領域」の内容を踏まえながら、絵本や紙芝居、童話などをテキストとして、調査・研究や発表・討議などを行います。テキストには日本で出版されているものだけでなく、外国語（英語）のものも含めます。

また、子どもが「絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう」ことができるようにするために求められる、学生自身の表現力・コミュニケーション能力の向上を図るため、「読み聞かせ」や紙芝居の実践演習を行います。さらに、ゼミ活動の一環として読み聞かせボランティア活動を行います。そして、これらを通して保育に必要な専門知識と実践力を養っていきます。

【到達目標】

- (1) 子どもの言葉の獲得や言語生活についての理解を深めることができる。
- (2) 実践的な読み聞かせ活動などにより子どもを対象としたコミュニケーション能力や言葉による表現能力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 演習の内容と実施計画についての協議
 - 第3回 絵本や紙芝居を読み解く（日本の絵本）
 - 第4回 絵本や紙芝居を読み解く（外国絵本）
 - 第5回 絵本や紙芝居を読み解く（紙芝居）
 - 第6回 読み聞かせの実践演習（絵本）
 - 第7回 読み聞かせの実践演習（紙芝居）
 - 第8回 読み聞かせの実践演習（昔話）
 - 第9回 言語教材の研究（5歳児対応）
 - 第10回 言語教材の研究（4歳児対応）
 - 第11回 言語教材の研究（3歳児対応）
 - 第12回 言語教材の研究（1, 2歳児対応）
 - 第13回 言語教材の研究（0歳児対応）
 - 第14回 学習成果の検討と分析
 - 第15回 学習成果のまとめと反省
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（15時間）
事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（15時間）

【成績の評価】

受講態度・状況（60%）、学習シート・課題のまとめ（20%）、「おはなし会」ボランティア活動状況（20%）により評価します。課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

絵本や紙芝居などを幅広く使用しますが、各自購入する必要はありません。

【参考文献】

演習の中で、随時紹介します。

科目名： <KENK3> 演習 【表現ゼミ】

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

幼児の音楽表現に関して研究を行います。将来、保育現場において子どもたちに音楽の喜びを伝えられるように演奏活動を中心にまずは自らの表現力を高め、専門的技能と実践能力を養います。また、オープン・キャンパスをはじめとした発表の場を目標に、計画・準備・本番等を通して、各自が課題に気づき、解決していく力を育みます。これら企画運営の経験を含めて総合的に音楽活動に関する知識、技法、態度を修得します。

【到達目標】

- ・グループ活動において自分のアイデアや意見を論じることができる。
- ・積極的に課題を見つけ、創造的に取り組むことができる。
- ・演奏の場で臆することなく発表することができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション
第2回 課題I提案
第3回 調査発表
第4回 再度発表
第5回 課題II提案
第6回 調査発表
第7回 再度発表
第8回 学外ゼミ
第9回 課題III提案
第10回 調査発表
第11回 再度発表
第12回 課題IV提案
第13回 調査発表
第14回 再度発表
第15回 まとめ、ゼミ生全員で検討、反省
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

授業時の楽器演奏および指導の状況を録音しておき、それを参考に各自技術向上のために週に最低1時間以上練習を行う。日々の生活の中で感じたことや、それらに関する各種情報を収集し、ゼミ内での討論や発表に活用できるようにノートに纏めておく。

【成績の評価】

提出物50% 発表内容50%
提出物にはコメントを添えて返却、発表に対しては授業内で講評を行う。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

北村智恵著 「風の声を聴く子どもたち」(芸術現代社)1988年

科目名： <KENK3> 演習 【特別支援教育ゼミ】

担当教員： 山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka), 堺 るり子(SAKAI Ruriko)

【授業の紹介】

特別支援教育及び障害福祉を担う人材としての素地を高めるために、学生の興味・関心をもとに障害のある子ども・成人を取り巻く様々な課題について先行研究や文献、インターネットから情報を収集し、自らの興味・関心の探索と問題意識の形成を図ります。また調べた内容をまとめて文章にし、発表することを通して、基礎力の向上を図ります。また実際に特別支援学校や障害者福祉関連施設への見学やボランティア活動へ参加することで、障害のある方との関わりの実体験を増やし、多角的な視野や観点の獲得を目指します。演習を通じて、様々な課題に自ら気づき、子どもの育ちに関わる諸問題、社会の諸問題を自ら解決しようとする主体性と意欲を育みます。

【到達目標】

特別支援教育及び障害福祉を担う人材に求められる問題意識に基づく基礎的知識の獲得及び実体験を通じた多角的な視野や観点の獲得、実際的な対人技能の基礎技術を獲得できる。これらの目標を達成するために以下の到達目標を設定します。

1. 特別支援教育及び障害福祉を取り巻く課題について概説できる
2. 特別支援教育や障害福祉を必要とする人への関わり方の基本姿勢について説明できる
3. 特別支援教育及び障害福祉を必要とする人への基礎的な環境調整について説明できる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 特別支援教育と共生社会の課題
 - 第3回 障害のある方を取り巻く法律と合理的配慮
 - 第4回 障害のある人と様々な社会課題 (1) 触法障害者の支援
 - 第5回 障害のある人と様々な社会課題 (2) 障害者の職業自立
 - 第6回 障害のある人と様々な社会課題 (3) 障害者の高等教育
 - 第7回 障害のある人と様々な社会課題 (4) 生活支援
 - 第8回 研究の進め方と文献検索の方法
 - 第9回 研究設問の設定 (テーマ探索)
 - 第10回 研究設問の設定 (文献検索)
 - 第11回 研究構成と内容 (探索)
 - 第12回 研究構成と内容 (決定)
 - 第13回 最終発表の準備 (レジュメ作成)
 - 第14回 最終発表の準備 (レジュメ作成)
 - 第15回 最終発表会
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業時間外にも、適宜、情報収集や集めた情報や資料を整理することが必要です(1時間)。また、ゼミナール活動としてボランティア活動へ定期的に参加しています(月に1回程度)。本授業ではゼミ内の発表会を予定しているため、そのレジュメ作成等の準備が必要です。

【成績の評価】

受講態度(30%)、提出物(40%)、発表(30%)等を総合して成績を評価します。
課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。
また、必要に応じてオフィスアワーにおいて個別にフィードバックします。

【使用テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

特別支援教育総論：インクルーシブ時代の理論と実践、(編)川合紀宗・若松昭彦・牟田口辰巳、北大路書房、2016

科目名： <KENK4> 演習 【児童教育ゼミ】

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya), 織田 幸美(ODA Yukimi), 藤本 駿(FUJIMOTO Syun), 佐々木 啓祐(SASAKI Keisuke), 峯 寛文(MINE Hirofumi), 糸目 真也(ITOME Shinya)

【授業の紹介】

「演習」に引き続き、「教育現場における朝の会・学級活動などの実践的指導力のトレーニングを行います。また、「いじめ問題」「学力低下問題」など教育的な問題を取り上げ、資料収集・まとめ・発表の活動を通して専門的な力量を身につけることを目指します。可能な限り教育現場に足を運んだり、授業のVTRやDVDを視聴したりして実際の教育活動に触れ、それをもとに教育活動を考えます。

本授業は、子どもの教育にあたるための「理論」と「実践力」に重きを置くことをねらいとしています。また本授業は、実務経験のある教員3名が担当します。小・中学校の教育現場での教科・生徒指導、教育委員会等での経験を生かし、豊富で具体的な事例を示しながら授業を行います。

【到達目標】

「学位授与の方針」にある「教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解」「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することに関わる目標として、次の4つを設定します。

- 1 教育的、社会的に問題となっている事象を取り上げ、幅広く資料を収集することができる。
- 2 収集した資料を整理しファイリングできる。
- 3 収集した資料を分析し、主張点を明確にできる。
- 4 引用、参考、自己の主張とを明確に区別したレジюме(A4用紙2~4枚)を作成できる。

【授業計画】

| | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション(「演習」の内容と進め方) |
| 第2回 | 取り上げる教育問題と研究の進め方、レジюме分担等 |
| 第3回 | 発表および討議1 学級活動を構成する1(「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等) |
| 第4回 | 発表および討議2(「生きる力」) 学級活動を構成する2 |
| 第5回 | 発表および討議3(「生きる力」) 学級活動を構成する3 |
| 第6回 | 発表および討議4(「いじめ」問題) 学級活動を構成する4 |
| 第7回 | 発表および討議5(「いじめ」問題) 学級活動を構成する5 |
| 第8回 | 発表および討議6(「食育」) 学級活動を構成する6 |
| 第9回 | 発表および討議7(「食育」) 学級活動を構成する7 |
| 第10回 | 発表および討議8(「学力低下」問題) 学級活動を構成する8 |
| 第11回 | 発表および討議9(「学力低下」問題) 学級活動を構成する9 |
| 第12回 | 「ゼミ活動報告会」プレゼンテーション準備1 |
| 第13回 | 「ゼミ活動報告会」プレゼンテーション準備2 |
| 第14回 | 「ゼミ活動報告会」プレゼンテーション準備3 |
| 第15回 | 「演習 / 成果発表会」 |

毎回の担当の活動後と教育問題に関するレジюме等で評価するので、定期試験は行わない。

【授業時間外の学習】

- ・ 分担されたレジюмеは、文献・資料等を十分に検討した上で作成し、提案する前日までに担当教官に提出すること。
- ・ ほぼ毎回、「朝の活動」「最近の話題」「本の紹介」等の活動を担当することになるので、個人あるいはグループでの準備を十分にしておくこと。
- ・ 「漢字検定」「日本語検定」に関する小テストを毎時間実施するので、問題集等で学習をしておくこと。
- ・ また、学内での検定試験を受検すること(漢字検定：2月、日本語検定11月)
- ・ 毎日、最低でも30分以上の時間を上記2点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。
- ・ 学内で開かれる教員採用対策講座、都道府県教委による説明会をはじめとして、学外で行われる研究会等に積極的に参加すること。また、教育関係のボランティア活動に積極的に参加し、その成果を授業で生かせるようにすること。

【成績の評価】

「朝の会」における司会進行「朝の活動」「本の紹介」「最近の話題」「教育問題のレジюме検討」などの活動状況を7段階評価(C~A+)で点数化(25%)、「読書感想文」「新聞記事論評」(25%)、「教育問題」を取り上げたレジюме作成と・発表(50%)を基礎データとします。それに加え、コース成果発表会などのゼミ活動への取り組み意欲、出席状況などを併せて総合的に評価します。毎回の授業において、活動・教育問題についてのレジюмеに対しての評価コメントを行い次時に活かします。

【使用テキスト】

- ・ 文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)』(東洋館出版、2018年)
- ・ 木下是雄『理科系の作文技術』(中公新書、1981年)756円(前期に購入済み)

【参考文献】

- ・文部科学省『学習指導要領解説（各教科等）』（2018年）価格は各教科ごと
 - ・文部科学省教育課程課・幼児教育課編「初等教育資料」（東洋館出版社、月一回発行月刊誌）
- その他 授業で適宜紹介します。

科目名： <KENK4> 演習 【幼児教育専修ゼミ】

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育や保育を支える理念、歴史、制度に関する内容、あるいは、教育や保育について語られる現代的な問題を正確に分析できるように、厳しく指導していくつもりです。具体的には、各回でのゼミの担当者を決めてレジュメを切ってきてもらい、質疑応答を深めて問題を追及していきます。そして、ゼミの学習成果を大勢の方に理解してもらえるようなプレゼンテーションの方法を学習します。

学修を通じて、学部のポリシーに掲げる「教育・保育に関する研究の能力を涵養」「子どもの成長・発達を究明」する力を養います。

【到達目標】

- ・言葉の概念や表現を緻密に検討することを重ねて、教育や保育に関する諸事象を正確に把握する力の獲得できる。
- ・研究した成果をプレゼンテーションするための基礎能力を獲得できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 発表及び討議：保育制度の課題
- 第3回 発表及び討議：保育内容の課題
- 第4回 発表及び討議：子育て不安
- 第5回 発表及び討議：共同研究テーマの決定
- 第6回 発表及び討議：共同研究テーマの分析
- 第7回 発表及び討議：論証方法の検討
- 第8回 発表及び討議：論証内容の検討
- 第9回 発表及び討議：使用データの客観性の検討
- 第10回 発表及び討議：発表レジュメ試作
- 第11回 発表及び討議：発表レジュメの修正
- 第12回 発表及び討議：発表用プレゼンテーションの準備
- 第13回 発表及び討議：発表練習
- 第14回 学習成果発表会
- 第15回 卒業生の卒論発表会への参加
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ゼミ発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。学習には、15時間以上が必要になるでしょう。

【成績の評価】

レジュメの内容(50%)やゼミでの質疑応答への参画の程度(50%)を総合的に評価し、単位を認定します。毎回の授業時に、各学生の学習成果を点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。

【使用テキスト】

基礎演習テキスト『しるべ』（1年次の基礎演習テキスト）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK4> 演習 【健康ゼミ】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

演習 は、本学の教育課程編成・実施の方針をふまえ、子どもの教育・保育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題を解決することができるようになるための科目として位置づけられています。

演習 では、演習 に引き続き、専門的な研究活動への導入である分野をさらに学習します。「保育内容 健康」の領域における先行論文の要約、論評、討論をくり返し、「文章を読む」、「文章を書く」、「文章を理解し、考察・分析する」、「さらにはそれを人に伝える」という、文章の読み書き、問題や課題の考察・分析、プレゼンテーション能力を養うためのトレーニングを演習 からさらにステップアップして行います。

【到達目標】

1. 簡単な図やグラフを説明できる。
2. 他人に分かりやすくプレゼンテーションするためのツールを使いこなすことができる。
3. 演習 よりもさらに深く考察できるようになったり、演習 よりも、もう一段階ステップアップしたディスカッションができる。
4. 授業におけるさまざまな活動の中で、共に助け合い、豊かな心と創造力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 ある事象を分析する (テーマの設定)
 - 第2回 ある事象を分析する (問題の所在を探る)
 - 第3回 ある事象を分析する (問題解決を分析する)
 - 第4回 プレゼンテーションとは何か
 - 第5回 プレゼンテーションのアウトラインを考える (順序について)
 - 第6回 プレゼンテーションのアウトラインを考える (内容について)
 - 第7回 Power Pointの基本 (テキストの入力)
 - 第8回 Power Pointの基本 (クリップアートや図の挿入)
 - 第9回 Power Pointの基本 (グラフの作成と挿入)
 - 第10回 Power Pointを使いこなす (テンプレートの作成)
 - 第11回 Power Pointを使いこなす (アニメーションの設定)
 - 第12回 Power Pointを使ってプレゼンテーションしよう(前半)
 - 第13回 Power Pointを使ってプレゼンテーションしよう(後半)
 - 第14回 総括 (自作のプレゼンテーションの反省)
 - 第15回 総括 (プレゼンテーションのまとめ)
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

演習 と同様にゼミ生が役割を分担し共同(協働)作業によって課題を解決して行く授業です。課せられた役割が確実に果たせるよう日常的に資料の収集やレポートの作成などの作業を滞ることがないように努力する責任が生じます。

本授業では、ゼミ生が設定した課題解決に必要な情報を分担、協力して予め収集してもらいます(30分)。

また、授業後は、それぞれが収集した情報をもとに行った協働作業の内容の記録のまとめをA4 1枚程度に行ってください(30分)。

【成績の評価】

授業中に作成するレポート：50%

プレゼンテーション：30%

授業態度：20%

全体の60%以上の得点で合格とします。

成績(レポートの評価を含む)については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

その都度、提示する

科目名： <KENK4> 演習 【人間関係ゼミ】

担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

演習 に引き続き、心理学の研究によって得られた知見や心理学研究の方法論にもとづいて、「人とのかわり」という視点から、子どもの発達や教育・保育を捉え直し、教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解できていることを目標とします。授業では、子どもたちの人間関係に関わる具体的なテーマについて、文献研究を行い、必要に応じて調査をし、それらの結果に関して討論することを通して、演習 と同様に、知識を自ら学び取ることを重視します。

【到達目標】

1. 演習 における自らの人間関係に関する学び、動機づけ、および、幼児の遊びについての学びを基礎にしなが、現代社会の人間関係について考察することができる。
2. 子育て支援社会を支える豊かな心の基盤となる人間関係の重要性を改めて理解することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 文献の要約の比較と討論（一章分の要約の発表）
 - 第3回 文献の要約の比較と討論（第2回で発表した要約同士の比較）
 - 第4回 文献の要約の比較と討論（第2回で発表した要約と文献における記述の比較）
 - 第5回 文献の要約の比較と討論（第4回までの内容を踏まえ第2回で発表した要約の修正発表）
 - 第6回 文献の要約の比較と討論（要約内容に関連する内容を討論）
 - 第7回 文献の要約の比較と討論（別の章を要約し発表）
 - 第8回 文献の要約の比較と討論（第7回で発表した要約の修正発表）
 - 第9回 文献の要約の比較と討論（要約内容に関連する内容を討論）
 - 第10回 文献の発表（演習 と演習 の第9回までの内容を要約し発表）
 - 第11回 文献の発表と討論（第10回の発表内容と原文の比較）
 - 第12回 文献の発表（第10回の内容の修正を発表）
 - 第13回 これまでの発表・討論の総括
 - 第14回 ゼミ活動報告会
 - 第15回 ゼミ活動報告会
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

予習として、扱う書籍を事前に読みまとめること（12時間）、復習として、授業中に指摘された問題点について、改めて時間外に調べ直すことも必要になります（3時間）。

【成績の評価】

授業に対する態度（熱意、意欲など）（20%）、レポート（30%）、討論内容（20%）、プレゼンテーション（30%）など総合評価とする。発表や討論の内容に関して教員から講評を受けることでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

- 山田剛史・林創（2011）「大学生のためのリサーチリテラシー入門」（ミネルヴァ書房）
- 外山美樹（2011）「行動を起こし、持続する力 - モチベーションの心理学」（新曜社）
- 中谷素之（2007）「学ぶ意欲を育てる人間関係づくり：動機づけの教育心理学」（金子書房）

科目名： <KENK4> 演習 【乳児保育ゼミ】
担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi)

【授業の紹介】

演習 で決めたゼミ研究テーマに沿って、文献学習、教材研究、実践的な活動をおこないます。それらを通して、研究を進めるために必要な基礎的な知識と、問題を発見し、解決しようとする姿勢、能力を養います。また、他者とコミュニケーションを取り、協力・協働する力を養うことを目標とします。研究テーマに基づいた活動を計画、実践、省察し、論理的な思考力と創造力を身につけていきます。そして、さまざまな教材、方法の可能性を考察するなかで、保育者に必要な豊かな心と実践的能力を培うことをめざします。

【到達目標】

- ・文献、資料を調べて、必要な情報を得ることができる。
- ・文献学習、教材研究の結果をレジュメにまとめることができる。
- ・実践的な活動を計画、実践、省察し、それらをレジュメにまとめることができる。
- ・研究テーマ、内容、方法等について、他学生と討議することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究の意義と今後の計画
- 第3回 研究テーマに基づいた文献学習
- 第4回 文献学習の発表と討議（第1グループ）
- 第5回 文献学習の発表と討議（第2グループ）
- 第6回 文献学習のまとめ
- 第7回 教材研究の計画と準備
- 第8回 教材研究（第1グループ）
- 第9回 教材研究（第2グループ）
- 第10回 教材研究のまとめ
- 第11回 実践的な活動の計画と準備
- 第12回 実践的な活動
- 第13回 実践的な活動の振り返り
- 第14回 演習成果報告会レジュメ作成
- 第15回 演習成果報告会発表準備

定期試験なし

【授業時間外の学習】

研究テーマに基づいた文献学習をおこない、その学習内容をレジュメにまとめます。（1時間）また教材研究や実践的な活動の前には、計画の立案や準備をする必要があります。（1時間）

【成績の評価】

レジュメ作成・発表 60%、意見交換への参加 20%、実践への参画 20%
レジュメは、授業時間内に解説し、返却します。

【使用テキスト】

- ・厚生労働省「保育所保育指針解説」（2018年）

【参考文献】

- ・研究テーマに沿って、適宜指示します。

科目名： <KENK4> 演習 【環境ゼミ】

担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

「環境ゼミ」は、実践的な活動を通して、乳幼児教育における領域“環境”について考えるゼミです。演習では、演習に引き続き、学生の皆さんの興味関心に合わせて、保育現場で実践できる活動を文献などを用いて調べ、提案してもらいます。そして、事前学習を行った後、その活動について、計画を立て、実践し、省察をおこないます。

実践的な活動やレジュメ作成、討議を主な活動とし、研究に向けての基礎的な力を養うことを目標とします。また、これらを通して教育・保育に必要な専門的知識と実践力を養っていくと共に、保育者に必要な創造力を培うことをめざします。

【到達目標】

- ・文献等から知り得た情報をもとに、自らのテーマを決め、計画することができる。
- ・計画を実践、省察し、今後の課題を見出すことができる。
- ・協調性を持ちながら、他学生と意見交換をしたり積極的に実践活動に取り組んだりすることができる。
- ・「様々な環境に、好奇心や探求心をもってかかわる」ということについて自ら実践し、理解を深めることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 実践活動にむけての事前学習、討議
 - 第3回 実践活動の計画
 - 第4回 実践・調査
 - 第5回 省察・討議
 - 第6回 実践活動にむけての事前学習、討議
 - 第7回 実践活動の計画
 - 第8回 実践・調査
 - 第9回 省察・討議
 - 第10回 実践活動の振り返り、課題についての意見交換
 - 第11回 学習成果発表会の内容検討
 - 第12回 学習成果発表会レジュメ作成
 - 第13回 学習成果発表会プレゼンテーション準備
 - 第14回 学習成果発表会発表準備
 - 第15回 学習成果発表会
- 定期試験なし

【授業時間外の学習】

- ・実践活動の内容について事前に学習したことを、レポートにまとめます。(2時間)
- ・授業時間内に発表するための配布資料の作成、発表原稿の作成、資料整理等が必要です。(2時間)
- ・実践活動の前には、教材研究をしたり活動の準備をしたりする必要があります。(1時間)

【成績の評価】

提出物(レジュメ、レポート等)60%、意見交換への参加20%、実践活動への参加20%を総合的に評価します。

レジュメ、レポートについては、授業時間内に講評を行い、課題改善に向けたフィードバックを行います。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館 2018年)

その他、必要であれば適宜紹介します。

科目名： <KENK4> 演習 【言葉ゼミ】

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

演習（言葉ゼミ）は、演習の学習を踏まえ、それを継続し、一層拡大・深化させる形で、絵本や紙芝居、童話などをテキストとしての調査・研究や発表・討議などを行います。テキストには日本で出版されているものだけでなく、外国語（英語）のものも含まれます。

また、子どもが「絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう」ことができるようにするために求められる、学生自身の表現力・コミュニケーション能力の向上を図るため、「読み聞かせ」や紙芝居の実践演習を継続・拡充して行います。さらに、ゼミ活動の一環として読み聞かせボランティア活動を行います。そして、これらを通して保育に必要な専門知識と実践力を養っていきます。

【到達目標】

- (1) 演習の学習成果を踏まえ、子どもの言葉の獲得や言語生活についての理解を深めることができる。
- (2) 実践的な読み聞かせ活動などにより、子どもを対象としたコミュニケーション能力や言葉による表現能力の一層の向上を図ることをめざす。

【授業計画】

- 第1回 演習の内容と実施計画についての協議
 - 第2回 絵本の種類
 - 第3回 絵本の歴史
 - 第4回 絵本の表現研究（メディア・リテラシー）
 - 第5回 読み聞かせの実践演習（日本の絵本）
 - 第6回 読み聞かせの実践演習（外国絵本）
 - 第7回 読み聞かせの実践演習（紙芝居）
 - 第8回 子どもとのかかわり方（乳児）
 - 第9回 子どもとのかかわり方（幼児）
 - 第10回 乳児とのかかわり方（演習）
 - 第11回 幼児とのかかわり方（演習）
 - 第12回 学習成果の分析
 - 第13回 学習成果の検討
 - 第14回 学習成果のまとめと反省
 - 第15回 学習成果発表会
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

絵本等の言語教材の調べと発表の準備をします。（15時間）

事前に指示された課題に基づき資料を収集し、プレゼンテーションの原稿を作成します。また、子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（15時間）

【成績の評価】

受講態度・状況（60%）、学習シート課題のまとめ（20%）、「おはなし会」ボランティア活動状況（20%）により評価します。課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

絵本や紙芝居などを幅広く使用しますが、各自購入する必要はありません。

【参考文献】

演習の中で、随時紹介します。

科目名： <KENK4> 演習 【表現ゼミ】

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

幼児の音楽表現に関して研究を行います。将来、保育現場において子どもたちに音楽の喜びを伝えられるように演奏活動を中心にまずは自らの表現力を高め、専門的スキルと実践能力を養います。また、ふれあいコンサートをはじめとした発表の場を目標に、計画・準備・本番等を通して、各自が課題に気づき、解決していく力を育みます。これら企画運営の経験を含めて総合的に音楽活動に関する知識、技法、態度を修得します。

【到達目標】

- ・グループ活動において自分のアイデアや意見を論じることができる。
- ・積極的に課題を見つけ、創造的に取り組むことができる。
- ・演奏の場で臆することなく発表することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 課題I提案
- 第3回 調査発表
- 第4回 再度発表
- 第5回 課題II提案
- 第6回 調査発表
- 第7回 再度発表
- 第8回 学外ゼミ
- 第9回 課題III提案
- 第10回 調査発表
- 第11回 再度発表
- 第12回 課題IV提案
- 第13回 調査発表
- 第14回 再度発表
- 第15回 まとめ、ゼミ生全員で検討する。反省
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

授業時の楽器演奏および指導の状況を録音しておき、それを参考に各自技術向上のために練習を週に最低1時間以上行う。日々の生活の中で感じたことや、それらに関する各種情報を収集し、ゼミ内での討論や発表に活用できるようにノートに纏めておく。

【成績の評価】

提出物50% 発表内容50%
提出物にはコメントを添えて返却、発表内容については授業内で講評を行う。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

北村智恵著 「風の声を聴く子どもたち」(芸術現代社)1988年

科目名： <KENK4> 演習 【特別支援教育ゼミ】

担当教員： 山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka), 堺 るり子(SAKAI Ruriko)

【授業の紹介】

特別支援教育及び障害福祉を担う人材としての素地を高めるために、学生の興味・関心をもとに障害のある子ども・成人を取り巻く様々な課題について先行研究や文献、インターネットから情報を収集し、自らの興味・関心の探索と問題意識の形成を図ります。また調べた内容をまとめて文章にし、発表することを通して、基礎力の向上を図ります。また実際に特別支援学校や障害者福祉関連施設への見学やボランティア活動へ参加することで、障害のある方との関わりの実体験を増やし、多角的な視野や観点の獲得を目指します。演習を通じて、自ら課題解決に挑む主体性や周囲と協調・協働して物事に取り組もうとする態度、幅広い教養を身に着けるための自律的な学習意識を高めます。

【到達目標】

特別支援教育及び障害福祉を担う人材に求められる問題意識に基づく基礎的知識の獲得及び実体験を通じた多角的な視野や観点の獲得、実際的な対人技能の基礎技術を獲得できる。

1. 特別支援教育及び障害福祉を必要とする人に必要な環境構成の意義について説明できる
2. 特別支援教育及び障害福祉を必要とする人との交流を通じて、望ましい姿勢や態度を獲得できる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 特別支援教育の実践と環境構成
 - 第3回 教材開発の視点と環境構成
 - 第4回 教材開発(1: アイデア発表)
 - 第5回 教材開発(2: 素材集めと見直し)
 - 第6回 教材開発(3: 作成)
 - 第7回 教材紹介
 - 第8回 ボランティア活動の意義と学び(1: グループ討議)
 - 第9回 ボランティア活動の意義と学び(2: 個別発表)
 - 第10回 研究設問の設定(文献検索)
 - 第11回 研究構成と内容(探索)
 - 第12回 研究構成と内容(決定)
 - 第13回 最終発表の準備(レジュメ作成)
 - 第14回 最終発表の準備(発表練習)
 - 第15回 最終発表会
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業時間外にも、適宜、情報収集や集めた情報や資料を整理することが必要です(1時間)。また、ゼミナール活動としてボランティア活動へ定期的に参加しています(月1回以上)。本授業ではゼミ内の発表会を予定しているため、そのレジュメ作成等の準備が必要です。

【成績の評価】

受講態度(30%)、提出物(40%)、発表(30%)等を総合して成績を評価します。
課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。
また、必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

特別支援教育総論：インクルーシブ時代の理論と実践、(編)川合紀宗・若松昭彦・牟田口辰巳、北大路書房、2016年

科目名： <KENK5> 演習 【幼児教育ゼミ】

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

演習 は、2年次の言葉ゼミ演習 ・ で行った絵本、紙芝居、物語などの調査、研究、検討協議並びに読み聞かせの実技演習などを踏まえて、学生がそれぞれの興味・関心等により、個別の研究テーマを設定し、それにかかわる絵本、紙芝居等の紹介や研究協議を行うと共に、ゼミ活動の一環として、子育て支援ボランティア活動「おはなし会」公演等を行います。そして、これらを通して保育に必要な専門知識と実践力を養っていきます。

【到達目標】

- (1) 絵本、紙芝居等を活用して、子どもと本との関わりについての理解を深めることができる。
- (2) 表現力、コミュニケーション能力を高め、将来、保育所や幼稚園等における人間教育、情操教育を担当することのできる資質や能力、態度等を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 演習の全体計画、学生各自のテーマ設定に関する検討協議
 - 第3回 テーマ設定の検討（テーマとタイトル）
 - 第4回 テーマ設定の検討（テーマの性格）
 - 第5回 テーマ設定の検討（テーマの絞り方）
 - 第6回 ブックトーク研修（選書方法）
 - 第7回 ブックトーク研修（事例研究）
 - 第8回 ブックトーク研修（実践と評価）
 - 第9回 研究資料の検討（文献・先行研究の探求）
 - 第10回 研究資料の検討（史料の探求）
 - 第11回 研究資料の検討（調査資料の収集）
 - 第12回 学習成果の検討
 - 第13回 学習成果の分析
 - 第14回 演習成果の発表
 - 第15回 演習成果のまとめ
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

ブックトークに必要な絵本等を調べ、発表の準備をします。（5時間）

各自の研究テーマに関する文献、資料を収集し、概要や必要事項をノートに整理しておきます。（15時間）

子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（15時間）

【成績の評価】

受講態度・状況（20%）、学習シート・研究のまとめ（50%）、「おはなし会」ボランティア活動状況（30%）により評価します。課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

学生自身が用意した、市販の絵本、紙芝居や、パネルシアターなどを随時教材として使用します。

【参考文献】

随時紹介します。

科目名： <KENK5> 演習 【保育ゼミ】

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育や保育を支える理念、歴史、制度に関する内容、あるいは、教育や保育について語られる現代的な問題を正確に分析できるように、厳しく指導していくつもりです。具体的には、各回でのゼミの担当者を決めてレジュメを切ってきてもらい、質疑応答を深めて問題を追及していきます。そして、ゼミの学習成果を大勢の方に理解してもらえるようなプレゼンテーションの方法を学習します。

学修を通じて、学部のポリシーに掲げる「教育・保育に関する研究の能力を涵養」「子どもの成長・発達を究明」する力を養います。

【到達目標】

・卒業論文のテーマ決定に向けて、教育や保育に関わる現代的な問題についてレジュメを作成し、問題の本質を追究する力量を獲得できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 発表及び討議：保育の目的と目標
 - 第3回 発表及び討議：保育内容の課題
 - 第4回 発表及び討議：保育方法の課題
 - 第5回 発表及び討議：保育制度の課題
 - 第6回 発表及び討議：子育てニーズの多様性
 - 第7回 発表及び討議：育児不安の現状
 - 第8回 発表及び討議：育児不安の原因
 - 第9回 発表及び討議：子育て支援の現状
 - 第10回 発表及び討議：子育て支援の課題
 - 第11回 発表及び討議：新たな保育ニーズ
 - 第12回 発表及び討議：研究内容の整理と分析
 - 第13回 発表及び討議：個々の研究テーマの報告
 - 第14回 発表及び討議：研究内容のまとめ
 - 第15回 発表及び討議：後期の研究の方向性の検討
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ゼミ発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。学習には、15時間以上が必要になるでしょう。

【成績の評価】

レジュメの内容(50%)や質疑応答への参画の程度(50%)を総合的に評価し、単位を認定します。毎回の授業時に、各学生の学習成果を点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。

【使用テキスト】

基礎演習テキスト『しるべ』（1年次の基礎演習テキスト）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK5> 演習 【保育実践ゼミ】

担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi)

【授業の紹介】

演習 では、卒業論文のテーマ・研究内容を決定するために、関心のある分野について文献、先行研究をもとに学習します。そのような学習を通して、保育・教育、子育て支援の分野における諸問題を自ら発見し、その問題について考え、研究する能力の獲得をめざします。適宜、学習状況については、レジюмеにまとめ、発表します。他学生と意見交換をするなかで、さまざまな視点に気がつき、継続的に学ぶ姿勢・能力の獲得をめざします。そして、保育・教育、子育て支援の実態を理解するために必要な、論理的な思考力と創造力を身につけます。

【到達目標】

- ・関心のあるテーマに関連する文献や先行研究を見つけることができる。
- ・調べた内容、学習状況をレジюмеにまとめることができる。
- ・レジюмеをもとに、発表ができる。
- ・自分の考えを述べたり他学生の考えを聞いたりし、討議に参加できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業論文とは
- 第3回 研究方法について
- 第4回 文献・資料の探し方
- 第5回 文献・資料の情報整理
- 第6回 レジюмеの書き方
- 第7回 文献・資料をもとにしたレジюмеの作成
- 第8回 グループ1の発表・討議
- 第9回 グループ2の発表・討議
- 第10回 研究テーマの設定
- 第11回 研究テーマと研究の方法
- 第12回 グループ1の発表・討議
- 第13回 グループ2の発表・討議
- 第14回 発表・討議の総括
- 第15回 前期の授業のまとめと意見交換

定期試験なし

【授業時間外の学習】

個々の関心事項に合わせて、文献や先行研究をもとに情報収集をして、レポートにまとめます。(1時間) また授業時に討議をするために、個々の研究状況・学習成果をレジюмеにまとめ、提出します。(1時間)

【成績の評価】

レジюме70%、討議への参画30%により、評価します。
レジюмеは、添削して授業時に返却します。またレジюме発表の際に解説します。

【使用テキスト】

- ・厚生労働省「保育所保育指針解説」(2018年)

【参考文献】

- ・個々の研究テーマに沿って、適宜指示します。

科目名： <KENK5> 演習 【特別支援教育支援システムゼミ】

担当教員： 山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka)

【授業の紹介】

卒業論文の研究課題を設定するために、興味・関心をもとに先行研究や文献から情報を収集し、自らの問題意識を明確にします。また調べた内容をまとめて文章することを通して、卒業論文作成に求められる基礎力の向上を図ります。この演習を通じて、幅広い教養を身に付け、自律的に学ぶ姿勢と様々な課題に気づき、自ら課題解決を図る主体性を高めます。

【到達目標】

研究の基礎である、情報収集、文章のまとめ方、発表の仕方など、卒業論文作成に求められる基礎的知識と技能を習得できる。

1. 研究の種類とその内容について概説できる
2. 文献資料を探索し、文献収集ができる
3. 研究設問を設定し、それを具現化する方法を選択できる
4. 発表原稿を作成することができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 研究の進め方（研究手法とは）
 - 第3回 研究の進め方（研究手法の選定）
 - 第4回 研究課題の探索（テーマ探索）
 - 第5回 研究課題の探索（文献探索）
 - 第6回 研究課題の探索（文献整理）
 - 第7回 中間発表の準備
 - 第8回 中間発表会
 - 第9回 研究設問の設定（RQの探索）
 - 第10回 研究設問の設定（RQの決定）
 - 第11回 研究構成と内容
 - 第12回 研究構成の確認
 - 第13回 最終発表の準備（レジюме作成）
 - 第14回 最終発表の準備（発表練習）
 - 第15回 最終発表会
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業時間外にも、適宜、情報収集や集めた情報や資料を整理することが必要です（1時間）。また、本講義では2回ゼミ内の発表会を予定しているため、そのレジюме作成等の準備が必要です。

【成績の評価】

受講態度（30%）、提出物（40%）、発表（30%）等を総合して成績を評価します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。

また、必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

適宜紹介します。

科目名： <KENK5> 演習 【授業研究ゼミ】

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

戦後教育における著名な教育実践家の教育実践を取り上げ検討します。具体的には斎藤喜博、向山洋一、大村はま、遠山啓、大西忠治、無着成恭らの教育実践家です。彼らの教育実践から、現代の教育においても大切にしたい教育観、指導方法等を取り出すことで、「学位授与の方針」にある「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することの基礎を培います。

本授業は、実務経験のある教員が担当します。小学校の教育現場での教科・生徒指導の経験を生かし、豊富で具体的な実践事例を示しながら授業を行います。その実践をふまえて、学生それぞれの興味・関心からなる個別の研究テーマを設定し、後期実施の「演習」へとつないでいきます。また、実践的指導力の向上を目指した模擬授業や場面指導の在り方など教員採用試験に向けた内容を扱います。

【到達目標】

- 1 取り上げる教育実践に関わる情報を収集・整理・分析し、A4 3～4枚のレジюмеにまとめることができる。
- 2 レジюмеを検討する際のグループ討議を通して、論点に沿った質問や意見の発表することができる。
- 3 目標、指導言を明確にした10分弱程度の授業計画を立て、オープンキャンパス等の場において模擬授業を実施できる。

【授業計画】

| | | |
|------|-----------|-------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション | |
| 第2回 | 教育実践 | 「斎藤喜博」に関わる発表と討議1 |
| 第3回 | 教育実践 | 「斎藤喜博」に関わる発表と討議2 |
| 第4回 | 教育実践 | 「向山洋一」に関わる発表と討議1 |
| 第5回 | 教育実践 | 「向山洋一」に関わる発表と討議2 |
| 第6回 | 教育実践 | 「大西忠治」に関わる発表と討議1 |
| 第7回 | 教育実践 | 「大西忠治」に関わる発表と討議2 |
| 第8回 | 教育実践 | 「大村はま」に関わる発表と討議1 |
| 第9回 | 教育実践 | 「大村はま」に関わる発表と討議2 |
| 第10回 | 教育実践 | 「遠山啓・数教協」に関わる発表と討議1 |
| 第11回 | 教育実践 | 「遠山啓・数教協」に関わる発表と討議2 |
| 第12回 | 教育実践 | 「無着成恭・やまびこ学校」に関わる発表と討議1 |
| 第13回 | 教育実践 | 「無着成恭・やまびこ学校」に関わる発表と討議2 |
| 第14回 | 教育実践 | 「有田和正」に関わる発表と討議1 |
| 第15回 | 教育実践 | 「有田和正」に関わる発表と討議2 |

担当したレポート・レジюмеと質疑応答をもって評価するので定期試験は行わない。

【授業時間外の学習】

- ・研究テーマの選定・設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。
- ・模擬授業の指導案づくりや教材づくりについても随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。
- 毎日、最低でも30分以上の時間を上記2点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。
- ・学外で実施される教育セミナーや研究会等に積極的に参加し実践的指導力の向上に役立てるようにしてください。

【成績の評価】

レジюмеの内容(90%)、質疑応答など(10%)を基本にして総合的に評価します。毎回の教育実践の検討において、実践分析の在り方、レジюме制作の在り方についての評価コメントを行い、次時へ活かすようにします。

【使用テキスト】

- ・木下是雄『理科系の作文技術』(中公新書、1981年)756円
- ・田中耕治編著『時代を拓いた教師たち 戦後教育実践からのメッセージ』(日本標準、2005年)1800円

【参考文献】

- ・無着成恭『やまびこ学校』（岩波文庫、1995年）
 - ・大村はま『教えるということ』（共文社、1973年）
 - ・斎藤喜博『授業』国土社
 - ・遠山啓『競争原理を超えて』（太郎次郎社、1976年）
 - ・大西忠治『教育的集団の発見・定本「核のいる学級」』（大西忠治教育技術著作集）（明治図書、1991年）
 - ・向山洋一『跳び箱は誰でも跳ばせられる』（明治図書、1999年）
- その他、適宜紹介します。

科目名： <KENK5> 演習 【健康スポーツゼミ】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

演習 は、本学の教育課程編成・実施の方針をふまえ、教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践を関連づけて理解できるようになるための科目として位置づけられています。

授業は、卒業論文を作成するための準備をする第一段階の授業として位置づけます。卒業論文のテーマの領域を選択するために、先行研究の探し方を学び、実際に先行研究の文献を読みます。さまざまな文献を読みすすめていくうちに、論文とはどのような文章なのか、論文の構成など、実際に学びます。

【到達目標】

1. 過去の文献を読み進めていき、作成する卒業論文のテーマの領域をしぼることができる。
2. 卒業論文を作成するために必要な基本的な作業の過程を修得できる。
3. ゼミナール活動をとおして、共に支え合い、豊かな心と創造力を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 卒業論文を作成するための手順とは (論文構成を考える)
 - 第3回 卒業論文を作成するための手順とは (論文構成を作成する)
 - 第4回 卒業論文を作成するための手順とは (論文構成を検討してみる)
 - 第5回 先行研究の探し方を学ぼう (図書館にて)
 - 第6回 先行研究の探し方を学ぼう (Webでの探し方)
 - 第7回 実際に先行研究の文献を探そう (図書館にて自分のテーマに関する先行文献を探す)
 - 第8回 実際に先行研究の文献を探そう (Web上にて自分のテーマに関する先行文献を探す)
 - 第9回 実際に先行研究の文献を探そう (文献検索のまとめ)
 - 第10回 さまざまな文献を読もう (収集した文献を読む)
 - 第11回 さまざまな文献を読もう (収集した文献の整理)
 - 第12回 さまざまな文献を読もう (収集した文献をまとめる)
 - 第13回 収集した文献のまとめを発表する (前半)
 - 第14回 収集した文献のまとめを発表する (後半)
 - 第15回 総括(今後の卒業論文の進め方)
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

毎回、卒業論文のテーマの領域を絞り込むために関連資料を収集し、ノートにまとめておいてください(30分)。

また、授業後は、その関連資料をもとに、卒業論文構想発表会に向けてレジユメの作成を進めておいてください(30分)。

【成績の評価】

プレゼンテーション：60%

授業中に作成するレポート：30%

討議における授業態度：10%

全体の60%以上の得点で合格とします。

成績(レポートの評価を含む)については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

その都度、提示する

科目名： <KENK5> 演習 【教育心理ゼミ】

担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

この授業では、子どもの保育・教育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題の解決することができることをめざします。教育心理学や発達心理学の知見を中心に、発達・思考・言語・学習などについての研究論文の講読、短いレポートの作成、発表、およびディベートなどを行い、発達心理学や教育心理学の研究分野に関するより一層深い理解を目標とします。その際に、購読した論文の問題点や改善点、その他の文献から新しく得られた知見にもとづいた発展研究の案などを積極的に議論できる態度の育成をめざします。

【到達目標】

1. 様々な論文や文献に記載される子どもの教育・保育に関わる理論を適切に理解できる。
2. 様々な論文や文献から発展的な知見に得るための思考方法、またその態度を養うことができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 関心領域に関する討論
 - 第3回 関心領域に関する書籍の検索
 - 第4回 資料の要約方法
 - 第5回 書籍の要約
 - 第6回 各人の要約の発表とディベート（書籍の前半要約の発表）
 - 第7回 各人の要約の発表とディベート（書籍の後半要約の発表）
 - 第8回 各人の要約の発表とディベート（論文の要約の発表）
 - 第9回 各人の要約の発表とディベート（第8回の発表に関連した論文の要約発表）
 - 第10回 各人の要約の発表とディベート（第8、9回の発表に関連した論文の要約発表）
 - 第11回 卒業論文の構成と今後の日程
 - 第12回 論文の検索方法と文献の示し方
 - 第13回 論文の要約方法
 - 第14回 文献の検索
 - 第15回 文献の検索
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

この授業では、専門書、研究論文の探索と購読、レジュメの作成（10時間）などのために時間外の学習をすることになっています。また、授業中に指摘された問題点について、改めて調べ直すこと（5時間）も必要になります。

【成績の評価】

授業に対する態度（熱意、意欲など）（20%）、レポート（30%）、討論内容（20%）、プレゼンテーション（30%）など総合評価とします。発表内容と資料に関して教員から講評を受けることでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

松井豊（2010）「心理学論文の書き方 - 卒業論文や修士論文を書くために」（河出書房）
あとは、各人の研究テーマに合わせて探索してください。

【参考文献】

- 速水敏彦（2012）「感情的動機づけ理論の展開 やる気の素顔」（ナカニシヤ出版）
- 上淵寿（2004）「動機づけ研究の最前線」（北大路書房）
- J.ピアジェ（2013）「遊びと発達の心理学（精神医学選書）」（黎明書房）
- 田中浩司（2014）「集団遊びの発達心理学」（北大路書房）

科目名： <KENK5> 演習 【音楽ゼミ】

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

演習I,IIに引き続き、幼児の音楽表現に関する研究を深める。将来、保育現場において子どもたちに音楽の喜びを伝えられるように演奏活動を中心に自らの表現力をさらに高め、専門的技術と実践能力を養います。また次年度の卒業論文のテーマについて、ゼミ内での意見交換をもとに各自構想を練っていく。

【到達目標】

- ・グループ活動において自分のアイデアや意見を的確に論じることができる。
- ・演奏の場で自らが楽しみながら発表することができる。
- ・各自が卒業論文のテーマとなり得る案を用意できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 ふれあいコンサートでの発表準備1（題材の決定、計画、レジュメ作成）
 - 第3回 ふれあいコンサートでの発表準備2（練習、その他）
 - 第4回 ふれあいコンサートでの発表準備3（リハーサル、修正）
 - 第5回 課題I：紹介文の作成
 - 第6回 課題Iの発表と討論
 - 第7回 課題II：身近な問題をテーマに賛成反対の意見文を作成
 - 第8回 課題IIの発表と討論
 - 第9回 課題III：before/afterについて述べる文章を作成
 - 第10回 課題IIIの発表と討論
 - 第11回 卒論テーマに関する中間報告
 - 第12回 第6回オープンキャンパスでの発表準備1（題材の決定）
 - 第13回 第6回オープンキャンパスでの発表準備2（計画、レジュメ作成）
 - 第14回 第6回オープンキャンパスでの発表準備3（練習、その他）
 - 第15回 第6回オープンキャンパスでの発表準備4（リハーサル、修正）前期の反省
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

授業時の楽器演奏および指導の状況を録音しておき、それらを参考に各自技術向上のための練習を週に最低1時間以上行う。卒業論文のテーマを決定する為に多くの資料を収集し比較検討を行いゼミ内での討論や発表に活用できるようノートに纏めておく。

【成績の評価】

提出物50% 発表内容50%
提出物にはコメントを添えて返却、発表内容には個々に説明を行う。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

「子どもの眼の高さで歌おう」北村智恵著（芸術現代社）1983年
幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
保育所保育指針（平成29年3月告示 文部科学省）

科目名： <KENK5> 演習 【学校教育ゼミ】

担当教員： 藤本 駿

【授業の紹介】

まず、各自の関心に基づいた教育・保育に関する研究課題を設定する。次に、研究課題にかかわる文献や資料を収集・調査・分析する活動を進めていく。このような活動を通して、教育・保育に関する諸課題を自ら発見し、それを解決する力を養う。

また、ゼミの共通テーマとして「二十四の瞳」を取り上げて実地研究を進める。さらに、社会人としての教養をつけ、就職試験に向けて準備をする。

これらは、学部のディプロマポリシーにある「使命感・倫理観」「幅広い知識」「問題解決力」「実践力」などと結びつくものです。

【到達目標】

各自の研究については、自らの教育・保育に関する諸課題に関する文献・諸資料の調査、その吟味、課題に関する諸情報のまとめ方、討論や発表の方法、等に取り組める。

共通テーマについては、それを通して内容の解釈や関心を広めることができる。

日本語力・漢字力や新聞を読む力をつけ、社会人としての素養を磨き、就職試験対策につなげることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究課題について討議
- 第3回 研究課題についての討議の続き
- 第4回 文献・資料調査
- 第5回 文献・資料調査の続き
- 第6回 調査法（見学、観察）
- 第7回 調査法（アンケート、インタビュー）
- 第8回 資料の整理方法
- 第9回 資料のまとめ方
- 第10回 発表・討議
- 第11回 発表・討議の続き
- 第12回 再調査等
- 第13回 修正
- 第14回 ゼミ内で発表会・まとめ
- 第15回 次期の計画

・上記の他、適宜、共通テーマに取り組むほか、一般教養の小テストや新聞記事を相互に出し合い、就職試験に向けて基礎的な勉強をする。

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

上記計画にあるように、文献や資料について調査や準備（週3時間）、そしてその発表を行う。共通テーマへの取り組み（学期に1回各1日）、さらに小テストの実施や新聞記事の紹介等（各30分）があるので、時間外の準備が必要である。それらの成果はゼミ活動ファイルである。

【成績の評価】

演習活動への取り組み状況（30%）、個々の活動の出来具合（50%）、期末までの向上度（20%）、などにより総合的に評価する。

発表・討議の際及び期末に全体の講評を行う。

【使用テキスト】

なし。

【参考文献】

- ・関口靖広著『教育研究のための質的研究法講座』北大路書房、2013年
- ・渡邊淳子著『大学生のための論文・レポートの論理的な書き方』研究社、2015年
- その他、教育研究法に関する文献

科目名： <KENK5> 演習 【特別支援教育ゼミ】

担当教員： 堺 るり子(SAKAI Ruriko)

【授業の紹介】

演習 では、特別な支援を必要とする子育てを支えるための科目で修得した内容を基盤として、特別な支援を必要とする子どもの発達・生活・学習等における課題を考察します。考察するにあたり、文献精読や実地研修・ボランティア等の体験活動に参加する機会を積極的に設けます。文献精読や体験活動を通して、卒業論文の作成に必要な基礎的知識を修得するとともに、子どもの教育・保育に係る諸問題を自ら発見し、問題解決の方策等について討議で積極的に発言することを重視します。さらに、体験活動等の実践的な学びにおいて、教育・保育に求められる専門性について理解を深め、教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力を獲得することをめざします。

【到達目標】

1. 特別な支援を必要とする子どもの発達・生活・学習等における個別のニーズや課題を、理解することができる。
2. 実地研修やボランティア活動等に積極的に参加し、学んだ内容を報告することができる。
3. 討議や発表で、気付きや疑問、意見を積極的に述べるができる。
4. 卒業論文のテーマ決定に向けて、関心がある領域の問題点や課題等を、的確にレジュメにまとめることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 卒業論文研究とは
 - 第3回 関心がある領域 ゼミ生(A・B)
 - 第4回 関心がある領域 ゼミ生(C・D)
 - 第5回 障害がある人を理解する視点
 - 第6回 障害がある子どもの学びに関わる問題
 - 第7回 障害がある子どもの暮らしに関わる問題
 - 第8回 実地研修:特別支援学校または福祉施設における医療的ケア
 - 第9回 障害が重い子どもの教育・療育
 - 第10回 特別支援教育における現代の課題
 - 第11回 研究テーマの報告 ゼミ生(A・B)
 - 第12回 研究テーマの報告 ゼミ生(C・D)
 - 第13回 実地研修:特別支援教育におけるICT機器の活用
 - 第14回 研究内容のまとめ
 - 第15回 演習 の研究内容の検討
- 定期試験は実施しない

実地研修以外は各テーマについて発表・討議を行います。

【授業時間外の学習】

- ・ 毎回、授業前に資料やレジュメを作成し、発表及び討議に臨んでください(2時間)。
- ・ 授業後は、討議等で指摘された事項について、再度調べたりまとめ直したりすることが必要です。
- ・ 授業時間外に、文献の精読や論文の探索・講読、資料・情報の収集及び整理を行ってください。

【成績の評価】

- ・ レジュメの内容(50%)、討議・実地研修(50%)を踏まえて総合的に評価します。
- ・ レジュメ等は授業時に講評します。また、必要に応じてオフィスアワーでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・ 適宜紹介します。

【参考文献】

- ・ 適宜紹介します。

科目名： <KENK5> 演習 【乳幼児保育研究ゼミ】

担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

演習 では、就学前の子どもや子育て支援、保育分野に関する研究課題を設定するために、文献や先行研究から資料を収集します。また、今日の子育て課題や保育情勢を知ること、さらに研究課題を追究していきます。各自調べたことをレジュメにまとめ、発表、討論をすることを通して、さらに理解を深め、演習 につなげていきます。これらを通して、保育者として、教育・保育に必要な専門的知識と実践力を養っていきます。

【到達目標】

- ・就学前の子どもや子育て支援、保育分野に関すること、関心のあるテーマに関連する文献や先行研究を見つけ、レジュメを作成できる。
- ・レジュメをもとに発表し、他学生の意見を尊重しながらも自分の考えを述べるなど、積極的に討論に参加することができる。
- ・今日の子育て課題や保育情勢について知り、理解を深めることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 研究とは
 - 第3回 文献・資料検索方法
 - 第4回 先行研究の読み方
 - 第5回 調査方法（アンケート、インタビュー）
 - 第6回 調査方法（観察）
 - 第7回 文献・資料の整理方法
 - 第8回 レジュメの書き方
 - 第9回 文献・資料をもとにしたレジュメの作成
 - 第10回 レジュメ発表・討議
 - 第11回 レジュメ発表・討議
 - 第12回 研究テーマと研究方法の検討
 - 第13回 研究テーマと方法について発表・討議
 - 第14回 研究テーマと方法について発表・討議
 - 第15回 前期まとめ、後期に向けての計画
- 上記の他、今日の子育て課題や保育情勢についての討論も随時行う。
定期試験なし

【授業時間外の学習】

- ・文献や先行研究について検索し、情報収集をして、レポートにまとめる。（2時間）
- ・研究テーマと方法について発表するためのレジュメを作成する。（2時間）
- ・今日の子育て課題や保育情勢について、情報収集を行う。（30分）

【成績の評価】

レジュメの内容（60%）、討議への参画（40%）を総合的に評価します。
レジュメについては、毎回授業時に講評を行い、課題改善に向けたフィードバックを行います。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

その他、必要であれば適宜紹介します。

科目名： <KENK5> 演習 【教育相談ゼミ】

担当教員： 織田 幸美(ODA Yukimi)

【授業の紹介】

学童期、乳幼児期に子どもが直面する発達上の課題について理解を深め、課題解決に向けての実践力を高めるための基礎を養います。授業は文献や先行研究を見つけ、発表することでお互いに自分なりの考えをもって取り組めるように、討論を中心に進めます。

【到達目標】

- ・ 子どもの発達上の課題について理解する。
- ・ 関心のあるテーマに関連する文献や先行研究を見つけ、レジュメにまとめて発表することができる。
- ・ 発表をもとに自分なりの考えを持ち、お互いに討論ができる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション
第2回 課題についての討論
第3回 文献研究の方法
第4回 テーマ別の研究、発表、討議
第5回 テーマ別の研究、発表、討議
第6回 テーマ別の研究、発表、討議
第7回 テーマ別の研究、発表、討議
第8回 テーマ別の研究、発表、討議
第9回 テーマ別の研究、発表、討議
第10回 発表・討議の総括
第12回 課題解決に向けての実践研究
第13回 課題解決に向けての実践研究
第14回 研究テーマの設定
第15回 まとめと意見交換
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

個々の課題に基づいて、文献や先行研究をもとにレジュメにまとめて発表に臨みます。また、討論を通して出された課題に対して情報収集をして、発表の準備が必要です。

【成績の評価】

受講態度・出席状況(20%)レジュメの内容(50%)討議への参画(20%)などにより、総合的に評価します。

【使用テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

適宜紹介します。

科目名： <KENK5> 演習 【教科指導ゼミ】

担当教員： 糸目 真也(ITOME Shinya)

【授業の紹介】

小学校等での理科教育や環境教育、防災教育等に関する内容を把握する。
を踏まえて、理科教育や環境教育、防災教育等に関して、身近な自然やモノを素材とした教材開発と授業研究のための文献や資料、先行事例について調査する。
を踏まえて、卒業研究のテーマを検討し、決定する。
を踏まえて、卒業研究の進め方を具体的に考えた後に、卒業研究を進めていく。
～ と並行して、今日の学校が抱えている課題についても、適宜、学ぶこととする。

【到達目標】

- ・将来、教員として必要な素養と幅広い人間性、教科に関する専門的な知識と技能を身に付けることができる。
- ・実物を見る、実物に触れる、実際につくる、現場を知ること大切にして、手と目と足と頭を使って教材を開発して教材化し、授業を实践する基礎力を身に付けることができる。
- ・情報活用能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、課題解決能力を身に付けることができる。
- ・理科教育や環境教育、防災教育等に関しての知見を深め、演習 へと継続・発展させることができる。

【授業計画】

下記は目安であり、授業の進捗等によって変更する場合がある

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 小学校低学年理科教育の学習内容の調査と理解
 - 第3回 小学校高学年理科教育の学習内容の調査と理解
 - 第4回 小学校環境教育の学習内容の調査と理解
 - 第5回 小学校防災教育学習内容の調査と理解
 - 第6回 小学校理科教育・環境教育・防災教育のまとめ
 - 第7回 小学校低学年理科教育の実験・観察内容の資料や先行事例の調査
 - 第8回 小学校高学年理科教育の実験・観察内容の資料や先行事例の調査
 - 第9回 小学校環境教育の実験・観察内容の資料や先行事例の調査
 - 第10回 小学校防災教育の実験・観察内容の資料や先行事例の調査
 - 第11回 小学校理科教育・環境教育・防災教育いずれかの教材開発
 - 第12回 小学校理科教育・環境教育・防災教育いずれかの教材開発の続き
 - 第13回 教材開発の発表と討議・修正
 - 第14回 ゼミ内での発表と討議・まとめ
 - 第15回 次期の計画
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

自然観察会（地学巡検等）を3回程度（6時間×3回）行う予定である。また、そのための事前学習（それぞれ1時間）及びまとめ（それぞれ1時間）を行う。

【成績の評価】

ゼミ活動への取組状況（レポートや提出物等も含む）50%、ゼミ活動の成果30%、期末までの向上度20%を目安とする。発表・討議の際及び期末に全体の講評を行う。

【使用テキスト】

授業で連絡します。以下を予定
文部科学省編「小学校学習指導要領解説 理科編」
小学校理科の教科書 等

【参考文献】

適宜、連絡します

科目名： <KENK5> 演習 【生徒指導力向上ゼミ】

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi)

【授業の紹介】

この授業は実務経験のある教員による授業科目です。学校現場や教育行政での経験を活かし、具体的な事例を交えながら授業を行います。

教師に求められる学習指導力と生徒指導力のうち生徒指導に焦点を絞り、多面的にその理解を深めていきます。また、学修の過程では積極的に討論を取り入れます。生徒指導力の向上を図ることは、自らの人間力を高めることにもつながると考えています。

学校現場において確かな戦力となる人材の育成を目指します。

【到達目標】

- 1 小学校段階における生徒指導の理論・考え方や実際の指導方法等を理解することができる。
- 2 卒業論文の作成に向けて研究を深める中で、生徒指導の素養を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 各都道府県教育委員会が掲げる教育理念 1
 - 第3回 各都道府県教育委員会が掲げる教育理念 2 (発表・討論)
 - 第4回 学校支援ボランティアを通しての学び 1 (発表・討論)
 - 第5回 学校支援ボランティアを通しての学び 2 (発表・討論)
 - 第6回 生徒指導の意義
 - 第7回 開発的・予防的な生徒指導
 - 第8回 教育課程における生徒指導の位置づけ
 - 第9回 児童理解の重要性とその基本
 - 第10回 児童期の発達の特徴及び発達障害の理解
 - 第11回 児童理解を深める (発表・討論)
 - 第12回 集団指導と個別指導
 - 第13回 授業の中での生徒指導
 - 第14回 子ども・保護者との信頼関係の構築
 - 第15回 演習 の振り返りと演習 の見直し
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

毎回、配布するワークシートに学習事項と要点をまとめるとともに次回の授業範囲を予習し、専門用語等の意味を理解しておく。また、発表・討論の際にはレジュメを作成する。(1.5時間)

【成績の評価】

授業への参画状況(主体性、討論内容等) 50%、ワークシート及びレジュメの内容 50%

【使用テキスト】

文部科学省「生徒指導提要」教育図書(平成22年3月)

【参考文献】

適宜紹介する。

科目名： <KENK6> 演習 【幼児教育ゼミ】

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

演習 は、3年次の演習 で行った、学生がそれぞれの興味・関心等により設定したテーマに関わる絵本、紙芝居等の紹介や研究協議を踏まえて、それをさらに深化、発展させるとともに、ゼミ活動の一環として、絵本の読み聞かせや手遊びなどによる子育て支援ボランティア活動「おはなし会」公演等を行います。そして、これらを通して保育に必要な専門知識と実践力を養っていきます。

また、これらの諸活動を通じて獲得した課題意識に基づき、卒業論文の構想に結び付けていきます。

【到達目標】

- (1) 絵本、紙芝居等を活用して、子どもと本との関わりについて研究し、理解を深めることができる。
- (2) 表現力、コミュニケーション能力を高め、将来、保育所や幼稚園等における人間教育、情操教育を担当することのできる資質や能力、態度等を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 演習の全体計画
 - 第2回 学生各自のテーマ設定に関する確認と検討協議
 - 第3回 参考資料、文献の整理と発表
 - 第4回 参考資料、文献の発表
 - 第5回 参考資料、文献の研究討議
 - 第6回 ブックトーク演習（事例研修）
 - 第7回 ブックトーク演習（発表）
 - 第8回 ブックトーク演習（まとめ）
 - 第9回 研究構想案の発表
 - 第10回 研究構想案の検討
 - 第11回 学生各自の研究発表、研究討議
 - 第12回 学習成果の検討と分析
 - 第13回 学習成果の発表とまとめ
 - 第14回 卒業論文構想発表会
 - 第15回 卒業論文構想発表会の考察と課題（まとめ）
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

ブックトークに必要な絵本等を調べ、発表の準備をします。（5時間）

各自の研究テーマに関する文献や資料を収集し概要や必要事項をノートに整理しておきます。（15時間）

子育て支援ボランティア活動として、読み聞かせ活動を行います。そのため、各自及びゼミ学生での自主練習が必要です。事後には、実践内容、子どもの反応、感想、課題をまとめ、指定の様式に記録しておきます。（15時間）

【成績の評価】

受講態度・状況（60%）、学習シート・課題のまとめ（20%）、「おはなし会」ボランティア活動状況（20%）により評価します。課題については、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

学生自身が用意した、市販の絵本、紙芝居や、パネルシアターなどを随時教材として使用します。

【参考文献】

随時紹介します。

科目名： <KENK6> 演習 【保育ゼミ】

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育や保育を支える理念、歴史、制度に関する内容、あるいは、教育や保育について語られる現代的な問題を正確に分析できるように、厳しく指導していくつもりです。具体的には、各回でのゼミの担当者を決めてレジュメを切ってきてもらい、質疑応答を深めて問題を追及していきます。そして、ゼミの学習成果を大勢の方に理解してもらえるようなプレゼンテーションの方法を学習します。

学修を通じて、学部ポリシーに掲げる「教育・保育に関する研究の能力を涵養」「子どもの成長・発達を究明」する力を養います。

【到達目標】

・卒業論文のテーマ決定に向けて、教育や保育に関わる現代的な問題についてレジュメを作成し、問題の本質を追究する力量を獲得できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 発表及び討議：個々の夏休み中の研究成果の発表
 - 第3回 発表及び討議：後期の研究課題の発表
 - 第4回 発表及び討議：研究目的の検討
 - 第5回 発表及び討議：研究の方向性と結論の予測
 - 第6回 発表及び討議：論証の方法の検討
 - 第7回 発表及び討議：論証に用いる資料の検討
 - 第8回 発表及び討議：研究内容の発表（ゼミ生5名の内3名）
 - 第9回 発表及び討議：研究内容の発表（ゼミ生5名の内2名）
 - 第10回 発表及び討議：卒業論文構想発表会のレジュメの試作
 - 第11回 発表及び討議：卒業論文構想発表会のレジュメの修正
 - 第12回 発表及び討議：卒業論文構想発表会のレジュメの完成
 - 第13回 発表及び討議：発表用プレゼンテーション資料の作成
 - 第14回 発表及び討議：卒業論文構想発表会での発表
 - 第15回 発表及び討議：後期の研究のまとめ
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ゼミ発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業前後に必要となります。学習には、15時間以上が必要になるでしょう。

【成績の評価】

レジュメの内容(50%)や質疑応答への参画の程度(50%)を総合的に評価し、単位を認定します。毎回の授業時に、各学生の学習成果を点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。

【使用テキスト】

基礎演習テキスト『しるべ』（年次の基礎演習テキスト）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK6> 演習 【保育実践ゼミ】

担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi)

【授業の紹介】

演習 では、演習 において文献、先行研究をもとに学習したことをふまえ、卒業論文のテーマ・研究内容を決めます。そして、そのテーマ・研究内容についてそれぞれがレジюмеにまとめ、発表・討議を重ねます。他学生とコミュニケーションを取りながら、さまざまな問題について考える経験を通して、諸問題を発見し、その問題を解決しようとする姿勢を養います。自らの研究とゼミ活動を通して、乳幼児教育・保育、子育て支援の実態を理解するために必要な論理的な思考力と創造力を身につけます。

【到達目標】

- ・文献や先行研究から学び、レジюмеを作成できる。
- ・自分の考えを述べたり他学生の考えを聞いたりし、討議に参加できる。
- ・卒業論文の構想レジюмеを作成できる。
- ・自分の卒業論文構想について、発表し、説明できる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマと研究方法
- 第3回 グループ1の発表・討議
- 第4回 グループ2の発表・討議
- 第5回 研究計画
- 第6回 グループ1の発表・討議
- 第7回 グループ2の発表・討議
- 第8回 卒業論文構想発表会にむけて
- 第9回 卒業論文構想発表会レジюме作成
- 第10回 卒業論文構想発表会レジюме修正
- 第11回 卒業論文構想発表会レジюме完成
- 第12回 卒業論文構想発表会発表準備
- 第13回 卒業論文構想発表会発表練習
- 第14回 卒業論文構想発表会反省
- 第15回 1年間の振り返りと課題の明確化

定期試験なし

【授業時間外の学習】

個々の関心事項に合わせて、文献や先行研究をもとに情報収集をして、レポートにまとめます。(1時間) また授業時に討議をするために、個々の研究状況・学習成果をレジюмеにまとめ、提出します。(1時間)

【成績の評価】

レジюме70%、討議への参画30%により、評価します。
レジюмеは、添削して授業時に返却します。またレジюме発表の際に解説します。

【使用テキスト】

- ・厚生労働省「保育所保育指針解説」(2018年)

【参考文献】

- ・個々の卒論研究テーマに沿って、適宜指示します。

科目名： <KENK6> 演習 【特別支援教育支援システムゼミ】

担当教員： 山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka)

【授業の紹介】

演習 の内容を引き継ぎ、卒業論文の構成と内容を具体的に絞り込み、卒業論文を作成するための研究の方法と計画を立てます。第1回目から第5回目の授業では、各自の研究テーマに沿って、実地研究、調査研究、文献研究等の進め方と準備について学習します。また卒業論文の主となるデータの収集を複数のリソースから行います。またこれらを分析しまとめ、わかりやすく伝える工夫の仕方を学びます。この演習 を通じて、子どもの育ちに関連する課題に強い関心をもって情報収集を行うことで、幅広い教養を身に付け、新たな課題に対して、主体的かつ自律的に学ぶ姿勢を育みます。また中間発表など意見交換を行うことで、他者との協働作業やコミュニケーション能力を高めます。

【到達目標】

自らの課題設定に対して、情報収集し、文章としてまとめ、わかりやすく発表するプレゼンテーションの仕方など、卒業論文作成に求められる知識と技能を向上を目指す。

1. 研究方法の種類とその特徴について説明することができる
2. 研究計画を立案することができる
3. 研究計画を基に、資料収集及びデータ収集を実施できる
4. 研究遂行の結果を文章にまとめることができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 研究の方法と計画（研究法の確認）
 - 第3回 研究の方法と計画（研究計画の作成）
 - 第4回 研究開始の準備（調査及び実践：文献研究，調査研究）
 - 第5回 研究開始の準備（調査及び実践：実地研究，事例研究）
 - 第6回 中間発表の準備（レジュメ作成）
 - 第7回 中間発表
 - 第8回 研究（文献収集及びデータ収集：資料収集）
 - 第9回 研究（文献収集及びデータ収集：資料整理）
 - 第10回 研究（文献収集及びデータ収集：仮説の設定）
 - 第11回 研究（文献収集及びデータ収集：結果のまとめ）
 - 第12回 発表の準備（様式作成）
 - 第13回 発表の準備（レジュメ作成）
 - 第14回 発表の準備（発表練習）
 - 第15回 卒業論文構想発表会準備と発表
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業時間外にも、適宜、集めた情報や資料を整理することが必要です（1時間）。
また、本講義では、各回で各自の進捗状況の報告を行います。ゼミ内の中間発表会を行いますので、レジュメ作成等の準備が必要です。

【成績の評価】

受講態度（30%）、提出物（40%）、発表（30%）等を総合して成績を評価します。課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また必要に応じてオフィスアワーにおいて個別的にフィードバックします。

【使用テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

適宜紹介します。

科目名： <KENK6> 演習 【授業研究ゼミ】

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

「演習」で行った著名な戦後教育の実践家の検討をもとに、個別に設定した研究テーマについての発表・検討を踏まえ、それをさらに深化・拡充します。それは、「学位授与の方針」にある「教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解」「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することの結びつきを具体的な実践をもとに考察することであり、4年次の卒業論文へ直接つながります。

また、4年次に受験する教員採用試験の願書等の書き方、試験問題の傾向と分析を行います。

本授業は、実務経験のある教員が担当します。小学校の教育現場での教科・生徒指導の経験を生かし、豊富で具体的な実践事例を示しながら授業を行います。

【到達目標】

・教育に関わる論点についての情報を収集・整理・分析する力、レジュメを作成する力、論点についての本質を見極める力の獲得を目指す。

・「演習」の研究成果をもとに、卒業論文のテーマを決定することができる。

・研究の目的、論文構成、結論の予測を明確にした「卒業論文構想」をA4用紙1枚にまとめることができる。

・「卒業論文構想発表会」において研究の概要を発表し、質疑に対する的確に回答できる。

・自身の教育観、児童観を明確にし、その内容をエントリーシートに表すことができる。また、学生や教員を面接官役に見立てた場で効果的にアピールできる。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション

第2回 発表と討議1 研究のねらいの明確化（「主張」の文章化）

第3回 発表と討議2 研究のねらいの明確化（「主張」の修正）

第4回 発表と討議3 仮の「研究主題」の設定（「主張」を一文で示す）

第5回 発表と討議4 仮の「研究主題」の設定（「主張」と「タイトル」の関連）

第6回 発表と討議5 予想される「結論」の設定（学生半数）

第7回 発表と討議6 予想される「結論」の設定（学生残り半数）

第8回 発表と討議7 「主題」を論証する手だて（KJ法）（学生1/3名ずつ）

第9回 発表と討議8 「主題」を論証する手だて（KJ法）（学生1/3名ずつ）

第10回 発表と討議9 「主題」を論証する手だて（KJ法）（学生1/3名ずつ）

第11回 発表と討議10 「論文構成」（学生半数）

第12回 発表と討議11 「論文構成」（学生残り半数）

第13回 研究のまとめ1 「卒業論文構想会」のレジュメ作り（学生半数）

第14回 研究のまとめ2 「卒業論文構想会」のレジュメ作り（学生残り半数）

第15回 卒業論文構想発表

毎回の、卒業論文構想への取り組みをもって評価するので定期試験は行わない。

【授業時間外の学習】

・研究テーマが個別になるので、テーマの選定・設定や文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。

・エントリーシートの記入や面接での対応の在り方について随時相談に乗りますので、研究室を頻繁に訪れるように努めてください。

毎日、最低でも30分以上の時間を上記2点の学習にあて、教職に就くにあたって必要とされる知識・教養・技能を積み重ねること。

【成績の評価】

論証可能な適切な研究題目を設定できたか（25%）

研究題目に関わる予備調査（資料収集）が十分であるか（25%）

を踏まえ、「卒業論文構想発表会」で検討される発表レジュメを作成できたか（50%）

を基本として、出席状況、教員採用試験への取り組み意欲などを合わせて総合的に評価します。

評価したことは、次年の「卒業論文」作成の指導に反映します。

【使用テキスト】

・木下 是雄 『理科系の作文技術』中公新書（前期に購入済み）

・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（東洋館出版、2018年）

【参考文献】

- ・『香川県教員試験「過去問」シリーズ 香川県の論作文・面接 2020年度版』 協同教育研究会編など受験する教員採用試験の地域の過去問題集等。
- ・野口芳宏『教員採用試験 シリーズ2020年度版「模擬授業・場面指導」』一ツ橋書店
- ・常磐会学園大学教職教育研究会編『論作文と面接・模擬授業 教員採用試験のために』大阪教育図書
- ・現代教職研究会編者『教員採用試験 シリーズ2020年度版「30秒アピール面接」』一ツ橋書店
その他、適宜紹介します。

科目名： <KENK6> 演習 【健康スポーツゼミ】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

演習 は、本学の教育課程編成・実施の方針をふまえ、教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解するとともに、その知識体系を教育・保育の実践を関連づけて理解できるようになるための科目として位置づけられています

授業は、演習 の内容を引き継ぎ、卒業論文のテーマの領域を絞り込んでいきます。文献を読み、レジュメを作成していく中で、卒業論文という長文を完成させるための文章表現のマナーを修得していきます。

【到達目標】

1. 先行文献を読み、その内容を正確に把握し理解できる。
2. 文献の内容を要約することで、表現したい筋書きや内容を明確にすることができる。
3. レジュメを作成する際に、その都度、文章表現のマナーを修得することができる。
4. 授業におけるさまざまな活動の中で、共に助け合い、豊かな心と創造力を身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 興味のある領域の文献を読もう (図書館にて)
 - 第3回 興味のある領域の文献を読もう (Web上にて)
 - 第4回 興味のある領域の文献を読もう (収集した文献のまとめ)
 - 第5回 レジュメを作成しよう (レジュメとは何か)
 - 第6回 レジュメを作成しよう (読み易さのための工夫)
 - 第7回 レジュメを作成しよう (レジュメの構成を考える)
 - 第8回 レジュメを作成しよう (主張部分の明示)
 - 第9回 レジュメを作成しよう (論理構造の明示)
 - 第10回 文章表現のマナー (引用文献の書き方)
 - 第11回 文章表現のマナー (タイプ別レジュメの書き方)
 - 第12回 文章表現のマナー (レジュメの書き方のまとめ)
 - 第13回 卒業論文のテーマの領域についてのレジュメの構成を考える
 - 第14回 卒業論文のテーマの領域についてのレジュメを書いてみる
 - 第15回 作成したレジュメを発表する
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

毎回、各自の卒業論文のテーマについて関連資料を収集し、ノートにまとめておいてください(30分)

また、授業後は、その関連資料をもとに、卒業論文構想発表会に向けてレジュメの作成を進めておいてください(30分)。

【成績の評価】

授業中に作成するレジュメおよびレポート：80%

授業態度(討議の態度、プレゼンテーション)：20%

全体の60%以上の得点で合格とします。

レジュメおよび小レポートの評価については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

その都度、提示する

科目名： <KENK6> 演習 【教育心理ゼミ】

担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

この授業では、子どもの保育・教育にかかる諸問題を自ら発見し、その問題の解決することができることをめざします。心理学関係の講義やこれまでの演習で得られた知識や子どもの教育・保育に関わる理論をもとに、関心を持った事柄について、簡単な心理学の研究をゼミ生で協力しながら実際に行ってもらいます。まず、興味のある内容に関連した論文の講読、レジユメの作成、発表、およびディベートなどを行い、独自性豊かな研究テーマを開拓します。次に、研究の方法について詳細に議論し、エレガントな研究計画を立て、そして、その計画にもとづいて実際に調査や実験を行ってもらいます。また、卒業論文構想発表会に向けて、自らの卒業論文のための研究計画を立ててもらいます。

【到達目標】

1. 卒業論文のための基礎として、文献の熟読、まとめ、発表、ディベートを通し、様々な論文や文献を基盤にし、発展的な研究を考えられる態度を確立し、実際の研究プロセスを体験することで、研究の楽しさや難しさが理解できる。
2. 卒業論文のテーマを絞り込み、それに向けて関連文献をまとめることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 各人の論文の要約発表とディベート（関心に沿った論文の要約）
 - 第3回 各人の論文の要約発表とディベート（第2回で要約した論文に関連するキーワードの論文要約）
 - 第4回 各人の論文の要約発表とディベート（第3回で要約した論文に関連するキーワードの論文要約）
 - 第5回 各人の論文の要約発表とディベート（第4回で要約した論文に関連するキーワードの論文要約）
 - 第6回 各人の論文の要約発表とディベート（第5回で要約した論文に関連するキーワードの論文要約）
 - 第7回 卒業論文のテーマに関するディベート
 - 第8回 卒業論文のテーマとなる文献の調査と報告（第7回を踏まえた報告）
 - 第9回 卒業論文のテーマとなる文献の調査と報告（第8回の資料を改善したものを報告）
 - 第10回 卒業論文構想発表会の資料作成（草案の作成）
 - 第11回 卒業論文構想発表会の資料作成（草案の修正を作成）
 - 第12回 卒業論文構想発表会の発表練習（各自資料をもとに準備）
 - 第13回 卒業論文構想発表会の発表練習（第12回での発表練習での意見をもとに修正）
 - 第14回 卒業論文構想発表会
 - 第15回 卒業論文構想発表会
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

この授業では、専門書、研究論文の探索（1時間）・購読（7時間）、レジユメの作成（7時間）、実験の実施などのために時間外の学習をすることになっています。また、授業中に指摘された問題点について、改めて調べ直すことも必要になります。

【成績の評価】

授業に対する態度（熱意、意欲など）（10%）、レポート（30%）、討論内容（10%）、実験計画内容（15%）、実験の実施（15%）、卒業論文構想発表会におけるプレゼンテーション（20%）など総合評価とする。発表や資料に関して教員から講評を受けることでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

その都度指示する。

【参考文献】

- 宮本聡介・宇井美代子（2014）「質問紙調査と心理測定尺度 計画から実施・解析まで」（サイエンス社）
- 小杉考司・清水裕士（2014）「M-plusとRによる構造方程式モデリング入門」（北大路書房）
- 樋口耕一（2014）「社会調査のための計量テキスト分析」（ナカニシヤ出版）
- 小塩真司（2007）「実践形式で学ぶSPSSとAmosによる心理・調査データ解析」（東京図書）

科目名： <KENK6> 演習 【音楽ゼミ】

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

演習IIIに引き続き、幼児の音楽表現に関する研究を深める。将来、保育現場において子どもたちに音楽の喜びを伝えられるように音楽表現に関わる自らの専門的技能と実践能力に更なる磨きをかけます。また卒業論文構想発表に向けて各自検討を重ね、ゼミ内での発表と討論を繰り返し、準備を整えていく。

【到達目標】

- ・意義深く、各自が意欲的に取り組める卒業論文のテーマを決定し、その構想を分かりやすく表現することができる。
- ・グループ活動において自分のアイデアや意見を説得力豊かに論じることができる。

【授業計画】

- 第1回 卒論テーマに関わる意見交換
 - 第2回 卒論に関わる文献の調査
 - 第3回 オータムコンサートのための準備1
 - 第4回 オータムコンサートのための準備2
 - 第5回 卒論に関わる思考マップの作成
 - 第6回 卒論に関わる問いと答えのリスト作成
 - 第7回 ふれあいコンサートのための準備1（提案、計画、レジュメ作成）
 - 第8回 ふれあいコンサートのための準備2（練習）
 - 第9回 ふれあいコンサートのための準備3（リハーサル）
 - 第10回 卒論の論証方法を考える
 - 第11回 卒論アウトラインの検討
 - 第12回 レジュメの準備
 - 第13回 レジュメの修正
 - 第14回 発表と討論
 - 第15回 再度発表
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

卒業論文のテーマを決定する為に多くの資料を収集し、毎週最低1時間以上は比較検討を行うこと。
演奏技術を維持するための練習を毎週最低1時間以上は行うこと。

【成績の評価】

提出物50% 発表内容50%
提出物にはコメント添えて返却、発表内容については個々に講評を与える。

【使用テキスト】

適宜紹介

【参考文献】

「子どもの眼の高さで歌おう」北村智恵著（芸術現代社）1983年
幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・厚生労働省・文部科学省）
保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）

科目名： <KENK6> 演習 【学校教育ゼミ】

担当教員： 藤本 駿(FUJIMOTO Syun), 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi)

【授業の紹介】

演習 を発展させることとし、各自の研究課題を明確にする。まず関連する論文を取り上げてレジюмеを作成し、検討を行う。それによって、卒業研究としての見通しがつくように研究をさらに進める。最終的に卒業論文構想を作成し、報告会で報告する。

また、共通テーマにも取り組み、加えて一般教養を身につけ、そして就職試験等に向けて対策も講じる。

【到達目標】

1. 研究については、課題についての文献・論文の検索、諸資料の調査・分析・活用、そして見学・調査・インタビューの実施や諸情報のまとめ、討論や発表ができる。
2. 卒業論文構想を作成できる。
3. それらを通して問題発見、問題解決の力を付ける。
4. 共通テーマについても適宜資料収集力・読解力・活用力を付ける。
5. 日本語力・漢字力、新聞を読む力など社会人としての力を付け、就職試験対策ができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 課題について討議
- 第3回 課題について討議の続き
- 第4回 文献・資料調査
- 第5回 文献・資料調査の続き
- 第6回 見学・観察・アンケート・インタビューの計画
- 第7回 資料のまとめ方
- 第8回 調査報告
- 第9回 調査報告の続き
- 第10回 発表と討議
- 第11回 発表と討議の続き
- 第12回 発表会の準備
- 第13回 発表会の準備の続き
- 第14回 学科全体の発表会・まとめ
- 第15回 今期の振り返り

・上記の他、適宜、共通テーマに取り組むほか、一般教養の小テストを行い、就職試験に向けて具体的な対策を進める。

定期試験は行わない。

【授業時間外の学習】

上記計画にあるように、討議や調査、そして卒業論文構想を作成し（週3時間）、その発表準備（週1時間）、あるいは共通テーマへの取り組み（学期に1回1日）等があるので、また、一般教養を定着させる（週1時間）には、時間外の準備や復習が必要である。それらの成果は、卒業論文構想発表会資料であり、ゼミ活動のファイルである。

【成績の評価】

演習活動への取り組み状況（30%）、個々の活動の出来具合（50%）、卒業論文構想の出来映え（20%）、などにより総合的に評価する。比率は状況を見て変更することがある。

適時、講評を行う。

【使用テキスト】

なし。

【参考文献】

- ・関口靖広著『教育研究のための質的研究法講座』北大路書房、2013年
- ・渡邊淳子著『大学生のための論文・レポートの論理的な書き方』研究社、2015年
- その他、教育研究法に関する文献

科目名： <KENK6> 演習 【特別支援教育ゼミ】

担当教員： 堺 るり子(SAKAI Ruriko)

【授業の紹介】

演習の成果を踏まえ、卒業論文のテーマや研究内容を決定するとともに、卒業論文の構成を考え、論文に必要な資料等を収集するなど、卒業論文を作成する準備を進めます。計画的に研究内容に関するレジюмеを作成し、討議を通して研究内容に関する理解を深め、新たな検討課題も設定します。

研究内容に関する発表・討議、体験活動を通して、特別な支援を必要とする子どもの育ちや学びを支援するために必要な「理論」と「実践力」を培い、教育・保育に係る資質向上に向けて継続的に学ぶ能力の獲得をめざします。

【到達目標】

1. 研究内容に関する文献や先行研究等の資料、情報を検索・収集することができる。
2. グループ討議や体験活動の発表で、疑問や気付き、考え等を積極的に述べるができる。
3. 卒業論文構想発表会のレジюмеを作成する過程で、理論と実践を関連付けて理解することができる。
4. 研究の目的を明確に説明し、問題を追及することができる。

【授業計画】

| | | |
|------|-----------|--------------------|
| 第1回 | オリエンテーション | |
| 第2回 | 発表及び討議 | 各自の研究課題発表:ゼミ生(A・B) |
| 第3回 | 発表及び討議 | 各自の研究課題設定:ゼミ生(C・D) |
| 第4回 | 発表及び討議 | 研究計画の作成 |
| 第5回 | 発表及び討議 | 研究目的 |
| 第6回 | 発表及び討議 | 結論の予測 |
| 第7回 | 関連資料の収集 | |
| 第8回 | 関連資料の収集 | |
| 第9回 | 発表及び討議 | 研究内容の発表:ゼミ生(A・B) |
| 第10回 | 発表及び討議 | 研究内容の発表:ゼミ生(C・D) |
| 第11回 | 卒業論文構想発表 | レジюме作成 |
| 第12回 | 卒業論文構想発表 | レジюме修正 |
| 第13回 | 卒業論文構想発表 | レジюме完成 |
| 第14回 | 卒業論文構想発表 | 練習 |
| 第15回 | 発表及び討議 | 各自の研究のまとめ |

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

- ・ 毎回、授業前に資料やレジюмеを作成し、発表及び討議に臨んでください(2時間)。
- ・ 授業後は、討議等で指摘された事項について、再度調べたりまとめ直したりすることが必要です。
- ・ 授業時間外に、文献の精読や論文の探索・講読、資料・情報の収集及び整理等を行ってください。

【成績の評価】

- ・ レジюмеの内容(60%)、発表・討議(40%)を踏まえて総合的に評価します。
- ・ レジюме等は授業時に講評します。また、必要に応じてオフィスアワーでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

- ・ 基礎演習テキスト『しるべ』

【参考文献】

- ・ 適宜紹介します。

科目名： <KENK6> 演習 【乳幼児保育研究ゼミ】

担当教員： 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

演習 では、演習 において文献、先行研究をもとに学習したことをふまえ、卒業論文のテーマや研究内容を決定していきます。そして、そのテーマや研究内容についてレジュメにまとめ、発表・討議を重ねます。また、演習 に引き続き、今日の子育て課題や保育情勢について知り、理解を深めていきます。これらを通して、保育者として、教育・保育に必要な専門的知識と実践力を養っていきます。

【到達目標】

- ・卒業論文のテーマに向けて文献や先行研究を検索し、それらの資料の分析を行い、各自レジュメを作成して発表できる。
- ・他学生の意見を尊重しながらも自分の考えを述べるなど、積極的に討議に参加することができる。
- ・卒業論文構想を作成できる。
- ・卒業論文構想について、発表し、説明できる。
- ・今日の子育て課題や保育情勢について知り、理解を深めることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 研究テーマについての発表
 - 第3回 発表・討議 : 研究目的と結論の予測
 - 第4回 発表・討議 : 研究目的と結論の予測
 - 第5回 研究方法の検討
 - 第6回 研究内容の発表
 - 第7回 研究内容の発表
 - 第8回 卒業論文構想発表会にむけて
 - 第9回 卒業論文構想発表会レジュメ作成
 - 第10回 卒業論文構想発表会レジュメ修正
 - 第11回 卒業論文構想発表会レジュメ完成
 - 第12回 卒業論文構想発表会発表準備
 - 第13回 卒業論文構想発表会発表練習
 - 第14回 卒業論文構想発表会での発表
 - 第15回 後期の振り返り、次年度に向けて
- 上記の他、今日の子育て課題や保育情勢についての討議も随時行う。
定期試験なし

【授業時間外の学習】

- ・卒業論文構想発表に向けて、文献や先行研究をもとに情報収集をして、レポートにまとめる。(2時間)
 - ・個々の研究状況・学習成果を発表するための資料を作成する。(2時間)
 - ・今日の子育て課題や保育情勢について、情報収集を行う。(30分)
- その他、卒業論文構想発表会に向けた準備(レジュメ作成、発表資料作成など)に多くの時間が必要である。

【成績の評価】

レジュメの内容(60%)、討議への参画(40%)を総合的に評価します。
レジュメについては、毎回授業時に講評を行い、課題改善に向けたフィードバックを行います。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

文部科学省(2018)「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
厚生労働省(2018)「保育所保育指針解説」フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省(2018)「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

その他、必要であれば適宜紹介します。

科目名： <KENK6> 演習 【教育相談ゼミ】

担当教員： 織田 幸美(ODA Yukimi)

【授業の紹介】

演習 の内容から引き続き、より具体的な教育実践についての内容の研究を深めます。卒業論文のテーマの領域を絞り込み、レジюмеを作成していく中で構想発表に向けて各自検討を重ね、ゼミ内での発表と討論を繰り返して、準備を整えます。

【到達目標】

- ・ 子どもの発達上の課題を解決するための様々な実践について理解する。
- ・ 卒業論文作成に向けて関心のあるテーマについて研究を深め、レジюмеを作成して発表することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 後期の研究課題の発表
 - 第3回 卒業論文のテーマに関わる意見交換
 - 第4回 卒業論文のテーマに関わる意見交換
 - 第5回 参考資料、文献調査
 - 第6回 参考資料、文献調査
 - 第7回 参考資料、文献調査
 - 第8回 テーマ別の研究、発表、討議
 - 第9回 テーマ別の研究、発表、討議
 - 第10回 テーマ別の研究、発表、討議
 - 第12回 卒業論文構想発表会に向けてのレジюме作成
 - 第13回 卒業論文構想発表会に向けてのレジюме作成
 - 第14回 卒業論文構想発表会に向けての発表練習
 - 第15回 まとめと意見交換
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

個々の課題に基づいて、関連する文献や先行研究を収集、整理することが必要です。ゼミ内での発表、討議のために準備が必要です。

【成績の評価】

受講態度・出席状況（20%）レジюмеの内容（50%）討議への参画（20%）などにより、総合的に評価します。

【使用テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

適宜紹介します。

科目名： <KENK6> 演習 【教科指導ゼミ】

担当教員： 糸目 真也(ITOME Shinya)

【授業の紹介】

小学校等での理科教育や環境教育、防災教育等に関する学習内容をもとに、身近な自然やモノを素材とした教材開発と授業研究をテーマとして、演習を踏まえて、卒業研究を進め、卒業論文を完成させて、発表会で卒業研究の成果を発表する。

【到達目標】

- ・将来、教員として必要な素養と幅広い人間性、教科に関する専門的な知識と技能を身に付けることができる。
- ・実物を見る、実物に触れる、実際につくる、現場を知ることが大切にして、手と目と足と頭を使って教材を開発して教材化し、授業を実践する基礎力を身に付けることができる。
- ・卒業研究の取組を通して、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、課題解決能力を伸ばさせることができる。
- ・卒業研究で深めた理科教育や環境教育、防災教育等に関する知見を、卒業後も活用することができる。

【授業計画】

下記は目安であり、授業の進度等によって変更する場合がある

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 卒業研究テーマの検討・討議
 - 第3回 卒業研究テーマの検討・討議の続き
 - 第4回 卒業研究テーマの検討・決定
 - 第5回 卒業論文作成のレクチャー
 - 第6回 卒業論文作成の手順の検討・討議
 - 第7回 卒業論文作成開始
 - 第8回 卒業論文作成の続き
 - 第9回 卒業論文の内容討議・修正
 - 第10回 卒業論文の中間報告・まとめ
 - 第11回 卒業論文のまとめの続き
 - 第12回 卒業研究発表会の準備と練習
 - 第13回 卒業研究発表会の準備と練習の続き
 - 第14回 学科全体の発表会とまとめ
 - 第15回 今期の振り返り
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

卒業研究及び卒業論文の進捗状況により、卒業論文のまとめの補充活動（8時間）、卒業研究発表会の準備と練習の補充活動（8時間）を、授業時間外の活動として適宜、取り入れる。

【成績の評価】

卒業研究への取組状況（発表レポートや提出物等も含む）50%、卒業論文の成果30%、発表会の成果20%を目安とする。討議、中間報告、発表会の節目の時に講評を行う。

【使用テキスト】

授業で連絡します。以下を予定
文部科学省編「小学校学習指導要領解説 理科編」
小学校理科の教科書 等

【参考文献】

適宜、連絡します

科目名： <KENK6> 演習 【生徒指導力向上ゼミ】

担当教員： 峯 寛文(MINE Hirofumi)

【授業の紹介】

この授業は実務経験のある教員による授業科目です。学校現場や教育行政での経験を活かし、具体的な事例を交えながら授業を行います。

教師に求められる学習指導力と生徒指導力のうち生徒指導に焦点を絞り、多面的にその理解を深めていきます。また、学修の過程では積極的に討論を取り入れます。生徒指導力の向上を図ることは、自らの人間力を高めることにもつながると考えています。

学校現場において確かな戦力となる人材の育成を目指します。

【到達目標】

- 1 小学校段階における生徒指導の理論・考え方や実際の指導方法等を理解することができる。
- 2 卒業論文の作成に向けて研究を深める中で、生徒指導の素養を身につけることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 認知能力と非認知能力
 - 第3回 生徒指導と教育相談
 - 第4回 生徒指導と特別支援教育
 - 第5回 就学前教育の理解と学校種間の円滑な接続
 - 第6回 教育実習を通しての学び1（発表・討論）
 - 第7回 教育実習を通しての学び2（発表・討論）
 - 第8回 いじめ（ネットトラブルを含む）・ゲーム依存
 - 第9回 暴力行為・非行
 - 第10回 不登校・児童虐待
 - 第11回 卒業論文の作成に向けて1（卒論作成の意義とキーワードの拾い出し）
 - 第12回 卒業論文の作成に向けて2（キーワードの絞り込みと関連資料収集の見通し）
 - 第13回 卒業論文の作成に向けて3（テーマの検討と絞り込み）
 - 第14回 卒業論文の作成に向けて4（テーマの決定と発表）
 - 第15回 演習 ・ の振り返りと次年度の見通し
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

毎回、配布するワークシートに学習事項と要点をまとめるとともに次回の授業範囲を予習し、専門用語等の意味を理解しておく（1．5時間）。

【成績の評価】

授業への参画状況（主体性、討論内容等）50%、ワークシート及びレジュメの内容 50%

【使用テキスト】

文部科学省「生徒指導提要」教育図書（平成22年3月）

【参考文献】

適宜紹介する。

科目名： <KENK7> 卒業論文【授業研究ゼミ】

担当教員： 秋山 達也(AKIYAMA Tatsuya)

【授業の紹介】

前年度までの演習（～）における研究を踏まえ、教養教育・専門教育・演習活動で習得した知識と技能、観察・参加と教育実習で得られた成果を総動員して研究に取り組みます。「学位授与の方針」にある「教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解」「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することの集大成として位置づけ、卒業論文発表会において研究成果を明らかにします。

本授業は、実務経験のある教員が担当します。小学校の教育現場での教科・生徒指導の経験を生かし、豊富で具体的な実践事例を示しながら、それを理論と結びつけて授業を行います。

【到達目標】

「学位授与の方針」にある「教育・保育に必要な知識を幅広く体系的に理解」「知識体系を教育・保育の実践と関連づけて理解」することに関わる目標として、次の3つを設定します。

- 1 先行研究に可能な限りあたり、文献や資料を収集しファイリングできる。
- 2 自己の研究の位置づけをはっきりさせ、明確な研究テーマを設定することができる。
- 3 教育・保育に関わる論点についての情報を収集・整理・分析し、論文としてまとめることができる。

【授業計画】

- | | | |
|------|---------------|----------------------|
| 第1回 | 前期オリエンテーション | 卒業論文完成までのタイムテーブルづくり |
| 第2回 | 発表と討議 | 「先行研究」の収集と絞り込み（～5回） |
| 第3回 | 発表と討議 | 2 |
| 第4回 | 発表と討議 | 3 |
| 第5回 | 発表と討議 | 4 |
| 第6回 | 発表と討議 | 5 |
| 第7回 | 発表と討議 | 6 「先行研究」の分析と検討（～12回） |
| 第8回 | 発表と討議 | 7 |
| 第9回 | 発表と討議 | 8 |
| 第10回 | 発表と討議 | 9 |
| 第11回 | 発表と討議 | 10 |
| 第12回 | 発表と討議 | 11 |
| 第13回 | 発表と討議 | 12 |
| 第14回 | 研究のまとめ | 1（研究内容の整理と分析） |
| 第15回 | 研究のまとめ | 2（研究内容の整理と分析） |
| 第16回 | 後期オリエンテーション | 卒業論文完成までのタイムテーブルづくり |
| 第17回 | 発表と討議 | 13 「研究主題」の明確化 |
| 第18回 | 発表と討議 | 14 「研究主題」の明確化 |
| 第19回 | 発表と討議 | 15 「研究主題」の論証 |
| 第20回 | 発表と討議 | 16 「研究主題」の論証 |
| 第21回 | 発表と討議 | 17 「用語統一」と「脚注」 |
| 第22回 | 発表と討議 | 18 「書式」 |
| 第23回 | 発表と討議 | 19 各章ごとの校正（～23回） |
| 第24回 | 発表と討議 | 20 |
| 第25回 | 発表と討議 | 21 |
| 第26回 | 発表と討議 | 22 |
| 第27回 | 発表と討議 | 23 |
| 第28回 | 卒業論文発表会発表資料作成 | 1 |
| 第29回 | 卒業論文発表会発表資料作成 | 2 |
| 第30回 | 卒業論文発表会 | |
- 「発表会」が卒業論文の審査も兼ねていますので、定期試験はありません。

【授業時間外の学習】

研究テーマが個別になるので、文献収集、論点整理等について個別に対応します。空き時間等を利用して研究の進み具合について相談に来てください。どこでどのように時間を費やすのかは個々別々ですが、第1回で検討した「タイムテーブル」をもとに、毎週最低でも1回は卒業論文に関する相談を行う心がけてください。

【成績の評価】

100%、卒業論文の内容で評価します。授業研究に関する論文になりますので、教職に就き日々授業実践を行う中で自分の主張の妥当性を確かめる事（フィードバック）が真の評価となります。

【使用テキスト】

- ・木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書、1981年）756円
- ・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（東洋館出版、2018年）

【参考文献】

・フライ著・酒井一夫訳 『アメリカ式論文の書き方』（東京図書、1994年）
その他、適宜紹介します。

科目名： <KENK7> 卒業論文【教育ゼミ】
担当教員： 佐竹 勝利(SATAKE Katsutoshi)

【授業の紹介】

演習、で取り組んだ教育・保育に関する研究課題を卒業論文として構成し直し、各章節を充実させ、まとめ、完成させます。卒論発表会にも備えます。その際に、教育実践と結びつけた、また問題解決的なまとめを求めます。それは本学部のディプロマポリシーに示されたものです。

また、教師・教職に関するゼミ共通テーマの一環で「二十四の瞳」実地調査を行います。その一方で、教員採用試験対策も行います。これらは、ディプロマポリシーにある「使命感・倫理観」や「幅広い知識の理解」などに通じるものです。

【到達目標】

1. 個々の研究課題の再検討をし、それに応じて、論文構想修正、先行研究の再吟味、資料の再収集、調査等の準備・展開・まとめ、論文作成、まとめ、発表、等一連の活動に対応できる。
2. その際、教育・保育の知識体系や実践と関連づけてまとめることができる。

【授業計画】

| | | | |
|------|-----------------|------|----------------|
| 第1回 | オリエンテーション、今後の計画 | | |
| 第2回 | 研究課題の再検討 | 第3回 | 論文構想の再検討 |
| 第4回 | 先行研究の再検討と吟味 | 第5回 | 資料の再収集 |
| 第7回 | 予備調査活動 | 第8回 | 予備調査の経過報告 |
| 第9回 | 今後の計画調整 | 第10回 | 論文構想の修正 |
| 第11回 | 資料の再点検 | 第12回 | 本調査の準備 |
| 第13回 | 先行研究、資料、調査の文章化 | 第14回 | 研究の目的、方法などの文章化 |
| 第15回 | 研究目的、方法などの修正 | 第16回 | 反省と今後の計画 |
| 第17回 | 論文前半の文章化 | 第18回 | 修正文章の点検 |
| 第20回 | 今後の計画調整 | 第21回 | 論文構成の修正 |
| 第23回 | 論文後半の文章化 | 第24回 | 修正文章の点検 |
| 第26回 | 形式の再点検 | 第27回 | 要旨作成 |
| 第29回 | 発表会準備 | 第30回 | 論文発表会 |

- ・上記の他、必要に応じて適時指導する。また、ゼミの共通テーマに取り組むほか、就職試験に向けて対策を進める。
- ・定期試験は行わない。

【授業時間外の学習】

上記計画にあるように、卒業論文については、作成に向けての資料収集ほかの様々な作業、そして論文作成そのもの、発表準備、など時間外に週平均5時間は必要である。その成果は論文そのものである。共通テーマへの取り組み等については不定期だが5時間程度の時間外の準備が必要である。その成果は学外ゼミで作成し使った資料である。

【成績の評価】

卒業論文への取り組み状況(20%)、各作業の出来具合(10%)、論文の完成度(60%)、共通テーマへの取り組み(10%)などにより総合的に評価する。
毎回、講評する。

【使用テキスト】

なし。

【参考文献】

- ・関口靖広著『教育研究のための質的研究法講座』北大路書房、2013年
 - ・渡邊淳子著『大学生のための論文・レポートの論理的な書き方』研究社、2015年
- ほか、教育研究法に関する文献

科目名： <KENK7> 卒業論文【特別支援教育支援システムゼミ】

担当教員： 山口 明日香(YAMAGUCHI Asuka), 堺 るり子(SAKAI Ruriko)

【授業の紹介】

演習 ・ で取組んだ研究課題を卒業論文として構成し直し、修正しながら、卒業論文を完成させる。また卒業論文発表会に向けて備える。卒業論文の研究テーマは、特別支援教育及び障害者福祉領域に関するテーマを中心に研究に取り組むことを望みます。卒業論文作成を通して、これまで習得した知識や技能、自己の興味・関心を学問的に発展させます。卒業論文を通じて、自らの気づきに対して、自律的に学び変化に対応する柔軟性と他者との協働を支えるコミュニケーション能力の向上を図ります。

【到達目標】

自らの課題設定に対して、情報収集し、文章としてまとめ、他者へわかりやすく発表するプレゼンテーション能力を獲得する。自身の興味・関心を学問的にまとめ、他者へ発信する力を向上させることを目指す。

1. 研究設問を設定し、適切な方法を選択し、研究遂行できる
2. 先行研究をまとめ、必要な調査を実施し、データを整理できる
3. 先行研究やデータ分析の結果を適切に表記することができる
4. 研究の目的、方法、結果、考察について文章にまとめることができる

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
第2回 ~ 第6回 研究課題と方法の設定
・リサーチクエスト(RQ)とは
・RQの設定と研究デザイン
・研究デザインと方法
第7回 ~ 第9回 研究開始の準備
・文献探索及び資料収集
・先行研究のまとめ
・研究設計
第10回 ~ 第18回 データ収集及び分析
・データ収集の方法と工夫
・データ分析の方法と工夫
第19回 ~ 第24回 論文執筆
・目次構成
・執筆指導
第25回 ~ 第28回 論文修正及び発表会レジュメ作成
・レジュメ作成及び指導
・本文校閲
第29回 ~ 第30回 卒業論文発表会準備
定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業時間外にも、適宜、集めた情報や資料を整理することが必要です(2時間)。

また、本講義では、各回で各自の進捗状況の報告を行います。またゼミ内の中間発表会を行いますので、レジュメ作成等の準備が必要です。相当な時間外学習が必要になります。

【成績の評価】

受講態度(30%)、提出物(40%)、発表(30%)等を総合して成績を評価します。

課題や学習の進捗状況に関する評価はその都度授業時に講評します。また必要に応じてオフィスアワーにおいて個別にフィードバックします。

【使用テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

適宜紹介します。

科目名： <KENK7> 卒業論文【健康スポーツゼミ】

担当教員： 田中 美季(TANAKA Miki)

【授業の紹介】

卒業論文は、本学の教育課程編成・実施の方針をふまえ、教育・保育に関する多様な情報を収集・分析し、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できるようになるための科目として位置づけられています。

授業では、“子どものからだ” “子どもの運動” あるいは“スポーツ” という幅広い分野から自己の研究テーマを確定し、教養教育および専門教育での習得した「理論」と「実践力」を総動員することにより、卒業論文を執筆します。

【到達目標】

1. テーマの選択から始まり、研究目的から論文を展開させることができる。
2. 収集した様々なデータなどから考察、分析を重ね、私見を検討してまとめることができる。
3. 論文を完成させる過程において、実際の問題点を把握、分析することができる。
4. 自分の考えを構築しまとめるだけでなく、実際に論文を様式どおりに作成できる。
5. 論文を発表するというプレゼンテーション能力、他の学生との討議における態度など、総合的な力を養うことができる。
6. 卒業論文の作成をとおして、共に支え合い、豊かな心と創造力を身につけることができる。

【授業計画】

- | | | |
|------|--------------------|------------------|
| 第1回 | オリエンテーション | |
| 第2回 | 卒業論文のテーマを絞り込む | (収集した先行研究のまとめ) |
| 第3回 | 卒業論文のテーマを絞り込む | (卒論のテーマの領域を決定する) |
| 第4回 | 卒業論文のテーマを絞り込む | (卒論のテーマを決定する) |
| 第5回 | 卒業論文の概要を作成する | |
| 第6回 | 論文全体の筋書きを作成する | (章立てを考える) |
| 第7回 | 論文全体の筋書きを作成する | (章立てと対応ページ) |
| 第8回 | 自分の論文の筋書きを発表する | |
| 第9回 | 各論文の筋書きを検討する | |
| 第10回 | 研究の背景を考える | |
| 第11回 | 収集した文献と研究の背景を対応させる | |
| 第12回 | 研究の目的を考える | |
| 第13回 | 収集した文献と研究の目的を対応させる | |
| 第14回 | 研究の目的を発表する | |
| 第15回 | 中間総括(研究の目的の展開) | |
| 第16回 | 文章表現のマナーを確認する | |
| 第17回 | 論文の様式を確認する | |
| 第18回 | 基本概念や専門用語の定義について | |
| 第19回 | 問題の所在を探る | |
| 第20回 | 問題の所在と研究の目的を対応させる | |
| 第21回 | 問題を解決する手法を考える | |
| 第22回 | 問題解決のために客観的な評価を行う | |
| 第23回 | 問題可決のために客観的な考察を行う | |
| 第24回 | 各研究成果を討議しよう | |
| 第25回 | 論文発表の準備をしよう | |
| 第26回 | 論文を発表する | (リハーサル) |
| 第27回 | 論文を発表する | (前半) |
| 第28回 | 論文を発表する | (後半) |
| 第29回 | 総括(作成した論文の最終校正) | |
| 第30回 | 卒業論文発表会 | |
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

各自が収集した卒業論文のテーマに関連する文献や資料を授業終了後、その都度まとめておいてください。中間発表や卒業論文発表会のためのリハーサルなど、その都度指示された内容で準備しておいてください。卒業論文の作成に関しては、日常的に取り組んでください。

毎回、各自の卒業論文のテーマに関する資料を収集し、ノートにまとめておいてください(30分)。また、授業後は、その関連資料をもとに、卒業論文の作成を進めておいてください(30分)。

【成績の評価】

授業態度(討議の態度、発表会におけるプレゼンテーション能力): 20%

卒業論文(卒業論文発表会を含む): 80%

* 全体の60%以上の得点で合格とします。

* 成績については、オフィスアワーにてフィードバックします。

【使用テキスト】

使用しない

【参考文献】

その都度，提示する

科目名： <KENK7> 卒業論文【音楽ゼミ】

担当教員： 水嶋 育(MIZUSHIMA Ikumu)

【授業の紹介】

演習 で決定した卒業論文のテーマに従って各自研究を進めていきます。ゼミでは毎回論文の進捗状況を発表し他の学生とともに検討し意見交換を行います。論文作成にあたって、問題を特定し、情報を精査し解決策を探り、得た結論を的確に表現するという一連の作業を経験します。これにより、教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して論理的な思考力と創造力を用いて判断する能力を修得します。また、オープンキャンパスやふれあいコンサートでの準備や発表を通して教育・保育の実践力をさらに高めていきます。

【到達目標】

- ・充実した内容の論文を完成することができる。
- ・分りやすく伝えるスキルを磨き、またグループ内でのコミュニケーション能力を高めることができる。
- ・教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して論理的な思考力と創造力を用いて判断することができる。

【授業計画】

| | |
|------|-----------------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 基本資料に基づいたテーマに関する基礎知識の発表 |
| 第3回 | 順次発表 思考マップの作成 |
| 第4回 | 順次発表 問いと答えリストの作成 |
| 第5回 | 順次発表 論証方法の考察 |
| 第6回 | 順次発表 データの収集と効果的な見せ方の考察 |
| 第7回 | 順次発表 アウトラインの作成 |
| 第8回 | 順次発表 アウトラインの完成 |
| 第9回 | 順次発表 論文に適った日本語表現 |
| 第10回 | 第I中間発表 グループA これまでの成果発表 |
| 第11回 | 第I中間発表 グループB これまでの成果発表 |
| 第12回 | 第6回オープンキャンパスの準備1(発案、計画) |
| 第13回 | 第6回オープンキャンパスの準備2(練習) |
| 第14回 | 第6回オープンキャンパスの準備3(練習、修正) |
| 第15回 | 第6回オープンキャンパスの準備4(リハーサル) |
| 第16回 | 第II中間発表 グループA 引用の基本ルール |
| 第17回 | 第II中間発表 グループB 文献リスト作成上の確認 |
| 第18回 | 第II中間発表 グループC 日本語表記のルール確認 |
| 第19回 | 第III中間発表 グループA 第16回での状況に従ってテーマを設定 |
| 第20回 | 第III中間発表 グループB 第17回での状況に従ってテーマを設定 |
| 第21回 | 第III中間発表 グループC 第18回での状況に従ってテーマを設定 |
| 第22回 | 第IV中間発表 グループA 清書前の最終チェック |
| 第23回 | 第IV中間発表 グループB 清書前の最終チェック |
| 第24回 | 第IV中間発表 グループC 清書前の最終チェック |
| 第25回 | ふれあいコンサートの準備1(計画、練習) |
| 第26回 | ふれあいコンサートの準備2(練習、修正) |
| 第27回 | ふれあいコンサートの準備3(リハーサル) |
| 第28回 | 最終発表グループA 卒論要旨 |
| 第29回 | 最終発表グループB 卒論要旨 |
| 第30回 | 最終発表グループC 卒論要旨 |

定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

充実した内容の論文を完成する為に資料を収集、分析検討、論文を仕上げる。週に最低4時間以上は作業に関わること。

【成績の評価】

発表内容、論文の完成度を検討して単位を認定する。
研究内容90% 発表能力10%
ゼミ生全員で論文を発表し、感想を述べあう。

【使用テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

適宜紹介します。

科目名： <KENK7> 卒業論文【保育ゼミ】

担当教員： 松原 勝敏(MATSUBARA Katsutoshi)

【授業の紹介】

教育や保育を支える理念、歴史、制度に関する内容、あるいは、教育や保育について語られる現代的な問題を正確に分析できるように、厳しく指導していくつもりです。具体的には、自ら選択した卒業論文のテーマに従って、研究発表を繰り返し、質疑応答を深めて問題を追究していきます。そして、卒業論文をまとめるとともに、研究の成果を発表する技法を身に付けます。

学修を通じて、学部ポリシーに掲げる「教育・保育に関する研究の能力を涵養」「子どもの成長・発達を究明」する力を養います。

【到達目標】

- ・卒業論文の作成に向けて、個々にテーマを追求する上で必要な情報の収集や分析ができる。
- ・各自のテーマに関して、概論的な知識の獲得と学習の成果を他者にわかりやすく伝える方法を獲得する。
- ・質の高い論文を完成し、発表会に向けてのプレゼンテーションの技法を身に付ける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 発表及び討議：春期休業中の研究成果の発表
 - 第3回 発表及び討議：前期の研究計画と方向性
 - 第4回 発表及び討議：研究目的の検討
 - 第5回 発表及び討議：研究の方向性の検討
 - 第6回 発表及び討議：研究結果及び結論の予測
 - 第7回 発表及び討議：研究成果の発表
 - 第8回 発表及び討議：研究課題の追究
 - 第9回 発表及び討議：論証方法の検討
 - 第10回 発表及び討議：分析資料の検討
 - 第11回 発表及び討議：研究課題の再検討
 - 第12回 発表及び討議：中間発表レジュメ作成
 - 第13回 発表及び討議：中間発表レジュメの修正
 - 第14回 卒業論文中間発表会
 - 第15回 発表及び討議：今後の研究課題と研究計画
 - 第16回 後期オリエンテーション
 - 第17回 発表及び討議：夏期休業中の研究成果の発表
 - 第18回 発表及び討議：研究目的の確定
 - 第19回 発表及び討議：論文構成の確定
 - 第20回 発表及び討議：第1章の研究内容
 - 第21回 発表及び討議：第2章の研究内容
 - 第22回 発表及び討議：第3章の研究内容(17)
 - 第23回 発表及び討議：結論の検討
 - 第24回 発表及び討議：卒業論文全体の見直し
 - 第25回 発表及び討議：卒業論文全体の修正
 - 第26回 発表及び討議：卒業論文要旨の試作
 - 第27回 発表及び討議：卒業論文要旨の完成
 - 第28回 発表及び討議：プレゼンテーション資料の作成
 - 第29回 卒業論文発表会
 - 第30回 発表及び討議：研究成果と課題の振り返り
- 定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

ゼミ発表のための事前打ち合わせや資料作成と授業後の発表内容の点検とまとめなどが、毎回の授業後に必要となります。学習には、60時間以上が必要になるでしょう。

【成績の評価】

レジュメの内容(30%)やゼミでの質疑応答への参画の程度(20%)および論文や発表の完成度(50%)を総合的に評価し、単位を認定します。

毎回の授業時に、各学生の学習成果を点検し、学習成果の改善のためのフィードバックを行います。前期・後期それぞれ3回以上を欠席した場合には、単位不認定を含め、厳しく対応します。

【使用テキスト】

基礎演習テキスト『しるべ』（年次の基礎演習テキスト）

【参考文献】

授業時に、適宜紹介します。

科目名： <KENK7> 卒業論文【教育心理ゼミ】

担当教員： 徳岡 大(TOKUOKA Masaru)

【授業の紹介】

この授業では、教育・保育に関する多様な情報を収集・分析して、論理的な思考力と創造力を用いて適切に判断できることを目指します。学生の興味に基づいて、大きく分けて、記憶・思考・言語・学習などの認知心理学の分野、および、児童・生徒の心身の発達と、教室での学習活動、評価の問題、指導法などに関連した教育心理学の分野の二分野について、広く受け入れていきたいと考えています。その際に、これまでの授業や演習で学んできた、様々な分野の心理学の知識、また、心理学研究の方法論を最大限に生かし、オリジナリティのある研究にできるようなサポートをします。

【到達目標】

1. これまで様々な授業で学んできたすべての知識、また論文作成上必要となった新しい知識を実際に用いて、卒業論文という自分だけの「作品」を創り出すことができる。
2. 卒業論文の作成過程で、個々人が自らの将来に必要な知識や技術を学び取ることができる。

【授業計画】

- | | |
|-----------|------------------|
| 第1回～第3回 | 卒業論文の進め方 |
| 第4回～第7回 | 研究テーマの決定 |
| 第8回～第12回 | 先行研究の調査とまとめ |
| 第13回 | 先行研究および研究方法の中間発表 |
| 第14回 | 目的・仮説の設定 |
| 第15回 | 調査及び実験の準備 |
| 第16回～第20回 | データの収集 |
| 第21回～第23回 | データの解析 |
| 第24回～第29回 | 研究のまとめ |
| 第30回 | 卒業論文発表会 |

計画はあくまでも目安で、基本的には各人のペースに合わせます。
定期試験は実施しない。

【授業時間外の学習】

卒業論文は研究活動ですので、授業時間のみでは到底完成できません。授業時間外に、各自の研究テーマに関連した文献を探し(0.5時間)、それを読み(4時間)、まとめる活動(4時間)を重ねて、論文を完成させてください。

【成績の評価】

論文内容70%(研究の質50%、データ収集10%、文章の質10%)、発表30%(各回の発表20%、卒論発表会10%)の割合で総合評価する。作成した資料と発表に関して教員から講評を受けることでフィードバックを行う。

【使用テキスト】

松井豊(2010)「心理学論文の書き方 - 卒業論文や修士論文を書くために」(河出書房)
あとは、各人の研究テーマに合わせて探索してください。

【参考文献】

- ロスノウ, R.L.・ロスノウ, M.(2008)「心理学論文・書き方マニュアル」(新曜社)
都築学(2006)「心理学論文の書き方 - おいしい論文のレシピ」(有斐閣アルマ)
杉本敏夫(2005)「心理学のためのレポート・卒業論文の書き方」(サイエンス社)
浦上昌則 他(2008)「心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方」(東京図書)
兵藤宗吉・須藤智(2012)「認知心理学基礎実験入門」(八千代出版)

科目名： <KENK7> 卒業論文【幼児教育ゼミ】

担当教員： 山田 純子(YAMADA Junko)

【授業の紹介】

演習、で得た学びを各自の研究課題を基に構成し、質の高い卒業論文の作成を目指します。絵本や紙芝居、童話、言葉による表現媒体等を主な研究対象としますが、保育・教育からの視点で研究を進めていきます。個別研究活動を中心にしながら、適宜、個別指導やゼミ所属学生によるグループ討議を取り入れていきます。また、研究活動や就職活動を支える学生生活の在り方に関わる適時適切な学習活動や指導も行います。

本授業を通して、保育者に必要な専門性と共に、豊かな心、創造性等を養い、保育実践力を身に付けていきます。

【到達目標】

- (1) 教育や保育に活かせる研究活動に取り組むことができる。
- (2) 論文作成を通して今後の保育・幼児教育活動に資するに足る専門性を総合的に身に付けることができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 学生各自の卒業論文の研究計画の策定
 - 第3回 学生各自の卒業論文の研究計画の検討
 - 第4回 学生各自の卒業論文の資料収集（協議）
 - 第5回 学生各自の卒業論文の資料収集（発表）
 - 第6回 学生各自の卒業論文の資料収集（検討）
 - 第7回 学生各自の卒業論文の作成の検討（資料の整理と活用）
 - 第8回 学生各自の卒業論文の作成の検討（情報の組み立て方）
 - 第9回 学生各自の卒業論文の作成の検討（作成の心得）
 - 第10回 学生各自の卒業論文の作成の検討（論文の構成）
 - 第11回 学生各自の卒業論文の作成の検討（まとめ方）
 - 第12回 学生各自の卒業論文の作成の検討（文章の整理）
 - 第13回 学生各自の卒業論文の作成の検討（語尾の表現）
 - 第14回 学生各自の卒業論文の作成の検討（引用方法とその記述）
 - 第15回 研究の中間報告（協議）
 - 第16回 研究の中間報告（報告1）
 - 第17回 研究の中間報告（報告2）
 - 第18回 研究の中間報告（報告3）
 - 第19回 研究の中間報告の検討
 - 第20回 学生各自の卒業論文の報告1と討議
 - 第21回 学生各自の卒業論文の報告2と討議
 - 第22回 学生各自の卒業論文の報告3と討議
 - 第23回 卒業論文草稿の修正（協議）
 - 第24回 卒業論文の作成と修正（協議）
 - 第25回 卒業論文の作成と修正（報告1）
 - 第26回 卒業論文の作成と修正（報告2）
 - 第27回 卒業論文要旨の作成（協議）
 - 第28回 卒業論文要旨の作成（報告）
 - 第29回 卒業論文の発表準備
 - 第30回 卒業論文発表会
- 定期試験は実施しない

【授業時間外の学習】

授業時間外に各自の研究テーマに関連した文献を研究し学習します。また、教師の指導・助言に基づいて研究内容の検討をします。（60時間）

【成績の評価】

課題（レジュメ）の取組姿勢と内容（20%）、卒業論文及び発表会におけるプレゼンテーション（80%）により評価します。提出された課題（レジュメ）は、その都度授業時に講評します。教員から講評を受けることでフィードバックを行います。

【使用テキスト】

使用しません。

【参考文献】

演習の中で個々の研究テーマに応じて適宜紹介します。

科目名： <KENK7> 卒業論文【保育実践ゼミ】

担当教員： 川原 亜津美(KAWAHARA Atsumi), 川口 めぐみ(KAWAGUCHI Megumi)

【授業の紹介】

演習 ・ で見出した卒業論文のテーマに沿って、研究内容を深めていきます。乳幼児教育・保育、子育て支援等に関する情報を収集するなかで、論理的思考や創造力を身につけていきます。研究内容のレジュメを発表したり討議をしたりするなかで、他者とのコミュニケーション能力や協力・協働する力を身につけます。そして、子どもの育ちを支えるために必要な使命感や倫理観、豊かな心を身につけることをめざします。

【到達目標】

- ・ 文献や先行研究等、研究に必要な情報を集めることができる。
- ・ 自分の研究内容を説明したり他学生の研究内容を聞いたり質問したりする等、積極的に討議に参加できる。
- ・ 研究テーマに基づいて、必要な方法を見出し、その方法を実践できる。
- ・ 規定にしたがって、卒業論文・要旨を仕上げるができる。
- ・ 卒業研究について、発表し、その内容を説明することができる。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 春季休業中の成果発表・討議（グループ1）
- 第3回 春季休業中の成果発表・討議（グループ2）
- 第4回 春季休業中の成果発表・討議（グループ3）
- 第6回 情報収集について
- 第7回 情報収集成果発表・討議（グループ1）
- 第8回 情報収集成果発表・討議（グループ2）
- 第9回 情報収集成果発表・討議（グループ3）
- 第10回 中間発表にむけて
- 第11回 研究テーマの再検討
- 第12回 研究内容の再検討
- 第13回 中間発表
- 第14回 中間発表の振り返り
- 第15回 夏季休暇中の研究計画
- 第16回 後期オリエンテーション
- 第17回 夏季休業中の成果発表・討議（グループ1）
- 第18回 夏季休業中の成果発表・討議（グループ2）
- 第19回 夏季休業中の成果発表・討議（グループ3）
- 第20回 研究目的の最終検討
- 第21回 論証の方法についての最終検討
- 第22回 論文構成の最終検討
- 第23回 結論の最終検討
- 第24回 卒業論文全体の修正
- 第25回 卒業論文要旨作成・検討
- 第26回 卒業論文要旨完成
- 第27回 卒業論文最終確認
- 第28回 卒業論文発表方法の検討
- 第29回 卒業論文発表リハーサル
- 第30回 研究の振り返りと今後の課題
定期試験なし

【授業時間外の学習】

卒業研究の進捗状況として、毎週レジュメ・卒業論文（一部）の提出を求めます。文献や先行研究等から情報収集をし、レジュメにまとめます（2時間）また授業時にゼミ学生間で討議ができるよう、発表レジュメ（A4二ページ）を作成する必要があります。（2時間）その他卒業論文・卒業論文要旨の完成にむけて修正を重ねる必要があります。

【成績の評価】

授業時のレジュメ20%、討議への参画20%、卒業論文の完成度50%、卒業論文発表10%により、評価します。

授業時のレジュメは、授業時に解説し、返却します。また卒業論文については、その都度個別に解説・指導し、返却します。

【使用テキスト】

- ・ 厚生労働省「保育所保育指針解説」（2018年）

【参考文献】

個々の研究テーマに沿って、指示します。